

静岡県埋蔵文化財調査研究所報告 第109集

元 島 遺 跡 I

(遺構編 本文)

平成6・7・8・9年度 太田川住宅地地基盤特定治水施設等に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

【正誤表】

■「元島遺跡Ⅰ（遺構編 本文）」

- P. 70 第41図 SH54実測図 → 第42図
 P. 72 第42図 SH55・SA5実測図 → 第41図

■「元島遺跡Ⅰ（遺構編 図版）」

- 図版 59 (上) 4号井戸「井戸枠」検出状況（南より） → 5号
 (下) 4号井戸「井戸枠」検出状況（西より） → 5号
 図版 60 (上) 5号井戸「亀」検出状況 → 47号土坑
 (下) 7号井戸完掘状況（北より） → 6号
 図版 62 (上) 23号土坑遺物出土状況（北より） → 49号
 (下) 48号土坑遺物出土状況（南より） → 49号
 図版 63 (上) 49号土坑完掘状況（東より） → 50号
 (下) 50号土坑完掘状況（東より） → 51号
 図版 64 (上) 52号土坑完掘状況（南西より） → 53号
 (下) 53号土坑完掘状況（北より） → 54号
 図版 65 (上) 56号土坑完掘状況（南より） → 58号
 (下) 59号土坑遺物出土状況（北より） → 60号
 図版 72 (上) 1号溝完掘状況（東より） → 4号
 (下) 2号溝完掘状況（北東より） → 5号
 図版 73 (上) 2号溝完掘状況（西より） → 5号
 (下) 4号溝完掘状況（南より） → 9号流路
 図版 74 (上) 18号溝完掘状況（南より） → 51・52号
 (下) 25号溝完掘状況（南より） → 62・63号
 図版 82 (上) 7号井戸内「杓子」出土状況 → 24号溝内「割物匙」
 図版 83 (上) 48号土坑内「木製品」出土状況 → 49号
 (下) 48号土坑内「木製品」出土状況 → 49号
 図版 84 (上) 48号土坑内「木製製品」出土状況 → 49号
 (下) 56号土坑内「木製碇」出土状況 → 58号
 図版 85 (上) 2号溝内「下駄」・「籠鉢」出土状況 → 53号
 (下) 18号溝内「輪」出土状況 → 62号
 図版 86 (上) 21号溝内「木樋管」出土状況 → 30号
 (下) 2区流路内「宝鏡印塔」笠部出土状況 → 2号土坑内
 図版 90 (上) 1・4号墳完掘状況（北より） → 1号
 図版 92 (下) 1～4号墳完掘状況（東南より） → 1～3号
 図版 105 (下) 20号掘立柱建物（北より） → 2号
 図版 118 (上) 1、2、3号方形周溝墓（西より） → 1、2、3、9号
 (下) 3号方形周溝墓と4～7号溝（西より） → 1、3、4号方形周溝墓
 図版 119 (上) 2号溝内土器出土状況（東より） → 3号
 (下) 2号溝内土器出土状況（南より） → 3号

■「元島遺跡Ⅰ（遺構編 附図）」

- 附図 15 4区古墳時代中期遺構面全体図 4号墓 → SX6

■「元島遺跡Ⅰ（遺物・考察編 1—中世—）」

- 写真図版 図14 <中央右側> 志戸呂製品（外面） → （内面）
 図26 <上> B3a類（内面） → （外面）

静岡県埋蔵文化財調査研究所報告 第109集

元 島 遺 跡 I

(遺構編 本文)

平成6・7・8・9年度 太田川住宅地地基盤特定治水施設等に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

序

元島遺跡は、太田川の河川改修事業の一環として実施された調査である。調査面積は約5万平方mで現地調査は3年間をこえる大規模なものとなった。遺跡は、太田川に隣接した段丘上に位置し、当初は室町時代から江戸時代の集落遺跡と考えられていた。

ところが、調査が進むにしたがって、さらに下層に古墳時代や弥生時代の遺構が広がっていることが判明してきた。元島遺跡の調査が実施される以前は、遠州灘の海岸線の海拔1m以下に遺跡が存在することは、想定さえされていなかった。元島遺跡の古墳時代から弥生時代の遺構面は、海拔前後からマイナス20～30cmで検出されている。海拔前後の標高に遺跡が広がっていることを証明したことが、今回の調査の最大の成果である。今後、周辺域の遺跡立地についても、再検討をせまる貴重な遺跡であることを、改めて強調しておきたい。

元島遺跡の調査で、最も注目される遺構群は、室町時代から戦国時代にかけての中世集落である。この時期の集落が、これ程の規模で調査され、全容が明らかとなったのは、県内はもとより、東日本でも初めてのことである。全国的に見ても、広島県の草戸軒町遺跡に匹敵する遺跡といっても過言ではない。クリーク状の水路によって囲まれた集落からは、木製碇や構造船が出土し、海運と非常に強いつながりを持った集落であることが想定される。また出土遺物も、瀬戸・常滑という近隣の生産地から、遠く兵庫・近畿圏の製品までも確認されており、かなり物資の往来が盛んであったことを証明している。

中世集落だけでなく、下層面で確認された古墳時代の遺構もまた貴重な事例を提供した。古墳時代中期と推定される墳墓群から、主体部が確認されている。この主体部は、粘土で船の形を模していたのである。船の形を模した棺はよく見られるが、粘土で造られた船形の棺は、全国でも初めて確認された貴重なものである。そのため、当研究所の保存処理技術を駆使し、立体的なはぎ取りを実施し、レプリカを作成している。

今回の元島遺跡の調査では、このように貴重な発見が相次いだが、まだ十分に出土遺物の検討も実施されてはいない。今回刊行された『遺構編』で、十分検討できなかった課題を、次年度刊行の『遺物編』でさらに検討を加え、十分な成果があがることを期待する。

元島遺跡の調査及び本書の作成にあたっては、静岡県袋井土木事務所ならびに福田町教育委員会をはじめとする関係機関各位に御理解と御協力をいただいた。また、調査にあたっては、多くの皆さまに御指導・御助言をいただいた。この場をかりて厚くお礼申し上げたい。最後に、調査に従事した調査員・作業員諸氏の労をねぎらいたい。

平成10年3月

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 齋藤 忠

例 言

1. 本書は、静岡県磐田郡福田町登浜字一本松1634番地他に所在する元鳥遺跡発掘調査報告書の第1分冊で、元鳥遺跡（遺構編本文）として刊行するものである。
2. 調査は、平成5年度に静岡県教育委員会文化課が実施した試掘調査の結果を受け、平成6年度太田川住宅宅地基盤特定治水施設等整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として静岡県袋井土木事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもとに、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成6年7月から平成9年8月まで現地調査を実施した。
3. 元鳥遺跡の資料整理は平成9年4月から実施し、平成11年3月までの予定である。報告書は、平成9年度に遺構編本文編及び図版編、附図を刊行し、平成10年度に遺物編本文編、図版編を編集し刊行する予定である。
4. 調査体制は以下の通りである。

平成5年度（試掘調査）

静岡県教育委員会

教育長 大野 忠 文化課長 鈴木吉勝 文化課参事 植松章八
文化課文化財調査担当主席指導主事 佐藤達雄 指導主事 関野哲夫（調査担当）

平成6年度

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 斎藤 忠 常務理事 鈴木 勲 調査研究部長 小崎章男
調査研究部次長 栗野克巳 調査研究三課長 渡瀬 治
調査研究員 加藤理文・岩木 貴

平成7年度

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 斎藤 忠 副所長 池谷和三 常務理事 三村田昌昭 調査研究部長 小崎章男
調査研究部次長 栗野克巳 調査研究三課長 渡瀬 治
調査研究員 加藤理文・川本 忍・長谷川隆・岩木 貴

平成8年度

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 斎藤 忠 副所長 池谷和三 常務理事 三村田昌昭 調査研究部長 石垣英夫
調査研究部次長 栗野克巳 調査研究三課長 渡瀬 治
調査研究員 加藤理文・川本 忍・遠藤喜和・飯塚晴夫

平成9年度

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 斎藤 忠 副所長 池谷和三 常務理事 三村田昌昭 調査研究部長 石垣英夫
調査研究部次長 栗野克巳 調査研究三課長 渡瀬 治
調査研究員 加藤理文・川本 忍・長尾 男 保存処理 青木 修

5. 本書の執筆は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所の職員が分担して執筆した。執筆分担は以下のとおりである。

第1章・第2章・第3章・第4章 第1～6節、第8節、10節・第5章第1～3節、第5節 加藤理文
第4章第7節、第9節・第5章 第4節 …………… 川本 忍

6. 自然科学分析は、古環境研究所に依頼し、その結果報告を掲載した。(調査は、2年次にわたったため、加藤が再編集を実施した。)

7. 平成5年度『元島遺跡』第一次発掘調査報告書(福田町教育委員会)、平成6年度『元島遺跡』概報(静岡県埋蔵文化財調査研究所)が刊行している。本書との記述に差がある場合、本書の記述を以て正式報告とする。

8. 本書の編集は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行った。

9. 発掘調査の資料は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が保管している。

10. 発掘調査及び報告書作成にあたっては、福田町教育委員会に格別の御協力をいただいた。また、下記の方々に御教示・御指導をいただいた。記して厚くお礼申し上げたい。(敬称略・順不同)

浅野晴樹 安間克巳 石野博信 伊藤裕偉 市原壽文 井上喜久男 岩本正二 内堀信雄 卜部行弘
小野正敏 尾野善裕 小和田哲男 加藤芳朗 金子健一 木戸雅寿 黒田慶一 斎藤慎一
佐藤由紀夫 柴田稔 清水康二 清水尚 下津間康夫 白澤崇 鈴木敏則 鈴木正貴 坪井俊三
塚本和弘 戸塚和美 中井均 永井喜久男 永井義博 中野晴久 橋本久和 平野吾郎 藤沢良祐
松井一明 松木哲 三浦正幸 光谷拓実 向坂綱二 桃崎祐輔 森島康雄 矢田俊文 山崎克巳

11. 発掘調査参加者(敬称略・順不同)

赤松勝司 伊藤敏夫 伊藤辰巳 市川光雄 大塚幸彦 加藤友平 川島一 木村圭作 金原邦雄
桑原宏 小池良平 坂田寛 佐々木次郎 杉山勇 鈴木昭一 鈴木久司 鈴木安雄 鈴木乙男
鈴木敏和 鈴木多喜雄 鈴木恵 鈴木安市 鈴木安太郎 高野茂雄 前島利雄 桜井典啓 高橋秋義
寺田敏男 永見善市 西岡宗三郎 本田充 星堯 福沢俊夫 三浦久雄 山崎荘一 江塚堅吾
大石巖 太田菊夫 加藤博司 川島重二 木野勇次 後藤正路 杉村富之助 鈴木誠一郎 竹原茂雄
玉沢金次郎 寺田三之 早川専一 藤田孝司 堀本信夫 松井澄夫 松島不二夫 三ッ谷幸雄
山崎五平 矢田雄 伊藤大樹 岡本茂樹 鎌田智広 佐野友亮 鳥居厚志 名倉久博 松島孝晃
岩井ちよ 大石ちよ 加藤みや子 佐藤なみ 高橋巳代子 三浦とく江 早川里美 寺田炬江
鈴木由美子 山本史子

整理作業参加者(敬称略・順不同)

杉浦久子 水野かおり 上田くみ子 西田幸子 古川トヨ子 石原喜久子 佐野絹子 原洋子
鷲塚宏子 安田暢子 鈴木圭子 鈴木まき江 杉山豊子 大池真由美

凡 例

1. 元鳥遺跡発掘調査にあたっては、調査区全体に10m方眼のグリッドを設定し、調査を進めた。グリッドは、国家座標となっている。

南北方向は、1区最北部からA、B、Cとし、さらに北側へと調査区が拡張したので-A、-Bとした。西東方向は、1区最西部から、1、2、3とした。各グリッドは、これらの数字とアルファベットの組み合わせにより、A-1、B-2というように北西部の交点の名称により表記している。

2. 遺物の出土地点は、遺構に伴うものは1点1点そのポイントを記録することを原則としたが、その他包含層のものは、グリッドの中をさらに四分割し「A-1NW」と表記し、その位置の概略を示すとともに、層位ごとの取り上げを行った。

3. 本書の遺構名については、下記の略称を使用している。

《遺構》	《遺物》
SH・・・掘立柱建物	W・・・木製品
SD・・・溝状遺構	S・・・石製品
SF・・・土坑	無印・・・土器類
SR・・・流路（旧河道）	
SE・・・井戸	
SX・・・不定形遺構（性格不明遺構）	
SP・・・小穴	

目 次

序	
例 言	
凡 例	
第I章 調査に至る経緯	1
第II章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第III章 調査の方法と経過	7
第1節 基本土層について	7
第2節 調査の方法	10
第3節 調査の経過	12
第IV章 検出された遺構について	18
第1節 検出遺構の概要	18
第2節 近代の遺構	19
第3節 江戸時代初頭から戦国時代にかけての遺構	30
第4節 15世紀代の遺構	146
第5節 13世紀代の遺構（上面）	193
第6節 13世紀代の遺構（下面）	212
第7節 奈良時代前半から古墳時代後期の遺構	220
第8節 古墳時代中期の遺構	224
第9節 古墳時代前期の遺構	232
第10節 弥生時代中期後半の遺構	267
第V章 まとめ	276
第1節 中世元島集落の景観復元	276
第2節 中世元島集落の変遷	280
第3節 中世元島集落の墓制	294
第4節 方形区画の築造時期と特徴	295
第5節 弥生時代から古墳時代前期集落の変遷	298
付載1 元島遺跡における自然科学分析 一株式会社古環境研究所一	304

挿図目次

第 1 図	元島遺跡位置図	2
第 2 図	元島遺跡及び周辺遺跡分布図	5
第 3 図	元島遺跡基本土層図	8
第 4 図	元島遺跡調査区設定図	11
第 5 図	近代井戸位置図	20
第 6 図	1 号近代井戸実測図	21
第 7 図	3 号近代井戸実測図	22
第 8 図	2 号近代井戸実測図	24
第 9 図	4 号近代井戸・5 号近代井戸実測図	25
第 10 図	輪中周辺地籍図	26
第 11 図	近代上手状遺構実測図	27
第 12 図	SH1・SH6 実測図	31
第 13 図	SH2 実測図	32
第 14 図	SH3 実測図	34
第 15 図	SH4・SH5 実測図	35
第 16 図	SH7・SH8 実測図	36
第 17 図	SH9・SH10 実測図	38
第 18 図	SH11・SH12 実測図	39
第 19 図	SH13・SA1 実測図	40
第 20 図	SH14・SH15 実測図	42
第 21 図	SH16・SH17 実測図	43
第 22 図	SH18・SH19 実測図	45
第 23 図	SH20・SH22 実測図	46
第 24 図	SH21 実測図	47
第 25 図	SH23・SH28 実測図	49
第 26 図	SH24・SH25 実測図	50
第 27 図	SH26 実測図	51
第 28 図	SH27 実測図	53
第 29 図	SH29・SH30 実測図	54
第 30 図	SH31・SH32 実測図	55
第 31 図	SH33・SH34 実測図	57
第 32 図	SH35・SH39・SH40 実測図	58
第 33 図	SH36・SH37・SH38 実測図	59
第 34 図	SH41・SH42・SH48 実測図	61
第 35 図	SH43・SA2 実測図	62
第 36 図	SH44・SH45 実測図	63
第 37 図	SH46 実測図	65
第 38 図	SH47・SH49 実測図	66

第 39 图	SH50 · SH51 实测图	68
第 40 图	SH52 · SH53 · SA 3 实测图	69
第 41 图	SH54 实测图	70
第 42 图	SH55 · SA 5 实测图	72
第 43 图	SH55 实测图	73
第 44 图	SH56 · SH58 实测图	74
第 45 图	SH57 · SH59 · SA 4 实测图	75
第 46 图	SH60 · SH62 实测图	76
第 47 图	SH61 实测图	78
第 48 图	SH63 · SH64 实测图	79
第 49 图	SH65 · SH68 实测图	80
第 50 图	SH66 · SH69 实测图	82
第 51 图	SH67 实测图	83
第 52 图	SH70 · SH71 实测图	84
第 53 图	SH72 · SH74 实测图	85
第 54 图	SH73 实测图	87
第 55 图	SH75 实测图	88
第 56 图	SH76 实测图	89
第 57 图	SE 1 实测图	91
第 58 图	SE 2 · SE 3 实测图	92
第 59 图	SE 4 实测图	93
第 60 图	SE 5 实测图	94
第 61 图	SE 6 实测图	95
第 62 图	SF 1 · SF 3 实测图	97
第 63 图	SF 2 实测图	98
第 64 图	SF 4 · SF 5 实测图	99
第 65 图	SF 7 · SF 8 实测图	101
第 66 图	SF 9 · SF 13 实测图	102
第 67 图	SF 12 · SF 16 实测图	103
第 68 图	SF 14 · SF 44 实测图	104
第 69 图	SF 15 · SF 18 实测图	106
第 70 图	SF 17 实测图	107
第 71 图	SF 19 · SF 20 实测图	108
第 72 图	SF 21 · SF 22 实测图	110
第 73 图	SF 25 · SF 26 · SF 27 实测图	111
第 74 图	SF 34 · SF 37 · SF 38 实测图	113
第 75 图	SF 35 · SF 36 实测图	114
第 76 图	SF 39 · SF 40 · SF 42 实测图	115
第 77 图	SF 41 · SF 43 实测图	117
第 78 图	SF 46 · SF 66 实测图	118
第 79 图	SF 68 · SF 69 · SF 71 · SF 72 实测图	119

第80图	S F 73 · S F 74 · S F 81实测图	121
第81图	S F 80实测图	122
第82图	1号墓 · 2号墓实测图	123
第83图	4号墓 · 6号墓实测图	124
第84图	7号墓实测图	126
第85图	5号墓 · 9号 · 11号墓 · 12号墓实测图	128
第86图	10号墓 · 13号墓实测图	129
第87图	2区 · 3区I面SD位置图	131
第88图	SD 4 · SD 5实测图	132
第89图	SD 7 · SD 8 · SD 11 · SD 12 · SD 13实测图	135
第90图	SR 1 · SD 14.15.16实测图	137
第91图	10区I面SD位置图 SD 18 · SD 19.20 · SD 21 · SD 22实测图	138
第92图	8区I面SD位置图 SD 32实测图	139
第93图	SD 24 · SD 28 · SD 30 · SD 32实测图	141
第94图	SD 39 · SD 41实测图	144
第95图	SH 177 · SH 78实测图	147
第96图	SH 79 · SH 80实测图	148
第97图	SH 81 · SH 82实测图	150
第98图	SH 83 · SH 84实测图	151
第99图	SH 85 · SH 86实测图	152
第100图	SH 87 · SH 88实测图	154
第101图	SH 89 · SH 90实测图	155
第102图	SH 91 · SH 92实测图	156
第103图	SH 93 · SH 94实测图	157
第104图	SH 95 · SH 96实测图	159
第105图	SH 97 · SH 98实测图	160
第106图	SH 99 · SH 100实测图	161
第107图	SH 101 · SH 102实测图	163
第108图	SH 103 · SH 104实测图	164
第109图	SH 105 · SA 6实测图	165
第110图	SH 106 · SH 107实测图	166
第111图	S F 6 · S F 10 · S F 11实测图	169
第112图	S F 23 · S F 24实测图	170
第113图	S F 28 · S F 29实测图	171
第114图	S F 30 · S F 31实测图	172
第115图	S F 32 · S F 33实测图	174
第116图	S F 45 · S F 54实测图	175
第117图	S F 47 · S F 48实测图	176
第118图	S F 49实测图(1)	178
第119图	S F 49实测图(2)	179
第120图	S F 50 · S F 51实测图	180

第121图	S F 52 · S F 53 实测图	181
第122图	S F 58 实测图	183
第123图	S F 59 实测图	184
第124图	S F 60 · S F 70 实测图	185
第125图	S F 75 · S F 76 实测图	186
第126图	2区Ⅱ面SD位置图 SD42 实测图	188
第127图	3区Ⅱ面SD位置图 SD45 · SD46 · SD47 实测图	190
第128图	6区Ⅱ · Ⅲ面SD位置图 SD51 实测图	192
第129图	SH108 · SH109 实测图	194
第130图	SH110 · SH111 实测图	195
第131图	SH112 · SH113 实测图	197
第132图	SH114 · SH115 实测图	198
第133图	S F 55 · S F 61 实测图	200
第134图	S F 56 · S F 57 实测图	201
第135图	S F 62 · S F 63 实测图	202
第136图	S F 79 · S X 1 · S X 2 实测图	203
第137图	S X 3 · S X 4 · S X 5 实测图	205
第138图	14号墓实测图	207
第139图	SD53 · SD54 · SR4 · SR5 实测图	208
第140图	8区Ⅱ面SD位置图 SD59 · SD61 实测图	209
第141图	SD60 · SD62 · SD63 · SD64 实测图	211
第142图	SH116 · SH117 实测图	213
第143图	SH118 · SH120 实测图	214
第144图	SH119 实测图	215
第145图	SH121 · SH122 实测图	217
第146图	S F 64 · S F 65 实测图	218
第147图	SH1 · SH2 实测图	221
第148图	方形区画实测图	222
第149图	S X 1 · S X 2 · S X 4 · S X 5 实测图	225
第150图	S X 3 实测图	226
第151图	1号墳 · 2号墳 · S X 6 实测图	227
第152图	3号墳实测图	228
第153图	2号墳主体部实测图	229
第154图	2号墳主体部解体状况图	230
第155图	SH3 · SH4 实测图	233
第156图	SH5 · SH6 实测图	235
第157图	SH7 · SH8 实测图	236
第158图	SH9 · SH10 实测图	237
第159图	SH11 · SH12 实测图	239
第160图	SH13 · SH14 实测图	240
第161图	SH15 · SH16 实测图	242

第162図	SH17・SH18実測図	243
第163図	SH19・SH20実測図	245
第164図	SH21・SH22実測図	246
第165図	SH23・SH24実測図	248
第166図	SH25・SH26実測図	249
第167図	SH27・SH28実測図	250
第168図	SH29・SH30実測図	252
第169図	SE1・SE2実測図	254
第170図	SE3・SE4実測図	255
第171図	SE5・SE6実測図	257
第172図	SE7・SE8実測図	258
第173図	SE8想定復元図	259
第174図	SF1・SF2実測図	261
第175図	SF3実測図	262
第176図	SF4・SF5実測図	263
第177図	SF6・SF7実測図	265
第178図	SX7・SP1実測図	266
第179図	1号方形周溝墓実測図	268
第180図	2号、9号方形周溝墓・3号方形周溝墓実測図	269
第181図	4号方形周溝墓・6号方形周溝墓実測図	271
第182図	5号方形周溝墓実測図	272
第183図	7号方形周溝墓・8号方形周溝墓・SF1実測図	274
第184図	元島周辺地域推定地形復元図(室町～江戸時代初頭)	277
第185図	13世紀代(下面=第IV層)遺構全体図	281
第186図	13世紀代(下面)の屋敷配置図	282
第187図	13世紀代(上面)の屋敷配置図	283
第188図	13世紀代(上面=第III層)遺構全体図	284
第189図	1区検出噴砂断面図	286
第190図	15世紀代(第II層)遺構全体図	287
第191図	16世紀代(第I層)遺構全体図	289
第192図	16世紀代の屋敷配置図(1)	290
第193図	16世紀代の屋敷配置図(2)	291
第194図	元島遺跡と長者屋敷遺跡の方形プラン	297
第195図	方形周溝墓群構成図	299
第196図	古墳時代前期集落想定図	302

第I章 調査に至る経緯

太田川・原野谷川上流部の磐田市、袋井市、掛川市等では、近年大規模な開発が実施されており、将来的にもこうした開発行為の実施が予想されている。そのため、下流域での保水量の減少傾向が問題となり、河川流域の拡幅により、増水時に対応できる流域面積を確保する必要が生じた。そのため、静岡県袋井土木事務所河川改良課では、流域住民の安全確保のため、下流域拡幅工事に着手するための準備に入った。同課では、工事に先立ち遺跡の有無についての照会を、福田町教育委員会及び静岡県教育委員会文化課におこなった。

福田町教育委員会は、開発区域内に元島遺跡（福田町遺跡番号2＝『静岡県文化財地図Ⅱ』1989 静岡県教育委員会）が、存在していることを同課へ回答した。

この回答を受けて、静岡県袋井土木事務所河川改良課、静岡県教育委員会文化課、福田町教育委員会の三者で、元島遺跡の取り扱いについての協議が行われた。この協議において、元島遺跡が福田町を代表する遺跡であること、全国でも珍しい中世から近世初頭の集落が良好な形で残されている可能性が高いこと、文献で集落が特定できること等の重要な指摘がなされ、文化財保護の立場から現状保存が望ましいとの説明がなされた。しかし、遺跡を保存した状態で河川容量を確保するためには、太田川左岸豊浜地区の移転が必要になることが考えられた。また、増水時における太田川下流域住民の安全確保の必要性を最優先課題とすると、発掘調査により記録保存が望ましいとの結論が導きだされた。

調査を実施するにあたっては、事前に元島遺跡の分布範囲及び遺跡面数を確認する必要があり、そのための一次調査を実施することになった。一次調査については、福田町教育委員会と静岡県教育委員会文化課が協議し、調査主体者が福田町教育委員会、調査指導及び現地調査を静岡県教育委員会文化課が実施することになった。

一次調査は、平成6年1月14日～21日にかけて実施され、開発対象区の約23,000m²が調査範囲となることが確認された（詳しくは『元島遺跡—平成5年度太田川河川改修事業に伴う第一次埋蔵文化財発掘調査報告書—』1994 福田町教育委員会）。一次調査の結果をうけて、開発区域内の発掘調査と、一次調査地以南の下流域についての範囲確認調査を、平成6年度から財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行うことになった。現地調査は、平成6年7月から実施され、平成8年3月が当初の現地調査終了予定であった。一次調査の結果では、遺構面はⅠ面のみということであった（上記『元島遺跡一次調査報告書』）ため県道をはさんでⅠ区、Ⅱ区に分け調査を開始した。調査区南側は、近代河川によってかなり攪乱され、遺構面の認定に時間がかかった。ところが、調査を進める段階で、溝及び井戸断面に、下層遺構が確認されたため、文化課に調査についての見直しを要請した。また、確実に遺構面をとらえるために、範囲確認調査もあわせて実施した。これらの結果から、元島遺跡では、Ⅰ区南側を境に中世遺構は、河川により破壊されていることが判明した。また、Ⅰ区北側には、少なくとも同時期の遺構面が約30～50cm下に広がっていることも確認された。併せて、破壊された中世面の下約2mに、古墳時代の遺構面があることも確認され、次年度以降の調査について、三者で再協議することになった。

平成6年度の調査については、調査区西側に隣接した磐田用水及び水田耕作との兼ね合いから、Ⅱ面についてはポイントを絞った調査区設定で、対応することになった。Ⅱ面より下層については、試掘溝をあげ、範囲確認を行ったが、鎌倉時代と推定される河川によって、遺構面は破壊されていた。

平成7年度からは、中世2面、古墳時代1面という前提で、調査を実施したが、下層遺構が不明な区域もあることから、確認調査と併せて調査を展開した。その結果、元島遺跡周辺では、近代を含め数十度の洪水により、遺構面の残存状況があまりにバラエティにとんでいることが解った。元島遺跡は詳し

い検討の結果、合計で8遺構面が存在する複合遺跡であることが判明した。上面から①江戸時代初頭～室町時代中頃②室町時代中頃～前半③鎌倉時代頃（上面）④鎌倉時代頃（下面）⑤奈良時代から古墳時代後期⑥古墳時代中期⑦古墳時代前期⑧弥生時代中期であった。上面からすべての遺構面が残存している区域はなく、最大で4遺構面、最小で1遺構面、その他は数度に及ぶ河川の氾濫等の自然災害によって遺構面が削平を受けていた。

平成6年度の調査結果から、平成7年度以降は、調査区を10区にわけ現地調査を実施した。現地調査は平成9年8月までの3年1ヶ月に渡り、延べ調査面積は約4万9千平方mとなった。出土遺物量も20万点を越え、低湿地ということもあり特に木製品の残存情況が極めて良好であった。各年度の調査面積は以下の通りである。

平成6年度=12,540㎡、平成7年度=12,930㎡、平成8年度=17,198㎡、平成6年度=6,085㎡。



第1図 元島遺跡位置図

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 地理的環境

元島遺跡の位置する福田町は、北緯34度40分・東経137度53分の静岡県西部、磐田郡の最南端の町である。広さは、東西約5.2km・南北約4.2kmで、総面積は16.59km²を測る。西、及び北側は磐田市、東は浅羽町、南は遠州灘に面している。太田川、仿僧川、今ノ浦川の氾濫原にあり、海拔2m内外の平野が広がっている。山林は、総面積の1%にも満たず、それも砂防林である。福田町の土地利用状況は、30%が水田、9%が畑地で、約4割が田や畑となっている。

原野谷川と合流した太田川河口で、さらに仿僧川が合流し、天然の良港福田港が近世以降成立した。遠州灘の港と言えば、掛塚港と横須賀港が繁栄していたが、宝永4年(1707)の大地震による地盤隆起によって、横須賀港が使用できなくなってしまった。そのため、掛川・横須賀灘の藩米輸出港として、福田港が脚光をあびたということになる。福田港を本拠とする回船問屋に、伊勢屋・弥七などがある。江戸末期の絵図によると、福田港から周辺主要港までの行程は、尾張の宮へ40里、駿河江尻へ26里、伊豆下田へ35里などであった。従って福田港は、宝永以降に漁港・年貢米などの輸送港として栄えたのである。だが、明治に至り東海道本線が開通したため海運のものが衰退し、福田港も輸送港としての役割を終えてしまった。現在は漁港として利用されている。福田町の漁業はシラス漁が中心で、年間1647トンの水揚げがあり、総漁獲量の96パーセントを占めている。

約4割を占める農地の大部分は、水田とメロン栽培が実施されている。年間平均気温16度という温暖な気候を利用した温室メロンの栽培は、福田町がその発祥の地でもある。

福田町の中心産業は、別珍・コールテンの織布業である。織布業は、天保年間(1830~44)帆船の帆を織ることに始まり、その下地のもとに、やがてコールテン、別珍が、明治・大正期に製造されたのである。別珍・コールテンは、第一次世界大戦の好景気で、福田町の主産業へと成長した。最盛期には、町内の業種別従業者の9割が従事し、全国生産の8割を占めていた。その後、時代の流れと共に織物工場は激減の一途をたどった。しかし最近、「コーデロイ」の人氣が高まり、新しい利用方法を模索する動きが出てきている。

今回の調査地である豊浜は、太田川が原野谷川と合流する地点から約1km南の西岸にあり、遠州灘までは、わずか2kmしか離れていない。そのため、満潮時には河川の逆流が見られる。遺跡右岸を流れる太田川は、周智郡森町北端、春野町との境に位置する春埜山(標高883m)に源流を発生し、森町を斜めに横断するように南下、森町で三倉川、袋井市・磐田市で敷地川、浅羽町で原野谷川、福田町で仿僧川と、それぞれ合流して遠州灘へと至っている。

遺跡は、磐田原台地東側で、遠州灘の浜堤・砂丘内側に閉塞的に発達した潟湖・後背湿地を埋積して形成された沖積平野に立地している。海拔2mという標高により、河川がいたる所で蛇行し、自然堤防も発達しており、多くの湿地帯を形成している。そのため、遺跡周辺は、シルト・粘土・泥炭など有機質を多量に含む土と、砂層、河川による礫層が入り乱れた軟弱地盤である。現状の元島遺跡は、太田川大堤防の東側に位置し、周辺は大部分が水田に利用されている。

この太田川大堤防の西側が、役場等のある福田町の中心にあたり、川を挟んだ東側が豊浜集落の中心部となっている。

第2節 歴史的環境

『静岡県文化財地図Ⅱ』によれば、元島遺跡周辺で確認されているのは塩口遺跡だけである。塩口遺跡は、元島遺跡の西側約1.5kmのところであり、古墳時代の土師器が出土している。さらに西側約1.5km西側には、宮ノ腰遺跡（弥生時代・室町時代）、相馬遺跡（平安～室町時代）、権現山遺跡（弥生時代・室町時代）、地蔵山古墳群、法音庵古墳（いずれも浅羽町）がある。元島遺跡を含め、これらの遺跡は、すべて遠州灘から3km前後に位置している。

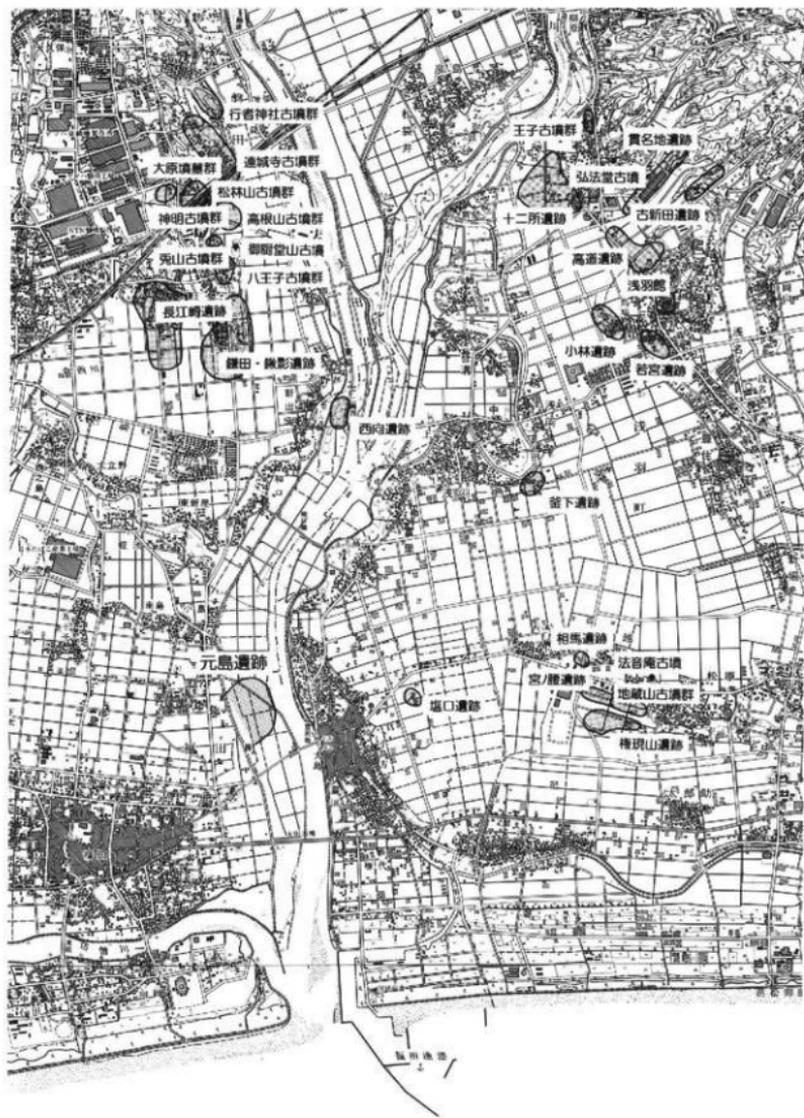
元島遺跡調査以前は、これらの遺跡群は微高地にのった遺跡と考えられていたが、今回の発掘調査結果から、周辺遺跡の分布を含め再考する必要ができた。元島遺跡で確認された弥生時代中期の方形周溝墓群は、周辺域にこれ以前の大規模な集落が展開していたことを想定させる。また、この方形周溝墓が海拔0m以下で確認されていることから、未発見の遺跡がかなりの確立で、所在していることをさらに補強する（最近、元島遺跡上流約2kmで、西向遺跡（浅羽町）が新発見されており、今後も周辺域で新たな遺跡発見が予想される）。同様に、古墳時代前期の集落、中期の墳墓群も、海拔0m前後で確認された。これらの状況から推定するに、遠州灘の砂堆に沿って、元島、宮ノ腰、権現山という弥生時代の生活空間があった可能性が高い。さらに、古墳時代についても、同様に天竜川の砂堤に沿って、元島、塩口、地蔵山古墳群、法音庵古墳があるということになる。おそらく、元島及び前述の遺跡群は、遠州灘から3km前後に、同時期もしくは相前後して砂堆上に形成されたとするのが、現状で最も妥当な見解である。元島遺跡より東側については、確認はできないが、西側と同様の遺跡展開と推定しても問題は無いと考えられる。

平安時代から鎌倉時代にかけての相馬遺跡は、遺物から元島遺跡と同時期の集落と考えられる。元島遺跡からは、かなり多量のこの時期の遺物が出土しているが、明瞭な遺構が確認されたのは、わずかに1,000m程でしかない。おそらく、遺跡そのものはかなり広範囲に広がっていたと思われるが、後世の洪水等によって破壊しつくされたのであろう。この洪水は、太田川もしくは原野谷川のものであると考えられ、元島集落を本流が通過していた時期さえ確認できた。相馬遺跡は、現在の太田川から約3km程離れている。当時太田川もしくは原野谷川がかなり西側を流れていたとしても、相馬遺跡から最低2kmは離れていたと思われる。元島遺跡と大きく異なるのは、その立地である。元島遺跡は、両河川の氾濫原に存在しているが、相馬遺跡は自然堤防の上のっている。同時期でありながら、集落の性格はかなり異なっていたと推定できる。

調査が実施される以前は、元島遺跡は戦国時代から江戸時代初頭にかけての集落遺跡と考えられていた。それが、今回の調査によって弥生時代、古墳時代、平安～鎌倉時代の遺構・遺物が確認され、さらに周辺諸情勢から、前述のようなことが、おぼろげながら推定されてきたのである。

中・近世初頭の元島集落は、慶長9年（1604）以降に行われた、幕府による太田川の河川改修により移転している。その後、移転した大島村と小島村があった場所は開墾され「元島新田」と呼ばれた。それ以降、現在に至るまで、元島と呼称されてきており、集落が存在した時は大島（大嶋）と呼ばれていたようである。

文献で「大嶋」の初見は、南北朝期である。福田町大字豊浜共有の鰐口名に「遠州山野大嶋郷大福寺長什也 延文五年（庚巳）十二月十七日近江武主敬白」（静岡県資料1）とある。今回の調査によって元島集落そのものの成立が、12世紀代ということが判明している。この鰐口に記載されている1360年前後の遺物も出土しているが、極端に遺物量は減少し、集落の衰退が考えられる時期でもある。遠江は南北朝期、三岳城（引佐町）・千頭峯城（三ヶ日町）・大平城（浜北市）等南朝方の拠点城郭が、浜名湖周辺を中心に北遠江にまで広がっていた。この鰐口の延文という年号は、北朝方の年号であるため、



第2図 元島遺跡及び周辺遺跡分布図

この地区は北朝に属する国人領主の支配下にあったことが推定される。なお、館文中の大福寺とは大安寺中の観音堂のことで、この寺も慶長9年以降の河川改修により移転したと伝わる。今回の調査地の東南方向に現在も「大安寺堀」と呼ばれる名称が残っている。その後、200年程文献上確認はされず、天正17年(1589)9月3日付の徳川家康の七ヶ条定書(内野文書/静岡県資料5)を待たなければならない。この定書の中に「大嶋村」が確認できる。

これ以降大嶋村は、明治9年まで存続する。大嶋村は、家康領となった後ずっと幕府領であったが、延享3年(1746)より掛川藩に組み入れられている。「元禄高帳」による村高は486石余、「天保舞帳」では486石、「旧高旧領」では491石余となっており、500石に満たない村高であった。「遠淡海地志」によれば、60戸の家数があったという。また、大嶋村がかってさらに西にあり、現在の地へ慶長元丙申年(1596)に移転してきたとも記載されている。

『豊浜村誌』では、太田川改修のために、慶長3年(1598)六所神社を豊浜一ノ坪に移したという。『掛川誌稿』によれば、慶長9年(1604)の検地後、川の西(原野谷川か)の元島新田にあった人家は、北方の東脇村から南へ向かい大嶋村内に太田川を通した際に移転したとされている。この時、検地を実施したのが伊奈備前守忠次である。忠次は、当初家康の近習であったが、秀吉による小田原攻めの折、兵站を担当し認められ、初代関東郡代となっている。忠次はまた、治水・新田開発・田制の整理に関して名を残しており、農政上で伊奈流という固有名詞になる方式まで考えだしている。この忠次が、太田川の河川改修をしたとするなら、当然元島新田等の新田開発まで手懸けたと考えるのが妥当ではないだろうか。前述の『掛川誌稿』にも「慶長の堀割の趾遺りて、元島小島の間に伊奈殿堀と云所あり」と、忠次の名前が付けられた堀が残っていたことを伝えている。この河川改修により太田川は、「漸々に川廣くなりて安永中に至ては大綱を張り操舟にして渡しと云、今は大船を遣ふべき程なれども、川口浅きに因て、海船の繫泊なりがたし、惜しむべし」とあり、1770年代までには、大島と川西の元島新田の間に船渡し(大島渡し)が、なくなってしまったと記載されている。

この記載は、元島遺跡の性格を考えるにあたって、非常に重要な記載である。おそらく、慶長年間当時も、大島あたりまで海船が入港することが可能だったことも推定できる。なぜ、前川に面した土地が「渡」という地名なのかは、ここまで海船が入り停泊したために起こった地名とも捉えられる。いずれにしても、元島遺跡を考えるにあたって、どこまで船が入ることが出来たのかがポイントとなろう。

さらに『掛川誌稿』では、戸数87・人口398人と記載され、かなりまとまった集落であったことが判明する。『遠淡海地志』によれば、産物は青(乾)苔で、『遠江風土記伝』では、漁業と塩焼を常業としたとある。海産物は、鱈・鯛・鰯などが多く、大島川では鱈・鱈などがとれたという。

正保4年頃から、大島村と雁代村と小島方村の三ヶ村の間で、新たに新田開発した浜砂新田及び古荒に関し、入会坪場の権利争論が起こっている。貞享2年(1705)に砂浜新田が雁代村の支配になると、事態はさらに悪化し、寛保元年(1741)の中野村庄屋佐五兵衛の仲裁まで紛糾することになる。この仲裁により、古荒は雁代村の支配に、浜砂新田のうち田畑9反歩は小島方村の支配に、その他は三ヶ村で各々3分の1づつ支配するようになった。土地だけでなく、漁業権や水利権をめぐる争論も絶えなかった。

第三章 調査の方法と経過

第1節 基本土層について

1. 基本土層の設定

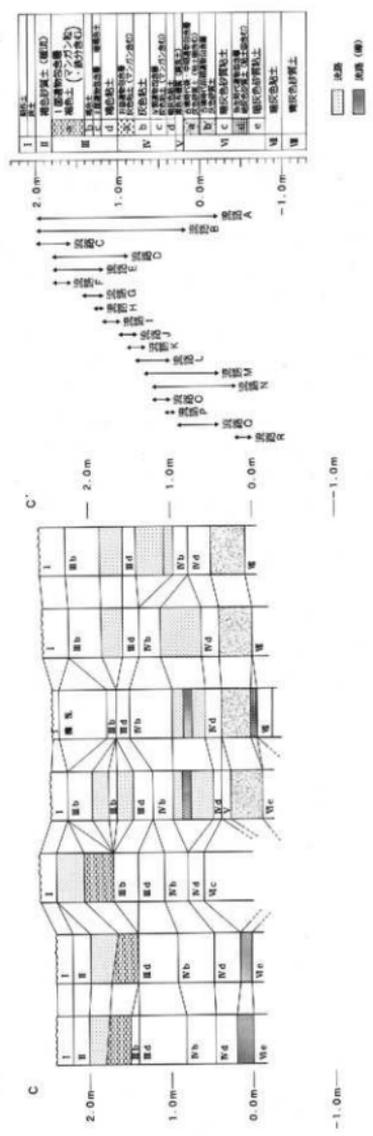
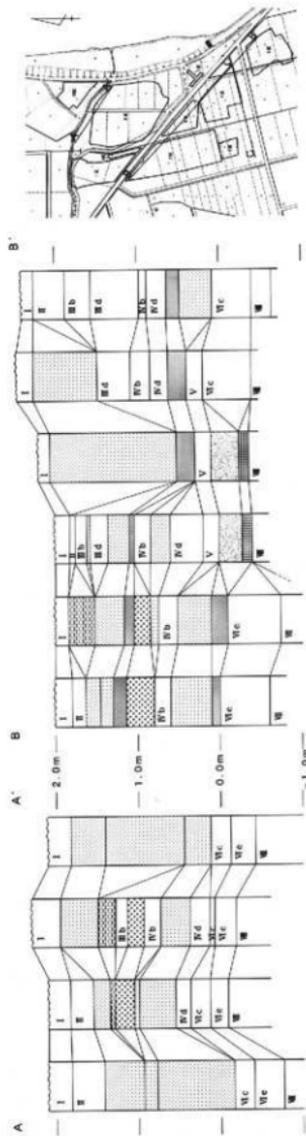
元島遺跡の調査においては、事前に行われた文化課の試掘調査結果によって示された基本土層（『元島遺跡—平成5年度太田川河川改修事業に伴う第一次埋蔵文化財発掘調査報告書』をもとに調査を進めた）が、明らかに層位認定に誤認があることが、調査途中で判明した。

そのため、調査区を巡るように設定された排水溝を兼ねたトレンチの土層断面を再度観察し、数mごとの資料を抽出した。この資料と、前述の報告書の土層断面と比較検討したが、度重なる洪水層によっていたる層が破壊を受けており基本となる土層の共通点の抽出のみにとどまった。共通する土層も、3～4層位だけで、基盤に至るまでの層位の把握ができなかった。前述の報告書で基盤と考えられていたⅦ層の灰色粘質土層は、洪水層の後に堆積した氾濫層であり、基盤と認定できなかった。そのため、当初予定されていた調査区南側の試掘調査を優先し、基本土層の確認を改めて実施した。

土層確認作業によって、確認された遺構面は、8面であった。最下層を除く7遺構面は、すべて河川堆積層の上であり、各面の中間層に洪水層あるいは流路が存在していることも判明した。また、急激な堆積もあり、同時期の遺構でありながら、かなりの高低差を持つことや、残存状況が場所によって大きく異なることも判明してきた。

基本土層を設定するにあたっては、まずすべての洪水層・流路を除去し、洪水等の被害を一度も受けていないと仮定した基本土層を作成した。その基本土層をもとに、各調査地点で何層に、洪水・流路等の被害があるかを把握したうえで、調査を進めた。今回の約5万平方mの調査区内で、基本土層通りの堆積状況を示す箇所は、存在せず、必ずどこかの層が、洪水・流路の被害で削平されていた。調査区内で確認された、主な洪水・流路層は、大小あわせて18回であった。

- I 層・・・水田耕作土。上面現耕作土をⅠ-a層。床土及び客土をⅠ-b層としたが、表記はⅠ層として統一してある。近代の太田川の氾濫によって、床土と耕作土の間に、薄い砂層が堆積している箇所も見られた。平均20～30cmほどである。
- II 層・・・褐色砂質土。細かな砂粒を主体に、若干の炭化物、植物繊維を含む層で、近代の太田川の氾濫層である。調査区全域にわたって分布するが、東南域では確認できない。近代の遺物が若干混じる。鉄分、マンガン粒が含まれる。平均20～30cmほどである。
- III 層・・・室町時代中期から江戸時代初頭にかけての遺物包含層である。褐色土層で、上層は砂質で、下層へいく程粘性が強くなる。遺物及び鉄分、マンガン粒の混入度合いと、粘性の強弱によってⅢ-a層、Ⅲ-b層、Ⅲ-c層、Ⅲ-d層の4層に分層した。鉄分、マンガン粒を多量に含み、炭化物も混在する。砂質があった褐色土がⅢ-a層で、Ⅰ面遺物包含層である。平均30cmほどであるが、流路・洪水等によって削平された箇所も多い。9区東北角から3区東南角を結ぶラインから東を流れる近世流路によって、4～7区全域にわたって削平を受けている。Ⅲ-a層の下の約10cm程の褐色土が、Ⅲ-b層である。遺物は含まず、マンガン粒が微量混在する。調査区全域にわたって確認されないが、Ⅱ面遺物包含層直上に確認されるため、Ⅲ-b層とした。Ⅲ-c層は暗褐色をし、a・b層と比較すれば粘性が強まっている。炭化物や植物繊維を含み、Ⅲ-b層同様全域に確認はされないが、Ⅱ面の遺物包含層である。洪水によって、削平を受けずに残った部



第3図 元島遺跡基本土層図

分である。Ⅲ-d層が、室町中頃から江戸時代初頭にかけての遺構面のベースと考えられ、褐色粘質土層である。鉄分が多いため褐色がかって見えるが、灰色粘質土も混在している。

4区及び5区については、Ⅲ層が水田面になる可能性が高い。明瞭な畦畔等は確認されていないが、プラントオパールの結果等から考え、室町中頃から江戸時代初頭にかけての耕作地であったと推定される。土層についても、耕作されたブロック状の固まりが確認できる。

- Ⅳ 層・・・鎌倉時代から室町中頃にかけての遺物包含層である。基本的には、灰色粘質土層であるが、マンガン粒、鉄分の含有度合いと遺物の混在具合で4層に分類した。Ⅳ-a層は、マンガン粒、炭化物を含む灰色粘質土層でⅢ面遺物包含層である。平均20cm前後で、調査区の北側半分全域にわたって確認されている。上層、下層のマンガン粒を含んだ灰色粘質土層の中間層が、Ⅳ-b層で、混じり気のない灰色粘質土である。Ⅳ-c層が、Ⅳ面遺物包含層で調査区北西部のみに確認されており、他の区域は、洪水・流路によってほとんど削平されている。Ⅳ-a層とほとんど同様の様相であるが、Ⅳ-b層を中間層として挿入しているため、Ⅳ-c層とした。Ⅳ-d層は、暗灰色粘質土で、炭化物と未分解の植物遺体を含む。調査区南側では、ほとんど確認できず、同レベルは黒色の砂質土となっている。おそらく微高地が海岸部に向けて落ち込んでいったと推定できる。
- Ⅴ 層・・・腐食した植物繊維を多量に含む黒色有機質層である。平均10～20cmで、調査区南側半分に広がっている。花粉・珪藻分析の結果から、海草などが繁茂する海水藻場もしくは、淡水沼沢湿地を伴った海水泥質干潟（塩性湿地のような）が推定される。
- Ⅵ 層・・・古墳時代から弥生時代にかけての遺物包含層である。Ⅴ層同様、調査区南半分に広がっている。5層に分層したが、基本的には灰色砂質土層で、遠州灘によって形成された砂堆と考えられる。Ⅵ-a層が、古墳時代後・中期遺物包含層で灰色砂質土の中に丸みを帯びた灰色粘土ブロックが混在している。また、海洋性生物遺体が混入しており、時間がたつと酸化して、白くなってゆく。Ⅵ-b層が、古墳時代前期遺物包含層で、a層と同様であるが、粘土ブロックが極端に少なくなる。Ⅵ-c層は、暗灰色砂質粘土で、a層と比較して粘性が強く、砂混じり粘土となる。Ⅵ-d層になると、粘性が弱まり砂の中に、a層同様の丸みを帯びた灰色粘土ブロックが含まれる。a層と比較して砂が黒色を帯び、暗灰色砂質土となる。弥生時代の遺物包含層である。Ⅵ-e層になると再び粘性が強まり、暗灰色砂質粘土となる。下層にいく程、粘性は強まる。各層共に、平均20cm程度の厚みである。

Ⅶ 層・・・暗灰色粘質土で、若干の未分解植物遺体を含む。厚みは、約20cmである。

Ⅷ 層・・・混じり気のない砂層で、青みを帯びた青灰色砂質土である。元島遺跡一帯のベースで、遠州灘によって形成された砂堆もしくは、古天竜川の最終砂堤とも考えられる。

これらの結果をふまえ、調査区の北側では、鎌倉時代から江戸時代初頭に至る遺構面の調査を中心に進めた。平面調査終了時点で、重機により調査区に十字形の基盤層までの試掘トレンチと、部分的な試掘溝を設定、下層遺構の再確認を実施したうえで調査を終了した。南側については、古墳時代を中心に調査を進めた。中世面については、試掘調査により遺物も確認できなかったため、重機で古墳時代遺物包含層の直上まで掘り下げた。中世面については、水田の可能性があったため、断面確認とプラントオパールによって対応した。北側同様、平面調査終了後、重機を使用した試掘調査を実施し、下層遺構のないことを確認し、調査は終了した。

第2節 調査の方法

今回の元島遺跡の調査は、試掘調査の結果（『元島遺跡一次調査報告書』参照）からⅠ遺構面のみということで、計画し調査を進めた。そのため、工事で最優先される磐田用水の付け替えに部分を最初に実施した。ところが、調査途中で下層遺構が存在することが判明、そのため調査範囲及び調査面積が大幅に変更となった。この変更と、調査不可能な現県道下、磐田用水下、電柱が埋設されている道路下、調査によって崩壊の恐れがある堤防下を除き、調査区を10区に分割し、区域ごとに調査を行った。

当初の試掘調査結果に大きな誤認が確認されたため、調査と平行しながら下層遺構の確認を実施し、遺構の面数と土層堆積状況を把握し、掘り下げを実施した。掘り下げは、調査対象とした遺構面上面の遺物包含層直上までは、重機を利用し排土除去を行った。包含層以下については、人力により排土・遺構検出作業を実施した。なお、中間層については、遺物の混在状況を確認しながら重機で対応した。

測量の基準とするグリッドは、調査対象区域全域に国土座標にあわせて10mメッシュで設定した。南北方向は、北からA・B・C・・・、東西方向は西から1・2・3・・・とした。各グリッドは、これらの数字とアルファベットの組合せにより、A-1・B-2というように、北西角の杭の名称により表記した。遺構に伴う遺物については、1点づつそのポイントを記録することを原則とした。包含層出土遺物については、各グリッドの中をさらに四分割し、A-1NWというように表記し、その概略の位置を表すとともに層位ごとの取り上げを行った。

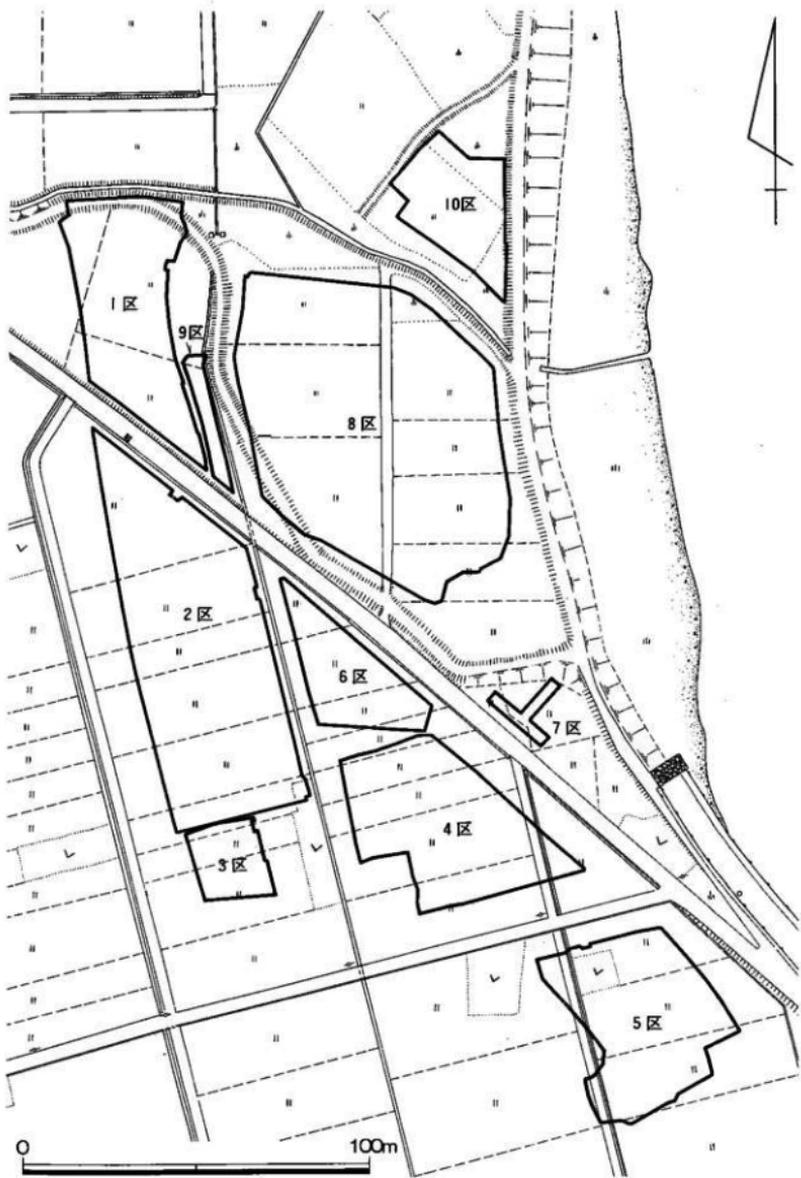
Ⅰ区で検出された液状化現象（噴砂）の痕跡については、第Ⅰ遺構面直下で止まっていたため、年代決定が可能であった。そのため、土層転写によるはぎ取り保存を実施した。同様に、古墳時代中期の舟形粘土棺についても、全国的な事例がない貴重な遺構ということで、前述の技術を応用し、立体的なはぎ取り保存を実施した。土葬墓等の脆弱かつ貴重な遺構については、ウレタン樹脂で固め、切り取り保存を実施している。木製品及び金属製品においても、脆弱な状態で出土したものについては、現地出土状況より保存優先ということで取り上げ、屋内へ移動後図面作成を行っている。これら、保存処理に関することについては、西尾太加二主任調査研究員の指導のもと、当財団の保存処理担当の職員が実施した。なお優先順位は、元島遺跡の現地主任と担当課長が決定を下した。

図面記録は、調査の迅速化を図るために、航空測量で実施した。原則として、全体図は1/20図面を作成し、各区については1/100図も併せて作成した。また、井戸や墓等の遺構、遺物出土状況、土層断面図は、手実測により1/10図を作成した。測量業務は、株式会社フジヤマに委託した。

記録写真は、6×7判・35mmモノクロ、35mmカラーポジの組合せを基本とした。必要に応じて4×5判カラーポジ及びモノクロ、6×7判カラーポジを使用した。調査工程の記録等のメモ写真については35mmネガカラーで対応した。撮影は、必要に応じてハイライダーやローリングタワーを使用し、全体写真については、株式会社フジヤマに委託しラジコンヘリコプターで行った。

調査を進める段階で、自然環境の検討や復元等において、静岡大学加藤芳郎名誉教授に現地指導をお願いし、環境復元に必要となる資料の収集等についてご指導をいただいた。

また、調査を進める段階で、水田等の可能性や海洋性植物の繁茂が予想される土層が検出されたためプラント・オパール分析、花粉分析、珪藻分析を初年度と二年度目の二度にわたり実施した。これらの分析は、株式会社古環境研究所に委託した。



第4図 元島遺跡調査区設定図

第3節 調査の経過

当初、現地調査期間は平成6年7月から平成8年3月までの予定であった。しかし、調査を進める段階で、試掘調査の遺構認定に誤認があったことが判明。調査予定面積が、約23,000㎡から49,000㎡へと増加した。また、遺構面が現地表面から平均約50cm下とされていたが、2m下にも展開していることも判明し、調査そのものを根本的に見なおす必要が生じた。このため、現地調査期間は、平成9年8月までと、1年5ヶ月延長することになった。

以下、調査経過については、概略を記すことにする。

平成6年7月

現地事務所、現場事務所の設置。調査用搬入、搬出道路の造成工事。調査区の排水溝掘削及び排水枳の設置と水中ポンプ設置作業。重機による2区の表土除去作業。

8月

重機による2区の表土除去作業。調査区及び現場事務所周辺の安全フェンス設置。シートによる調査区の保護作業。出土遺物の洗浄作業。文化課主催「埋蔵文化財養成講座」受け入れ（3日間）。測量基準点設置作業。

9月

重機による1・2区の表土除去作業。ベルトコンベアーの設置。2区包含層の除去作業。出土遺物の洗浄、注記作業。1区液状化土層のはぎ取り保存作業。2区グリッド杭設置作業（㈱フジヤマに委託）

10月

2区包含層の除去作業。2区第1遺構面遺構確認作業及び遺構検出作業。遺構実測作業及び写真撮影作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。1区グリッド杭設置作業（㈱フジヤマに委託）。

11月

2区包含層の除去作業。2区第1遺構面遺構確認作業及び遺構検出作業・掘削作業。遺構実測作業及び写真撮影作業。1区の表土除去作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。測量基準点設置作業（㈱フジヤマに委託）。

12月

2区包含層の除去作業。2区第1遺構面遺構確認作業及び遺構検出作業・掘削作業。遺構実測作業及び写真撮影作業。1区の表土除去作業。調査区南側・東側の範囲確認調査。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。加藤芳郎静岡大学名誉教授による地質調査及び現地指導。古環境研究所によるプラントオパール、花粉・珪藻分析のための資料採取作業（委託）。



重機による表土除去作業



プラントオパール等資料採取作業

平成7年1月

1・2区第Ⅰ遺構面遺構確認作業及び遺構検出作業・掘削作業。遺構実測作業及び写真撮影作業。重要遺物の取り上げ作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。

2月

1・2区第Ⅰ遺構面遺構確認作業及び遺構検出作業・掘削作業。遺構実測作業及び写真撮影作業。遺物の取り上げ作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。

3月

1・2区第Ⅰ遺構面遺構確認作業及び遺構検出作業・掘削作業。遺構実測作業及び写真撮影作業。遺物の取り上げ作業。1区第Ⅱ遺構面遺構確認作業及び遺構検出作業・掘削作業。2区第Ⅱ遺構面部分調査に伴う遺構確認作業及び遺構検出作業・掘削作業。井戸の立ち割り・解体・取り上げ作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。航空測量及び俯瞰写真撮影（㈱フジヤマに委託）。

4月

1・2区調査区埋め戻し作業（重機及びダンブカー）。3区排水溝掘削作業。3区集水樹、水中ポンプの設置。重機による3区表土除去作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。

5月

1・2区調査区埋め戻し作業（重機及びダンブカー）。3区排水溝掘削作業。重機による3区表土除去作業。3区第Ⅰ遺構面包含層除去作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。

6月

重機による3区表土除去作業。3区第Ⅰ遺構面遺構確認作業。6区トレンチ調査作業。重機による5区表土除去作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。3区グリッド杭設置作業（㈱フジヤマに委託）。

7月

3区第Ⅰ遺構面遺構検出、遺構掘削作業。3区第Ⅰ遺構面遺構実測作業及び写真撮影作業。重機による6区及び5区の表土除去作業。6区排水溝掘削作業、排水樹、水中ポンプ設置作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。3区第Ⅰ遺構面の航空測量及び俯瞰写真撮影作業（㈱フジヤマに委託）。

8月

3区中間層除去作業。3区第Ⅱ遺構面遺構確認作業。6区第Ⅱ遺構面包含層除去作業及び遺構確認、遺構検出、遺構掘削作業。6区第Ⅱ遺構面遺構実測作業及び写真撮影作業。重機による5区表土除去作業。5区排水溝掘削作業、排水樹及び水中ポンプ設置作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。6区第Ⅱ遺構面のグリッド杭設置作業及び航空測量、俯瞰写真撮影作業（㈱フジヤマに委託）。ふるさと文化財ふれあい事業（発掘体験教室）開催。加藤芳郎先生による土壌及び地質調査指導。



遺構検出・掘削作業



ふるさと文化財ふれあい事業

9月

3区第Ⅱ遺構面遺構検出、掘削作業。6区第Ⅲ遺構面遺構確認、検出、掘削作業。6区第Ⅲ遺構面実測及び写真撮影作業。5区包含層除去作業。重機による10区表土除去作業。10区排水溝掘削作業、排水樹及び水中ポンプ設置作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。

10月

3区第Ⅱ遺構面測量及び写真撮影作業。5区包含層除去、遺構確認、遺構検出作業。7区確認調査。10区第Ⅰ遺構面遺構確認、検出作業。6区遺構面埋め戻し作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。10区グリット杭設置作業（㈱フジヤマに委託）。

11月

5区遺構検出作業及び土器列検出作業。10区第Ⅰ遺構面遺構検出、掘削作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。10区第Ⅰ遺構面航空測量及び俯瞰写真撮影（㈱フジヤマに委託）。

12月

5区遺構検出作業及び土器列検出作業。10区第Ⅰ遺構面写真撮影、遺物取り上げ作業。10区中間層除去作業。10区第Ⅲ遺構面遺構確認、検出、掘削作業。10区第Ⅲ遺構面写真撮影及び測量作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。

平成8年1月

5区遺構検出作業及び土器列検出作業。5区実測作業、写真撮影作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。5区グリット杭設置作業、地形測量及び俯瞰写真撮影（㈱フジヤマに委託）。

2月

5区遺構検出作業及び土器列検出作業、遺物取り上げ作業。実測及び写真撮影作業。5区重機、ダンプカー等による埋め戻し作業。4区表土除去作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。

3月

5区重機、ダンプカーによる埋め戻し作業。4区表土除去作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。

4月

4区表土除去作業。排水溝の掘削及び排水樹、水中ポンプの設置。安全フェンスの設置作業。8区表土排出路の整備に伴う諸作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。

5月

4区調査区南側水中ポンプ設置作業。安全フェンスの設置作業。調査区東壁・南壁の断面実測作業。8区表土除去作業及び排土運搬作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。



航空測量及び俯瞰写真撮影



土器列検出作業

6月

4区調査区壁断面実測作業。4区古墳時代遺構面包含層除去、遺構確認作業。8区排水溝の掘削、排水樹・水中ポンプの設置作業。9区表土排出路の整備に伴う作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。

7月

4区古墳時代遺構面包含層除去、遺構確認、遺構検出、遺構掘削作業。2号墳主体部実測作業及び写真撮影作業。8区、9区の重機による表土除去作業。9区排水溝の掘削、排水樹、水中ポンプの設置作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。

8月

4区古墳時代遺構面遺構検出、遺構掘削作業。2号墳主体部実測作業及び写真撮影作業。同主体部保存処理作業。8区、9区の重機による表土除去作業。9区第1遺構面包含層除去、遺構確認作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。4区グリッド杭設置、航空測量、俯瞰写真撮影作業（㈱フジヤマに委託）。古墳時代の遺構についての記者発表。

9月

4区古墳時代遺構面遺構検出、遺構掘削作業。2号墳主体部実測補足作業及び写真撮影作業。4区中間層除去作業。8区、9区の重機による表土除去作業。9区第1遺構面包含層除去、遺構確認作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。

10月

4区弥生時代遺構面、遺構確認、検出、掘削作業。8区第I遺構面包含層除去、遺構確認作業。9区第I遺構面遺構検出、遺構掘削作業。同第II遺構面包含層除去作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。4区弥生時代遺構面及び9区第I遺構面グリッド杭設置、航空測量、俯瞰写真撮影作業（㈱フジヤマに委託）。

11月

4区弥生時代遺構面補足作業（下層の確認）、測量補足作業、写真撮影作業。8区下層トレンチ調査による確認作業。8区第I遺構面遺構確認、遺構検出作業。9区第II遺構面遺構確認、遺構検出、遺構掘削作業。同下層確認のためのトレンチ調査。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。9区第II遺構面グリッド杭設置、航空測量、俯瞰写真撮影作業（㈱フジヤマに委託）。プラントオパール分析、花粉・珪藻分析（古環境研究所に委託）。

12月

8区第I遺構面、遺構確認、検出、掘削作業。8区下層トレンチ調査。9区第III遺構面、第IV遺構面遺構確認、遺構検出、遺構掘削作業。同実測作業及び写真撮影、遺物取り上げ作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。



重機による表土除去作業



主体部の保存処理作業

平成9年1月

8区第Ⅰ遺構面、遺構確認、検出、掘削作業。8区第Ⅰ遺構面実測作業及び写真撮影作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。8区第Ⅰ遺構面グリット杭設置作業（㈱フジヤマに委託）。

2月

8区第Ⅰ遺構面、遺構確認、検出、掘削作業。8区第Ⅰ遺構面実測作業及び写真撮影作業。8区第Ⅰ遺構面遺物取り上げ作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。8区第Ⅰ遺構面航空測量、俯瞰写真撮影及び測量補足作業（㈱フジヤマに委託）。

3月

8区第Ⅰ遺構面実測作業、遺物取り上げ作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。8区重機による中間層除去作業。8区中世面の記者発表及び現地説明会の開催。

4月

8区排水作業及び中間層除去作業。8区第Ⅱ遺構面遺構確認、検出作業。出土遺物の洗浄、注記、接合作業。出土木製品の実測作業及び保存処理作業。図面の校正作業及び遺構図作成作業。

5月

8区中間層除去作業。8区第Ⅱ遺構面遺構確認、検出作業。出土遺物の洗浄、注記、接合、復元、実測作業。出土木製品の実測作業及び保存処理作業。図面の校正作業及び遺構図作成作業。

6月

8区第Ⅱ遺構面、遺構検出、掘削作業。同実測及び写真撮影作業。出土遺物の洗浄、注記、接合、復元、実測作業。出土木製品の実測作業及び保存処理作業。遺構図作成及びトレース作業。8区第Ⅱ遺構面航空測量及び俯瞰写真撮影、補足作業（㈱フジヤマに委託）。

7月

8区第Ⅱ遺構面実測及び写真撮影作業。出土遺物取り上げ作業。下層遺構の確認及び断面確認のためのトレンチ調査。出土遺物の洗浄、注記、接合、復元、実測作業。出土木製品の実測作業及び保存処理作業。遺構図作成及びトレース作業。

8月

現地撤収作業。出土遺物の洗浄、注記、接合、復元、実測作業。出土木製品の実測、写真撮影作業及び保存処理作業。図面の校正及び遺構図作成作業。

9月

出土遺物の洗浄、注記、接合、復元、実測作業。出土木製品の実測、写真撮影作業及び保存処理作業。図面の校正及び遺構図作成作業。



遺構確認及び検出作業



現地説明会の開催

10月

出土遺物の接合、復元、実測作業。出土木製品の实測、写真撮影作業及び保存処理作業。図面の校正及び遺構図作成作業。

11月

出土遺物の接合、復元、実測作業。出土木製品の实測作業及び保存処理作業。図面の校正及び遺構図作成作業。

12月

出土遺物の接合、復元、実測作業。出土木製品の实測作業及び保存処理作業。図面の校正及び遺構図作成作業。報告書遺構編図版執筆作業。

平成10年1月

出土遺物の接合、復元、実測作業。出土木製品の实測作業及び保存処理作業。図面の校正及び遺構図作成、トレース作業。報告書遺構編本文執筆作業。

2月

出土遺物の接合、復元、実測作業。出土木製品の实測、写真撮影作業及び保存処理作業。図面の校正及び遺構図作成、トレース作業。報告書遺構編本文執筆作業。

3月

出土遺物の接合、復元、実測作業。出土木製品の实測作業及び保存処理作業。図面の校正及び遺構図作成、トレース作業。報告書遺構編本文執筆作業。



遺構実測作業



洪水により水没した調査区



最終の確認作業



調査終了埋め戻し後の調査区

第IV章 検出された遺構

第1節 検出遺構の概要

今回の調査では、前述の基本土層で述べたように8時代の遺構面を確認した。当初予想をはるかに越える遺構面が確認されたうえ、出土遺物も膨大な量にのぼったため、検出遺構の細部にわたって時期認定作業を実施する時間的余裕がなかった。そのため、今後の遺物整理の過程において、「遺構編」における時期認定に若干の誤認が予想される。誤認については「遺物編」において訂正し、「遺物編」を持って正式見解とすることを予め断わっておきたい。

中世面としては、4遺構面を確認している。いずれの遺構面も、流路もしくは洪水層の上に乗った遺構面であった。中世遺構全体としては、包含層及び流路内からの遺物が圧倒的に多く、遺構内からの遺物の出土は、極端に少なかった。時期認定の決定的条件を満たすものとしては、数少ない井戸及び土坑に依らざるを得ない状況である。出土遺物の絶対量からすると、15世紀中頃から後半にいたる約50年間に圧倒的に多い。しかし、確実にこの時期と認定できる遺構は、非常に少なかった。現時点の見解としては、12世紀前半から、中世集落の形成が初まり、13世紀中頃に洪水等による大規模な被害を受け、集落が壊滅的打撃を受けたことが推定できる。この時期の遺物は、すべて流路及び遺構面より下層の礫層から出土している。面としてとらえることが可能であった4遺構面は、次のとおりである。

第I遺構面・・・16世紀代

第II遺構面・・・15世紀代（一部14世紀代を含む）

第III遺構面・・・13世紀代（一部14世紀代を含む）

第IV遺構面・・・13世紀代

集落の廃絶は、幕府による強制移転があった慶長年間(1596～1615)の中頃以降であることが、出土遺物からも確認された。集落の跡地周辺は、水田に変化したと伝えられているが、遺構としてとらえることは出来なかった。水田利用については、プラント・オパール分析から確認することができた。また、近代と推定される井戸遺構が多数検出されている。

中世以前の遺構としては、4遺構面が確認されている。前述した13世紀前半の洪水が、かなりの遺構面を破壊しているため、ほぼ同一面で、複数の遺構が確認されている。

第V遺構面・・・古墳時代後期から奈良時代前半（方形区画の時期）

第VI遺構面・・・古墳時代中期（円形墳墓の時期）

第VII遺構面・・・古墳時代前期（掘立柱建物群の時期）

第VIII遺構面・・・弥生時代中期（方形周溝墓の時期）

出土遺物としては、弥生時代中期後半から4世紀後半にかけては、切れ目なく土器が出土している。ただ、遺構面として認定できない時期があったということである。12世紀後半の洪水の最下層の一部は第VII遺構面にも及んでいた。また、第V遺構面から第VII遺構面は、ほぼ同一面で確認されており、第V遺構面に伴う掘立柱建物と、第VII遺構面に伴う掘立柱建物の区別が判然としていない。第V遺構面で確認された、方形区画の溝はほとんど底の部分で、それより上層については、洪水層によって破壊を受けている。須恵器の出土が、この遺構面より上層の包含層からの出土が大部分で、確実な時期決定にいたる資料にならなかった。また、第VII遺構面の墳墓についても、盛土部分及び主体部が洪水によって破壊されているものが大半であった。以上、ほとんどの遺構が洪水等の自然災害の被害を受けていたことが、時期決定に大きな影響を及ぼすことになっている。

第2節 近代の遺構

近代の遺構については、井戸・堤防・流路の3遺構が確認されている。流路については、人工的に掘られた溝を破壊して、流れた可能性も残されている。遺構面は、何度も洪水に洗われており、上流から運ばれた砂利が所々残存するケースも見られた。

1. 近代井戸

今回の調査区内では、近代の井戸36基が確認された（位置については第5図参照）。素掘り井戸はなく、36基すべてが何らかの井戸壁を保護する施設を持っていた。その材質によって大別するなら、木材と竹の2種に大別される。木材も方形にしているか、円形にしているかによって、また2種に区分けすることが可能である。従って、ここでは便宜上3種に分けてまとめることにする。

井戸は、3種に分けると、最も多い円形をした井戸が24基、方形の井戸が11基、竹編み井戸が1基であった。井戸は、調査区全体に点在するように設けられているが、同一の場所周辺に2基以上集中して掘られている場合が多い。最も多く集中する場所では、9基が次々に造られていた。おそらく、何らかの理由で掘り直し、造り直しがあったためと推定される。本来の井戸分布は、調査2区で見られるような状況であったと考えられる。

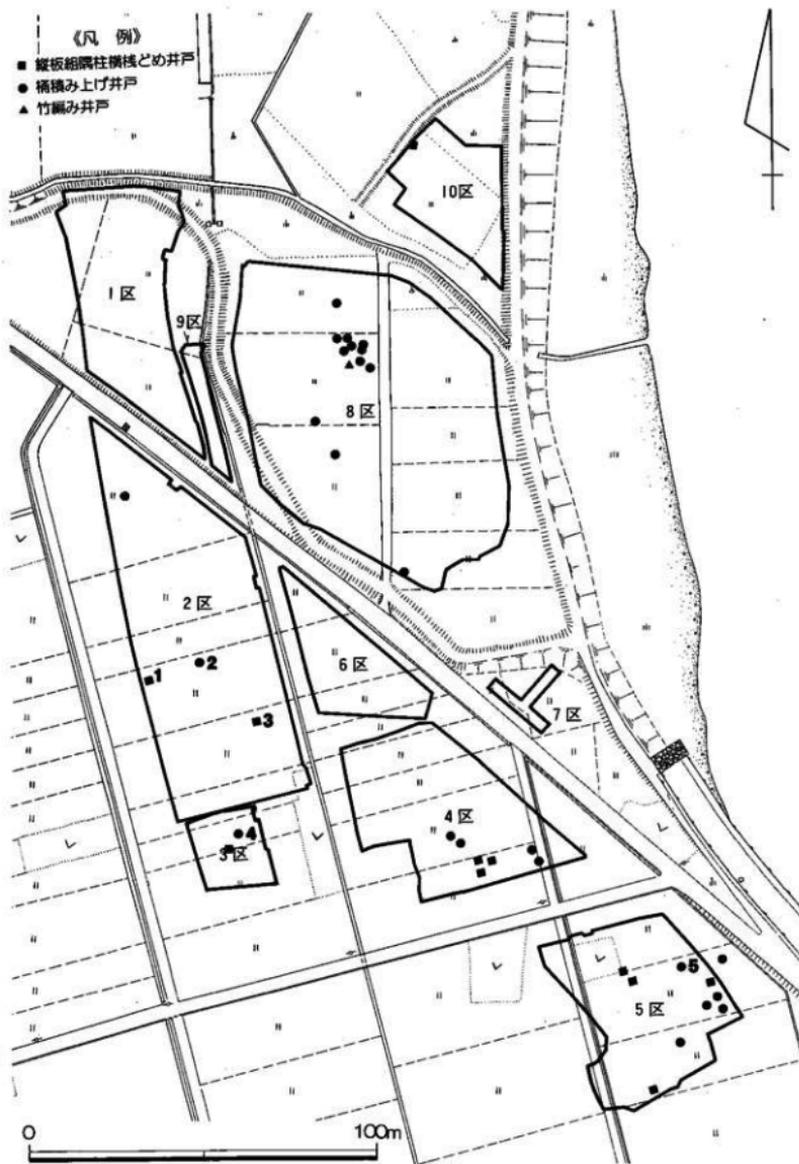
造り直しの原因は、推定の域を出ないが自然災害によって埋没した可能性が高い。干上がったために掘り直しをしたと仮定すると、井戸材の再利用をすることが考えられるが、明らかに井戸材を抜き取った形跡を確認できたのは、わずかに2基であった。調査を実施した井戸の大部分の掘り方の埋土で、液状化の痕跡が確認されている。洪水による埋没の他、液状化による埋没（地震）も考慮に入れる必要があると考えられる。噴砂現象は、井戸底の砂層から始まり、確認面上部付近まで達していた。

井戸の造られた時期であるが、ほんのどの井戸が水田床土をはずした段階で確認されているため、豊浜地区の水田化以前であることは、間違いない。ただ1基、8区で確認された竹編み井戸は、これらの井戸よりさかのぼる可能性は考えられる。いずれにしろ、8区を取り囲むように造られていた土手以前に、すでに井戸は造られていたことは間違いない。この井戸の目的であるが、戦前豊浜地区に井戸と風車が多数あったという。それは、養蚕場の施設だったというが、記録等には残されていない。この地区は、脇を太田川が流れているにもかかわらず、現在も水田耕作にこの川の水を利用していない。遠く上流から磐田用水によって水を得ている。豊浜地区から、遠州灘河口までは約2kmで、満潮になると現在でも海水が太田川を逆流してくる。そのため、この地区周辺の太田川の水は、多分に塩分を含んだ水となっている。磐田用水から、水を得ることが困難だった時代、井戸を掘ることによって真水を得ていたのであろう。

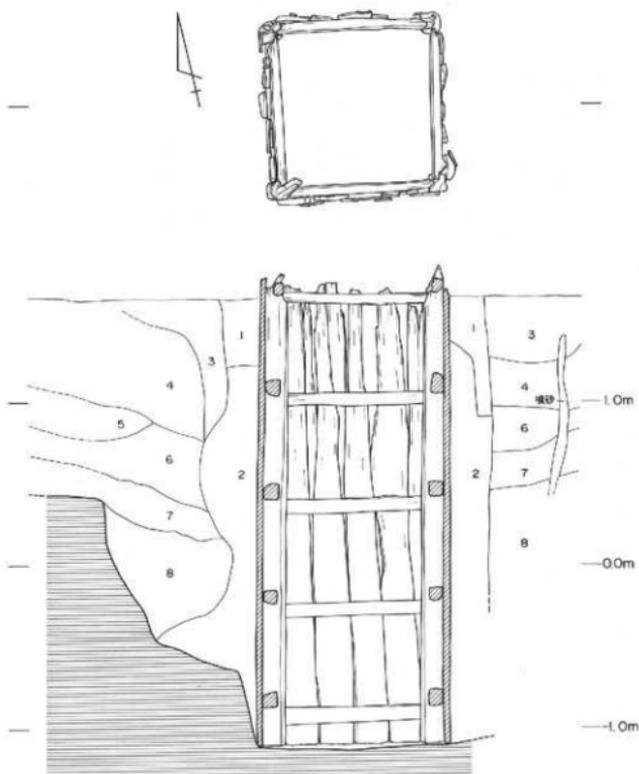
井戸の型式については、前述のように3種類がある。以下、3型式について若干の説明をすることにする。ただ、竹編み井戸については、安全性の問題から、実測作業等は実施していない。いずれの井戸も、地上に設けられたであろう井桁遺構は一切存在していなかった。井戸側と呼ばれる、井戸壁の崩壊を防ぐため地下壁面に設けられた部分の違いによって、3型式が確認されているということである。湧水を溜めるため底に設けられた水溜遺構は、いずれの井戸でも検出されていないため、水溜施設を持たない井戸というより、水溜がなくとも湧水を確保することが可能だったと考えられる。

(1) 縦板組隅柱横棧どめ井戸（第6図＝1号、第7図＝3号）

板材を縦方向に組み、四隅に立てた柱に取り付けた横棧で保持するもの。四隅の柱には、ほぞを開け包込柄で組み込んでいた。ほぞは、長方形・正方形・半円形のもの3種が確認されたが、同一固体では



第5図 近代井戸位置図

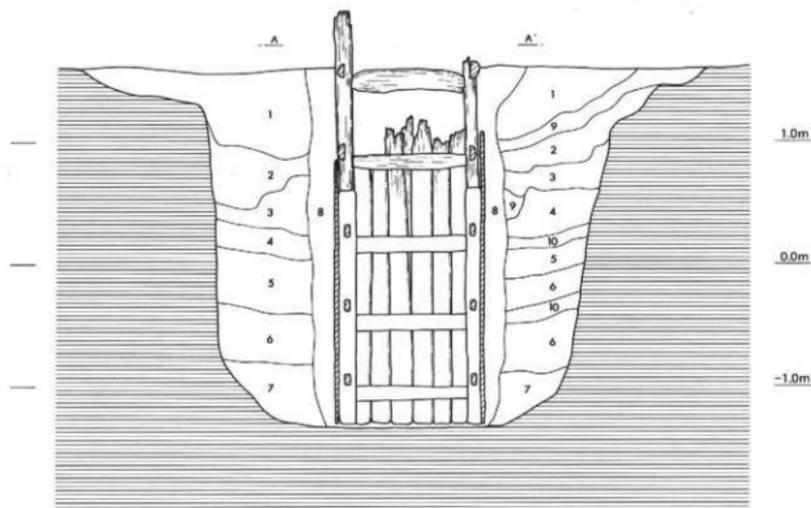
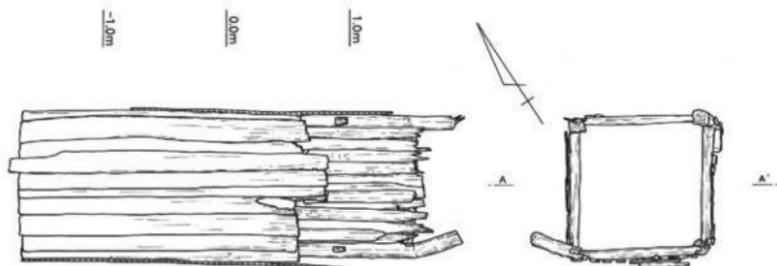


- 1層 褐色土(砂・マンガン含む)
- 2層 灰色粘土(黒色粘土ブロック含む)
- 3層 褐色土
- 4層 褐色土(黒色粘土・鉄分・マンガン含む)
- 5層 灰色粘土(黒色粘土ブロック・鉄分含む)
- 6層 灰色粘土(マンガン含む)
- 7層 灰色粘土(炭含む)
- 8層 暗灰色粘土(砂含む)

1号近代井戸

0 1.0m

第6図 1号近代井戸実測図



- 1層 褐色砂質土
- 2層 明灰色粘土(マンガン含む)
- 3層 灰色砂質粘土
- 4層 明灰色粘土
- 5層 灰色粘土
- 6層 灰色粘土(炭化物含む)
- 7層 暗灰色粘土(砂粒含む)
- 8層 灰色粘土(黒色粘土固含む)
- 9層 褐色砂質土(マンガン含む)
- 10層 灰色砂質土

3号近代井戸



第7図 3号近代井戸実測図

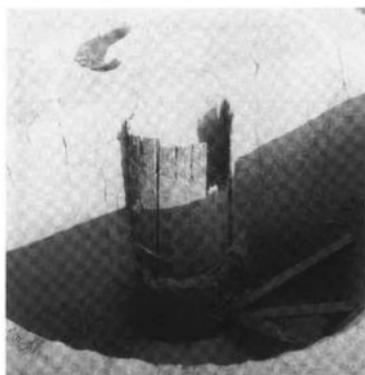
ほぞの形は同じであった。平面方形で、内側で約1m四方の大きさである。四隅に立てられた柱は、約3.5m、長さが足りない場合は、二段に足して3.5mの長さを確保していた。この長さは、一段では達しない真水だけになる第2湧水点の深さでもある。柱の直径は、約12cmで、いわゆる三寸角のものである。横棧は、約60cm間隔で5段、いずれも三寸角の部材が使用されていた。この井戸枠に、厚さ3cm・幅20cmの板を隙間なく貼り、長さが足りない場合は継ぎ足していた。井戸枠への取り付けは、釘またはかすがいが利用されているものもあったが、ほとんどが打ち付けられていなかった。おそらく、周りを埋める時の埋土によって保持させていたと推定される。板を貼った井戸側の周りには、約15~20cmの白色粘土を貼り付け、井戸から湧きだす水の流失を防いでいた。井戸側を設置するために掘られた掘り方は、直径で約3mとかなり大がかりのものであった。中世遺構面を完全に破壊して、造られているため掘り方からは、かなりの量の遺物出土している。井戸内からの遺物は、ほとんど確認されなかったが1点「みかん水」のビンが出土している。



縦板組隅柱横棧どめ井戸検出状況

(2) 桶積み上げ井戸 (第8図=2号、第9図=4・5号)

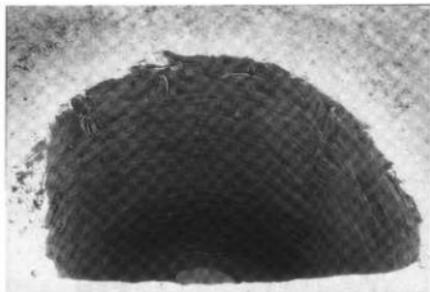
最も多く確認された井戸で、桶状の縦板を組んでタガを巻き付けたものを、3段組合せて井戸側としていた。平面円形で、直径はいずれも80cm前後であった。縦板に使用された板は、幅約10cm・厚さ2cm前後の板で、長さは1.2m程で、一つの桶に24枚を使用し円形に組合せてあった。3段を組合せた井戸の深さは、方形井戸と同じ約3.5mである。タガは、三本の竹を編んだものを使用し、約30cm間隔ではめられている。タガは、一つの桶に4本使用されていた。上部のみ強度を増すための方策と考えられるが、10cm間隔で二本巻き付けられていた。掘り方は、約1.5mと方形井戸に比較すると狭い。井戸側の周りに、青灰色粘土を確認できるが、方形井戸のように明瞭に貼り付けたとは言い難い。方形井戸とは異なり、井戸枠の再利用をするために、かなりの数のものが板材のみ抜き取られ、竹編みのタガのみ確認されたものもあった。



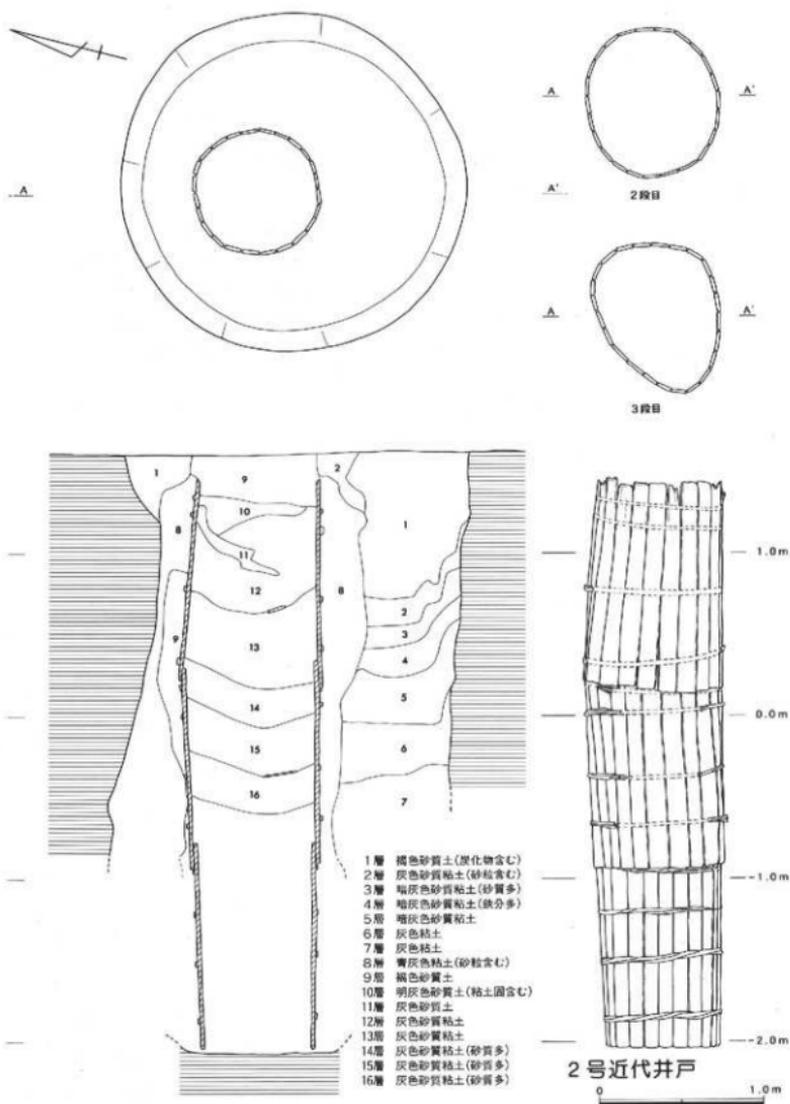
桶積み上げ井戸検出状況

(3) 竹編み井戸

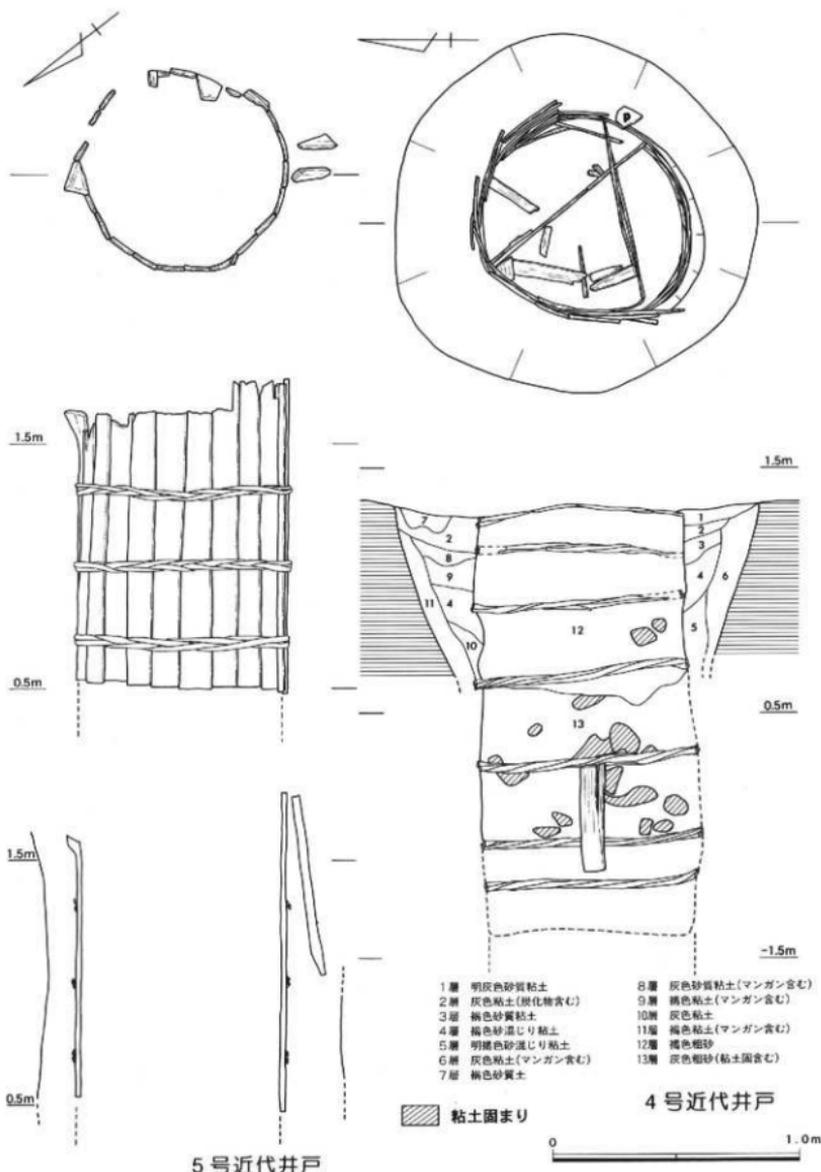
竹編み井戸は、8区で1基のみ確認された。



竹編み井戸検出状況



第8图 2号近代井戸实测图



第9図 4号近代井戸・5号近代井戸実測図

直径約80cmの平面円形（12角形）であった。竹を一ヶ所に3本縦柱の代わり用い、合計36本、12カ所に打ち込まれていた。この縦の竹を軸に、半採された3本の竹を横木代わりに、表、裏と棧が交互になるよう編まれていた。深さは、2mまで確認したが、竹の残存状況が脆い状況であったため、全掘せずに終了した。

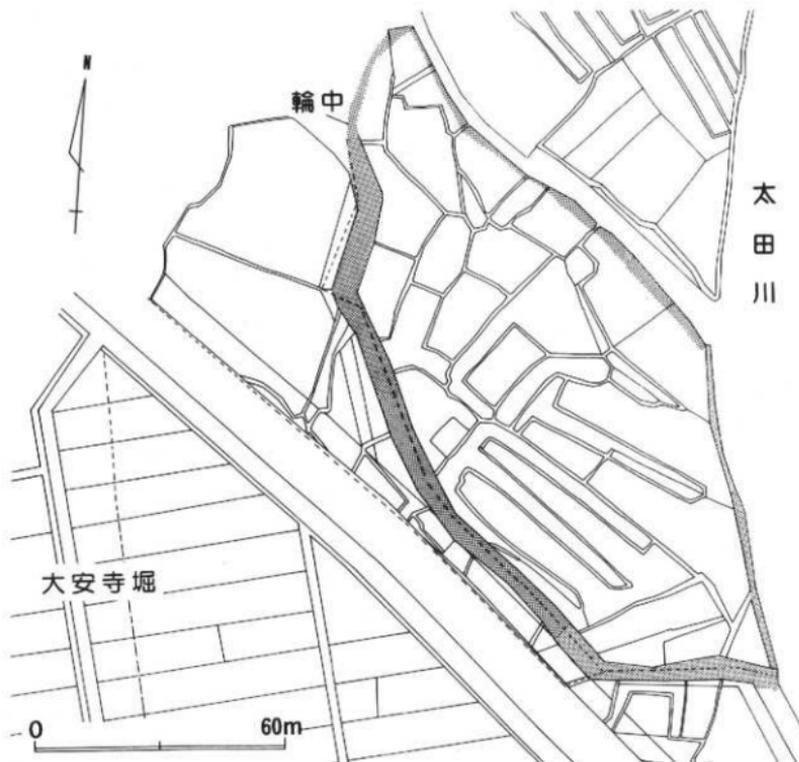


竹編み井戸編み目部分拡大

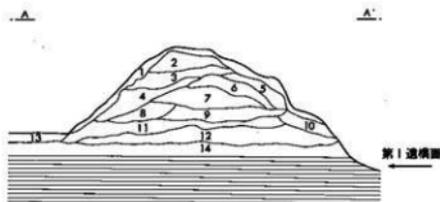
2. 近代土手状遺構（第10図）

当初、輪中を形造る堤防と推定されたものについても、立ち割り調査を実施した。現状でも

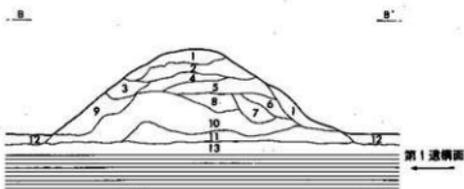
太田川の堤防の役割りを果たしている東側及び北側堤防を除いて、全部で5カ所にトレンチを設定した（北側については、後述のように調査終了後、トレンチ調査を実施した）。



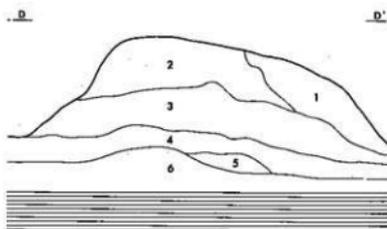
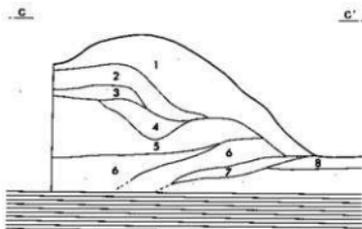
第10図 輪中周辺地籍図（「元島遺跡一次調査報告書」より転載）



- | | |
|-----------------|---------------|
| 1層 表土 | 8層 灰色土 |
| 2層 褐色土 | 9層 褐色土 |
| 3層 褐色土 | 10層 灰色土 |
| 4層 灰色土(マンガン粒含む) | 11層 灰色土 |
| 5層 灰色土(マンガン粒含む) | 12層 灰色土 |
| 6層 褐色土 | 13層 耕作土 |
| 7層 褐色土 | 14層 褐色砂質土(流路) |

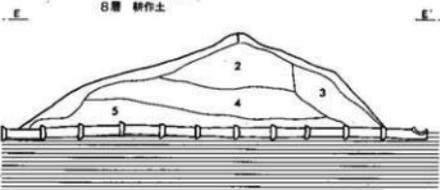


- | |
|------------------|
| 1層 表土 |
| 2層 明灰色粘土 |
| 3層 明灰色粘土 |
| 4層 褐色粘土 |
| 5層 明灰色粘土(マンガン含む) |
| 6層 暗灰色粘土 |
| 7層 褐色粘土 |
| 8層 褐色粘土 |
| 9層 褐色粘土 |
| 10層 褐色粘土 |
| 11層 灰色粘土 |
| 12層 耕作土 |
| 13層 褐色砂質土(流路) |

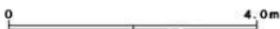


- | |
|-------------------|
| 1層 褐色砂質土(表土、礫混じり) |
| 2層 褐色砂質土 |
| 3層 褐色砂質土(礫含む) |
| 4層 褐色砂質土(粘土混含む) |
| 5層 暗褐色砂質土(マンガン含む) |
| 6層 褐色砂質土(流路) |
| 7層 青灰色粘土 |
| 8層 耕作土 |

- | |
|--------------------|
| 1層 褐色砂質土(表土、礫混じり) |
| 2層 褐色土(マンガン含む) |
| 3層 褐色砂質土(遺物含む) |
| 4層 暗褐色砂質土(マンガン多い) |
| 5層 灰色砂質粘土(マンガン粒含む) |
| 6層 青灰色粘土(上部に鉄分含む) |



- | |
|-------------------|
| 1層 褐色砂質土(表土、礫混じり) |
| 2層 褐色砂質土 |
| 3層 暗褐色砂質土(礫含む) |
| 4層 褐色砂質土(マンガン含む) |
| 5層 褐色砂質土 |



第11図 近代土手状遺構実測図

トレンチ調査の結果、1区北側の堤防については、版築までとはいかないが、かなり丁寧に付き固められて造られていた様子が判明した。8区西側から南へまわり東堤防へと取りつく堤は、1区北側の堤防と比較すると、かなり大まかに造られている。いずれの堤防も、遺構面より上層の流路端に溜まったと推定される褐色砂質土の上から造られていた。耕作土と面を同一にした所からの立ち上がりであるため、近年になってからの築造とするのが妥当と考えられる。また、8区最南端の堤防には、土管が埋められており、この土管を埋めて排水溝とした時の築造が確実である。北側堤防より、南側堤防が築かれた時期のほうが新しいと考えられる。

『元島遺跡—平成5年度太田川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』の、「6. 輪中について」で、北側と西側部分の高さ約1.5m・長さ約115mを、元島新山が住居地域から農地に変換した以降に形成された築堤と推定しているが、この部分については太田川から逆流によって、調査区内に水が入ってくるため、調査終了時点でトレンチ調査を実施した。このトレンチは、下層遺構の確認も兼ねたため、海拔0mにある基盤の砂層まで掘り下げている。計5ヶ所のトレンチの断面から、北側の築堤は、SD38・33、SR7が埋没し、さらに洪水層によって覆われた後に、築かれた堤防であることが判明した。おそらく、8区北側を流れる現在の水路を掘った土を盛り上げた堤防と考えられる。

3. 近代流路

流路については、前述したように人工的溝を破壊して流れた可能性を棄てたい。いずれの流路も、遺構面を削り取っているため、かなり大きな流れであったことは間違いない。SR4は、検出状況から流路として認識していたが、その後の検討段階で溝の可能性が高くなってきた。また、8区西端で確認されたSR10は、流路として問題ないが、15世紀後半の可能性が高い。

SR1 (第90区)

2区東端を北から南へ流れる流路で、全長51m以上・幅15m以上・深さ1.2m程の規模である。Ⅱ層直上で検出されており、水田化直前の流路と考えられる。舎上は、砂質で流路中央部底付近に砂層層が確認される。これらの状況から、急激に流れたというより、緩やかに流れ続けたか、本流の縁の部分と推定される。この流路は、本来の溝(幅約2.5m)をベースとして、流れた可能性が高い。

遺物は、12世紀代が11%、13世紀代が8%、15世紀代が58%、16世紀代が24%で、14世紀代の遺物は確認されていない。

SR2

1、9区の西側を流れる流路で、トレンチによって確認した。幅は発掘区内ではおさまらず、さらに西側区域外へと続いていた、遺物量も少ないため、安全確保の観点から、底の確認は実施していない。この流路によって、遺構面は全て削平を受けているため、江戸時代以降の流路であることは確実だが、時期決定が可能な程の材料は見当らなかった。

SR3

9区南端にわずかに確認できた流路であるが、遺物は56点とかなり出土している。12世紀代2%、13世紀代9%、14世紀代11%、15世紀代46%、16世紀代30%、17世紀代2%という割合で、江戸時代以降の流路と考えられる。隣接する2区・8区の状況が不明であるため、流路の方向等をつかむにいたっていない。2区北側と8区南側を覆っていた礫層がこのSR3に伴う可能性が高い。流路として報告するが、一過性の洪水という可能性も捨てがたい。

SR5 (第139図)

6区を南北に流れる流路で、全長16m以上、幅8m・深さ70cm程の規模である。SR4よりは新しい流路である。流路内含土から、キセルが出土しており江戸時代以降の流路と推定される。含土内には、大型の礫が混じる砂礫層が20cm程の厚さで堆積している。かなり急激に流れた流路と考えられる。8区調査区内では確認されず、試掘溝で確認されているため、北側北東から並行し、南へと流れる流路であったと推定される。4区断面で確認された幅は、20mを越えるため、下流にかけかなりの幅を広げながら流れたもので、一時期の太田川本流という可能性もある。SR1と異なり、急激な流路であるため、削平部分が多く、ベースとなる溝の有無は判然としない。

遺物は、12世紀代が50%、13世紀代が14%、14世紀代が4%、15世紀代が28%、16世紀代が4%であった。

SR6

8区北側、10区南側を西北から東南方向に流れる流路である。全長35m以上、幅10m以上、深さ1m以上の流路で、現在布設されている用水路と同一方向に流れている。土地宝典にも確認できる太田川に流れこむ支流である。おそらく、水田化の際に用水として使用されていたものと考えられ、方向や幅についても、かなり人工的に改変されていると思われる。

遺物は、わずかに古瀬戸製品が2点出土しているだけである。おそらく、現代まで使用されている間に流されてしまったと考えるのが妥当であろう。

SR7

8区北東隅で確認された流路であるが、SD32、SD24の上を度々流れたと推定される。また、SR2へ接続する可能性も高い。部分で確認されただけなので、方向・規模は不確定である。

出土遺物は、12世紀代が21%、13世紀代が11%、14世紀代が8%、15世紀代が43%、16世紀代が26%であった。この流路によって、遺構面もかなり削平を受けているが、最終段階の時期は判然としない。

SR8

8区南側をほぼ東西方向に流れる流路で、全長80m以上、幅6m以上、深さ1m以上の規模である。9区南側、2区最北端で確認された流路と同一の可能性が高く、江戸時代以降のものと推定できる。含土上面には、砂質が多く、中・下層では炭化物や腐植物を含む粘土層も見られる。部分的に礫層も含まれるが、SR3に伴う礫なのか、下層の他の流路に伴う礫なのかの認定はできていない。

出土遺物は、12世紀以前が2%、12世紀代が19%、13世紀代が9%、14世紀代が9%、15世紀代が46%、16世紀代が15%であった。

SR3とSR9との関係は不明で、東の方向に流れたことだけが判明する。

SR9

8区調査区東端を南北に流れる流路である。最低3時期の流路が確認されている。この流路より、東側にかけて幅30m、深さ1m以上の流路と、幅30m以上の流路が確認された。断面の傾斜角から考えて、最低でも深さ5mを計る流路である。砂礫もかなり含まれ、一時期の太田川本流と考えられる。これが本流の時期に、SR1が川岸と推定される。検出された流路西側肩の堆積状況から、増量と減量を7度は繰り返していたと考えられる。時期は、水田化以前で江戸時代初頭以降としか断定できない。

出土遺物は、12世紀代が15%、13世紀代が7%、14世紀代が6%、15世紀代が62%、16世紀代が10%であった。

第3節 江戸時代初頭から戦国時代にかけての遺構

1・2・3・8・9・10区で確認された遺構面としては、最も新しい時期にあたる。実年代としては、16世紀前半から後半に比定できる。基盤層が河川堆積層であるため、一部掘立柱建物に若干の疑問は残る。確認面については、後世の洪水によってかなり破壊を受けている部分もあった。1区の北西部の大部分、2区南東部の一部及び北西部の一部、3区の東半分、8区東側及び南側一部、10区南側一部に流路による遺構面の破壊が見られた。

検出遺構は、掘立柱建物76棟、井戸6基、土坑44基、溝状遺構37条、墓13基、不定形遺構2基であった。掘立柱建物については、方位をほぼ同一にし区画性を持った並びで、主軸方位はおおむね20度東に振れている。柱間は尺を単位としており、4尺（約1.2m）と7尺（約2.1m）が、最も使用頻度が高い。

調査区のうち、2・3区で検出された掘立柱建物と、これ以外の区検出の掘立柱建物については、使用目的が異なることが推定される。2・3区については、墓が伴うのに対し、それ以外の調査区では、墓が伴わないという大きな差異が見られるためである。この差は、時期差ではなく、掘立柱建物の使用目的の違いとして捉えられる。

主軸方位が異なる建物は、時期差と推定されるが、明確な立て替え等は確認できなかった。また、建物にならない小穴が、数多く検出されているが、こちらも本来は掘立柱建物があったと思われる。柱穴からの出土遺物は極端に少なく、この出土遺物による年代特定を実施しても、確実性に欠ける。これは、前述のように基盤が河川堆積層であることと、後世に洪水の被害をかなり受けていることが原因と考えられる。

1. 掘立柱建物

1号掘立柱建物（第12区）

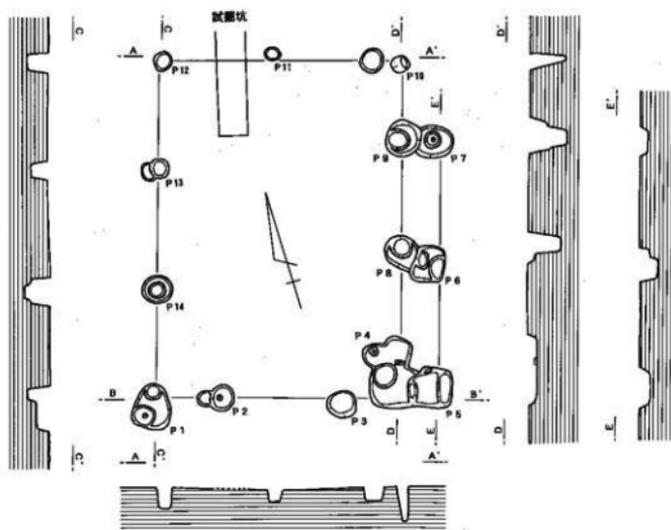
SH1は、3間×2間の建物で、東側に縁柱の施設が付随した掘立柱建物と考えられる。周辺部にSH2が検出されているが、同時期の建物とは考えにくい。また、この建物が検出された周辺部に著しい礫の堆積が確認されており、一時期の流路による破壊をかなり受けていることが推定できる。そのため、この建物とセット関係として捉えられる建物が検出できなかった可能性が高い。建物規模は、5.5×4.5mで、延べ床面積は約8坪である。おそらく納屋のような用途として使用されたと考えるのが妥当ではないだろうか。柱間は、6尺もしくは7尺が混在して使用されている。建物は、東に18度振れている。

出土遺物は、P1から常滑産10形式の摺鉢、P2から古瀬戸後Ⅲ期～Ⅳ期の鉄軸の有耳葺、P3から古瀬戸後Ⅳ期古段階の縁軸小皿、P6から古瀬戸後期の灰軸の器種不明製品の破片が出土している。

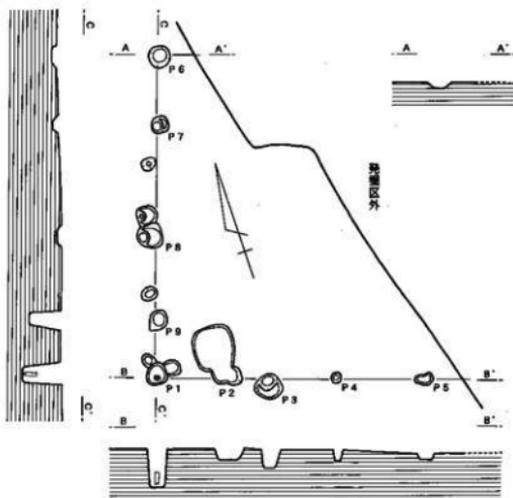
2号掘立柱建物（第13区）

SH2は、3間×3間の掘立柱建物で、張床の可能性も考えられる。東横に位置するSH1とは、時期が異なることが推定されるが、極端な新旧関係まではいえないと思われる。SH1同様に、一時期の流路による破壊を受けているため、確実性に欠けるが立て替えが推定される。このブロックの主たる住居である母屋は確認できないが、母屋に付随する倉庫の用途が考えられる。建物規模は、4.5×4.8mで、延べ床面積は約6.5坪である。柱間は、基本的に5尺・6尺が混在した状況である。建物は、東に34度振れている。

出土遺物は、P9から古瀬戸後Ⅳ期古段階の縁軸小皿が、P11から三ツ沢産の卸目付大皿が出土している。その他、建物内の小穴から志戸呂産の摺鉢、古瀬戸製品が5点、三ツ沢製品が2点、常滑産9型式・10型式の片口鉢、13世紀代の瀬戸産山茶碗類が出土している。また建物内の小穴から「永楽通寶」



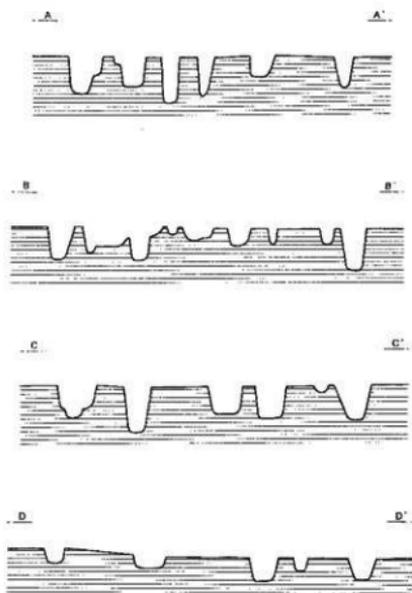
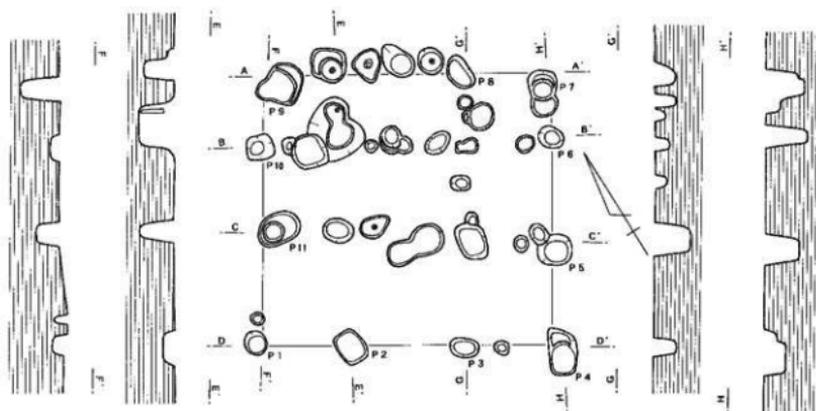
SH 1



SH 6



第12図 SH 1・SH 6実測図



SH 2



第13图 SH 2 实测图

が1枚出土している。

3号掘立柱建物 (第14図)

SH3は、9.1×5.2mの規模で、延べ床面積が約14坪の大型掘立柱建物である。柱穴が非常に多く確認されているため、建物については若干の不安もあるが、おそらく二部屋と廊下もしくは縁を持つ母屋として問題あるまい。立て替えも推定されるが、確実な柱穴は拾いきれない。この建物と軸を同一にして、屋敷墓が二基確認されている。この建物を母屋として、かなり長い時期屋敷地として機能していたことが推定される。セット関係になる建物群は、東側が近世以降の大規模な流路によって破壊を受けていたため、堪忍されていない。また、西側についても流路による破壊で確認できない。建物は、東に18度振れている。

出土遺物は、P6から古瀬戸中I期～II期の縁軸皿、古瀬戸後期の灰軸製品2点が、P12から古瀬戸後IV期古段階の縁軸小皿と古瀬戸後IV期の縁軸小皿、13世紀前半の瀬美・湖西産山茶碗が出土した。また、建物内の小穴から古瀬戸後III期の小鉢、後IV期新段階の摺鉢、15～16世紀代の常滑産の甕または壺の体部が出土している。

4号掘立柱建物 (第15図)

SH4は、1間×2間の小型掘立柱建物で、軽易な倉庫的機能を持つものと考えられる。SH5と重なるため、時期差が推定されるが、新旧を確定するに足る材料はない。柱間は、多少の振れはあるが、7尺で統一された建物として捉えられよう。建物規模は、2.1×4.5mで約3坪である。建物は、東に8度振れている。

出土遺物は、P5から古瀬戸後IV期新段階の摺鉢が出土している。また、建物内の小穴から13世紀前半の瀬美・湖西産の山茶碗が出土している。

5号掘立柱建物 (第15図)

SH5は、2間×3間と推定される掘立柱建物で、倉庫もしくは納屋的機能を持つ建物と思われる。重複して5号墓があるため、墓より古い建物の可能性が高い。南側に位置するSH7とほとんど隣接する形で確認されているが、時期差があると推定できる。建物規模は、2.7×5.2mで、約4坪程の延べ床面積である。柱間は、5尺もしくは6尺と思われる。建物は、東へ24度振れている。柱穴からの出土遺物はない。

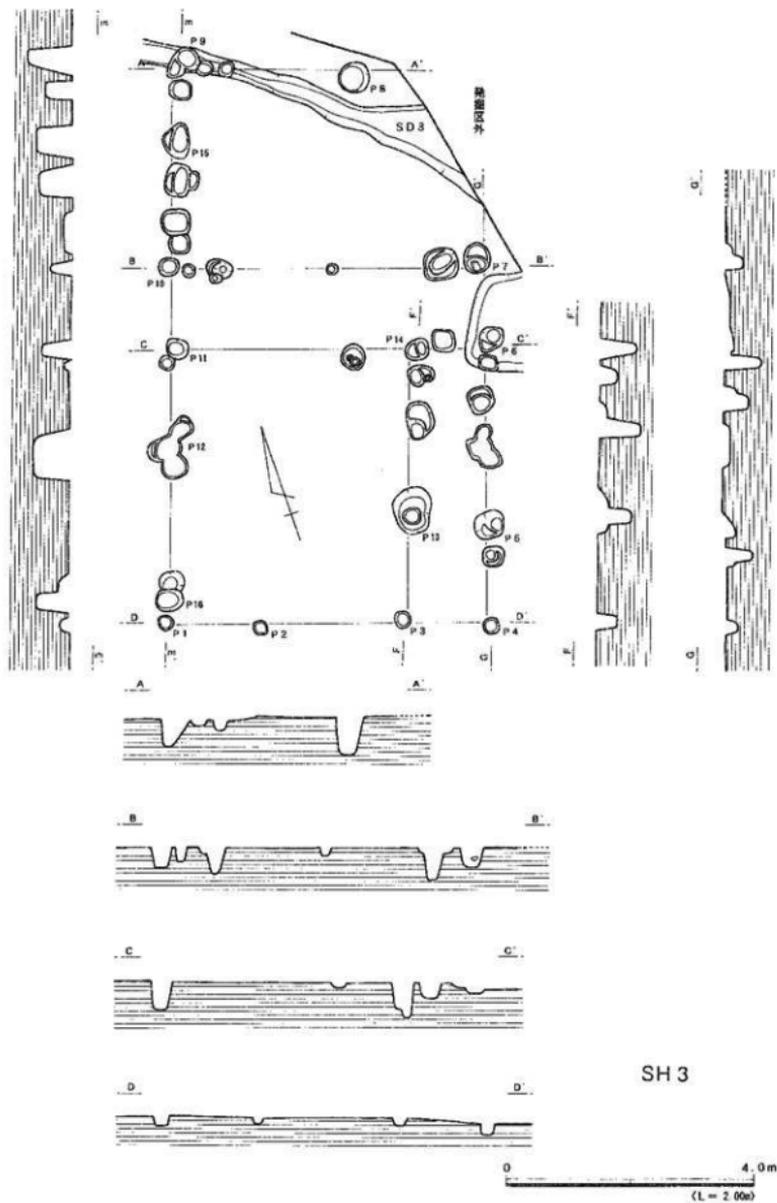
6号掘立柱建物 (第12図)

SH6は、4間×4間以上の掘立柱建物と考えられ、この地区の母屋的存在の建物として捉えることができる。このSH6と南側のSH8を中心にして、3～4軒の建物群によって屋敷地が構成されていたと思われる。少なくとも、1度以上の立て替えが推定できるが、その痕跡は確認できていない。建物規模は、4.5×5.2m以上で、14坪以上の延べ床面積である。建物は、東へ19度振れている。

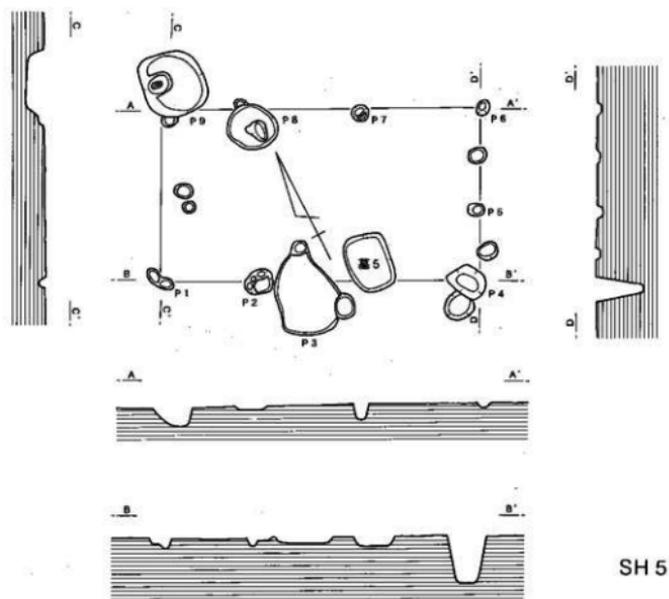
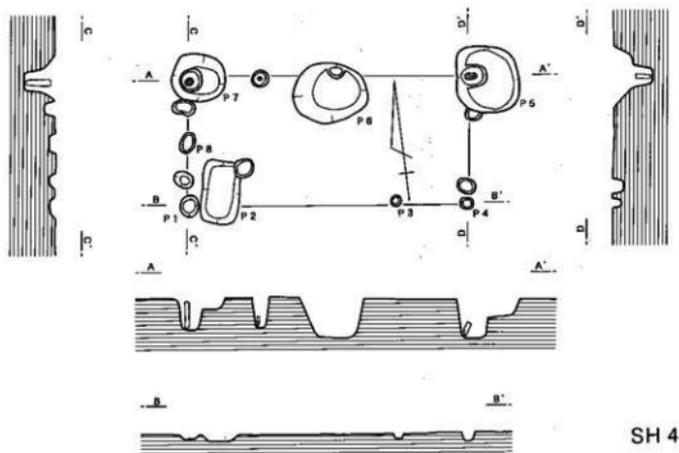
出土遺物は、P8から時期不明の古瀬戸の鉄軸製品が1点出土している。

7号掘立柱建物 (第16図)

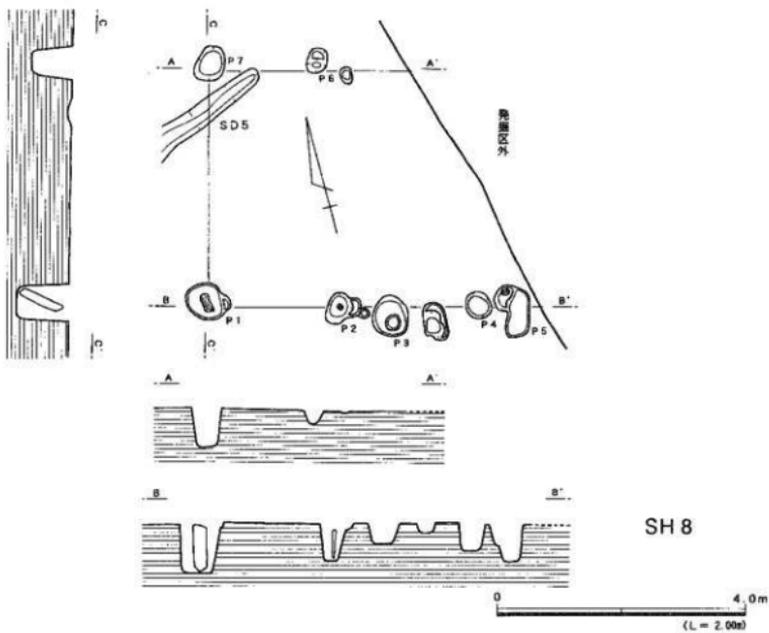
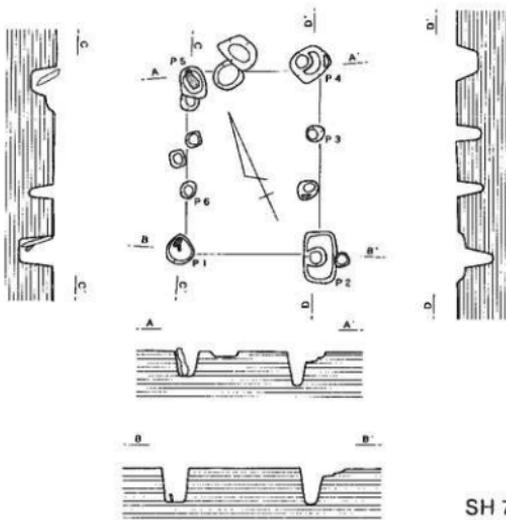
SH7は、SH4同様の1間×2間の小型掘立柱建物で、用途も同様の簡易的倉庫機能を持つ建物と考えられる。SH6、SH8とセット関係に有る建物の可能性が高く、SH4・5・9とは時期差が考えられる。建物規模は、3.0×2.1mで、延べ床面積は約2坪である。柱間は、4・6・7尺を混在させ



第14图 SH3实测图



第15圖 SH 4・SH 5 実測図



第16图 SH 7·SH 8 实测图

て使用している。建物は、東へ19度振れている。

P 1 及び P 5 で、柱根が確認されている。出土遺物はない。

8号掘立柱建物（第16図）

SH 8 は、SH 6 同様、この地区の中心的建物と推定される。1 間×3 間以上の建物と考えられるが SH 6 と接続して 1 軒の建物を構成していた可能性も残されている。中央部で、焼土が確認されたが、建物に伴う焼土が否かを提供する材料は見当らない。建物は、東へ15度振れている。建物規模は、3.9 × 5.2m 以上で、6 坪以上の延べ床面積である。内部に 6 号墓が存在する。6 号墓は火葬墓で、内部に焼土は多いが、骨は極端に少ない。詳しい墓の状況は、墓の項を参照していただきたい。墓は、建物のほぼ中央部に位置しており、建物との前後関係は判然としなない。

P 1、P 2、P 5 で、柱根が確認されたが、遺物は出土していない。

9号掘立柱建物（第17図）

SH 9 は、1 間×1 間の小型掘立柱建物で、SH 4・7 と同様の簡易的倉庫機能を持つ建物が推定される。この地区の建物群の一つであることは間違いないが、时期的問題として、他のどの掘立柱建物とセット関係を持つかは不明である。建物規模は、2.4×3.0m で、約 2 坪と SH 7 と同規模である。建物は、東へ15度振れている。出土遺物は、確認されていない。

10号掘立柱建物（第17図）

中心建物の SH 6・8 の南側に位置する、1 間×1 間の小型掘立柱建物である。機能としては、他の小型掘立柱建物同様と推定される。建物規模は、3.9×2.1m で、約 2.5 坪の広さである。建物は、中心建物と軸を同じく東へ16度振れており、セットと考えることも可能である。周辺部に位置する溝とも平行的位置関係にあることから、溝と同時期と考えられる。遺物は、出土していない。

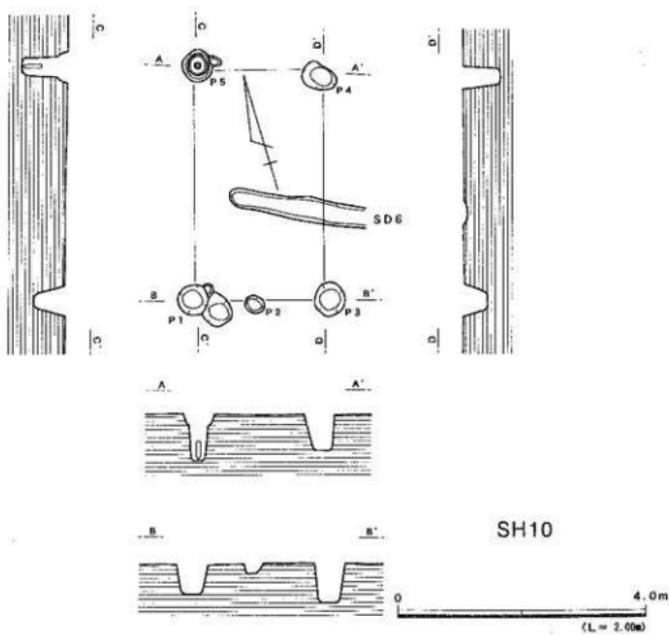
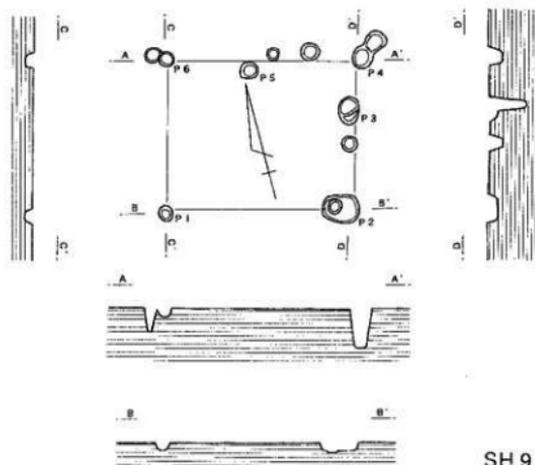
11号掘立柱建物（第18図）

SH 10 と軸を同じくして、真東に位置する 2 間×2 間の掘立柱建物である。機能も同様の簡易倉庫として捉えられる。建物規模は、3.3×3.0m で、約 3 坪の広さを持つ。可能性として、SH 10 と連続する建物も考えられる。建物南側上層を流れる SD 35 よりは、新しい時期の掘立柱建物であることは確実だが、この溝からの遺物の出土が無いため、年代を押さえることは出来ない。SD 2・3 との関係は、推定の域はでないが、同時期として考えたい。P 8 から、14 枚の貨幣が出土している他は、遺物は出土していない。貨幣の種類は、治平元寶 2 枚、元豐通寶 3 枚、景祐通寶、景德通寶、聖宋通寶、至道元寶、聖宋元寶、皇宋通寶、元祐通寶、天聖元寶、不明が各 1 枚であった。

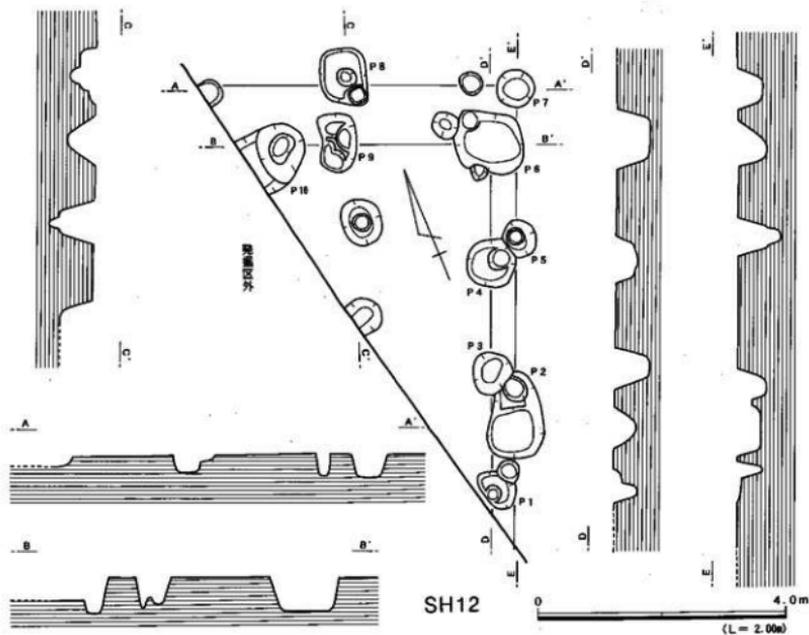
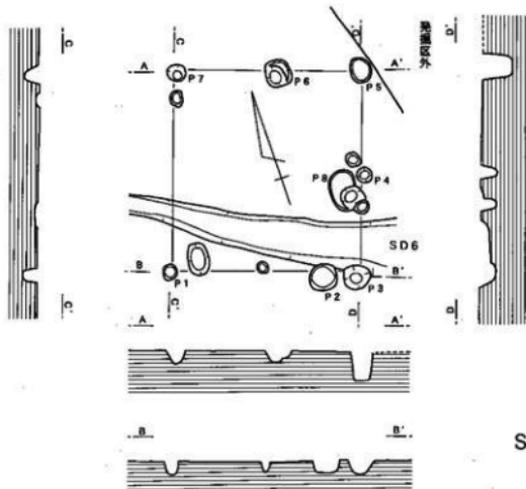
12号掘立柱建物（第18図）

四周を溝（SD 2・3・4）に囲まれた屋敷地の母屋と推定される。3 間以上×4 間以上の大型掘立柱建物で、入母屋造りの屋根を持つ建物の可能性が高い。建物は 20 坪以上で、さらに西側に広がっていることが確実だが、発掘区を外れるため規模は確定できない。SH 13・15 とセット関係になる可能性が高く、およそ 5 軒程度で一単位を形成していたと思われる。SH 14 の南に位置する墓が、この屋敷地の屋敷墓と推定される。SH 15 東の墓は、軸がずれることから、若干の年代差が考えられる。柱間は、7 尺と 8 尺を単位としている。主軸は、東へ 23 度振れている。

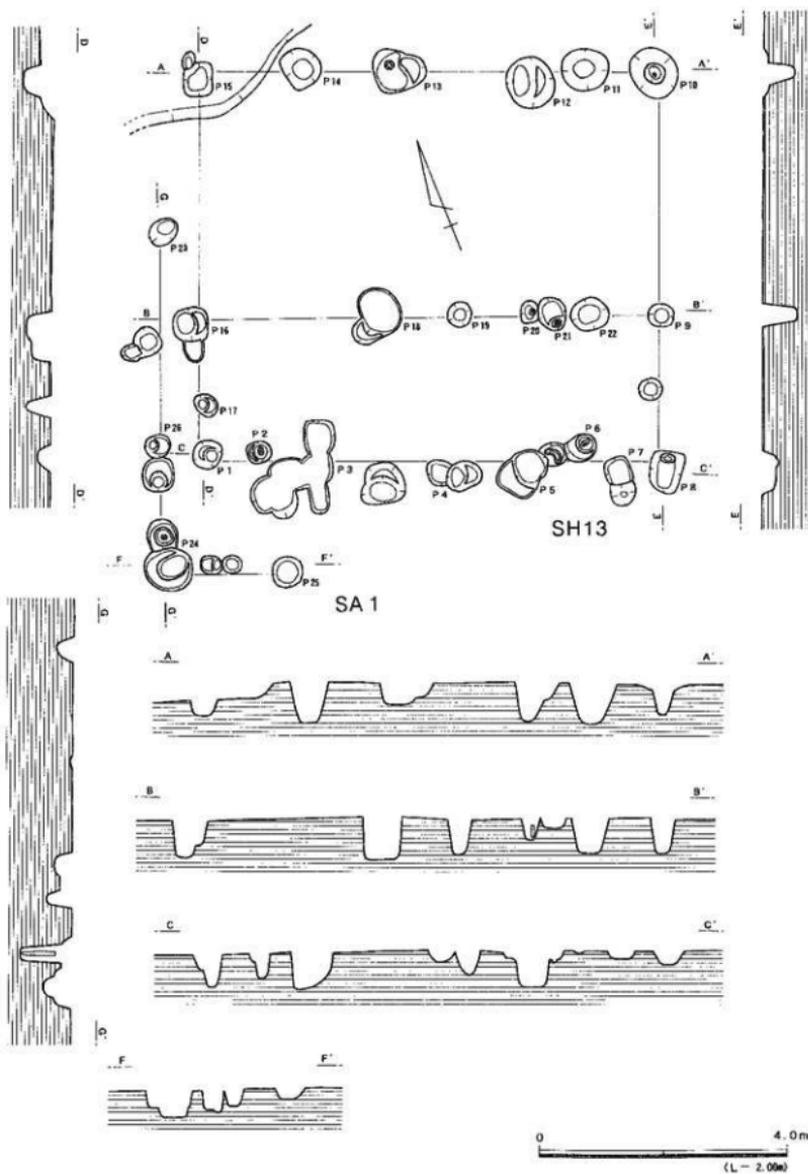
出土遺物は、P 2 から常滑産 5 型式片口鉢 1 類、古瀬戸後Ⅲ期の緑釉皿が、P 4 から三ツ沢産の天目



第17图 SH9·SH10 实测图



第18图 SH11·SH12 实测图



第19图 SH13·SA1 实测图

茶碗、P6から常滑産6a型式の山茶碗が、P8から同5型式の山茶碗が出土している。また、P4から政和通寶が出土している。その他、建物内の小穴から常滑産5型式の山茶碗、12世紀中ごろの渥美・湖西産の山茶碗が出土している。

13号掘立柱建物（第19図）

SH12とセット関係にある掘立柱建物で、建物東南部に櫓（SA1）を伴っている。6.4×7.6mの規模で、約15坪の広さを持つ。建物中央部やや南に間柱を建てたと推定される柱穴が確認されており、張床構造で部屋割りをしていたか、縁もしくは庇付きであった可能性も考えられる。立て替えも推定されるが、確実な柱穴を絞り込むことはできない。主軸は、東へ約22度振れている。

出土遺物は少なく、柱根がP2・10・20・21で、それぞれ確認されている。また、P5から瀬戸産7もしくは8型式の山茶碗口縁部の破片が、P15から常滑産5型式の山茶碗が、P16から古瀬戸後期の灰釉製品が出土している。その他建物内の小穴から遺物がかなり確認されており、最も新しい時期にあたるのは瀬戸産大窯2もしくは3期にあたる徳利である。

この建物に関連すると推定される櫓（SA1）が、建物に西から南側一部に廻っている。この櫓に関連するP24から、瀬戸産7もしくは8型式の山茶碗が、P25から12世紀後半の渥美産の甕の体部が出土している。

14号掘立柱建物（第20図）

SH12・13とセット関係が推定される、2間×2間の小型掘立柱建物である。元島遺跡によく見られる柱間で、間柱が中央部からずれている。南北列が4尺・7尺で、東西列が5尺・7尺である。3.5坪程度なので、物入れ小屋が推定できる。主軸は、東へ19度程振れている。

出土遺物は、P2から古瀬戸後ⅢもしくはⅣ期の縁軸小皿が出土している。その他、建物内の小穴から、常滑産5型式の山茶碗が出土している。

15号掘立柱建物（第20図）

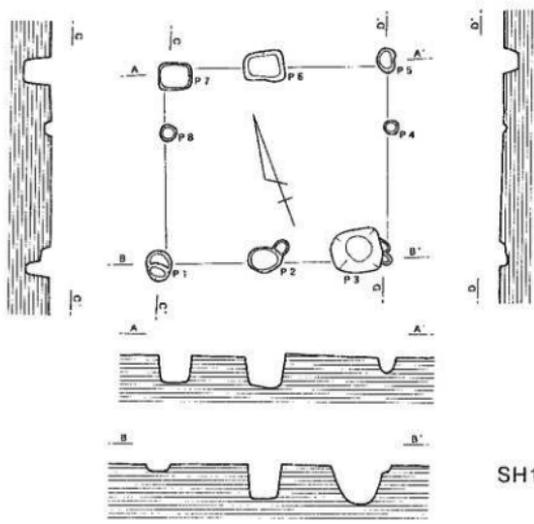
SH12の東側、同13の南側に位置する掘立柱建物であるが、建物全域にわたって近代の井戸が設けられていた。そのため建物中央部の柱穴は確認されなかった。建物規模は、4.8×6.1mで、約9坪の広さを持つ。おそらくSH12と一連の建物で、納屋等の機能が推定できる。東側に位置するSH16との関係は不明であるが、時期差と推定できる。主軸は、東へ約17度振れている。

遺物は、P2から12世紀前半の渥美・湖西産山茶碗が出土している。

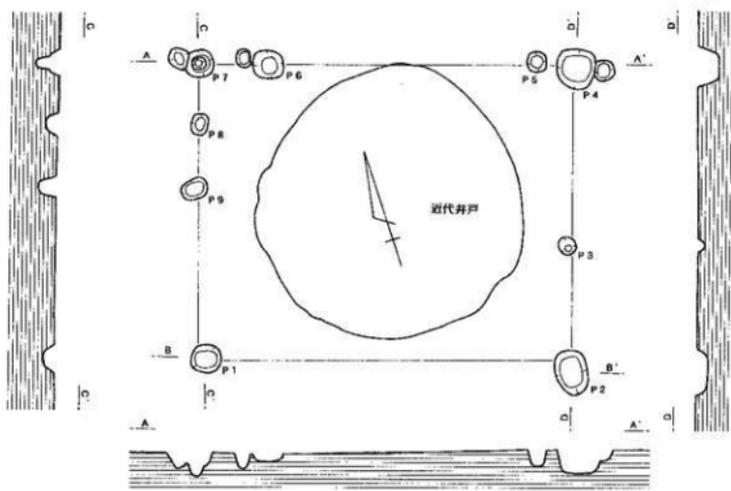
16号掘立柱建物（第21図）

SH12等と同一区画内の建物であるが、他の4軒と主軸を異にするため、時期差が推定される。南に確認された墓とは、ほぼ同一の軸関係にあるため、この区画内に少なくとも1回の立て替えが想定される。2間×4間の掘立柱建物と思われるが、東西方向の柱穴列に若干の不確かさが残る。5尺、7尺が基準と思われるが、ばらつきも多い。建物規模は、3.6×6.1mで約7坪である。この建物とセット関係にある建物が不明なため、その機能は判然としなが、納屋的なものを想定したい。主軸は東へ12度振れている。

出土遺物は、P10から古瀬戸後Ⅳ期古段階の縁軸小皿が出土している。



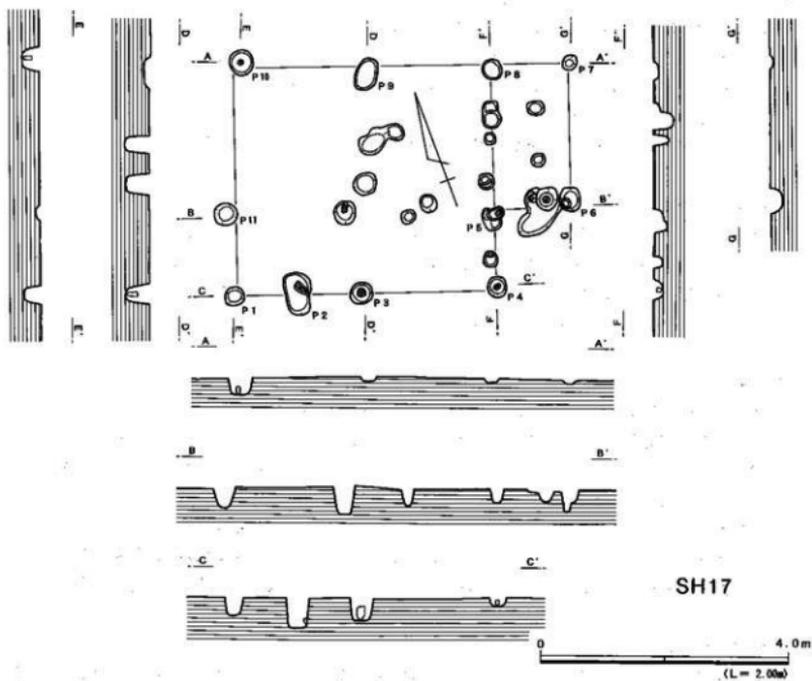
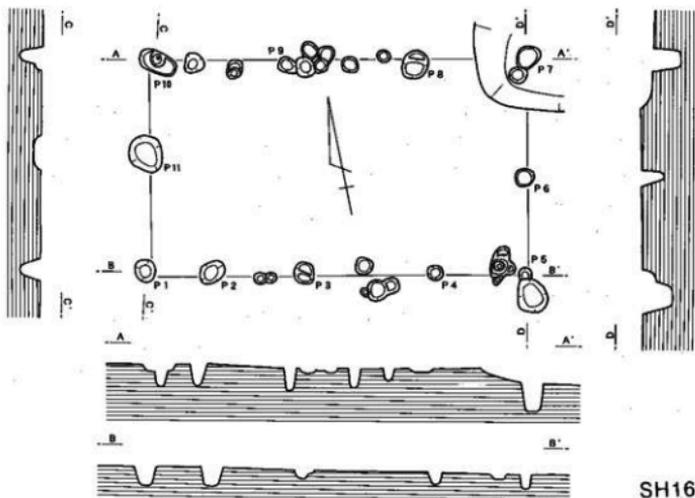
SH14



SH15



第20図 SH14・SH15 実測図



第21图 SH16·SH17 实测图

17号掘立柱建物（第21図）

方形の溝SD3に囲まれた掘立柱建物で、他の掘立柱建物とまったく別の機能が推定される。柱穴はこの区画内で多数検出されたが、建物として認定できたのは一棟だけである。建物は、2間×2間で、東側に小さな付属施設が見られる。規模は約6.5坪で、主軸は東へ17度振れている。方形の溝を渡る施設は確認されなかったため、入り口等は不明である。この建物が、屋敷地の単位に組み込まれたものか、それとも集落の中で共同利用されたものかについての資料は見当たらない。

P2・3・5・10で、柱根が検出されたが、土器等の遺物は出土していない。

18号掘立柱建物（第22図）

方形区画SD3の南に位置する掘立柱建物であるが、南東部が近代井戸により破壊されている。そのため、確実な建物規模等をつかむに無理があった。3間×3間で、約9坪の建物が想定できたが、他の可能性も十分考えられる。セット関係等は不明で、この掘立柱建物を区画するようなコ字型の溝との関係もつかみきれない。遺物の出土も見られない。

19号掘立柱建物（第22図）

元島集落を区画する溝と推定できる、SD8の北側を占める屋敷地に配置された建物の一つと推定される。他の周辺建物と主軸が異なるため、おそらく時期差があったことが伺える。建物内部を通過するSD36よりは、新しい建物であるが、確実に時期を限定するに足る資料は確認されていない。建物は1間×2間の小型掘立柱建物で、約4坪程度の規模である。

出土遺物は、P3の西に位置する小穴で、常滑産5型式の山茶碗が出土している。この遺物は、混ざり込みの可能性が高いので、時期決定の資料にあたらぬと考える。また、P7から貨幣が5枚出土している。内訳は、元豊通寶2枚、永來通寶、洪武通寶、嘉祐通寶が各1枚である。

20号掘立柱建物（第23図）

1間×1間の小型掘立柱建物で、倉庫もしくは納屋の機能を持った建物と推定できる。約3坪と規模は小さいが、柱穴は幅約20cm・深さ約50cmとかなりしっかりしている。この建物の南側に、井戸が確認されており、井戸との関連も推定することができる。主軸は、東へ21度振れている。

P3から木製品が出土しているが、土器等の出土はない。

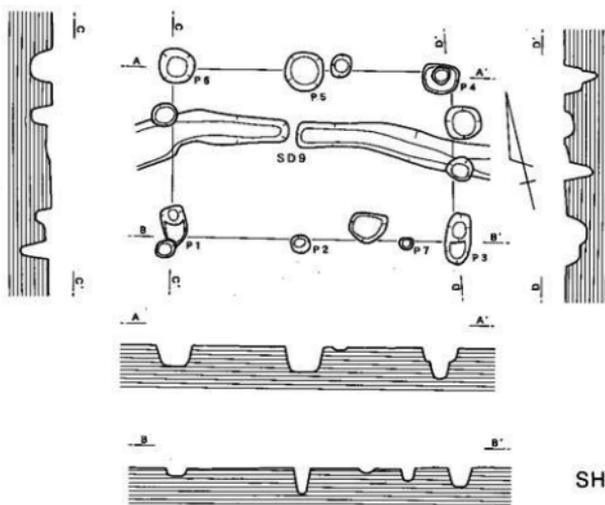
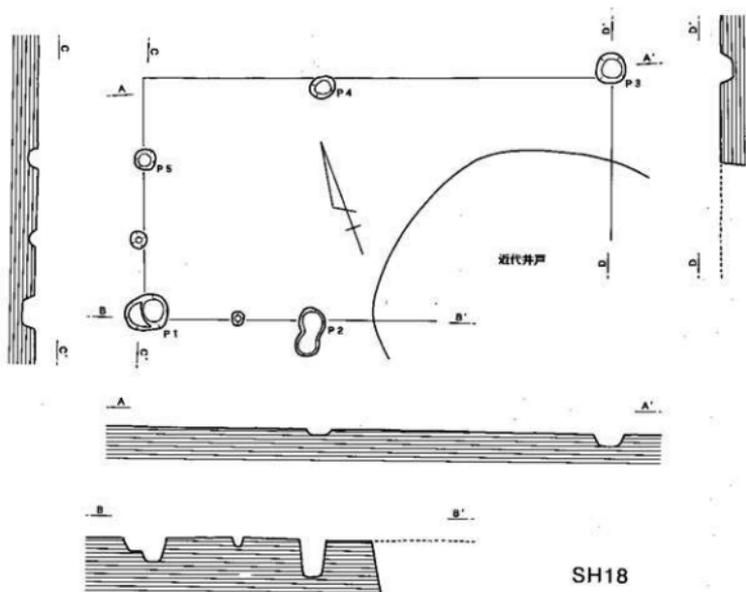
21号掘立柱建物（第24図）

この区画の母屋と推定される大型掘立柱建物で、西側に入り口と縁が附設されていたと思われる。柱穴が極端に多く確認されているため、立て替えや間柱が想定されるが、確実な押さえができなかった。建物は、3間×4間で約20坪と大きく、さらに南に位置するSH24と併せて1棟の可能性も残されている。柱間は、7尺を基本単位としていたと推定され、掘り方も幅約50cm・深さ約70cm程の柱穴が多い。このSH21を中心とした屋敷地が、元島集落の南限の推定され、南側に建物群は見られない。

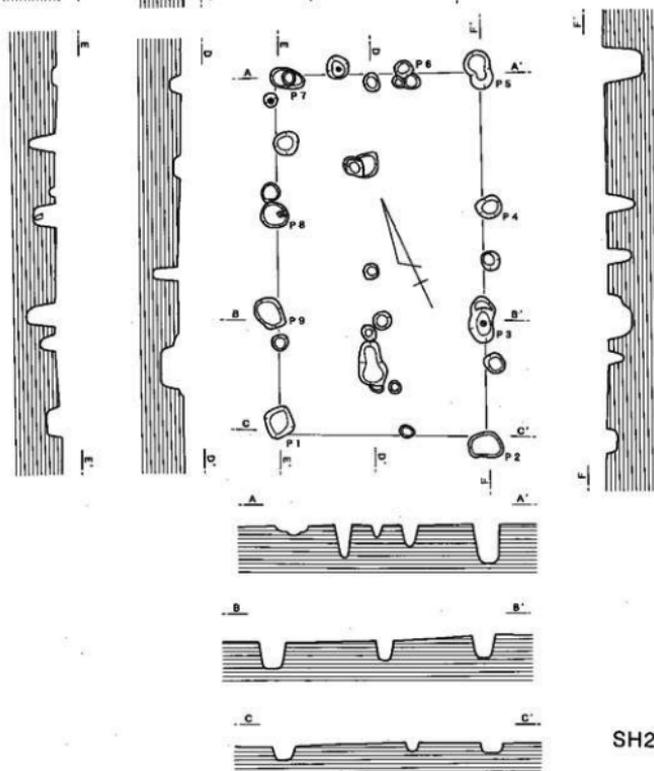
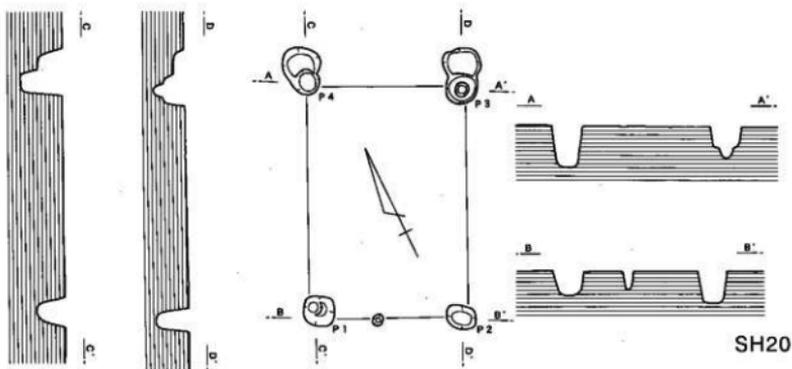
出土遺物は、P2から瀬戸・美濃産大窯1期の摺鉢、P11から15～16世紀代の常滑製品が出土している。その他、建物内の小穴から、三ツ沢製品の縁軸小皿、15～16世紀代の常滑製品が確認された。

22号掘立柱建物（第23図）

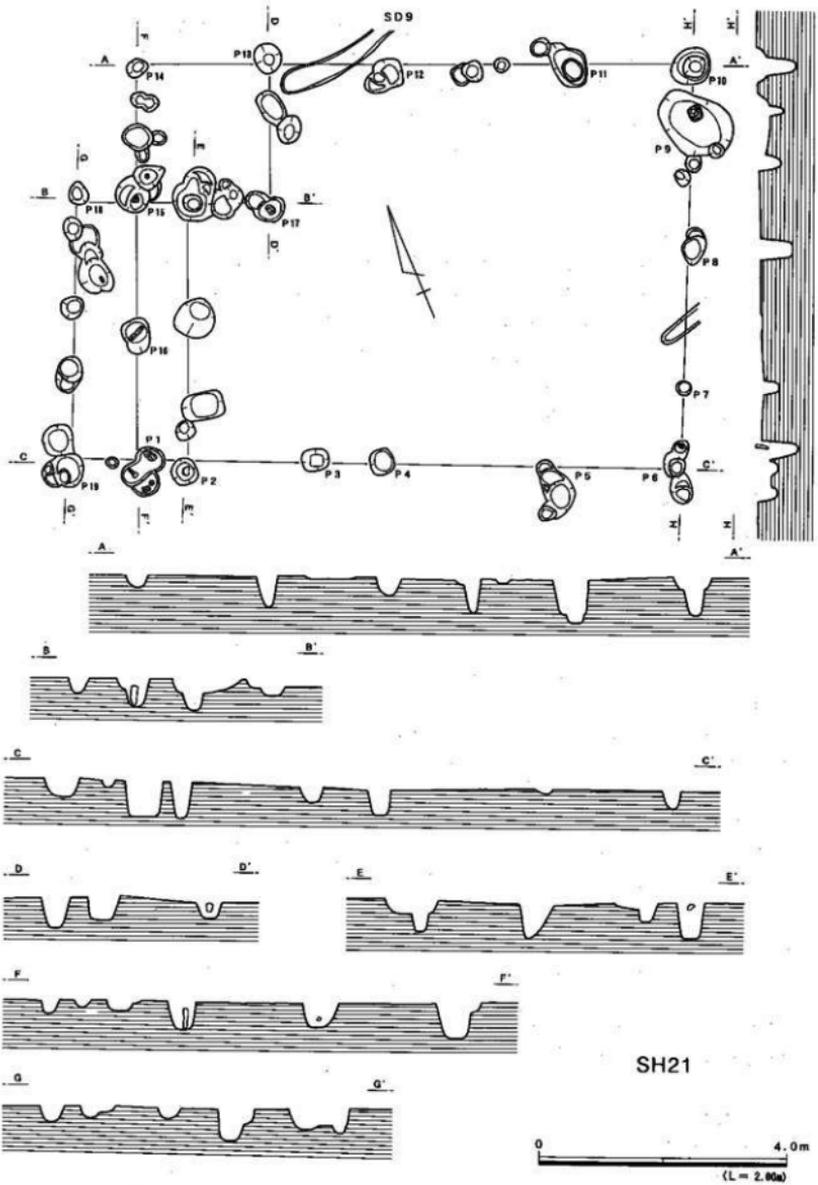
SH21の東に隣接して確認された3間×2間の掘立柱建物である。この屋敷地内の他の建物群より、主軸が4度東に触れており、時期差が考えられる。SH25とは、ほぼ主軸をあわせているため、この2



第22図 SH18・SH19 実測図



第23图 SH20 · SH22 实测图



第24图 SH21 实测图

棟のセット関係は可能性が高い。おそらく、他の建物群も軸を同一にして展開していたと思われるが、現段階ではこのセット関係を見いだすに至っていない。建物規模は、約6坪と小型であるが、P3とP9をつなぐラインで、部屋割りをしていった可能性も高い。この建物が廃絶した後、11号墓が設けられており、この墓は、元島で唯一の曲物の棺であった。

P3・8から柱根が検出されたが、土器等は出土していない。建物内の小穴からは、常滑産6a型式の片口鉢が出土している。

23号掘立柱建物（第25図）

SH21とセット関係にあると考えられる大型掘立柱建物である。9尺もしくは10尺を基本とする2間×2間の建物で、総柱の可能性もある。母屋に付随するなんらかの施設と推定され、規模は約12坪の広さで、P4・P8・P7により二間に仕切られていたことも考えられる。建物内部の東側を南北に貫く溝との新旧関係はつかめていない。主軸は、東へ約26度振れている。

柱穴からの出土遺物で、時期決定が可能なものは1点で、P4から古瀬戸後Ⅲ期の直縁大皿だけである。その他の遺物は、木片等であった。建物内の小穴からは、古瀬戸後ⅠかⅡ期の整類、古瀬戸後Ⅲ期の直縁大皿が出土している。

24号掘立柱建物（第26図）

SH21の南側に軸を同じにして検出された3軒×3軒と推定される掘立柱建物である。建物東北隅に1間四方の張り出しが確認されている。おそらく、入り口の施設になると思われるが、土間等の痕跡は確認されていない。また、P5・P14・P12を境に、南北に二間構造という可能性も高い。機能としては母屋を補完するものが考えられる。建物南を東西に区切るSD7よりは新しい建物であるが、時期差を確定できる資料は出土していない。6尺、7尺を基本としているが、ばらつきも見られる。建物規模は約13坪であるが、SH21と連結して、同一建物を形成していた可能性もある。

柱根は、P5・P7・P9・P10で検出された。遺物は、P12から古瀬戸後期の灰輪製品が出土している。その他の建物内の小穴から、常滑産15～16世紀代の壺もしくは甕の体部、古瀬戸後Ⅳ期の縁軸小皿が確認された。また、建物内の小穴から照寧元寶が2枚出土している。

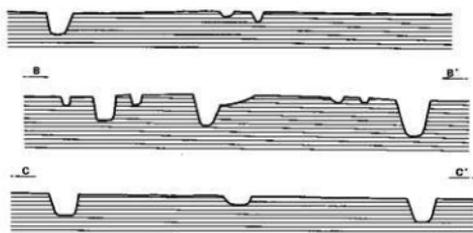
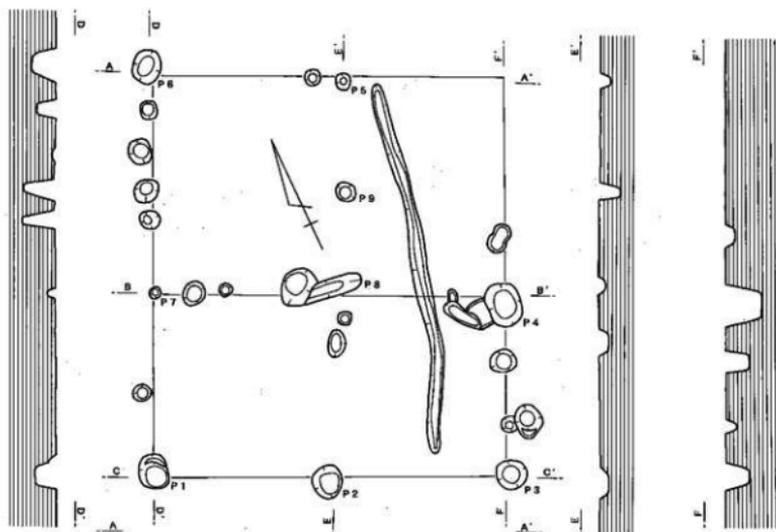
25号掘立柱建物（第26図）

SH24と26に挟まれた掘立柱建物で、約6坪の規模である。建物北側の東西溝SD6より建物は新しいが、重複柱穴で溝より古いものも含まれる。そのため、立て替えや時期差が考えられるが、確定する資料は得られていない。北と南に位置する建物と比較して、主軸が異なることから、これらの建物とのセット関係は考えにくい。主軸を同一にするSH22とは、同一グループとして捉えて問題はないと思われる。南北方向の柱間は、西側が北から4尺、6尺に対して東側はまったく逆の6尺、4尺である。この左右逆になる柱間は、元島遺跡の掘立柱建物でよく見られる特徴の一つである。

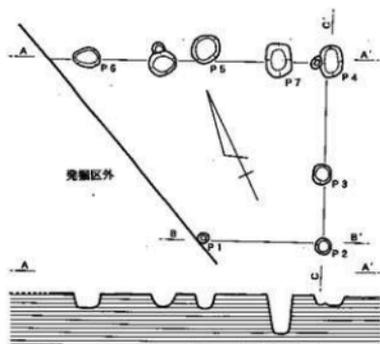
出土遺物としては、P2から古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿、平輪がある。その他、建物内の小穴から三ツ沢産縁軸小皿と常滑産15～16世紀代の壺もしくは甕の体部が出土している。

26号掘立柱建物（第27図）

東側に隣接するSH27とセットで納屋的機能を持つ掘立柱建物と推定される。柱穴の多さから入母屋作りも考えられるが、確定できるまでの柱穴列は確認できなかった。3間×4間で、建物規模は約15坪である。P2とP12を結ぶラインとP4とP11を結ぶラインで、柱が通る可能性もある。隣接するSH



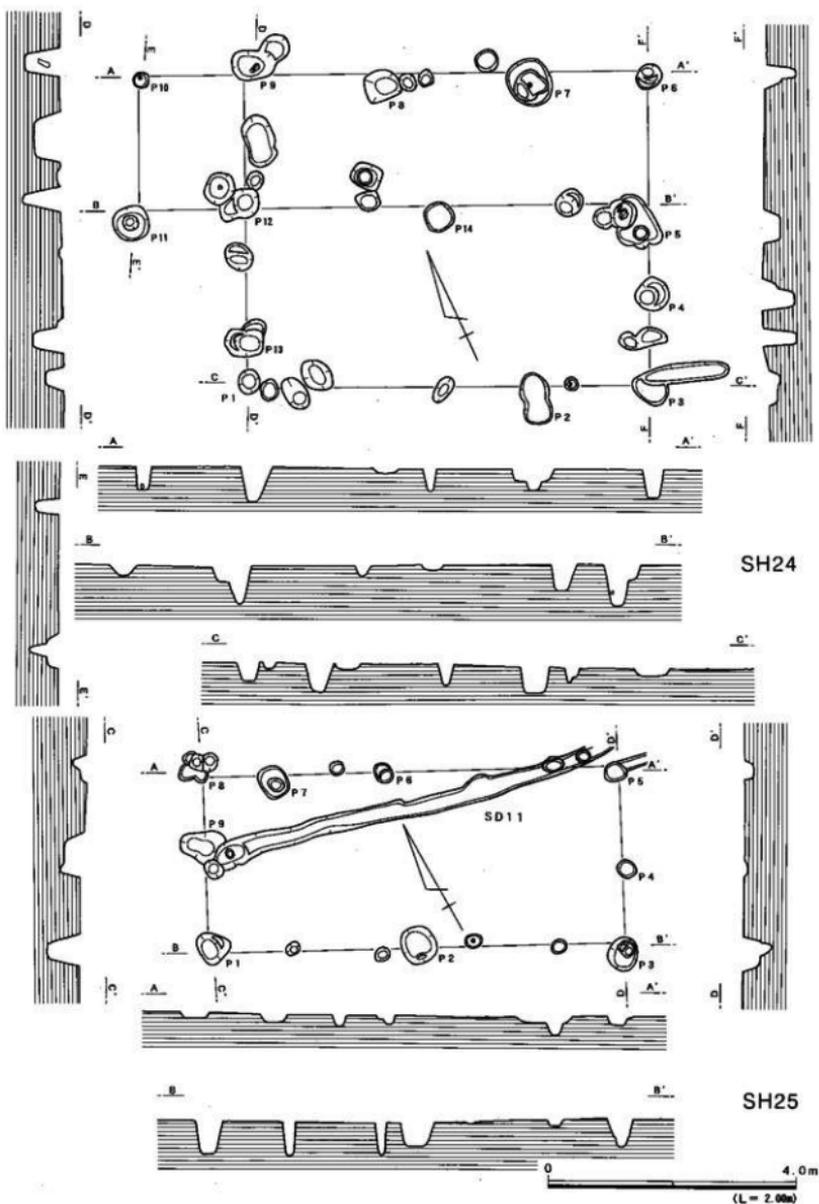
SH23



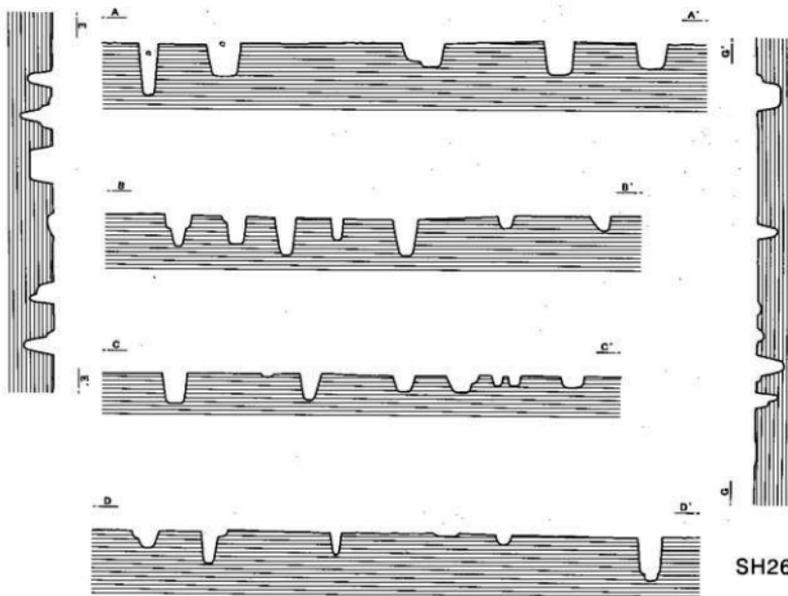
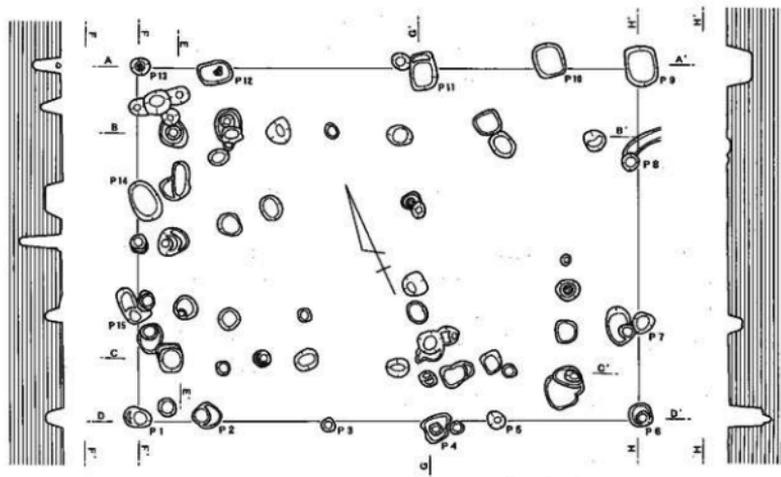
SH28



第25图 SH23・SH28 实测图



第26图 SH24·SH25 实测图



0 4.0m
(L = 2.00m)

第27图 SH26 实测图

27との関係は不明だが、ほぼ同時期に機能していたと考えられる。

出土遺物は、P5から常滑産9型式の片口鉢、P6から瀬戸・美濃産大窯1もしくは2期の端反皿が丸皿が出土している。その他、建物内の小穴から古瀬戸後Ⅲ期からⅣ期に比定される緑釉小皿類や、三ツ沢製品が出土している。

27号掘立柱建物（第28図）

東側に隣接するSH26とセットで納屋的機能を持つ掘立柱建物と推定される。SH26より一回り大きく約18坪である。建物南側に縁もしくは庇が推定され、さらにP16とP17を結ぶ立て替え建物も想定できるが、確実な建物検出に至っていない。柱根は多く検出され、この建物に伴うと推定されるものは10本である。最も大きい柱根は、P7とP8の間で検出されたもので、長さ約60cm・径約20cmであった。建物内部を北から西に抜けるSD7との時期差は確認できていない。

柱穴からの出土遺物は、P1から出土した治平元寶1枚のみで、他の遺物はない。建物内の小穴からは、古瀬戸後Ⅲ期の折縁深皿と、同後Ⅳ期古段階の緑釉小皿、常滑産13世紀代の壺もしくは甕の体部が確認されている。また、熙寧元寶1枚が出土している。

28号掘立柱建物（第25図）

発掘区外へ延びる2間×3間以上の掘立柱建物である。南北の柱間がSH25と同一であるため、同様の建物と推定される。この屋敷地を区画する中で、最も南端にあるため、簡易的倉庫が考えられる。建物の東横には、ゴミ穴と推定される土坑が3基検出されている。遺物は、出土していない。

29号掘立柱建物（第29図）

9区の北側で検出された掘立柱建物で、発掘区外東側へ延びている。建物規模は3間×2間以上で、6尺もしくは7尺を基準にしている。9区周辺は、元島遺跡で唯一鎌倉時代の遺構面までが残る箇所ですが柱穴等がかなり重複して検出されている。関連柱穴からの遺物の出土はないが、建物内の小穴から古瀬戸後Ⅱ期の卸皿、同後ⅢもしくはⅣ期の緑釉小皿が出土している。

30号掘立柱建物（第29図）

SH29に隣接して確認された掘立柱建物であるが、主軸方位が大きく異なっている。2区で検出された建物より、8区で検出された建物の主軸に近い。3間以上×3間の建物であるが、南側を大型土坑SF15で破壊されていた。

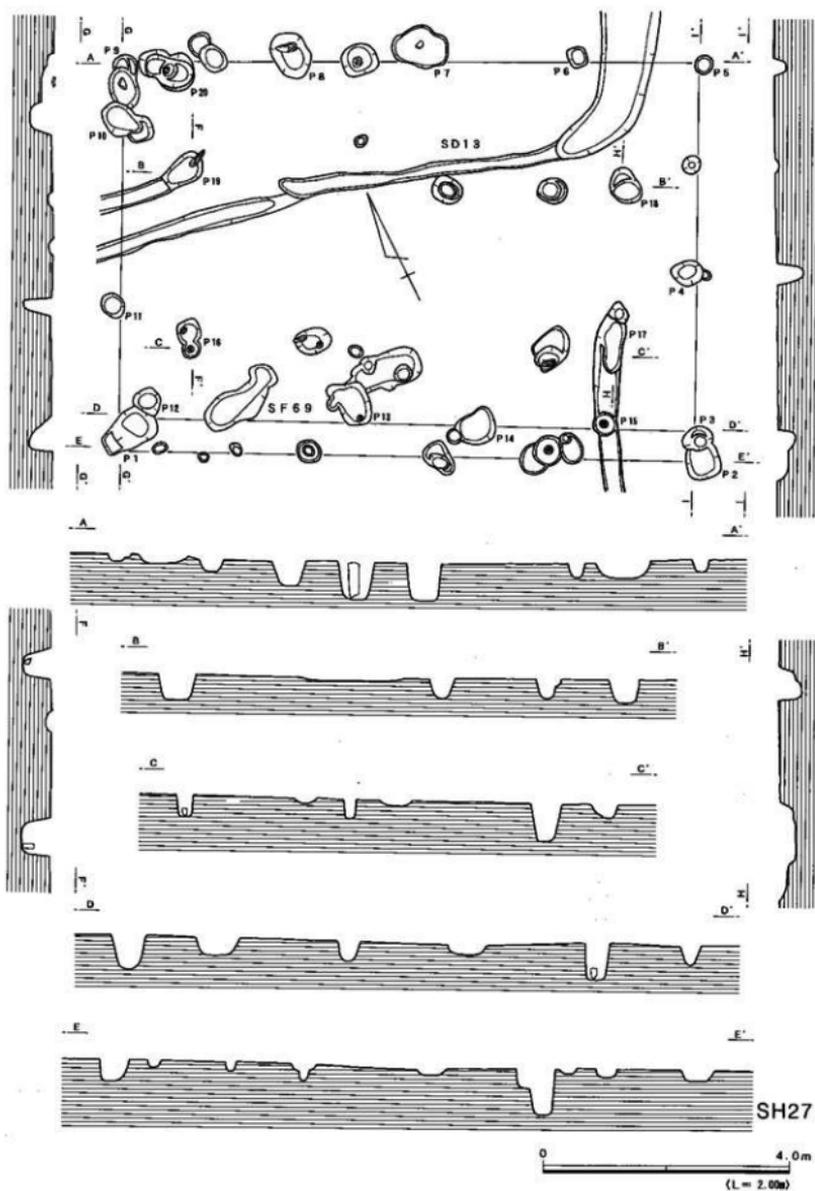
柱根は2箇所検出され、遺物はP3から古瀬戸後Ⅱ期の卸皿が出土している。また、建物内の小穴から永楽通寶が1枚出土している。

31号掘立柱建物（第30図）

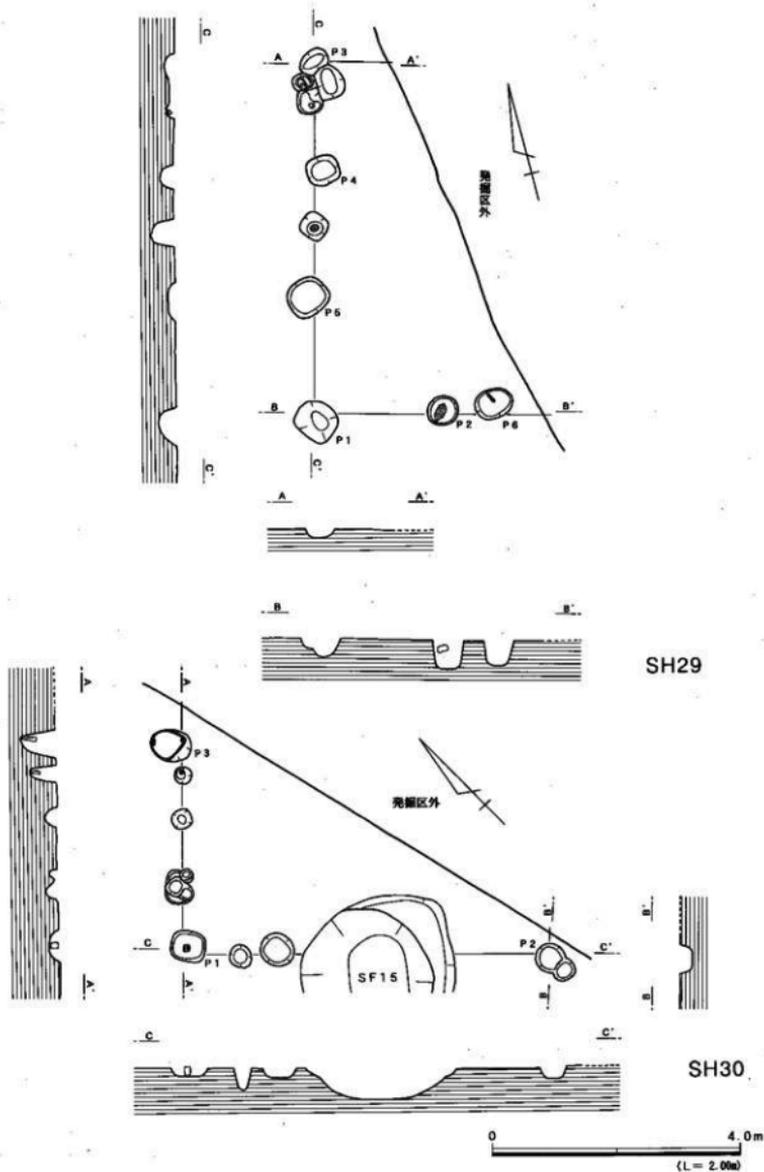
建物の南東側が調査区外に出るため、全容が明らかとなっていない。柱穴も大型で径1mを超えるものもあった。建物は、2間以上×3間で、6尺を基本としている。現状で見る限り、北側部分に縁もしくは、庇が想定できるが、確定できない。規模は、約5坪以上で、主軸は東に38度振れている。建物北東部分は、近代の洪水もしくは流路によって攪乱されており、遺物も出土していない。

32号掘立柱建物（第30図）

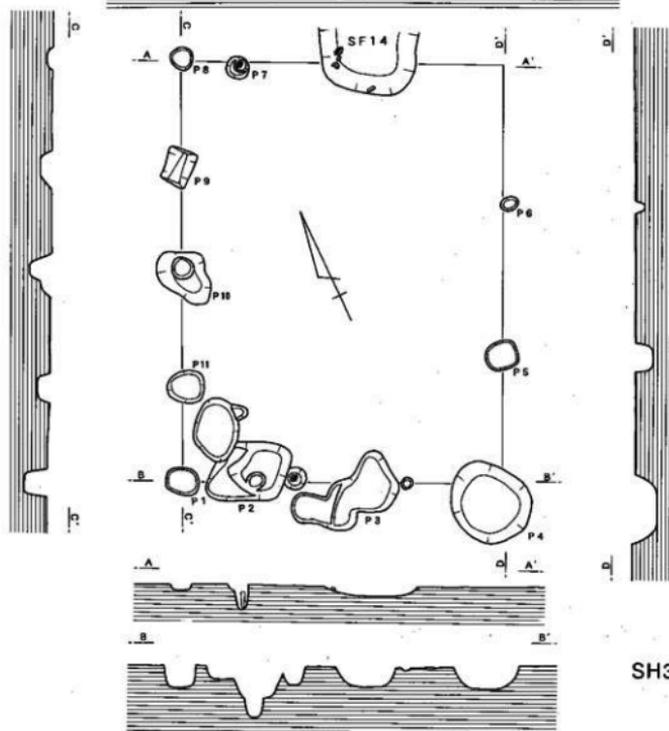
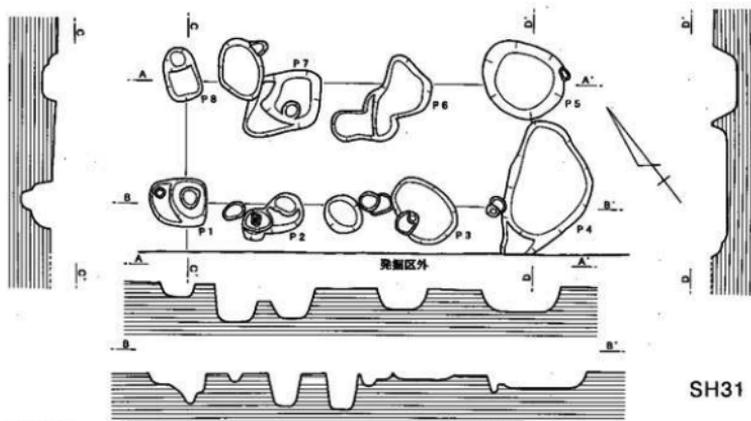
2間×3間の掘立柱建物で、約10坪の規模を持つ。柱間は、8尺を基本としている。SH31と重複し



第28圖 SH27 実測圖



第29图 SH29·SH30 实测图



0 4.0m
(L = 2.0m)

第30图 SH31・SH32 实测图

ていることから、時期差が推定されるが、確定できる遺物は見られない。主軸から見る限り、南方のSH1と軸がそろわうため、同時期と考えたい。周辺では、SH34もほぼ同時期と推定される。P2及びP7で柱根が検出されている。SF14によって、柱穴が破壊されていると推定されることから、建物の廃棄後に土坑が掘られたことが想定されよう。

建物に伴う柱穴からの遺物の出土は見られないが、建物内の小穴から瀬戸・美濃産大窯1期の天目茶碗が出土している。

33号掘立柱建物（第31図）

2間×2間の掘立柱建物だが、柱間に統一が見られない。8尺もしくは9尺と推定できる。主軸は、SH31とほぼ同軸となるため、同時期の建物と推定できる。建物北上に、井戸が確認されており、井戸に伴う倉庫的機能を持つことが想定される。建物規模は、約8坪である。

遺物は、P5から志戸呂産摺鉢が、P1・P6から柱根が検出されている。

34号掘立柱建物（第31図）

3間以上×2間以上の掘立柱建物で、6尺を基本として柱穴が確認された。建物は、調査区外へと展開しているため、その全容は判明していないが、6坪以上の規模である。主軸は、東へ22度振れておりSH32と軸をあわせている。柱穴は、建物南側の溝より新しく、溝が埋まった後に建てられたことが判明している。

35号掘立柱建物（第32図）

1間×1間の小型掘立柱建物と推定されるが、物干しのような機能を持つ上屋も想定される。南北の幅2尺、東西幅8尺であるため、建物とするには狭すぎる。屋敷地と推定される区域から、少し離れた場所に、1棟だけのため、漁撈用の網等を掛けた物干しとするのが妥当かもしれない。

36号掘立柱建物（第33図）

1間×1間の小型掘立柱建物で、倉庫的機能を持つものと推定される。柱間は、8尺で統一されており、北側のP3とP4の間の柱穴2穴が、扉の可能性がある。区画溝SD13、SD15と軸もあうため、同時期に機能した建物と思われる。建物南側を東西に流れるSR8は、近世もしくは近代の流路で、これによって遺構面が削平を受けている。建物規模は、約2坪である。

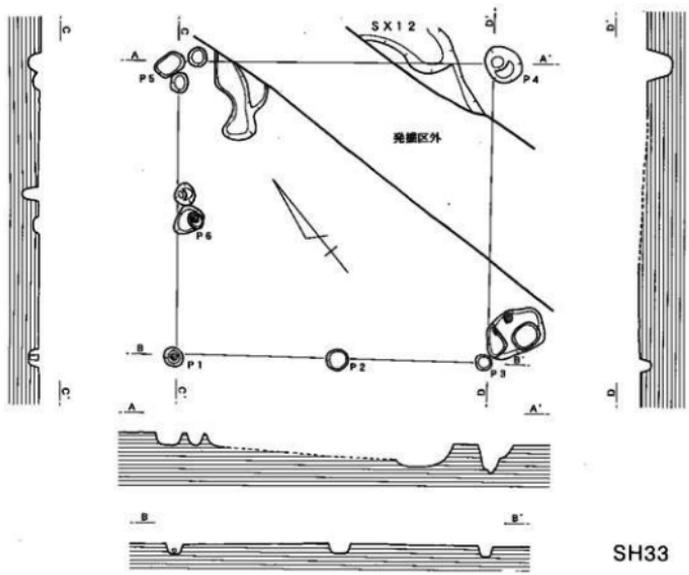
P4から、古瀬戸後Ⅲ期の緑釉小皿、古瀬戸後期の灰釉製品、常滑産15～16世紀代の壺もしくは甕の体部が出土している。また、建物内の小穴からも常滑産15～16世紀代の壺もしくは甕の体部が確認されている。

37号掘立柱建物（第33図）

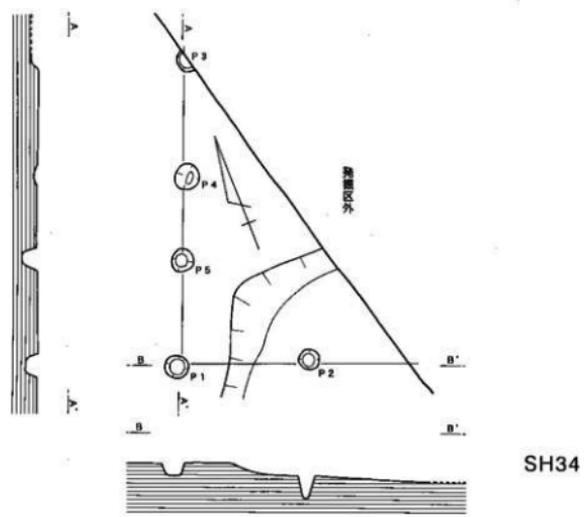
SH36とほぼ同規模の小型掘立柱建物で、機能も同様の倉庫と推定される。SH36は、8尺で統一されていたが、SH37は南北間を9尺としている。建物東側のP2の北に位置する柱穴が入口と思われ、この入口を設けるために、柱間にずれが出来た可能性が考えられる。遺物の出土は見られないが、SH36と同時期の建物と思われる。

38号掘立柱建物（第33図）

2間×2間の掘立柱建物で、納屋的機能を持った建物と推定される。建物規模は、約5坪でP5とP8



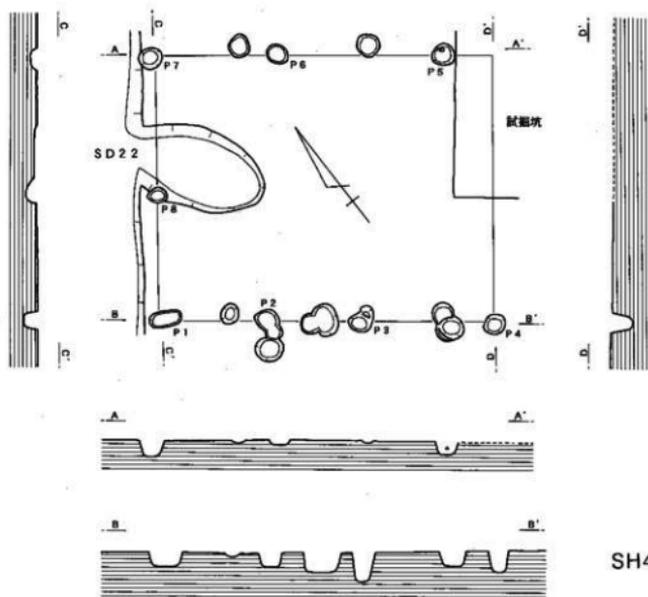
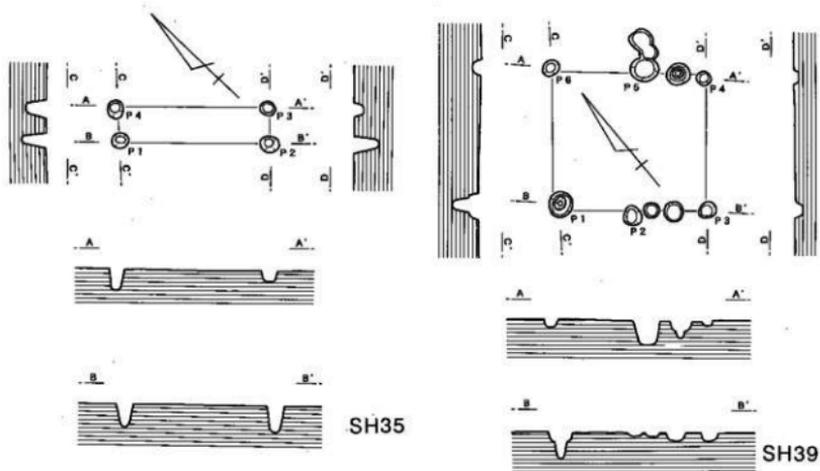
SH33



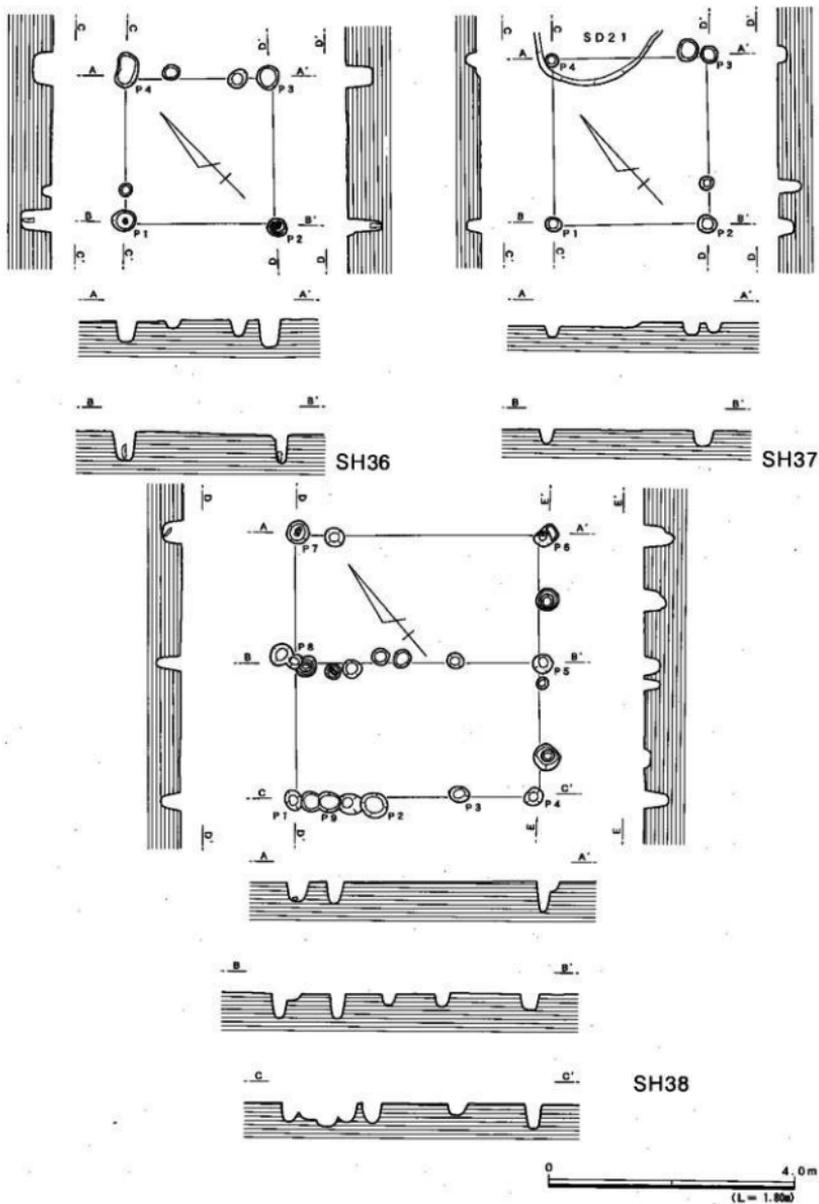
SH34



第31图 SH33·SH34 实测图



第32圖 SH35・SH39・SH40 實測圖



第33图 SH36 · SH37 · SH38 实测图

によって、部屋割りが考えられる。建物南側の列に柱穴が多いのは、ここに入口施設を設けていたためと思われる。この地区が元島集落の最北端にあたり、ここより北側に集落は展開していない。

遺物はP6とP8から、常滑産15～16世紀代の壺もしくは甕の体部が出土している。

39号掘立柱建物（第32図）

SH38の東側、SH40の南側に隣接する小型掘立柱建物である。1間×2間で、東西軸に柱穴が多く確認された。1棟の建物としているが、SH40に附設して入口となる可能性も高い。P2とP5を結ぶラインで、入口の土間と縁が別れていたことも推定される。この時期の建物構造そのものが判明していないため、とりあえず小型建物として報告しておく。

40号掘立柱建物（第32図）

この地区を代表する建物と一つであるが、積極的に母屋とまではいえない。流路によって削平を受けた部分に、母屋を推定することも可能だからである。この地区で今回確認された建物の内、最大規模を持っており、2間×3間と推定される。総面積は、約7坪である。南北軸に7尺、東西軸に6尺を使用しており、前述のSH39とは軸を同一にしている。遺物は出土していない。

41号掘立柱建物（第34図）

2間×1間の小型掘立柱建物で、南北が6尺、東西が5尺の柱間であった。隣接するSH43に関連するものと思われるが、その機能は推定の域をでない。簡単な物置、もしくはSH35とした建物同様で、物干しという可能性もすてがたい。溝に隣接していること、北側にゴミ穴と推定される土坑もあることから、建物の可能性より高いと思われる。物干しとすれば、干し棒は約1軒ということになる。

42号掘立柱建物（第34図）

SH44に隣接する、1間×1間の小型掘立柱建物である。南北に6尺、東西に4尺の柱間で、半坪強の規模の広さである。明確に、SH44と付属する繋ぎが確認できなかったため、小型建物を想定しているが、SH44の入口施設として捉えたほうが無難と考えられる。

43号掘立柱建物（第35図）

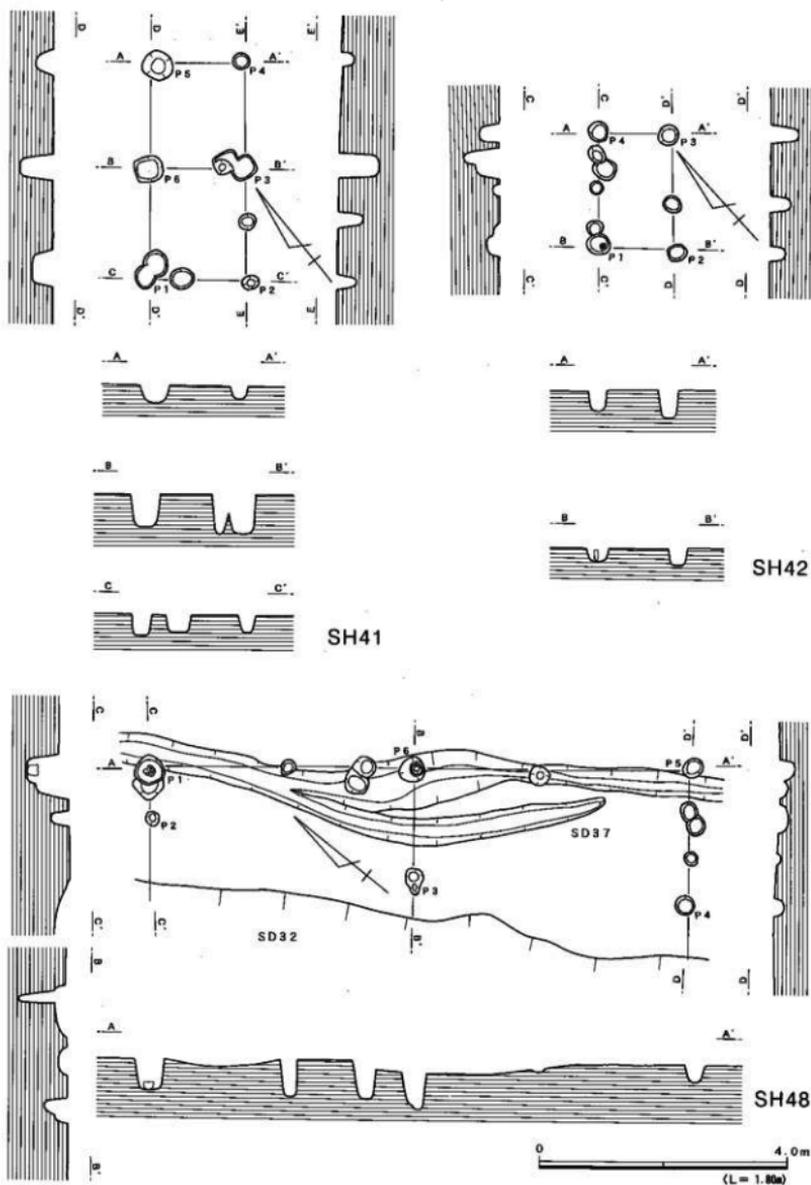
この区画内の大型掘立柱建物で、総面積16坪である。P2とP7、P3とP6によって、建物内部が区画されているようである。東側が入口と推定できるが、建物の機能については母屋的としか表現できない。建物の南東部南側に2条の櫛列（SA2）状の柱穴が確認されたが、用途は不明である。この柱穴列は、約2尺ごとに2列並んで確認された。P2とP7を結ぶラインの東側においては、かなりの柱穴がアトラングラムに建物内部で検出されており、床張りが想定される。

遺物は、P15から常滑産14世紀代の壺もしくは甕の体部が出土している。

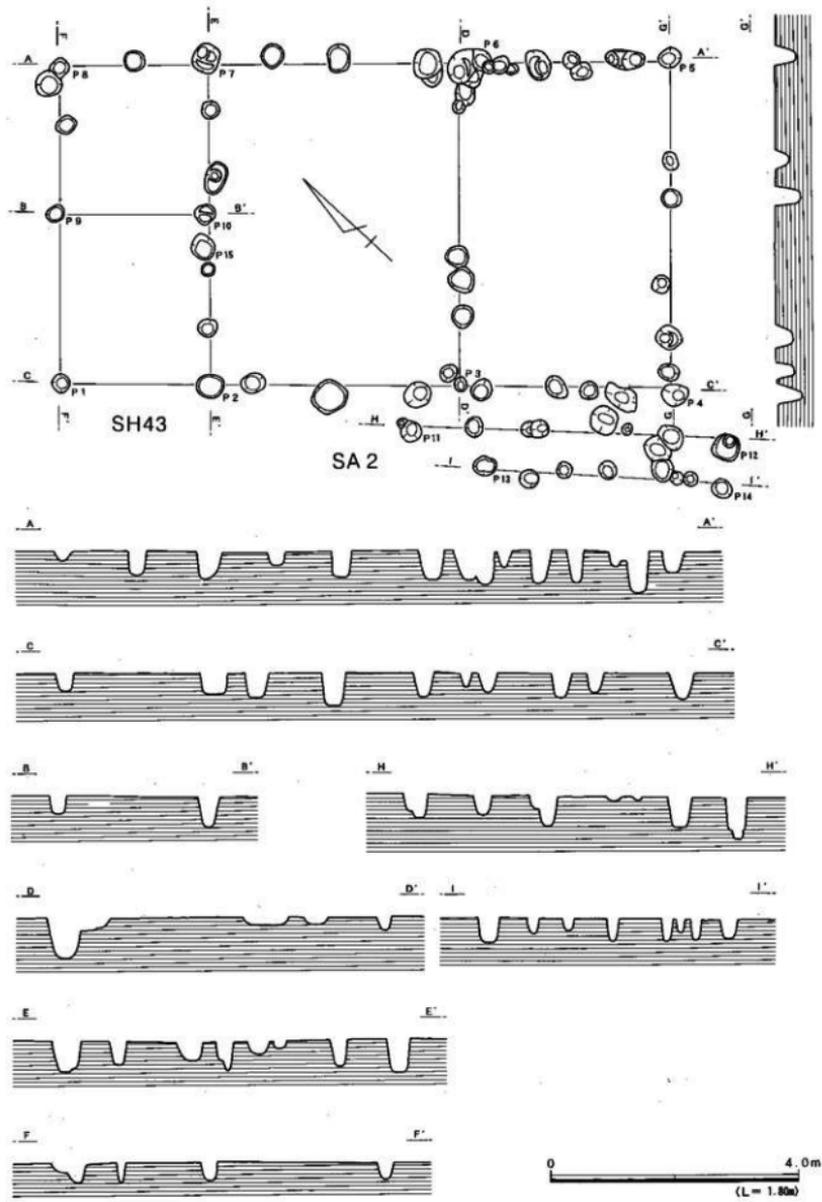
44号掘立柱建物（第36図）

SH43の北側に位置する掘立柱建物で、3間×4間の規模を持つ。建物南側P9とP10を結ぶラインが縁と考えられる。建物は、5尺を基本としているが多少のバラツキもある。総面積は約9坪で、P2とP6によって、二間に別れていたことも想定される。SH43を母屋とすれば、それと同等の機能を持つ、補完的建物と考えられる。

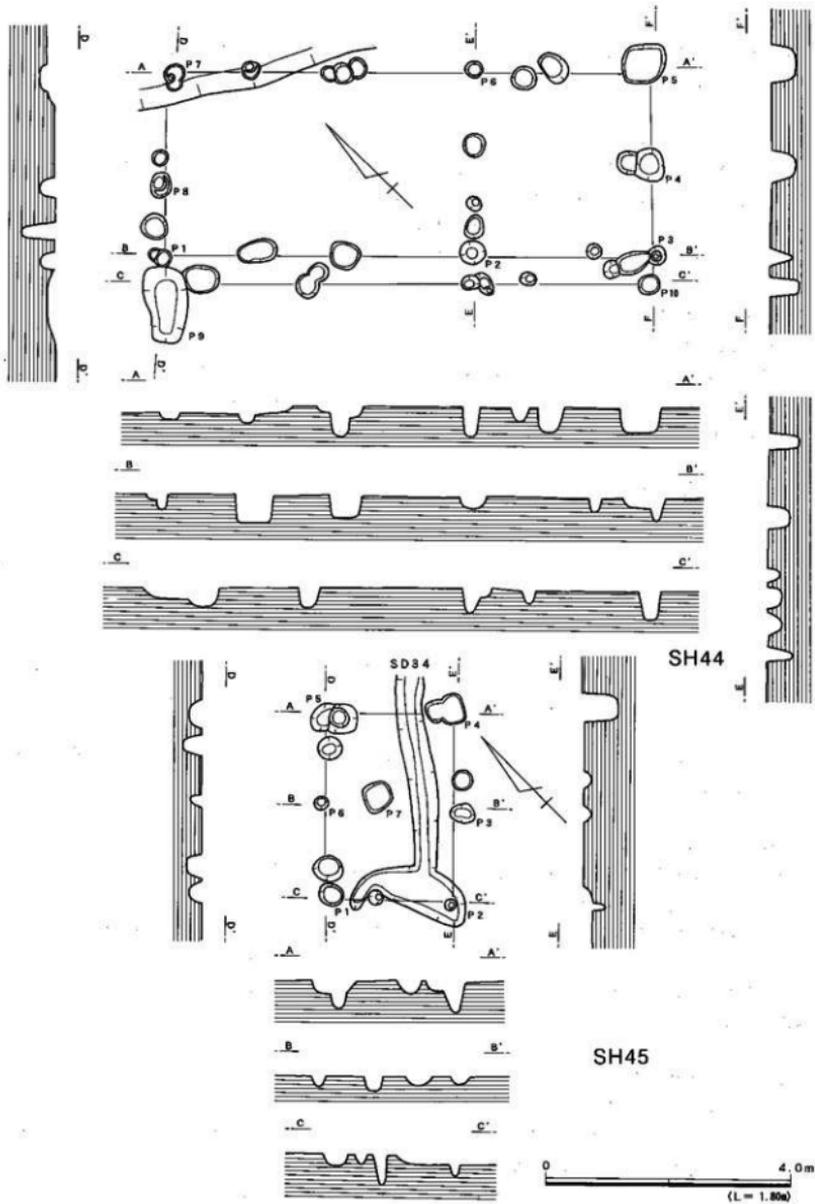
建物と関連する柱穴からの出土は見られないが、建物内の小穴から、瀬美・湖西産、常滑産、瀬戸産



第34图 SH41・SH42・SH48 実測図



第35图 SH43・SA 2 実測図



第36图 SH44・SH45 实测图

の山茶碗片が、また常滑産13世紀代・14世紀代・15～16世紀代の壺もしくは甕の体部、志戸呂産の壺類が出土している。

45号掘立柱建物（第36図）

SH43の東側に隣接する2間×1間の小型掘立柱建物である。建物内を南北に流れる溝（SD34）よりは、新しい時期の建物で、約2坪の規模を持つ。建物西側P1とP5の内側の柱穴が扉を支える柱穴の可能性も考えられる。機能としては、倉庫が考えられる。この建物を境にして、東西で建物の軸が異なっており時期差なのか、地形に左右されたのかが問題になろう。

46号掘立柱建物（第37図）

この区画内で最大の掘立柱建物で、約19坪の広さを持つ。北側に位置するSH47とほぼ接しており、立て替えも推定される。南北軸は、6尺を基準としているが、東西軸はかなりバラエティが見られる。P2とP6のラインで二部屋に分割されるが、入口構造等は不明である。P5南の攪乱は、近代の攪乱で、畑の作物を貯蔵するための貯蔵穴の跡である。建物内部を東から西へ流れる溝（SD35）は、この建物よりは古いものである。

遺物は、建物内の小穴から、古瀬戸前IV期の底鉦目皿と、12世紀代の常滑産山茶碗、常滑産15～16世紀代の壺もしくは甕の体部が出土している。

47号掘立柱建物（第38図）

SH46の北側に位置する掘立柱建物で、さらに北側調査区外へ展開していると思われる。2軒以上×4軒の建物と推定されるが、1間×4間の建物という可能性も残されている。仮に1軒×4軒とした場合、SH46と同一の建物として母屋の機能を持つ建物の北側部分ということになる。建物は、東西は6尺を柱間としており、南北は9尺で西側のP1とP8の内側柱穴が入口と思われる。建物規模は、約7坪で、主軸は東へ38度振れている。建物内部の柱穴は、張床を支えた柱穴とも考えられる。遺物は、出土していないが、P3から柱根が、P2とP5から礎板が検出された。建物内の小穴からは、古瀬戸後II期の天目茶碗が出土している。

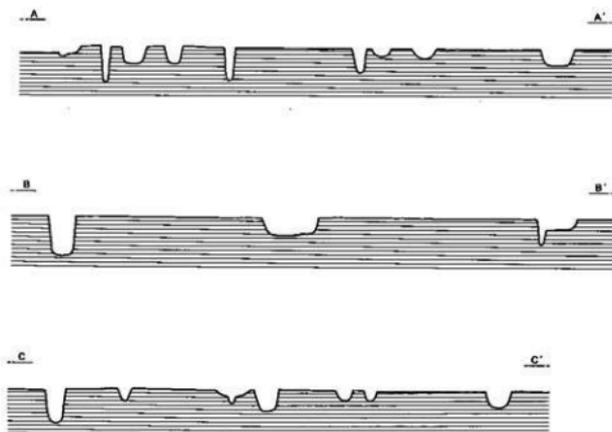
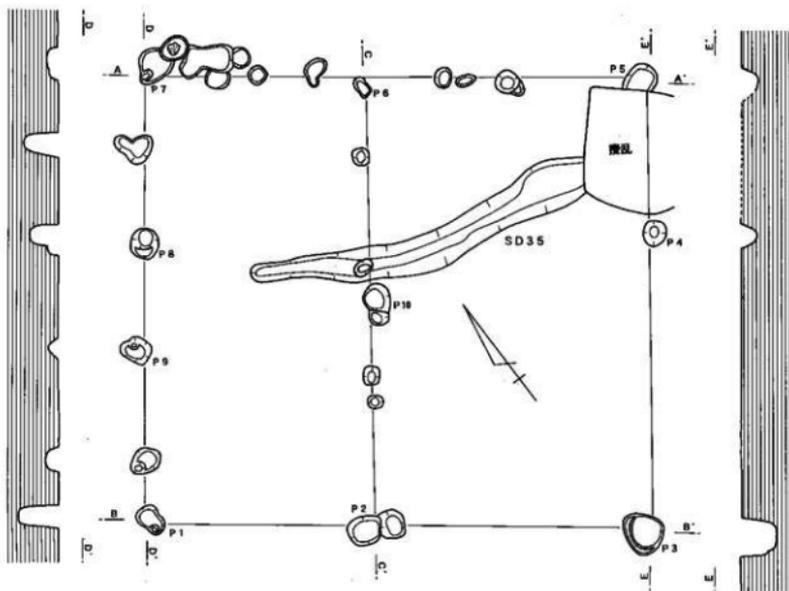
48号掘立柱建物（第34図）

SD16の北側に隣接する掘立柱建物で、建物南端が若干削平を受けている。建物北側にある溝（SD37）より新しい時期のものである。2間×4間の長方形の建物と推定され、柱間は7尺で統一されていたと思われる。建物規模は約7坪で、SD16がクレーク状の溝であるため、船付き施設等の可能性も考慮しなければならない。溝に面して細長く展開するのは、これが主たる理由とも推定できる。

出土遺物は、P2西横の柱穴から三ツ沢産の盤類が出土している。その他、古瀬戸後期の壺か瓶、灰軸製品も出土している。

49号掘立柱建物（第38図）

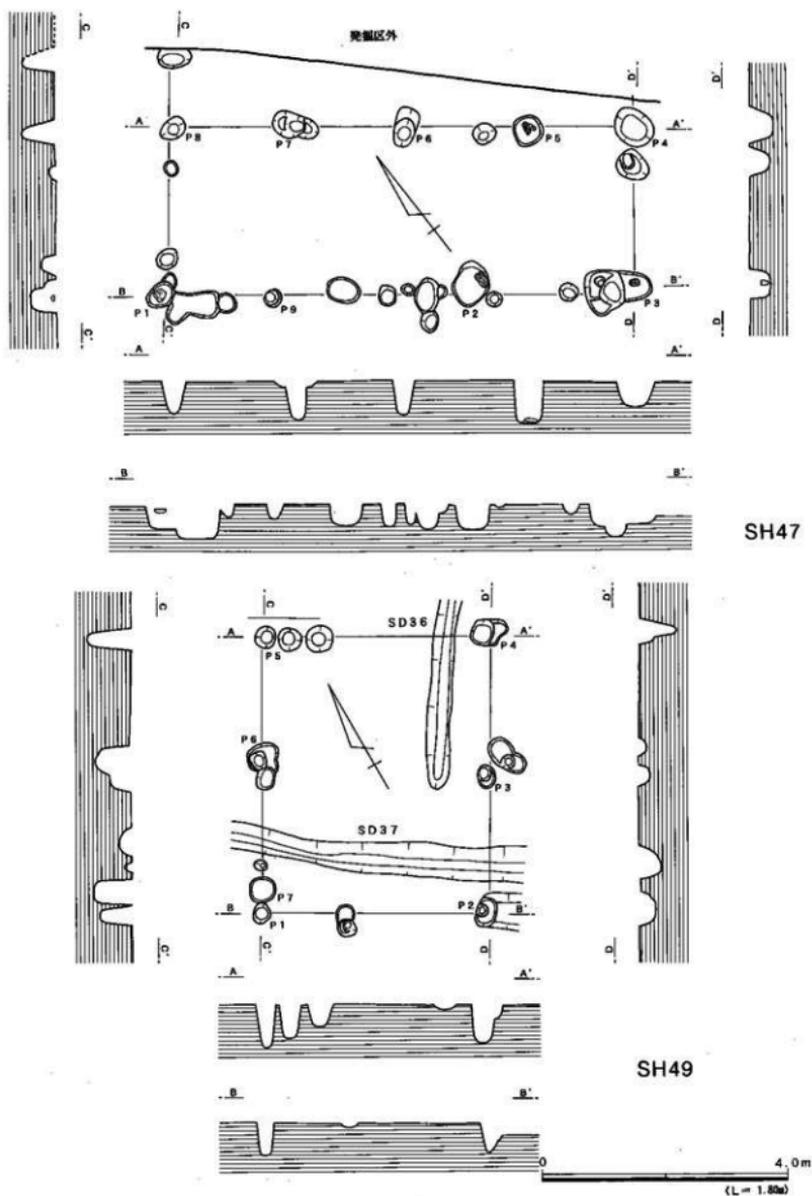
2間×2間の掘立柱建物で、東西軸が3尺、6尺、南北軸が7尺、8尺である。主軸が東へ29度振れており、この地区でこの建物と主軸が一致するのは見当たらない。建物規模は約5坪で、倉庫等の機能を持つものと推定される。建物内部を通過する溝（SD37）よりは、新しい時期にあたる。建物に関連する柱穴からの遺物の出土はないが、建物内の小穴から聖宋元寶が1枚出土している。



SH46



第37圖 SH46 実測図



第38图 SH47·SH49 实测图

50号掘立柱建物（第39図）

隣接する大型溝SD38と軸を同一にする3間×2間の掘立柱建物である。この区域では、最も東端にあたる建物でL字状に曲がる溝SD32とも軸をあわせている。建物規模は約6坪で、倉庫もしくは納屋的機能が考えられる。建物北西隅のP5とその西側の柱穴が入口と推定される。ここを入口とすると、北側井戸に向けて、入口が設けられていたことになる。遺物は、出土していない。

51号掘立柱建物（第39図）

大型建物SH46、47の東隣に位置する、2間×1間の小形掘立柱建物である。P3とP6を結ぶラインによって、二間に別れていたと思われる。建物は約3坪の規模で、柱間は5尺である。倉庫的機能は推定されるが、果たしてどの建物とセット関係になるかは不明である。遺物の出土はない。

遺物は、P3から古瀬戸後期の灰軸製品が出土している。

52号掘立柱建物（第40図）

6号井戸の井戸屋として推定される1間×1間の小形掘立柱建物である。主軸方位が、この地区の他の建物と合わないため、若干の時期差も考慮する必要がある。井戸内及び他の柱穴から、遺物は出土しておらず、確実な時期認定が困難である。柱穴も、北東隅が近代の流路によって破壊されていたため確定できていない。P1から、柱根が確認されている。

53号掘立柱建物（第40図）

3間×1間と推定される小形掘立柱建物で、約4坪の規模である。建物内部にかなりしっかりとした柱穴が残っているため、張床と推定される。主軸は、東へ64度振れており、他の掘立柱建物とまったく主軸を異にしている。時期差なのか、機能が異なっていたのかは不明である。

出土遺物は、P6から13世紀後半の常滑産山茶碗が、P7から13世紀後半から14世紀前半の瀬戸産山茶碗、常滑産6a型式の片口鉢が出土している。また、建物内の小穴から嘉祐通寶が出土している。

SH53東側に、建物と軸を異にした柵(SA3)が検出されている。軸が異なっているため、建物と関連する可能性は低い。この柵列内の小穴から、古瀬戸後ⅢもしくはⅣ期の水注の蓋と推定される遺物が出土している。

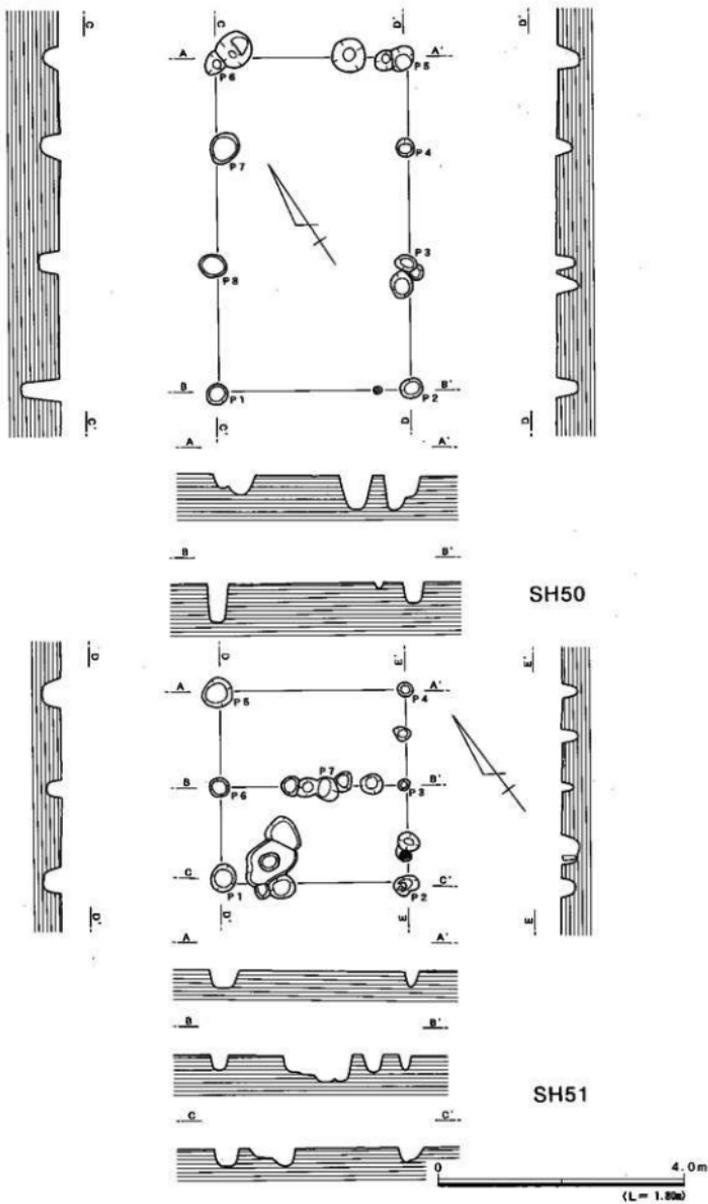
54号掘立柱建物（第41図）

SH53と重複する掘立柱建物で、11坪の規模を持つ。4間×3間と推定されるが、柱間の尺数に統一が見られないため、推定の域をでない。北側部分に、柱穴が多く見られるため、この部分に入口が推定される。倉庫的機能を持つ建物の可能性が高い。北側に位置するSH55、南側に位置するSH56とほぼ軸をあわせ、コ字状に配置されるため同一時期の建物と思われる。建物に関連する柱穴からの遺物の出土はないが、建物内の小穴から皇宋通寶が1枚検出されている。

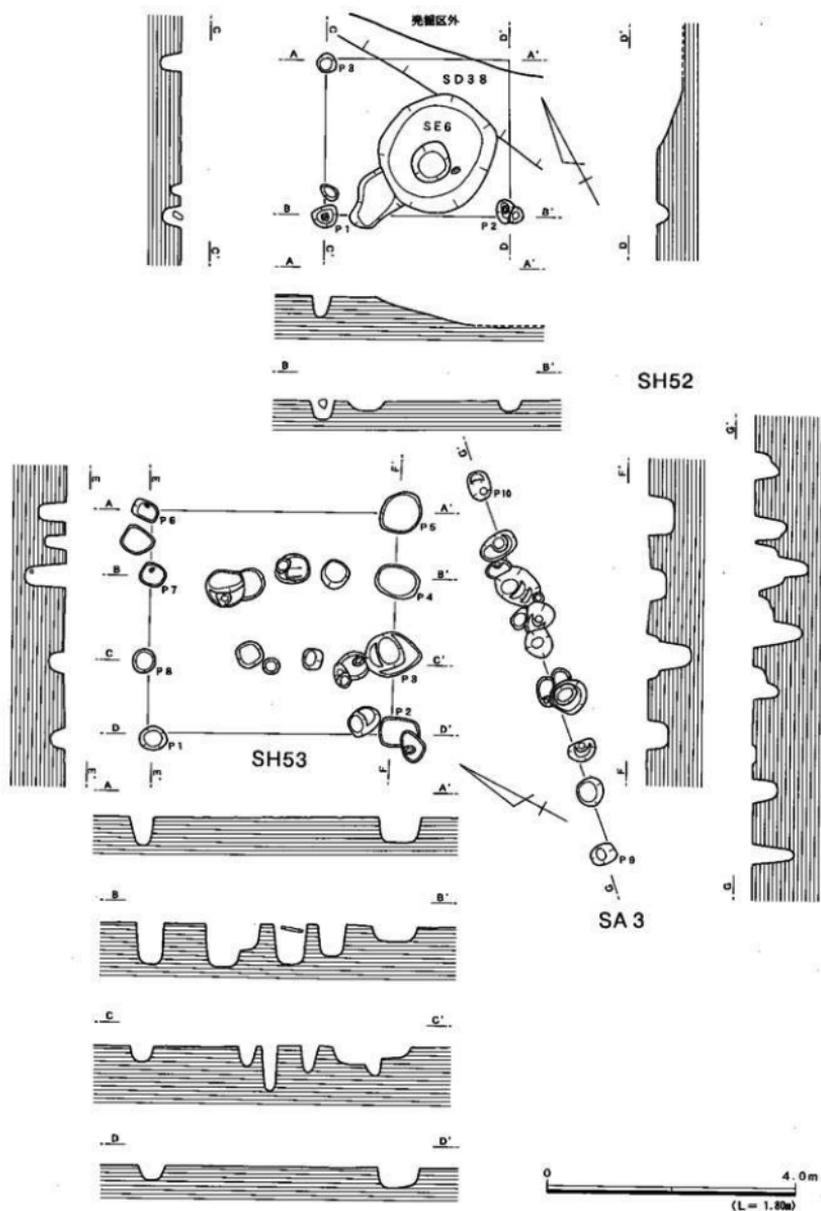
55号掘立柱建物（第42・43図）

今回の調査で検出された、最も大きな柱穴列を持つ大型掘立柱建物である。1間×6間と推定されるが、近代の井戸によって大きく攪乱を受けていた。南北は16尺、東西は7尺で柱間統一がなされている。建物規模は約18坪で、倉庫と思われる。建物南西側の張り出し部分が、入口施設と推定され、さらに立て替えも想定できるような柱穴も確認されたが、建物として認定できていない。

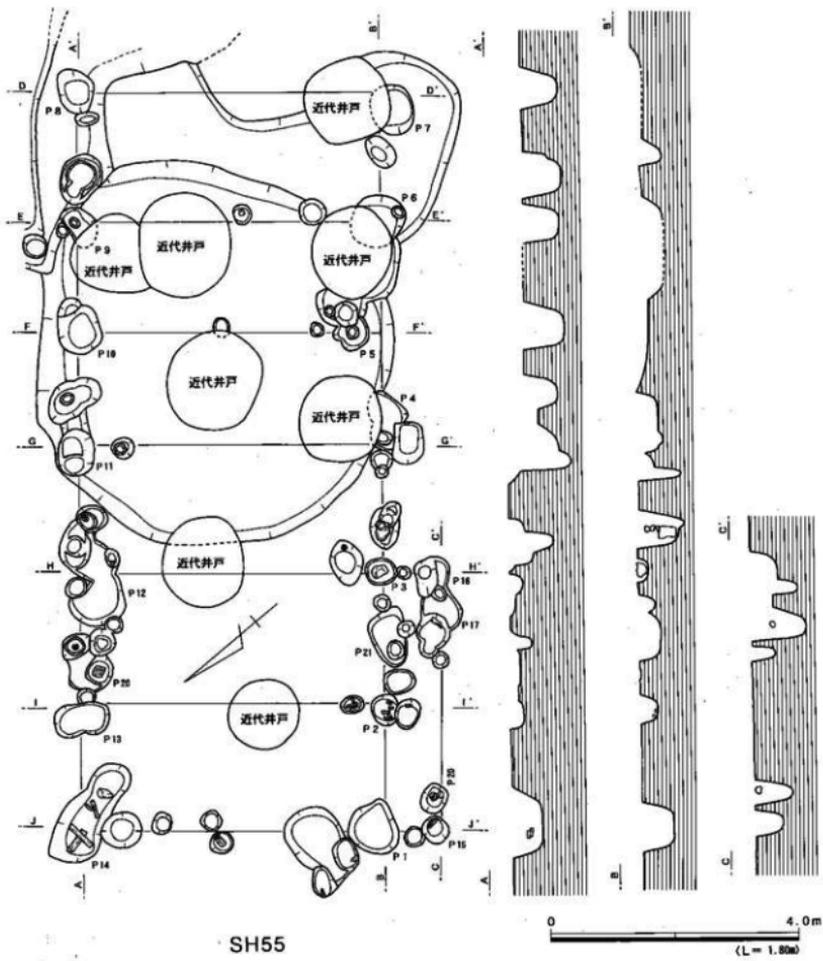
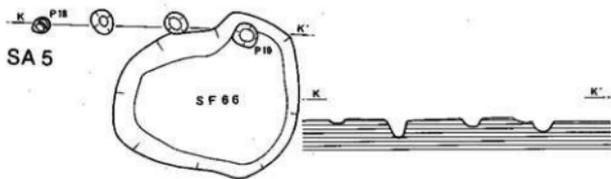
検出された最大の柱根は、径約20cmを超える大型のものであった。遺物の出土は少なく、P17と建物



第39图 SH50·SH51 实测图



第40图 SH52·SH53·SA3 实测图



第41图 SH54 实测图

内の小穴から、常滑産12世紀代の壺もしくは甕の体部が、P16西側の柱穴から、常滑産10型式の玉縁口縁広口壺と、瀬戸産7もしくは8型式の山茶碗が出土している。

建物東側半分以上が、径6m・深さ20cm程のSF67によって覆われており、この覆土上から建物の柱穴列が確認された。この土坑からの遺物に時期不明の瀬戸・美濃産の天目茶碗が含まれていることから、建物は16世紀代の可能性が高い。

56号独立柱建物（第44図）

この建物南側に、船入り施設と推定されるSD28がある。この船入りに隣接して軸をあわせる2間×4間の建物がSH56である。東西の柱間は、6尺で統一されているが、南北は16尺になっている。船から下ろした荷物を一時保管するための施設と推定され、建物東側に入口施設が想定される。建物規模は約13坪で、主軸は東へ32度振れている。

P2、P4、P9、P10、P12で柱根が検出された。出土遺物は、P5から常滑産12世紀代、13世紀代の壺もしくは甕の体部、P9から同じく15～16世紀代の壺もしくは甕の体部が、P10から古瀬戸後Ⅳ期古段階の緑釉皿が、P12から古瀬戸後Ⅲ期の丸皿が出土している。また、建物内の小穴から三ツ沢産の壺もしくは甕の体部も出土している。

57号独立柱建物（第45図）

SH56の東側に隣接する独立柱建物で、同様の機能を持つ建物と推定される。1間×4間の建物と考えられ、建物規模は約13坪で、SH56とまったく同じ規模である。従って、同一型式の倉庫が舟入りに沿って二棟並んでいたことが想定できる。東西方向の合計尺数は、同一であるが柱間に若干の異なりが認められる。建物内部を南北に流れるSD27より、建物は新しい時期のものである。

遺物は、P3から常滑産14世紀代の壺もしくは甕の体部が出土している。また、P11から貨幣が出土しているが、2分の1欠けており元貨部分しか判読できない。

58号独立柱建物（第44図）

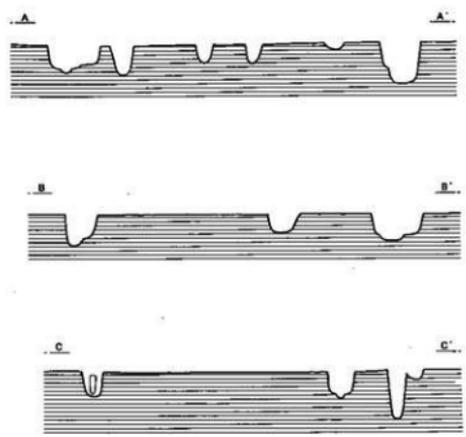
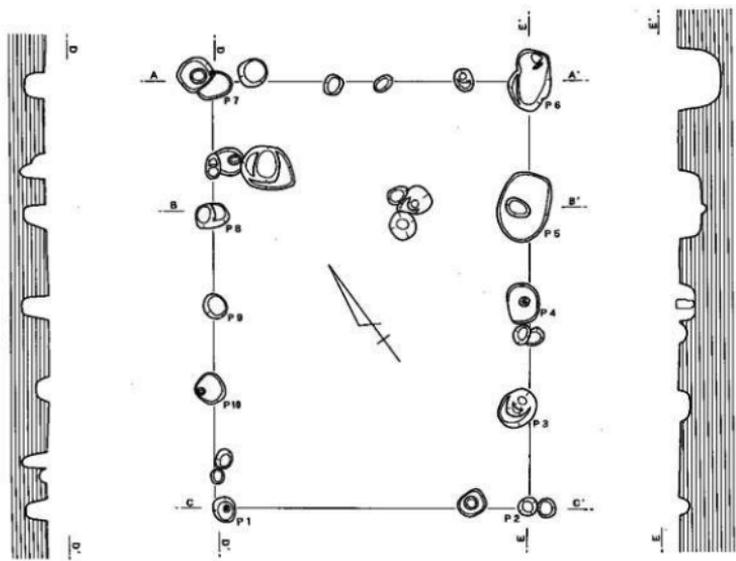
SH56の対岸に位置する小形独立柱建物で、1坪程の大きさである。舟入りに隣接して建てられていることから、何らかの関連は推定されるが、はっきりとしない。P1から出土した柱根は、10cmに充たない細いものなので、上屋のない棧敷構造も推定される。

59号独立柱建物（第45図）

舟入りと推定されるSD28の最も奥まった箇所に隣接する2間×2間の独立柱建物である。船入りに向いたP1とP6の内側の柱穴が入口施設と考えられる。この建物の西側前面に、南北軸を合わせて3軒分の柱穴も確認されているが、用途は不明である。SH59と接続することにより、棧橋のような構造になっていたことも推定されよう。建物規模は、約4坪である。棧橋状と推定される部分の広さは、約2坪である。P1から柱根が出土している以外は、遺物の出土は見られない。

60号独立柱建物（第46図）

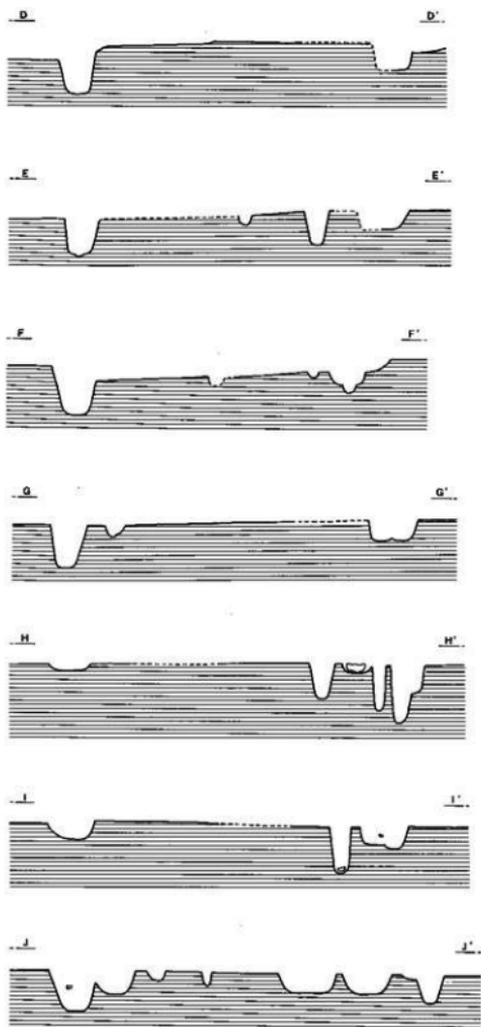
SD21の南側に位置する2間×4間の独立柱建物である。建物内部にかなり柱穴があり、張床も想定される。規模は約9坪で、東側部分が入口と思われる。SH61と重複しているため、時期差が考えられるが、確定した材料は出土していない。この区域そのものが、全体的に後世の洪水の被害により、多量の砂利が溜まっていた部分であるため、かなり攪乱されてしまったことも推定される。P6に礎板が



SH54



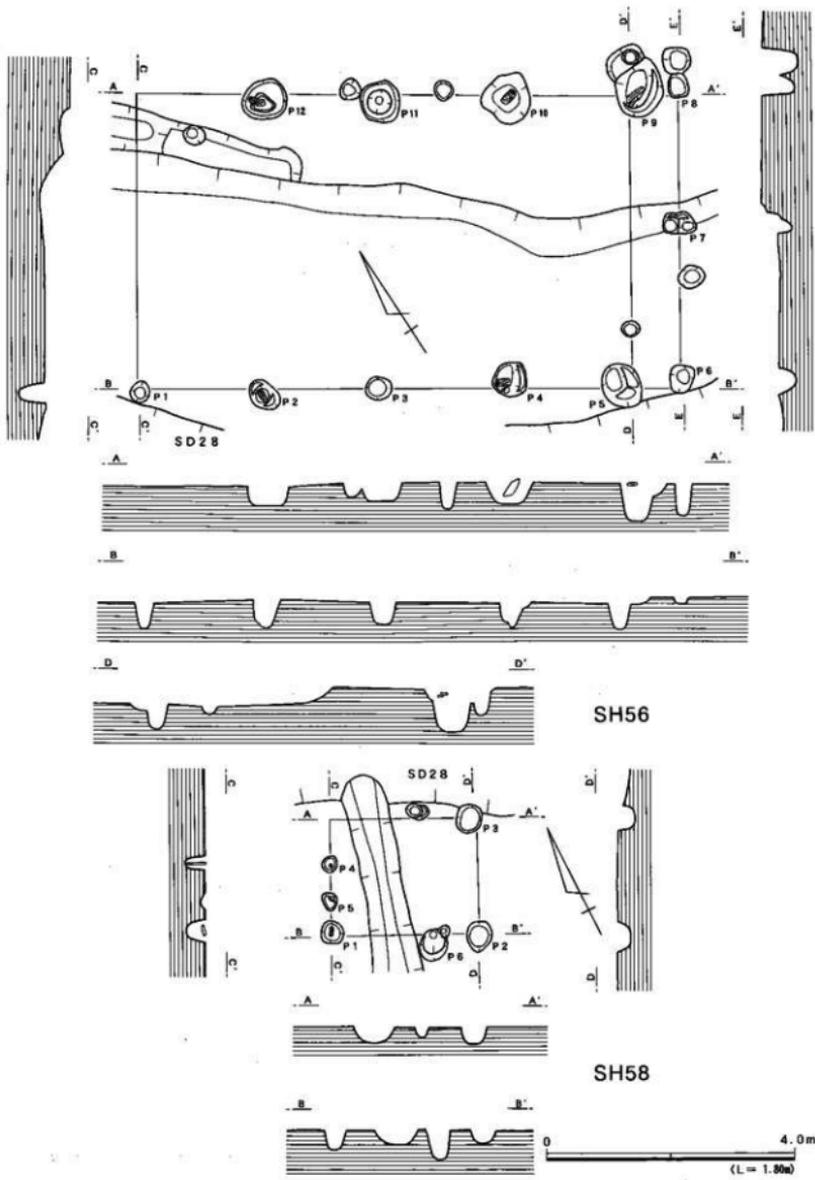
第42图 SH55·SA5 实测图



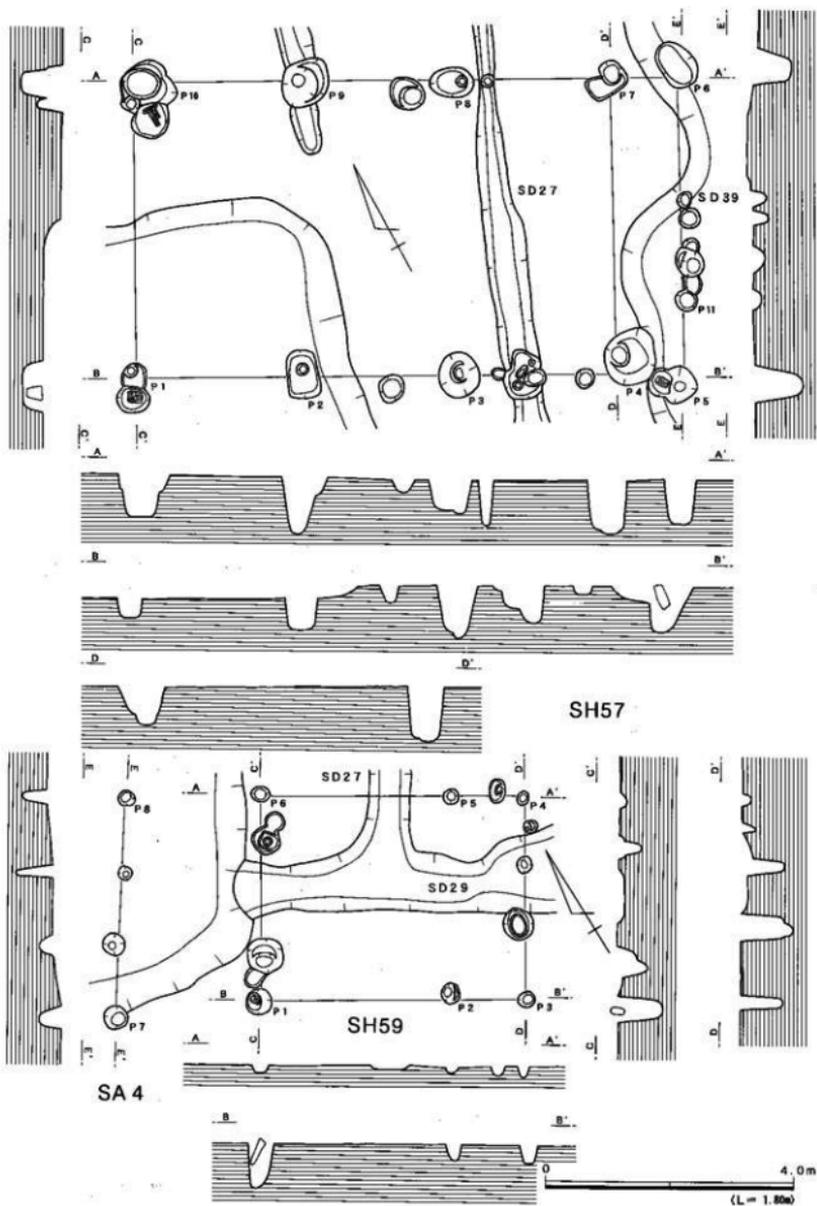
SH55



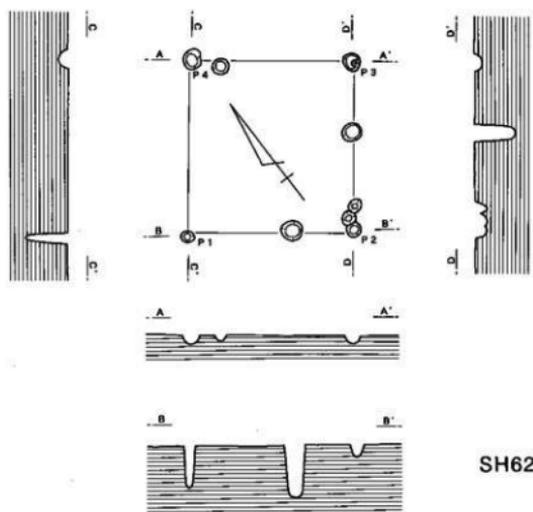
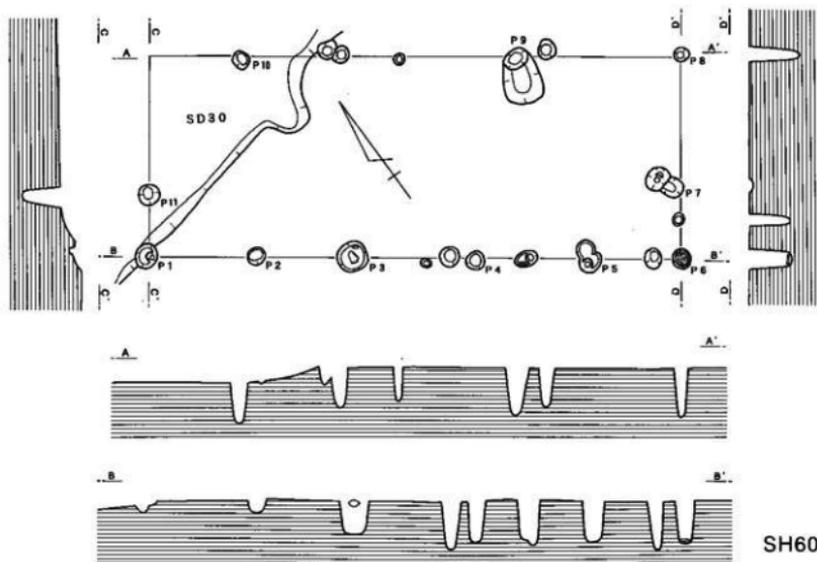
第43圖 S H55 実測圖



第44圖 SH56・SH58 実測図



第45图 SH57·SH59·SA 4 实测图



0 4.0m
(L = 1:500)

第46图 SH60・SH62 实测图

検出されている以外、遺物は出土していない。

61号掘立柱建物（第47図）

SH60と重複する掘立柱建物で、2間×3間の建物北側に、縁と1軒四方の附設建物が付いた構造と推定される。北側の溝SD30に軸を合わせているため、同時期の建物と考えられる。SD30もSD28同様の舟入り施設と推定されるため、これに伴うものと思われる。建物規模は、中心部分が約7坪、北側付属部分が約1坪である。付属部分と中心建物の入口にあたる柱穴が、P7とP10の間にある柱穴と想定される。確認された柱穴は、非常に深く約1m前後を測るものが多い。

62号掘立柱建物（第46図）

SH61とSD18に挟まれた掘立柱建物で、9尺四方の規模である。倉庫的機能を持つと推定され、入口は、東側もしくは南側と思われる。SH61との関係は不明である。

63号掘立柱建物（第48図）

この地区の最も南に位置する小形掘立柱建物で、1間×2間である。東西方向は5尺、南北方向は8尺で、総面積は約2坪である。この区域の他の建物とは、軸をずらしているため時期差が推定される。この区域は、南へ行く程洪水の影響が強いため、確認されない組合せの柱穴も考えられる。

64号掘立柱建物（第48図）

2間×2間で、16尺四方を測る掘立柱建物である。四方を溝に囲まれた区域に位置しているため、倉庫的機能を持つものと推定される。周辺部から多くの土坑が検出されているが、それとの繋がりについては判然としない。残された柱穴から推定すると、8尺を柱間としていたと考えられる。建物北側中央の攪乱は、近代の農作物の貯蔵穴である。建物東側で検出された土坑SF27から遺物は出土していないが、検出状況から建物より新しい時期と考えられる。P1とP6が入口施設と推定され、建物規模は約7坪である。主軸は、東に26度振れている。

遺物は、P4から常滑産15～16世紀代の壺か甕の体部が、P5から永楽通寶が1枚出土している。

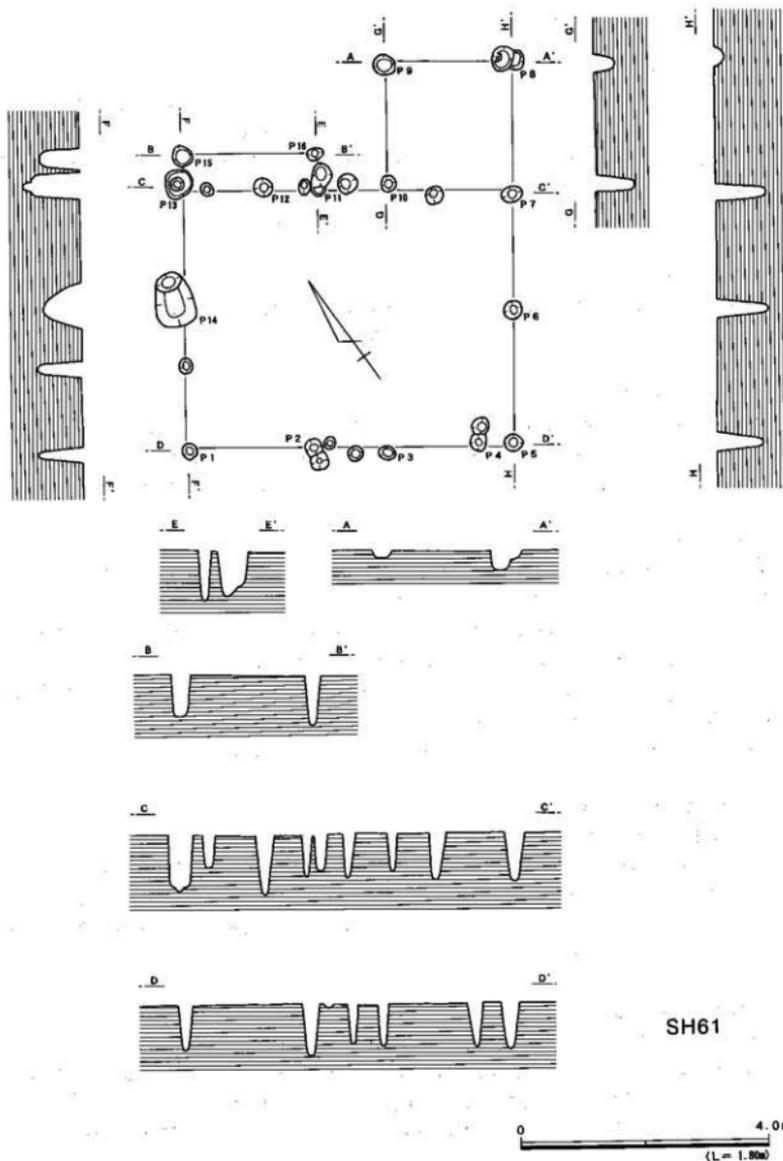
65号掘立柱建物（第49図）

2間×3間の掘立柱建物で、柱間は7尺を基準としている。建物西側に柱穴が多く確認されておりここが何らかの入口施設になる可能性が高い。建物規模は約9坪で、SH64とほぼ平行して建っている。建物南西にあるSF30は、若干建物より古いことが想定される。このSF30からは、古瀬戸後IV期新段階の播鉢が出土している。P2から柱根が検出されているが、その他遺物は見られない。建物内の小穴からは、治平元寶が1枚出土している。

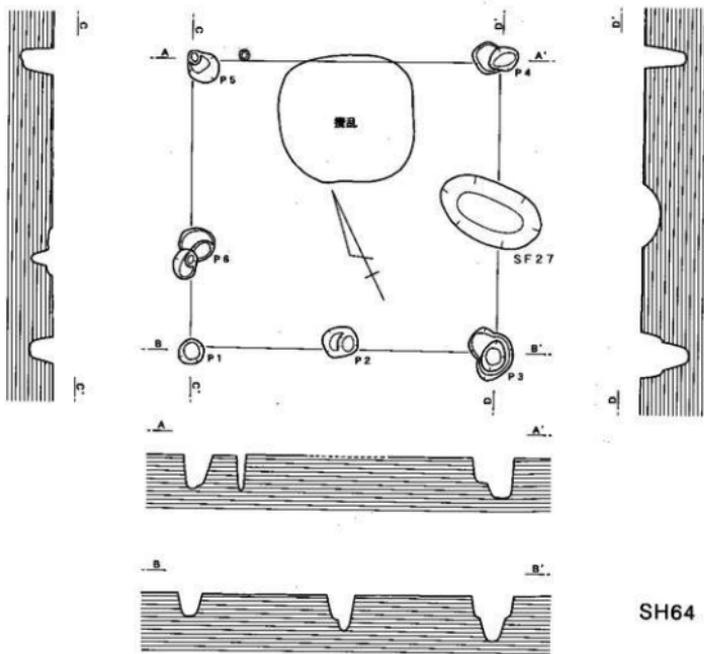
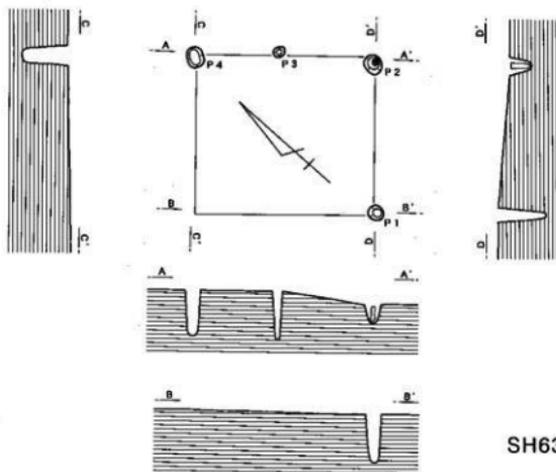
66号掘立柱建物（第50図）

1間×3間と考えられる掘立柱建物である。建物西側には、SD39から続く舟入り施設（SD65）が確認されており、一部柱穴が舟入り施設にまで入り込んでいた。そのため、建物ではなく船を付けるための棧橋という可能性もある。建物規模は約8坪で、3箇所から柱根が検出されている。

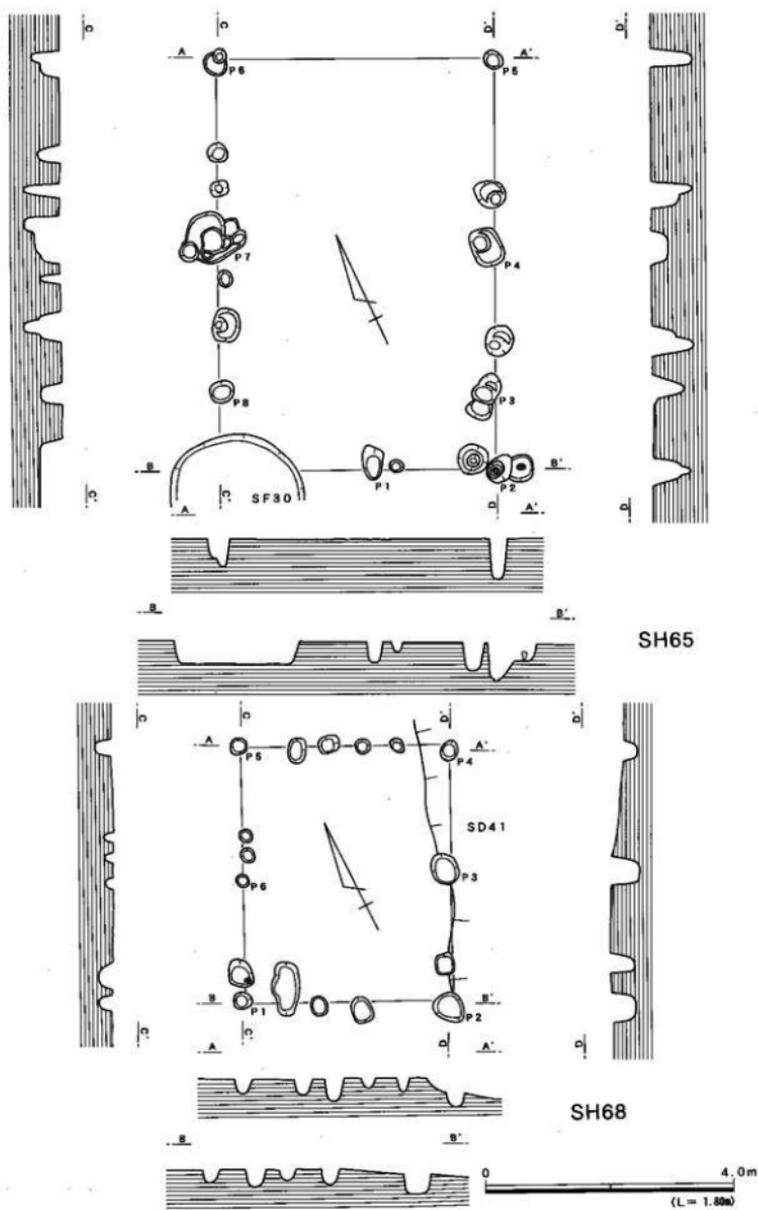
P1で出土した柱根は、約20cm四方の角材であり、かなりしっかりした建物が推定できる。



第47图 SH61 实测图



第48図 S H63・S H64 実測図



第49图 SH65・SH68 实测图

67号掘立柱建物（第51図）

この区域に建つ掘立柱建物の中で最大の建物である。6間×2間の長方形をしており、6尺を基準としている。P6とP12のラインで部屋割りを想定したが、さらにSH68と接続し、L字状の建物を呈することも可能性として残される。また、建物東側に縁と考えられる付属建物もある。建物規模は約21坪と大きく、単純な大型倉庫施設のみとは考えにくい。

遺物は、P7から常滑産10型式の片口鉢が、P8から古瀬戸後期の茶入れが、P10から13世紀代の常滑製品が、P11から三ツ沢の摺鉢が、P18から15～16世紀代の常滑製品が出土している。また、建物内の小穴から古瀬戸後ⅠもしくはⅡ期の盤類も出土している。

68号掘立柱建物（第49図）

大型掘立柱建物SH67の東側に隣接する2間×2間と推定される掘立柱建物である。SH67と接続する可能性もあり、仮に接続しないとするなら、時期差が考えられる。建物規模は約3坪で、東側の一部がSD41よって若干削平されている。同時期の溝と推定されるが、時期を決定できるまでの遺物の出土はない。建物の柱穴からの遺物も出土していない。

69号掘立柱建物（第50図）

大型掘立柱建物SH67の南西部に位置する1間×2間の小形掘立柱建物である。約1坪の大きさのため、建物以外の用途も考えられる。この小形建物を境にして、北側と南側ではかなり柱穴の規模に変化が見られる。北側は大きく、南側は小さい柱穴群となる。

70号掘立柱建物（第52図）

区画溝SD18と平行して隣接する掘立柱建物である。3間×1間の長方形の建物で柱間に統一は見られない。建物規模は約1坪半で、P7を中柱に二間になりそうである。機能については、簡易倉庫とするのが妥当と思われる。遺物の出土は見られないが、建物内の小穴から三ツ沢産の縁軸小皿が出土している。

71号掘立柱建物（第52図）

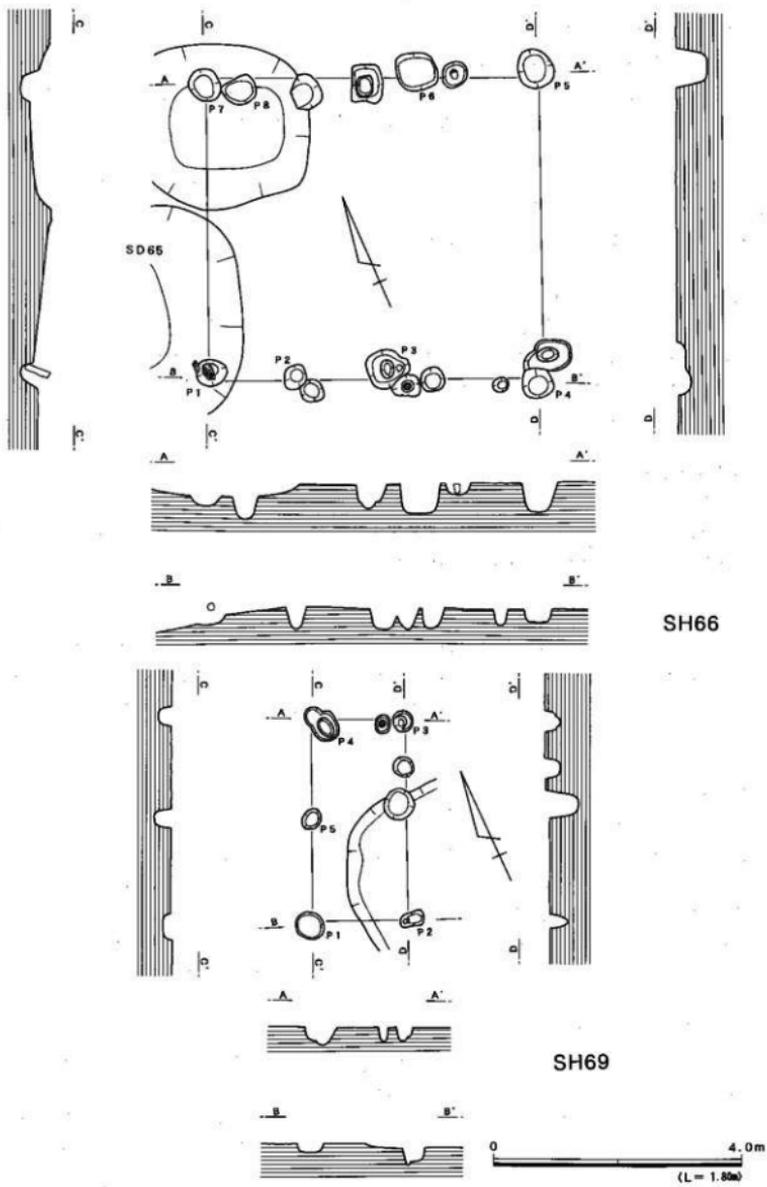
SH72、73と重複する掘立柱建物であるが、3棟の時期的変遷は確定できなかった。いずれの建物も主軸は同一である。3間×3間と推定され、6尺を柱間としている。規模は約7坪半で、軸に乗る柱穴が多い。3度の立て替えを受けたため、柱穴が多く検出されたと推定することもできるが、複雑な構造を持つ1棟の建物という可能性もある。

P9から貨幣が1枚出土しているが、半分程欠けているため、通貨部分しか判読できない。その他の遺物として、建物内の小穴から三ツ沢産の摺鉢と古瀬戸後Ⅳ期の縁軸小皿がある。

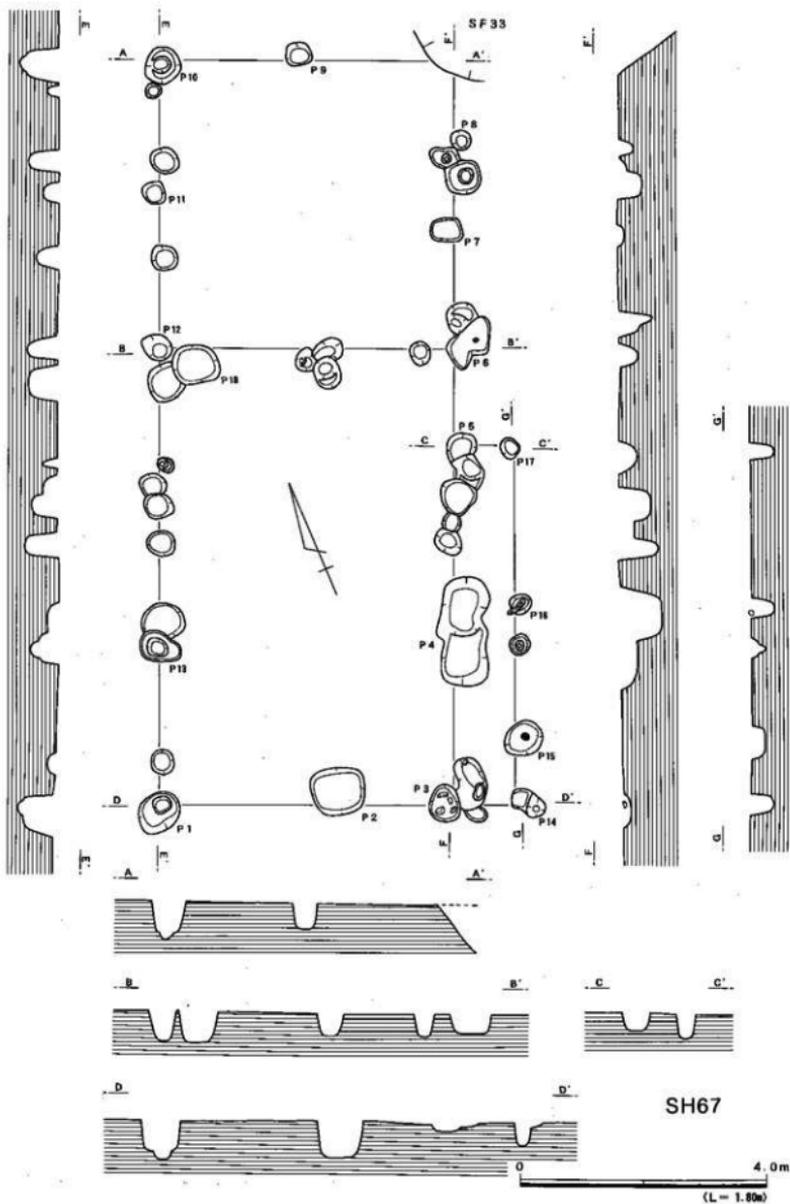
72号掘立柱建物（第53図）

SH71と重複する掘立柱建物で、約6坪半の規模である。南側に位置するSH73とは平行する形で建てられている。P1・P10・P11という建物東側の柱穴からは、径20cm程の柱根が検出されており、建物としてはかなりしっかりとしたものが想定できる。おそらく倉庫の機能を持っていたと考えられる。

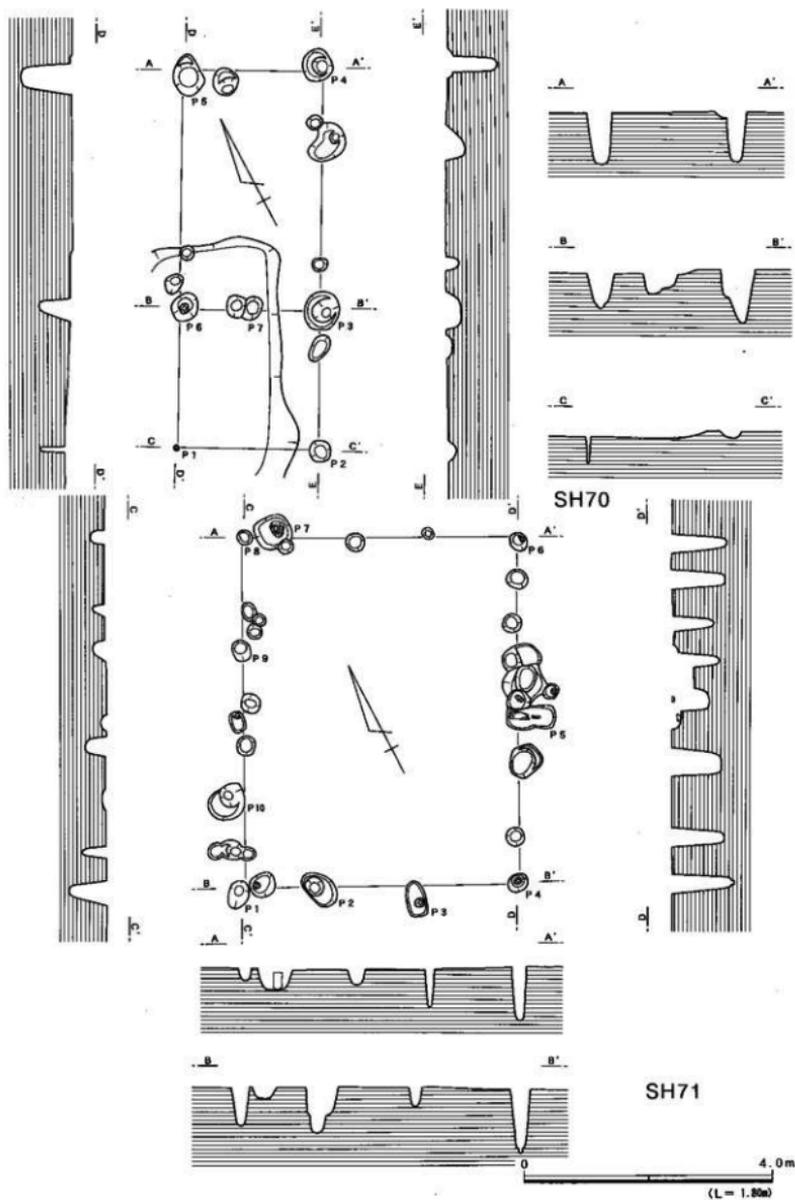
建物と関連する柱穴からの遺物の出土はないが、建物内の小穴から古瀬戸後Ⅳ期古段階の縁軸小皿が出土している。



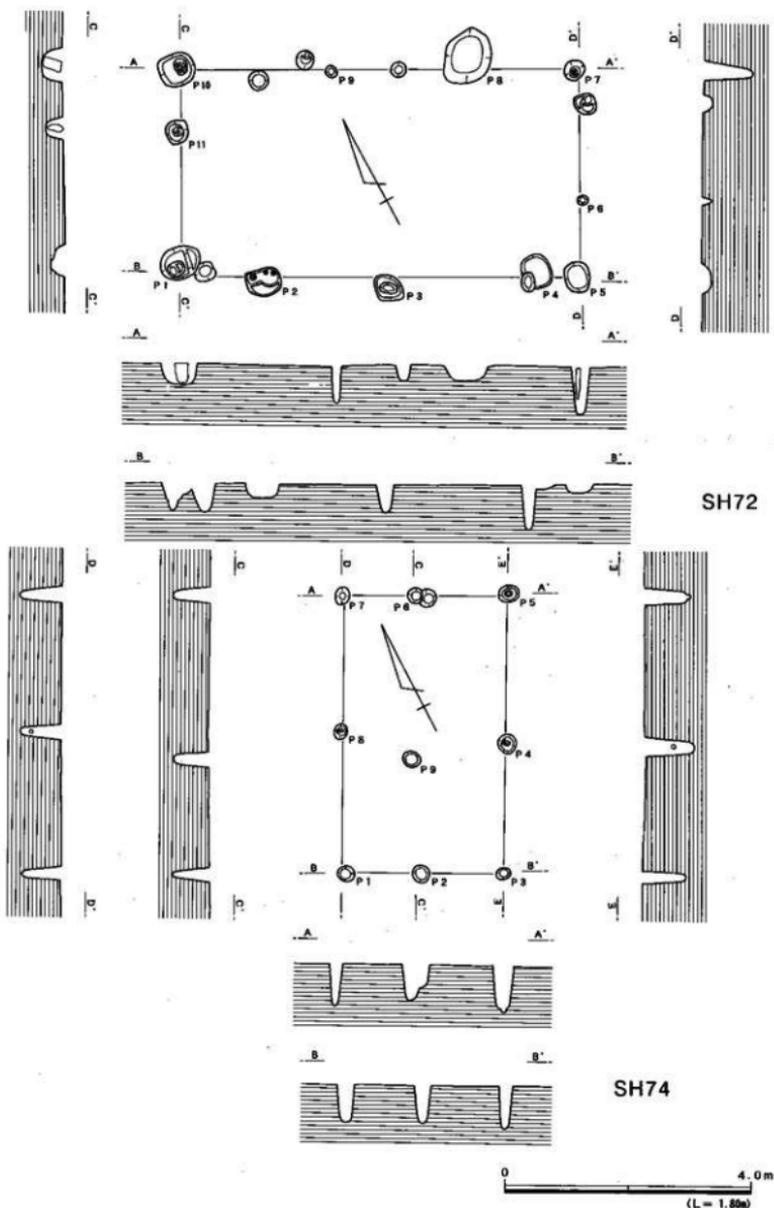
第50圖 SH66・SH69実測図



第51图 SH67 实测图



第52図 SH70・SH71 実測図



第53图 SH72・SH74 实测图

73号掘立柱建物（第54図）

SH71と重複する2間×3間の掘立柱建物である。建物西側に縁のような張り出しが見られる。建物規模は、約10坪である。柱間は、南北軸で6尺ないしは7尺を、東西軸で8尺を単位としているようである。P4から検出された柱根は、径30cm弱の角材で、強固な造りの建物と考えられる。時期決定にたると遺物が出土していないため、推測の域をでないが、SH71と接続してL字状の建物を構成していた、またはSH72と二棟で倉庫の機能を持っていたという二通りのことが考えられる。

建物内の小穴から、三ツ沢産の銅鉢、古瀬戸後ⅢもしくはⅣ期の双耳合子、15～16世紀代の常滑製品と元祐通寶が1点出土している。

74号掘立柱建物（第53図）

元島遺跡の掘立柱建物の中で、最も良好な検出状況を示す建物である。2間×2間の総柱の建物で、南北軸西側が北から7尺と8尺に対し、東側はまったく逆の8尺と7尺を柱間にしている。東西軸は、南北側共に、4尺と5尺である。建物中央部にあるP9は、P2・P6という南北軸に対しては軸があっているが、P4・P8という東西軸に対してはずれてしまう。P6のみが、柱穴が2穴確認されているため、ここに入口が想定される。どの柱穴も確認面から、約70cm程掘り込まれており、倉庫としてかなり頑丈に造っていたことがわかる。遺物の出土は見られない。

75号掘立柱建物（第55図）

3間以上×3間と考えられる大型掘立柱建物で、SH76と重複している。建物規模は、15坪以上を測り、この地区の母屋的なものと推定される。建物は、西側発掘区外へとさらに広がっている。P3、P5から検出された柱根は、径20cmとかなり大きなものであった。東西軸は、8尺を基準にしているが、南北軸は、入口の関係からか、尺間を追うことができない。P1は、南側を東西に流れる溝SD23と重複しており、この溝より新しい。SD23からは、初山窯の内禿皿が出土しており、この建物は16世紀末頃のものと考えられる。

遺物は、P4から常滑産10型式の片口鉢、建物内小穴から古瀬戸後Ⅳ期の縁軸小皿が出土している。

76号掘立柱建物（第56図）

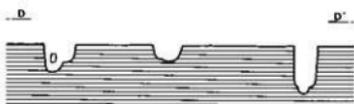
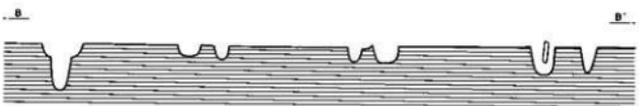
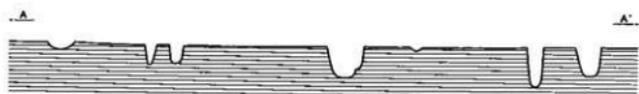
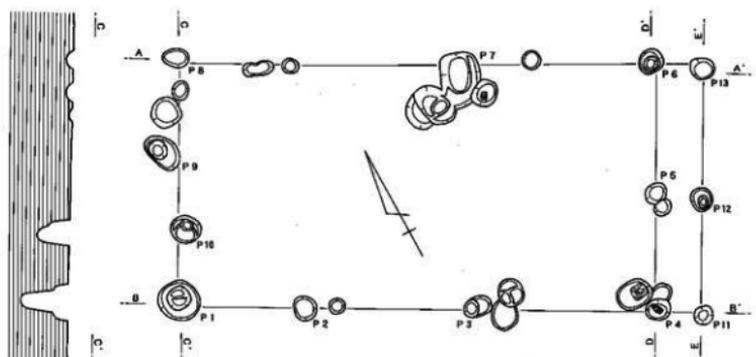
SH75と重複する大型掘立柱建物で、3間以上×3間の建物と考えられる。建物規模は、約20坪以上と推定され、SH75の立て替えの可能性もある。柱間は、6尺もしくは7尺を使用しており、建物東側のP2からP4の間に入口が想定される。重複する溝SD23より新しい時期のものであるため、SH75の立て替えというより、組合せで1棟の建物とすることが、より確立の高い選択と思われる。その場合かなり複雑な建物構成となるため、この地区の中心建物、いわゆる母屋は確実である。

遺物は、P1から古瀬戸後Ⅳ期新段階と考えられる天目茶碗が、P4から12世紀中頃の渥美・湖西産の山皿が出土している。

2. 井戸状遺構

1号井戸（第57図）

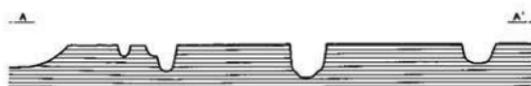
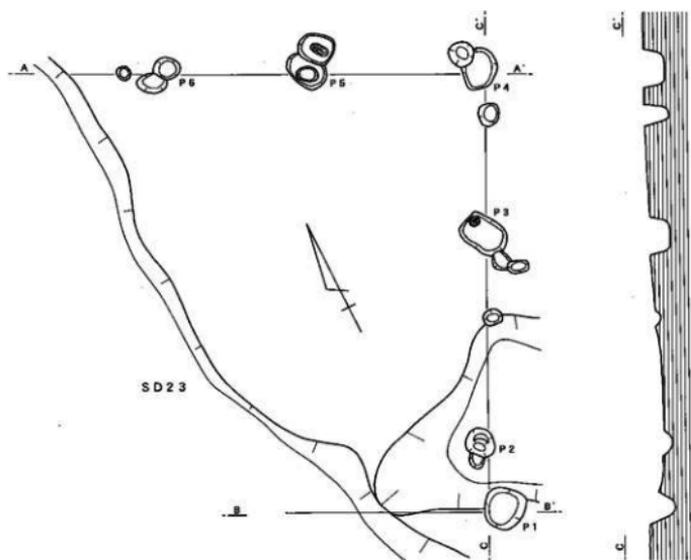
井壁を保護する設備がない、素掘り井戸である。水溜部分にのみ二段の木枠を使用している。素掘り部分の径は1.7m、深さ1.6mで海拔は0mにあたる。水溜部分の二段の木枠は、ほぼ70cm四方の正方形をしており、下段が高さ約50cm、上段が約40cmの高さである。この木枠は、転用材を使用しており、上段東側の枠には、駒が開けられている。木枠の外側は、水漏れを防ぐためか、約10cmの厚さで粘土が



SH73



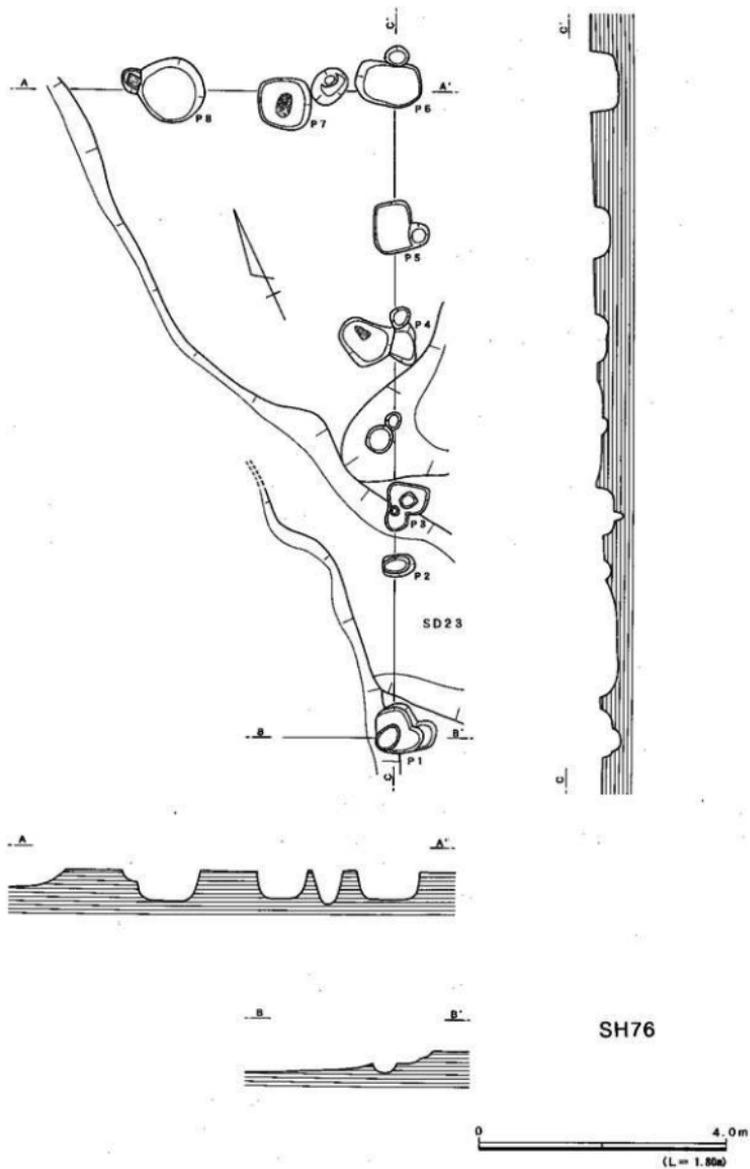
第54图 SH73 实测图



SH75



第55圖 SH75 實測圖



第56图 SH76 实测图

込められていた。木枠の中には、直径約15cm前後の曲物が3点出土している。この曲物以外で、年代の決め手となるような土器は出土していない。井戸の位置等から考え、SD4で区画された区域の井戸と推定され、SH1及びSH2に関わる井戸と思われる。隣接しているSE2からは、遺物が出土しており16世紀後半まで機能していたことが確実である。位置関係から、同時併存がないとすると16世紀前半の井戸という可能性が高くなる。

2号井戸（第58図）

SE1に隣接する井戸で、径約2m、深さ約1.6mの素掘り井戸である。井戸枠等が、抜き取られたのかどうかについては、不明である。井戸内に祭祀遺物と考えられる初山窯の天目茶碗1点、内禿皿4点が完形で出土している。これら土器と層位を同じくして包丁が完形で確認されている。井戸の底は海拔0mで、第2水点に達している。

おそらく、当遺跡で確認された最も最終段階に造られた井戸と思われる。

3号井戸（第58図）

SD5と重複する井戸で、溝より井戸が古い時期にあたる。断面図の1、2層が溝の最終流路で、最大時が3、4、5層である。溝による攪乱を受けているため、井戸の直径は確実性に欠けるが、確認時点で、長辺が3.6m、短辺が2.5mを測った。深さは、1.5mで海拔0mにあたる。おそらく井戸枠等は廃棄後、抜き取られたと推定される。8、9、10、13層の乱れが抜き取りのためのものと推定できる。

井戸跡と判明したのは、溝を掘った後のため、確実に井戸出土と呼べる遺物はない。1～5層の出土品はあるが、6層以下から遺物は出土していない。従って、確実な時期決定はできていない。15世紀代という可能性も残されている。

4号井戸（第59図）

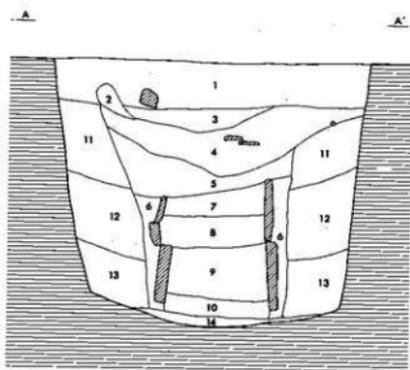
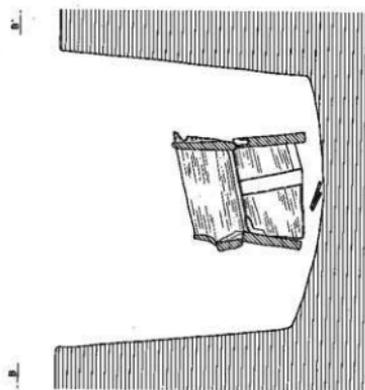
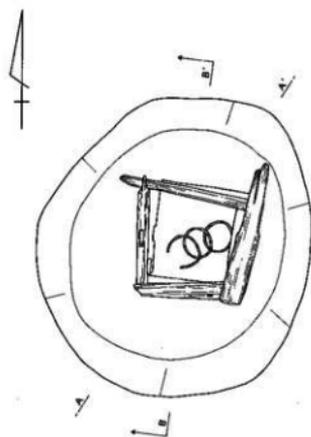
井戸が機能を停止した後、井戸枠等が抜き取られた井戸跡と考えられる。SD8とSD14によって区画された一角の中心的井戸と推定される。井戸枠を抜き取るためか、非常に大きく掘削を受けており、その径は5.4mにも及ぶ。深さは、約1.7mでSE1とほぼ同じで海拔0mとなる。

遺物は16点出土している。12世紀前半の山茶碗が2点、13世前半の山茶碗が1点、古瀬戸後Ⅲ期もしくはⅣ期の緑釉小皿、同後Ⅳ期新段階の緑釉小皿・摺鉢・平碗、常滑産11型式の片口鉢、三ツ沢産摺鉢が2点、瀬戸・美濃産大窯1期の天目茶碗・緑釉挟み皿・摺鉢、同大窯2期の靑皿もしくは丸皿が2点、丸皿が出土している。これらの遺物から、この井戸が機能を停止したのは16世紀の後半になってからということになる。第5層および第6層から、大量の木製品が出土している。漆碗、完形の木製鉢、火きり白、棧の残る建築部材等が出土している。この第5、6層が堆積する時点の短期間に投棄された遺物と考えられる。

遺物から見る限り、この井戸は15世紀末頃に掘られ、16世紀後半までその機能を果たしていた可能性が最も高い。

5号井戸（第60図）

9区のほぼ中央に位置する大型の素掘り井戸で、水溜部分に木枠が使用されている。径約2.0m・深さ1.5mで底は海拔0mにあたる。木枠の中で最も長いものは、約1.7mを測る大型のもので、船材を転用したものであった。高さは約70cmで、1.5m前後の木杭で止めてあった。水溜部分の上で段掘りになっており、水溜の木枠部分の回りにのみ粘土で固められていた。木製品は、かなり多く含まれていた

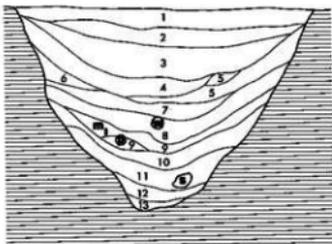
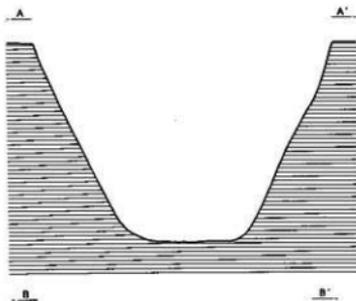
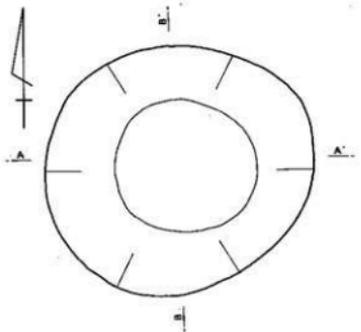


- 1層 褐色粘土
- 2層 灰色砂質粘土(砂粒含心)
- 3層 灰色砂質粘土(砂粒含心)
- 4層 灰色砂質粘土
- 5層 暗灰色砂質粘土(礫含心)
- 6層 灰色粘土
- 7層 暗灰色砂質粘土
- 8層 暗灰色砂質粘土(炭化物含心)
- 9層 暗灰色砂質粘土(腐植物含心)
- 10層 灰色砂質土
- 11層 灰色粘土
- 12層 暗灰色粘土
- 13層 暗灰色粘土(砂粒含心)
- 14層 灰色粘土(礫含心)

SE 1

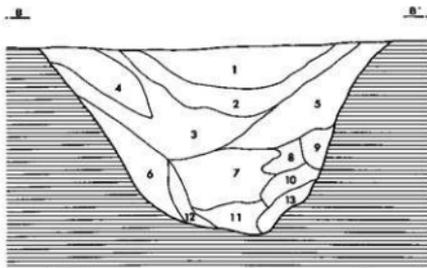
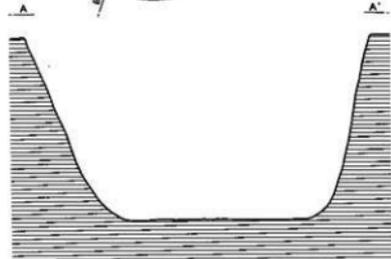
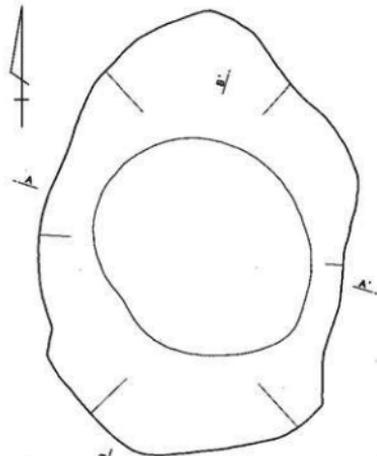


第57図 SE 1 実測図



- 1層 褐色砂質粘土
- 2層 灰色砂質土
- 3層 明灰色粘土
- 4層 暗灰色粘土
- 5層 灰色砂質粘土
- 6層 暗灰色砂質土
- 7層 明灰色砂質粘土
- 8層 暗灰色砂質粘土
- 9層 暗灰色砂質粘土
- 10層 暗灰色砂質粘土(砂質との互層)
- 11層 暗灰色砂質粘土(粘土固含む)
- 12層 灰色砂質粘土
- 13層 暗灰色砂質粘土

SE 2

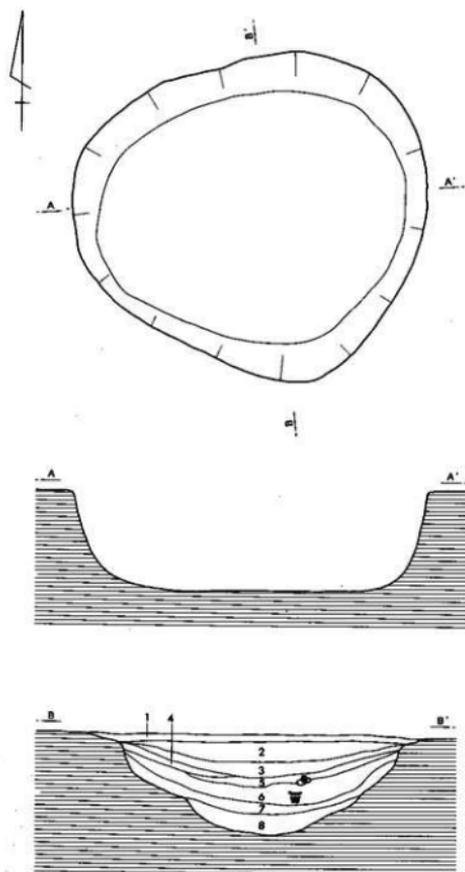


- 1層 明灰色砂質土
- 2層 暗灰色砂質粘土
- 3層 暗灰色砂層
- 4層 暗灰色砂質粘土
- 5層 暗灰色砂質粘土
- 6層 青灰色砂質粘土
- 7層 暗灰色砂質粘土(有機質含む)
- 8層 暗灰色砂層
- 9層 明灰色砂質土
- 10層 暗灰色砂層
- 11層 暗灰色砂質粘土
- 12層 暗灰色砂層
- 13層 暗灰色砂質粘土

SE 3



第58図 SE 2・SE 3実測図

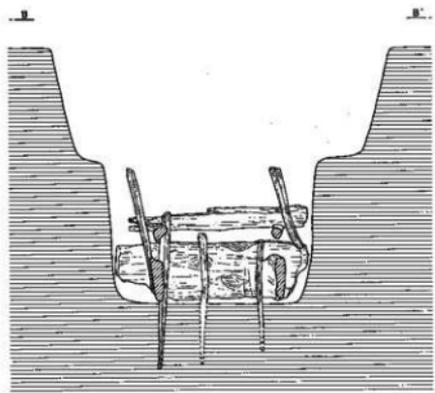
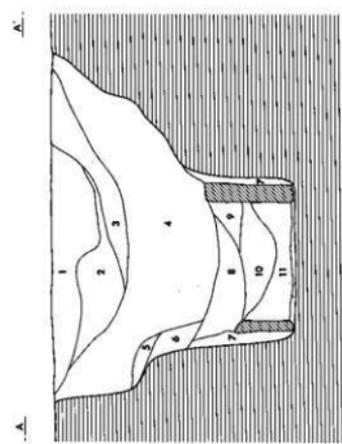
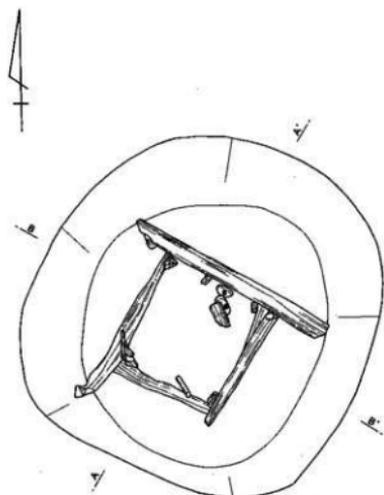


- 1層 褐色粘土
- 2層 明灰色粘土
- 3層 灰色砂質粘土
- 4層 暗灰色砂質粘土
- 5層 暗灰色粘土(有機質含心)
- 6層 灰色粘土(明暗互層)
- 7層 暗灰色粘土
- 8層 暗灰色粘土(砂粒含心)

SE 4



第59圖 SE 4 實測圖

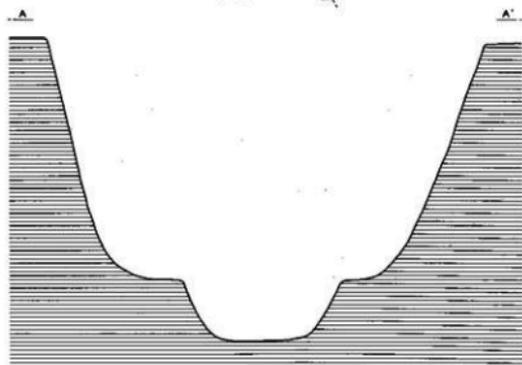
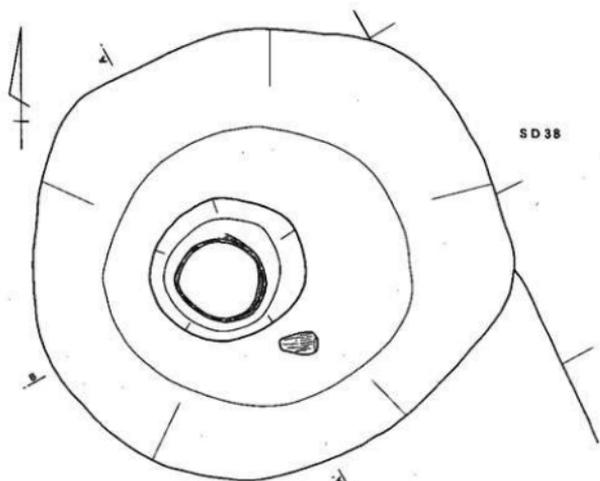


- 1層 明灰色砂質粘土
- 2層 青灰色砂質粘土
- 3層 褐色礫植土
- 4層 灰色粘土
- 5層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 6層 暗灰色粘土
- 7層 青灰色粘土(粘性強)
- 8層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 9層 灰色砂質粘土
- 10層 灰色粘土(砂粒含む)
- 11層 灰色砂質土
- 12層 灰色粘土(礫含む)

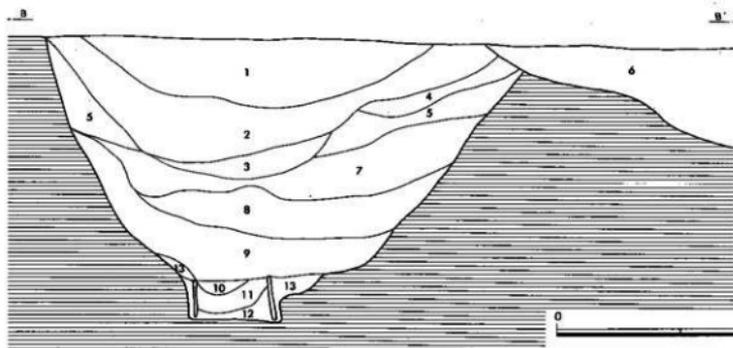
SE 5



第60圖 SE 5 実測図



- 1層 明灰色粘土(マンガン粒含む)
- 2層 暗灰色粘土
- 3層 灰色粘土
- 4層 灰色粘土
- 5層 明灰色粘土(炭化物含む)
- 6層 灰色粘土(砂粒含む)
- 7層 暗褐色砂質粘土
- 8層 明灰色粘土
- 9層 明灰色粘土(炭化物含む)
- 10層 灰色粘土(礫含む)
- 11層 灰色粘土
- 12層 明灰色粘土(礫含む)
- 13層 灰色粘土



SE 6



第61図 SE 6 実測図

が、土器は瀬戸・美濃産大窯1期の摺鉢、常滑産6a型式の山皿2点のみが出土しているだけである。

6号井戸（第61図）

SH52を井戸屋とする素掘り井戸で、水溜部分に曲物を使用している。径は約1.9m、深さ約1.2mを測る。井戸底は、海拔約15cmであった。水溜部分の枠が残っている井戸で、曲物を使用しているものはこの井戸のみであるため、若干の時期差も推定される。だが、遺物が出土していないため確実な時期決定はできない。

3. 土坑状遺構

1号土坑（第62図）

SD4西端北側で検出された方形の土坑である。長辺約2.6m・短辺2.3m・深さ1.3mを測る規模である。この土坑は、一時的に埋まったのではなく徐々に埋没した状況を示している。第1層の灰色砂質土は、流路によるもので、この時点では、径1.2m・深さ50cm程の土坑があったと推定される。この土坑は、SF1の最終形態ではなく、この時点で掘られた土坑の可能性が高い。従ってSF1は、前後2時期にわたって使用された土坑ということになる。遺物の出土はない。

2号土坑（第63図）

SD5西端の南側に位置する大型土坑で、長辺約6.7m・短辺6.4m・深さ1.5mを測る。非常に短期間に埋まった土坑と考えられる。可能性としては、井戸枠を抜き取るために大きく掘り起こしたことも想定される。土坑底が、海拔0mで他の井戸と同一であることが、この想定に繋がっている。また、周辺区域で柱穴がほとんど検出されていないことも、この可能性を補強する一つの事実である。現時点では、土坑として報告するが、遺物の詳しい検討をした後再検討することとする。

出土遺物は非常に多く、65点を数えた。12世紀代の遺物が2点、13世紀代の遺物が30点、14世紀代の遺物が9点、15世紀代の遺物が22点、16世紀代の遺物が2点という内訳である。遺物の細かな内容から判断すると、おそらく15世紀後半に機能を開始し、16世紀の中頃にその機能を停止したとするのが最も妥当な推定であろう。

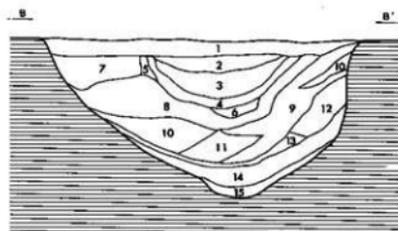
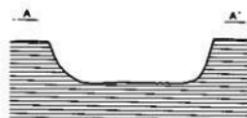
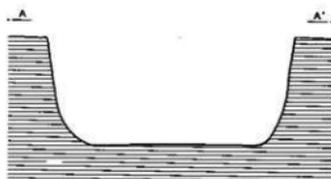
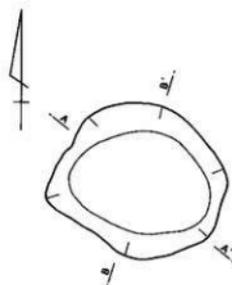
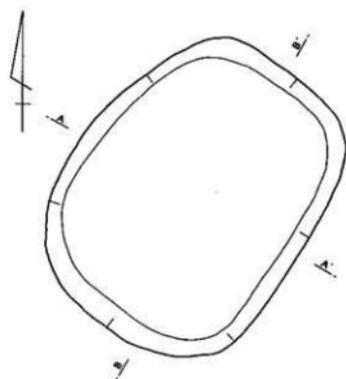
3号土坑（第62図）

SD8上面で検出された土坑で、長辺約1.5m・短辺1.3m・深さ33cmを測る。どのような機能を持つ土坑なのかは不明で、東隣に位置するSF5よりかなり浅い。北側に隣接して、墓がありこの墓にかかわる土坑の可能性も考えられる。

出土遺物は、古瀬戸後期の壺もしくは瓶の破片と瀬戸・美濃産の時期不明の天目茶碗の破片の2点である。

4号土坑（第64図）

SE3とSF2の中間地点に位置する土坑で、長辺約1.6m・短辺1.4m・深さ1.1mを測る。形状は段掘りで、50cmを境に二段に掘られている。最深部に位置する第5層は、急激に埋まっており、その後徐々に埋没した状況を示している。1層・2層の時期と、3層以下の層の2時期に分かれる可能性も高い。遺物は出土していない。



1層 灰色砂質土

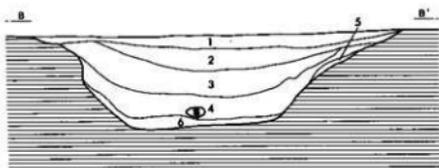
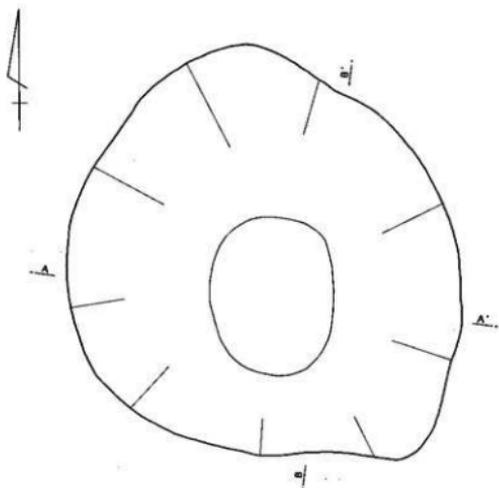
SF 3

- 1層 灰色砂質土
- 2層 暗灰色砂質土
- 3層 暗灰色砂質粘土
- 4層 暗褐色砂質粘土
- 5層 暗灰色砂質粘土
- 6層 暗灰色砂質粘土
- 7層 灰色砂質粘土
- 8層 暗灰色砂質粘土
- 9層 黑褐色砂質粘土
- 10層 暗灰色砂質粘土
- 11層 暗灰色粘土
- 12層 暗灰色粘土
- 13層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 14層 暗灰色粘土(砂粒含む)
- 15層 暗灰色粘土(砂粒含む)

SF 1



第62図 SF 1・SF 3実測図

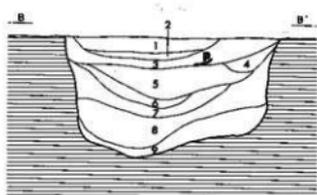
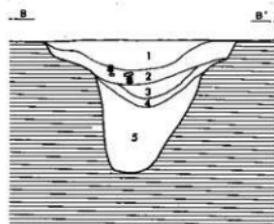
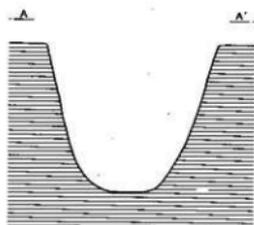
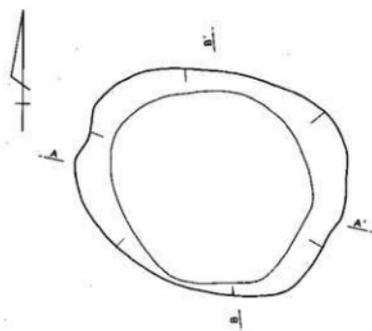
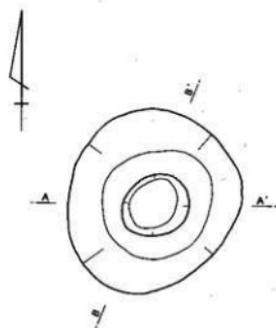


- 1層 灰色砂質粘土
- 2層 灰色砂質粘土(砂質多い)
- 3層 灰色砂質粘土(有機質含む)
- 4層 灰色砂質粘土(有機質含む)
- 5層 黒色砂質粘土
- 6層 青灰色粘土

SF 2



第63図 SF 2 実測図



- 1層 暗灰色砂質土
- 2層 暗褐色砂質土
- 3層 灰色粘土
- 4層 灰色粘土(砂粒含む)
- 5層 灰色砂質粘土

- 1層 褐色土
- 2層 暗灰色粘土
- 3層 暗灰色粘土(マンガン粘多量に含む)
- 4層 灰色粘土
- 5層 灰色粘土
- 6層 灰色粘土
- 7層 暗灰色粘土
- 8層 黒灰色粘土(粘土固含む)
- 9層 黒灰色粘土(有機質多量に含む)

SF 4

SF 5



第64図 SF 4・SF 5実測図

5号土坑 (第64図)

S F 3の東側に位置する土坑で、SD 8と重複している。SD 8よりは新しい土坑で、長辺約2.2m・短辺1.9m・深さ95cmを測る。土坑は、逆台形をしており、除々に埋没した状況である。最下層の第9層は有機質を多量に含んだ黒灰色粘土で、平均15cm程溜まっていた。この有機質層の中に、三ツ沢産の鉋皿が出土している。また、土坑中層で、常滑産9型式の片口鉢が、上層で11型式の片口鉢が出土した。遺物から見る限り、長期間にわたる使用が推定されるが、3層を境に2時期に区分されることも想定される。

7号土坑 (第65図)

集落の南端を区画する溝SD 16の北側に集中する土坑群の一つである。ほぼ円形で、径約1.2m・深さ約96cmを測る大きさで、中層から下層にかけて炭化物を含む粘土が堆積していた。いわゆるゴミ穴と考えられ、古瀬戸後Ⅳ期新段階の摺鉢が出土している。便所という可能性も考えられるため、寄生虫卵の分析中である。遺物から見る限り、15世紀後半頃の廃絶と考えたい。

8号土坑 (第65図)

S F 7の北西横に位置する一回り大型の土坑で、径約1.8m・深さ約1.4mを測る。堆積状況を見る限り、かなり短期間で堆積したものと推定され、S F 7同様ゴミ穴の可能性が高い。遺物は、古瀬戸後ⅠもしくはⅡ期の盤類、同後Ⅲ期の縁軸小皿・直縁大皿が出土している。遺物が少ないため、時期決定が困難だが、15世紀後半頃の廃絶と推定される。

9号土坑 (第66図)

S F 7の南東横に位置する一回り大型の土坑で、区画溝SD 16に沿って3基連続して確認された土坑群の1基である。SD 16の最上層の含土を被っており、SD 14が氾濫によってオーバーフローした段階では、すでに埋没していたと考えられる。含土第2層から4層までが、砂質の強い含土であるため、一度埋まった後、掘り返された可能性もある。ほぼ円形の土坑で、径約1.8m・深さ約1.0mを測る。遺物は出土していない。

12号土坑 (第67図)

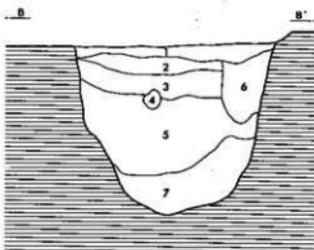
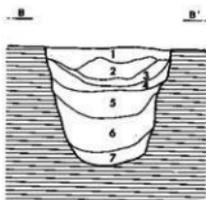
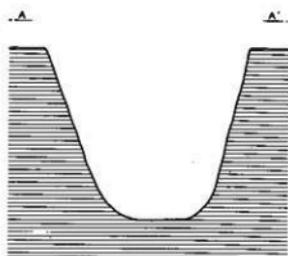
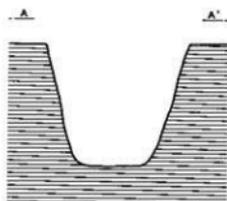
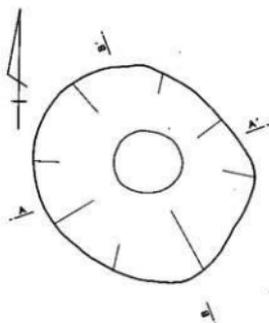
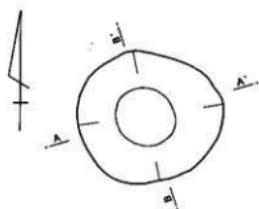
SD 14が、ほぼ直角に折れ曲がる北側に位置する円形土坑で、径約1.6m・深さ約95cmを測る。形状は深鉢型をしており、順次堆積した様子がよくわかる。第4層の炭化物を含む灰色砂質粘土層には石・木片・土器片が含まれていた。しかし、土器が細片のため時期決定までには至っていない。

13号土坑 (第66図)

調査第1区の北側端に位置する土坑である。長辺約1.7m・短辺約1.4m・深さ78cmを測り、O字状を呈している。第1から3層は、掘り返しの可能性もある。また、第1、2層は、流路等による堆積ということも考えられる。遺物は出土していない。

14号土坑 (第68図)

長方形を呈す浅い土坑で、長辺約2.5m・短辺約1.7m・深さ約18cmを測る。第1層の暗灰色粘土層に、木製品や土器片が混入していた。時期決定が可能な遺物は1点で、それも常滑産の壺もしくは甕の体部であるため、15~16世紀代としか捉えられない。重複する建物SH 32との新旧関係は不明である。



- 1層 褐色砂質粘土
- 2層 明灰色砂質粘土
- 3層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 4層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 5層 青灰色粘土(炭化物含む)
- 6層 青灰色粘土(炭化物含む)
- 7層 灰色粘土(砂粒含む)

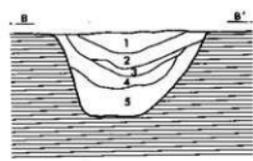
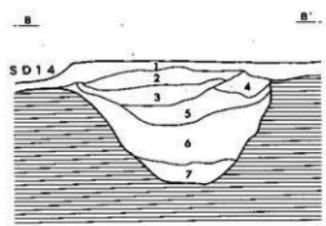
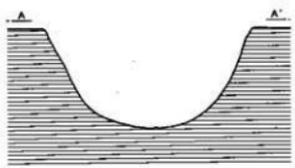
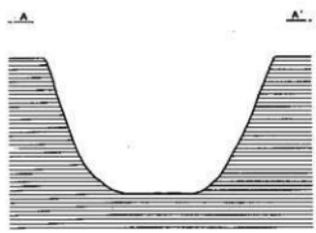
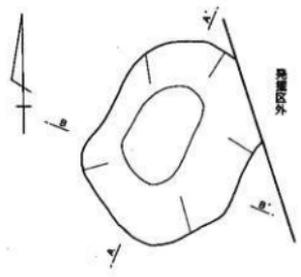
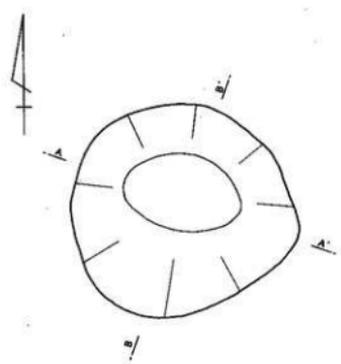
- 1層 褐色砂質土
- 2層 灰色砂質粘土
- 3層 灰色砂質粘土
- 4層 暗灰色粘土
- 5層 暗灰色粘土(鉄分多く含む)
- 6層 灰色砂質粘土
- 7層 灰色砂質粘土(砂粒含む)

SF 7

SF 8



第65圖 SF 7・SF 8 実測図



- 1層 明褐色砂質土
- 2層 褐色砂質粘土
- 3層 灰色砂質粘土
- 4層 明灰色砂質粘土(砂粒多い)
- 5層 灰色砂質粘土(鉄分多い)
- 6層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 7層 灰色砂層(有機質含む)

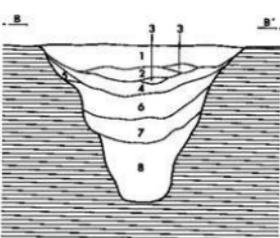
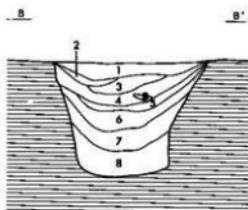
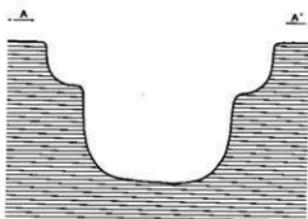
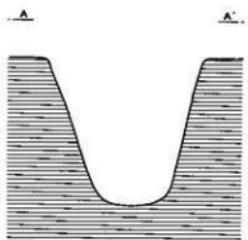
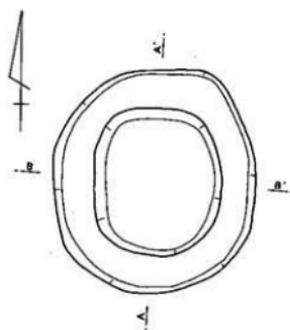
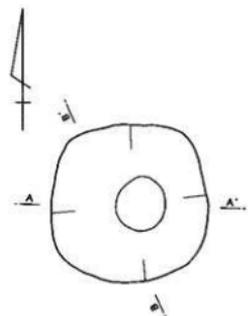
- 1層 褐色砂質土
- 2層 灰色砂質土
- 3層 灰色粘土
- 4層 暗灰色粘土
- 5層 暗灰色粘土

SF13

SF9



第66図 SF9・SF13実測図



- 1層 褐色砂質土
- 2層 褐色砂質土(炭化物含む)
- 3層 灰色砂質粘土(鉄分含む)
- 4層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 5層 灰色砂質粘土
- 6層 青灰色砂質粘土
- 7層 青灰色粘土 (粘土ブロック含む)
- 8層 青灰色粘土

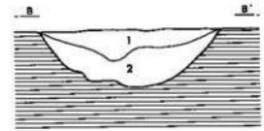
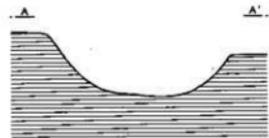
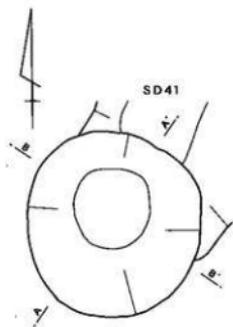
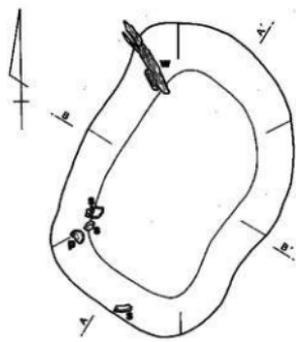
- 1層 褐色砂質粘土
- 2層 灰色砂質粘土
- 3層 灰色粘土
- 4層 灰色粘土(炭化物含む)
- 5層 暗褐色砂質粘土
- 6層 暗灰色粘土
- 7層 青灰色粘土
- 8層 青灰色粘土(礫含む)

SF16

SF12



第67図 SF12・SF16 実測図



- 1層 暗灰色粘土
- 2層 褐色粘土
- 3層 灰色粘土
- 4層 暗灰色砂質粘土

- 1層 灰色砂質粘土
- 2層 暗灰色粘土

SF14

SF44



第68圖 SF14・SF44 實測圖

15号土坑 (第69図)

9区ほぼ中央に位置する円形土坑で、径約2.7m・深さ約46cmを測り、かなり大型である。堆積層は色調に若干の違いは見られるが、ほとんど砂質の強い粘土層である。一時期に堆積したと考えられ、重複するSH30よりは、新しい時期と推定される。遺物は出土していない。

16号土坑 (第67図)

区画溝SD24が、船入り口のSD28と分岐する北側に位置する円形土坑で径約1.8m・深さ約1.3mを測る。最下層の第8層は、礫を含んだ青灰色粘土で、流路等による堆積と推定される。上層の第1、2層は、砂質を含んだ粘土で、これも流路等に伴う堆積の可能性が高い。第4層の炭化物を含む灰色粘土に木片等が混在している状況であった。かなりの大型土坑で、しっかりと掘り方を持っているにも関わらず遺物は出土しなかった。区画溝SD24との新旧関係はつかみきれていない。

17号土坑 (第70図)

区画溝SD24に隣接する大型土坑で、長辺約7.3m・短辺約7.0m・深さ72cmを測る。かなり急激に埋没しており、第1層とした黒褐色腐植土は、炭化物と腐植土が厚さ2~3cmで互層となっていた。この第1層をはずした段階で、小穴が検出されたため、第1層の堆積は明らかに小穴より新しいことが判明する。第1層の堆積が、洪水によるものと考えた場合、建物より古い時期の土坑で、急激に堆積し埋没した状況が想定される。この土坑は、基盤となる洪水堆積層の上面に設けられていた。木製品や土器は、かなり小破片が混入するだけで、確実に時期確定できるものは確認されていない。西隣に隣接する、同規模の土坑とは、まったく異なった様相である。

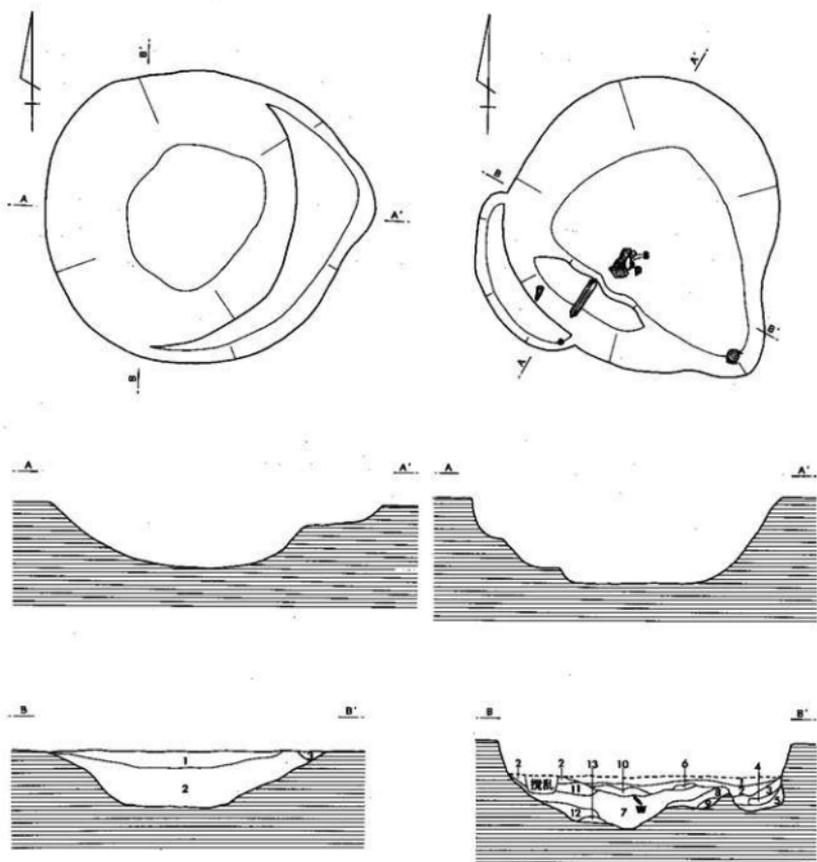
18号土坑 (第69図)

区画溝SD24を挟んで、SF17の対岸に位置する大型の土坑で、径約5.2m・深さ1.4mを測る。土坑東側には、元島遺跡で最も重要な倉庫と考えられるSH55がある。土坑周辺は、SD24及び32が交差する場所であり、さらにSR7の含土に一面おおわれていたため、上層からの遺構検出が困難であった。そのため、土層断面は中途から実測することしか出来なかった。土器については、上層から下層にかけて、かなり多く検出されている。木製品は、第7層の腐植物を多量に含む灰色砂質粘土層からの出土が多い。特に、土坑縁辺部で出土している。形状は、かなり不定型で、底も3段に分かれていた。出土遺物は、12世紀代が1点、13世紀代が3点、14世紀代が6点、15世紀代が7点、16世紀代が11点であった。15世紀後半(明応地震後?)に掘られ、16世紀代を通じて機能しており、廃絶したのは16世紀の末頃以降という可能性が高い。

19号土坑 (第71図)

SH55の西北隅北側に位置する土坑で、SD25及び小穴と重複している。SD25、小穴より新しいことは確実だが、建物との関係は不明である。ほぼ円形の土坑で、上層3層と最下層との埋没状況に若干の違いが認められる。最下層の4層は、炭化物を多く含む暗灰色粘土層で、かなり急激に埋まったと考えられる。その後、除々に埋まっていったようで、第1層は、洪水層に伴うことも考慮に入れる必要を感じる。規模は、径約1.3m・深さ約78cmである。遺物は、合計3点出土しているが小破片であった。いずれも、穴窟から大窯に変化する時点と推定される天目茶碗であった。

15世紀後半から16世紀の初頭にかけての短期間に機能した土坑の可能性が高い。



- 1層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
 2層 灰色砂質粘土(下層に腐植物)
 3層 暗灰色砂質粘土

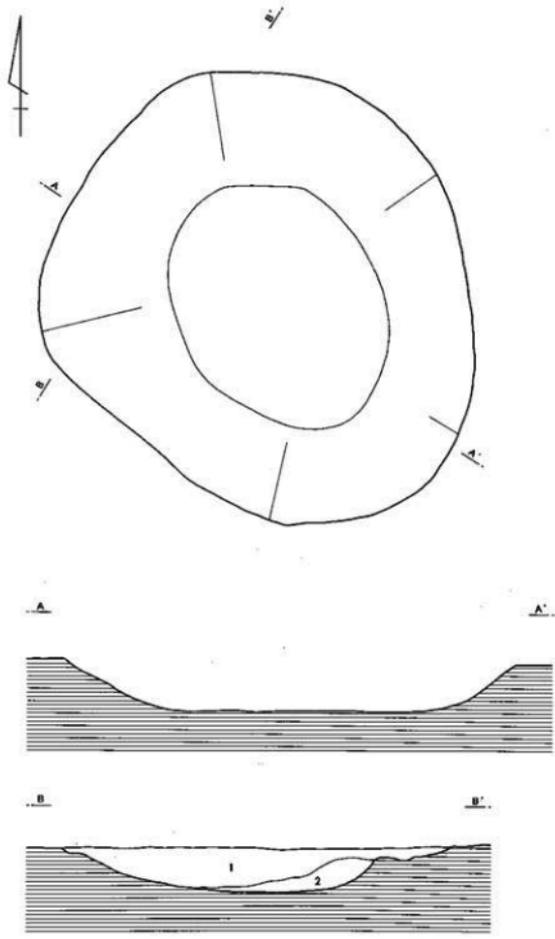
SF15

- 1層 灰色砂質粘土
 2層 灰色砂質粘土(腐植物少し含む)
 3層 明灰色砂質粘土(炭化物含む)
 4層 灰色砂質粘土
 5層 灰色砂層
 6層 明灰色粘土(腐植物多く含む)
 7層 灰色砂質粘土(腐植物多く含む)
 8層 明灰色粘土
 9層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
 10層 青灰色砂質粘土
 11層 灰色粘土(鉄分含む)
 12層 暗灰色砂質粘土
 13層 暗灰色粘土

SF18



第69図 SF15・SF18実測図

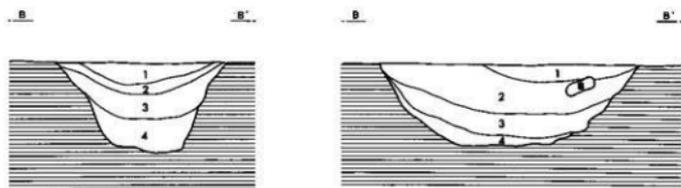
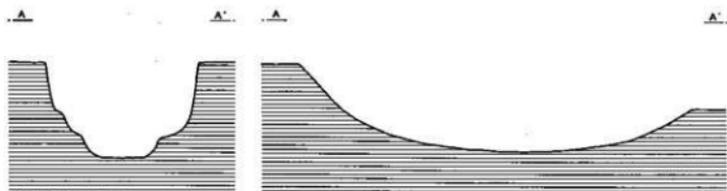
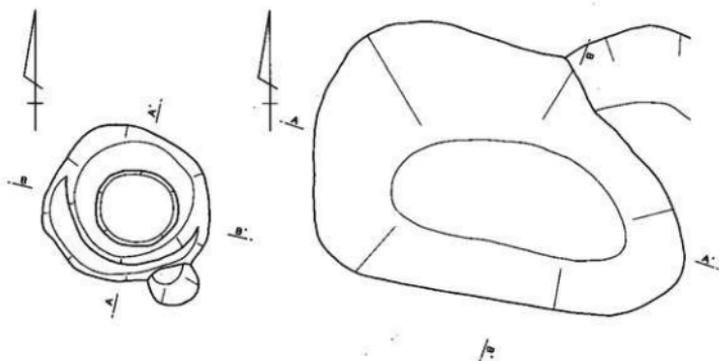


- 1層 黑褐色腐植土(互層)
- 2層 灰色砂質粘土

SF17



第70圖 SF17 実測図



- 1層 暗灰色砂質粘土
 2層 暗灰色粘土
 3層 暗灰色粘土(炭化物含む)
 4層 暗灰色粘土(炭化物多い)

SF19

- 1層 灰色砂質粘土
 2層 灰色粘土
 3層 暗灰色粘土(炭化物含む)
 4層 暗灰色粘土

SF20



第71図 SF19・SF20 実測図

20号土坑 (第71図)

船入りと推定される溝SD28の北側、SH56の西脇に位置する大型土坑である。長辺約3.2m・短辺約2.0m・深さ約65cmの大きさで、船入りがオーバーフローした時期（鹿絶後？）より新しい時期と考えられる。周辺区域にある土坑と同様に、下層部分に炭化物の混在する層があり、上層程砂質となっている。

出土遺物は3点と少なく、大窯3期の摺鉢、古瀬戸後Ⅲ期の小鉢、13世紀代の常滑製品であった。おそらく、常滑製品は基盤の洪水層の遺物と思われる。

21号土坑 (第72図)

区画溝SD39の西脇にある長辺約2.4m・短辺約1.8m・深さ60cmの土坑である。区画溝と同時期に機能していたものと推定され、第4層及び第1層は、溝の流れが土坑に入り込んで堆積した可能性が高い。第5・6層の炭化物を含む層は、他の土坑と共通する部分で、炭化物を含む土が堆積しやすい状況が一時期の元島遺跡の、この周辺にあったと考えられる。遺物は、木片以外確認されていない。

22号土坑 (第72図)

区画溝SD39が、流路SR8と交差する西隅に位置する土坑で、SD39のオーバーフローした土を外した段階で検出された。かなりしっかりした掘り方を持つ土坑で、長辺約2.5m・短辺約2.1m・深さ約91cmを測る。最下層は急激に堆積し、その後徐々に埋まっていったようである。土層の堆積状況を見る限り、溝の影響はあまり受けた様子はない。遺物の出土はないが、SD39を外した段階の検出であるため、第Ⅱ面という可能性も残されている。

25号土坑 (第72図)

区画溝SD32と39が交差する東側に位置する、長辺約1.8m・短辺1.7m・深さ56cmを測る台形の土坑である。かなり急激に堆積し、埋没した土坑と推定され、最上層は流路等の河川堆積と推定される。

出土遺物は、古瀬戸後Ⅳ期新段階の摺鉢である。この遺物1点のみでの時期決定は困難で、Ⅰ面・Ⅱ面どちらの遺構とも言い難いが、確認面で報告することにした。

26号土坑 (第73図)

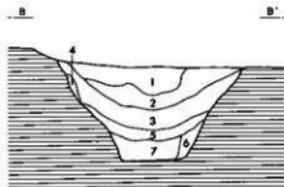
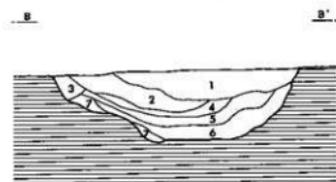
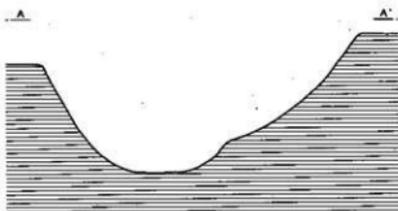
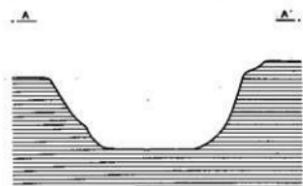
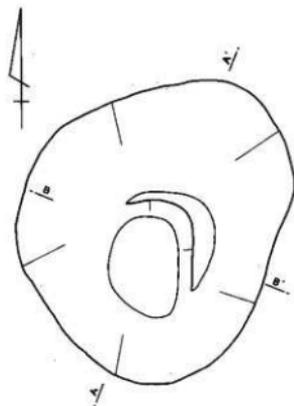
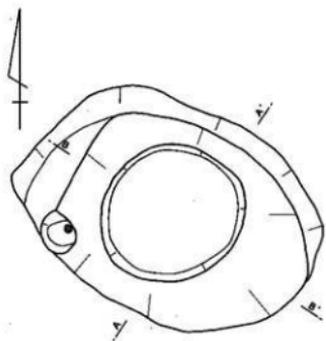
SF25の右横に位置する円形土坑で、径約1.5m・深さ48cmを測る。第1層と第2層の境目にかなり大きめの石が埋没していた。石は自然石で、加工痕等は確認されなかった。最下層半分に厚さ約5cm程の炭化物を含む暗灰色粘土層が確認されている。遺物は、大窯1期の緑釉挟み皿、三ツ沢産の緑釉皿が出土している。明応地震後に設けられた土坑の可能性が高い。

27号土坑 (第73図)

SH64と重複する楕円形土坑で、長辺約1.8m・短辺1.0mである。深さは、約20cmと浅く、粘土の色調の違いから分層されたが、土質に変化はほとんど見られない。おそらく、同時期に埋まったと考えられる。建物との新旧関係は不明で、遺物も出土していない。

34号土坑 (第74図)

SD41とSR9に挟まれた地点に位置する土坑群の内の一基で、長辺約2.5m・短辺2.1m・深さ88cmの規模である。第6、7層が堆積した後に、再度第5層を掘り返したことも考えられる。この第5層は、



- 1層 灰色砂質粘土
- 2層 暗灰色粘土
- 3層 暗灰色粘土
- 4層 暗灰色粘土(砂粒含む)
- 5層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 6層 暗灰色粘土(炭化物多い)
- 7層 灰色粘土

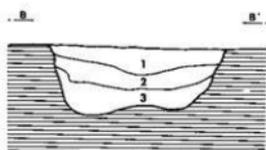
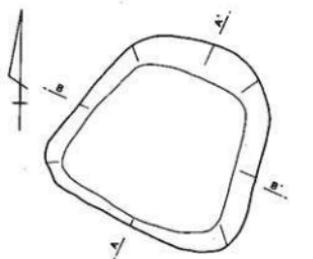
- 1層 灰色粘土(炭化物含む)
- 2層 明灰色粘土
- 3層 暗灰色粘土
- 4層 灰色粘土(砂粒含む)
- 5層 灰色粘土
- 6層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 7層 灰色砂質粘土

SF21

SF22

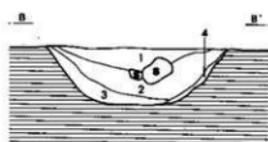
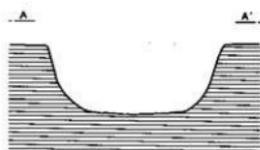
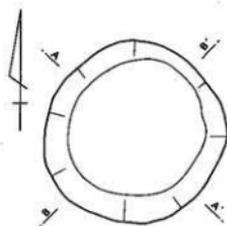


第72図 SF21・SF22実測図



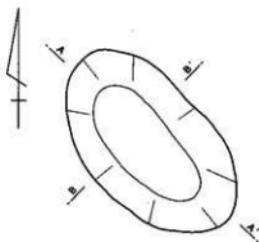
- 1層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 2層 灰色粘土
- 3層 暗灰色粘土

SF25



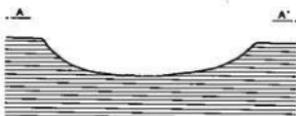
- 1層 灰色砂質粘土
- 2層 暗灰色砂質粘土
- 3層 暗灰色粘土
- 4層 暗灰色粘土(炭化物含む)

SF26



- 1層 灰色粘土
- 2層 暗灰色粘土

SF27



第73図 SF25・SF26・SF27 実測図

腐植物を含む青灰色砂質粘土で、木材・木片を含んでいた。最大の木材は、70cm程と大きく、廃棄したのかどうかは判然としない。土器等の遺物の出土は見られない。

35号土坑（第75図）

S F 34の南側、S F 36と接した円形土坑である。径約2.0m・深さ59cmで、除々に堆積した様子がその断面から確認できる。S F 36とは、同時期に機能していたことが考えられ、最下層である第4層の炭化物を含む粘土層は、S F 36の第4層とまったく同一の様相を示し、同時期に堆積したと思われる。

出土遺物は、古瀬戸後期の壺もしくは瓶と古瀬戸後IV期新段階の腰折皿と大窯2期の破皿、15～16世紀代の常滑製品である。この土坑は、集落移転まで機能していた可能性が高い。宣徳通寶も1枚のみ出土している。

36号土坑（第75図）

S F 35と接した土坑で、長辺約5.0m・短辺3.3m・深さ92cmの大型である。二時期に渡って機能していたと推定され、土坑北側のS F 35と接する部分が、再度掘り返されたようである。古い土坑は、粘性の強い粘土が堆積しているのに対し、新しい土坑は、腐植や炭化物を含む堆積土が多い。古い土坑の最上層の灰色砂質粘土と、新しい土坑の最上層の灰色砂質粘土は、共に流路等に伴う堆積層と考えられ少なくとも2度にわたって、洪水等の被害を受けたことが推定される。これ程の規模を持つ土坑にも関わらず、1点の遺物も出土していない。

37号土坑（第74図）

船入り状遺構のS D 65と区画溝S D 39が交差する部分に位置する円形土坑である。径約1.0m・深さ80cmで、急激に堆積して廃絶したようである。船入り遺構との新旧関係ははっきりしないが、出土遺物から見る限り同時併存の可能性が高い。堆積土が、溝との関連を示さないのが気掛かりである。出土遺物は1点で、常滑産12型式の甕口縁部であるが、おそらく混在したものと考えられる。

38号土坑（第74図）

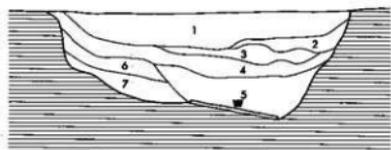
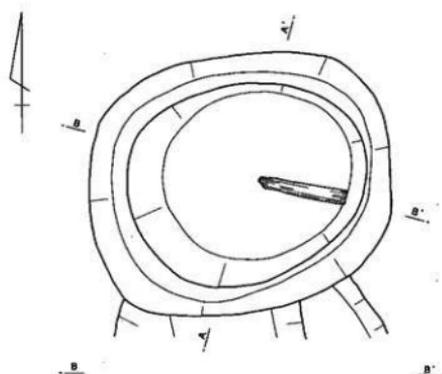
S F 37の南、区画溝S D 39に隣接する土坑で、径約1.0m・深さ70cmとS F 37とほとんど同規模である。除々に堆積していった状況を示しており、第3層に腐植物が見られる。遺物が出土していないため時期決定ができないが、16世紀代のものと推定される。

39号土坑（第76図）

S H 66・67・69とほぼ十字に囲まれた中に位置する土坑で、径約2.4m・深さ1.3mと大型である。土層は、大きく三層に分かれ、最下層である第5層が腐植物を含む灰色粘土層で、かなり急激に堆積した様子がわかる。遺物は出土していない。第5層の急激な堆積、第6層と分離される窪み状の掘り込み等を考えると、井戸ということも推定される。井戸枠を抜き取ったために、上記のような様相を示すことが十分考えられる。また、最深部の標高は10cmと、確認された他の井戸とほぼ同一レベルである。

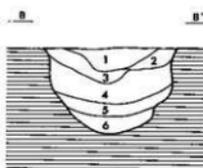
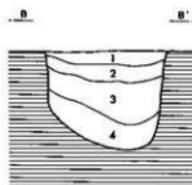
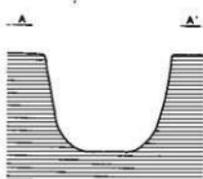
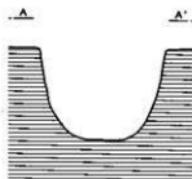
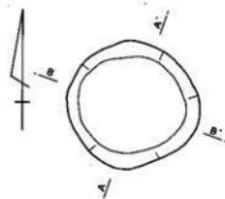
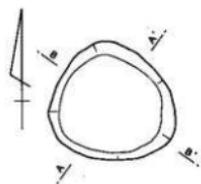
40号土坑（第77図）

8区調査区端に位置する円形土坑で、径約95cm・深さ56cmと小形である。南に隣接してS F 41がある他は、周辺に遺構がない空白域である。遺物も出土しておらず、かなり急激に埋没したということ以外は判然としない。



- 1層 灰色砂質粘土
- 2層 明灰色砂質粘土(砂粒多い)
- 3層 明灰色砂質粘土
- 4層 灰色砂質粘土
- 5層 青灰色砂質粘土(腐植物含む)
- 6層 明灰色砂質粘土
- 7層 灰色砂質粘土

SF34



- 1層 明灰色砂質粘土
- 2層 灰色砂質粘土
- 3層 灰色粘土
- 4層 暗灰色粘土

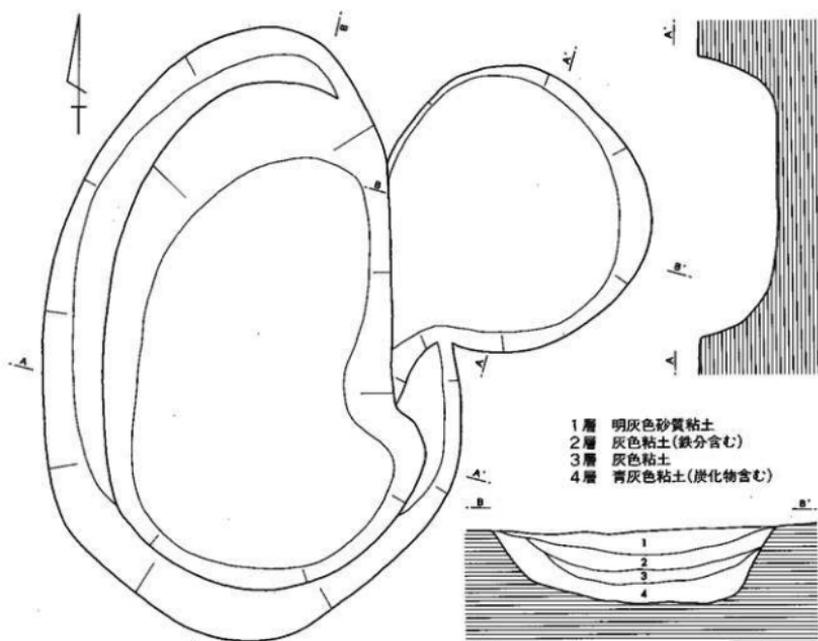
- 1層 明灰色砂質粘土
- 2層 明灰色粘土
- 3層 灰色粘土
(腐植物含む)
- 4層 灰色粘土
- 5層 暗灰色粘土
- 6層 暗灰色粘土

SF37

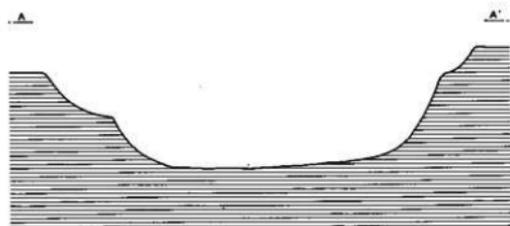
SF38



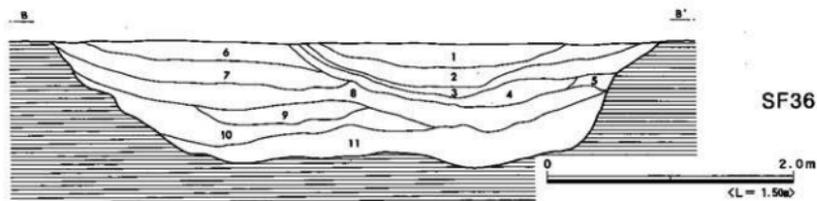
第74図 SF34・SF37・SF38 実測図



SF35

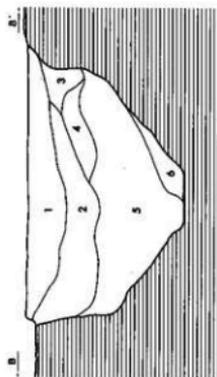
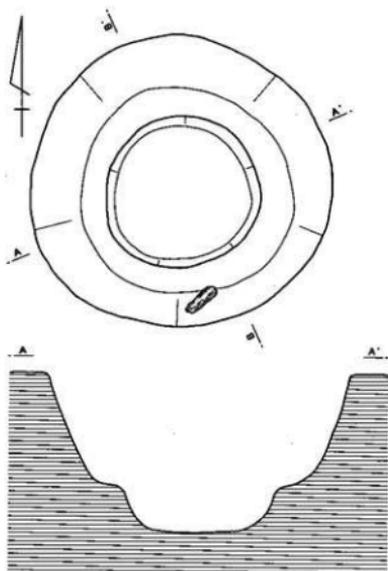


- 1層 灰色砂質粘土
- 2層 灰色粘土
- 3層 暗褐色腐植土層
- 4層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 5層 暗灰色粘土(腐植物含む)
- 6層 灰色砂質粘土
- 7層 灰色粘土
- 8層 暗灰色粘土(粘性強)
- 9層 暗灰色粘土
- 10層 暗灰色粘土(腐植物含む)
- 11層 暗灰色粘土



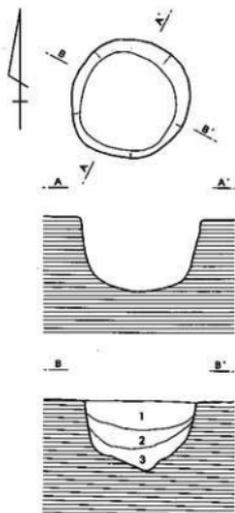
SF36

第75圖 S F35・S F36 実測圖



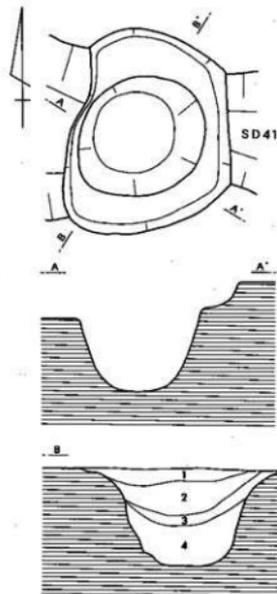
- 1層 灰色砂質粘土
 2層 灰色粘土
 3層 灰色砂質粘土
 4層 青灰色砂質粘土
 5層 灰色粘土(腐植物含心)
 6層 暗灰色粘土

SF39



- 1層 灰色砂質粘土
 2層 灰色粘土
 3層 暗灰色粘土

SF40



- 1層 灰色砂質粘土
 2層 灰色粘土
 3層 暗灰色粘土
 4層 暗灰色粘土(炭化物含心)

SF42



第76圖 SF39・SF40・SF42 実測図

41号土坑（第77図）

S F 40の南に位置する大型土坑で、長辺約3.3m・短辺2.8m・深さ1.2mを測る。非常に急激に堆積しており、第1層の灰色砂質粘土は、流路等に伴う堆積と考えられる。遺物は、木製品も含めてまったく確認されていない。最下層は海拔0mを示し、他の井戸と同じである。S F 39同様、井戸枠を抜き取った井戸の可能性もある。現時点では、土坑か井戸かを確定できる資料は見当たらない。

42号土坑（第76図）

区画溝と推定されるS D 41と重複する土坑で、径約1.6m・深さ80cmを測る。溝との新旧関係は不明であるが、第4層の炭化物を含む灰色粘土層が埋まった時点で、溝が流れ、溝が廃絶した後に、第1～3層を再掘削した可能性が最も高い。この土坑上面を流れるトーンを張った溝は、集落が途絶した後、流れた溝で、近世もしくは近代と推定される。遺物は出土していない。

43号土坑（第77図）

S H 74の東南脇に位置する円形土坑で、径約1.9m・深さ1.2mを測る。遺物がまったく検出されていないため、時期や建物との関係は不明であるが、徐々に堆積していった様子は伺える。東脇を流れる区画溝S D 41の影響を受けつつ堆積したことが、土層の堆積状況から推定され、おそらく溝と同時期に機能していた可能性が高い。

44号土坑（第68図）

区画溝S D 41が大きく曲がる東脇に位置する円形土坑で、径約1.5m・深さ47cmを測る。急激に堆積しており、北方約8mの所で、分岐したS D 41がこの土坑で止まっている。遺物等の出土も無く、溝との新旧関係等不明である。検出状況から、新しい時期の可能性も推定される。

46号土坑（第78図）

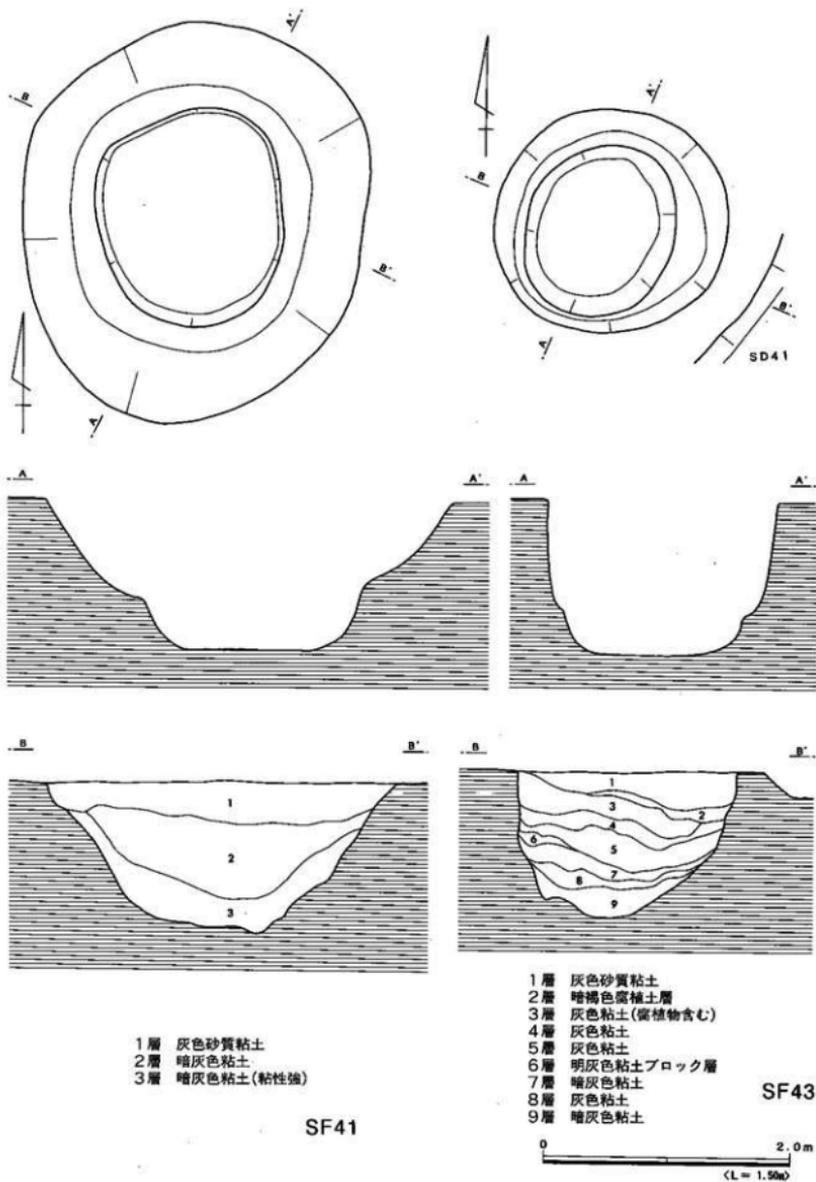
8区西北隅に位置する土坑で、径約2.9m・深さ1.2mを測り、段掘り状の形状を呈している。当初、段堀状の形態と、第5、6層の堆積状況等から抜き取られた井戸を想定したが、最下層が水点に達していないことから、井戸の可能性は低いと考えられる。第3層の暗灰色腐植土層は、かなり急激に溜まっておりおそらく、溝もしくは流路の流れこみと推定される。この第3層と4層の境目から、10匹前後の亀が確認されており、中に卵を持った亀も確認される。なぜ、多量の亀がこの中から確認されたかについては不明である。遺物は、第4層直下で古瀬戸後Ⅳ期古段階の緑軸小皿が、上層部で瀬戸・美濃産大窯1期の緑軸抜き皿が出土している。また、貨幣が9枚セットで出土している。種類は、貞元重寶、元豐通寶3枚、大勳通寶、皇宋通寶、景德元寶、開元通寶、熙寧元寶であった。

66号土坑（第78図）

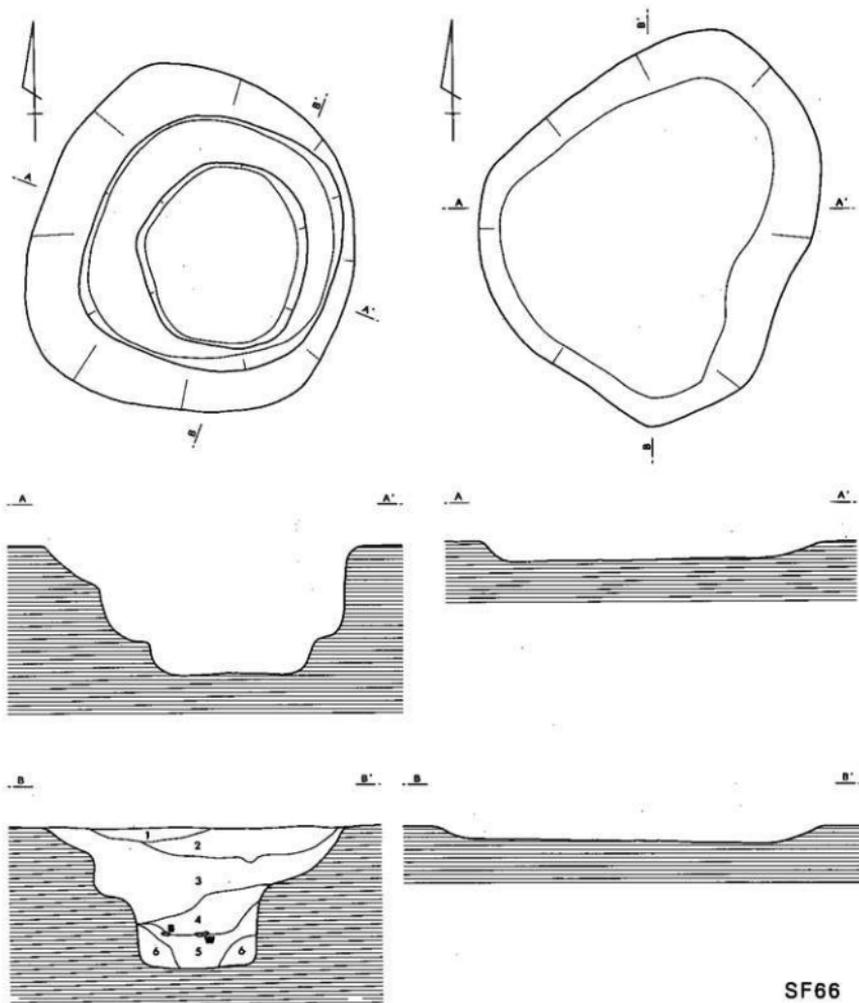
大型掘立柱建物S H 55の東南に位置する浅い土坑である。長辺約3.1m・短辺約2.5m・深さ20cm程の規模である。周辺城の小穴は、土坑上面で検出されているため、建物群より古い土坑であることは確実である。出土遺物は、古瀬戸後ⅠかⅡ期の碗類と大窯1期の摺鉢が出土している。15世紀末頃の廃絶もしくは、16世紀初頭まで機能していたことが想定される。

68号土坑（第79図）

S H 29内で確認された小型土坑で、径約1.2m・深さ70cm程を測る。ほぼ直角に掘り込まれており、



第77図 SF41・SF43 実測図



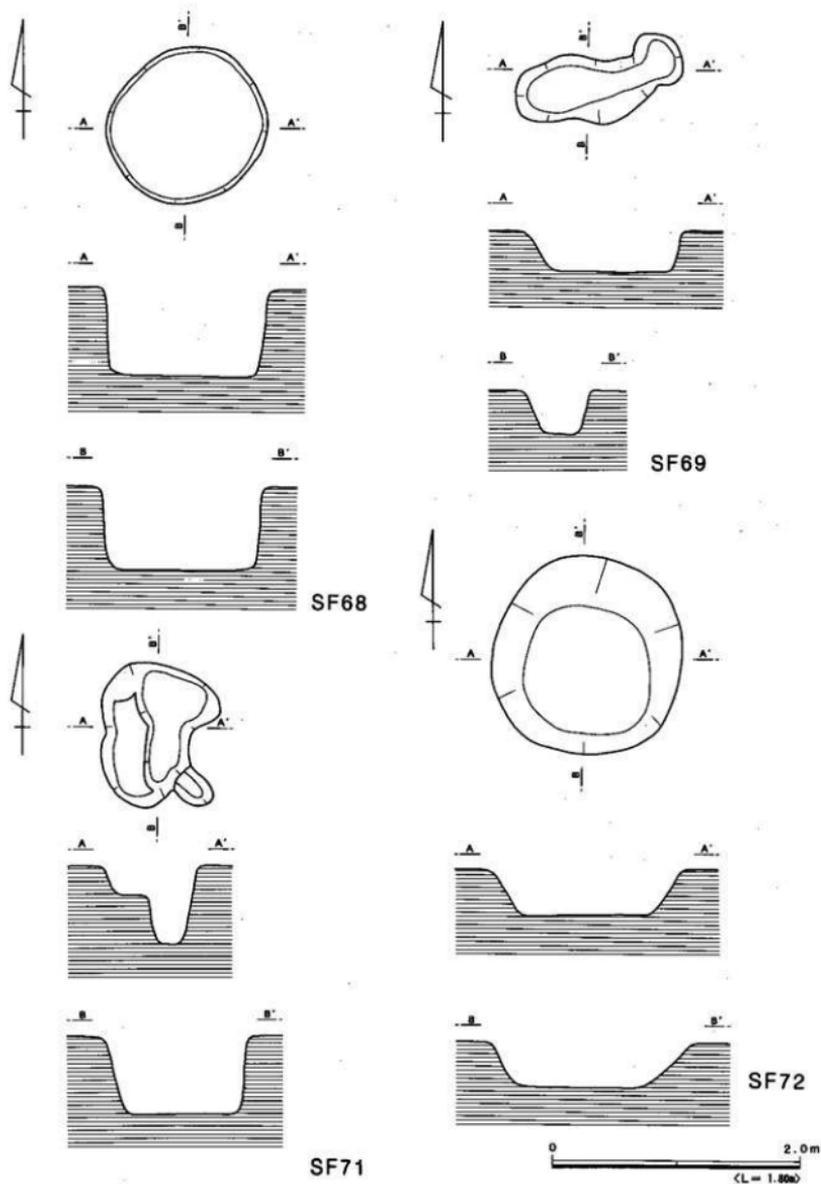
- 1層 暗灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 2層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 3層 暗褐色腐植土層
- 4層 灰色粘土(腐植物含む)
- 5層 暗灰色粘土
- 6層 灰色砂質粘土(砂粒含む)

SF46

SF66



第78図 S F 46・S F 66 実測図



第79图 SF68·SF69·SF71·SF72实测图

土坑上面で柱根を持つ小穴が検出されている。そのため、建物よりは古い土坑と考えられるが、使用目的は判然としない。遺物は、古瀬戸後Ⅳ期新段階の緑軸小皿が1点出土している。

69号土坑（第79図）

SH27の南西隅近くで検出された細長の土坑で、長辺約1.3m・短辺約50cm・深さ30cm程の規模である。やはり、周辺域の建物にかかわると考えられる小穴が、土坑上面で確認されているため、建物よりは古い土坑と考えられる。出土遺物は、1点のみで古瀬戸後Ⅳ期古段階の緑軸小皿である。15世紀末ごろ前後の廃絶と推定したい。

71号土坑（第79図）

SH13の東北隅近くで確認された小型土坑で、かなり特異な形状を呈している。掘り方も二段に分かれ、深さ20cm程から急激に落ち込んでいる。規模は、長辺約1.2m・短辺約70cm・深さ60cm程である。遺物が3点出土しており、古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿、同後期と考えられる器種不明製品、常滑産6a形式の片口鉢である。15世紀末の廃絶と想定される。

72号土坑（第79図）

SF5の南側に隣接する、径約1.5m・深さ40cm程を測る土坑である。隣接するSF5との関係や周辺建物群との関連も不明である。遺物は、古瀬戸後Ⅲ期の折縁深皿、常滑産11形式の片口鉢の2点が出土している。16世紀代も機能していたことが、推定できる。

73号土坑（第80図）

区画溝SD4の北側で、調査区外へと続く土坑である。ほぼ円形を呈し径約2.4m・深さ40cm程の規模である。南脇にあるSF1との関係は判然としない。出土遺物は、古瀬戸後Ⅳ期新段階の摺鉢が1点のみで、15世紀末ごろの廃絶が推定される。

74号土坑（第80図）

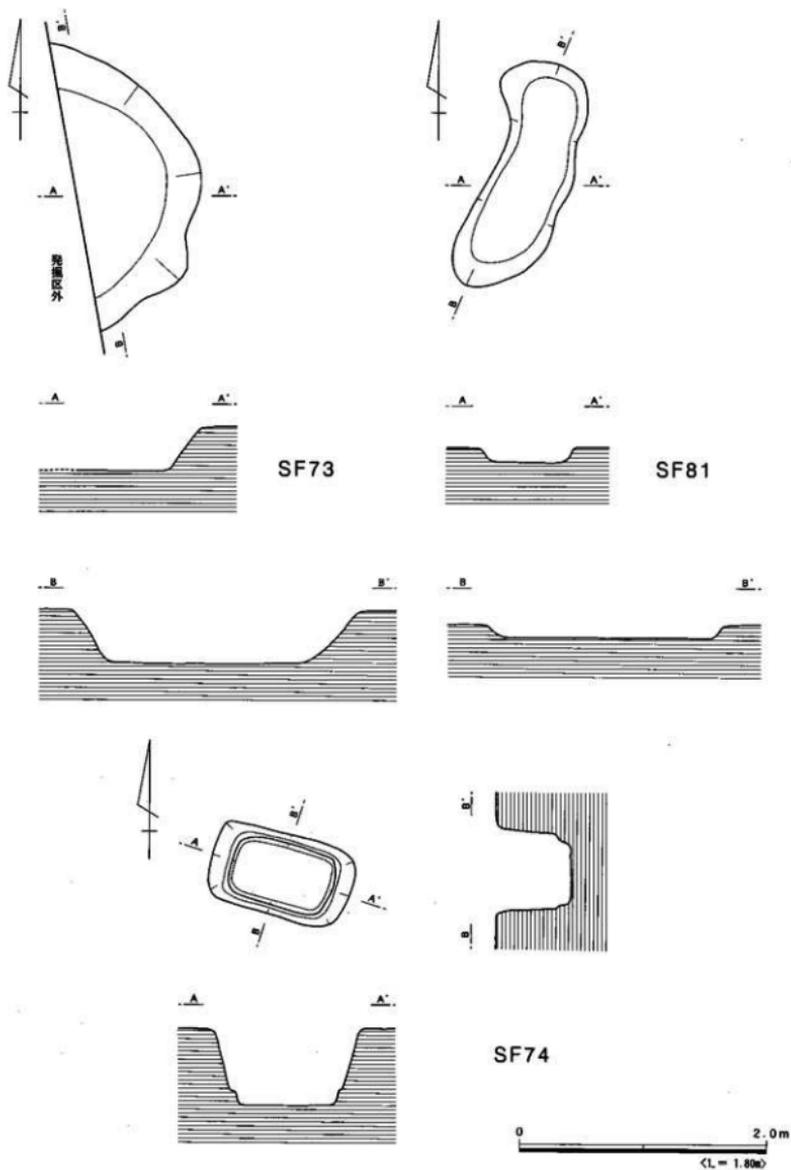
SH12とSH13に挟まれた場所に位置する方形土坑である。長辺約1.2m・短辺約70cm・深さ60cm程の規模で、深さ50cmの箇所ですら深く掘り込まれていた。遺物は、古瀬戸後Ⅳ期新段階の摺鉢が1点出土しているのみであるが、下層のSH85のP1と重複している。企画性を持って方形に掘られた土坑の可能性が高く、用途が目されるが判然としない。

81号土坑（第80図）

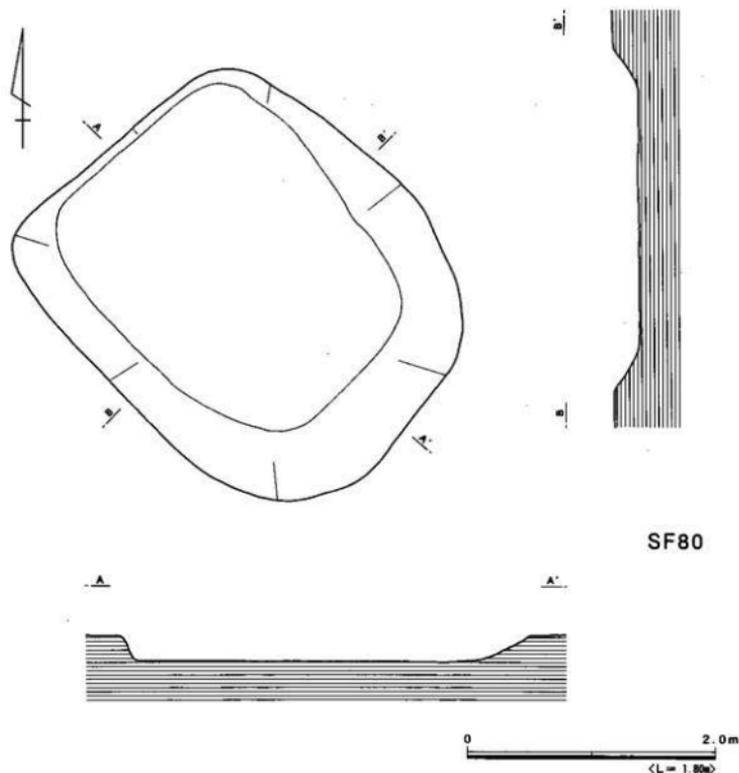
方形区画のSD7に囲まれた区画内で検出された土坑である。長辺約2.0m・短辺約60cmと規模は大きい。深さは10cm前後と極めて浅い土坑である。区画溝や、SH17と長辺の軸をあわせているため、同時期に機能した可能性は高いが、用途は不明である。周辺域の小穴と重複しており、小穴より新しい土坑と考えられる。遺物は、常滑産の15～16世紀代の壺か甕の体部が出土している。16世紀代も機能していたことは確実であるが、廃絶年代は不明である。

80号土坑（第81図）

SH75の東脇で確認された大型土坑である。長辺約3.3m・短辺約2.8mと規模は大きい。SF81同様、深さ約20cmと非常に浅い土坑である。周辺域の建物は、土坑上面で検出されており、周辺の建物



第80图 SF73·SF74·SF81 实测图



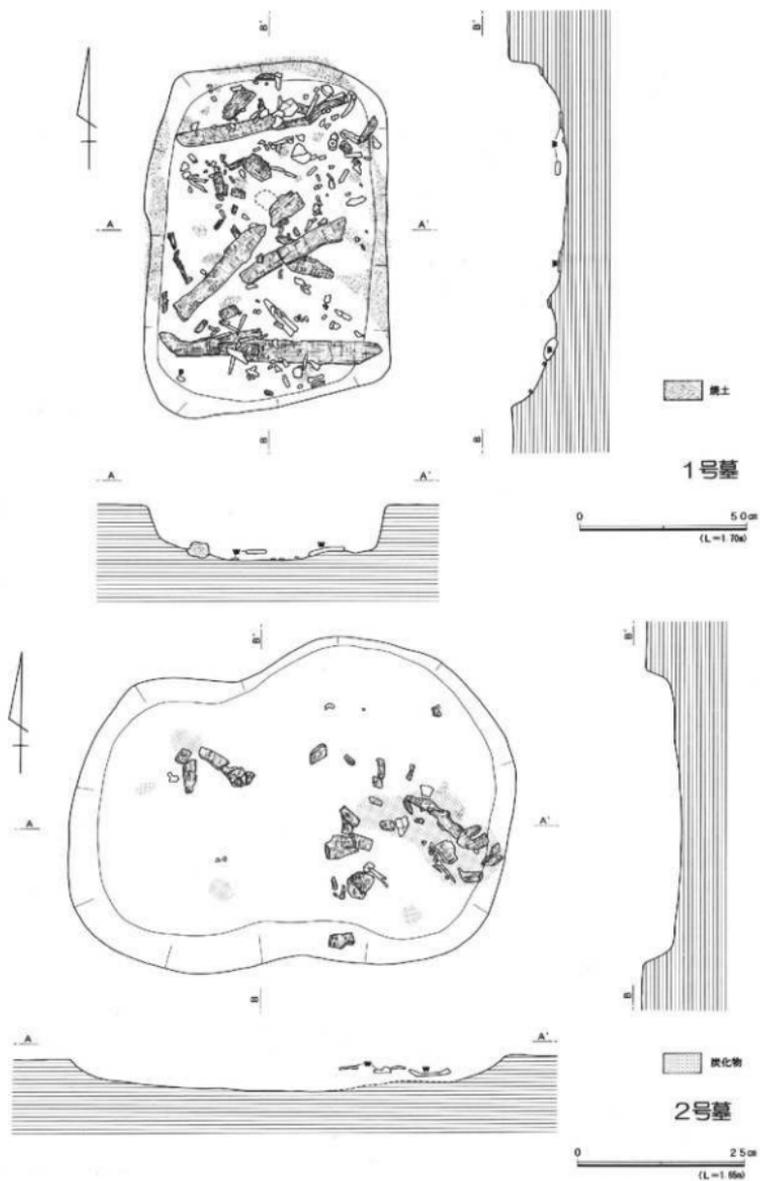
第81図 SF80実測図

群よりは古い土坑と推定される。遺物がまったく出土していないため、確実な時期確定は困難であるが15世紀末より以前と推定される。確認面で報告しておくが、Ⅱ面という可能性も考えられる。

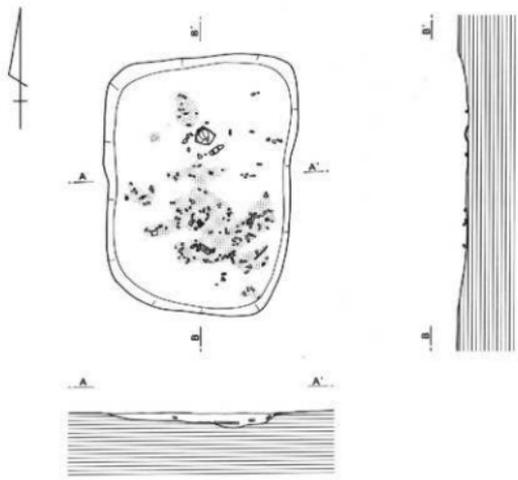
4. 墓

1号墓 (第82図)

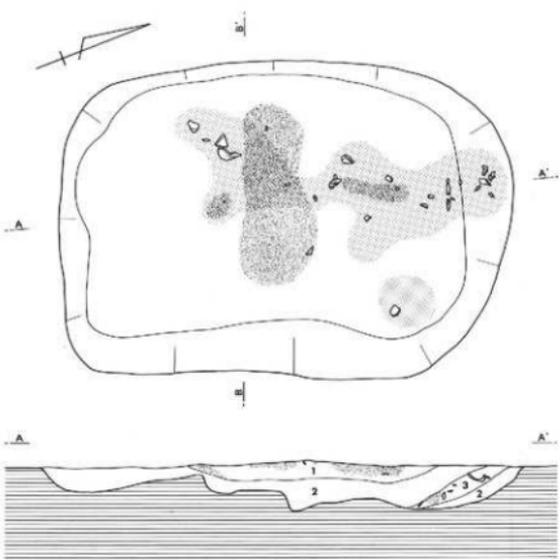
2区・SH3の西側に位置する火葬墓で、長辺約105cm・短辺72cm・深さ16cmを測る。遺骸をここで焼いたと考えられ、縁辺部は強い火を受けた痕跡が確認される。骨は、土坑内全域にちらばっているが、部所の確認ができる程の破片は確認されていない。遺骸を焼くための木材片が残っており、大きなものでは長さ約70cm・径10cm強を測るものもあった。骨の残存状況と副葬されていた貨幣から、分骨したことは考えにくく、焼いた後に埋め戻して墓として利用したと思われる。土盛等や祭祀があったかどうかについては、不明である。副葬されていた貨幣は3枚で、火を受けており判読不明であった。



第82图 1号墓·2号墓实测图



4号墓



6号墓



- 1層 褐色粘土(粘性強、炭化物含む)
- 2層 灰色砂質粘土(マンガング、鉄分含む)
- 3層 灰色粘土(炭化物含む)

第83図 4号墓・6号墓実測図

2号墓 (第82図)

区画溝SD4の北側、棺桶におさめられた3号墓の1m北西に位置する火葬墓である。同様の火葬跡と考えられる1号墓に比較して、形状も瓢箪型の不定形で、焼土や木片も少ない。また、骨も非常に少ない。この場所で遺骸を焼いたことは、ほぼ確実であるが、骨をどこか別の場所へと分骨した可能性も考えられる。副葬品が検出されていないことも、分骨を補強する材料の一つである。

3号墓

2号墓の南東に位置する棺桶におさめられた土葬墓で、南側が試掘溝によって若干破壊を受けてしまった。現状での長辺は約78cm・短辺は56cm程を測る。遺骸は屈葬で、頭を北、身体を西にして埋葬されており、浄土信仰の影響と推定される。棺桶は、底に幅約12cm・長さ59cm・厚さ2cm前後の底板を2～3枚敷き（下が破壊されているため確実な枚数を押さえられない）、回りを幅約20cm・厚さ2.5cm程の板を組んで長方形にしていた。板材は、紐によって組み合わされていたと推定され、紐を通すための小穴が確認される。形状から見て、底板は全面に貼られては無く、遺骸が落ちない程度に設けられただけである。従って、別の場所で遺骸を棺桶に入れ、埋葬場所へ運んだのか、現地で棺桶を埋め込んだ後、遺骸をおさめ土をかぶせたのかは不明である。棺桶上面については、板材等を用いた様子ではなく、ただ土をかぶせただけと推定される。貨幣は3枚副葬されており、上から全て表を向けて遺骸の胸元に置かれていた。銭名は、上から皇宋通寶（北宋銭、初鋳1038年）、政和通寶（北宋銭、初鋳1111年）、治平通寶（北宋銭、初鋳1064年）の3枚であった。他の副葬品は見られない。

4号墓 (第83図)

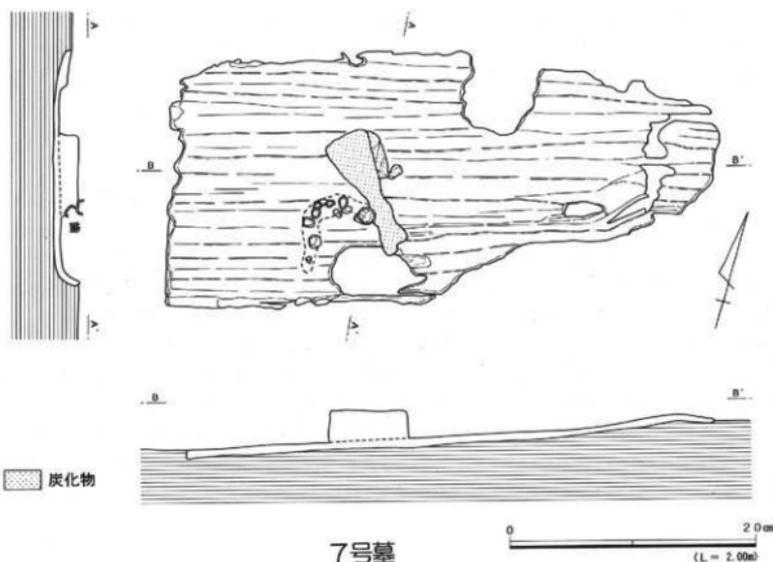
SH6とSH5に挟まれた箇所位置する火葬墓で、長辺約157cm・短辺約110cm・深さ8cm程の規模である。同型式の1号墓より、一回り程大きい。骨は、ほぼ全域に散らばっているが、木片は小破片のみ炭化して残存するだけである。焼土は、極端に強い火で焼かれたようなものではない。3cm程の釘も2点出土しており、棺桶等に入れた遺骸を焼いた可能性も考えられる。副葬品は、完形であったと推定されるかわらけが1点のみである。かわらけは、地地で焼かれたろくろ成形のもので、細かい時期は限定できないが15～16世紀代のものである。これらの状況を総合的に判断すると、棺桶状のものにおさめられた遺骸を、弱い火力で焼き、主な骨を分骨したことが、最も可能性の高い推定となる。

5号墓 (第85図)

SH7とSH9の間で確認された墓で、長辺約97cm・短辺約70cm・深さ14cm程の規模である。中央部に1点完形のかわらけが検出されているが、その他遺骸等や炭化物は検出されなかった。その点では、墓と認定するに条件が整っていない。かわらけは、16世紀代の地元産ろくろ成形のもので、径約12.7cmの中型の製品である。骨等が確認されなかったが、形状や出土遺物、周辺域の墓の様相から墓と判断することとした。火葬後の、分骨した墓の可能性も検討する必要があるだろう。

6号墓 (第83図)

SH8の内部で検出された火葬墓で、長辺約55cm・短辺約38cm・深さ6cm程とかなり小形である。骨は破片が多く、中央部から東側にかけてちらばっていた。焼土層の中心は、土坑中央部で、ここで集中的に火が炊かれたと推定される。墓の底面は、非常に不規則で無計画に穴を掘った様子が伺える。出土遺物もなく、小形ということもあり、子供を焼いた痕ということも考えられる。I面確認面より、約25cm確認面が高く、時期的に新しいことも考えられる。



第84図 7号墓実測図

7号墓 (第84図)

SH 7 内部で確認された墓で、非常に特異な形状をしている。長辺約44cm・短辺約20cm・厚さ3cm程の板状木製品の上に、歯と骨が一片検出されているだけである。掘り方も小さく、周辺部が10cm程掘られていただけであった。副葬品は伴わず、歯の出土状況からすると分骨したというより、頭部をそのままおさめ、腐ったため歯だけが残存した状況を示している。状況判断のみで結論をだすなら、板の上に生首のみを乗せて埋葬したという可能性が最も高い。

8号墓

SH 9 の南西に位置する土葬墓で、3号墓、9号墓、10号墓、12号墓、13号墓とほぼ同型式と考えられる木製棺桶に埋葬された墓である。これら6基の墓の中で、ほぼ完全に人骨が残存していたのが、本8号墓と、3号、10号、13号の4基である。棺桶は、長辺約90cm・短辺約60cmで、他の8基ともに概ねこの前後の数値を測る規模となっている。棺桶の底には4枚の板が隙間を以て貼られ、回りを木枠で囲み紐等によって接続している。遺骸は、頭を北に、身体を西に屈葬されていた。これは、浄土信仰の影響と考えられる。人骨の上に、南北方向の板が一枚落ちており、おそらく土をかぶせる時に蓋の代わりに置いた板と推定される。副葬品は、12枚の貨幣で、(1)不明(篆書)(2)不明(3)熙寧元寶(北宋銭、初鑄1068年、真書)(4)皇宋通寶(北宋銭、初鑄1038年)(5)不明(6)不明(7)元祐通寶(北宋銭、初鑄1086年、篆書)(8)皇宋通寶(北宋銭、初鑄1038年、篆書)(9)咸平元寶(北宋銭、初鑄998年、真書)(10)景德元寶(北宋銭、初鑄1004年、真書)(11)天聖元寶(北宋銭、初鑄1023年、篆書)(12)開元通寶(唐銭、初鑄960年)の12枚で、最古の貨幣の初鑄年が960年、最新の初鑄年が1086年だが、大部分が北宋銭である。

貨幣は、胸元にバラになって確認されている。

9号墓 (第85図)

SH14の南に位置する土葬墓で、8号墓と同一型式である。長辺約86cm・短辺約60cmで、底板には5cm前後の板が3枚使用されており、8号墓より1枚少ない。他の同型式の墓の底板は、3枚であるため8号墓のみ1枚多いということである。人骨は、1片も検出されなかったが、西側端中央部やや北で、副葬品と推定される貨幣が検出された。貨幣は6枚で、いわゆる六道銭と考えられる。上から、(1)元豊通寶(北宋銭、初鑄1078年、行書)(2)元豊通寶(北宋銭、初鑄1078年、行書)(3)至和通寶(北宋銭、初鑄1054年、真書)(4)至和通寶(北宋銭、初鑄1054年、真書)(5)紹聖通寶(北宋銭、初鑄1094年か、行書)(6)開元通寶(唐銭、初鑄960年、割れ)であった。副葬品の貨幣が、同一種類を2回に渡って重ねた六道銭は、この墓のみで、他の墓は6種類を使用していることが多い。貨幣は、表と表、裏と裏というように重ねている。また、古瀬戸後IV期古段階の緑釉小皿片が出土しているが、確実に墓の覆土内からの出土遺物とは言えない状況であった。

10号墓 (第86図)

SH15の東側で、SH16とSF3に挟まれて位置する土葬墓である。墓の形態は、9号墓とほぼ同型式である。長辺約93cm・短辺約58cmで、底板に4cm前後の板を3枚敷いている。遺骸は、頭部を北に、身体を東に向けた屈葬である。遺骸の上には、むしろ状の繊維質の織物が被せられており、東側半分はその形跡が確認できた。遺骸が残っている墓は、棺桶底からの高さが約20cm前後で共通しており、残っていない墓は、10cm前後とほぼ半分しか残存していない。頭骨まで含め、良好な形で残存する16世紀代と推定される墓の検出は例は、全国でも極めて少ない。そのため、全掘せずに現状での保存処理を実施することにした。遺骸の下に遺物等がある可能性も残されていたが、調査は実施していない。副葬品は出土していないが、他の同型式の墓では貨幣が確認されているため、遺骸の下に貨幣が副葬されている可能性は高いと考えられる。

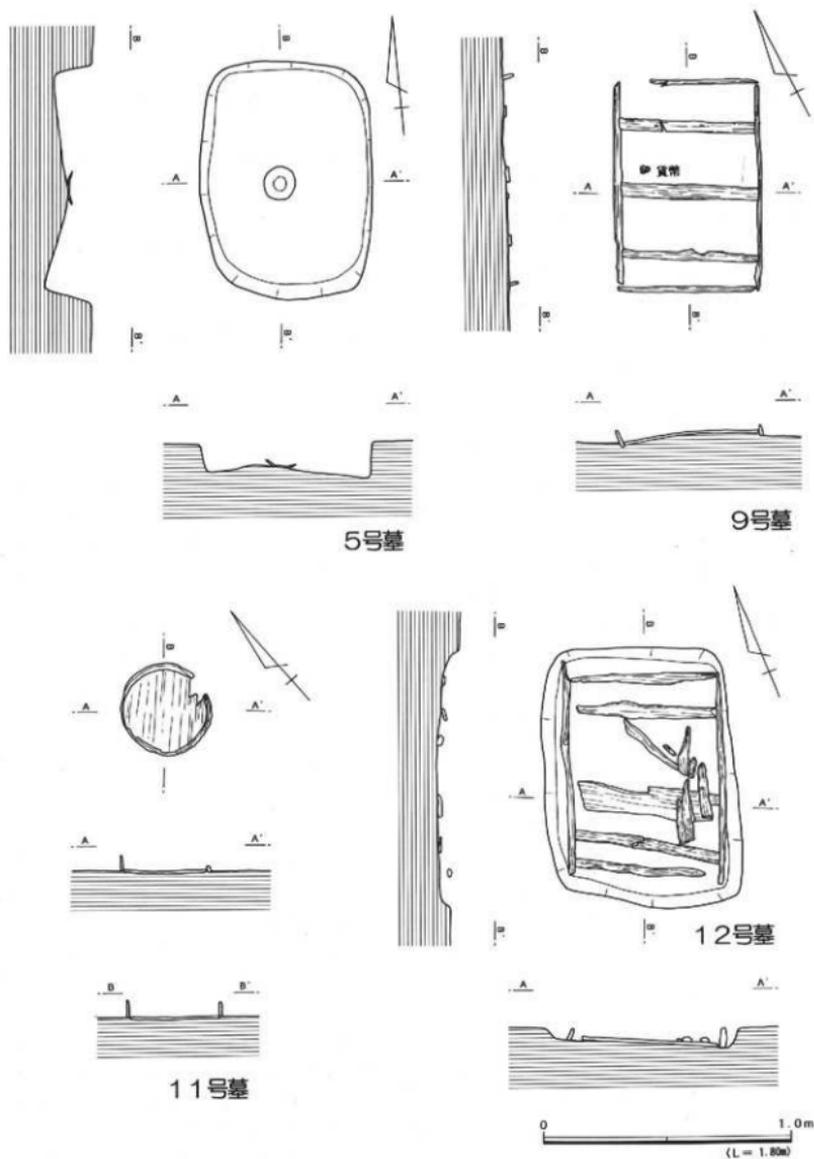
なお、この人骨は浜松医科大学法医学教室の鈴木修教授に鑑定を依頼し、男性で、成人(比較的若い成人の可能性もある)、推定身長145~155cm程度、死因不明という結果を頂いている。

11号墓 (第85図)

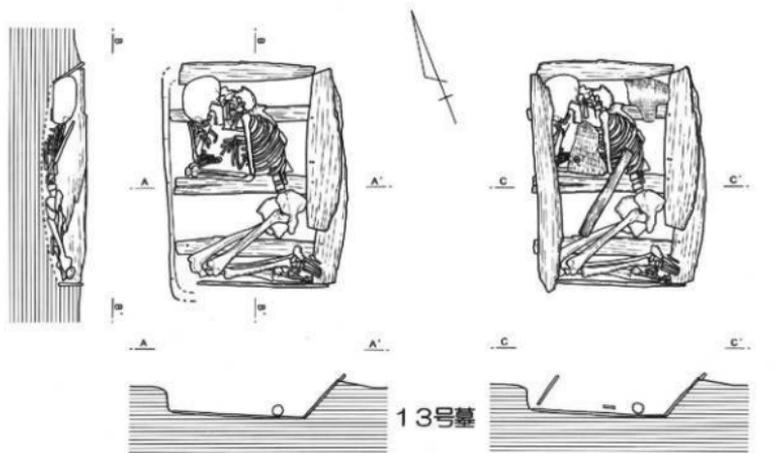
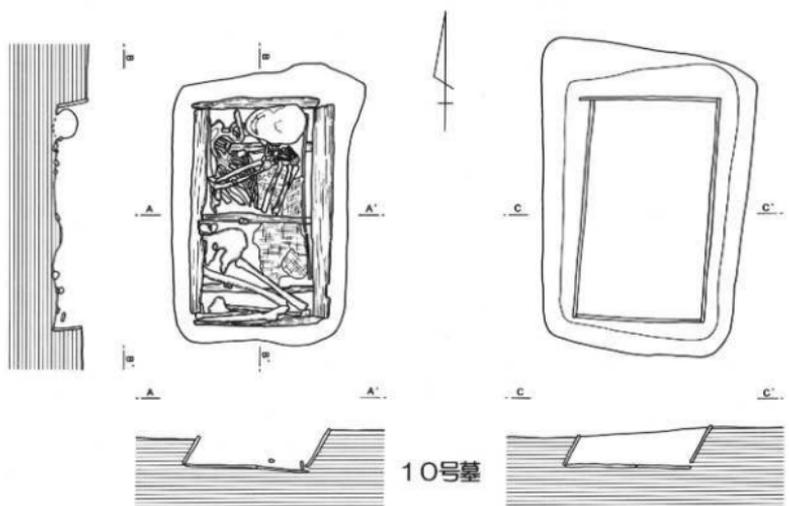
SH11内で検出された、曲物の墓である。包含層内で検出されており、掘り方も検出されなかった。従って6号墓同様出土面は、第I遺構面より15~20cm程高いということになる。曲物は、径約37cm・残存高約7cmを測り、曲物覆土内から、人の歯の小破片が一片のみ出土している。曲物を利用した墓は、唯一1点のみで他に類例はない。ただ、7号墓が板材の上に歯のみ確認されていることから、同様の埋葬施設として考えることも可能ではある。すくなくとも、建物より新しいことだけは確定である。

12号墓 (第85図)

SH23の南に位置する土葬墓で、長辺約83cm・短辺約65cmを測る。3号墓、8号墓、9号墓、10号墓、13号墓と同型式であるが、9号墓と同一で遺骸等の痕跡は確認されなかった。棺桶底には、3枚の板が敷いてあったが、他の棺桶と比較して不統一であった。棺桶内の東側中央部に、側板とも底板とも異なる折れた板材が集中していた。おそらく、最終的に土をかぶせる時に、蓋のかわりに使用した板材と推定される。副葬品は、六道銭と呼ばれるもので、貨幣が6枚検出された。貨幣は、上から(1)開元通寶(唐銭、初鑄960年)(2)咸平元寶(北宋銭、初鑄998年)(3)永樂通寶(明銭、初鑄1408年)(4)治平元寶



第85图 5号墓·9号墓·11号墓·12号墓实测图



第86图 10号墓·13号墓实测图

(北宋銭、初鑄1064年、真書)(5)天聖元寶(北宋銭、初鑄1023年、真書)(6)熙寧元寶(北宋銭、初鑄1068年、真書)であった。貨幣は、約二千枚出土しているが、永樂通寶は8枚しか確認されていない。割合になおすと0.4パーセントの比率である。この8枚の内、墓から出土しているのは2枚である。永樂通寶だけで判断は出来ないが、集落移転直前の造墓ということも考えられる。

13号墓(第36図)

8区SD41とSR9に挟まれた箇所で見出された、8区唯一の墓である。遺構の検出状況等見る限り、8区の集落が途絶した後に、造られた墓と考えられる。土葬墓で、長辺約91cm・短辺約69cmで、頭部を北に、身体を西にした屈葬人骨が確認された。3号墓、8号墓、9号墓、10号墓、12号墓と同一型式であるが、最も残存状況はよい。遺骸の上にはむしろ状の編製品が被せられ、さらに胸元に袋に入れたと推定される貨幣が副葬されていた。底板には、7cm前後の板を3枚敷いていた。側板と底板は、紐で結ばれていたと考えられ、そのための躰穴が開けられていた。側板の内、東側は長さがないため、2枚繋ぎ合わせて使用している。中央部に、幅約5cm・長さ約40cm・厚さ1cm程の板材が落ち込んでいた。おそらく、棺の蓋に関わるようなものと推定されるが、確実なことは不明である。副葬品は、六道銭と呼ばれる6枚の貨幣で、上から(1)洪武通寶(明銭、初鑄1368年、コ頭通・単点通)(2)皇宋通寶(北宋銭、初鑄1038年、真書)(3)聖元寶(北宋銭、初鑄1101年、篆書)(4)元祐通寶(北宋銭、初鑄1086年、行書)(5)永樂通寶(明銭、初鑄1408年)(6)紹聖元寶(北宋銭、初鑄1094年、行書)であった。貨幣は、表と裏、裏と裏が合うように重ねてあった。副葬品として貨幣が確認された墓の中で、12号墓のみ明銭が2枚副葬されており、さらに他の貨幣も北宋銭の中では新しい部類のものである。確認面や副葬品から、新しい時期が推定されるが、集落廃絶からそう遠くはないと想定したい。おそらく、強制的に移転させられた前後に死亡したため、元の集落内に埋葬したのではないだろうか。

5. 溝状遺構

1号溝

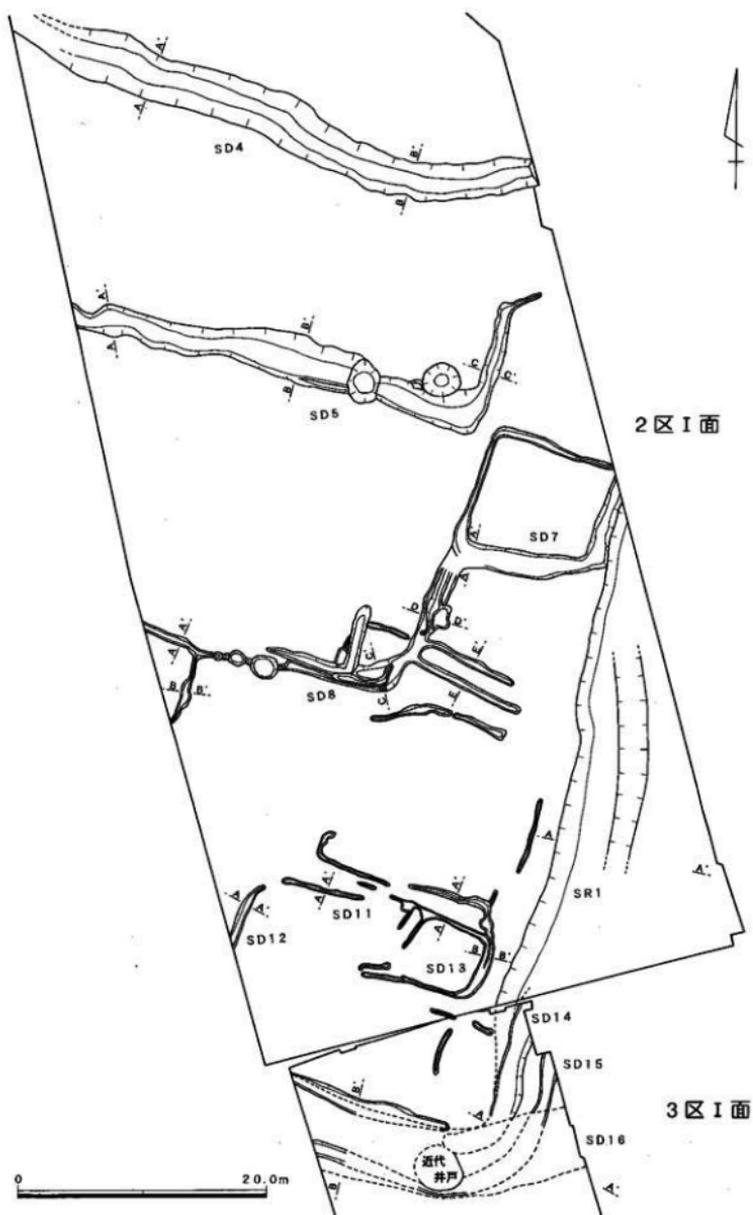
2区北西隅で検出された溝状遺構である。果道と民有地の境に位置するため、安全確保の観点から、トレンチで断面のみ確認することとした。SD2と接続する可能性もあり、西から東に向かって流れた可能性が高い。断面は、砂質と礫層であった。上層部分は、10区西端から1区西北部へと流れた流路(SR2)による破壊を受けており、流路は2区のSD1を破壊し、さらに南西へと続いていた。

2号溝・3号溝・6号溝

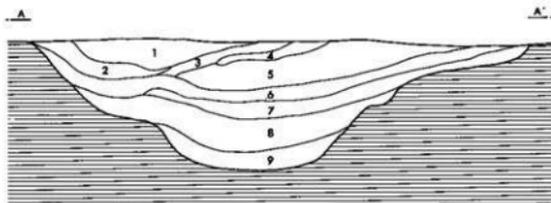
SH3の北側を流れる溝で、SD3とはほぼ平行している。確認できたのは、溝の一部で、前述したようにSD1と接続している可能性も考えられる。SD1同様、周辺域を後世の流路が氾濫しており、溝の肩部分については、明確に検出されず、2方向に分かれたり、途中で途絶するような確認となっている。おそらく、溝を流れる水量の増減によってこのような状況になったと推定される。出土遺物は、瀬戸・美濃産大窯1期の緑釉挟み皿、同大窯2期の丸皿、三ツ沢産の緑釉小皿であった。

SD3は、SH3より古い段階のもので、調査区外へと続いている。深さ10cm程度の浅い溝で、東へ行くほど末広がりに広がった状況となっている。遺物は、12世紀代の渥美・湖西産の山茶碗、15世紀後半の古瀬戸製品が3点、瀬戸・美濃産大窯1期のほぼ完形の摺鉢、常滑産11・12型式の甕が出土している。おそらく、SD3段階で流れていた溝が、時と共にSD2へと縮小されていった可能性が想定される。

SD6は、SH10、11を東西に横切る長さ8.0mを確認した溝で、溝はさらに東側へと伸びている。



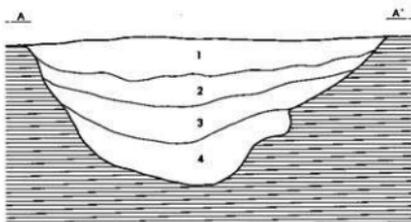
第87图 2区・3区I面SD位置图



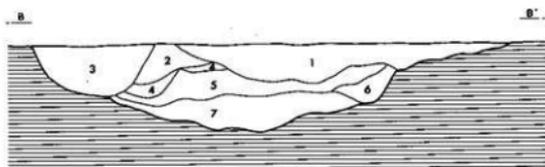
- 1層 灰色砂質土(マンガン含む)
- 2層 褐色砂質土(砂多く含む)
- 3層 褐色砂質土(砂含む)
- 4層 褐色砂質土
- 5層 褐色砂質土
- 6層 暗灰色砂質土
- 7層 灰色砂質粘土
- 8層 灰色砂質粘土(腐植物含む)
- 9層 灰色砂質粘土(砂粒多く含む)



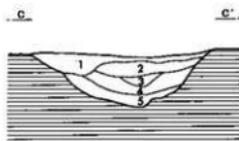
SD 4



- 1層 褐色砂質粘土(マンガン含む)
- 2層 灰色砂質粘土(鉄分含む)
- 3層 暗灰色砂質粘土(木片含む)
- 4層 褐色砂質土(有機質含む)



- 1層 灰色砂質土(マンガン含む)
- 2層 暗灰色粘土
- 3層 暗灰色粘土(有機質含む)
- 4層 暗灰色粘土
- 5層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 6層 灰色粘土(炭化物含む)
- 7層 暗灰色砂質粘土



- 1層 褐色砂質土(砂粒多い)
- 2層 暗灰色粘土
- 3層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 4層 暗灰色粘土(有機質との互層)
- 5層 暗灰色粘土(有機質との互層)

SD 5



第88図 SD 4・SD 5実測図

西側から東側に向け、幅を広げ深くなっている。深さは約15cm前後で、暗褐色砂質粘土一層で、急激に堆積したことが考えられる。溝は、建物より古いものと考えられる。

4号溝 (第88図)

2区北側で検出された集落の区画溝である。確認された長さは、約45mでさらに東西へと続いている。幅は約4.0mで、深さ1.0mとかなり大型の溝である。上層部分の北端を幅約2.5m・深さ30cm程の最終段階の溝が流れている。部分的に、多少の南北への振れはあるが、ほぼ全掘した溝内で納まっているため、溝の最終段階と判断した。第8層が、腐植物を含んだ灰色砂質粘土層で、この時期がこの溝の機能した最盛期と考えられる。第2、3層は非常に多く礫を含んだ褐色砂質土で、かなり急激な流れがあった時期と推定される。可能性として、集落途絶後ということも考慮に入れる必要がある。遺物は、大部分が第5層から9層で確認されおり、第1層から4層は比較的少ない。

出土遺物は非常に多く、12世紀代が7点、13世紀代が5点、14世紀代が4点、15世紀代が41点、16世紀代が16点であった。最も多い15世紀代の遺物のうち、約9割が15世紀後半のものである。また、最も新しい時期のものは、初山産の徳利片である。堆積状況から判断して、14世紀末頃から機能を開始した溝が、15世紀末頃何らかの理由で堆積し、その後16世紀になっても浅い溝のまま機能を続けたという可能性が高い。

5号溝 (第88図)

SD4の南側をほぼ平行して流れる大溝で、途中で90度に折れ曲がり急激に細くなり、終結する溝である。規模は、SD4とほぼ同規模で、確認された長さは約45mで、さらに西側へと続いている。幅は約4.0mで、深さ70cm前後であった。堆積状況から、ほぼ4度に渡る溝と識別されるが、覆土は全てが砂質粘土であった。いずれも、常に流れていたことを推定させるもので、SD4のように緩やかに湿地化しつつ堆積した状況は認められない。溝の終結部分が、終点なのか始点なのかは不明で、なぜこれ程大型の溝が急激にこのような状況を示すのかは判然としなない。

遺物は、12世紀代が3点、13世紀代が6点、14世紀代が2点、15世紀代が14点、16世紀代が5点であった。数こそSD4より少ないが、年代の割合はほぼ同一様相を示している。唯一異なるのは、16世紀の遺物の様相で、SD5は初頭から前半の遺物に限られている。遺物から見限り、SD4より早い段階で廃絶した可能性が高い。また、重複状況から、この溝はSE3より古い時期のことは確実である。遺物の出土状況からも、同様の結論を導き出すことができる。この区画溝は、15世紀末頃から16世紀初頭にかけて急激に堆積した溝と考えられる。周辺の建物よりは古い溝であろう。

7号溝 (第89図)

SH17を取り囲む方形の区画溝で、SD8へと接続している。SD7は、東、南が幅広で、西、北が狭い。幅広部分は、約1.5~2.0mを測り、狭い部分は50cm前後である。幅広部分が、SD8へと続く大きな流れと推定される。堆積状況を見る限り、急激に堆積したと考えられる。また、最下層部で2つの溝に分かれると思われるが、断面では確認できなかった。遺構検出段階では、SD7が方形に曲がっており、南北に直線になるSD8を切っていた。従って、SD8より7が新しいと推定される。

出土遺物は、瀬戸・美濃産大窯1もしくは2期の端反皿か丸皿、同大窯2期の腹皿もしくは丸皿と考えられる破片、同大窯期の四耳壺、12世紀前半の湿美・湖西産の山茶碗である。おそらく、集落移転の最終段階まで機能していた溝であろう。溝内の建物とは、ほぼ同時期に機能していた可能性が高い。

8号溝 (第89図)

方形溝SD7から接続し、南へ流れ直角に折れ曲がり西へと伸びる区画溝である。屋敷地を区画する溝の可能性が高い。この溝は、小さな溝の集合した溝である。90度に折れ曲がる箇所、何度も氾濫したと考えられ、周辺部で5~10cm程の溜りが確認された。中心となる溝の総延長は、約31m、幅は0.5~2.4m、深さは13~56cm程である。溝は、本来北側部分を流れていたと思われる、その後南側というように2条あったことが推定される。

出土遺物は、12世紀、14世紀代の遺物が各1点、15世紀代が9点、16世紀代が6点であった。最も古い遺物は古瀬戸後II期の直縁大皿、最も新しい遺物は常滑産11型式の玉縁口縁の壺片で、第89図のC断面の遺物は古瀬戸後IV期新段階の摺鉢である。遺物の年代と堆積状況から考えると、この溝が急激に堆積した最上層の第1層の砂粒を多量に含んだ褐色砂質土は、古瀬戸後IV期前後の大規模な自然災害によって埋没した土の可能性も残るが、さらに新しい時期とするのが妥当であろう。

SD5とほとんど同様の遺物構成であり、西側にきて急激に折れる部分も同一である。このSD8とSD5が、15世紀末から16世紀代にかけての屋敷地の、区画溝であった可能性は高い。

9号溝・10号溝

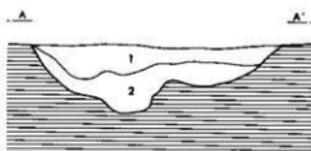
SD9は、SH19を横切るように東西に流れる溝状遺構である。総延長約12m、幅約20~70cm、深さ約20cm前後の溝で、急激に堆積した状況を示している。遺物の出土がないので、正確な時期決定はできないが、柱穴群より古いことから、建物より古い時期の溝と考えられる。

SD10は、SH24の内部から外へと続く溝状遺構で、くの字に折れ曲がっている。総延長約12m、幅約25~40cm、深さ15cm前後の溝で、SD9同様に一度で堆積している。この溝の延長上に、SD13が位地し、おそらくSD10、11、12、13は全て、接続して同一の溝となると想定される。遺物は、木片以外は出土していないが、周辺の柱穴群より古いことは確実である。おそらく、SD9・10は同時期に機能していた溝で、検出された建物群より古いと考えられる。

11号溝 (第89図)・12号溝 (第89図)・13号溝 (第89図)

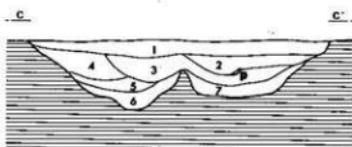
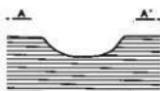
調査2区南側で検出された溝状遺構である。おそらくSD10を含めて、全てが同一の溝として接続する可能性が高い。SD11は、SD10とほぼ平行して南側を東西に続く溝で、総延長約6.6m・幅約29cm・深さ約8cmのほぼ直線の溝である。SD12は、SH26の西脇を南北に流れる溝で、さらに調査区外へと続いている。確認された現状での総延長約48m・幅約72cm・深さ約37cmを測り、北端が東に曲がっている。おそらく、そのままSD11に接続すると推定される。両溝とも、一度に堆積しており、長期間使用された溝とは考えにくい。遺物は、SD11・SD12共に古瀬戸後ⅢもしくはⅣ期の縁軸小皿が各1点ずつ出土している。この遺物からも、16世紀初頭に埋没した可能性が高いと考えられる。

SD13は、SH27と軸を合わせるように、口字型を基本とした溝で、枝分かれのように接続しあっている。総延長は、約23mと長く、最もしっかりと掘り方が確認された溝部分で幅約81cm・深さ約30cmであった。小さな所では、幅約30cm・深さ15cmという箇所も存在する。東側を南北に流れる部分で新旧関係があり、東側を南北に流れる幅約50cm・深さ約15cmの溝を、東西から流れ合流して南北へ流れるように重なる幅約50cm・深さ30cmの溝が切っていた。断面から見ると、新旧関係はあるもののほぼ同一の土層堆積状況となっており、それ程の時期差は考えにくい。遺物は、木片のみであるため、確実な時期決定ができない。周辺部の柱穴群よりは古い時期の溝であるため、おそらく今回検出した建物より若干古い時期にあたる16世紀初頭と考えられる。

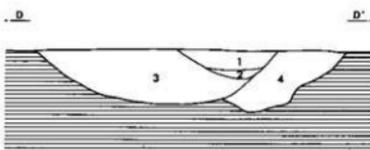


- 1層 黄色砂質土(炭化物含む)
- 2層 灰色砂質土

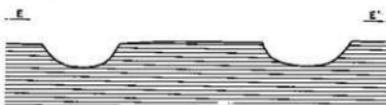
SD 7



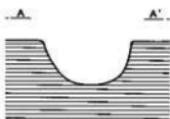
- 1層 黄色砂質土(砂粒多い)
- 2層 灰色粘土
- 3層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 4層 灰色砂質土
- 5層 暗灰色粘土(鉄分含む)
- 6層 黄色砂質土
- 7層 暗灰色砂質粘土



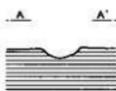
- 1層 黄色砂質土(砂粒多い)
- 2層 灰色粘土
- 3層 灰色砂質土(マンガン含む)
- 4層 暗灰色砂質土



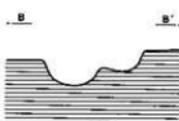
SD 8



SD12



SD11



SD13



第89図 SD 7・SD 8・SD 11・SD 12・SD 13 実測図

14号溝 (第90図)・15号溝 (第90図)・16号溝 (第90図)

SD14、15は、流路SR1の上面で確認されており、最も新しい時期の溝と考えられる。共に有機質を含んだ褐色粘土層の1層で堆積しており、近代の耕作に伴う区画溝の残存と考えられる。SD16と重なっているため、ここで報告することとした。

SD16が、元島集落の南を区画する大溝と考えられる。幅約4m・深さ約1.7mと非常に大きな規模である。断面から、数度に渡る溝の切れ合いが確認され、何度も同一箇所を流れたと予想される。B-B'の13層が、SD16より新しい流路で、幅約20m程を確認している。最も古い流路は、14層～17層で、17層の流れの時にかなり緩やかに堆積していった状況を示している。16層は、非常に早く強い流れで、この層の中で、山茶碗が多数確認されている。2区で確認された遺構は、全てこの流路(河川)堆積層を基盤としていた。

SD16については、近代の井戸によって大部分が攪乱を受けており、確実に溝内と考えられる遺物は、15世紀後半以降のものがほとんどである。混在したと思われる遺物は2点で、13世紀・14世紀代のものである。15世紀代の遺物は11点、16世紀代が4点であった。遺物の出土状況、溝の堆積状況から、SD16は、15世紀代から機能しており、何度も洪水の被害を受けながら、最終的に16世紀後半まで機能したと考えるのが妥当であろう。

17号溝・18号溝 (第91図)・21号溝 (第91図)

SD17は、10区西端で確認された溝で、SD18と分岐し、近代の流路であるSR6によって、南半分が削平を受けていた。覆土は、褐色砂質土1層の単純なもので、SD18と分かれ流れた一過性の溝と考えられる。遺物が出土していないため、時期確定は困難である。

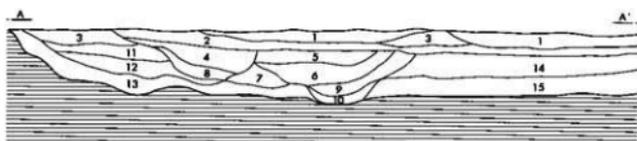
SD18は、SD21に接続する東西方向に流れる溝で、総延長15mを確認。幅約3.5m・深さ約60cm前後の規模であった。それ程強く流れた形跡はなく、常に水が溜まっていたような土層堆積状況を示している。遺物は、12世紀代が1点、13世紀代が2点、14世紀代が3点、15世紀代が5点、16世紀代が2点であった。最終的には、15世紀後半から16世紀前半にかけて機能していたと推定される。この溝と接続するSD21を境にして、これより北に集落は展開していない。トレンチ調査で、北側部分を数ヶ所確認したが、全て河川堆積層で、遺物も確認されなかった。これらのことから、この溝が集落の北を区画する溝であった可能性が高い。また、集落の地形そのものが北側にかけて高くなっていたということは十分考えられることである。

SD21は、SD18と接続して、東西に流れ、さらに発掘区外へと続く溝である。確認されている総延長は、約16m、幅約2.4m、深さ50cm程の規模である。第1層は、急激に流れたことが想定され、礫層であった。第2層は、礫の周辺に溜まった砂の堆積と推定される。

遺物は、大窯1期の緑釉挟み皿、古瀬戸後期の整類、常滑産13世紀代の壺もしくは甕の体部がSD21の礫層内から出土している。おそらく、SD18と同時期の溝と考えてよさそうである。

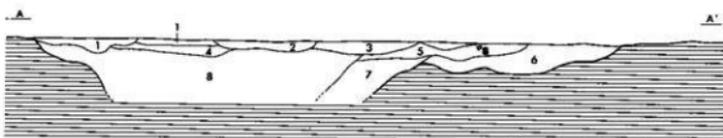
19号溝 (第91図)・20号溝 (第91図)

東西方向に流れるSD21から分かれ、南北に流れる溝で、流路SR6によって消滅している。両溝共に急激に埋没しており、灰色粘土層が堆積している。SD18の第6層とSD20の堆積土が同一様相であるため、同時期に流れた可能性もある。また、SD18の第5層とSD19の堆積土も同一様相を示している。堆積状況を見る限りSD19より、SD20が古い。この状況は、SD18の堆積状況とも矛盾することはない。SD21の堆積状況と比較すると、SD21の流れが、この両溝に流れたような形跡は認められない。確認された溝の規模は、SD19が総延長約10m・幅約1.7m・深さ41cmで、SD20もほとんど同一

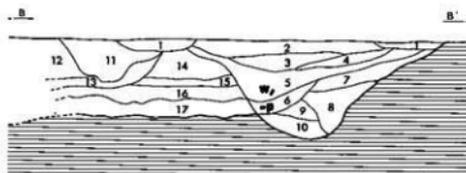


- | | |
|------------------|------------------|
| 1層 褐色砂質土(マンガン含む) | 9層 暗灰色粘土 |
| 2層 灰色砂質土(有機質含む) | 10層 暗灰色粘土(炭化物含む) |
| 3層 褐色砂質土 | 11層 灰色砂質土 |
| 4層 灰色粘土(砂粒含む) | 12層 灰色砂質土(有機質含む) |
| 5層 暗褐色砂質土 | 13層 灰色粘土 |
| 6層 灰色砂質土 | 14層 褐色砂質土(砂粒多い) |
| 7層 灰色粘土 | 15層 暗褐色砂質土(砂粒多い) |
| 8層 灰色砂質土(有機質含む) | |

SR 1



- | |
|-------------------|
| 1層 褐色砂質土(マンガン含む) |
| 2層 暗褐色砂質土 |
| 3層 灰色砂質粘土(鉄分含む) |
| 4層 灰色砂質粘土(マンガン含む) |
| 5層 暗褐色砂質粘土(鉄分含む) |
| 6層 暗褐色砂質粘土(小礫含む) |
| 7層 暗灰色粘土(腐植物含む) |
| 8層 暗灰色粘土(炭化物含む) |

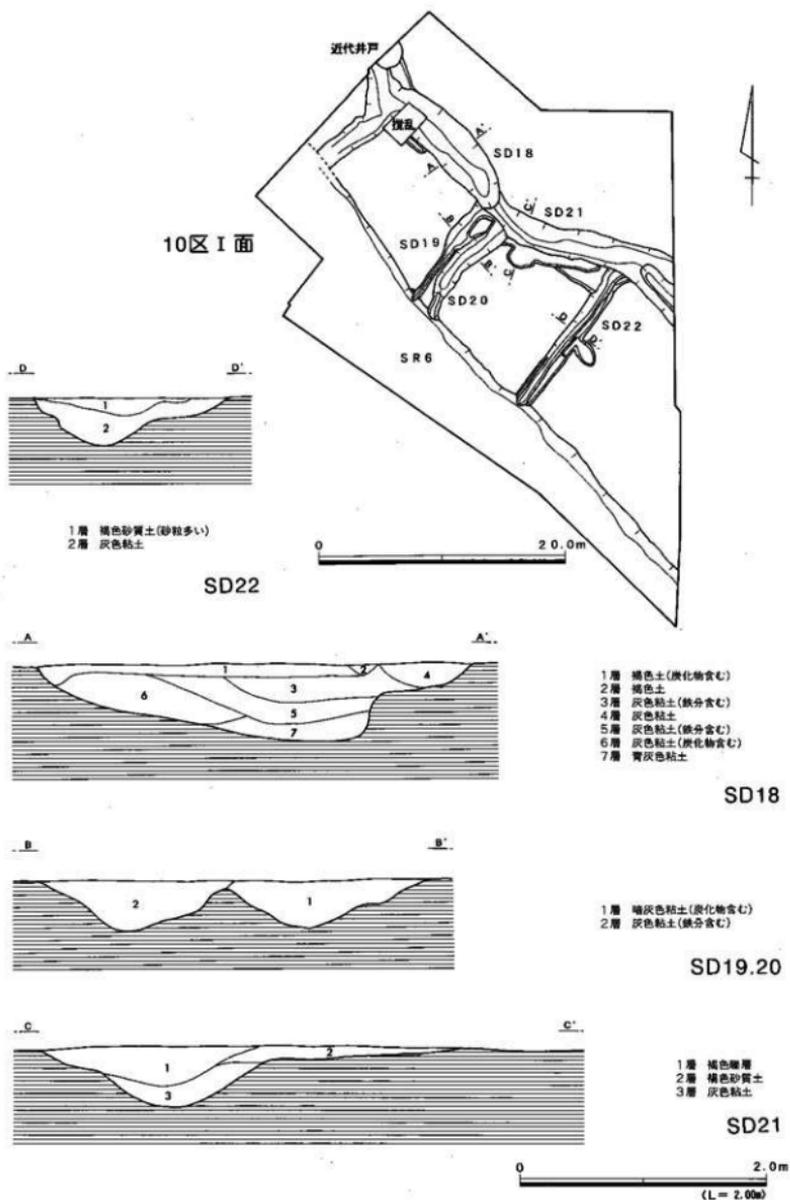


- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1層 褐色粘土(有機質含む) | 10層 暗灰色粘土(腐植物多い) |
| 2層 褐色砂質土 | 11層 褐色砂質粘土(腐植物含む) |
| 3層 褐色砂質土(小礫含む) | 12層 明褐色砂質土 |
| 4層 灰色砂質粘土(腐植物含む) | 13層 灰色粘土(腐植物含む) |
| 5層 褐色粘土(腐植物・砂粒含む) | 14層 明褐色砂質土 |
| 6層 灰色粘土(腐植物・砂粒含む) | 15層 灰色砂質土 |
| 7層 灰色粘土(腐植物含む) | 16層 灰色砂質土 |
| 8層 灰色砂質粘土(腐植物・小礫含む) | 17層 暗灰色粘土(腐植物多い) |
| 9層 褐色砂質粘土(腐植物含む) | |

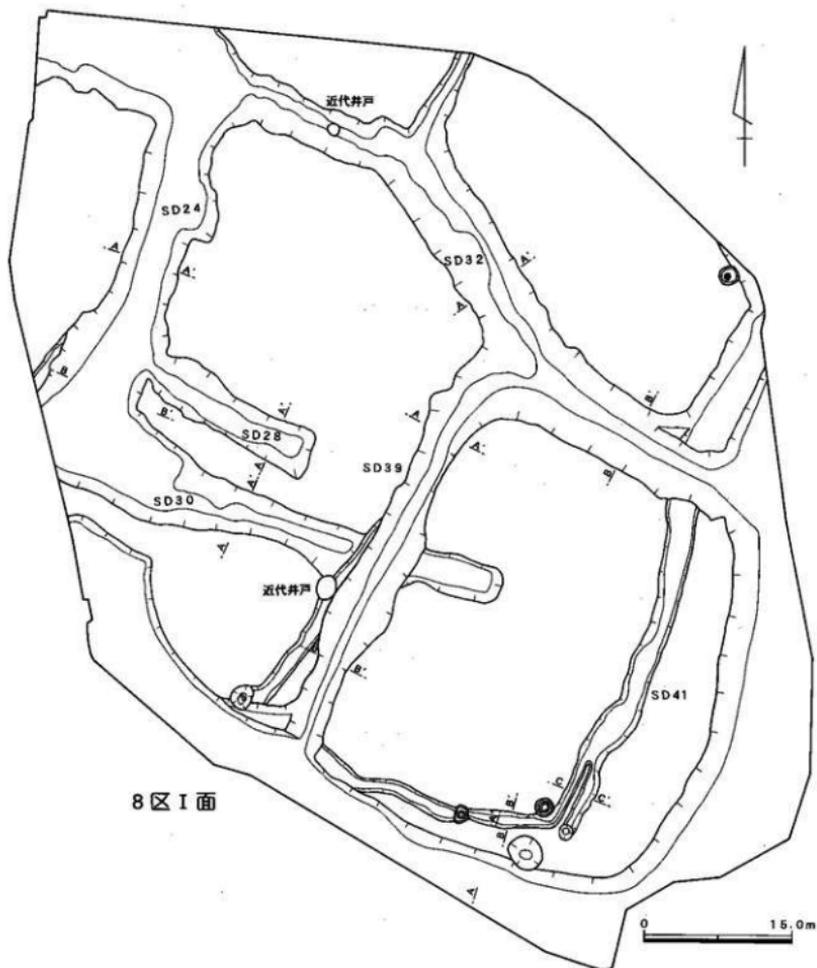
SD14.15.16



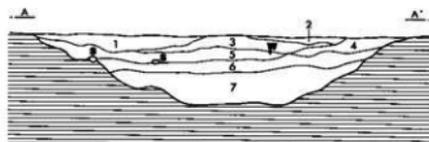
第90図 SR1・SD14.15.16 実測図



第91図 10区 I 面 SD 位置図 SD18・SD19.20・SD21・SD22 実測図



8区I面



- 1層 明灰色砂質土(砂をブロックで含む)
- 2層 灰色砂質土
- 3層 灰色砂質土(砂をブロックで含む)
- 4層 灰色砂質土(腐植物・炭化物を含む)
- 5層 明灰色砂質土(礫を含む)
- 6層 灰色粘土
- 7層 暗灰色粘土

SD32



第92図 8区I面SD位置図 SD32実測図

規模であった。出土遺物はSD19から、古瀬戸後Ⅰ期・Ⅱ期の折縁深皿が各1点、SD20からは12・13世紀代の遺物が各1点、14世紀代が4点、15世紀代が1点、15～16世紀代が2点であった。

この19・20号溝と接続するSD18・21と比較すると、遺物も古手のものが多い。出土遺物と堆積状況からSD20→SD19→SD18・21という順番が判明する。建物に伴う柱穴群は、溝を切って確認されており、溝より新しいと考えられる。

22号溝 (第91図)

SD19及びSD20と平行する溝で、確認された規模は、総延長約14m・幅約1.5m・深さ約50cm前後であった。溝は、単純なU字状の溝でなく、東側に中段が検出されている。第1層は、砂粒が多く含まれる褐色砂質土で、北側で接しているSD21の第2層と同様の状況を示している。

遺物は、12世紀代が2点、13世紀代が2点、15世紀代が1点であった。検出状況から考え、周辺で検出された建物に伴う柱穴群より古いことは確実である。また、接続するSD21よりは古くなる可能性が高い。おそらく、SD19・20と同時期と推定される。

23号溝・24号溝 (第93図)

8区西端遺構面の一角に確認された唯一の溝がSD23で、下層のSD59とほぼ重複しており、かなり長い期間に渡って機能していたと推定される。遺物は、15世紀後半から16世紀までの間でおさまり、都合6点出土している。おそらく、集落移転まで機能していた可能性が高い。上層部分は幅約1.6mで、褐色砂質土のみ覆われており、短期間に堆積したと考えられる。SH76と重複しており、SH76はこの溝が堆積した後に建てられている。

SD24は、8区で検出された南北に流れるクリーク状の溝の一つであり、最も西に位置している。上層部分は、流路や河川の氾濫によって破壊されており、溝の肩部分についても、かなり削平された状況と考えられる。確認面での規模は、総延長約42m、幅約5.9m、深さ約1.2mを測る大規模な溝であった。最上層の第1層の灰色砂質土が、流路の残存部分と考えられる。第5層の砂礫部分に非常に強い流れがあり、最下層の14層の炭化物を含む暗灰色粘土層以外の堆積は、全て流れによって堆積した砂質土と考えられる。断面A-A'部分では、明らかに最下層に2条の流れを確認できる。少なくとも、4度の流れを断面では捉えることが可能であった。最終段階の溝が、1～8層ということになる。

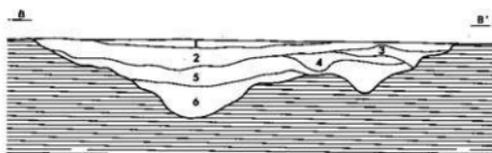
出土遺物は、12世紀代が15点、13世紀代が19点、14世紀代が8点、15世紀代が61点、16世紀代が32点である。12世紀の遺物は、基盤である砂礫層に含まれていたものが大部分で、この溝が12世紀代に遡らないことを示す遺物である。13世紀代の遺物は、西側で確認された遺構に伴うものと推定される。

最も多い15～16世紀にかけての遺物は、下層から15世紀、上層から16世紀代というパターンである。遺物の中でも、古瀬戸後Ⅳ期の製品が最も多く、15世紀後半に何らかの理由で堆積した可能性が高い。溝は、集落移転が実施された16世紀末まで機能していたことは確実である。

25号溝・26号溝・27号溝・29号溝・31号溝

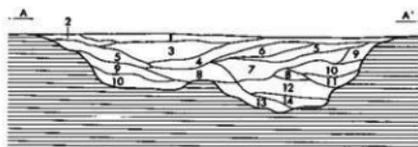
SH55の北側に東西方へ流れる幅約40～70cm、総延長約17m程の溝がSD25である。溝は、途切れてはいるが、同一方向へと向かっているため、1条の溝として捉えた。溝は、東へ行くほど深くなっていた。土層は、単純で西側は褐色砂質土が一層のみ、東側は下層に暗灰色粘土層が確認された。西端でSF19と重複しており、溝のほうが古いことがわかる。遺物は、古瀬戸後Ⅰ期の折縁深皿が出土している。14世紀後半から15世紀初頭にかけて、埋没したと推定される。

SH56の東端からSD39に直行して向う溝がSD26である。溝は、約20m程流れ、SD39へと続いて

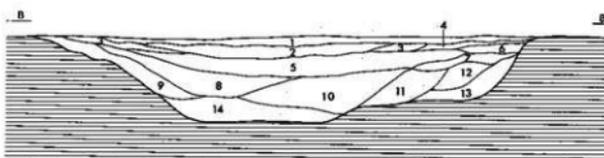


- 1層 明灰色砂質土
- 2層 灰色粘土(炭化物・腐植物含む)
- 3層 暗灰色粘土
- 4層 灰色粘土(礫含む)
- 5層 暗灰色粘土(礫・砂粒含む)
- 6層 暗灰色粘土(粘性強)

SD32



- 1層 灰色砂質土(鉄分含む)
- 2層 灰色砂質粘土
- 3層 灰色砂質粘土(砂粒多い)
- 4層 灰色砂礫
- 5層 暗灰色砂質粘土
- 6層 灰色砂質粘土(砂粒・礫含む)
- 7層 暗灰色砂礫
- 8層 灰色砂質粘土
- 9層 明灰色砂質粘土
- 10層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 11層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 12層 暗灰色砂質粘土(炭化物・腐植物含む)
- 13層 黄灰色砂質粘土
- 14層 暗灰色粘土(炭化物含む)



- 1層 灰色砂質土(鉄分含む)
- 2層 灰色砂質粘土(砂粒多い)
- 3層 灰色砂質粘土(礫含む)
- 4層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 5層 暗灰色砂礫
- 6層 暗灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 7層 暗灰色砂質土
- 8層 暗灰色粘土
- 9層 暗灰色砂質土
- 10層 暗灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 11層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 12層 暗灰色砂質粘土
- 13層 黄灰色砂質粘土
- 14層 暗灰色粘土(炭化物含む)

SD24



- 1層 灰色砂質土(炭化物含む)
- 2層 灰色砂質粘土
- 3層 暗灰色砂質粘土
- 4層 暗灰色粘土
- 5層 灰色砂質粘土
- 6層 暗灰色砂質土(腐植物含む)
- 7層 灰色粘土

SD28



- 1層 灰色粘土(砂礫ブロック含む)
- 2層 褐色粘土
- 3層 灰色粘土(炭化物含む)
- 4層 灰色砂質粘土
- 5層 灰色砂質粘土(炭化物含む)

SD30



第93図 S D24・S D28・S D30・S D32 実測図

いる。幅は約50cm前後であるが、SD39よりで約1.0mに広がっている。また、途中で直角に分岐するSD27が派生している。出土遺物は、常滑産13世紀代の壺もしくは甕の体部、古瀬戸前IV期の底卸目皿片と大窯1期の緑釉鉢皿の2点である。溝が派生する部分で、SH56の柱穴群と重複しており、建物より古い溝だと判明する。

SD26と分岐し、SD39に平行して流れ、SD29に接続する溝が、SD27である。SD26と分岐する箇所では、幅約30cmであるが、約13m程下流でSD29と接続する部分では、幅約80cm程に広がっている。遺物の出土はないが、重複関係から建物より古いことがわかる。

船入り状遺構SD28と、区画溝SD39を結ぶように確認された溝がSD29である。SD28、39より古い時期の溝で、両遺構によって破壊されていた。出土遺物は2点であるが、溝に伴う遺物か、包含層の堆積遺物かは判然としない。遺物は、古瀬戸中IかII期の折縁深皿と古瀬戸後IV期古段階の緑釉小皿、古瀬戸後期の器種不明品、13世紀後半の渥美・湖西産の山茶碗である。これらの溝は、おそらく同一時期に機能を停止したと推定される。

31号溝は、SD29の南側約10m程離れた箇所位置し、ほぼ平行する溝である。幅約50cm前後で、総延長約14m。最東端が直角に北へと折れて終息している。遺物は出土していないが、溝の形状や覆土及び堆積状況から、上記の溝と同時期の溝と推定できる。

28号溝 (第93図)

元島遺跡で最も注目される遺構の一つである。溝状遺構であるため、溝として報告するが、おそらく船入りとして利用されたと考えられる。この遺構の北側には、軸と同じにして倉庫と推定されるSH56が、18mと最も奥まった箇所には舟止めのためと推定されるSA4が確認されている。溝の形も箱形をしており、他の溝と異なる様相で、この溝の形も船入り説を補強する一つの材料である。溝が廃絶する最終段階で、SD24からの水が溢れたと考えられ、北側から東側にかけて約10cm程の褐色砂質土が堆積していた。かなり激しい氾濫によって堆積したものである。この船入り状遺構は、SD24と同時期に機能していたことが、その堆積状況から判断される。第5層に堆積している灰色砂質粘土は、流れてきた砂が堆積したと考えられ、少なくともこの時期に、何らかの砂が堆積する状況が生まれたと思われる。

遺物は、12世紀代が2点、14世紀代が1点、15世紀代が10点、16世紀代が3点であった。12世紀代の遺物は基盤に伴うもので、14世紀代の遺物は混入の可能性が高い。すると、この船入りは15世紀中頃から16世紀にかけて機能していたことが考えられる。おそらく、明応地震の後から、集落移転まで機能していたものと思われる。

30号溝 (第93図)

SD28と平行して南側に位置する溝で、28号溝同様SD24に直行した溝である。SD28と同様の船入り施設のための溝とも推定されるが、周辺状況がかなり異なっている。まず、堆積状況が異なり上層部が粘土である。隣接する溝やSD28との共通点が認めにくい。また、周辺城に溝と合致するような建物も検出されていない。溝の形もV字をしており、船を付けるに適した形と良いが、SR8やSD24の流れや他の流路によってかなり周辺城の堆積状況が不安定であったため、溝の最下層も押さえにくい状況であったため、SD30と24、SR6との合流関係が判明していない。

遺物は、SD28と同様な様相を示すが、量は少ない。12世紀代が3点、14世紀代が2点、15世紀代が4点、16世紀代が2点であった。SD30は、SD28と同様の時期に機能していたと考えられる。だが、集落が移転する16世紀後半まで、機能していたかは判然としない。

32号溝 (第92・93図)

8区北側を西北から南西にかけて流れる区画溝である。総延長約80m、幅約6m、深さ約1.2m程を測る大型の溝でもある。西側部分の断面はU字形で、かなり大きな溝と認識され、東側部分になると2条の溝を推定できるが確実な堆積状況ではない。共に最下層は、緩やかに堆積した状況を示し、最上層部分が流路等の影響による堆積と見てとれる。非常に大きな溝であるため、出土遺物もかなりの量のぼる。遺物を時期別は大別すると、12世紀代が13%、13世紀代8%、14世紀代が7%、15世紀代が34%、16世紀代が37%という状況で、7割強が15世紀代から16世紀代にかけての遺物であった。溝内では、下層に15世紀代の遺物が多く、上層に16世紀代という状況ではなく、上層から下層にかけて共に満遍無く出土する状況であった。従って、徐々に堆積し埋まった溝とは考えられない。

溝の機能開始は、15世紀の前半から中頃と推定され、最終的には集落移転まで、機能していたことが考えられる。元島遺跡の中でも、非常に重要な役割りを果たしていた溝であったことは間違いない。

33号溝

調査10区から流れていると推定される溝で、SD32と接続している。下層にあるSD60と、ほぼ重複しており、東隣のSF23とも重複している。上層溝は、SF23より新しく、下層溝はSF23より古い。区画溝の一部と推定されるが、確認できたのは10m程であったため、確実とは言い難い。幅は約2.0m、深さ70cm程である。出土遺物は4点と少ない。古瀬戸後ⅢかⅣ期古段階の緑釉小皿、同後Ⅳ期新段階の平椀、瀬戸・美濃産大窯1期の緑釉挟み皿、11型式の片口鉢が出土している。遺物こそ少ないが、接続するSD32と同時期の遺物が確認されている。従って、15世紀の後半から16世紀にかけてSD32と接続していた可能性が高い。

34号溝・35号溝・36号溝

8区北端から真すすく南へ伸びる溝が34号溝で、長さほぼ10m・幅約1.5～0.5m・深さ20cm前後であった。周辺域にあるSD33、38も、34号溝と同様に南へ直行した溝である。ある時期に、この方向への溝が掘られたと思われる。遺物が出土していないため、時期は確定できないが、周辺域の建物群の柱穴より古い時期ということだけは確実である。

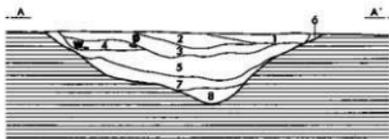
SD35は、SD34の東を東西に18m程に渡って流れ、区画溝SD38に接続する溝である。接続部分は、約1.0m程の広さで、西側にかけて幅が狭まっており、最終的には30cm前後の幅で終息している。途中北からくる溝を切っており、この溝より新しいが、周辺域の建物群よりは古い時期にあたる。遺物の出土がないため、明確な時期決定はできない。

SD36は、SD35に対し、ほぼ直角で南に位置する7.5m程の長さの溝で、北側に若干新しい時期と推定される溝状遺構と重複している。幅30cm内外で、10cm程の深さであった。SD34、35同様遺物の出土は見られないが、建物群より古い時期にあたる溝である。

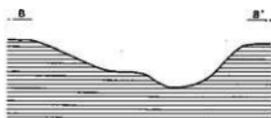
38号溝

38号溝は、調査8区の東北端で確認された南北方向の大溝である。SR9によって、かなり攪乱を受けているため、溝の幅・深さ、時期等判然としない。ただ、溝があったために、流路が急激に流れ、溝西側の遺構面を削り取っていることは確実なので、集落最終段階の16世紀末頃まで機能していたと考えられる。東西方向のSD32によって分断されているが、接続関係は把握できない。

出土遺物は、12世紀代が1点、13世紀代が2点、15世紀代が5点、16世紀代が2点であった。流路の関係で確実に溝に伴う遺物を特定できないが、接続するSD32と同時期と考えたい。



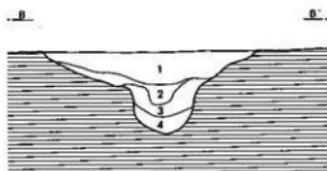
- 1層 灰色砂質土(砂ブロックで含む)
- 2層 暗灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 3層 暗灰色砂質粘土(腐植物含む)
- 4層 暗灰色砂質土
- 5層 暗灰色粘土(炭化物・腐植物含む)
- 6層 暗灰色粘土
- 7層 暗灰色粘土
- 8層 暗灰色粘土(炭化物含む)



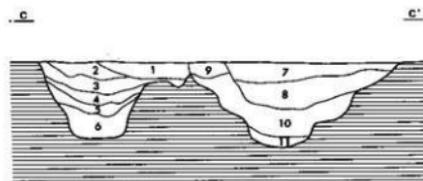
SD39



- 1層 暗灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 2層 褐色砂質粘土
- 3層 灰色砂質粘土
- 4層 暗灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 5層 灰色砂質粘土
- 6層 灰色粘土(炭化物含む)
- 7層 灰色粘土
- 8層 暗灰色砂質粘土
- 9層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 10層 灰色砂質粘土
- 11層 暗褐色砂質粘土



- 1層 暗灰色砂質粘土(炭化物・腐植物含む)
- 2層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 3層 暗灰色粘土(質灰色粘土固含む)
- 4層 暗灰色粘土(炭化物含む)



- 1層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 2層 暗灰色砂質粘土(腐植物含む)
- 3層 灰色砂質粘土(炭化物・腐植物含む)
- 4層 灰色粘土
- 5層 暗灰色粘土(上面に貝殻含む)
- 6層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 7層 灰色砂質粘土(砂粒多い)
- 8層 灰色砂質粘土(粘土固含む)
- 9層 灰色砂質粘土(粘土固含む)
- 10層 暗灰色粘土(腐植物含む)
- 11層 灰色砂質粘土(粘土固含む)

SD41



第94図 S D39・S D41 実測図

39号溝 (第94図)

調査8区を東西に分断する大溝で、元島集落にとって非常に重要な溝である。北側では、SD32と接続、南側ではSR8によって破壊された溝へと接続し、集落を方形に取り囲んでいる。溝は、総延長約49m、幅約4.5m、深さ約1.2mという規模である。明らかに、二時期に渡って機能していた溝と推定され、第3、4層を下層にした時期があったと考えられる。上層部は、人工的溝の可能性が高いが、下層部については、自然流路を溝として利用していることも推定される。最下層では、3条程度に溝が分岐した部分もあり、当初は小さな溝が位置を変えながら流れていた可能性もある。

遺物は、非常に多く出土しており、最も古い遺物は12世紀前半の湖西・渥美産の山茶碗で、最も新しい時期は江戸時代の銅鉢である。年代別に見ると、12世紀代が5%、13世紀代が5%、14世紀代が2%、15世紀代が55%、16世紀代が32%、江戸時代が1%という割合である。断面図の第4層にかかる土器片は、大窯3期の銅鉢である。従って、最終的に機能していたのは、16世紀の後半ということになる。15世紀代の遺物はどの層でも確認されるが、最も多く検出されたのは第5層である。山茶碗類については、基盤の河川堆積層に混在していたものがほとんどである。遺物量は、SD32とSD39がずばぬけて多く、時期もほぼ同一である。この両溝は、一時期接続して機能しており元島集落の重要な役割りを果たす溝であったことは間違いない。

41号溝 (第94図)

調査8区の北西SD32から逆L字状にSD39に取りつく溝で、ほぼ同様の方向に近代の溝（スクリーントンで表示）が検出されている。SD39は、断面C-C'の北側で分岐し、西溝は直角に曲がり西側へ続き、東溝は直行し土坑SF44で停止している。この溝の東側から南側にかけての遺構は、河川堆積層を基盤層としているため、遺構検出が困難な状況であった。従って、この溝についても、東側から南側にかけて、多くのトレンチを入れざるを得ない状況であった。

断面A-A'の第1層が近代溝である。炭化物を含む暗灰色砂質粘土一層で、全てが同一の覆土であった。断面B・Cについては、近代溝の包含層をはずした段階の断面で、C-C'で4時期の溝が確認されている。溝は、古い順から2～6層→1層→9～11層→7～8層という状況であった。南側にあたるB-B'の断面の第1層とC-C'の第3層が、またBの第4層とCの第6層が対応する堆積土と判明したため、最も古い段階の溝は、逆L字状に伸びていたことが判明している。溝は、底へ行く程しっかりとした形状を呈しており、本来は区画のための溝であったと推定される。

出土遺物は、14世紀から16世紀に渡っており、最も古い遺物は常滑産7型式の甕で、新しいものは常滑産12型式の広口壺であった。遺物は、14世紀代が4点、15世紀代が8点、16世紀代が3点であった。最終段階は、周辺の溝であるSD38、SD32と同時期と思われる。溝そのものの使用開始は、若干遅り14世紀代になることも推定される。

65号溝

SH66の西側に位置する長辺約9m、短辺4mの船入り状の遺構である。SD39と接続しており、SD39に伴う遺物も若干混在している可能性が高い。15世紀代が6点、16世紀代が1点、江戸時代が1点であった。確実な時期認定はできないが、SD28とした船入り状遺構より古いことも推定される。

SD28と比較すると、その規模もおよそ半分となる。そのため、仮に船入りとしても5～6m前後の小型船しか停泊できない。船入り以外の用途を考慮する必要もあろう。

第4節 15世紀代の遺構

1・2・3・8・6・9区で確認された第Ⅱ遺構面である。第Ⅰ遺構面との時期差は、ほとんどないと考えられるが、溝の配置等、16世紀代まで影響を与えるもの、まったく機能を停止し埋没してしまうものがある。おそらく、15世紀の末頃に大きな洪水の被害を受けている可能性が高い。この集落は、明応の大地震によって壊滅的打撃を受けた集落と考えられ、集落そのものが自然災害によってかなり削平を受けており、柱穴等の掘り方も非常に浅い状況で検出されている。区画溝と推定される溝も存在するが、大部分が破壊されており確実性に乏しい。井戸も検出されず、墓もない。井戸については、たとえ洪水があっても底部分は残ると考えられるが、墓については流された可能性が高い。第Ⅰ遺構面と比較し、集落そのものが大きく広がっていないのは、やはり自然災害のためと思われる。柱穴も少なく、まったく遺構のない空白区域もあった。遺物については、元島遺跡出土の大半が15世紀代の遺物であるが、遺構に伴うことは稀で、大部分が包含層もしくは流路、溝からの出土である。これらの状況から判断すると第Ⅱ遺構面の遺構そのものは、大きな洪水等の被害によって攪拌されてしまったとすることが妥当と考えられる。

検出遺構は、掘立柱建物31棟、土坑24基、溝状遺構18条、不定形遺構2基であった。掘立柱建物については、方位をほぼ同一にした区画性を持った並びで、主軸方位はおおむね20度東に振れている。柱間は尺を単位としているが、ばらつきが多く、使用頻度の高い尺間を求めることは困難であった。

調査区のうち、1・9区で検出された遺構に重複が多く、また柱根・礎板の残りも良かった。8区から2区に続く推定される溝の内側部分が、この時期の中心部と推定される。この溝より東側は流路により攪乱を受けており、明確な建物を検出できなかった。溝状の遺構や土坑は検出されており、遺構として深かったもののみ残存し、建物の柱穴は破壊されたということも十分想定される。

出土遺物は、遺構からの出土が少なく、大部分が包含層出土品である。包含層でも、4区からの出土は稀で、後世の流路で流失したが、破壊が北からではなく、南から起こったということも推定できる。

1. 掘立柱建物

77号掘立柱建物（第95図）

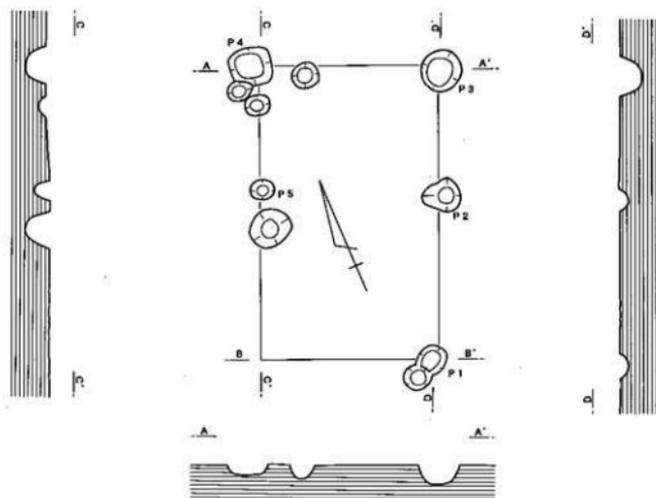
SH77は、2間×1間の掘立柱建物と考えられる。東側に隣接するSH78とでL字状をなす建物群を形成している。南西隅の柱穴は検出されていない。規模は約4坪で倉庫的機能を持つ掘立柱建物と推定される。主軸は、東へ22度振れている。遺物は、出土していない。

78号掘立柱建物（第95図）

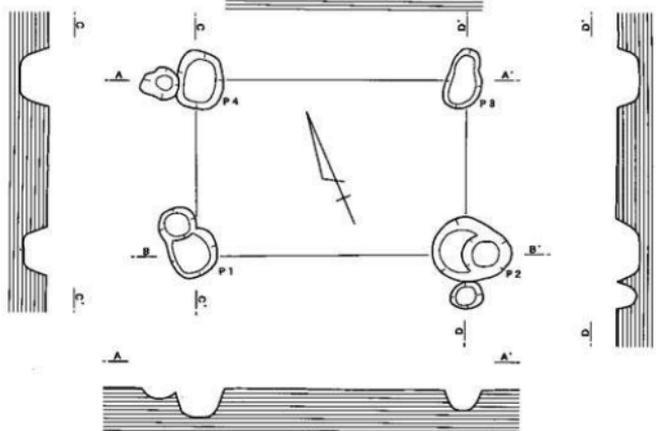
SH78は、1間×1間の掘立柱建物で、SH77と隣接した建物である。検出された柱穴は、径約1m・深さ約50cmと大型である。規模は約4坪で、SH77とほぼ同規模である。おそらく倉庫的機能を持つ建物と推定される。建物東から南へかけてL字状に曲がる溝の端にあるため、この倉庫とセット関係になる母屋は、北側にかけて広がっていたと推定される。遺物の出土は見られない。

79号掘立柱建物（第96図）

SH80と重複する掘立柱建物で、3間以上×1間と考えられる。建物を構成する柱穴の内、南列のP1とP2のみ他より小振りな柱穴である。そのため、P6とP3を合わせた方形部分が入口部分とも推定できる。建物は、SH77、79と軸を合わせているため、ほぼ同時期と考えたい。建物規模は、約7坪以上であるが、北側部分が調査区外へと続くため確実なことは不明である。遺物は、出土していない。



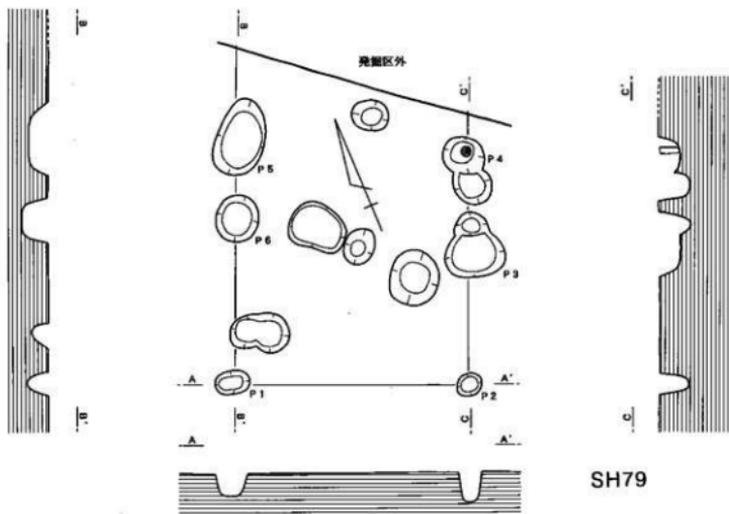
SH77



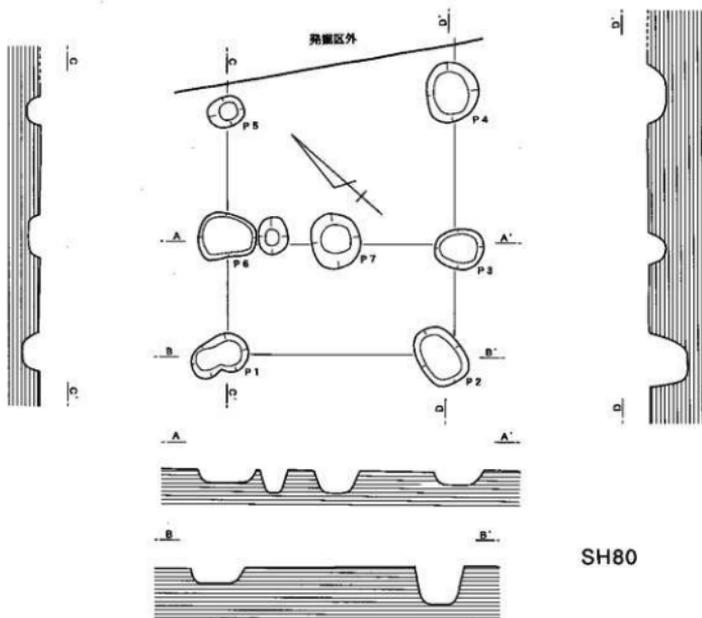
SH78



第95图 SH77·SH78 实测图



SH79



SH80



第96图 SH79·SH80 实测图

80号掘立柱建物（第96図）

SH79と重複する掘立柱建物で、3間以上×1間の縦長の建物である。重複するSH79との新旧関係は不明である。検出された柱穴は、径80cm・深さ60cm程でかなり大型の建物が推定できる。P1-P2-P3-P7-P6-P1間は、全て6尺で統一されている。発掘区外へとびる建物北側については8尺で、さらに北側へと続いている。現状での建物規模は約5坪で、P3-P6で、部屋割りもしくは、付属施設が付設されていたようである。この建物は、主軸を東へ47度振っており、他の建物とかなり異なっている。異なる原因は不明だが、おそらく時期差の可能性が高い。遺物の出土は見られない。

81号掘立柱建物（第97図）

3間以上×1間の掘立柱建物で、さらに調査区外北側へと続いていることが推定される。現状での建物規模は、約3坪と小さく、主軸をSH82と同一にしている。周辺区域に建物は広がっていないが、東側の調査6区のSH102とセット関係になる可能性も推定できる。遺物は出土していない。

82号掘立柱建物（第97図）

SH81と軸をあわせて東に位置する3間以上×2間以上の掘立柱建物である。建物の大部分が東側発掘区外へと続いているため、その規模等の全容は不明である。P1-P5のラインが、庇もしくは縁と考えられる。建物西側に縁がある建物は、元島遺跡ではまれであるため、両庇の切妻屋根の建物とするのが妥当かもしれない。建物規模は、約9坪以上と考えられる。遺物は出土していない。

83号掘立柱建物（第98図）

第Ⅱ遺構面で、最も柱穴群が検出された区域に位置する掘立柱建物である。3間以上×2間以上の掘立柱建物と推定され、建物はさらに西側発掘区外へと続いている。確認された建物は、一部であるため、その全容は明らかでないが、SH82と非常によく似た構造である。庇と推定される柱間の距離は、共に4尺で共通している。建物構造も同様のもので、庇付きの切妻屋根が想定される。

84号掘立柱建物（第98図）

SH83の東隣に軸をあわせて建つ3間×2間の掘立柱建物である。6尺を柱間に使用しており、東西軸の端のみ4尺となっている。P1-P2、P6-P7のみが4尺で、ここが入口部分と推定される。建物規模は約5坪で、おそらく倉庫の機能を持つものと考えられる。

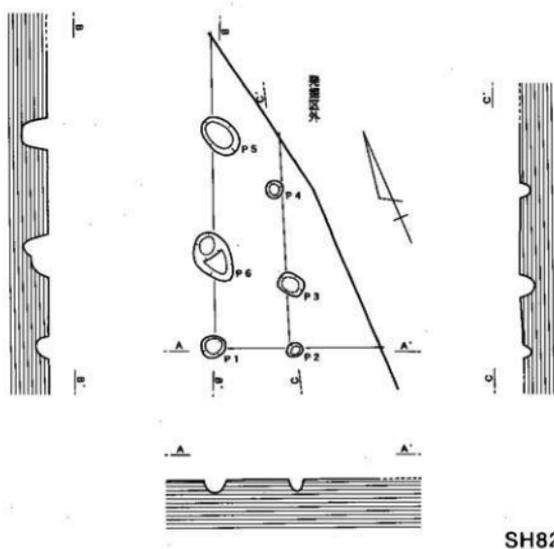
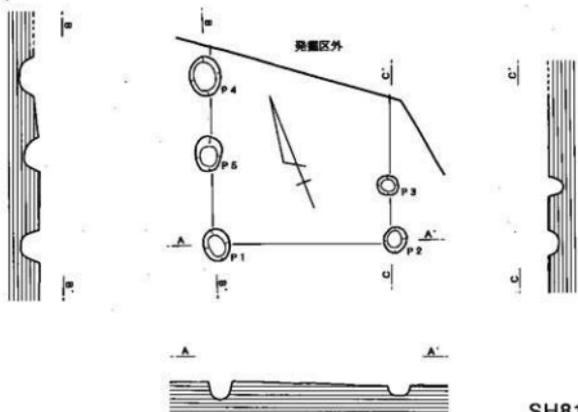
85号掘立柱建物（第99図）

この地区で、最大の掘立柱建物で、3間×3間で、約14坪の規模を持つ。SH86とほぼ平行して建てられていることから、セット関係が推定される。建物東側が確実に検出されていないため、若干大きくなる可能性は残されている。その規模から、この地区の母屋的建物と考えられる。

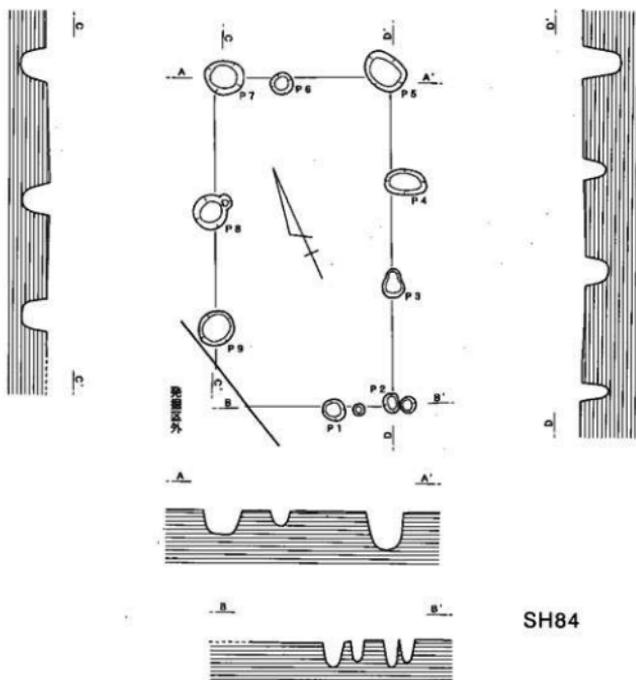
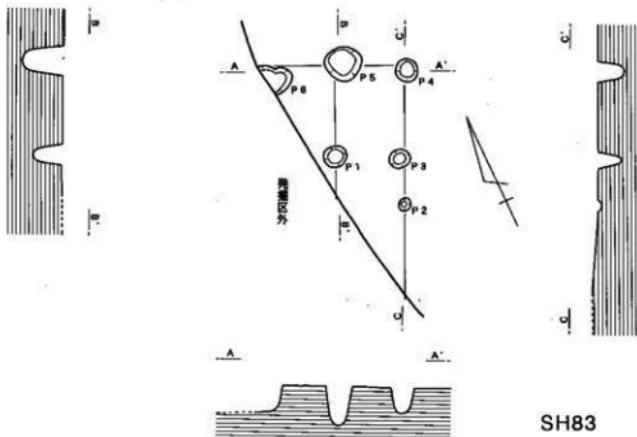
遺物は、P1から常滑産5型式の山茶碗、同6a型式の山茶碗、同14世紀代の壺もしくは甕の体部片、渥美・湖西産13世紀前半の山茶碗と小皿が出土している。このP1は、かなり大型であるため土坑という可能性も考えられる。遺物から見る限り建物は、14世紀以降の構築ということになる。

86号掘立柱建物（第99図）

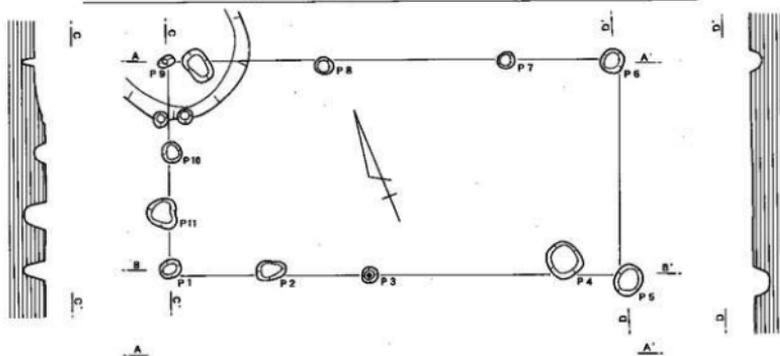
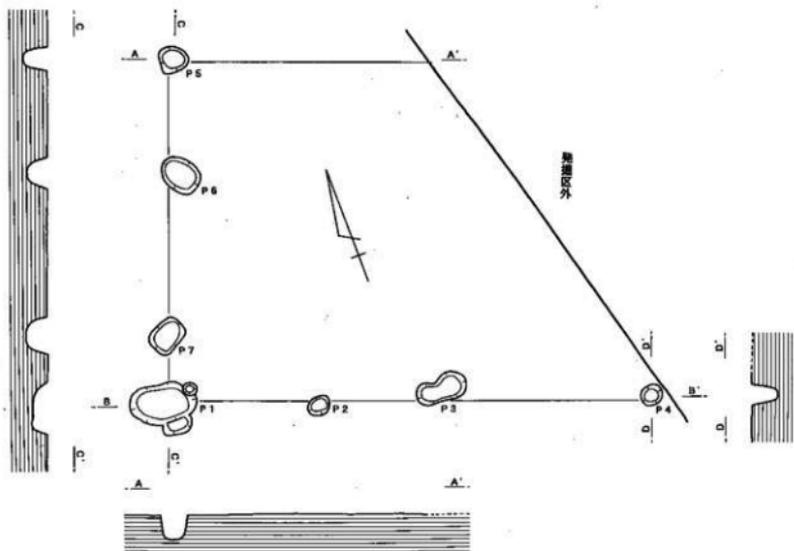
SH85の南側に平行して建つ、3間×3間の長方形の掘立柱建物である。建物規模は、約8坪で納屋の機能が推定できる。遺物は、P1から14世紀代の常滑産の壺もしくは甕の体部が、P3から、柱根が



第97図 SH81・SH82 実測図



第98图 SH83・SH84 実測图



第99图 SH85・SH86 实测图

検出されている。建物北西隅で検出された土坑は、掘立柱建物より古い時期のものであったが、遺物等の出土が見られないことから、確実な時期決定ができない。柱間の距離も不統一であった。

87号掘立柱建物（第100図）

SD43を屋敷地の区画溝と想定した場合、屋敷地の最南端に位置する小形掘立柱建物となる。一軒四方で1坪にも充たない規模である。南北6尺・東西4尺で、建物もしくは、物干し施設が想定される。柱穴そのものも、径約20cmと小さく、おそらく使用していた柱も径10cm程度と推定されるため、建物とするなら簡易的な物置・小屋の可能性が最も高い。物干しのような施設とするなら、この程度の柱で十分と思われる。

88号掘立柱建物（第100図）

SH85を中心とする屋敷地の南西部に広がる、もう一つの屋敷地を構成する掘立柱建物である。検出された建物は、1間×2間であるが、約18尺の距離があるため、おそらく検出できなかった他の柱穴があったことが想定される。北側東西方向は、中央部に柱穴が検出されているが、南側は、P1から3尺程度離れた位置にのみP2が検出されている。おそらく、この柱穴が入口施設に関連するものと考えられるため、この建物の入口は南側の可能性が高い。

89号掘立柱建物（第101図）

SH88と、軸をあわせて東側に位置する掘立柱建物で、ほぼ同規模の建物である。SH88同様、柱穴列の全ては検出されていないと思われる。東西軸は約18尺、南北軸は約12尺を測るため、2間×3間の建物と推定できる。建物規模は、約6坪で、倉庫の機能が想定される。

90号掘立柱建物（第101図）

SH89と、軸をあわせて南側に位置する掘立柱建物で、規模もほぼ同一である。同規模の建物が、3棟検出されているが、機能分化をして、違う役割りの建物として屋敷地を構成していたのか、同一の機能を持った建物群かについては、検証できない。仮に、後世の洪水によって攪乱された東側部分の様子のはっきりするなら、このあたりの問題が判明するであろうが、現状では何とも言い難い。

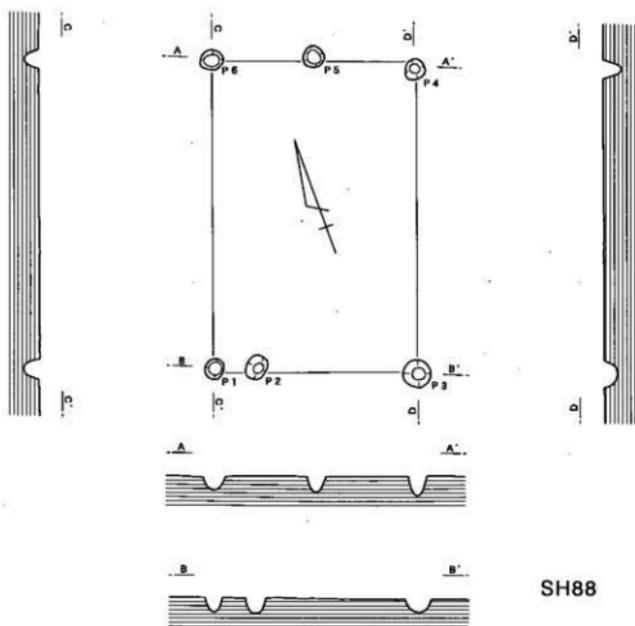
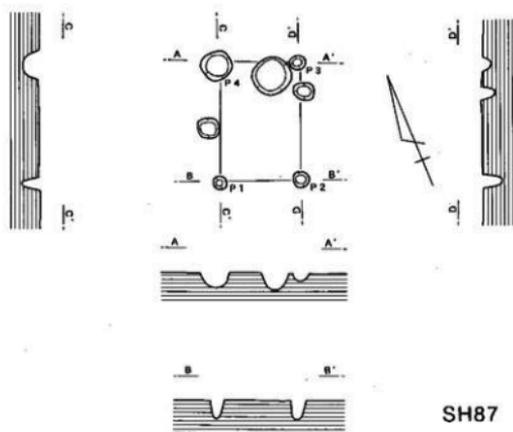
91号掘立柱建物（第102図）

SH90と、軸をあわせて南西に位置するほぼ方形の掘立柱建物である。建物規模も、上記建物とほぼ同一である。建物西側の少し張り出し加減の、P6-P7が入口部分と考えられる。建物東側を東西方向に流れる溝SD44との確実な時期差は不明であるが、建物より溝が古いと考えられる。溝の中から遺物の出土は見られないが、多量の炭化物を含む層位を確認している。

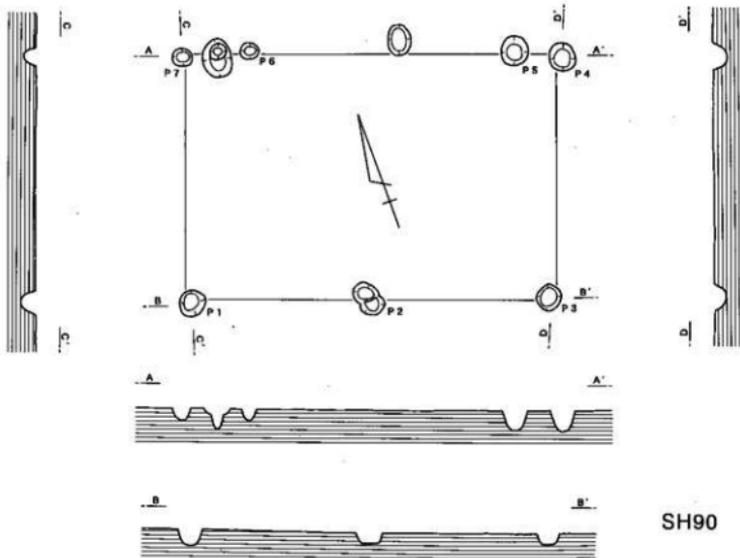
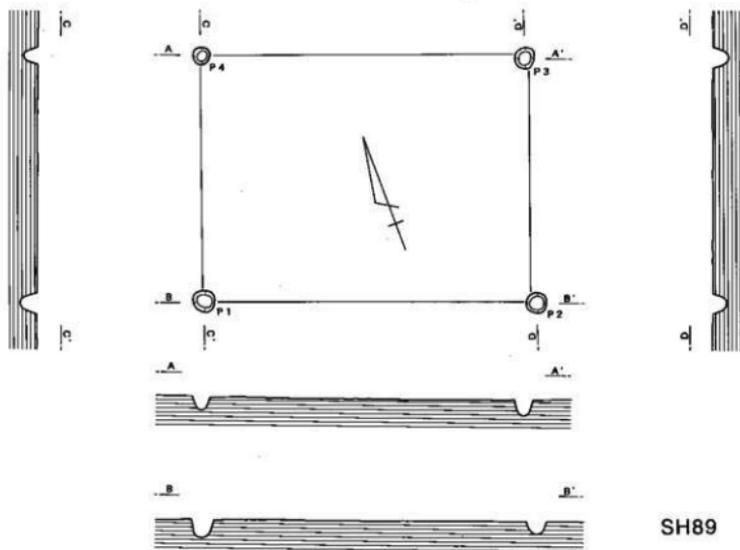
建物に関連する柱穴からの遺物の出土はないが、建物内の小穴から13世紀代の常滑産の垂もしくは甕の体部が出土している。

92号掘立柱建物（第102図）

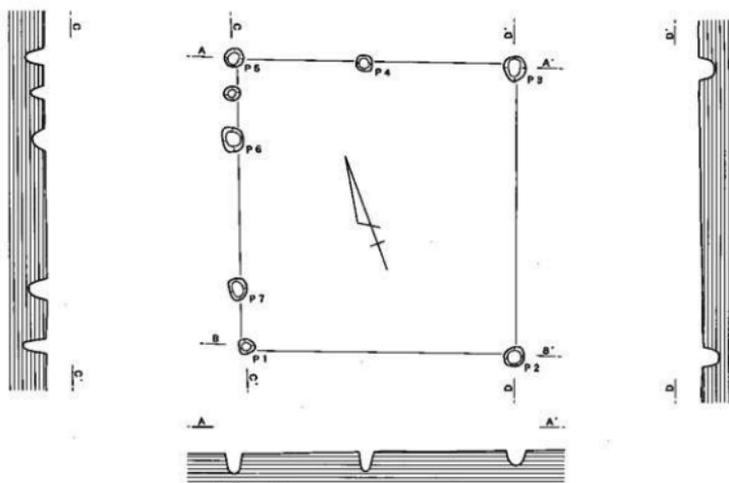
この区域の最も南側に位置する掘立柱建物で、大きさも8尺四方程である。P3から柱根が検出されており、径15cm・長さ30cm程のものであった。建物は、簡易的な倉庫と考えられ、SH89のような物干し施設とは想定できない。柱穴も、径約60cmを測るので建物として問題ないとする。



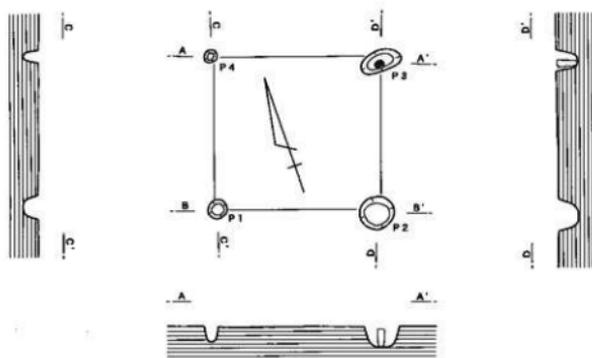
第100図 SH87・SH88 実測図



第101图 SH89 · SH90 实测图



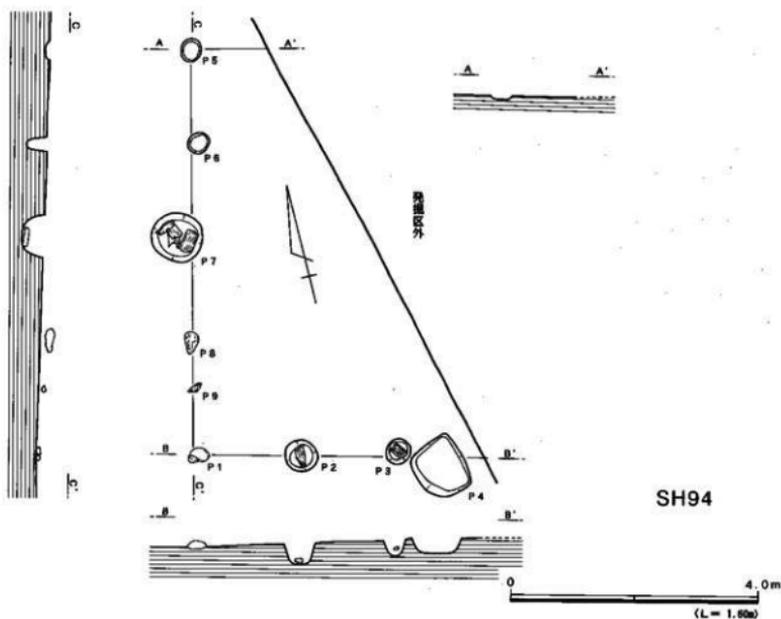
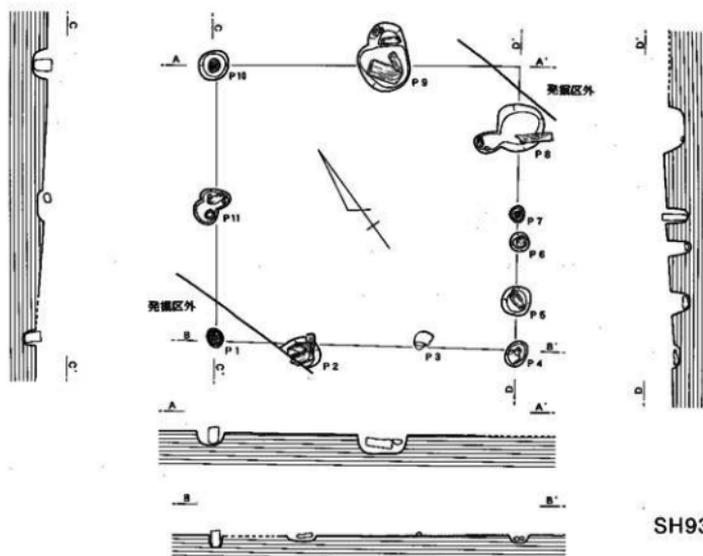
SH91



SH92

0 4.0m
(L = 1.60m)

第102图 SH91 · SH92 实测图



第103图 SH93·SH94 实测图

93号掘立柱建物（第103図）

最も建物が重複する区域で、特に礎板が多く確認されている。2間×2間の掘立柱建物で、柱根が2箇所、礎板が6箇所で見出されている。検出された柱根は、径20cm強と大型で、礎板は厚さ15cm程もあった。これらから、かなり大型のしっかりした建物が想定される。柱根の深さと礎板の深さから見て、同時期かどうかという疑問も残る。おそらく何度かの立て替えがあると考えられ、それらが混在した状況の中で、同一面として検出された遺構と思われる。P1、P10で検出された柱根は、ほぼ同規模で深さも一定している。この両柱穴を基本にしたのが、SH93である。建物規模は約6坪で、主軸は36度東に振れる。

出土遺物は、P9から古瀬戸後IV期の卸皿と15世紀中頃から後半の三ツ沢産合子蓋が出土している。また、建物内の小穴から古瀬戸中期と中IV期の折縁深皿も確認された。また、P8から元祐通寶、景德元寶が出土している。SH93・94・95・96が重複する部分にある小穴から、聖宋元寶、熙寧元寶、天聖元寶の3枚セットも確認されている。

94号掘立柱建物（第103図）

SH93・95・96・97と重複する掘立柱建物で、建物は東側調査区外へと広がっている。この建物は、柱穴だけでなく、礎板等も含めた中で検出されたものである。柱間は、ほぼ6尺となっているが、柱穴の大きさにバラツキが見られる。SH94同様、何度かの立て替えがあったと推定される。礎板以外の遺物は出土していない。

95号掘立柱建物（第104図）

SH93・94・96・97と重複する掘立柱建物で、調査区外へと広がっているため、建物規模が確定できない。4間以上×3間以上と考えられ、3箇所礎板が検出された。いずれの礎板も、標高80～90cmの高さで検出されており、特にP7は4枚を重ねて使用していた。礎板の大きさは、平均すると径30×20cm程で、厚さ約10cm程のものであった。柱間は、P1-P7が6尺、P7-P4が12尺であった。P7とP4の間の礎板が失われていたと仮定すれば、柱間はほぼ6尺で統一されていたことになる。

出土遺物は、P3から紹聖元寶、元豐通寶、皇宋通寶が3枚セットで出土している。

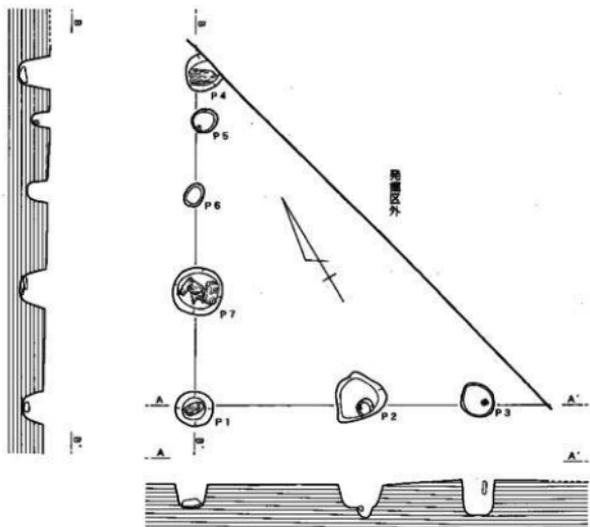
96号掘立柱建物（第104図）

SH93・94・95・97と重複する掘立柱建物で、調査区外へ若干広がっている。礎板及び柱根が検出されているが、柱根は建物とは異なるものと考えられる。また、P4は、同時期の土坑が重複していたため確実な形状を把握できなかった。P1-P8が6尺、P8-P6が18尺であるため、SH95と同じ6尺を単位としていることが想定される。

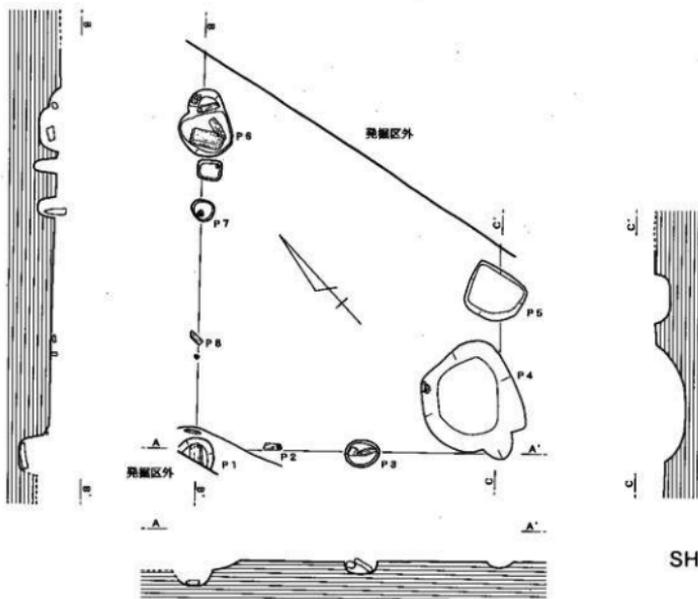
P6とSH93のP9が重複しており、どちらの建物の柱穴なのかは判然としない。従って、出土遺物である古瀬戸及び三ツ沢製品がどちらなのかははっきりしない。同じくP6の重複しない北側部分から、永樂通寶2枚、元豐通寶、天聖元寶、元祐通寶、不明各1枚の6枚がセットで出土している。また、P7から開元通寶3枚、皇宋通寶、熙寧元寶、元豐通寶各1枚の6枚セットが確認できた。

97号掘立柱建物（第105図）

SH93・94・95・96と重複する掘立柱建物で、建物の大部分は発掘区外へと展開している。3間×2間以上の建物が想定されるが、主軸方向から考えると、かなり大型の掘立柱建物になる可能性もある。現状での規模は約3坪、主軸は約22度東へと振れている。



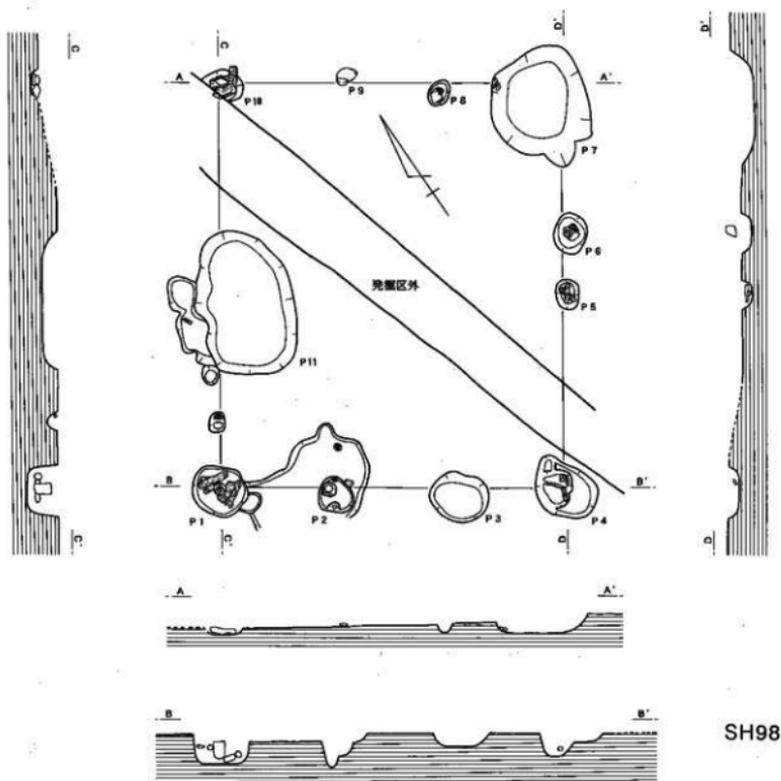
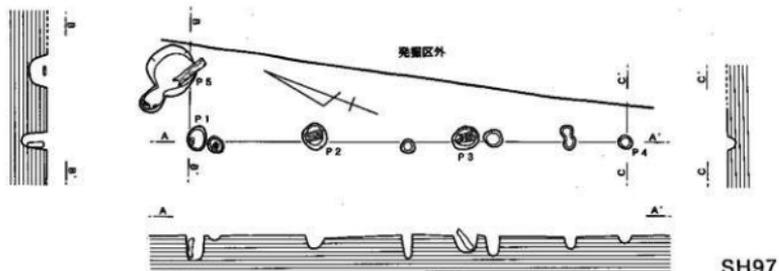
SH95



SH96

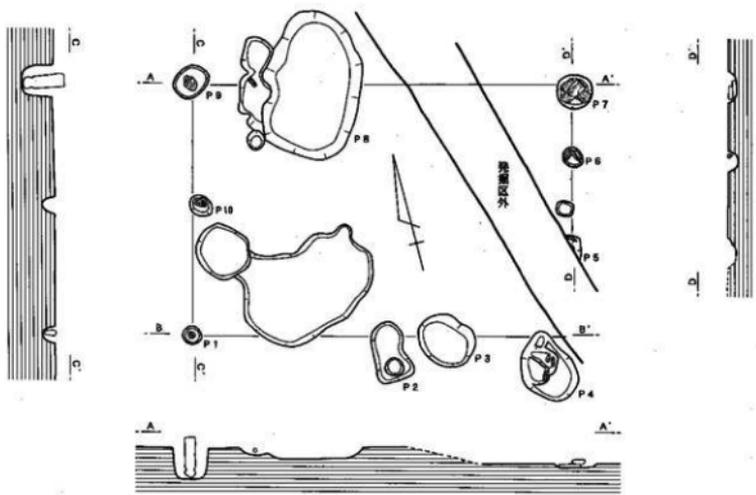
0 4.0m
(L = 1:600)

第104图 SH95·SH96 实测图

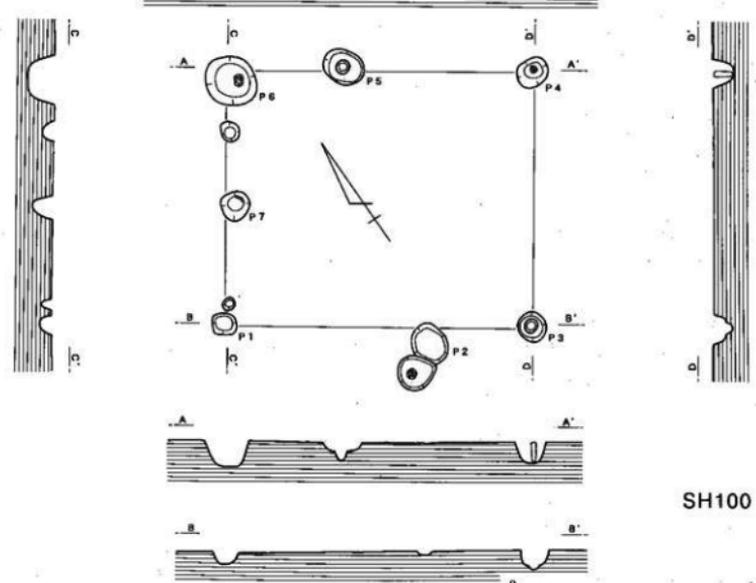


0 4.0m
(L = 1.60m)

第105图 SH97·SH98 实测图



SH99



SH100



第106图 SH99·SH100 实测图

98号掘立柱建物（第105図）

SH96・99と重複する掘立柱建物で、約8坪の規模を持つ。礎板と柱根が検出されている。P1で検出された柱根は、礎板の上にはのっていないが、加重等はずれたと想定される。柱根は径約20cm程で、隣接するSH93の柱根とほぼ同様である。礎板の位置は、標高約80～90cmとこれもSH93と同様の高さを示している。これらの結果から、SH93と98は、南と北ではほぼ同一の軸関係になるため、一つの大規模な建物を構成することも考えられる。そう考えれば、12m×7mで、約25坪の規模を持つ大型掘立柱建物ということになる。他の地区の様相からすれば、この可能性もかなり高いと思われる。

出土遺物は、P2から古瀬戸後ⅠもしくはⅡ期の盤類、同後ⅢもしくはⅣ期古段階の盤類、P11から古瀬戸後ⅢもしくはⅣ期の天目茶碗、P3から古瀬戸後Ⅳ期の摺鉢が出土している。

99号掘立柱建物（第106図）

SH98と重複する掘立柱建物で、約8坪の規模を持つ。2間×3間と推定される。P9で検出された柱根は大型で、径20cm強・長さ70cmを測り、下部に柱を運ぶための脚が確認された。また、P7で検出された礎板は、×印状に二枚の板を組合せ補強していた。

遺物は、SH98・P11と重複するP8から古瀬戸後ⅢかⅣ期の天目茶碗、同じくSH98・P3と重複するP3から古瀬戸後Ⅳ期の摺鉢、P2から三ツ沢産の緑釉小皿が出土している。また、建物内の小穴から常滑産15世紀代の甕の体部（スタンプ紋付き）が出土している。

100号掘立柱建物（第106図）

SH93・98と軸を同一方向にする、約6坪の掘立柱建物である。P4、P6の二ヶ所で柱根が検出されているが、共に径15cm程度のものである。建物東側のP6-P7に並ぶ箇所が、この建物の入口と想定される。SH101と重複するが、立て替えではなく時期差と思われる。

遺物は、P6から常滑産10型式の片口鉢が1点出土しているだけである。

101号掘立柱建物（第107図）

SH100と重複する掘立柱建物で、調査区外南へさらに拡大すると考えられる。今回検出された部分は、1間×3間で、約4坪の規模である。おそらく、建物の縁もしくは庇と推定される。検出された柱穴はいずれも、径50cm以上のもので、現在の規模で建物が完結しているとは考えにくい。

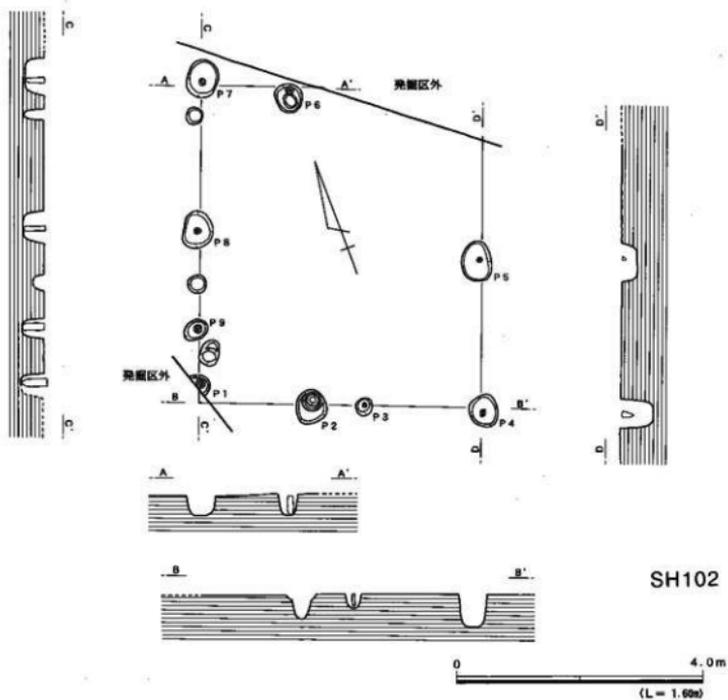
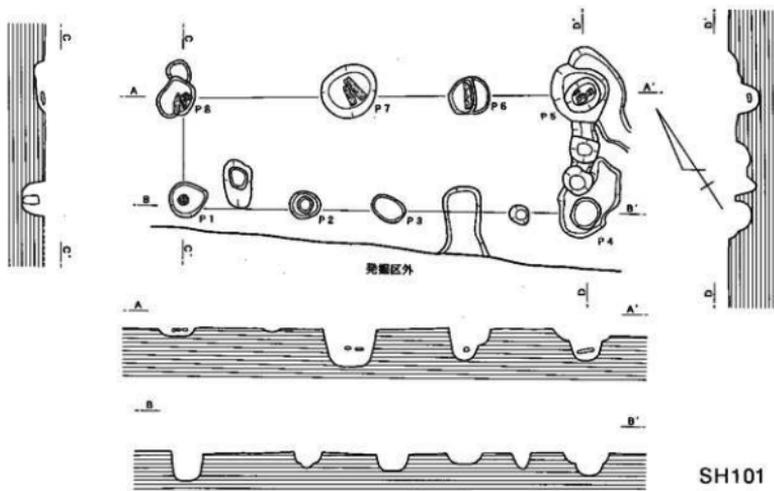
102号掘立柱建物（第107図）

6区調査区最西端で検出された掘立柱建物で、2間×2間と推定される。柱根の残存状況がよく8箇所柱穴から検出されている。平均すると径10cm弱・長さ約35cm程である。建物の西側南北軸の柱根の距離は北から、8尺・5尺・3尺である。おそらく、3尺部分が入口と思われる。この建物は、東側で検出されたSH81・82と軸を合わせているため、セット関係も考えられる。

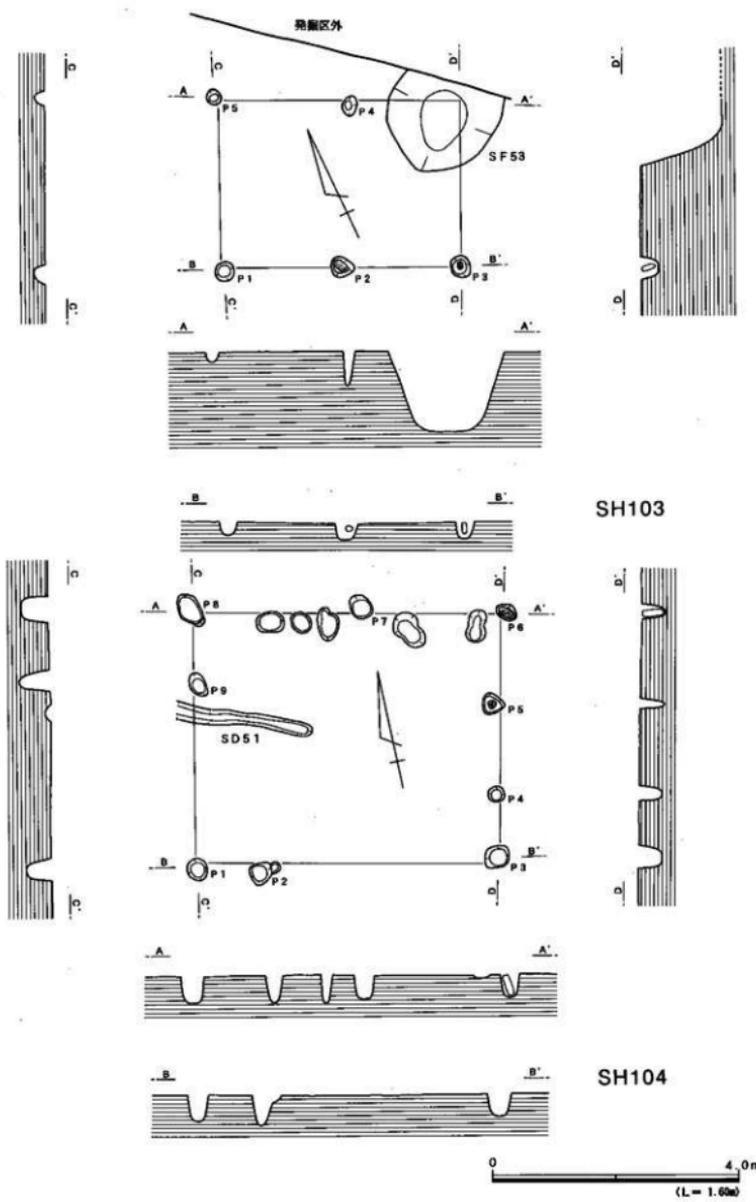
遺物は、P6から古瀬戸後Ⅲ期の緑釉小皿が出土している。

103号掘立柱建物（第108図）

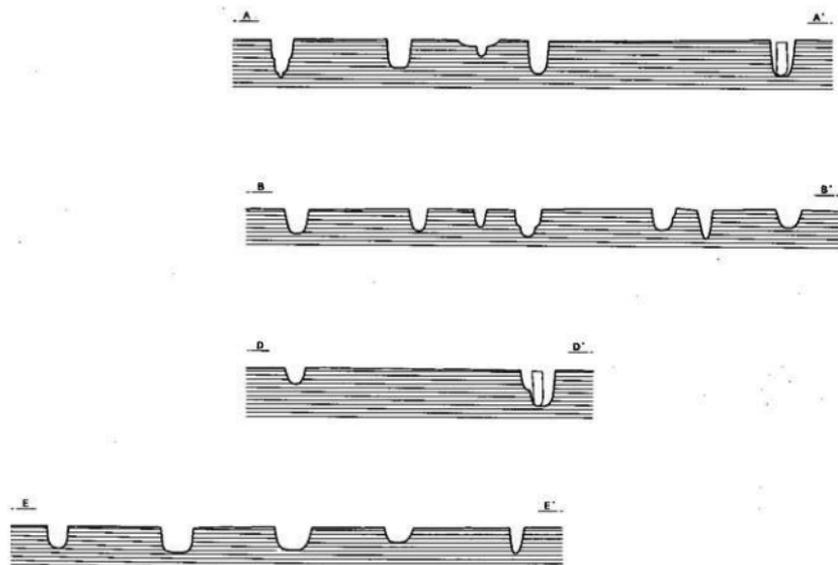
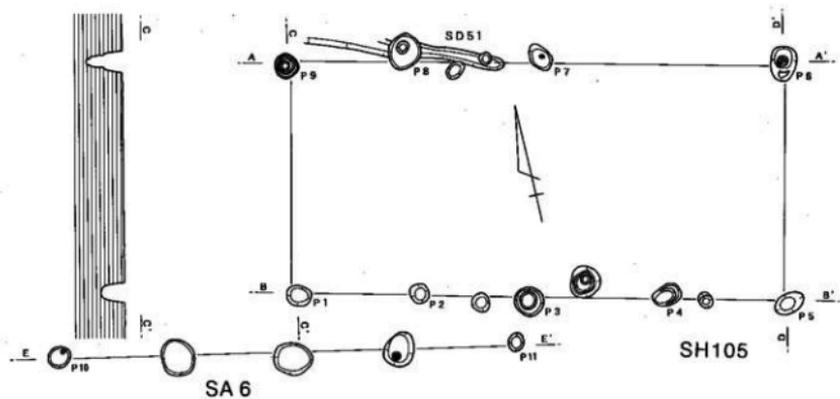
1間×2間の小形掘立柱建物で、東北角が土坑SF53によって破壊されていた。このため、この土坑より柱穴が新しいということになる。南北軸は約9尺、東西軸は約6尺である。P2、3から柱根が検出されている以外、遺物の出土は見られない。建物規模は、約3坪である。南に隣接する掘立柱建物との関連については主軸も異なり、判然としない。



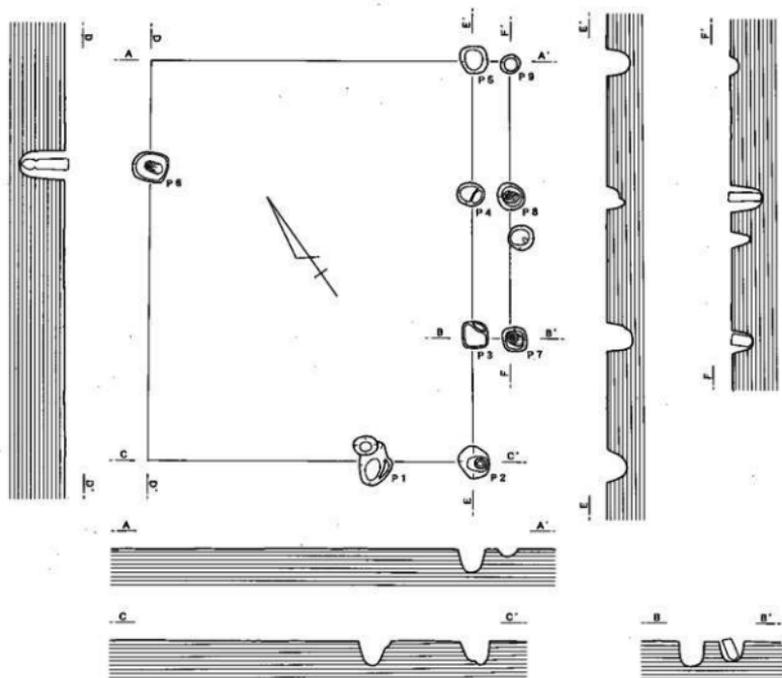
第107图 SH101·SH102 实测图



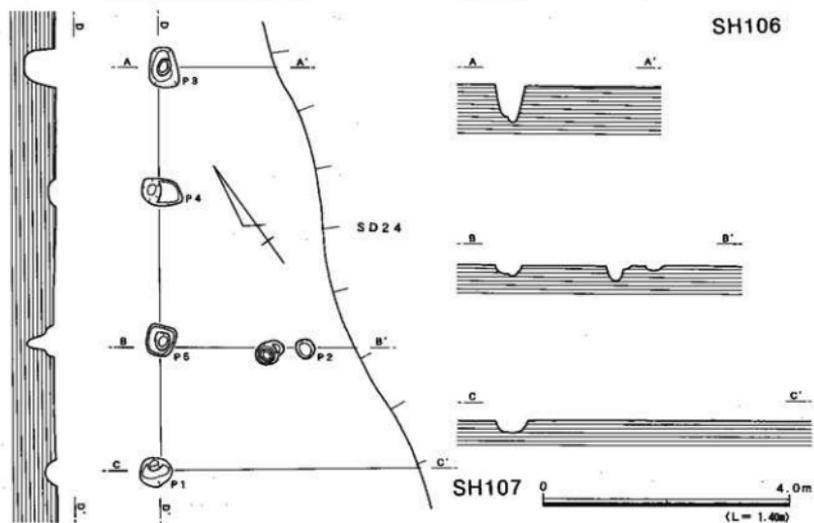
第108图 SH103·SH104 实测图



第109圖 SH105・SA 6 実測圖



SH106



SH107

0 4.0m
(L=1.40m)

第110图 SH106·SH107 实测图

104号掘立柱建物 (第108図)

SH 105と重複する3間×3間と考えられる掘立柱建物である。建物規模は約6坪半で、P5・P6から柱根が出土している。検出された柱根は、共に径約10cm・長さ約30cmであった。建物西側に一部接続する溝SD51との関係及び新旧関係は不明である。

直接建物に伴う柱穴からの遺物は出土していないが、内部で確認された小穴から常滑産10型式の摺鉢片と13世紀前半の渥美・湖西産の山茶碗が出土している。

105号掘立柱建物 (第109図)

SH 104と重複する掘立柱建物で、この地区最大の約10坪の規模を持つ。柱間については、バラツキが多く特定できないが、南北軸は13尺であった。南側東西軸の柱穴が多く検出されていることから、南側に入口が推定される。建物北側に重複する溝SD51よりは、建物が新しい。P6から柱根が検出されており、径約20cm弱・長さ約60cm程と大型である。南側西南部P10-P11間は、櫓列(SA6)と推定されるが、建物と軸が異なっている。この4柱間は、全て6尺で統一されているため、建物の一部とも考えられるが、検出された柱穴と列になる柱穴列は検出されなかった。

106号掘立柱建物 (第110図)

8区で唯一第Ⅱ遺構面の残る北西端で検出された掘立柱建物である。建物そのものの柱穴は、すべて検出されていない。建物規模は約11坪で、東側南北軸の柱穴列の残りはよい。東側北東隅から2柱分のみ縁状の張り出しが検出されている。縁状の張り出しは、8尺間で、2尺張り出している。張り出し部分に残る柱根は、径約20cm弱であった。建物部分のP6で検出された柱根の径もほぼ同様であるが、こちらは、柱を運ぶための脚のようなくびれが確認される。

遺物は、P3から古瀬戸後Ⅰ期の折縁深皿が1点のみ出土している。

107号掘立柱建物 (第110図)

SH 106の東に隣接して検出された掘立柱建物で、3間×2間以上の建物と考えられる。柱穴間は、7尺で、P5-P2間で部屋割りが見られる。この部分が入口になるのか、それとも別の機能なのかは判然としない。建物の東側を南北に流れる溝SD24は、区画溝の可能性が高いため、建物がそれほど大きくなることは考えにくい。

2. 土坑状遺構

6号土坑 (第111図)

SH21内部で確認された小形の円形土坑で、径約55cm・深さ24cm程の大きさである。柱穴によって土坑の一部が破壊を受けているため、建物よりは古い土坑と考えられる。古瀬戸後Ⅳ期の平碗と三ツ沢産の摺鉢、完形品に近い内耳鍋が出土している。含土は、炭と焼土を多量に含んでいるため、ここで煮炊きをした可能性も考えられる。時期としては、15世紀中頃以降の廃絶とするのが妥当と思われるが、15世紀末頃まで機能したことも想定される。

10号土坑 (第111図)

SD14の西側に位置する円形土坑で、長辺約1.7m・短辺約1.5m・深さ約75cmを測る。第1層及び第2層は、流路等による堆積と考えられる。第4層が、最も有機質を含み木片等も多く含まれていた。従って、この土坑は、2時期機能していたことも推定される。最下層である有機質を含む第5層から三ツ

沢産の直縁大皿が出土しており、15世紀中頃以前に掘られたと推定され、その後再度利用されたとするのが、現時点での妥当な推定であろう。

11号土坑（第111図）

S F10の南に位置する土坑で、長辺約1.3m・短辺約1.1m・深さ約54cmを測る。隣接するS F10とは異なり、急激に埋没した状況を示している。常滑産9型式、10型式の摺鉢がそれぞれ出土している。出土遺物から見る限り、S F10より、11が新しいことになる。

23号土坑（第112図）

第I遺構面の区画溝SD33の東側最北端に位置する土坑で、径約3.3m・深さ84cmを測り円形を呈している。断面は摺鉢状で、SD33によって西側上部が破壊されている。従って、この区画溝より古い時期の土坑ということになる。第2、3層に腐植土が堆積しており、木製品が検出されている。中に完形品のつちのこ1点も含まれていた。出土遺物は、12世紀代が1点、13世紀代が1点、14世紀代が9点、15世紀代が1点であった。最も、多い14世紀の遺物は、瀬戸産山茶碗が3点、常滑産片口鉢が6点である。また、嘉祐元寶が1点出土している。遺物から考える限り、この土坑は14世紀中頃から15世紀初頭にかけて機能していたことが推定される。

24号土坑（第112図）

ほぼ円形を呈した土坑で、径約1.6m・深さ60cmを測る。この土坑は、柱穴と重複しているため、土坑が古いことがわかる。土坑は、急激に埋没したようで、周辺他土坑と異なり炭化物や腐植土を含んだ堆積土は見られない。出土遺物は、1点のみであるが瀬戸産7型式の山茶碗が検出されている。混入の可能性もあるため、時期確定は難しい。

28号土坑（第113図）

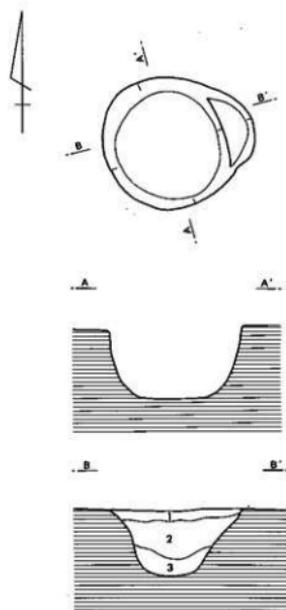
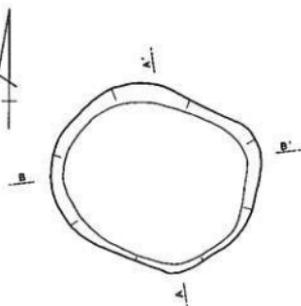
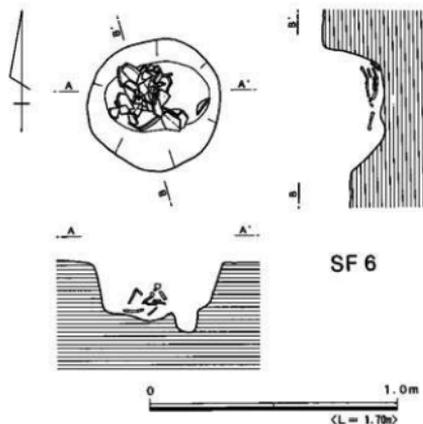
区画溝SD39の右脇に位置する土坑で、長辺約3.1m・短辺2.3m・深さ74cmを測る。堆積状況から第1層から3層までと、第4層から7層までの二時期があったと推定される。この土坑の含土上で柱穴が2穴確認されており、周辺建物より古いと推定される。第8層は、区画溝SD39から接続する船入り状遺構SD65によって、堰止められオーバフローし堆積した部分である。従って下層部分が溝堆積より古く、上層が新しい時期（16世紀代）にあたる。出土遺物は、下層から古瀬戸後IV期古段階の摺鉢、常滑産10型式の甕が、第3層から常滑産15～16世紀代の甕の体部が出土している。4層以下は、15世紀代の土坑と考えられる。

29号土坑（第113図）

S F28の東隣に位置する方形を呈する土坑である。長辺約1.8m・短辺1.6m・深さ1.0mで、かなり急激に堆積したことがわかる。北側部分に段差になった箇所があり、ここから地表面までは40cm前後である。S F28同様、含土上面で柱穴が確認されており、建物群より古い可能性が高い。出土遺物は1点で、常滑産9型式の片口鉢である。出土遺物から見る限り、S F28下層と、29は同時期に機能を停止したことが考えられる。従って、15世紀代とするのが妥当と思われる。

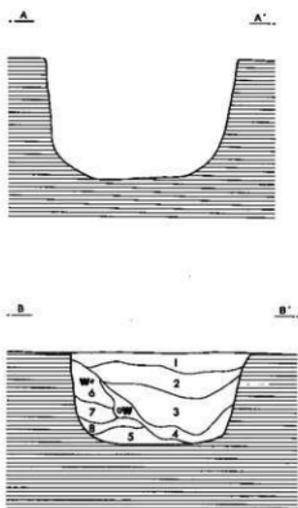
30号土坑（第114図）

円形をした土坑で、径約2.0m・深さ50cmを測る。この土坑の含土をはずした時点で、柱穴状の小穴



- 1層 褐色砂質土
- 2層 灰色粘土
- 3層 暗灰色粘土(有機質含む)

SF11

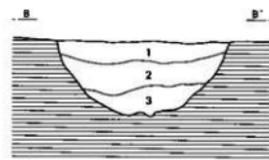
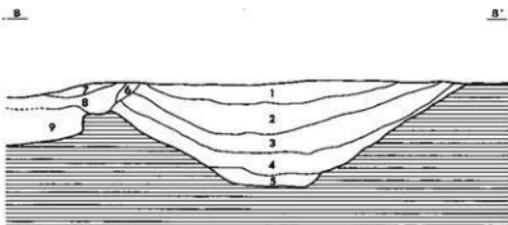
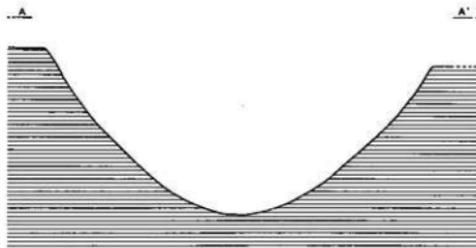
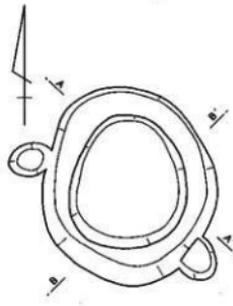
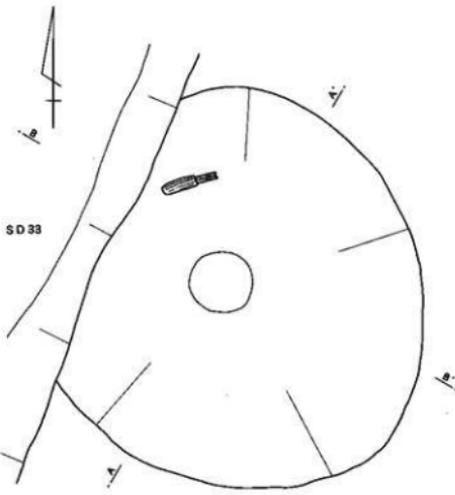


- 1層 褐色砂質土
- 2層 灰色砂質粘土(小礫含む)
- 3層 灰色砂質粘土
- 4層 暗灰色粘土(有機質含む)
- 5層 暗灰色粘土
- 6層 灰色砂質粘土(有機質含む)
- 7層 灰色砂質粘土
- 8層 灰色粘土(鉄分含む)

SF10



第111圖 SF 6・SF10・SF11 実測図



- | | |
|------------|-----------------|
| 1層 明灰色砂質粘土 | 6層 暗灰色砂質粘土 |
| 2層 黑色礫土層 | 7層 灰色砂質粘土 |
| 3層 明灰色腐植土層 | 8層 灰色砂質粘土(鉄分含む) |
| 4層 暗灰色砂質粘土 | 9層 暗灰色砂質粘土 |
| 5層 暗灰色粘土 | |

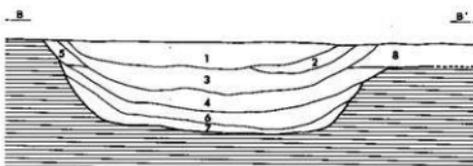
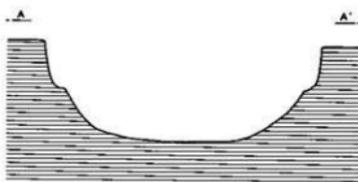
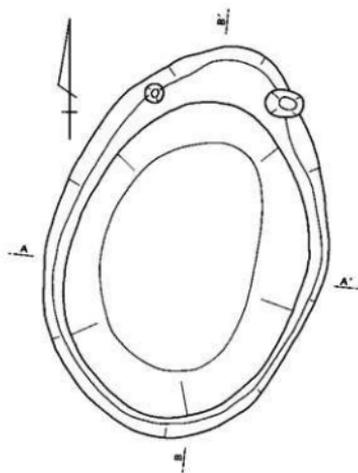
- 1層 灰色砂質粘土
2層 暗灰色粘土
3層 青灰色粘土

SF24

SF23

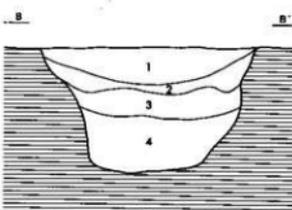
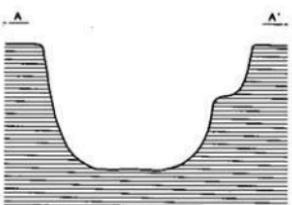
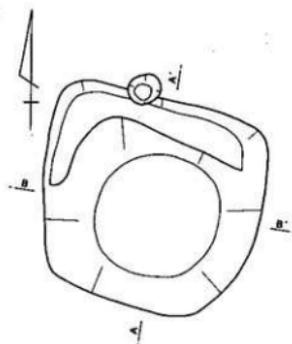


第112圖 SF23・SF24実測図



- 1層 灰色砂質粘土(下層に腐植物)
- 2層 明灰色粘土(下層に腐植物)
- 3層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 4層 暗灰色粘土
- 5層 暗灰色粘土
- 6層 暗灰色粘土
- 7層 暗灰色砂質粘土
- 8層 灰色粘土(炭化物含む)

SF28

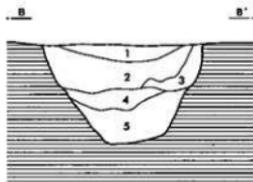
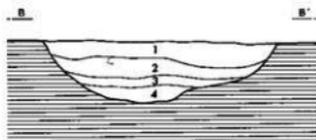
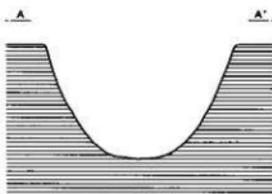
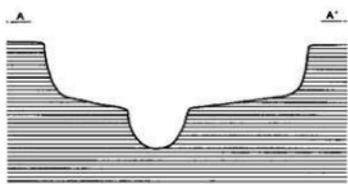
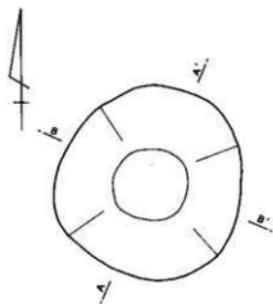
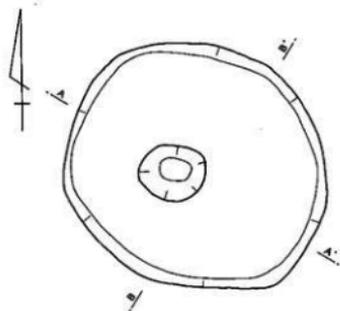


- 1層 灰色砂質粘土(粘土ブロック含む)
- 2層 灰色粘土
- 3層 暗灰色粘土(粘土ブロック含む)
- 4層 暗灰色粘土

SF29

0 2.0m
(L = 1.60m)

第113図 S F 28・S F 29 実測図



- 1層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 2層 暗灰色砂質粘土
- 3層 暗灰色粘土
- 4層 灰色砂質粘土

- 1層 灰色砂質粘土
- 2層 暗灰色粘土
- 3層 灰色砂質粘土
- 4層 青灰色砂質粘土
- 5層 暗灰色粘土

SF30

SF31



第114圖 SF30・SF31 実測図

が確認されたが、下層で周辺域に柱穴は確認されなかった。覆土はほぼ水平堆積であり、除々に埋没していった様子が伺える。第3層内から古瀬戸後IV期新段階の摺鉢が出土している。土坑上面でI面SH65に対応する柱穴は確認されなかったため、建物より古い時期の土坑と考えられる。SF28、29同様15世紀代に使命を終えた土坑と考えられる。

31号土坑 (第114図)

ほぼ円形の土坑で、径約1.6m・深さ80cmを測る。第2、3層が堆積する時に堆積状況に乱れが認められる。また、2層をはずした段階で、柱穴状の小穴1穴が確認された。何に伴う小穴かは不明で、建物との関連も判然としない。遺物は、常滑産10型式の甕片が1点のみである。この土坑も15世紀と考えるのが妥当と思われる。

32号土坑 (第115図)

SD40と接する土坑で、かなり複雑な堆積状況を示している。土坑の大きさは、長辺約1.9m・短辺約1.6m・深さ92cmであった。上層35cm前後の部分と下層は、別個の土坑であった。下層第5、6、7層が埋没した時点で、SD40が流れたことは確実で、その溝が埋まった時点で、さらに第1～4層の土坑を掘ったようである。第5層は、貝殻層で、下層土坑はゴミ穴であったことが確実である。この貝殻層の中から、古瀬戸後ⅢもしくはⅣ期、後Ⅳ期古段階の緑釉小皿が出土している。従って、I面の基盤層にあたる第11層は、15世紀中頃以降に堆積したということがわかる。

33号土坑 (第115図)

SH67、68の北側に位置する大型の円形土坑で、径約2.9m・深さ1.4mを測る。下層の第5、6層は水平堆積であるが、上層は堆積状況に偏りが見られる。第5層は、有機質を含む青灰色粘土で、ここを境に明瞭に分離できる。土坑SF33と、溝SD40の新旧関係はその堆積状況から掴みきれなかった。可能性としては、SD40を通じて水を溜めていたことも考えられる。遺物の出土は少なく、古瀬戸後ⅢもしくはⅣ期の緑釉小皿片と三ツ沢産の摺鉢の2点であった。また、開元通寶も出土している。

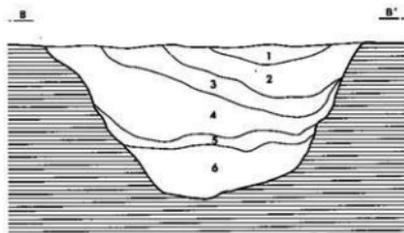
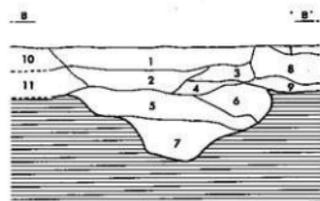
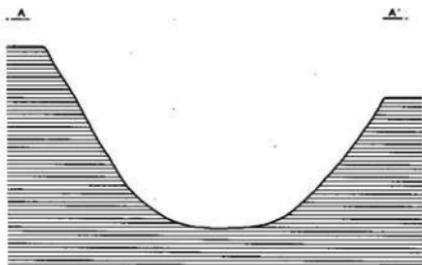
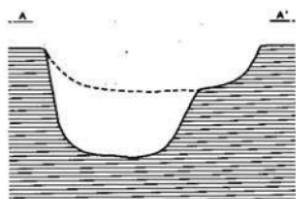
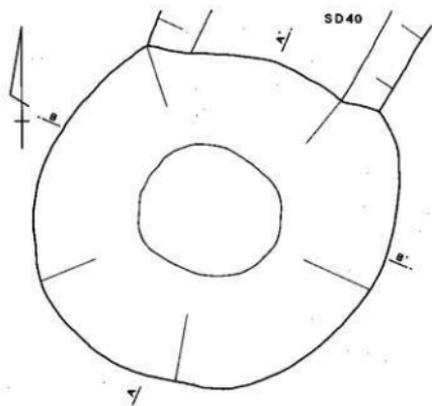
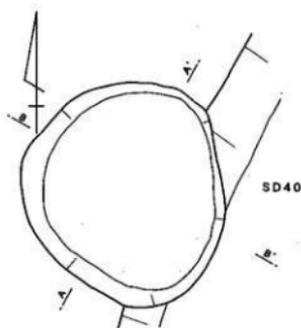
45号土坑 (第116図)

SF44の南西に位置する大型土坑で、径約3.3m・深さ65cmを測り、ほぼ円形を呈している。除々に堆積し埋没した様子が伺える。第1層の炭化物を含む灰色砂質粘土層は、上面の新しい時期の土坑の堆積である。また、第2、3層はトーンの溝の含土である。遺物は、常滑産12世紀代の小柄、同10型式の片口鉢、同15～16世紀代の壺もしくは甕片、古瀬戸後IV期の緑釉小皿、同後IV期新段階の平碗及び天目茶碗と、穴窯から大窯への転換した前後の時期と考えられる不明器種製品が出土している。

この土坑は、15世紀代に廃絶した後、16世紀代になって、1層のみ掘り返しを受けたとするのが妥当であろう。

47号土坑 (第117図)

集落の南を区画する溝(SD16)の北側に位置し、長辺約3.5m・短辺約2.8m・深さ約80cmを測る楕円形の土坑である。堆積状況を見る限り、一気に堆積しており、いずれも砂質の強い土層である。埋められたというより、何らかの状況で埋まったとするのが妥当であろう。遺物の出土は見られない。



- 1層 灰色砂質粘土(炭化物多い)
- 2層 灰色粘土
- 3層 灰色粘土(炭化物含む)
- 4層 青灰色粘土
- 5層 黒色粘土(貝殻多量に含む)
- 6層 青灰色粘土
- 7層 暗灰色粘土
- 8層 暗灰色砂質粘土
- 9層 青灰色砂質粘土
- 10層 灰色粘土
- 11層 暗灰色粘土

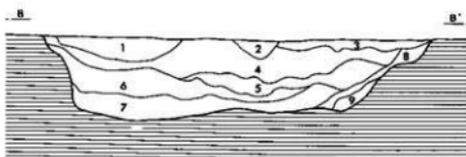
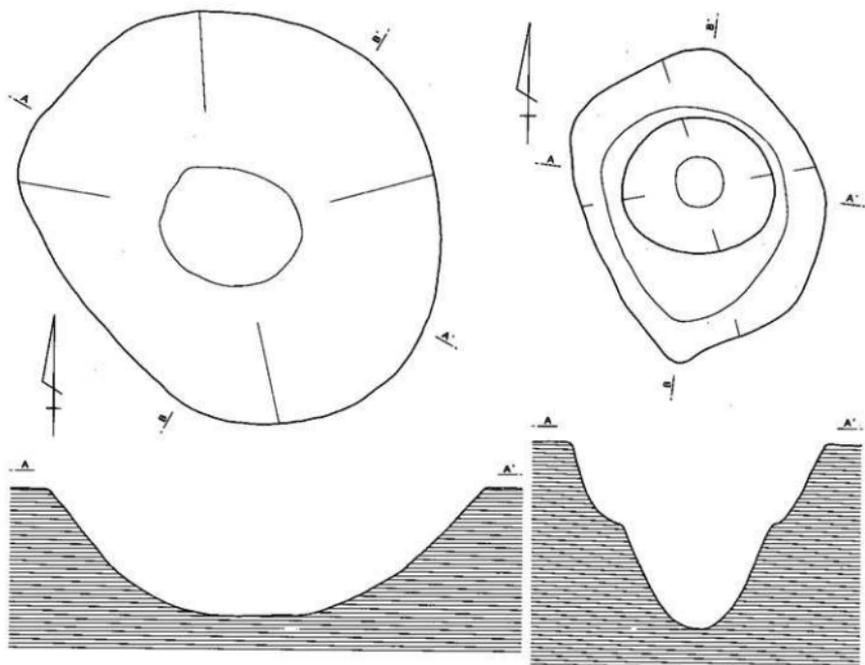
- 1層 暗灰色砂質粘土
- 2層 灰色粘土
- 3層 黒色腐植土
- 4層 青灰色粘土
- 5層 青灰色粘土(有機質含む)
- 6層 暗灰色粘土

SF33

SF32

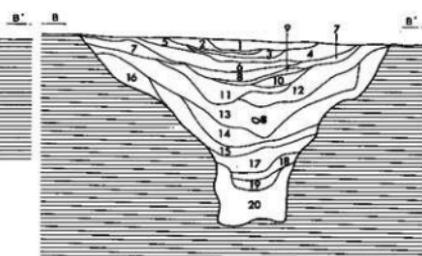


第115図 S F32・S F33実測図



- 1層 灰色砂質粘土(炭化物含心)
- 2層 灰色砂質粘土
- 3層 灰色砂質粘土
- 4層 暗灰色粘土(菌植物含心)
- 5層 灰色粘土
- 6層 暗灰色粘土
- 7層 暗灰色砂質粘土
- 8層 暗灰色砂質粘土
- 9層 灰色砂質粘土

SF45

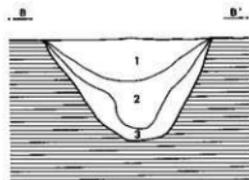
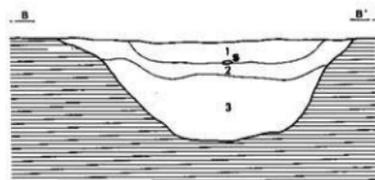
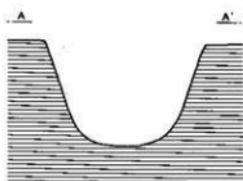
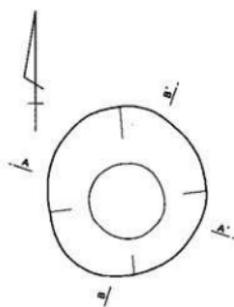
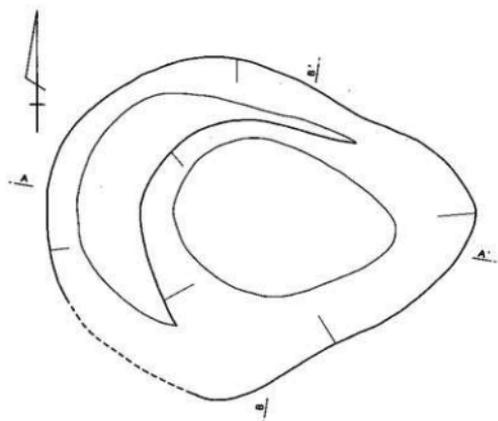


- 1層 褐色砂質粘土
- 2層 灰色粘土
- 3層 灰色砂質粘土(鉄分含心)
- 4層 灰色砂質粘土
- 5層 暗灰色砂質粘土
- 6層 暗褐色砂質粘土
- 7層 青灰色砂質粘土(炭化物含心)
- 8層 灰色粘土
- 9層 灰色砂質粘土
- 10層 暗灰色砂質粘土
- 11層 明灰色砂質粘土
- 12層 暗灰色粘土
- 13層 青灰色砂質粘土
- 14層 青灰色砂質粘土
- 15層 灰色砂質粘土
- 16層 明灰色砂質粘土(砂粒含心)
- 17層 明灰色砂質粘土
- 18層 灰色砂質粘土
- 19層 灰色砂質粘土
- 20層 明灰色粘土(炭化物含心)

SF54



第116圖 SF45・SF54 実測図



- 1層 暗灰色砂質粘土(炭化物多い)
 2層 灰色砂質粘土(腐植物多い)
 3層 青灰色砂質粘土(炭化物含む)

- 1層 褐色砂質粘土(鉄分含む)
 2層 青灰色粘土
 3層 明青灰色砂質粘土

SF47

SF48



第117図 SF47・SF48実測図

48号土坑 (第117図)

S F 47の東南に位置する径約1.4m・深さ約80cmを測る円形土坑である。最下層の明灰色砂質粘土については、除々に堆積した状況であるが、それ以後については急激に堆積している。第2層の青灰色粘土の土層中央部のみ、かなり落ち込んでいるため、自然堆積は考えにくい。第1層は、河川等の氾濫による堆積と推定される。遺物は、1点も確認されなかった。

49号土坑 (第118・119図)

調査1区、9区にまたがる大型土坑で、径約6.0m・深さ約86cmを測る。木製品が多量に出土しており、第1層の有機質を多量に含む暗褐色粘土層から漆碗が数十点出土している。また、第3層・5層の有機質を含む層からも漆器が出土している。完形品も多く、何らかの理由で廃棄されたと推定される。7層上面では、ほぼ完形の竹編みの甕が出土している。

出土土器は15点で、山茶碗1点を含めても、瀬戸、常滑製品のみであった。常滑製品7点のうち5点が15世紀後半の遺物で、古瀬戸製品7点は、すべて15世紀の製品である。従って、14世紀末頃から15世紀後半まで機能した土坑と考えられる。

木製品は、下駄片方部分がほぼ完形で出土している他、ほとんどが中層より上で出土している。土層断面で噴砂が二条確認され、どちらの噴砂も基盤層の砂礫から起こり、上面まで突き抜けている。従って、土坑が廃絶した後の噴砂と推定はできるが、年代を確定するに到っていない。

50号土坑 (第120図)

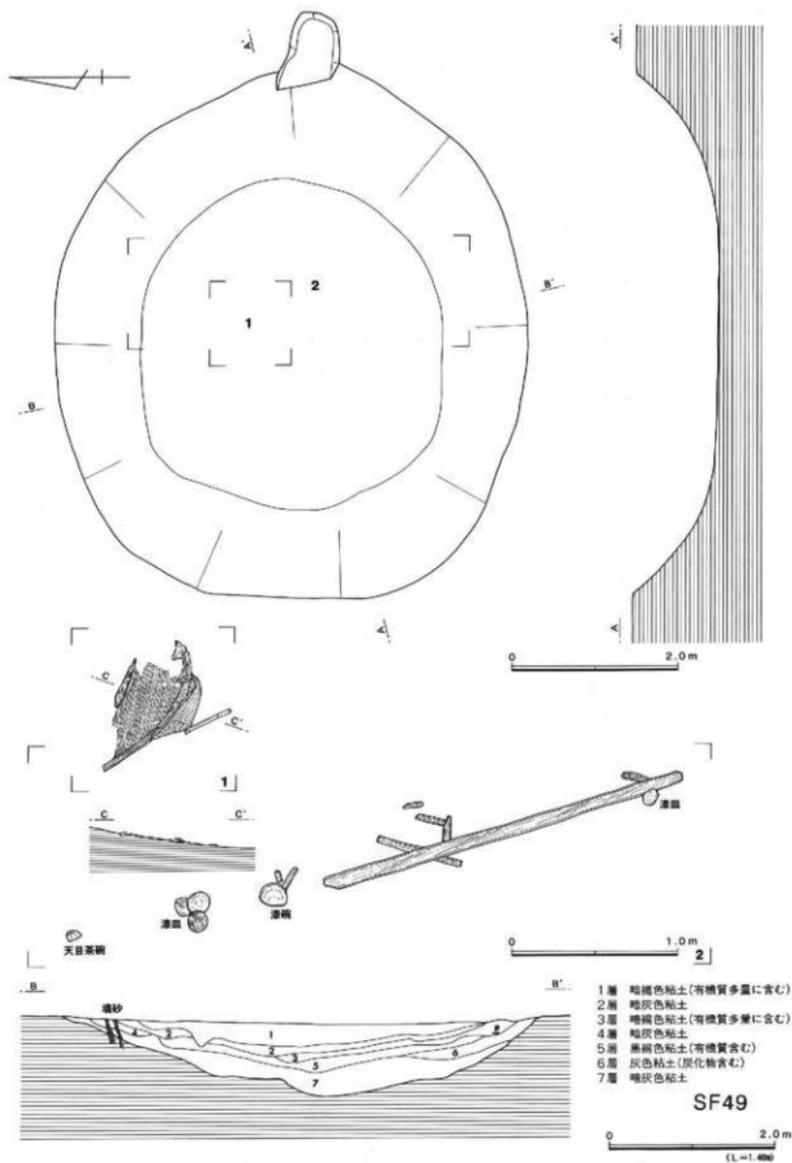
6区SR4の北側に連続して並ぶ土坑群の一つである。おそらく、SR4によって区画されたために一列になったものと推定される。径約1.5m・深さ約90cmを測る円形土坑で、北側の小土坑を壊して造られている。そのため、北側小土坑より新しい土坑であることが判明する。S F 50の堆積状況を見る限り、急激な堆積状況は考えにくく、かなりの時間を要して堆積したことが推定される。これ程の大きさであるが、遺物は12世紀中頃から後半にかけての渥美・湖西産の山茶碗が1点のみである。この山茶碗については、基盤の砂礫に大量に含まれているため、混入の可能性が高い。

51号土坑 (第120図)

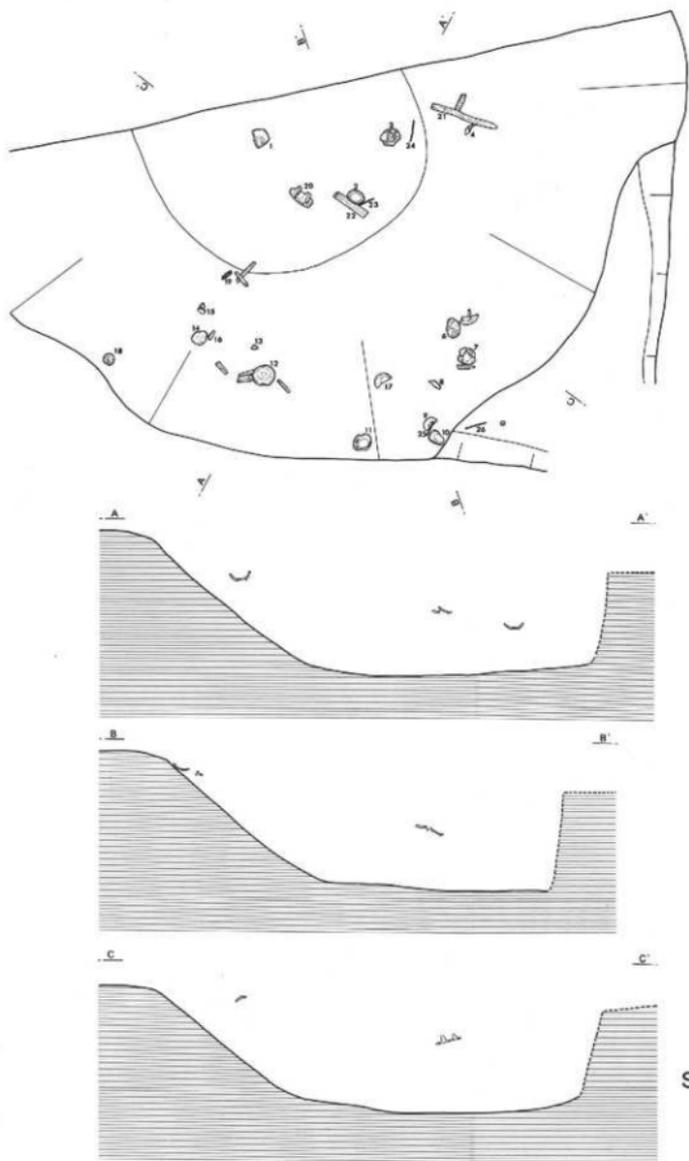
S F 50の東側に隣接する径約1.4m・深さ約60cmを測る円形土坑である。S F 50以上に緩やかに堆積した状況が判明する。第6層の灰色砂質粘土層は、確認面まで堆積しており、それを切って第5層までが堆積している。そのため、掘り返しということも想定できる。第5層の褐色腐植土層が新しい土坑の最下層で、上4層は河川堆積層の可能性が高い。遺物はまったく出土していない。そのため、確実な時期決定ができていない。

52号土坑 (第121図)

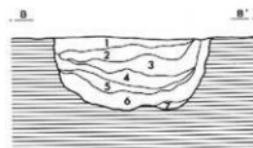
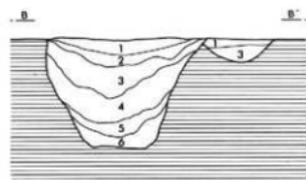
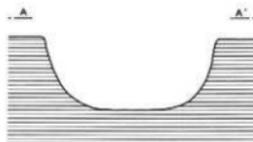
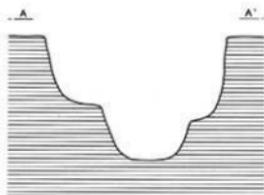
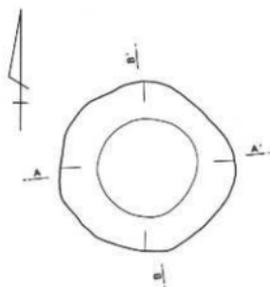
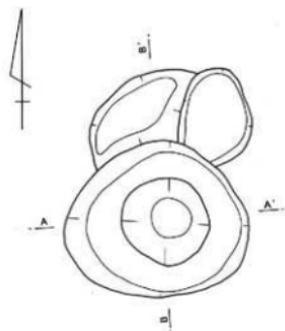
三列に並ぶ土坑群の最東端に位置する円形土坑で、径約1.7m・深さ約1.4mを測る。西側2基の土坑は断面U字を呈しているが、この土坑のみ断面V字である。3基の内、最も大きく深い土坑であるが、第6層にのみ炭化物を含む粘土層があり、他は全て砂質の強い粘土である。最上層の二層は、土坑が大部分埋まった後に堆積したというより、掘り返された後に堆積したということも考えられる。3、4、5層に見られる堆積の乱れは、流路等による堆積によって生じた乱れの可能性も考慮する必要がある。遺物については、S F 51同様まったく出土していない。おそらく同時期と推定され、連続する土坑群全てを通じて、遺物が1点のみしか出土しないということは、この土坑群の性格をはかる重要なポイント



第118図 SF49 実測図(1)



第119图 SF49 实测图 (2)



- 1層 青灰色砂質粘土
- 2層 灰色砂質粘土(腐植物含む)
- 3層 青灰色粘土(礫少量含む)
- 4層 青灰色粘土
- 5層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 6層 明灰色粘土

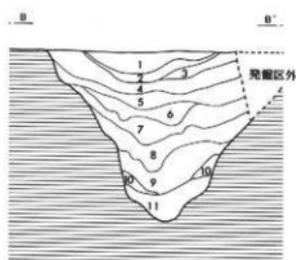
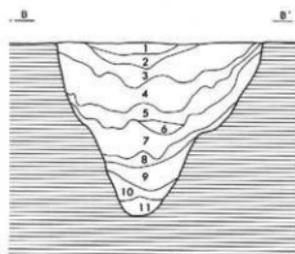
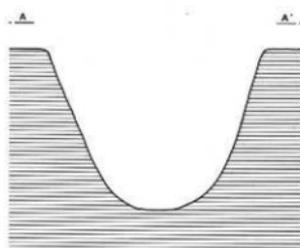
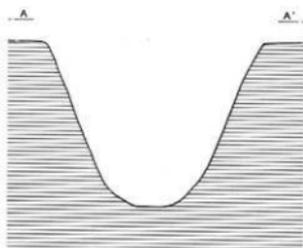
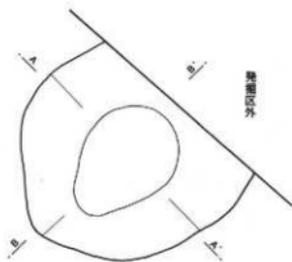
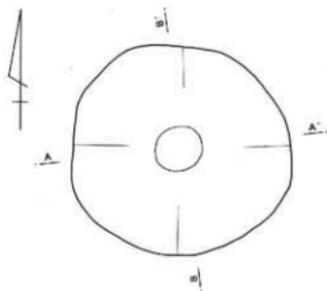
- 1層 灰色砂質粘土(腐植物含む)
- 2層 青灰色砂質粘土(最上層に腐植物が堆積)
- 3層 暗灰色砂質粘土
- 4層 灰色砂質粘土(礫少量含む)
- 5層 褐色腐植土層
- 6層 灰色砂質粘土(小礫含む)
- 7層 灰色粘土(炭化物含む)

SF50

SF51



第120図 SF50・SF51 実測図



- 1層 明灰色砂質粘土
- 2層 暗灰色砂質粘土
- 3層 灰色砂質粘土
- 4層 青灰色砂質粘土
- 5層 暗灰色砂質粘土(鉄分多い)
- 6層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 7層 暗灰色砂質粘土
- 8層 青灰色砂質粘土
- 9層 暗灰色砂質粘土
- 10層 明灰色砂質粘土
- 11層 暗灰色砂質粘土

- 1層 明灰色粘土
- 2層 褐色腐植土層
- 3層 灰色粘土(腐植物含む)
- 4層 灰色粘土
- 5層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 6層 灰色砂質粘土(炭化物多い)
- 7層 明灰色砂質粘土
- 8層 灰色砂質粘土
- 9層 灰色砂質粘土
- 10層 青灰色砂質粘土
- 11層 灰色砂質粘土

SF53

SF52



第121圖

S F 5 2 ・ S F 5 3 実測圖

と思われる。

53号土坑 (第121図)

S H 103の北東隅で重複する土坑で、建物より新しい時期の土坑である。径約1.8m・深さ約1.4mを測り、規模・堆積状況及びその形状は、S F 52と酷似している。堆積は、徐々に進んでおり最上層の1～3層のみ、掘り返された後に堆積したということも考えられる。S F 52より、それが顕著に判明するのは、掘り返しと考えられる層位の最下層に腐植上層が存在するためである。S F 50～52同様遺物は出土していない。おそらく、他の土坑と同時期で同機能と推定される。

54号土坑 (第116図)

6区の最も南東隅に位置する土坑で、長辺約2.4m・短辺約1.9m・深さ約1.5mを測る方形の上坑である。二段に掘られ、下層部は円形を呈している。最下層に約30cm程の炭化物を含む明灰色粘土の堆積がある他は、大部分が砂質の強い土層である。掘り方や堆積状況を見ると、井戸という可能性も考えられる。6区内には、井戸は検出されておらず、この上坑は場所及び深さも井戸として十分な状況を示している。井戸とするなら、廃絶後井戸枠等が完全に抜き取られたと考えられ、堆積状況の乱れも説明できる。また、遺物の混在状況が、他の土坑と異なり、6区内の他の土坑と違う様相を示している。遺物は、12世紀前半の渥美・瀬西産の山茶碗と、古瀬戸後Ⅳ期の縁軸小皿である。

58号土坑 (第122図)

木製碗が出土した上坑で、長辺約8.0m・短辺2.0m程で瓢箪形をしている。深さは70cm程度で、時期にわたる上坑と推定される。南側、3.5m程度が新しい時期の土坑で、北側の碗が出土した部分が古い時期にあたる。古い時期にあたる土坑からは、碗の他に時期決定ができる土器が出土していない。南側の新しい時期と推定される土坑からは、常滑産8型式の片口鉢、瀬戸産7もしくは8型式の山茶碗、三ツ沢産と考えられる鉢もしくは壺の破片が出土している。従って、この南側の土坑は、15世紀中頃から後半に廃絶した可能性が高い。碗が出土した部分については、14～15世紀前半と推定される。

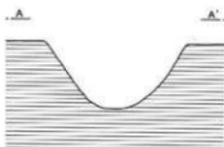
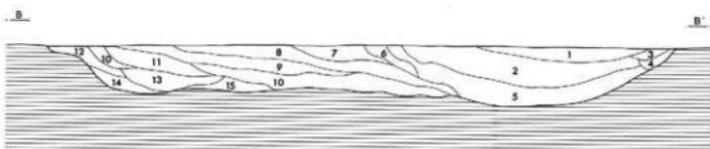
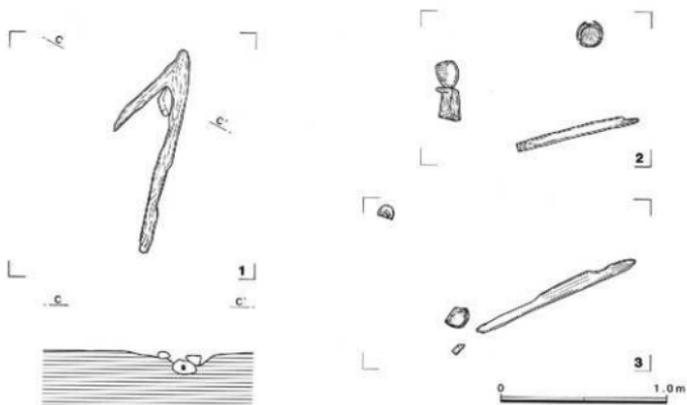
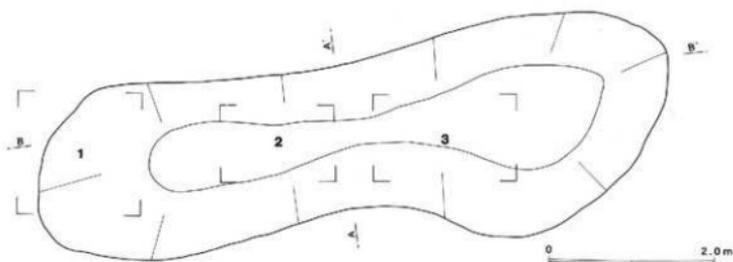
土坑からの木製品は、碗をはじめ、曲物、漆器碗等も出土しており、何らかの廃棄遺物をすてた土坑として捉えることが可能である。

59号土坑 (第123図)

長辺約4.2m・短辺3.5mの楕円形で、深さ約1.0mを測る大型土坑である。断面を見る限り、掘り返された可能性が推定され、掘り返し後急激に堆積したことが推定される。58号土坑とは、まったく異なった様相で、木製品はほとんど含まれていない。出土遺物は、合計6点であるが、周辺の他の土坑と比較して多い部類に含まれる。遺物の中で、最も古い時期にあたるのは、12世紀代の常滑産の山茶碗片で、新しい時期は古瀬戸後ⅠかⅡ期の壺類である。他の4点は、13世紀代、14世紀代が各2点ずつである。したがって、古い時期が13世紀代で、掘り返しを受けた土坑が14世紀代ということになる。

60号土坑 (第124図)

8区S R 8の北側に位置する径2.0m・深さ80cm程の土坑で、最下層が急激に堆積しており、中に長さ50cm程の木片が混入していた。上層にかけては緩やかに堆積しており、北側部分で土坑より新しい時期の溜りが確認された。時期としては、土坑本体は15世紀後半の廃絶と推定され、1・2層が新たに掘り返しを受けた16世紀代の土坑と考えられる。

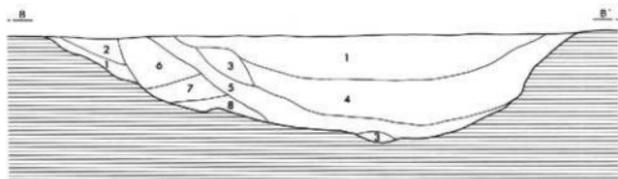
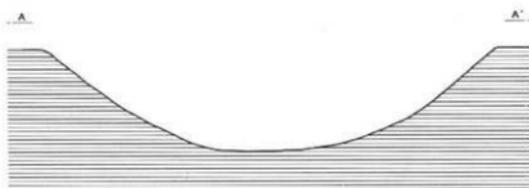
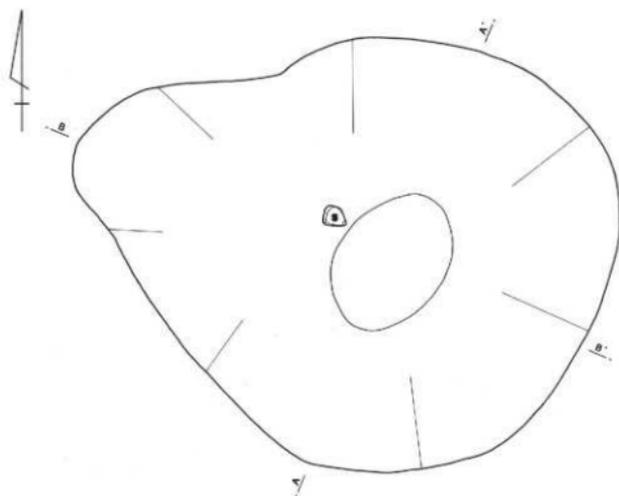


- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1層 灰色粘土 | 9層 灰色砂質粘土 |
| 2層 灰色砂質粘土(炭化物含む) | 10層 灰色粘土(炭化物含む) |
| 3層 灰色砂質粘土 | 11層 灰色砂質粘土(炭化物少量を含む) |
| 4層 灰色砂質粘土(炭化物微量を含む) | 12層 灰色砂質粘土(炭化物含む) |
| 5層 灰色粘土(炭化物含む) | 13層 灰色粘土 |
| 6層 灰色粘土 | 14層 明灰色粘土 |
| 7層 灰色砂質粘土(炭化物含む) | 15層 灰色粘土(炭化物微量を含む) |
| 8層 灰色砂質粘土(砂質強) | |

SF58



第122図 SF58 実測図

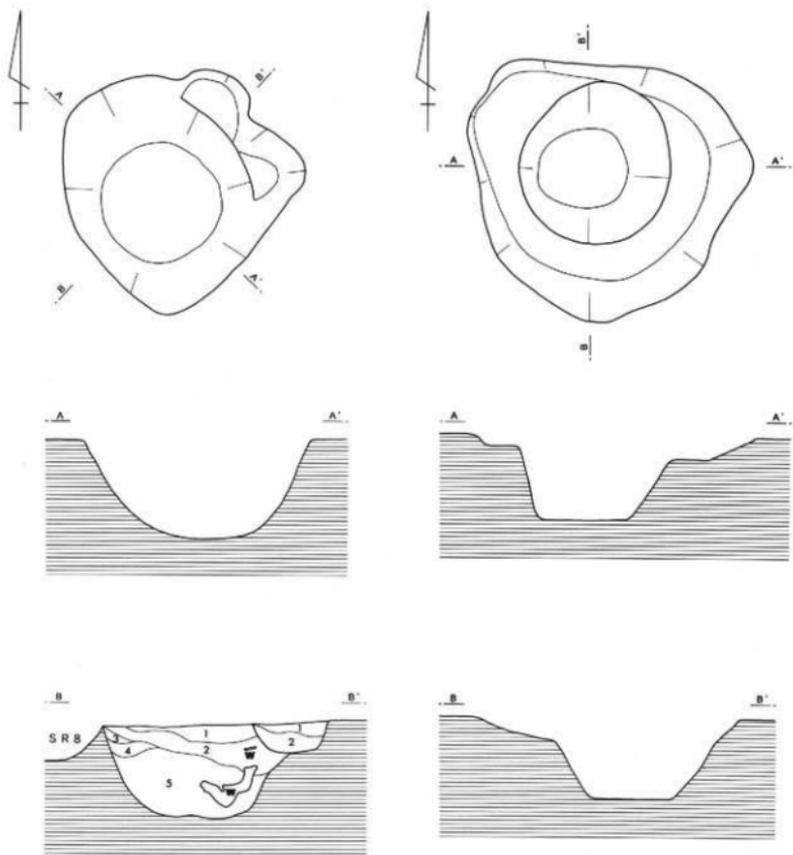


- 1層 灰色粘土
- 2層 褐色砂質粘土
- 3層 褐色砂質粘土(炭化物含む)
- 4層 灰色粘土(腐植物含む)
- 5層 青灰色砂質粘土
- 6層 青灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 7層 褐色砂質粘土
- 8層 灰色粘土(炭化物含む)

SF59



第123図 S F 59 実測図



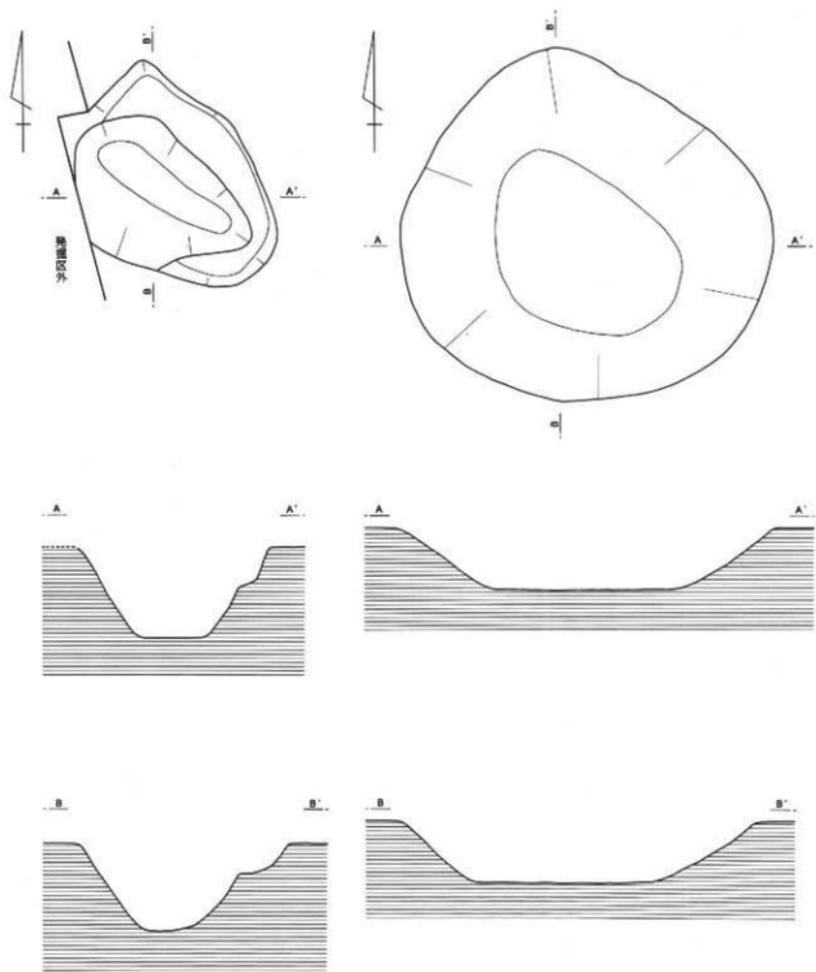
SF70

- 1層 暗灰色粘土(炭化物をわずかに含む)
- 2層 灰色粘土(炭化物をわずかに含む)
- 3層 暗灰色粘土(やや砂質)
- 4層 明灰色粘土
- 5層 暗灰色粘土(赤い粒子を含む)

SF60



第124図 SF60・SF70 実測図



SF75

SF76



第125图 SF75·SF76 实测图

遺物は、第5層に含まれており、常滑産10型式の甕口縁である。15～16世紀代と推定される壺もしくは甕の体部が2点出土している。また、皇宋通寶、嘉泰通寶の2枚の貨幣も出土している。

70号土坑（第124図）

S H104、105の東側に位置する土坑で、長辺約2.3m・短辺2.0mの楕円形で、深さ約80cmを測る。二段堀になっており、20cm程の部分から径約1.2m程の円形土坑となっている。土坑西側に位地する建物群と関連すると推定される小穴群が、土坑上面で確認されているため、明らかに土坑が古いことが判明する。出土遺物はないが、確認面である第Ⅱ面の遺構と推定される。

75号土坑（第125図）

S F49の北側で確認された中型土坑で、長辺約1.9m・短辺1.4mの不定形で、深さ約80cmを測る。周辺域で建物とは関係しない小穴が確認されており、それは土坑上面で確認されたため、小穴群より古い時期の土坑と推定される。

出土遺物は、古瀬戸前Ⅱ期の壺片が一片で、混入と考えたい。

76号土坑（第125図）

8区の土坑が集中する区域の南に位地する、径約2.8m・深さ約50cm程のほぼ円形を呈した土坑である。遺物の出土もなく、周辺域にも遺構が薄いため、時期その他不明という状況である。

3. 溝状遺構

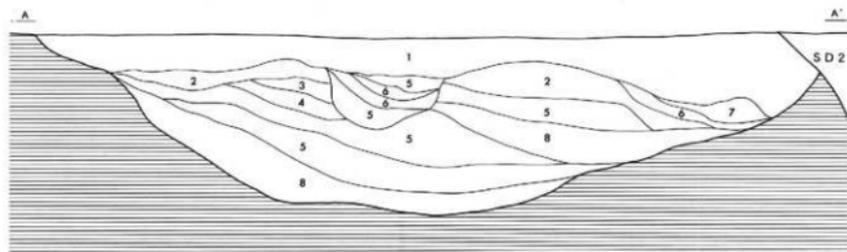
37号溝・40号溝

8区最北端に位置する溝に囲まれた屋敷地内の南側に、溝とほぼ平行するように東から西にかけて、L字状に伸びる溝である。溝は、8m程南下し、直角に折れ25m伸びて終息している。幅は、最も広がる屈曲部で約1.5m、終息部で30cm程であった。この溝は、途中で2条に分かれたり、接続したりして続いている。また、溝底は高くなったり低くなったりを繰り返し、ある時期かなり水量が多く流れた溝ということがわかる。周辺の建物群の柱穴よりは古い時期の溝で、溝の廃絶後に建物が建てられていた。出土遺物は、古瀬戸後期の壺もしくは瓶の破片と、常滑産7型式の片口鉢であった。

S D38の南、軸をほぼ同一にして7.0m程流れ、S F33によって終息している溝が40号溝である。幅は約2.0mと広いが、深さは30cm前後である。水の流れは、北から南というより、土坑から区画溝へ向って流れたような様相を示していた。重複する土坑S F32は、溝より新しい時期と古い時期の二時期が確認されている。溝が終息するS F33との関係は不明であるが、S F33から外に向った溝の可能性が高い。出土遺物は4点で、古瀬戸中ⅠかⅡ期の合子、同後Ⅰ期の直縁大皿、同後Ⅳ期古段階の縁釉小皿、14世紀代の常滑産の壺もしくは甕の体部である。両土坑からは、同じく古瀬戸後Ⅳ期の遺物も出土しており、同時期と考えても問題はないと思われる。

42号溝（第126図）

幅約約6.2m・深さ約1.5mで、長さ約21m程を確認している。この溝は、おそらく北側から直行し、直角近く折れ西側へ伸びている可能性が高い。8区のS D24と接続していることが想定される。集落を区画する区画溝と思われる。堆積状況から、常に水が流れていたと推定され、第1層は、洪水等によって一気に埋まった可能性が高い。溝ほぼ中央の幅1.0m・深さ約50cmの部分が最終段階で掘り返された溝と思われるが、この溝も含めて一気に埋没した状況を示している。この洪水部分は、第Ⅰ遺構面の



- 1層 褐色砂質粘土
- 2層 暗褐色砂質粘土
- 3層 灰色砂質粘土(腐植物含む)
- 4層 暗灰色砂質土
- 5層 灰色砂質粘土
- 6層 灰色粘土
- 7層 灰色砂礫
- 8層 灰色砂質粘土(砂粒多い)

SD 42



第126図 2区II面SD位置図 SD42実測図

SD2によって破壊されており、少なくとも第1遺構面よりは古い時期の溝であることが判明する。出土遺物は、12世紀代が2点、13世紀代が1点、14世紀代が2点、15世紀代が9点であった。最も多い15世紀の遺物も、前半と後半がほぼ同量であるため、15世紀代に機能していた溝であることは間違いない。最も新しい時期にあたる遺物が、一気に埋没した時期を示している可能性が高い。従って、一気に埋没したのは1500年前後ということになる。

43・44号溝

SI185・86を中心とする建物群の南側に東西に伸びる溝が、SD43である。幅約70cm・深さ約20cm程の溝で、暗灰色粘土層が堆積した一時期の溝であった。遺物は出土していないが、屛敷地を区画する溝の可能性が高い。SD44は、SH91の東側を東西に伸びる幅約1.8m・深さ約30cm程の規模で、約12m程確認されている。西端の溝が停止する部分が土坑状(SF78)を呈し、東側は新しい流路によって切断されている。溝の覆土は、炭化物を多量に含む砂質粘土層で、SD43同様一時期の溝の可能性が高い。溝は、東に行くほど浅くなっており、建物群と同時期と推定される柱穴も重複して検出されている。遺物は出土していないが、SD43も含め、周辺の建物群より古い時期にあたる溝と考えられる。

45号溝(第127図)

3区東端で検出された東西に伸びる大型の溝状遺構である。幅約5.5m・深さ約1.0mで、長さ約30mに渡って確認された。断面の土層堆積状況から、溝というよりむしろ流路と理解される。流路とすると、第1層の有機物を含む青灰色粘土部分は、かなりの期間緩やかな流れであったと考えられる。ここでは45号溝として報告するが、SR1として報告した流路と同一部分の下層部分の可能性が非常に高い。SR1と比較して、規模は小さくなるが、確認面の差約50cmのためと思われる。可能性としては、8区のSR6まで接続することも考えられる。この溝(流路)は、そのままほぼ直線で40m程流れ、発掘区外へと続いていた。遺物については、SD16で破壊される部分より北側のみであるため量的には少なく、15世紀代が5点のみであった。仮に、下層部分の溝の上を流路が流れたことを想定すると、15世紀代に機能していた溝と考えられ、15世紀末に何らかの理由で、埋没したと推定される。

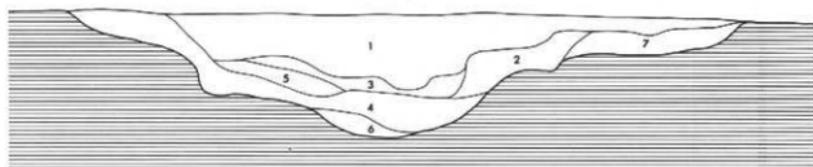
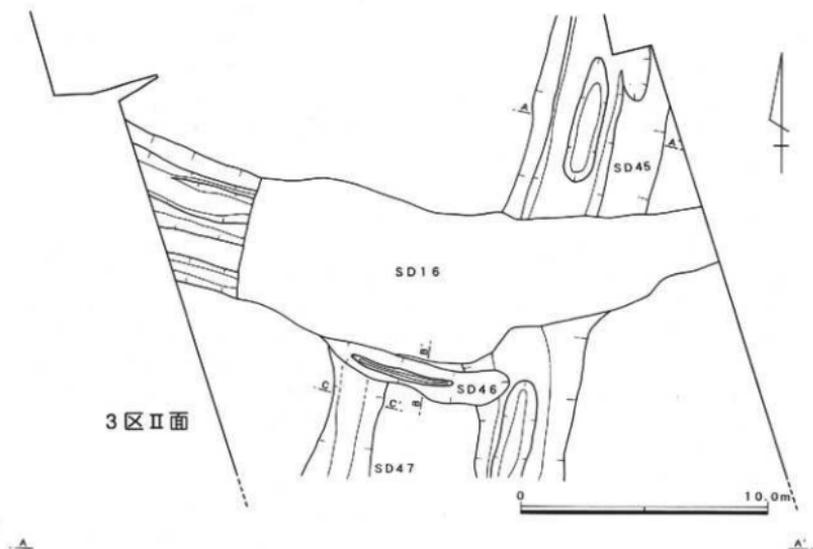
46号溝(第127図)・47号溝(第127図)

共に、SD16の南側で検出された溝である。この周辺は近代井戸による攪乱も受けており、明確に新旧関係を図化できていない。周辺の溝を古い順に並べると①SD47→②SD16→③SD45→④SD46ということになる。最も新しいSD46は、幅約1.2m、深さ約60cmで、約8m程の長さを検出している。近代井戸の攪乱によって西北部分が破壊されているが、ほぼこれで完結している可能性が高く、細長い土坑という捉え方も可能である。上下二層に分離され、下層は砂質粘土、上層は腐植物を含む粘土であった。遺物の出土がないため時期決定ができていない。

最も古い時期にあたる溝がSD47である。幅約2.0m、深さ約25cmで、約5mまでの長さは確認されたが、北側SD16等による破壊のさらに北側では検出されていない。また、南側10、20m部分のトレンチでも検出されていない。深さそのものが、非常に浅いため、後の流路等によって破壊を受けたと考えるのが妥当であろう。SD46同様遺物の出土は見られない。

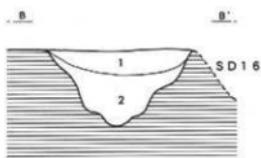
48号溝・49号溝

9区で検出された、小型溝状遺構である。SD48は、SF49の東側を南北に流れる溝で、幅約60cm、深さ約20cmで、長さ3.5m程確認されている。暗灰色粘土層が一層のみの覆土で、短期間のものと思わ



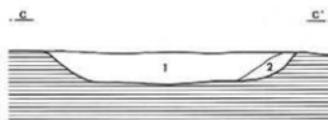
- 1層 黄灰色粘土(有機物含む)
- 2層 黄灰色砂質粘土(砂粒含む)
- 3層 黄灰色粘土(粘性強)
- 4層 明灰色粘土(砂粒含む)
- 5層 灰色砂質粘土(砂粒多い)
- 6層 明灰色砂質粘土(砂粒含む)
- 7層 灰色砂質粘土(鉄分含む)

SD45



- 1層 灰色粘土(有機物含む)
- 2層 黄灰色砂質粘土

SD46



- 1層 灰色砂質粘土(有機物含む)
- 2層 黄灰色砂質粘土(砂粒含む)

SD47



第127図 3区II面SD位置図 SD45・SD46・SD47実測図

れる。49号溝は、9区発掘区の南端で検出された溝で、北側8区のSD24、南側2区のSD42と接続する可能性もある。幅約1.2m、深さ30cm、長さ1.8m程のみ検出されており、東南の発掘区隅にかけて落ち込んでいく状況なので、幅そのものも広がる可能性は高い。覆土は、褐色砂質土で、周辺域全体も砂質の強い土質であるため、明確な線引がされていない。また、遺物も出土していない。

50号溝・51号溝（第128図）

6区で検出された溝である。SD50は、幅約1.0m、深さ約25cmで、長さ9m程確認されている。溝の上に土坑が検出され、この土坑より古いことは確実である。下層SD52とまったく重複しており、SD52の最終段階として捉えることも可能である。遺物は、15世紀代が5点、15～16世紀代が3点出土している。16世紀代の遺物は、土坑の可能性も高いため、15世紀代に機能していた溝として捉えたい。

SD51は、SH104から西側へ流れ、SD50で接続する部分の南側で直角に折れ、南側へと続いている。SH104、105の柱穴や周辺柱穴は、SD51の上で検出されていることから、これら建物群より古い時期の溝と推定される。SD50同様、下層のSD53とまったく重複するため、SD53の最終段階とするのが、妥当とも言える。遺物は、12世紀後半の山茶碗1点の他は、全て古瀬戸後Ⅳ期の製品である。従って、SD50と同様に15世紀代の溝として捉えられるが、若干時期的に下る可能性もある。

66号溝・67号溝

8区西端に位置する幅約80cm、長さ約8mの溝がSD66である。遺物は、常滑産9型式の片口鉢が1点出土しているだけである。

8区北側に位置し、SD32によって南側が削平されている溝をSD67とした。SD66同様、出土遺物は1点のみであった。遺物は、常滑産10型式の壺片である。

いずれの溝も、15世紀の遺物が1点出土しているだけであるため、確実に年代を押さえることは難しい。検出状況等も考慮するなら、15世紀以前の溝ということになる。

SR4（第139図）

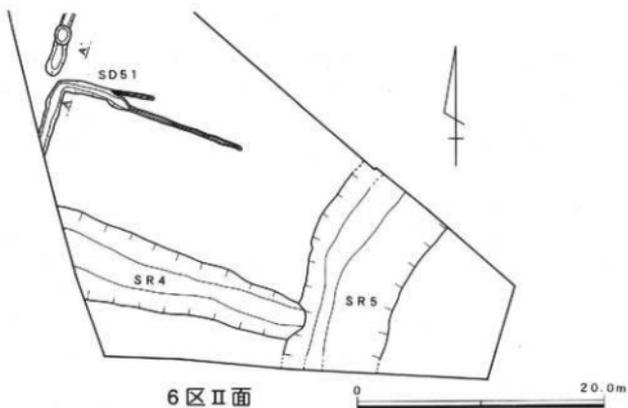
6区南側を東西に流れる流路である。長さ約20m、幅約6m、深さ1.2m程の規模で確認された。西側は、調査区外へ続き、東側はSR5によって削平を受けていた。2区で、この溝は確認されていないが、SH185北側にある大型土坑へと接続する可能性もある。土層断面を見る限り、急激に堆積したということが判明する。断面を見る限り、流路と考えたいが、掘り方等から見ると溝という可能性も捨てがたい。いずれにしろ、出土遺物から16世紀段階で埋没していたと推定される。

出土遺物は、12世紀・13世紀代の遺物が各1点、15世紀の遺物が11点であった。

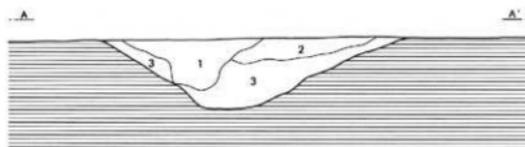
SR10

8区西端で確認された流路の一部で、長さ約20m、最大幅約4m程が確認されている。SR2、もしくはSR7の前段階という可能性も考えられる。16世紀として捉えた遺構面は、確実にこの流路上で検出されているため、16世紀段階ですでに埋没していたと思われる。

出土遺物は、12世紀以前が1点、12世紀代が3点、13世紀代が2点、14世紀代が1点、15世紀代が4点であった。12世紀代とそれ以前の遺物は、基盤となっている砂礫層に含まれる土器である。おそらくこの流路は、15世紀代に機能していたと推定される。

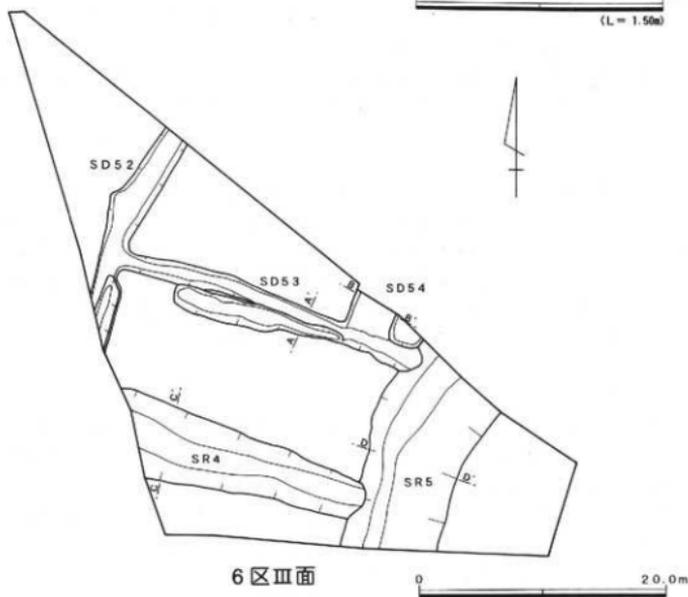


6区II面



- 1層 褐色粘土(炭化物・炭屑物含む)
- 2層 褐色粘土
- 3層 灰色粘土(砂粒含む)

SD51



6区III面

第128图 6区II・III面SD位置图 SD51实测图

第5節 13世紀代の遺構（上面）

第Ⅲ遺構面を、13世紀代の遺構として捉えた。出土遺物が少なく、また上層の大規模な洪水層によってかなり破壊を受けており、建物が検出できたのは、1区・9区・8区の一部で約500㎡程でしかない。建物が検出されない区域では、溝状遺構と土坑しか確認されていない。また、大規模な洪水のため、大型溝の認定が困難であり、あくまでも推定の域をでない。第Ⅱ遺構面が14世紀にまで遡らないことは、出土遺物から推定される。第Ⅲ遺構面と第Ⅳ遺構面のレベル差は、約20～30cm程であるが、出土遺物の年代にまったく変化は見られない。おそらく、13世紀の中で、洪水等の自然災害によって集落の再構築があったためと推定される。第Ⅲ・Ⅳ遺構面の大きな特徴は、柱根及び礎板が多量に確認されていることである。しかも、それらの材質は年輪年代が可能な桧材であり、中には皮まで確実に残存しており、伐採年代を特定できるものも含まれている。実年代を特定するまでの時間を必要とするため、本報告書には掲載できないが、奈良国立文化財研究所の水谷先生の全面的な協力で、遺物編においてその年代を報告することが可能である。第Ⅲ遺構面の年代の確定は、改めて遺物編で報告したい。第Ⅳ遺構面と第Ⅲ遺構面は、ほとんど同一面で検出されているため、両面を混同して捉えた柱穴が多少含まれていることも考えられる。

検出遺構は、掘立柱建物8棟、土坑9基、溝状遺構10条、墓1基、不定型遺構7基であった。建物については、主軸をほぼ同一にしており、その方向は16世紀まで大きく変化しない。日当たりを重視した南東向きである。墓については、丸石積みで属に中世墳墓と呼ばれている形態である。溝については前述のように、必ずしも確実に言い難いものも含まれている。

遺物は、第Ⅰ・Ⅱ遺構面と比較すると、極端に瀬戸産の製品が減り、常滑産の製品が中心という様相になる。確実に遺構から出土した遺物は少ないが、流路もしくは溝状遺構からかなりの数の遺物の出土が見られる。

9区から、出土した遺物を検討すると、遺構面は13世紀前半から後半ということになる。ただ、中に明らかに14世紀代と推定される遺構もあり、14世紀代の遺構面が破壊を受けていることも考慮に入れる必要がある。

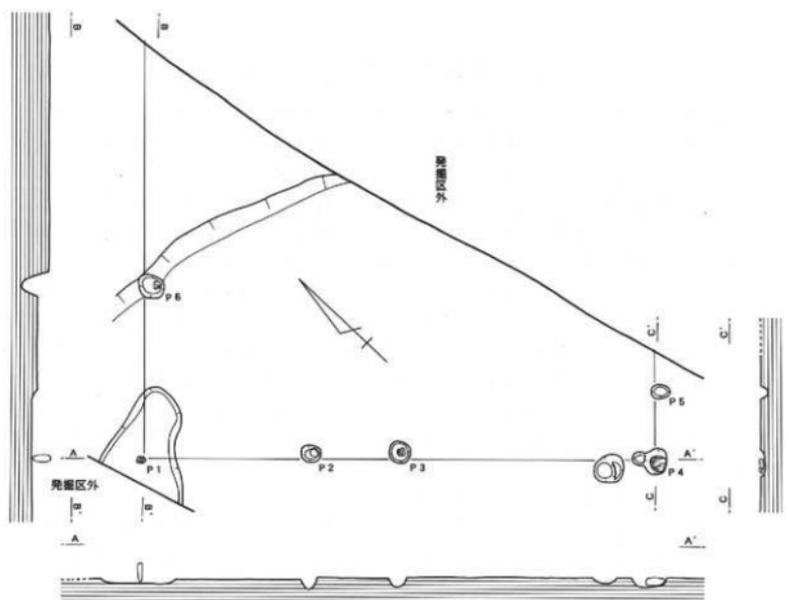
8区の西北端の建物群以外の箇所では、まったく柱穴が検出されず、土坑・溝状遺構・不定型遺構のみが確認されている。このうち、遺構面としては捉えきれなかった14世紀代と考えられる上坑も存在する。このことは、14世紀の遺構面が何らかの原因で、削平されてしまい、深い土坑状の遺構のみが残されたということをも推定させる。また、確認面は確実にⅢ面でありながら、遺物は14世紀代のものが混在している状況も確認された。このことも、14世紀代の自然災害を裏付ける事実と考えられる。

1. 掘立柱建物

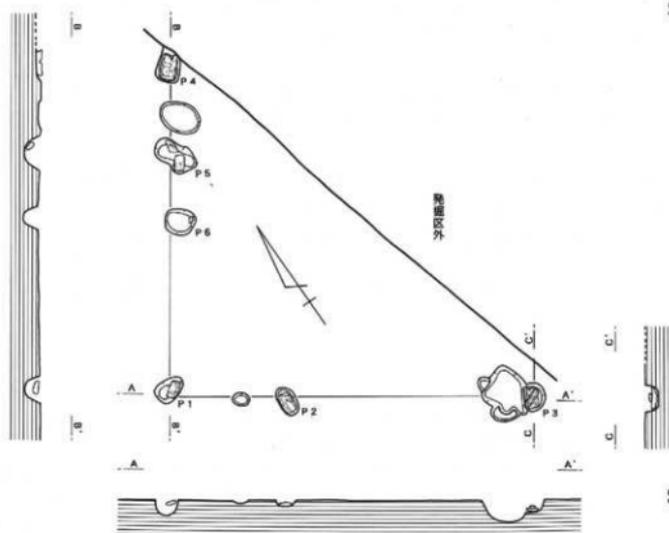
108号掘立柱建物（第129図）

2間以上×2間の掘立柱建物と推定される。建物規模は16坪以上で、主軸は東へ46度振れている。SH 109・110と重複しており、時期差が考えられる。だが、建物の構築順については、それを知るまでの材料がない。S II 108は、P 1、P 3、P 4で柱根が検出されている。各柱穴間は、14尺を測るためおそらく中間点に、間柱があった可能性が高い。P 2から、常滑産4型式の山茶碗、5型式の片口鉢が出土している。このP 2は、他の柱穴との距離が異なるため、建物に伴う柱穴かどうかについては検討の余地がある。P 1については、柱穴というより土坑と呼ぶのがふさわしい大きさであったが、柱根が検出されたため、柱穴として捉えている。掘り方を土坑上面では捉えられなかった。

建物の南北軸については、流路もしくは溝と考えられる大きな落ち込みによって破壊されており、柱



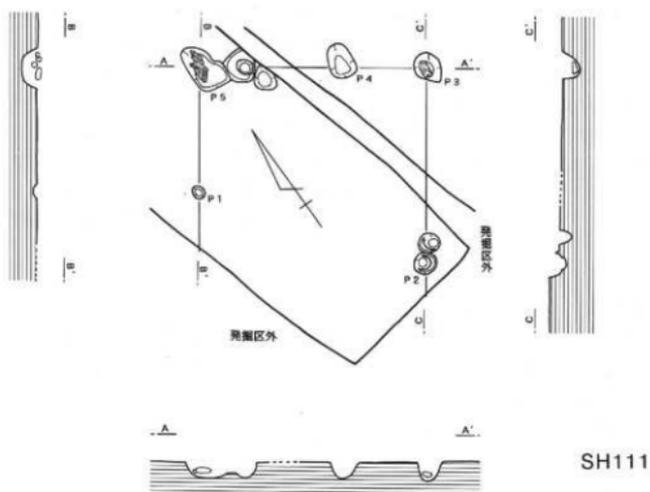
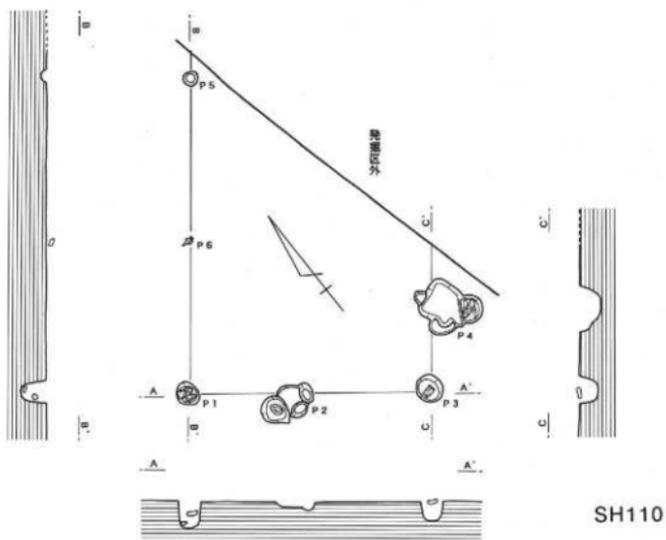
SH108



SH109



第129图 SH108·SH109 实测图



第130图 SH110·SH111 实测图

根を検出した柱穴1穴が検出されただけである。

建物内の小穴から、祥符元寶が1枚出土している。また、SH109・110とも重複する小穴から13世紀代の常滑産の壺もしくは甕の土部が出土している。

109号掘立柱建物（第129図）

SH108及び110と重複する掘立柱建物で、建物の北東側が発掘区外へ続いている。いずれの柱穴からも、かなり頑強な礎板が検出されている。建物規模は、10坪以上である。東西軸は、P1・P2間が6尺、P2・P3間が12尺と、中間点に間柱の存在が推定できる。建物の東西幅は、P1～3と考えたが、さらに伸びる可能性は残されている。南北軸についても、礎板が検出されているが、柱間が一致せず、どの柱穴が建物のものであるかの特定ができない。唯一、P4の礎板が大きき及び高さが一定しているため、同一建物の可能性が高い。この礎板には、駒が開けられ、転用材であった。建物に伴う柱穴からの遺物の出土はないが、建物内の小穴から、常滑産5壺式の壺及び片口鉢が出土している。また、SH110と重複する建物内の小穴から13世紀代の常滑製品も出土している。

貨幣は、P1から元祐通寶が、P6から洪武通寶2枚、至道元寶、皇宋通寶の4枚がセットとなり出土している。また、建物内の小穴から天聖元寶、大觀通寶、宣和通寶の3枚セットが出土している。SH108・110とも重複する部分の小穴からも咸平元寶が1枚確認された。

110号掘立柱建物（第130図）

SH108及び109と重複する掘立柱建物で、建物の北東側が他の建物同様、発掘区外へ続いている。建物規模は、7坪以上で、南北軸の柱穴がはっきりしない。東西軸は、P1、P2、P3共に柱根もしくは礎板が検出されている。柱間は、6尺と7尺である。P2の柱根は、主軸と若干ずれており建物に伴う柱根かどうかは判然としにくい。P4の東側で検出された礎板は、SH109に伴うもので、西側の柱穴がこの建物のものと思われる。西側南北軸は、P5の柱穴と、P6とした柱根が検出されている。柱間は、8尺と長く、検出されない柱穴の存在も推定される。

建物に伴う柱穴からの遺物は貨幣だけで、P1から熙寧元寶、P2から元符通寶、建物内の小穴から元祐通寶、大觀通寶、開元通寶の3枚がセットで出土している。また、建物の床面から29枚の貨幣が一括出土している。種類は、元祐通寶8枚、元豐通寶4枚、開元通寶3枚、皇宋通寶3枚、嘉祐通寶2枚、政和通寶2枚、元符通寶、景祐元寶、祥符元寶、熙寧元寶、聖宋元寶、大觀通寶、天禧通寶各1枚であった。

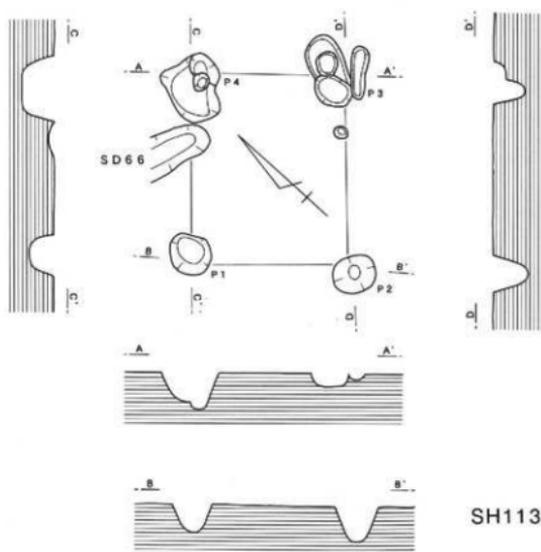
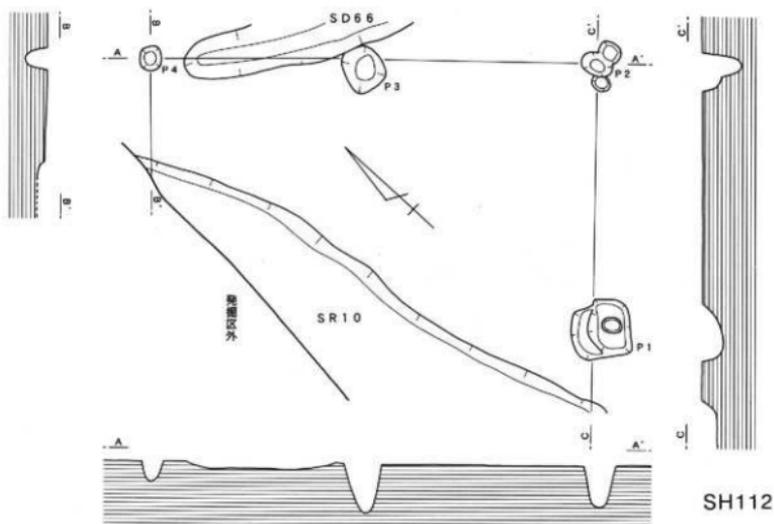
111号掘立柱建物（第130図）

9区調査区南端で検出された掘立柱建物で、5坪以上の規模を持つ。東西軸は、P3、P5で礎板が検出され、その間の距離は約12尺である。ほぼ中間点にP4が位置しているが、若干東にずれている。南北軸東側は、約10尺離れてP2が、西側は約7尺離れてP1が検出された。この建物の主軸は、東に36度振れており、SH108～110とほぼ同一軸を向いている。

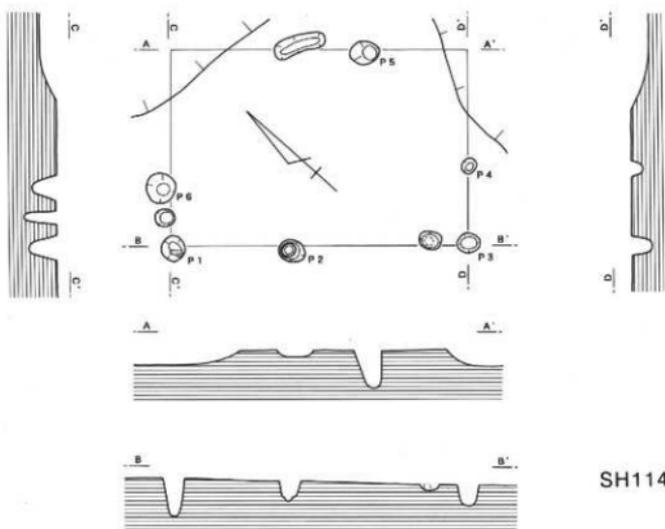
建物内の小穴から、12世紀代の常滑産の壺もしくは甕の土部、13世紀後半の滎英・湖西産の山茶碗が出土している。

112号掘立柱建物（第131図）

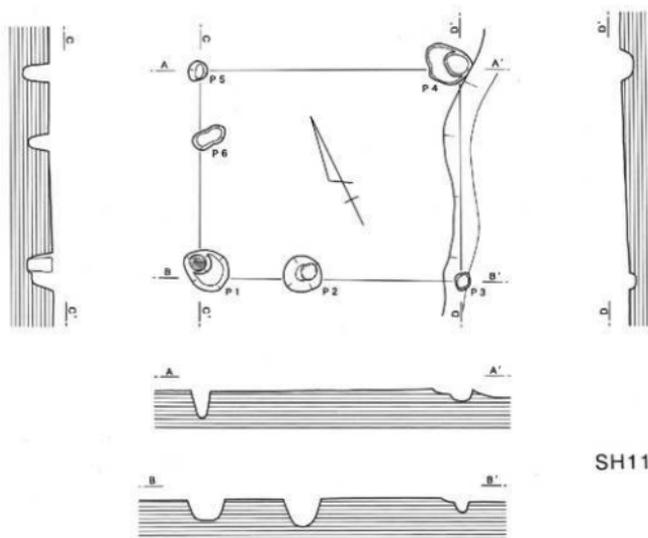
8区調査区西北端で検出された掘立柱建物で、南側が流路（SR10）によって検出が困難であった。この流路は建物より古い時期のものであるが、流路上面での遺構の確認はできていない。建物の規模は、



第131图 SH112・SH113 实测图



SH114



SH115



第132图 SH114·SH115 实测图

約13坪以上であるが、確実な大きさをつかみきれていない。東西軸は、2軒でP2とP4の間は、24尺である。そのほぼ中央部にP3が検出されている。南北軸の柱穴は、P1のみ確認されただけで、柱穴内から礎板が検出されている。P2からの柱間は、14尺を測る。他の建物の類例を見ると、南北と東西の間尺が異なる事例が多いため、この建物も南北7尺、東西6尺を基本とした建物であった可能性が高い。建物は、この地区においては最も大きな建物であるため、中心的機能を持っていたことが想定される。

建物にかかわる柱穴からの遺物の出土はないが、建物内部の小穴から瀬戸産の7もしくは8型式と考えられる山茶碗、常滑産10形式の片口鉢、古瀬戸後1期の天目茶碗、三ツ沢産の摺鉢、12世紀代の常滑産の垂もしくは甕の体部が出土している。また、同じく建物内の小穴から黒寧元寶も確認されている。

113号掘立柱建物（第131図）

SH 112の北東側に位置する1間四方の小型掘立柱建物である。東西9尺、南北10尺で、約2.5坪の規模である。柱穴は、小型掘立柱建物にしては、大きな掘り方を持ち、径約80cm程を測る。倉庫的機能を持つ建物とすると、かなり頑丈に築かれたものと推定される。

遺物は、P3から瀬戸産7型式の山茶碗が出土している。

114号掘立柱建物（第132図）

SH 113と軸を同じにして北側に位置する掘立柱建物で、北側両端の柱穴が、溝によって削平を受けていると考えられる。建物規模は、東西16尺、南北11尺で約5坪の規模である。柱穴間の距離は一定しておらず、P1、P2、P3の距離が6尺、10尺である。SH 112～114の3棟は、共に隣接しており、しかも主軸が東へ47度前後振れることも共通している。未検出の柱穴も推定され、建物の構成そのものが変化することも、十分考えられる。いずれにしても、かなり密接な関係を持った建物群であった可能性が非常に高い。遺物の出土は見られない。

115号掘立柱建物（第132図）

SH 112～114の3棟とは、溝（SD59）を挟んで南に位置する掘立柱建物である。14尺×11尺と、ほぼSH 114と同規模である。P1、P2から径30cm前後の柱根が確認されており、かなりしっかりとした建物が推定される。P3は、東に隣接する溝の覆土を除去した段階で検出されており、この建物が溝より古い時期のものとして推定される。建物に関係する柱穴を含め、遺物の出土はない。

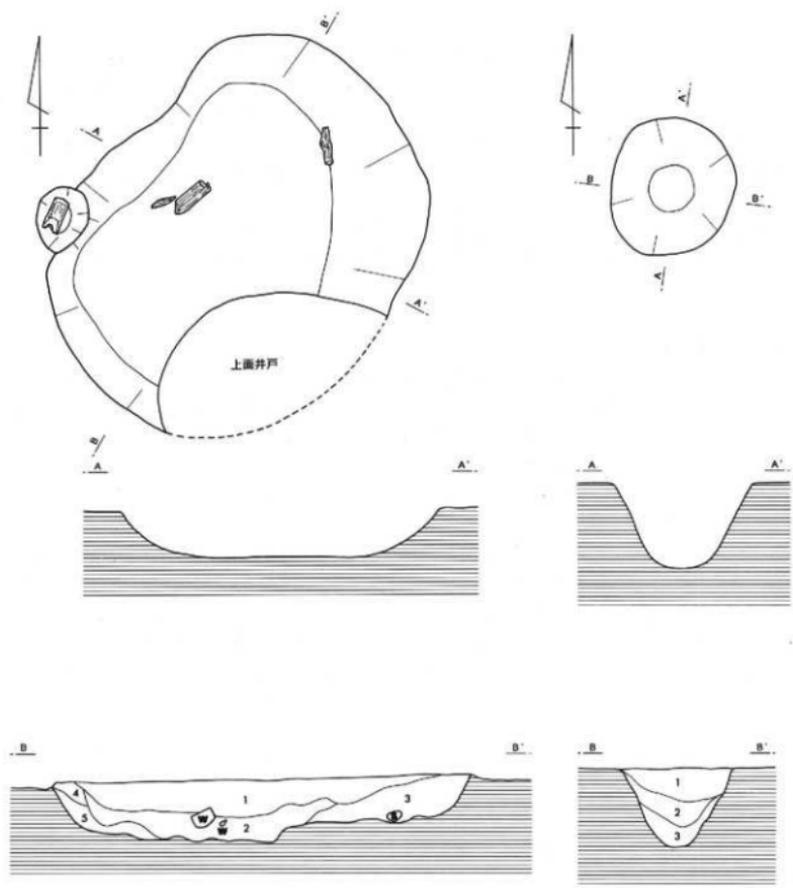
2. 土坑状遺構

55号土坑（第133図）

9区で検出された唯一の土坑である。長辺3.5m・短辺2.5m・深さ50cm程の規模である。南東側の一部が上面の5号井戸によって破壊を受けていた。SH 111のP3が重複しており、この土坑は建物より古い時期の土坑と判明する。上坑下層の有機質を含む暗灰色粘土層からは、かなりの量の木製品が出土している。木製品に比較して土器類は極端に少なく、常滑産6a型式の山皿片が1点のみであった。

56号土坑（第134図）

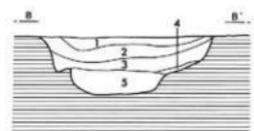
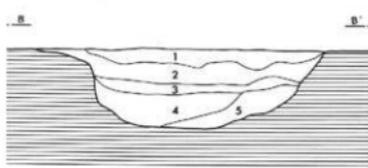
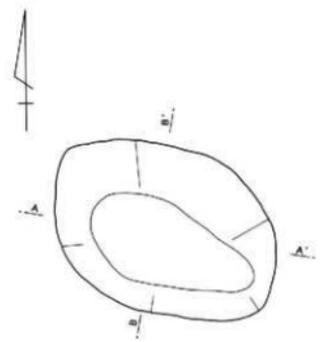
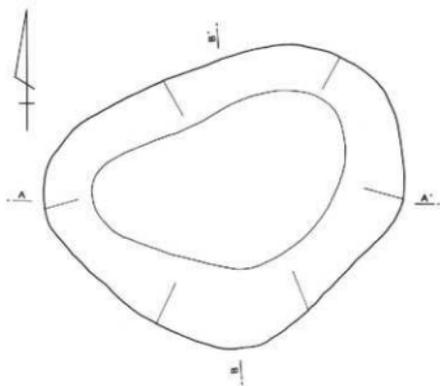
長辺約3.0m・短辺2.0m程の楕円形を呈した土坑で、深さ約60cm程を測る。土層断面を見る限り急激に堆積したのではなく、徐々に堆積していった土坑と推定される。他の土坑と比較すると、遺物の出土は多いが、それでも5点である。13世紀代の遺物が3点、14世紀代の遺物が2点で、最も新しい時期



- 1層 灰色砂質粘土
 - 2層 暗灰色粘土(有機質含む)
 - 3層 灰色粘土
 - 4層 明灰色砂質粘土
 - 5層 明灰色砂質粘土(砂粒多く含む)
- SF55
- 1層 褐色粘土(砂層との互層)
 - 2層 暗灰色砂質粘土
 - 3層 暗灰色砂質土(炭化物含む)
- SF61



第133図 SF55・SF61 実測図



- 1層 褐色砂質粘土
- 2層 灰色砂質粘土(炭化物含心)
- 3層 灰色砂質粘土(菌植物含心)
- 4層 灰色粘土
- 5層 灰色砂質粘土(砂質強)

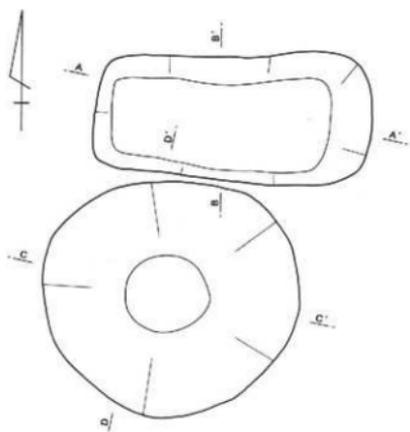
- 1層 褐色砂質粘土
- 2層 灰色粘土
- 3層 灰色粘土(粘性強)
- 4層 灰色粘土
- 5層 灰色砂質粘土

SF56

SF57

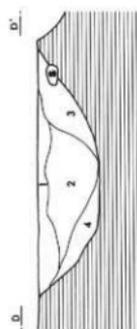


第134圖 S F56・S F57 実測図



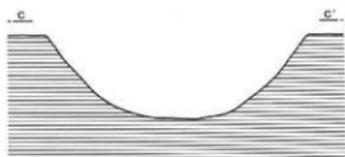
- 1層 灰色砂質粘土(腐植物多量に含む)
2層 灰色粘土

SF62

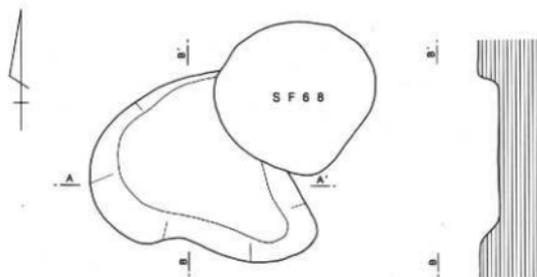


- 1層 灰色砂質粘土
2層 暗灰色粘土(炭化物含む)
3層 暗灰色砂質粘土
4層 灰色粘土(砂粒含む)

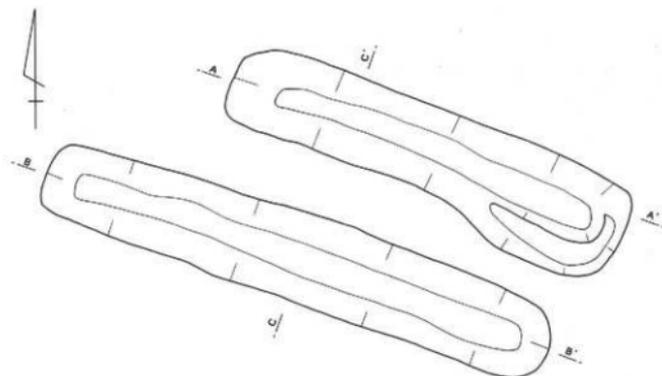
SF63



第135図 SF62・SF63 実測図



SF79



- 1層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 2層 暗灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 3層 暗灰色粘土
- 4層 暗灰色粘土(粘性強)
- 5層 灰色砂質粘土(炭化物含む) 崩壊土
- 6層 灰色砂質粘土(炭化物含む)

SX 1



SX 2

- 1層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 2層 暗灰色粘土(炭化物含む)
- 3層 灰色砂質粘土

- 4層 暗灰色粘土
- 5層 灰色砂質粘土(砂粒を層状に含む)



第136図 SF79・SX1・SX2実測図

の遺物は、古瀬の中皿かⅣ期と考えられる御皿片である。13世紀代の遺物は、第3層の腐植物を含む灰色砂質粘土からの出土で、14世紀代の遺物は第1層からである。

遺物から見る限り、この土坑は第Ⅲ遺構面というより、第Ⅱ遺構面と第Ⅲ遺構面の中間である14世紀代の上坑と認定するのが妥当と思われる。

57号土坑 (第134図)

S D28の北側に隣接する土坑で、長辺約2.0m・短辺1.3m程の楕円形を呈し、深さ約50cm程の規模である。検出状況から、掘り返しが想定され、第3層の粘性の強い灰色粘土が一時期の底の可能性が考えられる。遺物が出土していないため、時期の特定はできない。

61号土坑 (第133図)

S R 8とS D39が交わる北西側に位置する、径1.0m・深さ約70cmの円形土坑である。急激に埋没したと考えられる。第1層の褐色粘土層は、砂層との互層になっており、S D39もしくはS R 8のオーバーフローによって堆積した埋土と思われる。遺物は、まったく出土しておらず、年代は特定できない。

62号土坑 (第135図)・63号土坑 (第135図)

S R 8の北側に南北に並んで位置する土坑で、北側の長辺約2.2m・短辺1.0m・深さ30cm程の方形の土坑がS F62で、南側の径1.0m・深さ70cm程の円形土坑がS F63である。埋土の状況はまったく異なっており、S F62は上層が腐植物を多量に含む灰色砂質粘土で、下層が灰色粘土であった。対して、S F63は、腐植物を含む層は確認されていない。両土坑から、遺物はまったく検出されず、時期の確定はできていない。また、新旧関係も判然としない。

79号土坑 (第136図)

S H108内で検出された土坑で、長辺約1.8m・短辺1.5m前後・深さ15cm程で不定形をしている。北東隅部が、上面のS F68によって破壊を受けていた。土坑周辺域に散在する小穴群との重複関係はなく、建物との新旧関係は判然としない。

遺物は、常滑産6a形式の山茶碗が1点のみ出土している。

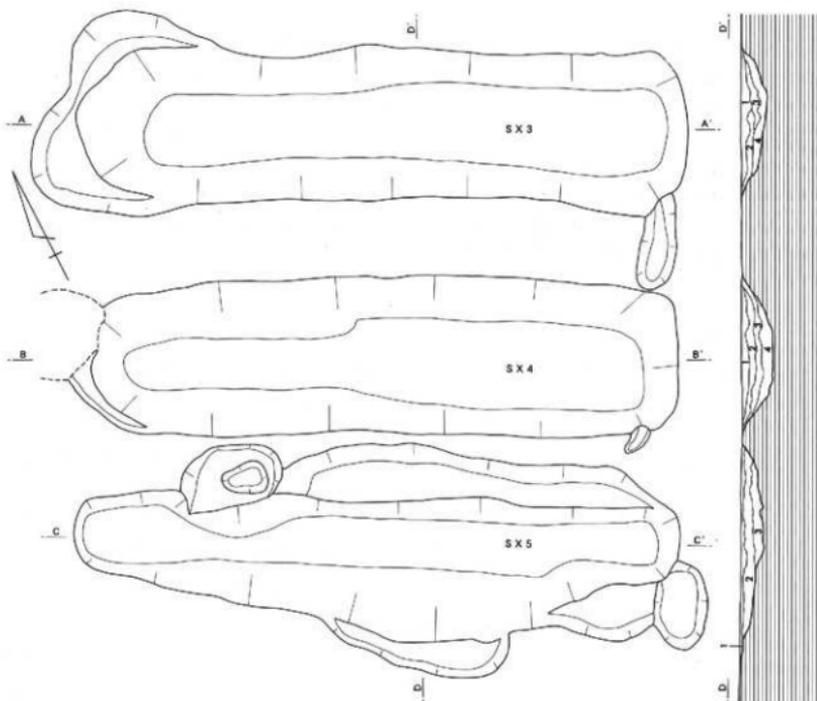
3. 不定型遺構

1号・2号不定型遺構 (第136図)

S X 1、2は、8区中央部を南北流れるS D39のほぼ中央部東側に南北に位置する大型土坑状遺構である。北側S X 1は、長辺約6.8m・短辺約1.3m、深さ70cm程のやや丸みを帯びた長方形である。S X 1より約1m南側に、軸を同じにして位置する同様の土坑状遺構をS X 2とした。長辺約8.6m・短辺約1.5m、深さ55cm程の規模である。S X 1と2は、平行関係に位置しているため2基でワンセットと考えられるが、遺構の性格はまったく解らない。堆積状況を見る限り、除々に堆積していったことは確実で、かなりこの大型の穴が開いていた期間があったと思われる。出土遺物は、S X 1から常滑産10型式の片口鉢と13世紀代の常滑産の壺もしくは甕の体部が出土している。わずかの遺物から年代特定も難しいが、検出状況等も含め推定すると、14世紀代に機能していた可能性が高い。

3号・4号・5号不定型遺構 (第137図)

S X 1、2の東側に軸を同一にして、南北に三列連なるように位置する大型の土坑状遺構を、北側か



- 1層 灰色砂質粘土
2層 灰色粘土(炭化物含七)
3層 黑色粘土(粘性强)
4層 黑色粘土(砂粒含七)

- 1層 灰色砂質粘土
2層 灰色粘土(炭化物含七)
3層 暗灰色粘土(炭化物・腐植物含七)
4層 暗灰色粘土(粘性强)

- 1層 褐色砂質粘土(炭化物含七)
2層 暗灰色砂質粘土(炭化物・腐植物含七)
3層 黑色粘土(粘性强)



第137图 SX 3·SX 4·SX 5 实测图

らSX3、SX4、SX5とした。SX1から5までのいずれの遺構も、ほぼ同様の形で、軸や位置まで統一しているようである。従って、5基を以て1セットの遺構群の可能性が高い。

各遺構の規模は、SX3が、長辺約15.7m・短辺約3.8m、深さ62cm程、SX4が、長辺約14.7m・短辺約3.8m、深さ74cm程、SX5が、長辺約14.7m・短辺約5.5m、深さ52cm程で、大きさもほぼ同一である。堆積状況は、SX1、2と同様で、徐々に埋没したと考えられる。出土遺物は、SX4から、12・13・14世紀代の常滑製品が各1片づつ出土している。またSX5から、尾張産の灰輪陶器K-90、三ツ沢産緑釉小皿、常滑産5型式の山茶碗、同じく9、10型式の片口鉢、古瀬戸後Ⅱ期の直縁大皿が出土している。14世紀代に機能したと推定される。

4. 墓

14号墓（第138図）

調査1区の西端で確認された墓で、唯一の集石墓である。径約2m・高さ約70cm程の大きさである。集石中央部の最も高い箇所50cm四方程に、人骨がちらばって確認されている。集石に使用されている石は、直径約10～20cm程の川原石で、約250個程が残存していた。マウンドは、灰色砂質粘土を二段盛り上げていた。このマウンド及び、後の堆積土を切るように噴砂が検出されたが、水田耕作まで噴き上がっており、年代の特定にはいたっていない。墓内に、集石を除去して柱穴が1ヶ所確認されており、この墓が集落より前に造られた墓ということが推定される。遺物等の出土がまったくないこと、周辺部で同様の墓が検出されていないことから、時期が特定できない。少なくとも第Ⅱ遺構面より古いということのみ、ほぼ確実であるので、ここで報告することとした。

5. 溝状遺構

52号溝

6区西端を南北に流れる幅2.5m程の溝で、15mにわたり確認されている。ほぼ中央部で、直角にSD53と交わっているが、新旧関係は判然とし難い。位置関係と、溝の堆積状況から、8区のSD62・63と接続する可能性が高い。上層のSD50の下層部分という可能性も残されている。

遺物は、10世紀代が1点、12世紀代が5点、15世紀代が5点であった。遺物から見る限り、上層のSD50の遺物が混在していると言わざるを得ない状況である。上層のSD50は、15世紀中頃に機能を停止したことが推定される。

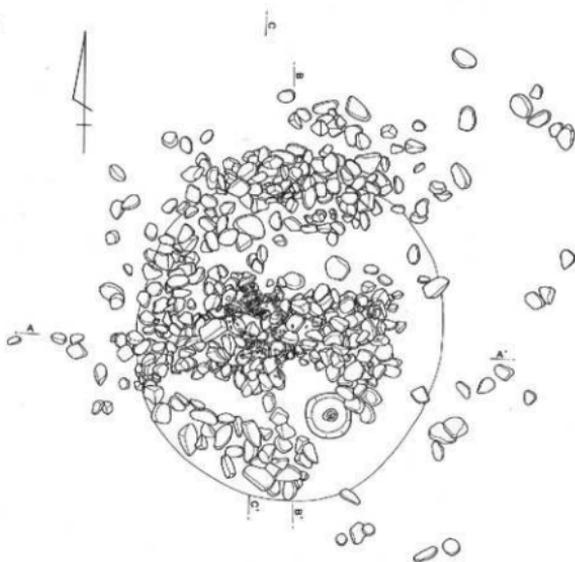
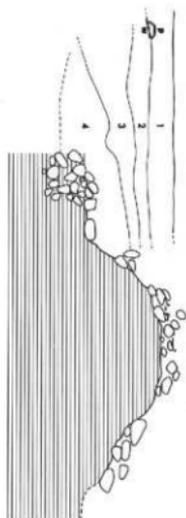
53号溝（第139図）

52号溝と直角に交わり、SR5によって破壊されている幅約2.0m・深さ50cmの溝で、25mにわたって確認されている。溝は、中央部約15m程で2ヶ所に分かれている。下層にかけては、水が流れた痕跡が堆積状況から判断されるが、上層については一気に洪水層のようなもので埋没したと考えられる。出土遺物は、12世紀代が2点、15世紀代が3点である。状況としては、SD52とまったく同じ状況で、上層SD51の下層部分としても問題はない。遺物も、15世紀前半内で納まっている。

52・53号溝については、確認面ということで、ここで報告しているが、15世紀代の溝である可能性が高い。SH103等の建物群が15世紀後半、溝が15世紀前半から機能していたと思われる。

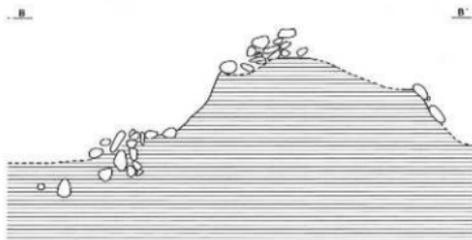
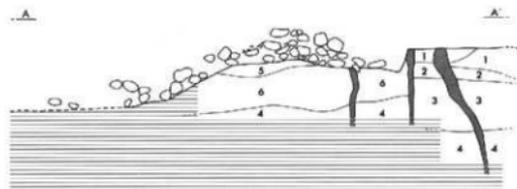
54号溝（第139図）

長さ3m程確認されただけの溝で、SD53とぶつかり消滅している。幅は4mと非常に広いが、深さは50cm程である。堆積状況は、53号溝とまったく同様で、洪水によって一気に埋没した可能性が高い。



- 1層 暗灰色粘土(マンガン含む)
- 2層 暗灰色砂質粘土(砂粒含む)
- 3層 暗灰色砂質粘土
- 4層 暗灰色砂質粘土(腐植物含む)

■ 埋砂

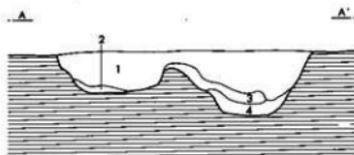


- 1層 暗灰色砂質粘土(マンガン、鉄分を含む)
- 2層 灰色砂質粘土
- 3層 灰色砂質粘土
- 4層 灰色砂質粘土(砂粒含む)
- 5層 灰色砂質粘土(腐土)
- 6層 灰色砂質粘土(腐土)

14号墓

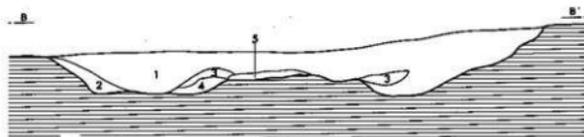
0 1.0m
(L=1.50m)

第138図 14号墓実測図



- 1層 青灰色砂質粘土
- 2層 灰色粘土(炭化精舎七)
- 3層 灰色粘土(粉精舎)
- 4層 明灰色砂質粘土(下層は砂層)

SD53



- 1層 灰色粘土(鉄分舎七)
- 2層 灰色砂質粘土
- 3層 褐色砂質粘土(小礫舎七)
- 4層 明灰色粘土
- 5層 明灰色砂質粘土

SD54



- 1層 灰色砂質粘土(有礫物舎七)
- 2層 明灰色粘土(砂質舎七)
- 3層 灰色砂質粘土

SR 4

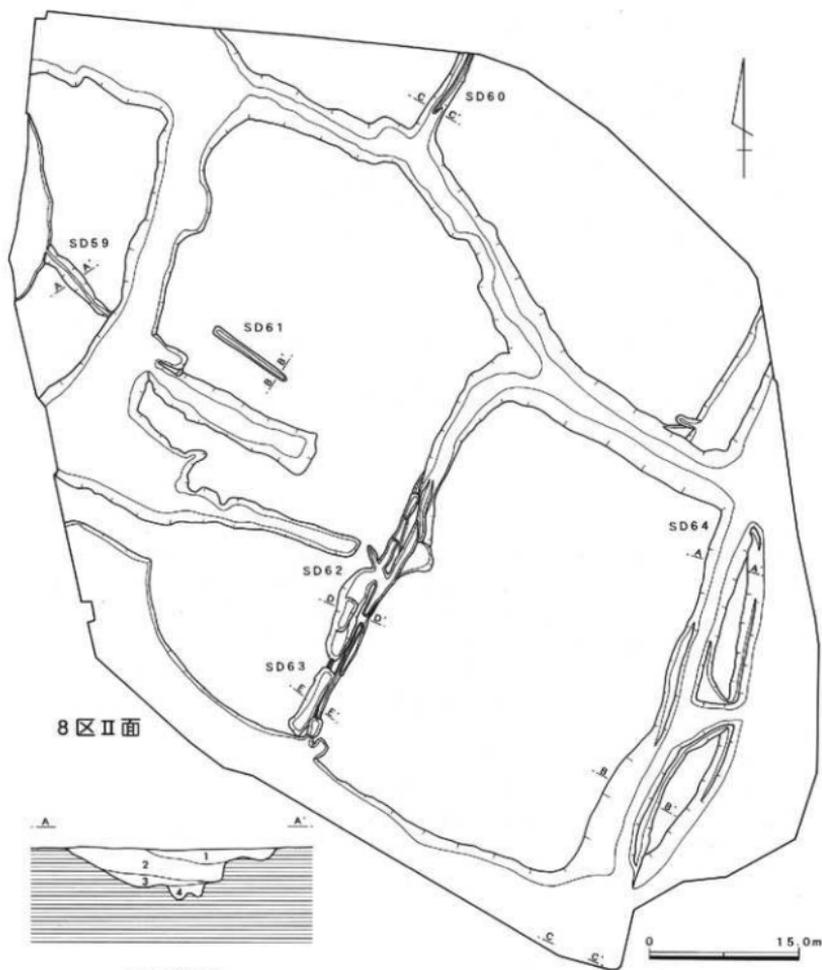


- 1層 灰色砂質粘土
- 2層 暗灰色砂層
- 3層 灰色砂質粘土(礫舎七)
- 4層 明灰色砂質粘土(下層砂層)
- 5層 褐色砂質土
- 6層 暗灰色砂層
- 7層 暗灰色砂質粘土

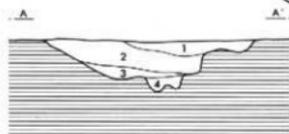
SR 5



第139図 SD53・SD54・SR4・SR5実測図

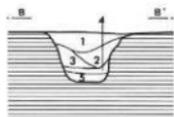


8区II面



- 1層 灰色砂質粘土
- 2層 暗灰色砂質粘土(炭化物富七)
- 3層 暗灰色砂質粘土(有機質富七)
- 4層 暗灰色粘土(炭化物富七)

SD59



- 1層 灰色砂質粘土
- 2層 灰色粘土(炭化物富七)
- 3層 黃灰色粘土(粘性強)
- 4層 灰色粘土(炭化物富七)
- 5層 灰色粘土(粘性強)

SD61



第140图 8区II面SD位置图 SD59·SD61实测图

8区に接続する可能性もあるが、根拠に欠ける。遺物の出土は、確認できない。

55号・56号・57号・58号溝

いずれの溝も10区で検出された溝である。SD56については、上層のSD18・21と重複した溝で、上層で掘り足りなかった溝の部分と考えられる。SD55は、SD56によって破壊されているが、さらに北側には伸びていない。幅は5～6mと広いが、深さは25cm程度で、褐色砂質上一層が堆積していただいである。SD57、58もまったく同様の状況で、一時期に流れただけの溝の可能性が高い。

遺物もまったく出七しておらず、時期確定が困難である。

59号溝（第140図）

8区西北端のブロックで、唯一検出された溝で、上層でSD23と重複している。幅約1.7m・深さ45cmで、長さ10m程が確認されている。最下層の4層は、炭化物を含む暗灰色粘土で、3層までが、除々に堆積した様子を示している。1、2層は、砂質の強い礫土で、一時期に急激に堆積したことが考えられる。遺物は、わずか4点出土しているだけで、12世紀代・13世紀代が各1点、14世紀代が各2点であった。15世紀より古い溝として捉えることは可能だが、14世紀代か13世紀代なのかは判然としない。周辺諸状況から推定すると、13世紀代ということになる。

60号溝（第141図）

8区北側から南北に流れる溝で、上層でSD33と重複している。幅約3.6m・深さ約80cmで、長さ10m程が確認された。10区からのびていることは確実だが、取りつく先は不明である。幅60cmの溝の最底部が、元々の溝の形と考えられる。上下2層のみで、下層が砂質で上層が粘土であった。この部分からの遺物は、12世紀後半の瀝美・湖西産の山皿1点のみで、これも基盤の砂礫に伴う遺物の可能性が高いため、時期は確定できない。SF23を上層の溝SD23は切っているが、下層の溝では重複関係は見られない。SF23と同時期とするなら、15世紀代ということになる。

61号溝（第140図）

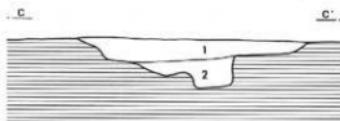
8区SF57の北側に位置する東西に長い溝が、SD61である。幅約70cm・深さ約45cmで、9mに渡って確認された。下層部分については、除々に堆積した様子がうかがえるが、第1層は一気に堆積したと思われる。溝は、その接続関係が不明であり、用途についても判然としない。出土遺物は、古瀬戸中皿もしくはIV期の卸皿と、12世紀代の常滑産の壺か甕の体部である。時期としては、14世紀中頃と推定される。

62号溝（第141図）・63号溝（第141図）

SD39の下層部分のうち、上坑状を呈す二ヶ所の溝をSD62と63とした。北側部分に位置するSD62は、幅約2.4m・深さ53cmで、長さ13mにわたって確認された。東側を幅約1.5m・深さ30cm程の溝が1条流れている。南側部分のSD63は、幅約1.8m・深さ51cmで、長さ7.8m程確認された。おそらくSD62の5、6層が、63の2層に続く部分と考えられる。共に、1・3層は、急激な流れによる堆積と推定され、ある時期かなり激しい流れがあったと思われる。遺物は出土していない。

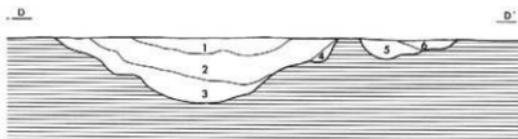
64号溝（第141図）

上層SD41と重複する溝で、下層部分ということも考えられる。溝の北・中・南の三ヶ所で断面によ



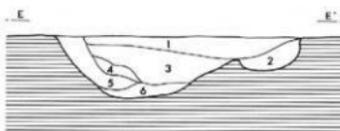
- 1層 暗灰色粘土
- 2層 灰色砂質粘土

SD60



- 1層 褐色砂質粘土(炭化物含む)
- 2層 暗褐色砂質粘土(炭化物含む)
- 3層 暗灰色粘土(小礫含む)
- 4層 明灰色粘土(炭化物含む)
- 5層 明灰色粘土
- 6層 灰色砂質粘土(砂粒多)

SD62



- 1層 灰色砂質粘土(砂をブロックで含む)
- 2層 灰色粘土(炭化物含む)
- 3層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 4層 暗灰色砂質粘土
- 5層 暗褐色砂質粘土(炭化物含む)
- 6層 褐色砂質粘土(炭化物含む)

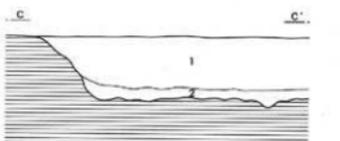
SD63



- 1層 明灰色粘土
- 2層 暗灰色粘土



- 1層 褐色砂質土
- 2層 灰色粘土
- 3層 灰色砂質粘土(炭化物含む)
- 4層 灰色粘土(炭化物含む)



- 1層 灰色砂質粘土(下層砂質塊)
- 2層 暗灰色砂質粘土(砂・粘土の互層)

SD64



第141図 S D60・S D62・S D63・S D64 実測図

る堆積状況を確認したが、最も南側とはまるで様相が異なっていた。従って、SD64は、南北に真っすぐ伸びるのではなく、断面Cのラインの北側で、曲がっている可能性が高い。C断面については、東側の溝の肩を見つけることはできていない。発掘区外にまで伸びる非常に大きな流れである。この断面はおそらく、上層SR9のものと考えられる。

確実にこの溝に伴うと推定される遺物は2点のみで、12世紀前半の渥美・湖西産の山茶碗と常滑産5型式の壺片である。

第6節 13世紀代の遺構（下面）

第IV遺構面は、第III遺構面と同様に13世紀代の遺構として捉えた。第III面同様、遺物は極端に少なく確認された面積そのものも、1区・9区・8区の一部で約400㎡程と第III遺構面よりさらに狭い。遺構検出状況から、第III遺構面より下層であることは確実だが、出土遺物に極端な差は認められない。基盤層となっている洪水堆積層に含まれる遺物は、12世紀代のものに限定されるため、それ以降ということは確実である。しかし、年代を確実に押さえることのできる遺物は、ほとんど見られない。第III遺構面で広がっていた土坑・溝状遺構は検出されておらず、何らかの理由によって遺構面が破壊を受けて、残存していないのか、もしくは遺構面そのものの広がり今回検出された部分だけの小さな広がりでしかなかったのかについては判然としない。第III遺構面同様、詳しい年代の確定は、遺物の全てを検討した後改めて『遺物編』で報告したい。第IV遺構面と第III遺構面は、ほとんど同一面で検出され、調査時点の面的高低差は、前述のように20～30cm程度であった。そのため、両面を混同して捉えた柱穴が多少含まれていることも考えられる。第III遺構面同様、14世紀代と考えられるものもあり、14世紀代の遺構の残存が少なからずあることも考えられる。

検出遺構は、掘立柱建物7棟、土坑3基であった。建物については、他の遺構面程主軸方向が一定しない。土坑からは、木製品は出土するが土器等の年代が判明するものは出土していない。遺物は、瀬戸・尾張・常滑という愛知県で造られた土器類が主体であった。

1. 掘立柱建物

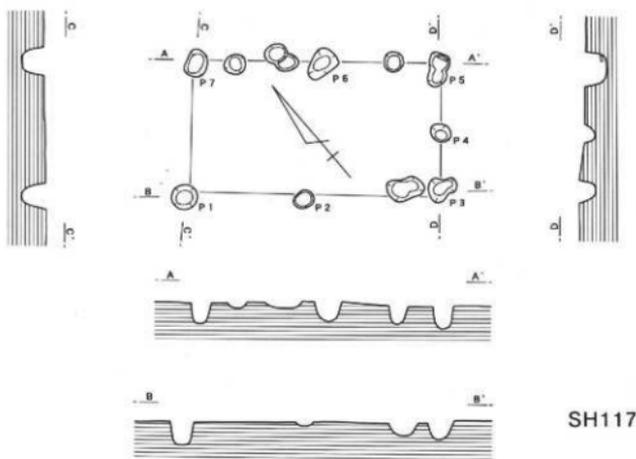
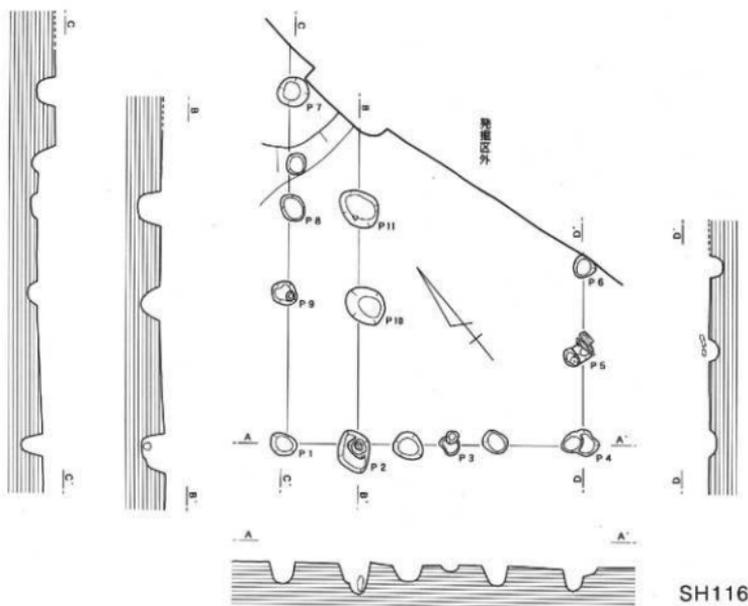
116号掘立柱建物（第142図）

9区最終面で確認された掘立柱建物で、9坪以上の規模を持つ。東側P1とP7が、縁もしくは庇と考えられる。P2から柱根が、P5から礎板が検出されている。柱間は不揃いで、最も前う距離は8尺である。西側に位置するSH117と、8区のSH120・121・122とは、ほぼ主軸を同一にするため、同時期の建物として捉えたい。この地区内としては、大きな建物なので、母屋的な機能も考慮に入れる必要があろう。

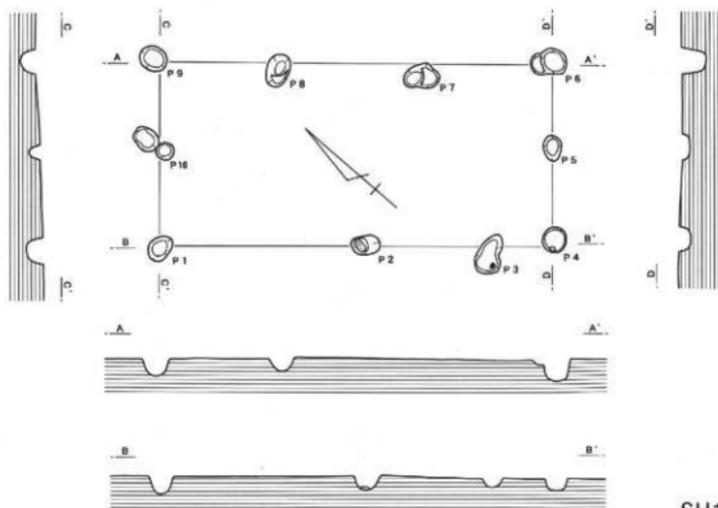
遺物は、P2から景德元寶、P5から淳熙元寶が出土している。その他、建物内の小穴等から瀬戸産8型式の小皿、常滑産5型式の山茶碗、6a型式の山皿、尾張産6型式の山茶碗が出土している。また、天聖元寶、皇木通寶、嘉祐通寶の3枚セットと、景德元寶、元豊通寶、治平元寶、皇宋通寶の4枚セット、景德元寶が確認されている。貨幣は別にして、いずれの遺物も13世紀代に遺物であるため、建物も同時期と考えてよさそうである。

117号掘立柱建物（第142図）

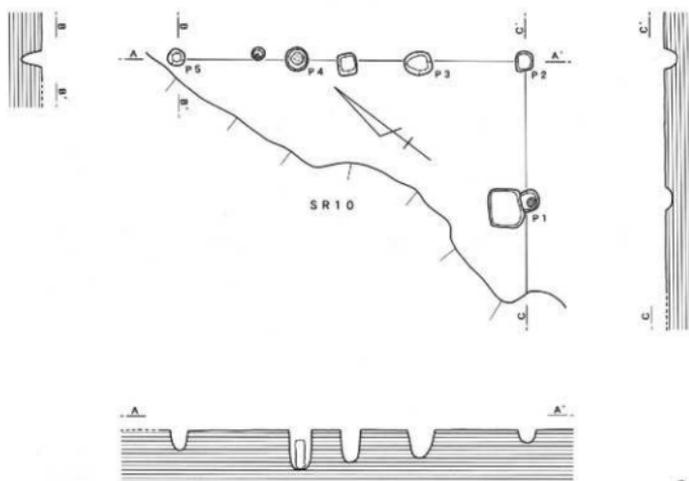
SH116と軸を同一にして、西側に位置する小型掘立柱建物である。1間×2間で、約2.5坪の規模



第142图 SH116·SH117 实测图



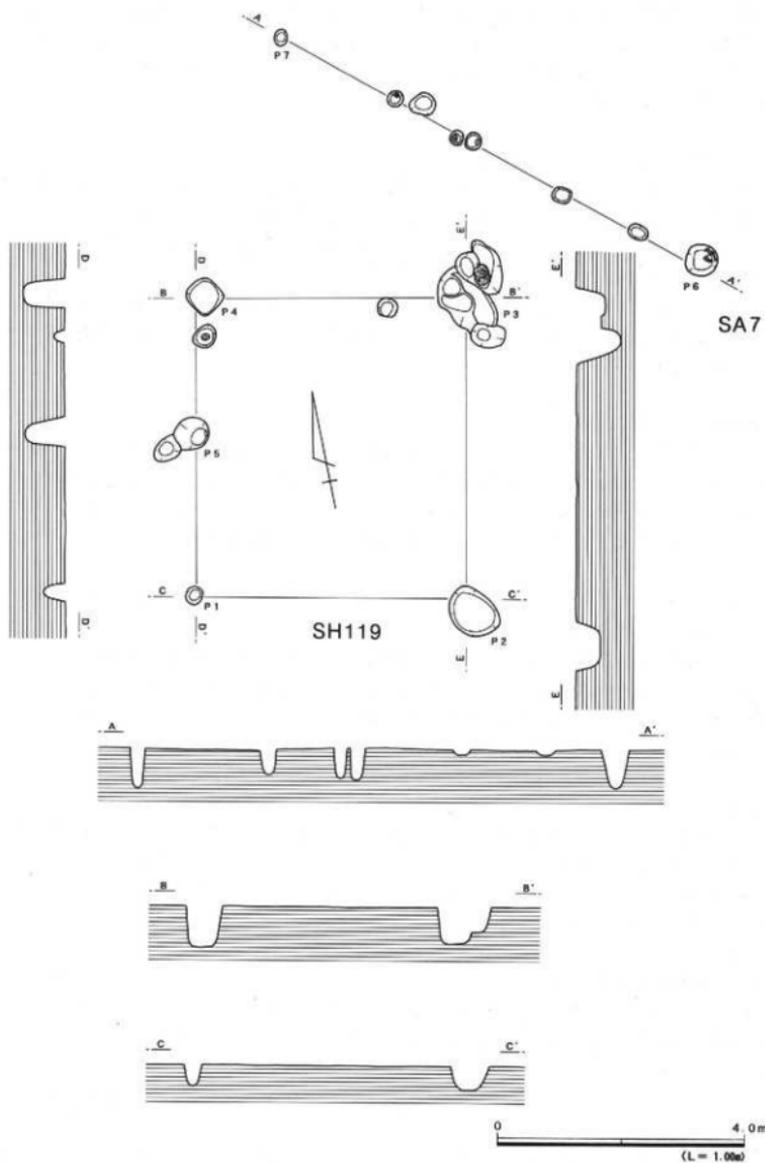
SH118



SH120



第143図 SH118・SH120 実測図



第144图 SH119 实测图

である。南北軸は7尺、東西軸は6、7尺である。P5から礎板らしき木片が出土している以外は、土器等遺物の出土は見られない。建物内の柱穴等からの遺物としては、瀬戸産7もしくは8型式の山茶碗と尾張産7型式の山茶碗、常滑産6a型式の山皿が出土している。いずれの土器も13世紀代であることから、建物もその時期と考えたい。

118号掘立柱建物（第143図）

SH 116・117と重複し、主軸を異にする掘立柱建物で、2間×3間の建物と考えられる。建物規模は約6坪で、東へ49度振れている。P2及びP3から、それぞれ礎板と柱根が出土している。第IV遺構面として捉えた建物の中で、SH 118と主軸が一致する建物は確認されていない。柱間は、南北は5尺間であるが、東西軸は統一性が見られない。

遺物は、P3から照寧元寶、政和通寶がセットで出土しただけである。その他は、SH 117と重複している箇所からの遺物であるため、117と118からの区別ができない。おそらく他の建物同様、13世紀代の建物と推定される。

119号掘立柱建物（第144図）

8区第IV遺構面北側で確認された方形の掘立柱建物で、約7坪の規模である。軒数ははっきりしないが、2間×2間が推定される。建物北側には、欄列SA6が確認されており、この建物に関連する欄列と推定される。欄列の柱間は、P7から6尺・5尺・6尺・4尺・4尺でP6である。欄列、建物共に伴う柱穴からの遺物の出土は見られない。建物内の小穴から、古瀬戸中II期の合子と聖宋元寶が出土している。

最も注目されるのは銭鑄の一括銭が1,571枚出土していることである。貨幣は、全部で50種類を数え、開元通寶（初鋳621年）から至大通寶（初鋳1310年）までで、明銭は含まれていない。一括埋納銭は、14世紀代と推定される。掘り方や土坑状の遺構は検出されず、包含層削削時の出土であった。これらのことから、遺物は建物に伴うものでなく、上層遺構の残存という可能性が高い。上面遺構とすると溝SD66の脇にあたる。貨幣の内容や出土状況から14世紀代の可能性が高いため、失われた14世紀の遺構の残存ということも推定されよう。

120号掘立柱建物（第143図）

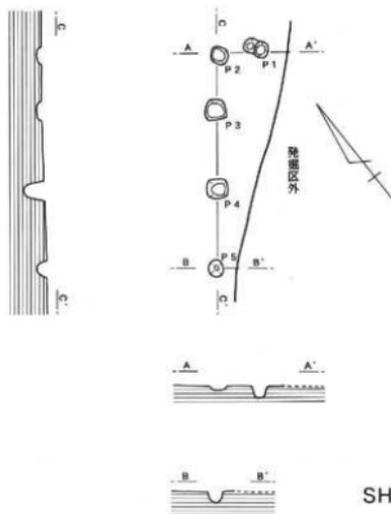
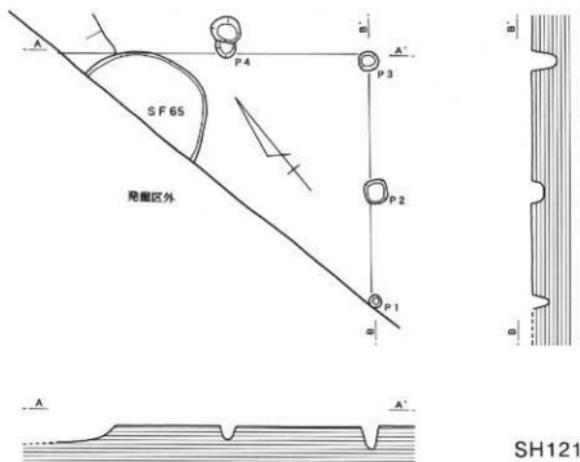
SH 119の南西に位置する掘立柱建物で、3間×2間以上で、7坪以上の規模を持つと考えられる。柱間は、東西方向が6尺で統一され、南北方向は8尺と推定される。P4から柱根が出土しており、径約10cm・長さ約50cm程のものであった。建物が、SR10によって破壊を受けており、確実な建物規模は押さえきれない。遺物の出土も見られない。

121号掘立柱建物（第145図）

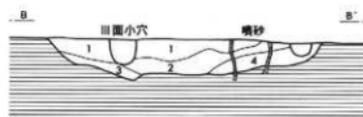
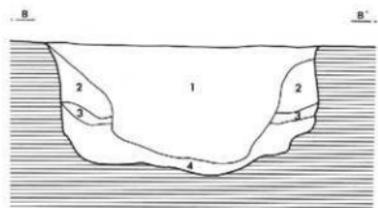
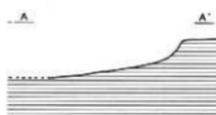
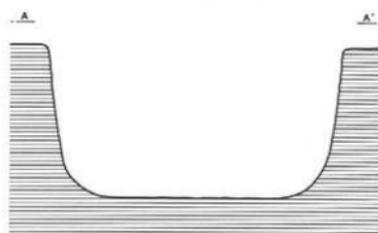
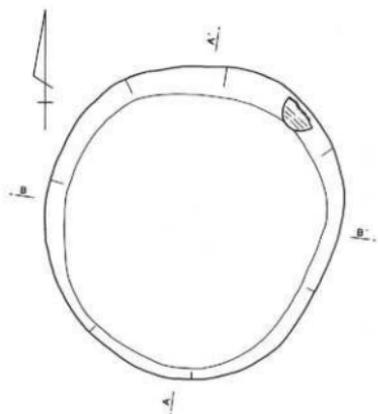
8区遺構面の南西隅で検出された掘立柱建物で、その規模は確定できない。東西方向は、P3とP4が、南北方向としてはP1からP3までが確認されただけである。南北方向は6尺、東西方向は8尺の柱間であるため、一応建物として認定した。遺物は出土していない。

122号掘立柱建物（第145図）

8区遺構面の南東隅で検出された小型の掘立柱建物である。建物とすると、東側が流路によって破壊を受けたということになる。仮に、検出されない柱穴がさらに南北に伸びているとするなら、欄列とい



第145图 SH121·SH122 实测图



- 1層 灰色砂質粘土(ブロック粘土固含む)
- 2層 灰色砂質粘土(ブロック粘土固含む)
- 3層 暗灰色砂質粘土
- 4層 暗灰色砂質粘土

- 1層 灰色粘土
- 2層 明灰色砂質粘土(腐植物含む)
- 3層 灰色砂質粘土(黒色砂粒含む)
- 4層 明灰色砂質粘土(有機質含む)

SF64

SF65



第146図 SF64・SF65 実測図

う可能性も残されている。遺物は出七していないため、時期は不明である。

2. 土坑状遺構

64号土坑（第146図）

8区遺構面中央部で検出された、径約2.5m・深さ約1.1mの円形を呈した土坑である。上層断面を見ると、第1層が不自然な堆積状況を示しており、掘り返して急激に溜まったと考えられる。そのため土坑ではなく、井戸という可能性も考えられる。井戸とした場合、第1層は井戸枠を抜き取るために、廃絶後掘り返して埋めた痕跡ということになる。年代を確定できる土器類は、まったく出土しておらず木製品が多く出土している。木製品は、現時点で整理作業中であるため、詳しい内容までは判明しないが、刀形木製品が1点出土している。土坑か井戸かについては、詳しい検討を行った上で、改めて『遺物編』で報告することにする。

65号土坑（第146図）

S H 121と重複している土坑で、径約2.2m・深さ約30cm程と考えられるが、約半分程が調査区外であるため、未調査である。土坑上面で掘立柱建物に伴う柱穴が検出されており、S H 121よりは古いと考えられる。覆土は、ほとんどが有機質や腐植物を含んでおり、かなり黒っぽい土であった。年代の決め手となる土器は出土していないが、呪符木簡1点が出土している。詳しい分析等は現在実施中であるため、確実な読みは不明である。現段階では「□（記号） 急如○令」と判読できる。木簡の詳しい内容については、『遺物編』で報告したい。

第7節 奈良時代前半から古墳時代後期の遺構

奈良時代前半から古墳時代後期・中期の遺構面は、海拔0m前後の同一面で確認されている。確認面は、粘土ブロックを含む灰色砂質土であった。遺構面の大部分は、後世の洪水の影響を受けており、出土遺物のほとんどは、遺構に伴わない包含層出土品であった。遺構の時期決定については、若干切れあって前後関係が把握できる遺構と、明らかに性格が異なる同一面として捉えることが不可能な遺構を分離して考えている。

包含層出土品も、上層下層で時期が異なることはなく、上層からTK 216が、下層からMT15がという具合にかなり攪拌を受けた後に、堆積した状況を示している。こうした状況の中で、奈良時代前半から古墳時代後期の遺構として考えられるものは、掘立柱建物が2棟（立て替えを含まない）・溝状遺構が4条（連の溝）であった。

1. 掘立柱建物

1号掘立柱建物（第147図）

柱間は1軒×1軒で、梁行2.80m、桁行2.83mのほぼ正方形であり、延床面積は7.92㎡である。ほぼ同面積の建物が、立て替えられている。

P3・P4から礎板が出土している。P4は、数枚の板材を重ねて礎板とし、P3は厚さ7cm程の一枚板を据えて礎板としており、両柱穴で形態が異なっている。

P1・2・3から古式土師器片が出土している。

各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり底部の標高は、-0.35m～-0.49mである。建物と認定した柱穴の周囲には重なるように柱穴があり、近接して立て替えがなされていると考えられる。

この建物は、砂堤状の微高地の北西端に位置し、北側と西側に向かって標高が低くなる地形であり、集落域の外れと考えられる。しかし、別に述べたようにSP1が独立棟持柱を有する建物の柱穴であるという推定が正しいとすると、さらに低地部分にも集落が広がる可能性がある。また、方形溝溝壘群がさらに下層に形成されていることは、過去に海面が低下していた時期があったことを想定させる。だが、後世の洪水等によってこの部分は削平を受けている。

2号掘立柱建物（第147図）

1軒×3軒の多柱間建物で、梁行4.10m・桁行3.82mの長方形である。

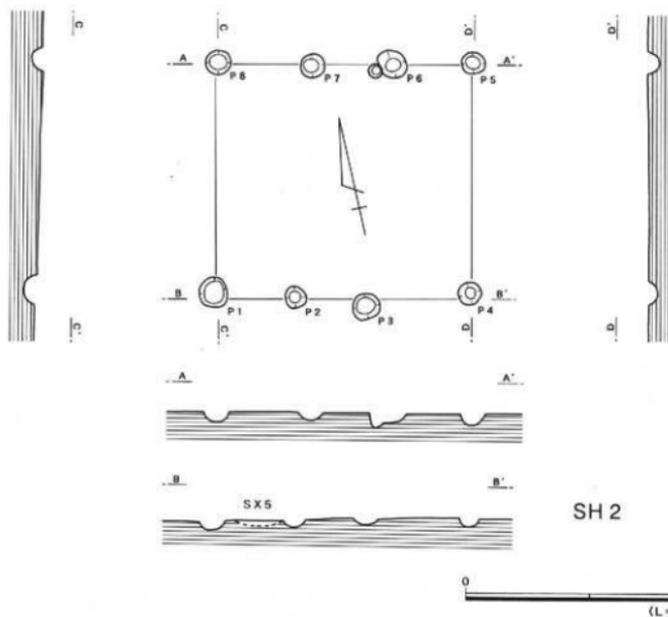
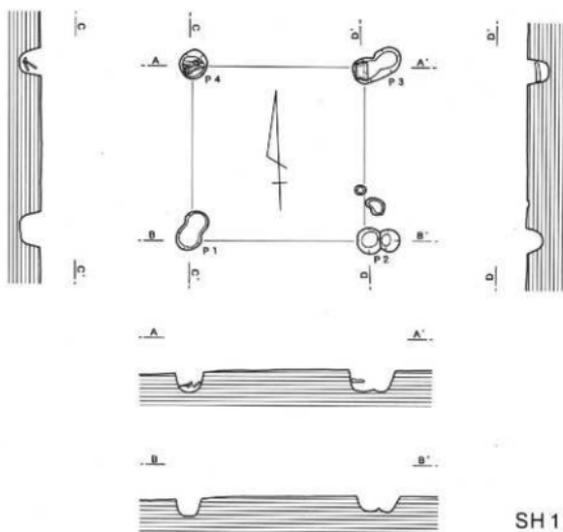
桁行柱間はややばらつきがあり、南側柱間が西から1.30・1.15・1.70m、北側柱間が西から1.55・1.30・1.30mで、延べ床面積は15.85㎡である。

梁行が4.14mと非常に広く、構造上中間に棟持柱のような柱の存在が予想されたが、調査段階での検出は困難であった。

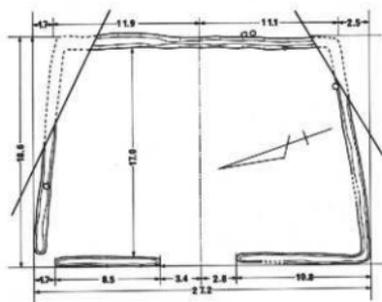
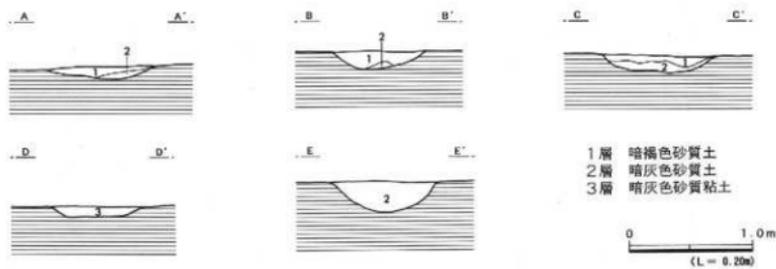
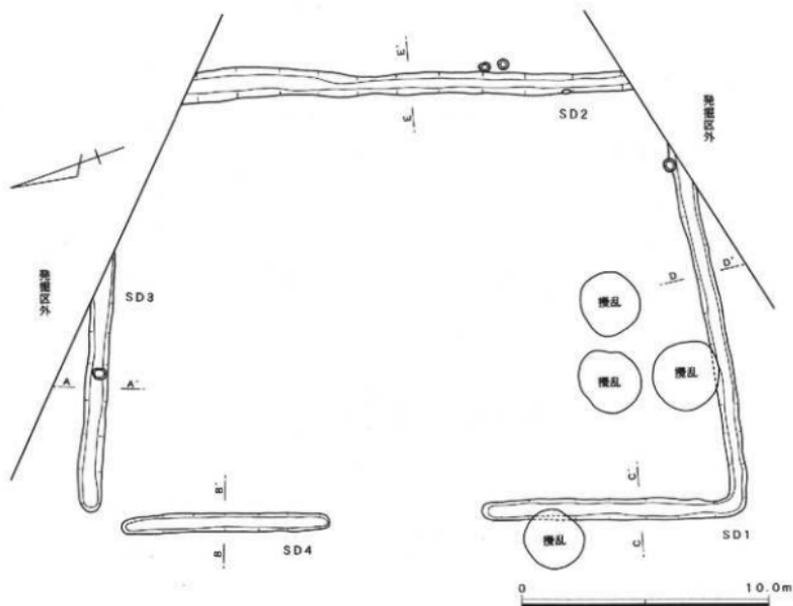
北側柱穴は、桁行が一直線上に揃うが南側は不揃いである。特にP3は柱穴1つ分南へずれている。これが意図的なものかどうかは明らかではないが、用材により制約されていると推測している。

各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.21m～-0.35mである。P1・2・3・4・5・6・8から古式土師器片が出土している。柱根・礎板の出土はない。

この建物も砂堤状の微高地の西端にあたり、南西に向かって落ち込む地形となっており、湿地化している。この傾斜面を埋める覆土中から大量の古式土師器が出土しているのは、5区で検出した土器群の状況と全く同じである。この土器群は、古墳前期の廻間Ⅱ～Ⅲ、古墳前期から中期の松河戸に比定される土器群で、掘立柱建物と時期差が推定される。



第147图 SH1·SH2实测图



第148图 方形区画实测图

2. 溝状遺構

1号溝・2号溝・3号溝・4号溝 (第148図)

1号溝から4号溝までが、区画を形成する同一の溝と推定される。南辺 (SD1) は14m、東辺 (SD2) は18.2m、北辺 (SD3) は10.5mである。西辺は南辺と繋がる部分とその北側に断続する部分の二つに分かれている。西辺南側で検出されたのは10.8m、西辺北側 (SD4) は8.5mである。

西辺の中央に幅約6.1mの切れ目があり、通路と考えられる。他に、北西隅のSD3とSD4の交点にも通路状の切れ目が存在する。北辺東端と南辺東端については、調査区境の排水溝にかかっているため検出されていない。北辺東端については、道路の安全確保のため中段として遺構面が残されていたため、調査区域を拡張して調査を実施した。だが、明確な溝状遺構は検出されなかった。従って、ここも北西隅と同様の切れ目が存在する可能性は否定できない。

SD1とSD3は、やや区画内に傾斜するようになっており、全体は台形になると推定される。西辺の方位は、N-17度-Eである。

検出した溝は、幅約80~120cm、検出面からの深さ8~25cmであり、底面の標高は、最も高い所で-6cm、最も低い所で-38cmである。概して区域西側の溝の底部の標高が高く、区域東側の溝が低い。また西辺の内でも、中央の切れ目部分付近が高く、南端及び北端に行く程低くなる。遺構検出面は、SD1周辺とSD3周辺が低く、両者の中間が盛り上がる地形である。排水を考えると西辺の中央部切れ目付近から、南北の低地に向かって雨水を振り分ける構造であると理解できる。

覆土は暗灰色砂質上で、基盤層に比べより粘性が強く腐植物が混入する土質である。また、直径1~10cmの灰色粘土塊が多数混在し、上層からの生痕も認められる。

出土遺物は、古墳時代前期の土師器が溝内から多く出土しており、小片であるが1点の須恵器がSD2の底部付近から出土している。この須恵器は小片であるため、確実な時期特定は困難であるが、その特徴から8世紀代の可能性が高い。また、表土除去中に方形区画の東側にあたる箇所を含む層から、7世紀代の須恵器の大破片が出土している。これが方形区画に伴うものか疑問は残るが、非常に近接した所からの出土であり、注目すべき遺物である。

区画内には井戸、柱穴、土坑などの遺構があり、掘立柱建物群が存在するが、いずれも古式土師器を多く出土するものの、方形区画溝内から出土した須恵器に近接した年代のものは伴わず、古墳時代前期の遺構群と考えられる。

また、1号墳が方形区画中央付近に築造されている。だが、元鳥遺跡の古墳群は、少なくとも3基以上の墳墓によって、企画性をもって形成されていると考えられ、同時存在したとすると、位置関係に疑問があり、方形区画とは時期差があると推定できる。

第8節 古墳時代中期の遺構

古墳時代中期の遺構は、海拔0m前後で、奈良時代前半・古墳時代後期の遺構と同一面で確認されている。確認面は、粘土ブロックを含む灰色砂質土であった。検出された遺構は、円墳が3基、不定形遺構が6の合計11遺構である。いずれの遺構も、後世の洪水等の被害によって、ほとんどが削平されており、わずかに残る溝・主体部の最下層部分のみが検出されたという状況であった。

共存関係にある土器等は、ほとんど出土していないが、主体部と重複する柱穴によって、前後関係を判明したため、古墳時代中期の面として捉えた。

1. 用途不明遺構 (第149・150図)

用途不明の遺構は、5遺構が確認されている。4遺構は土坑状で、1遺構が溝状である。SX3は、堅櫛が出土していることから、主体部の可能性が高い。

SX1は、長辺195cm・短辺70cm・深さ5cm程を測る長円形の土坑状遺構である。大部分が後世の洪水によって、削平を受けており、確認されたのはわずか5cm程でしかない。従って、どのような用途のものなのかは判然としない。南側に位置する墳墓の主体部とも、軸がずれており、仮に主体部であったとしても、同時期とは考えにくい。

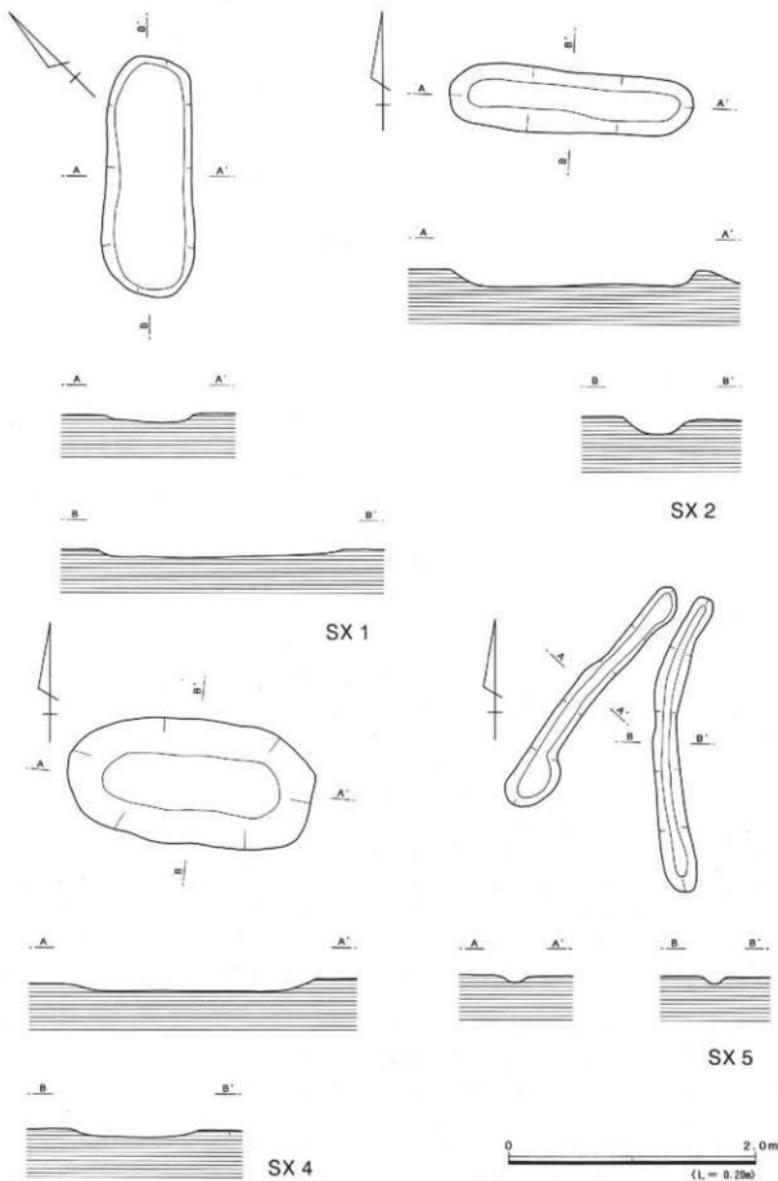
SX2は、3号墓の周溝とほぼ接するような位置関係にあり、長辺195cm・短辺50cm・深さ15cm程を測る長円形の土坑状遺構で、SX1とほぼ同規模である。SX1に比較すれば、残存状況は良いと言えるが、それもわずか10cm程でしかない。遺物は、まったく出土せず、3号墓周溝との前後関係を把握できなかった。用途等も不明である。

SX3は、3号墓の南側に位置する、長辺350cm・短辺170cm・深さ12～13cm程を測る長円形の土坑状遺構である。東側端部から、1点堅櫛が出土している。非常に残存状況が悪く、取り上げることは出来なかったため、上ごととりあげ、保存処理を実施している。埋土は、砂質土で、周辺域に比較し、わずかに暗灰色を帯びた色調であった。堅櫛が出土していることから、主体部と考えてほぼ間違いないと思われるが、3号墓の主体部かどうかは判然としない。3号墓の主体部とすると、あまりに南端によりすぎている。また、他の墳墓の主体部とすると、周溝も未確認で、さらに3号墓との前後関係が生まれ、全体の墓域についても検討を要するということになる。他の墳墓と形状がことなるため、ここで報告することにするが、基本的には墳墓として理解されよう。

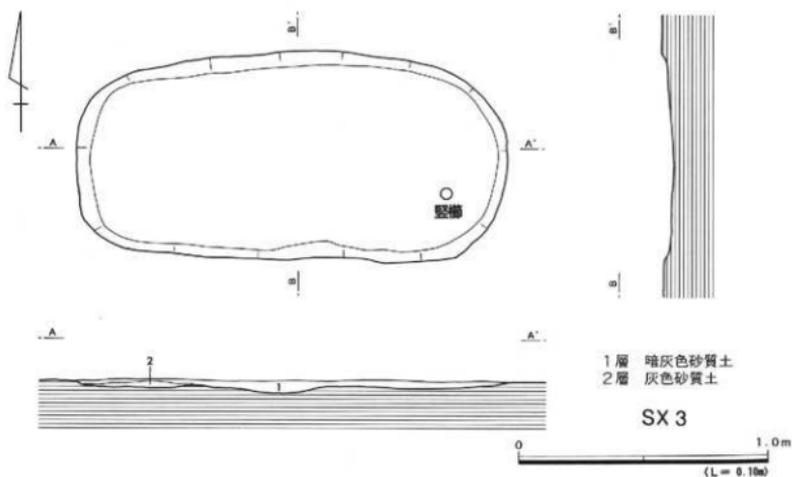
SX4は、SX3の約3m南東に位置し、長辺200cm・短辺100cm・深さ5cm程を測る長円形の土坑状遺構である。SX1同様、遺物は出土していない。主体部という可能性も考えられないではない。その場合、SX3同様、周辺の墳墓との前後関係が判然としない。

SX5は、SX1の東側に位置する2条の溝状遺構である。東側は、長さ240cm・幅20cm・深さ7cm程を測り、わずかに彎曲している。西側は、長さ220cm・幅20cm・深さ5～6cm程を測る、ほぼ直線上の溝である。南側先端部分がわずかに膨らみぎみで、他より若干深くなっている。墳墓の周溝ということも想定されるが、現状ではなんとも言いがたい。

SX6は、古墳時代中期遺構面の最も南側で検出された溝状遺構で、地形が落ち込んでいく層部分に位置している。長辺360cm・幅約50cm・深さ5cm程の直線状の溝で、南側は地形に左右され、先細りとなっている。遺物等の出土は見られない。なお、柱穴が重複していたため、柱穴より時期的に古いことが確認されている。



第149图 SX 1·SX 2·SX 4·SX 5实测图



第150図 SX 3 実測図

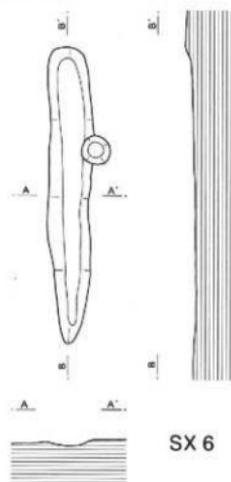
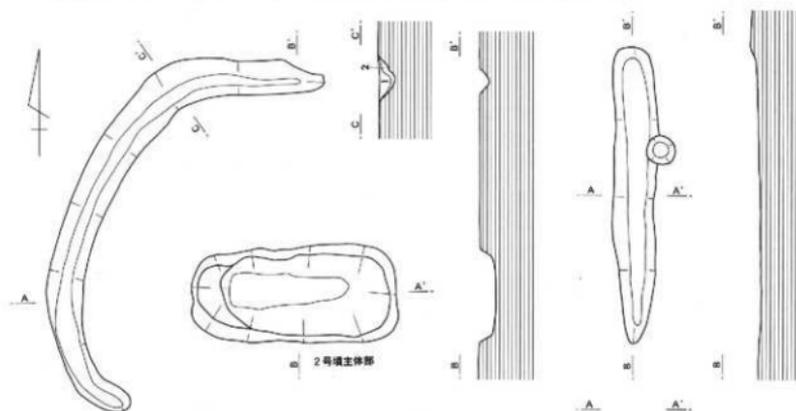
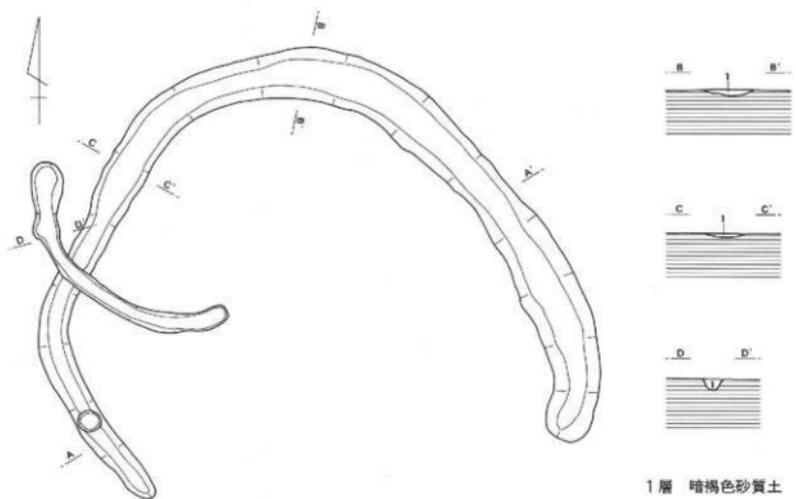
2. 墳墓 (図151~154)

墳墓は、3基が検出され、さらに前述のように主体部と推定されるSX 4が検出されている。従って合計で、4基の墳墓が確認できたことになる。墳墓の形態であるが、いずれの墳墓も後世の洪水によって、大部分が削平を受けており、周溝と主体部だけの確認にとどまっている。本来の墳墓がどのような構造であったかは、判然としない。3基の墳墓は周溝が円形に廻っていることから、円墳もしくは円形周溝墓が想定されるが、マウンド部分がまったく痕跡を留めていないため、どちらとも判断しかねる。従って、単なる墳墓として報告することにする。墳墓群は微高地状に、3基が東西方向にほぼ並列し構築されていた。3基以上の広がり確認出来ていない。

1号墓は、東端に位置する径6m程を測る円形の墳墓で、主体部は検出されず、周溝のみが検出されている。確認された周溝は、全長で13m程で、南側は検出されなかった。西側に周溝を切る長さ約3m・深さ15cm程の溝状遺構が重複していた。溝状遺構は半円で、墳墓より新しいということ以外は、判然としない。周溝は、幅狭部分で35cm、幅広部分で70cm程を測るが、深さは5~8cmでしかない。不定形遺構同様、全面が後世の洪水によって削平されていた。おそらく主体部も、後世の洪水によって削平されたと推定される。

2号墓は、3基の墳墓の中央に位置し、唯一主体部が残存していた。1号墓同様、径約5m程を測る円形の墳墓である。周溝が検出されたのは、約6m程で、全体のおよそ3分の1程度と考えられる。周溝は、幅狭部分で35cm、幅広部分で55cm程を測り、深さは20cmと、他の墳墓に比較し残存状況は良好である。そのため、唯一主体部が残存していたと推定される。

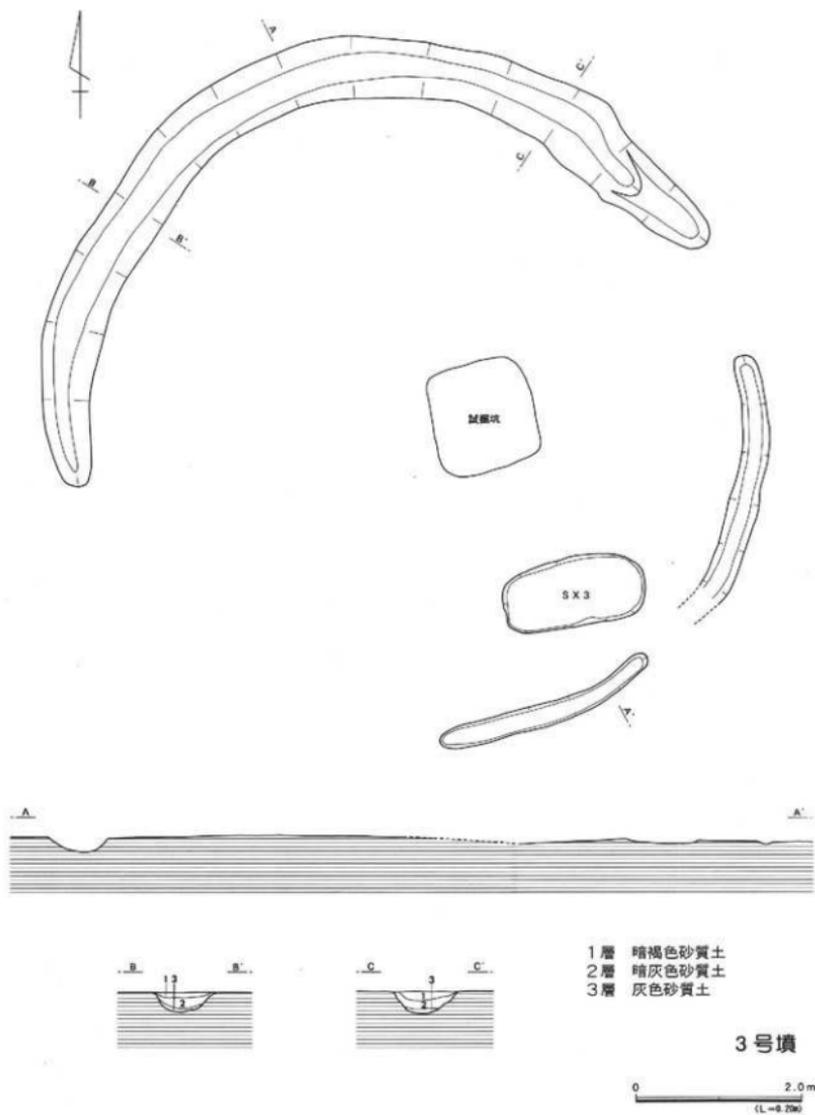
主体部は、長辺250cm・短辺115cmの隅丸長方形で、主軸はほぼ東西軸である。棺は粘土で造られており、西側が尖り、東側が方形のいわゆる舟形粘土棺(郭)であった。副葬品は、出土していないが、東南隅に45×25cm程のベンガラが残存していた。また、主体部を解体し、含土を洗浄したことによって、



1層 暗褐色砂質土
2層 暗灰色砂質土

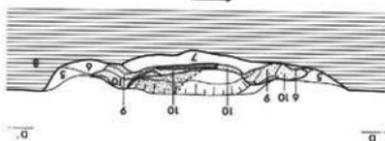
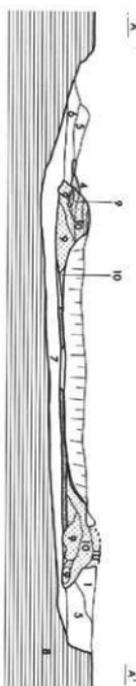
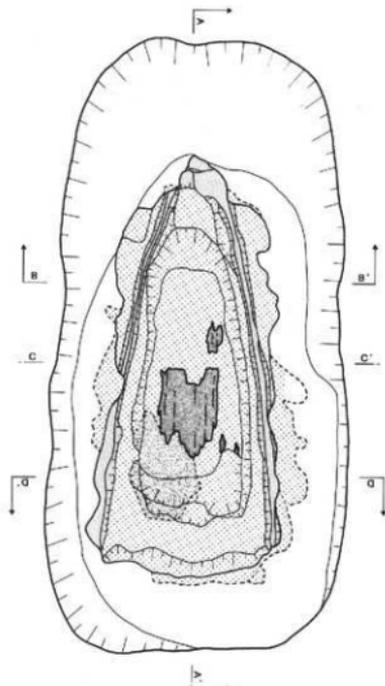
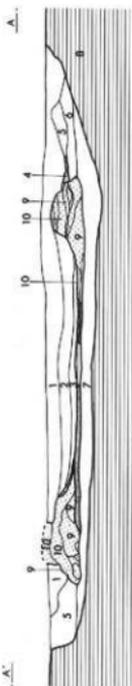
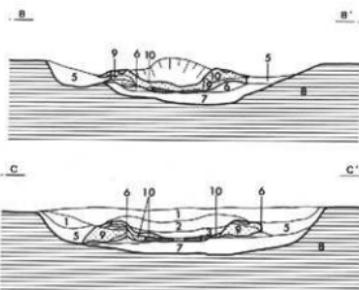
0 2.0m
(L=0.20m)

第151图 1号墳・2号墳・SX 6 实测图



第152図 3号墳実測図

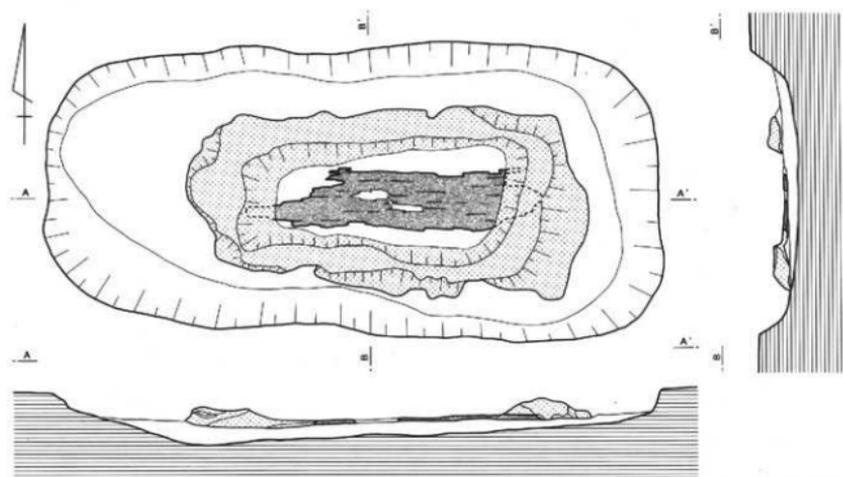
- 1層 茶褐色砂層
- 2層 暗灰色砂層
- 3層 暗灰色粘質層
- 4層 黄褐色土(粘質土)(木棺置のあたり面)
- 5層 暗灰色土(主体部裏ゴメ土)
- 6層 粘土混じり暗灰色土(主体部裏ゴメ土)
- 7層 黒色砂層
- 8層 基本層C A層
- 9層 灰白色粘土(第一次被覆粘土)
- 10層 灰黒色粘土(第二次被覆粘土)



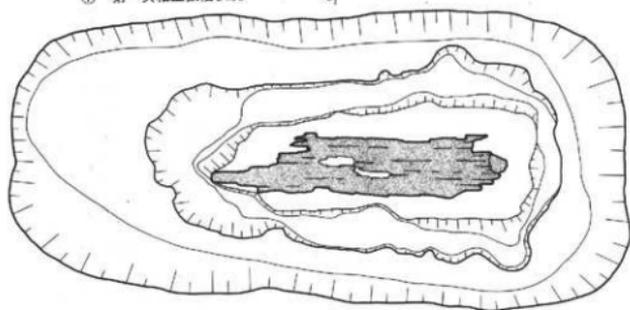
- 木棺
- 土
- 木棺置のあたり

0 1.0m
(L = 0.10m)

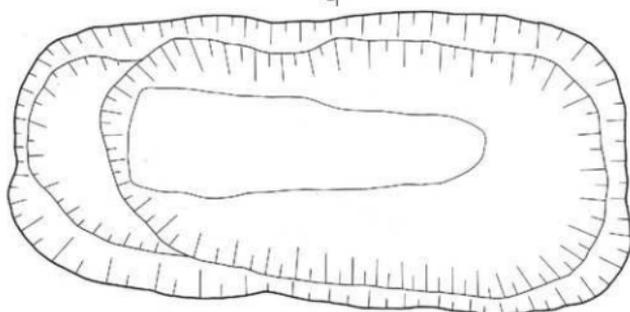
第153図 2号墳主体部実測図



① 第一次粘土被覆状况



② 粘土除去・木棺検出状况



③ 墓坑完備状况

0 1.0m
(L = 0.10m)

第154图 2号墳主体部解体状况图

歯牙片が8片出土した。歯牙については、浜松医大の鈴木修教授に鑑定をいただいた。調査対象とした歯牙8片は、いずれも歯冠部もしくは歯頸部の一部で、成人のものより小さく、乳歯と考えらるという結果をいただいた。さらに、歯頸部の断面が比較的良好に保たれた個体も存在し、乳幼児の可能性が高いという鑑定もあわせていただいた。これによって、埋葬された人物が子供であったことが確定された。

153図が、主体部実測図である。地表面から約20cm程下が其基盤層で、粘土の範囲は、長さ約180cm・幅約80cm・深さ約15cm程と、極めて小型である。粘土には、木の棺を被せた痕跡と推定されるアタリが明瞭に残存しており、西側が尖る船形であると判明した。東側方形になる部分にアタリは確認されなかったため、ここが開いていたかどうか、大きな問題点となるが、残存状況等から判断して、開口していた可能性が高い。ベンガラ朱が、東側に残存していることから、頭部は東向きであったと推定される。

154図が、主体部の解体状況図である。①が第一次粘土被覆状況、②が粘土除去・木棺検出状況、③が完掘状況である。この主体部の解体作業によって、構築順序が把握できた。主体部の構築状況は次ぎの通りである。①棺を取めるための穴（長さ250cm・幅120cm程）を掘る。②掘った穴の上に砂（周辺域から運んだのかは定かではないが、黒色の砂で、主体部周辺に広がる砂とは明らかに異なっていた）を敷き詰める。③長方形の板（長さ120cm・幅25cm程）を敷く。④粘土で板（厚さ3～5cm程度）を覆い尽くす。⑤棺の回りを舟形（約20cm程）に盛り上げる。⑥板の蓋をする。⑦上から砂で覆いマウンドを造る。という順序になる。

当初、主体部が極めて小型であった理由が判然としなかったが、歯牙により乳幼児が埋葬されていたことが確実となり、そのため小型であったと考えられる。

3号墓は、最も西側に位置する径約8m強を測る墳墓である。1号墓と同様で、主体部は検出されず、周溝のみが検出されている。確認された周溝は、全長で17m程で、南西側は検出されなかった。また、2ヶ所で途切れているが、これは本来の姿ではなく、残存状況による途切れと考えられる。周溝は、幅狭部分で25cm、幅広部分で70cm程を測るが、深さは30cm程と、他2基より深い状況である。主体部は検出されていないが、試掘溝にわずかにSX3同様の痕跡が確認されたため、本来試掘溝周辺に残っていたと推定される。1・2号墓と比較し、周溝がきれいに円形を呈している。3基の位置関係から判断して、極めて秩序だった構築と見られ、血縁関係で結ばれた一族の墳墓として考えたい。

なお、2号墓の主体部は、海拔0mで検出された船形ということで、極めて珍しい類例である。そのため、何らかの手段で保存が出来ないものかと検討した結果「型取り移築」が最良であるとの結論を得、当財団の保存処理担当者を中心に実施された。

工法は、最初に木製の底板を鉛箔で保護した後、変性ウレタン樹脂を型取り範囲にスプレーガンで吹き付ける。変性ウレタンはゴム状を呈しているため、ポリエステル樹脂、ガラスクロス、角材で補強枠を作り裏打ちする。硬化するのを待って補強枠を外し、遺構表面の土壌が2～3mmの厚さで転写された変性ウレタンを土層剥ぎ取りのように剥く。型は左右・凹凸が逆転しているため、転写面を再度転写し直す。方法は、遺構表面の裏側である転写面にもう一度ポリエステル樹脂を塗布し、展示台兼用の補強枠をアルミアングルで作成し取り付ける。次に、転写面を正位置に戻し、変性ウレタン樹脂を剥く。遺構表面の土壌はポリエステル樹脂に付着したままの状態で遺構が忠実に再現される。

彩色・整形などの修復は必要がなく、最終仕上げとしては土壌を固定するためのイソシアネート系合成樹脂を塗布するだけでよいため、極めて精巧に遺構が再現できる。現在、移築された主体部は、当財団で保管・管理されており、展示等に利用されている。

第9節 古墳時代前期の遺構

調査区内からは多数の柱穴遺構が検出された。柱穴は、上層の調査時に検出されたものと下層の調査時に検出されたものがあり、遺構の立地する地形が主に北東と南西へ傾斜しているため検出レベルに幅がある。

上面の検出面では基盤層の暗灰色砂質粘土層を掘り込んだ状態で検出され、覆土は基盤層より若干粘性の強いというだけのものがほとんどで、切り合い関係も明瞭でないものが多い。

各柱穴の底面標高は、 -0.2m ～ -0.6m とやや幅が大きい。

古墳前期の建物として認定できたのは28棟で、その建物規模は1間×1間が26棟（建物規模不明のものを含む）、1間×2間が2棟である。この他に土坑が7基、井戸が8基、不定形遺構が1基検出された。この不定形遺構は、祭祀遺構と推定できる。

建物の方位は、本来桁行方向を主軸として計測すべきであろうが、後述するようにほぼ正方形に近い建物や、梁間が非常に広い建物があるなど、建物構造が特異なものがあるため桁梁方向に関係なく、建物の最も東側の柱間の方位を計測している。

その結果大きく分けて、N-1～10度-E（Aグループ：9棟）、N-11～20度-E（Bグループ：5棟）、N-25～35度-E（Cグループ：11棟）の3グループに分けられ、この3グループで全建物の90%を占める。

建物の桁・梁の計測は、便宜上建物の長辺を桁間、短辺を梁間として行なっている。

1. 掘立柱建物

3号掘立柱建物（第155図）

柱間は1間×1間で、梁行3.70m、桁行3.80mのほぼ正方形であり、延面積は14.06㎡である。

柱穴の平面形は、P1・2・4は、ほぼ円形であるが、P3は長径60cm・短径50cmの長円形である。底部の標高は、 -0.33 ～ -0.49m である。

南西辺上に柱根を伴う柱穴があるが、この建物の柱穴とするには位置関係が相応しくないため除外した。この他に、柱根・礎板の残存はない。P1から、古式土師器片が出土している。

SH4～6が重複する場所で建てられており、複数回の立て替えがあると考えられるが、柱穴の切り合い関係はなく、前後関係は確認できない。方位がほぼ同じであるため、何らかの企画性をもって建て替えが行なわれていると考えられる。

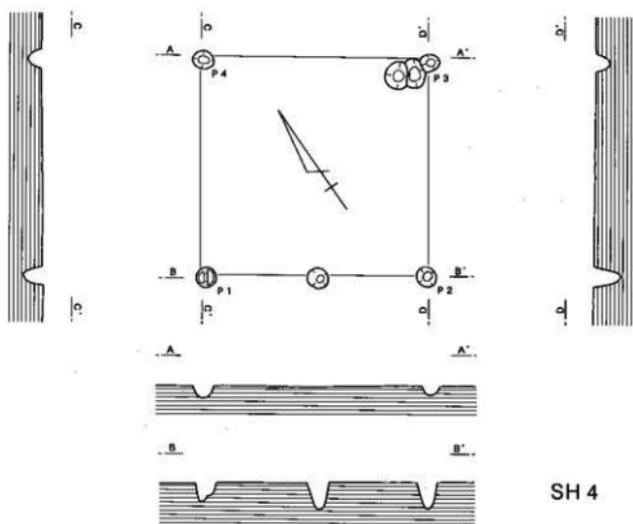
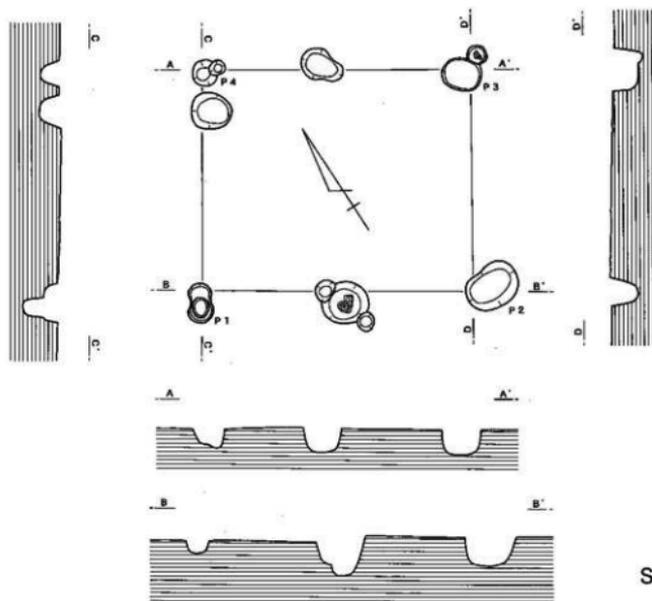
4号掘立柱建物（第155図）

柱間は1間×1間で、梁行3.48m、桁行3.70mであり、延面積は12.88㎡である。P1とP2の間に柱穴が1つあり、1間×2間になる可能性もある。

各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は -0.30 ～ -0.49m である。P1・2・4から、古式土師器片が出土している。

前述したように、SH3・5・6と重複する位置に建てられている。

P3は、SH5のP4と切り合い関係にあるが、SH4のP3の方が新しい時期と考えられるため、SH5が先行する建物と思われる。また、SH4のP2とSH5のP1が、まったく重なっている状態であるが、この柱穴は上層の遺構面と下層の遺構面の両方で検出されており、覆土が分かれていたことが確認できず、別個の柱穴として検出した可能性がある。



第155图 SH 3·SH 4 实测图

5号独立柱建物 (第156図)

柱間は1間×1間で、梁行3.00m、桁行3.32mであり、延面積は9.96㎡である。

各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり底部の標高は-0.21~-0.49mである。柱根・礎板の残存はない。P1から、古式土師器片が出土している。

SH5も前述のように、SH3・4・6と重複する位置で建て替えられている。また、SH4の項で記述したが、P1が両方の建物に共有されている。

6号独立柱建物 (第156図)

梁行1間、桁行2間の建物であり、柱間は梁行3.80m・桁行5.85m、面積は22.23㎡と大型の建物である。南西側の桁行の柱間は2.65m (P1とP2の間)と、3.10m (P2とP3の間)、北東側の桁行の柱間は2.65m (P6とP5の間)と3.15m (P5とP4の間)である。

各柱穴はほぼ円形であるが、P2のみは長径90cm・短径60cmの長円形で、底部標高は-0.5mである。その他の柱穴の底部標高は-0.20~-0.55mとばらつきがある。

P5からは、直径15cm・長さ16cmの柱根と受口縁部の口縁部片が2点出土している。その他にも、P2・3・4・6から、古式土師器片が出土している。

方位は、SH3~7と同じグループである。SH3~5・7と重複する位置で建て替えられていると考えられる。しかし、柱穴相互の切り合い関係はなく、前後関係は確認できなかった。なお、P1は南側小穴と切り合う関係にあるが、P1の方が新しいと認定している。

7号独立柱建物 (第157図)

柱間は1間×1間で、梁行2.20m、桁行4.22mと、桁行が非常に長い建物で、延面積は9.28㎡である。

各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり底部の標高は-0.43~-0.53mである。P1・3・4から柱根が出土しているが、P1の柱根は腐食が著しく取り上げ不能であった。P2の柱根は、長さ約23cm・直径約20cmであり、P3の柱根は、長さ約24cm・直径約20cmである。樹種については、遺物編にて報告する。

P1・2・4から、古式土師器片が出土しているが全て小片である。

SH3~6と方位がほぼ一致しSH6と重複するため、建て替えが行なわれていると考えられるが、この建物についても前後関係は明らかでない。

8号独立柱建物 (第157図)

南西隅の柱穴は、調査区外の排水溝にかかるため検出されなかったため、残った3穴から建物を推定した。柱間は、1間×1間で、梁行2.10m・桁行2.93m、推定面積は6.15㎡である。

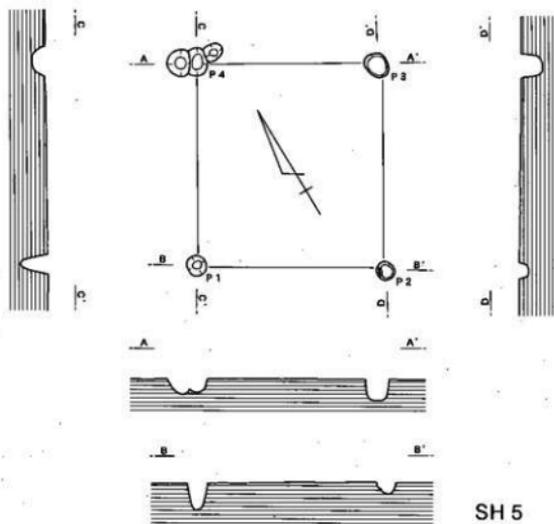
各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり底部の標高は-0.30~-0.45mである。P3は、長径約65cm・短径約60cmの不整形円形であり、柱穴が複合しているか、または柱根の抜き取り痕の可能性があるが特定は困難である。

柱根・礎板の残存はない。P1・3から古式土師器片が出土している。

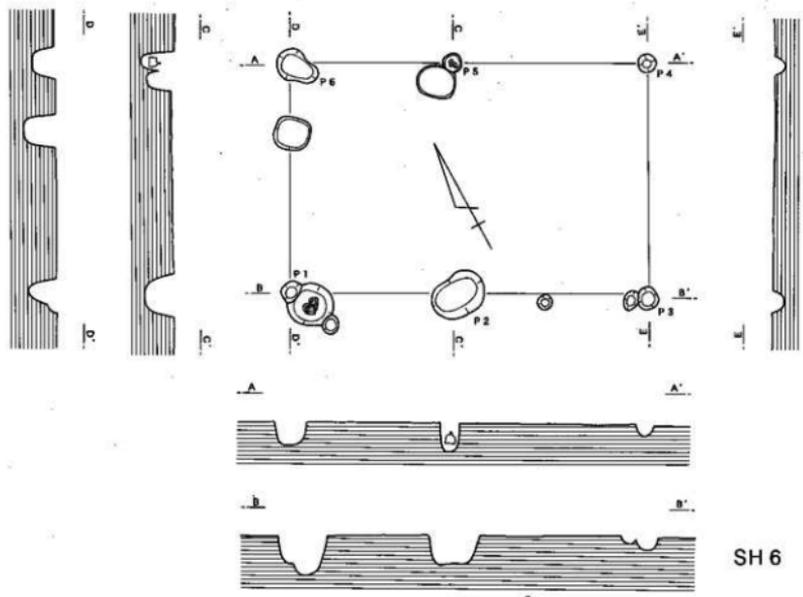
SH9・10・11と複雑に切り合っているため、建て替えが想定できるが、検出状況からは前後関係は確認できなかった。

9号独立柱建物 (第158図)

柱間は1間×1間で、梁行2.20m・桁行2.40m、面積は5.28㎡である。各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.26~-0.57mとややばらつきが大きい。



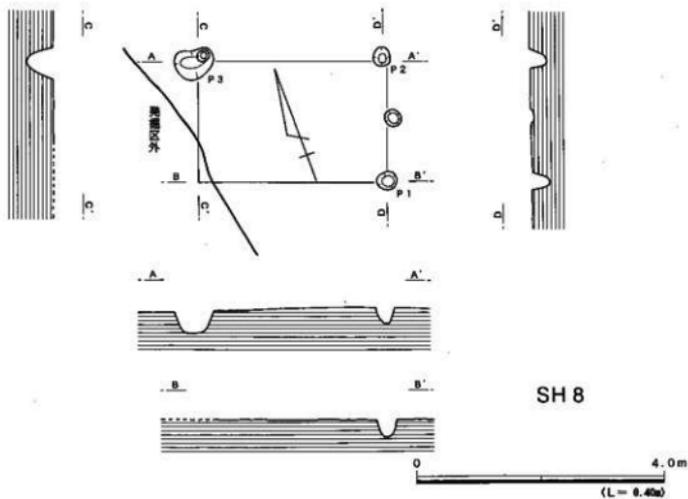
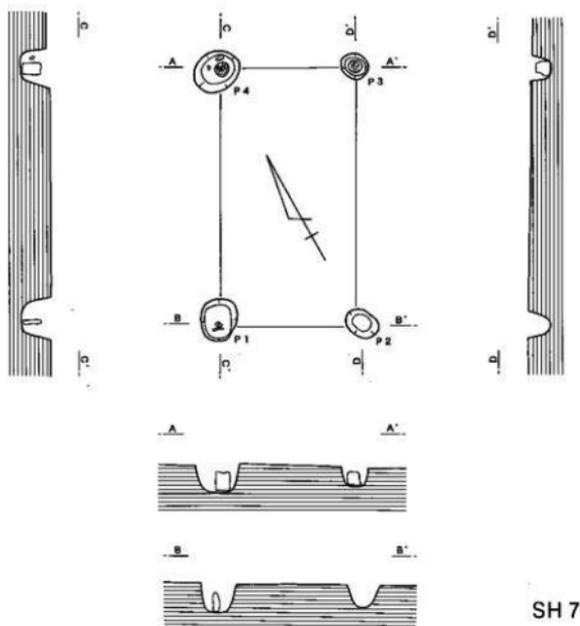
SH 5



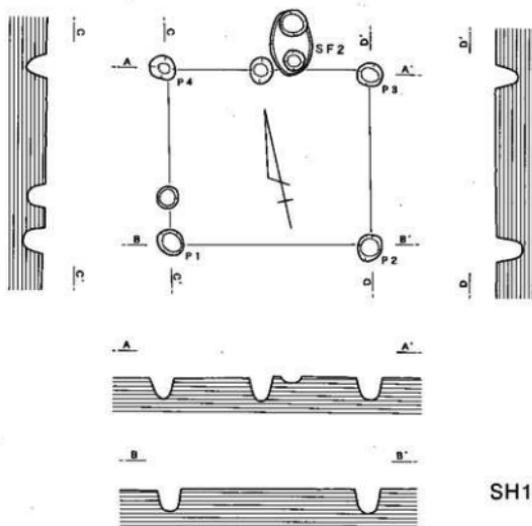
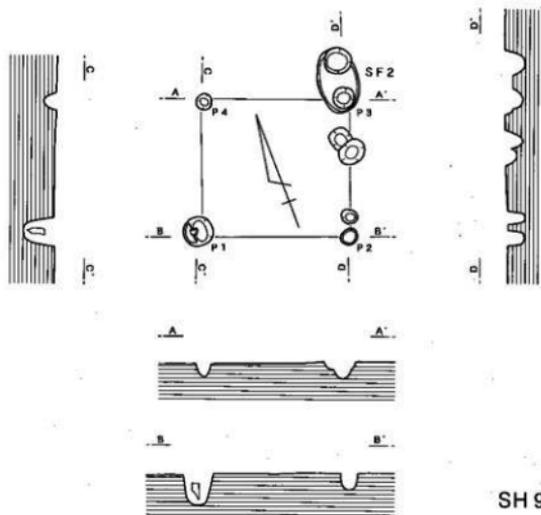
SH 6



第156图 SH 5·SH 6 实测图



第157图 SH 7 · SH 8 实测图



第158图 SH9·SH10实测图

P1から柱根が出土している。この柱根は、長さ29cm・直径11cmである。出土土器は無い。

また、SH8・10・11と複雑に切り合っているため、建て替えが考えられるが、検出状況からは前後関係が確認できなかった。

P3は、SF2と重複しているが、切り合い状況からこの建物が廃絶した後に、SF2が構築されたと推定される。

10号掘立柱建物（第158図）

柱間は1間×1間で、梁行2.80m・桁行3.26m、面積は9.13㎡である。各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.37~-0.45mである。P1から、古墳時代前期に属する小型高杯または器台が出土している。他の柱穴からの遺物の出土はない。

SH8・9・11・12と切り合っているため、建て替えが考えられるが、検出状況からは前後関係が確認できなかった。東側に隣接するSH13・14は、ほぼ方位が一致し、対の建物という可能性もある。

11号掘立柱建物（第159図）

柱間は1間×1間で、梁行1.80m・桁行1.82m、面積は3.28㎡と非常に小さい建物である。住居というより、高床式の倉庫等を想定したほうが良いだろう。

各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.33~-0.41mと近似している。柱根・礎板・土器等の遺物は出土していない。

SH8・9・10と複雑に切り合う位置に建てられている。直接柱穴に切り合い関係があるのは、この建物のP4とSH10のP4であるが、覆土の差異がないため前後関係は確認できなかった。

12号掘立柱建物（第159図）

柱間は1間×1間で、梁行1.60m・桁行2.54m、面積は4.06㎡である。この建物も梁行が1.60mと非常に狭く、面積も小さいため、高床式倉庫等を想定したほうが良いだろう。

P3とP2の南東に位置するP5・6が、この建物に伴う可能性もあるが、やや位置にずれがある。各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.25~-0.31mである。

柱根・礎板・土器等の遺物は出土していない。

SH10・13・14と複雑に切り合い関係があり、この一角で何度も建て替えが実施されている。しかし、柱穴の直接の切り合い関係はなく、前後関係は確認できなかった。

13号掘立柱建物（第160図）

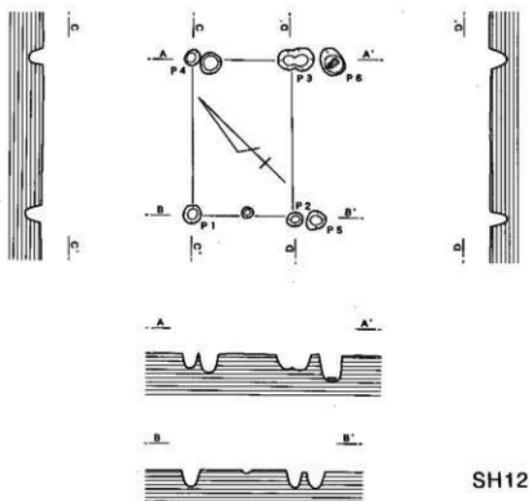
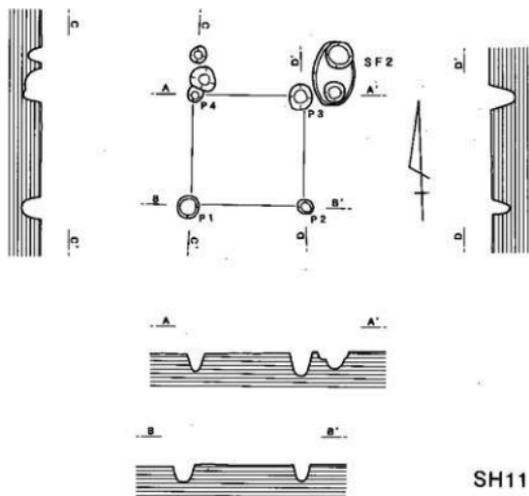
柱間は1間×1間で、梁行1.42m・桁行2.45m、面積は3.48㎡である。南側の柱穴1穴は、1号墳の周溝が掘られているため、未検出であるが、残された柱穴から建物を推定した。この建物も梁行が1.42mと非常に狭く面積も小さいため、建物として認定されるならば高床式の倉庫等の用途が想定される。

各柱穴の平面形は、いずれもほぼ円形であり、底部の標高は-0.25~-0.41mである。

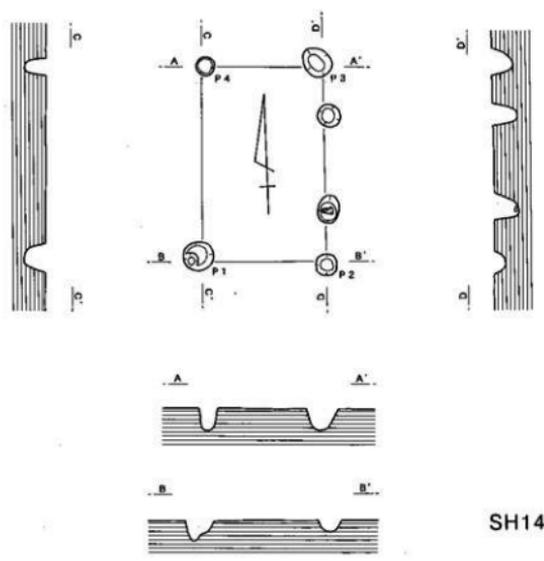
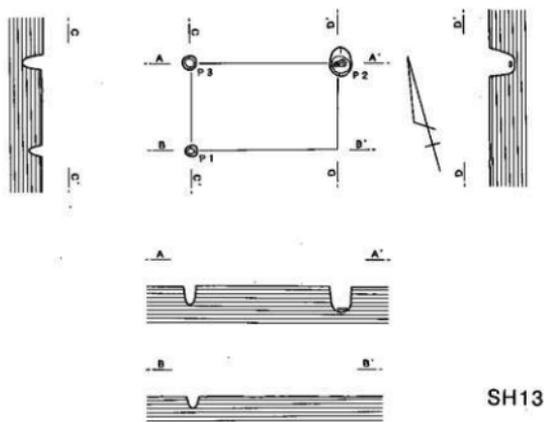
P2から礎板が出土している。この礎板は、長さ19cm・幅10cm・厚さ2cmの板状を呈している。その他の柱穴からの柱根・土器等の遺物の出土はない。

SH12・14と重なる位置に建てられており、この一角で何度も建て替えがされている。しかし、柱穴の直接の切り合い関係はなく、前後関係は確認できなかった。

西側に隣接するSH10の項でも述べたが、SH13と方位が類似するので、SH10と対になる可能性も考慮する必要がある。



第159图 SH11 · SH12 实测图



第160図 SH13・SH14 実測図

14号独立柱建物 (第160図)

柱間は1間×1間で、梁行2.25m・桁行3.10m、面積は6.98㎡である。各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.21~-0.37mである。柱根・礎板の残存はないが、P1から古式土師器片が出土している。

前述のように、SH12・13と重なる位置に建てられているが、前後関係は確認できなかった。また、SH10と方位が類似するので、対になる可能性も考えられる。

15号独立柱建物 (第161図)

北西隅の柱穴は、3号墳の周溝があり未検出であるが、残された柱穴をもって建物を推定した。

柱間は1間×1間で、梁行1.80m・桁行3.40m、面積は6.12㎡である。各柱穴の平面形は、P1がほぼ円形、P2・3が長円形である。底部の標高は-0.49~-0.57mである。

P1からは、柱根と古式土師器片が出土している。柱根は、長さ31cm・直径17cmである。下面は、水平に切断されており、礎板は伴わない。

元島遺跡では、基盤層が砂地であるため、方形周溝墓の周溝上などの軟弱地盤の上に柱穴が位置しなければ、礎板を設置しなくても建築が可能であったと考えられる。

16号独立柱建物 (第161図)

柱間は1間×1間で、梁行2.74m・桁行2.90mのほぼ正方形であり、面積は7.95㎡である。

各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.32~-0.48mである。P2・4から古式土師器片が出土している。柱根・礎板の出土はない。

P3と、SH18のP4が切り合い関係にあるが、覆土の切り合いは確認されず、時期差は認定できなかった。SH17・SH18と重複する位置にあり、時期差をもって建て替えがなされているが、前後関係は不明である。

元島遺跡の立地する微高地の西側の縁辺部に位置し、これより西南側は低地に向かい傾斜しており、柱穴などは、ほとんど検出されていない。

17号独立柱建物 (第162図)

柱間は1間×1間で、梁行2.25m・桁行3.28m、面積は7.38㎡である。

各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.30~-0.56mである。柱穴からの柱根・礎板等の遺物の出土はない。

SH18と接続し、1間×2間の建物となる可能性もあるが、柱通りが若干異なるため現状では別建物と判断した。

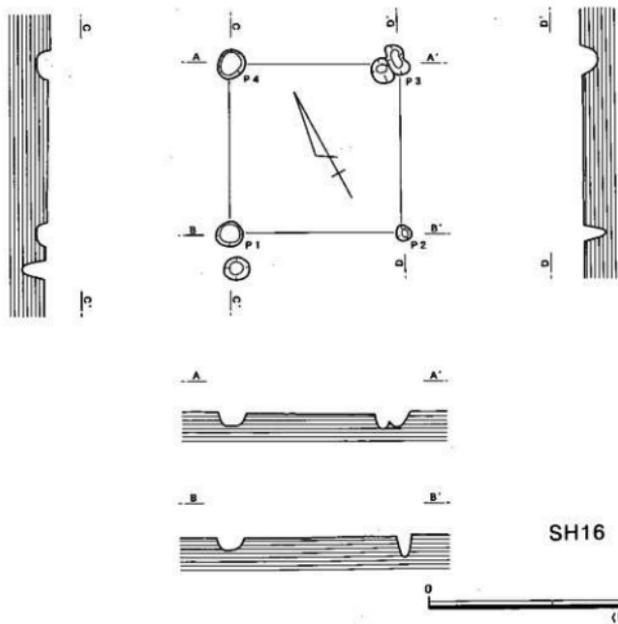
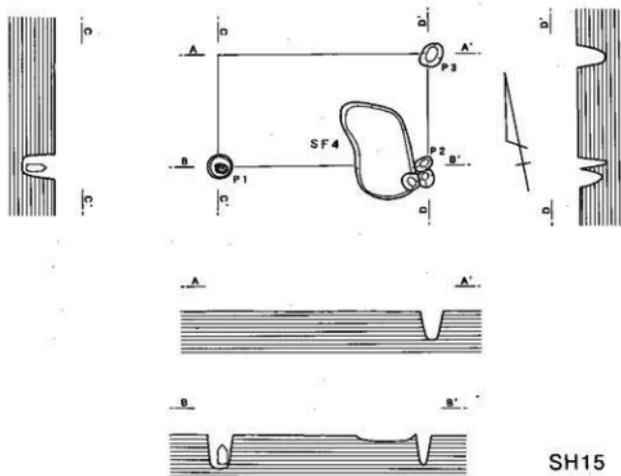
P2と、SH18のP1との切り合い関係から、SH18に先行する建物と考えられる。前述のように、SH16と重複するが、前後関係は確認できなかった。

18号独立柱建物 (第162図)

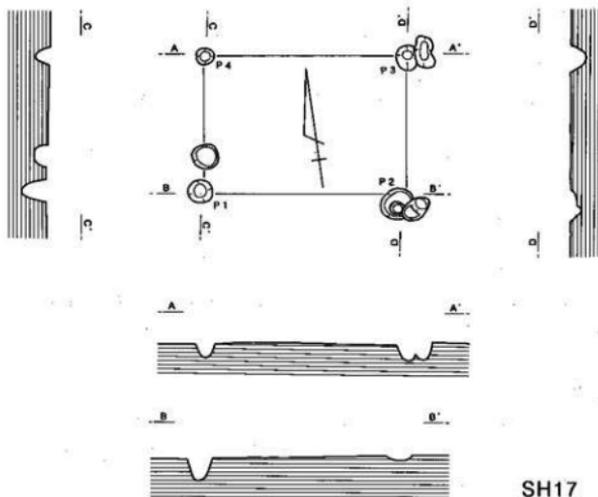
柱間は1間×1間で、梁行2.40m・桁行2.62m、面積は6.29㎡である。

各柱穴の平面形はP2はほぼ円形、P1とP3は楕円形である。底部の標高は-0.30~-0.44mである。P1・2から古式土師器片が出土している。柱根・礎板の出土はない。

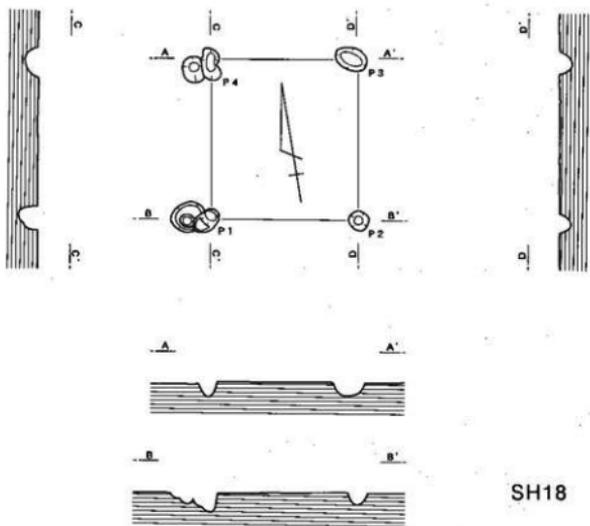
SH17と接続し、同一建物となる可能性もあるが、別建物と認識した。



第161圖 SH15・SH16 実測図



SH17



SH18



第162图 SH17·SH18 实测图

19号孤立柱建物（第163図）

柱間は1間×1間で、梁行2.28m・桁行2.65m、面積は6.04㎡である。

柱穴の平面形は、P1～3がほぼ円形であり、P4のみ長円形である。底部の標高は-0.24～-0.37mである。P3は、2号墳の主体部を全て除去した後に検出された柱穴であり、この建物が2号墳に先行することが明らかである。

P1・3・4から古式土師器片が出土しているが、1点以外小片である。柱根・礎板の出土はない。

20号孤立柱建物（第163図）

柱間は1間×1間で、梁行2.75m・桁行3.10m、面積は8.53㎡である。P2に薄板の礎板が残存していた。また、P1・2から古式土師器片が出土している。

各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.25～-0.36mである。北側に隣接するSH1と方位が類似しているが、時期差があると推定した。

21号孤立柱建物（第164図）

柱間は1間×1間で、梁行2.46m・桁行2.52mのほぼ正方形であり、面積は6.20㎡である。南東隅の柱穴は、近代の擾乱（井戸）で破壊されているため検出できず、残された3穴から建物を推定した。

各柱穴の平面形はほぼ円形であり、底部の標高は-0.28～-0.47mである。P2から、古式土師器片が出土している。柱根・礎板の検出はない。

柱穴は、SH22との間で二組の切り合い関係がある。P1とSH22のP1、P4とSH22のP4であるが、覆土の分別は困難で前後関係を明らかにすることは不可能である。

同じ位置で、ほぼ同じ規模の建て替えを実施したか、もしくは主柱の外側に副柱が付くような構造の建物を想定すべきかもしれない。

また、SH23が方位や建物規模が異なるが、重複する位置に建てられている。これとの前後関係についても、遺構の切り合い関係がなく、明らかにできなかった。

22号孤立柱建物（第164図）

柱間は1間×1間で、梁行2.78m・桁行2.88mのほぼ正方形であり、面積は8.01㎡である。

東北隅の柱穴は、近代の擾乱（井戸）で破壊されているため、SH21と同様に検出された3穴から建物を推定した。SH21の項で述べたように、ほぼ同位置で重複する建物である。

各柱穴の平面形はほぼ円形であり、底部の標高は-0.27～-0.48mである。P3から、古式土師器片が出土している。柱根・礎板の検出はない。

SH21・23との切り合い関係については、先に述べた通りである。

23号孤立柱建物（第165図）

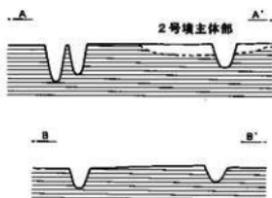
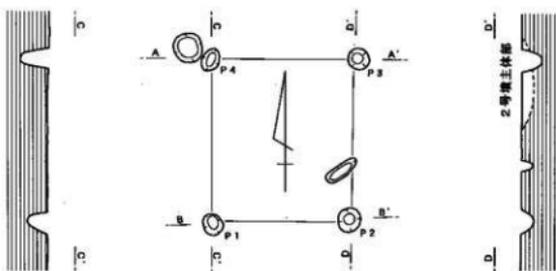
柱間は1間×1間で、梁行1.62m・桁行3.45mの長方形で、面積は5.59㎡である。

桁行が非常に長く、また梁行が桁行に比べて非常に狭いため、住居として機能するか疑問であり、倉庫などの他の機能を想定すべきであろう。

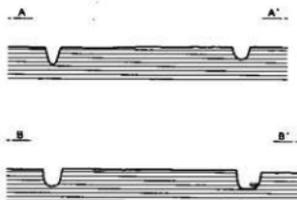
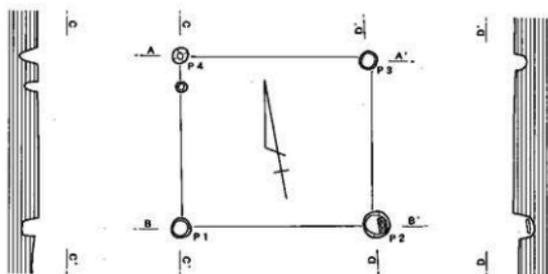
各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.25～-0.39mである。

P1から古式土師器片が出土している。柱根・礎板の出土はない。

前述のように、SH21・22と重複する位置に建てられているが、前後関係は明らかではない。また、SH24とも同様に重複関係にあるが、これとも遺構の切り合い関係はなく、前後関係は判然としな



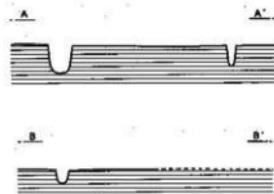
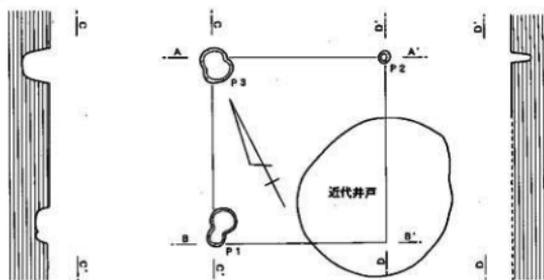
SH19



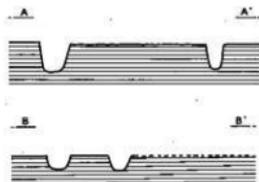
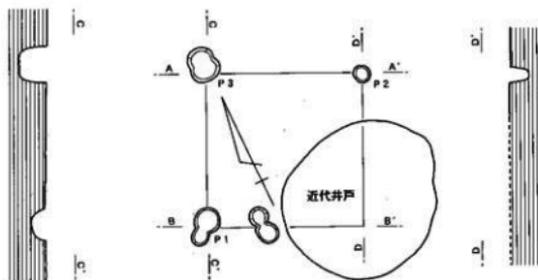
SH20



第163图 SH19・SH20 实测图



SH21



SH22



第164図 SH21・SH22 実測図

24号独立柱建物（第165図）

柱間は1間×1間で、梁行1.84m・桁行2.60mで、面積は4.78㎡である。

この建物も面積が非常に小さく、住居とするより倉庫と考えるべきであろう。

各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.22~-0.31mである。P1・2から古式土師器片が出土している。柱根・礎板の出土はない。

SH23と重複する位置に建てられているが、前述の通り前後関係は明らかでない。

25号独立柱建物（第166図）

柱間は1間×1間で、梁行2.90m・桁行3.47mで、面積は10.06㎡である。各柱穴の平面形はP4を除きほぼ円形であり、底部の標高は-0.14~-0.35mとややばらつきがある。

P4は、長径90cm・短径75cmの浅い窪み状であり、柱穴ではない可能性もあるが、位置関係から柱穴と判断した。

P2から、古式土師器片が出土している。

SH26と重複する位置に建てられており、時期差が推定されるが、遺構の切り合いはなく前後関係は明らかではない。

26号独立柱建物（第166図）

柱間は1間×1間で、梁行1.78m・桁行3.54mで、面積は6.30㎡である。

梁行が狭いため居住建物とするには疑問があり、倉庫等の用途を考えるべきであろう。各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.22~-0.56mである。P2は、SH27のP2と共有している点など、建物としての認定に疑問もあるが、建物の可能性としてあえて報告することとした。

P2・3から、古式土師器片が出土している。柱根・礎板の出土はない。

SH25と重複する位置に建てられているが、前述の通り遺構の切り合い関係はなく、前後関係は明らかでない。

27号独立柱建物（第167図）

調査区域南端にかかっているため、南東隅の柱穴は検出できず、検出された3穴の柱穴から建物を推定した。さらに南に建物が続くか否かは不明である。

検出できたのは1間×1間で、梁行2.45m・桁行3.10mの長方形で、面積は7.60㎡である。また、前述のようにP2は、SH26の柱穴と共有している。

この建物も、SH17や21と同様に、この集落が立地する砂堤状の微高地の南西側縁辺に位置し、さらに南側に集落域が広がっているかは不明である。5区では建物は一切検出されず、傾斜面に土器群が広がっているのが確認されたにとどまるため、5区まで集落は広がらない事は確実である。

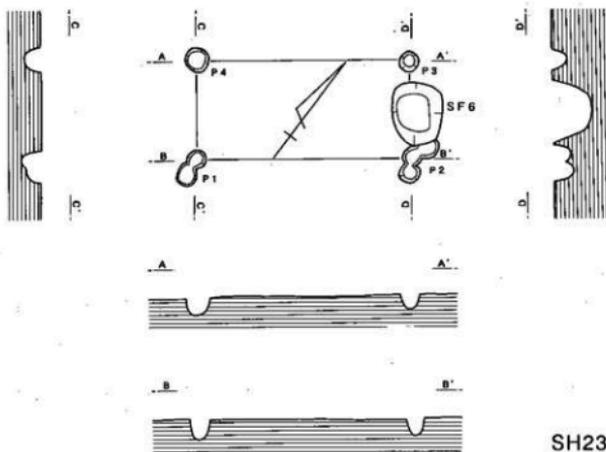
各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.30~-0.33mとほぼ一致している。

P1・2から、古式土師器片が出土している。柱根・礎板の検出はない。

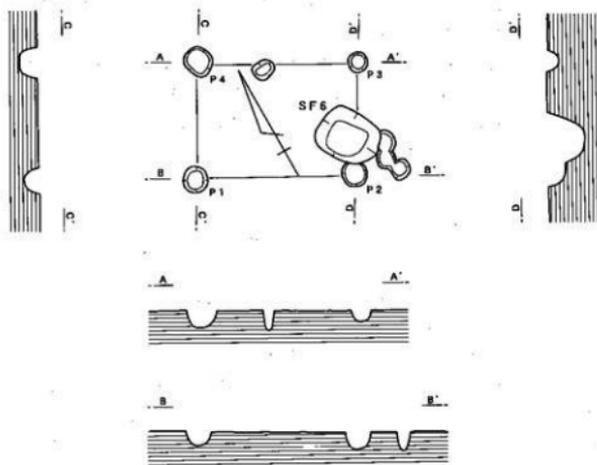
28号独立柱建物（第167図）

柱間は1間×1間で、梁行2.70m・桁行4.24mで、面積は11.45㎡である。

各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.16~-0.28mである。桁行が長大なために、中間に柱の存在が想定されたが、現地では検出することができなかった。従って、建物認定に疑問が残るが、可能性として報告することとする。



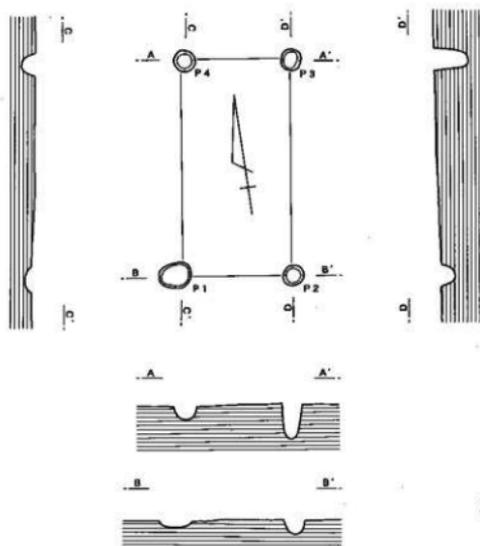
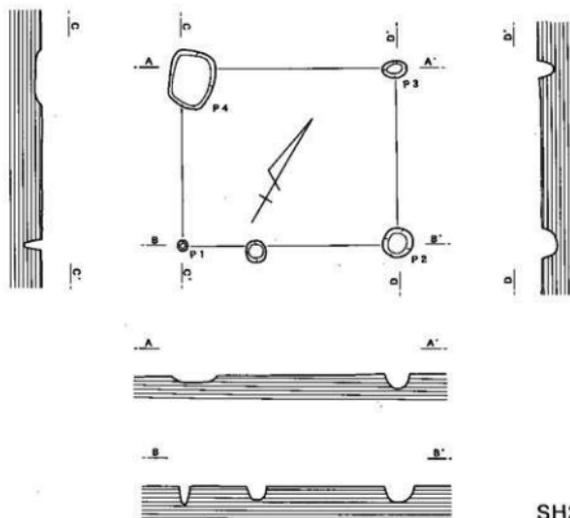
SH23



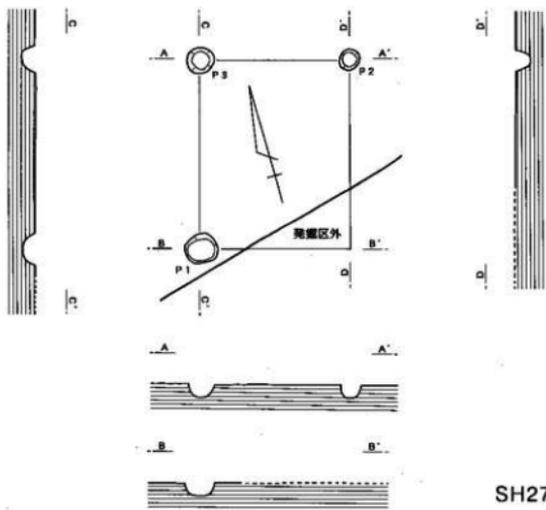
SH24



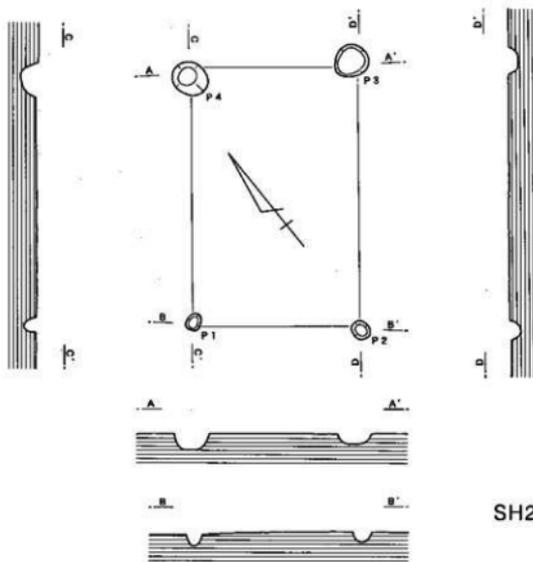
第165图 SH23·SH24 实测图



第166图 SH25・SH26 实测图



SH27



SH28



第167图 SH27·SH28 实测图

すべての柱穴から、古式土師器片が出土しているが、全て小片である。柱根・礎板の検出はない。北西に近接して、8号井戸（SE8）があり、配置に関連性が考えられるが、近接し過ぎているので時期差があることも想定できる。しかし、遺物から両者の時期差を証明できる材料はなかった。

29号掘立柱建物（第168図）

発掘区域南端に位置するため、3穴の柱穴しか検出できておらず、建物は推定である。

検出した現状での柱間は1間×1間分で、3.90mと1.60mで、梁・桁の方向は不明である。3.90mという柱間を考えると、この2柱穴間を梁行としたほうが適切であろう。現状では、6.24m以上の面積ということになる。

P2・3から、礎板が出土している。P2の礎板は、長さ32cm・幅12cm・厚さ2cmの板材をほぼ水平に設置している。P3の礎板は、長さ37cm・幅22cmの板材と、長さ16cm・幅13cmの板材を並べて設置している。P3の礎板は、いずれも丁寧に加工されており転用材である。柱の荷重のためか、2枚の礎板の中央で陥没した状態で検出されている。

柱穴の平面形は、P1は円形、P2・3は、礎板の設置のためか不整形に掘削されている。礎板は残存しているが、柱根が残存していない。抜き取られた可能性も考えられるが、抜き取り痕は検出できなかった。各柱穴の底部の標高は-0.20~-0.46mである。

土器は、P2から古式土師器片が出土している。

SH30と重複する位置に建てられているが、柱穴に直接の切り合いはなく、前後関係については明らかにできなかった。

30号掘立柱建物（第168図）

SH29と同じく、発掘区域南端にかかっているため、柱穴は3穴しか検出できておらず、建物は推定である。検出した現状での柱間は1間×1間分で、2.50mと2.90mで、梁・桁の方向は不明である。現状では、7.25m以上の面積ということになる。

各柱穴の平面形は、ほぼ円形であり、底部の標高は-0.23~-0.47mである。

P1・3から古式土師器片が出土している。前述したように、SH29との前後関係については明らかにできなかった。

2. 井戸状遺構

1号井戸（第169図）

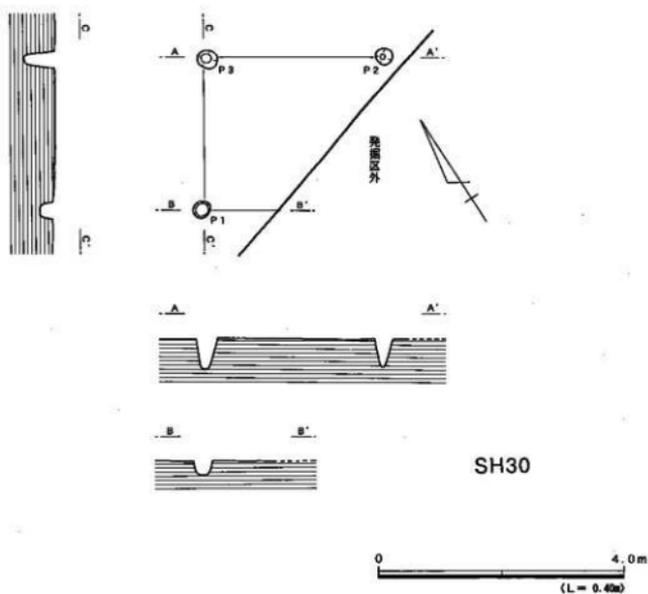
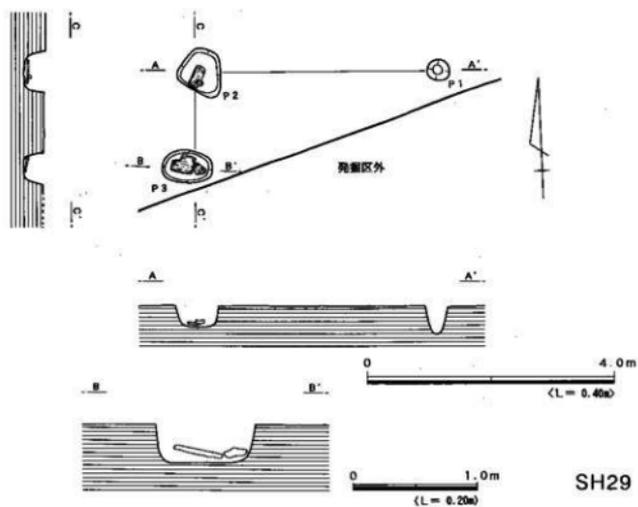
長径約0.95m・短径約0.85m、検出面からの深さは約0.50mの隅丸長方形の井戸である。井戸内の底部標高は、約-0.70mである。

掘り方とほぼ同形の隅丸方形の井戸材が南側に3枚残存していた。

東側(W3)と西側(W2)の井戸材は、東西からの土圧のためか内側に倒れかかった状態で出土している。出土した3枚の井戸材の内、南側(W1)と東側の2枚は同一材を切断した可能性が非常に高い。

W1の板材が最も大きく、長さ約61.5cm・幅約83.0cm・厚さ4.4cm程である。大木を隅丸方形に削り貫くような加工を行い使用しているが、中央に方形の穴とそれを囲むようなU字形の凹部があり、明らかに転用材である。形状から丸木船の転用も想定できるが、舟底にあたる部分に罅穴が開く事例が無いため、船を想定することは困難かもしれない。

W2は、長さ約21.9cm・幅約33.1cm・厚さ3.8cm程の大きさで、W1と同様の削り貫き材である。底部に焦痕が残り、片側部分に切断痕が確認できる。転用材と推定され、船材の転用の可能性もある。



第168图 SH29 · SH30 实测图

W3は、長さ約23.4cm・幅約13.3cm・厚さ2.3cm程の転用材で、長さ3cm・幅1.5cm程の平行する二つの穴が開けられている。何らかの建築部材と考えられる。

一木を削り貫く加工を施した井戸材は、SE6・8でも確認されている。

北側については、井戸材が全く残存しておらず、この井戸を廃絶する時に引き抜いたことも想定される。覆土は、黒色砂で埋没状況を示す堆積土層は見られない。井戸材を引き抜いた痕跡も確認されていない。掘り方や井戸内部から古式土師器片が多数出土しており、古墳時代前期の井戸と認められる。従って、掘立柱建物群に伴う時期の井戸ということになる。

2号井戸（第169図）

長径約1.10m、検出面からの深さは約0.35m、底部標高は、約-0.40mの円形井戸である。井戸枠材と推定される厚さ2～3cm、長さ15cm程の木片が二ヶ所で残存していたが、腐蝕が著しい。

井戸底部からの湧水が激しく、基盤層が砂層のため掘り方の確認は出来なかった。井戸枠材の部分は長径約0.65m・短径約0.50mの楕円形であるが、腐蝕のため原位置を保っているかは不明である。

覆土は、黒色砂で分層は不可能であった。掘り方や井戸内部から、古式土師器片が多数出土しており、古墳時代前期の井戸と考えられる。

3号井戸（第170図）

長辺約1.90m、短辺約1.63m、底部標高は、約-0.70mの板材組合せ井戸である。方形周溝墓群の調査終了後の最下層の確認調査時に発見された上に、湧水が激しかったため掘り方は検出できていない。

この井戸は、37点の部材を利用して井戸枠を井桁状に組合せている。中でも、大型の部材は準構造船の再利用であった。準構造船を再利用した部材が3点、丸木船を利用した部材が1点存在し、少なくとも2隻の舟材を井戸枠材として転用していたことが判明している。

井戸枠は、舟材を再利用した大型材を四辺に配置し、杭によって内倒を防ぎ、周囲に多くの部材を配していると推定されるが、実際に検出できた杭は1本に過ぎない。腐蝕してしまったのか、引き抜かれたのか、当初から存在しなかったのかは判然としない。舟材を含めた木製品の詳細については、遺物層にて報告することとする。

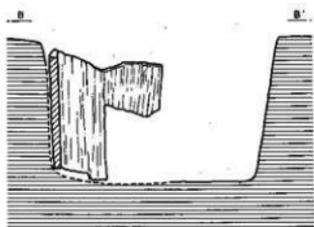
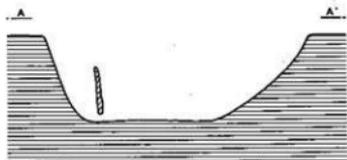
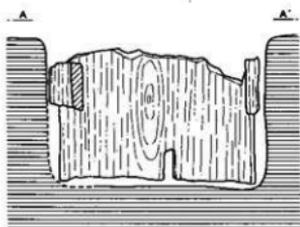
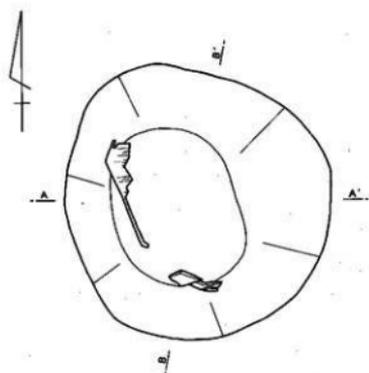
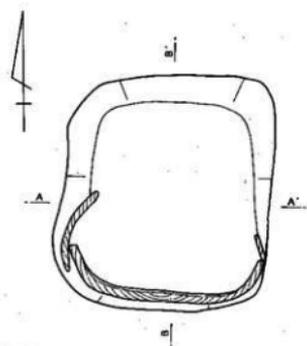
覆土は、暗灰色砂で分層は不可能であった。他の井戸同様、均一な堆積で埋没過程を示す堆積状況はない。上層の調査時も井戸状遺構として認識できなかった程、基盤の砂層との区別が困難であり、掘り込み面がいずれの層に属すのかも不明である。

時期は、古式土師器片が掘り方や井戸内部から多数出土しており、掘立柱建物と同時期のものと考えられる。古墳時代前期の井戸ということになると、覆土と基盤層である砂層との間に相違がないのは、井戸内に地下水と共に噴出する砂が厚く堆積していき、浸透が不可能な程堆積が進んだ時に、放棄されたと推定できる。井戸枠材が城されていることも、この想定を傍証する。

4号井戸（第170図）

長径約0.96m、短径約0.69m、底部標高は、約-0.50mの板材組合せ井戸である。掘り方は、ほぼ円形であるが、最下層の確認調査中にSE3と同様の状況で検出された。湧水が激しかったために、正確な検出をすることは出来なかった。

4枚の板材を方形に組み井戸枠としている。北東側と南西側を長辺とし、南東側と北西側をその両端から、内側に入れて梯子状に組合せている。また、この板材の内側に杭を6本打ち込み内倒を防ぐ構造は、SE3と同様であるが、SE4の方が残存状態が良好である。

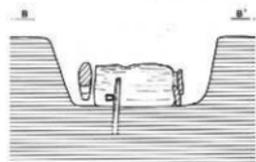
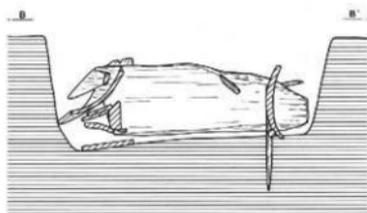
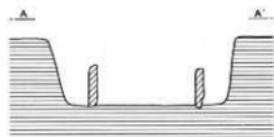
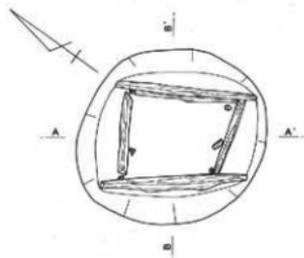
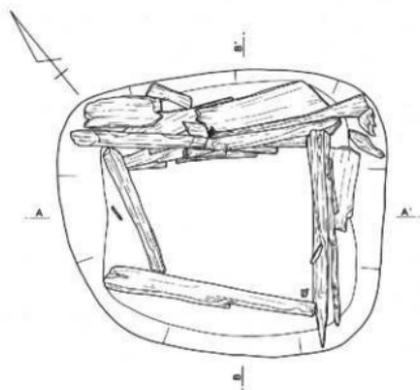


SE 1

SE 2



第169图 SE 1・SE 2 实测图



SE 3

SE 4



第170图 SE 3·SE 4 实测图

南西側長辺のW1は、掘立柱建物の鼠返し部の材を転用している。鼠返し板は半裁されているが、長さ93.4cm・幅27.7cm・厚さ8.7cm程で、中央部に柱が貫通する約16cm程の方形の穴がある。南東側W2と北西側W3の2枚の板は、同一板材を半裁して使用しており、臍穴等の位置や形状から建築部材の転用と思われる。同様にW4についても、建築部材の転用と考えられる。また、井戸内で検出された7点の部材の中に、農具と考えられる木製品が1点確認されている。

時期は、井戸内部から出土した古式土師器片等から、掘立柱建物群に伴う時期のものと推定される。SE3と隣接するが、時期差や前後関係は不明である。

5号井戸（第171図）

直径約1.80m、検出面からの深さ約0.90m、底部標高は、約-0.95mの不整形の井戸である。

1号墳の周溝と重なる状態で検出され、土器類も含まれていた。周溝の覆土が、井戸の覆土と非常に近似しているため分別が難しく、周溝内からの出土か、井戸内からの出土遺物なのかは判然としにくい。

出土遺物は、古墳時代前期のものが大半で、周溝内の遺物というより、井戸に伴う遺物とした方が自然であろう。しかし、古墳築造時に地山中に含まれる土器が混入したという可能性も若干考慮に入れる必要もある。

上層検出時には、浅い土坑と考えていたが、下層検出の際井戸枳材が検出され、井戸であることが判明した。3枚の板材を縦に差し込んでいるが、その他の構造は不明である。この井戸を廃棄する際に、他の井戸枳材は引き抜かれた可能性も考えられる。また、井戸覆土内標高-0.3~0.4m付近に、集中して投棄されたような状況で土器・石・木片が出土している。これらは、井戸を構成する部材ではないことから、この井戸が廃絶する時点の井戸底面に堆積した遺物の可能性もある。

井戸枳材に使用されていた3枚の部材のうち、明らかに2点は建築部材の転用材であるが、1点臍穴を持つ広葉樹林が含まれており、これについては用途が不明である。

覆土は、黒色砂のみで分層は不可能なため、埋没状況は明らかではない。また、湧水が激しく掘り方の確認はできなかった。井戸内にS字状結節縄文を持つ在地系の壺があり、古墳時代前期の井戸と考えられる。

6号井戸（第171図）

直径約1.70m、検出面からの深さ約0.65m、底部標高は、約-0.70mの円形の井戸である。

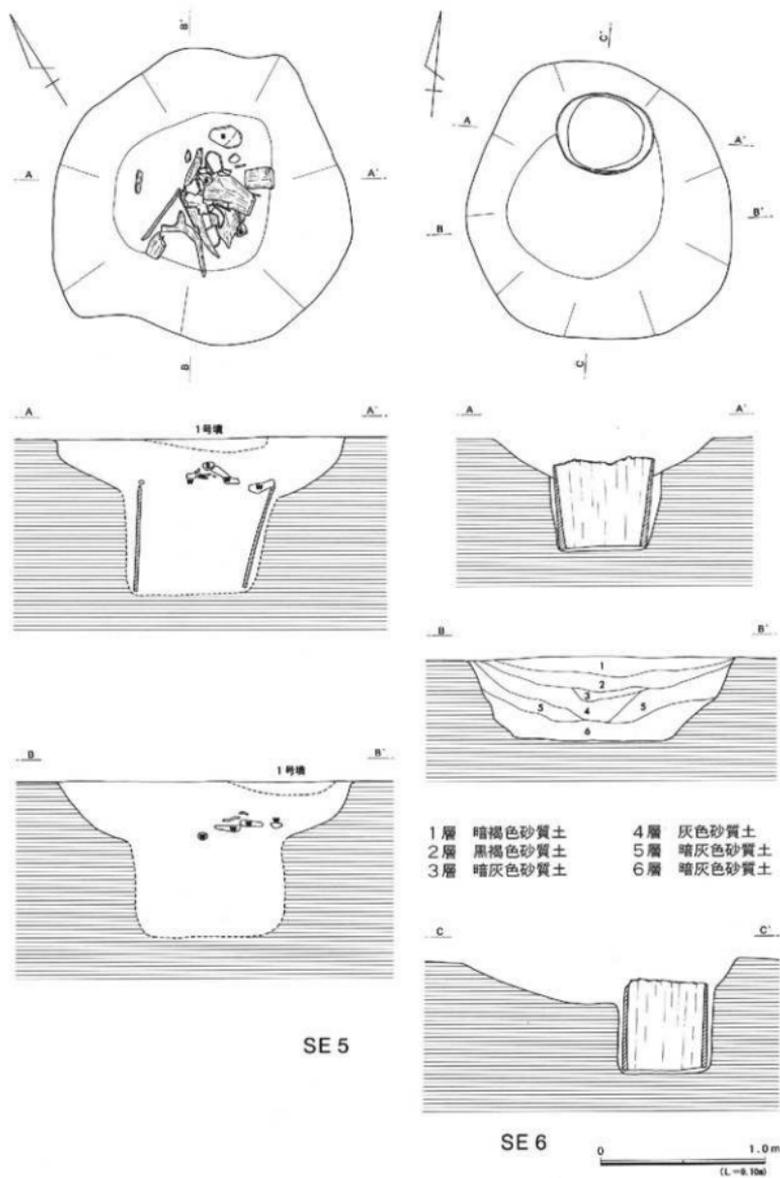
掘り方の中に、直径約45cm・高さ約45cm・厚さ2~4cmの円形の刳貫井戸枳材が残存していた。材質は、クスの一木で、これを刳り貫いて使用している。一木の刳貫井戸の出土例は稀であり、非常に注目される。底部が厚く、上部へ行く程薄くなっており、上面端部は腐蝕して欠けたように凹凸が著しい。内外面ともに加工されているようであるが、切削痕については明確でない部分が多い。詳細については遺物編で報告することとする。

井戸枳材は、掘り方の北側に寄せて設置している。井戸内部は、黒色砂で充填されており、埋没状況を示す堆積は見られない。

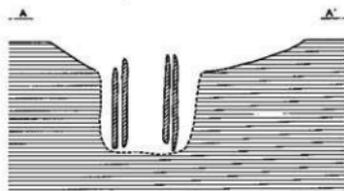
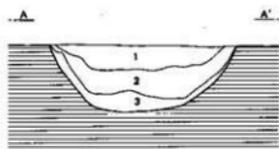
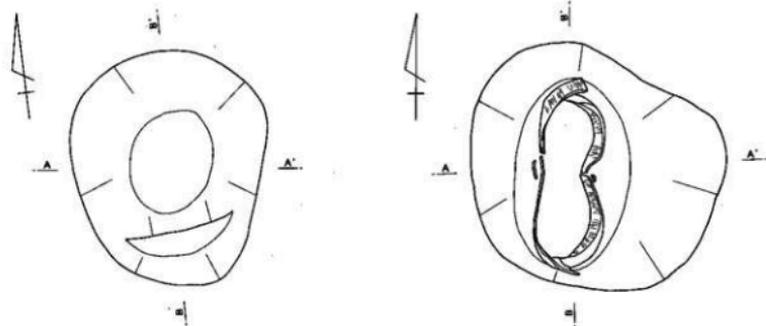
古式土師器片が多数出土しており、古墳時代前期の井戸と考えられる。東側に隣接する形で、SE7が位置するが、出土土器から時期差は少ないことが想定される。

7号井戸（第172図）

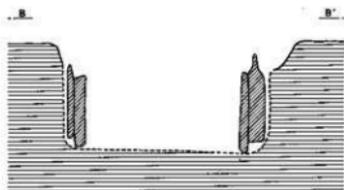
長径約1.45m・短径約1.20m・深さは約0.55m、底部標高は、約-0.60mの楕円形の井戸である。底部の標高は、SE6に近い数字を示す。



第171図 SE 5・SE 6 実測図



- 1層 暗褐色砂質粘土
 2層 灰色砂質土
 3層 青灰色砂質土



SE 7

SE 8



第172圖 SE 7・SE 8実測圖

南側に小段状の平坦部があり、中央部が最も深く掘られている。最下部からは湧水が多く、形態もSE 6と類似するため井戸と認定した。

井戸の廃絶の際に、井戸材を引き抜いたためか、または当初から井戸材を設置しない素掘りの井戸であったためか、井戸材もその痕跡も確認できない。

覆土は、上層が暗灰褐色の粘土混じり砂で、下層は粘土分の少ない灰色砂層である。出土遺物は、古式土師器片が多く、古墳時代前期に比定される。前述の通り、西側に隣接して位置するSE 6との時期差は少ないようである。

長さ約35cm・厚さ2cm程の板材が1点出土しているが、井戸内に廃棄されたような出土状況であるため、井戸材・礎板という可能性は低いと思われる。

8号井戸 (第172図)

長径約1.60m・短径約1.50m・深さは約0.65m、底部標高は、約-0.75mのほぼ円形の井戸である。

掘り方の西寄りに4枚の板材を組合せて、南北約1.20m・東西約0.45mの長円形になる井戸枠が残存していた。井戸枠は、東西からの土圧で押し潰されたような出土状況であるが、取り上げた井戸材を復元したところ、第173図のような組合せと推定される。当初から意図的に組合せており、ほぼ原位置を保っていることが判明した。

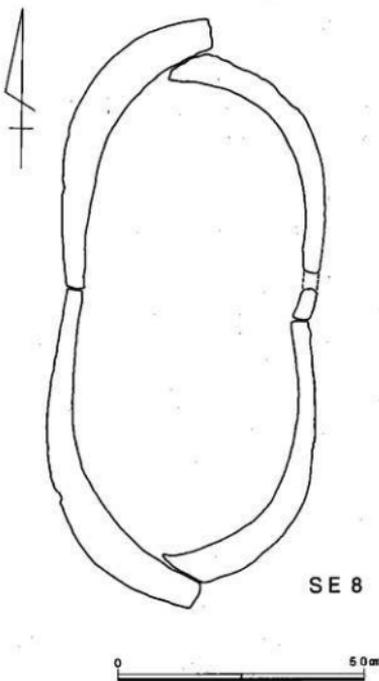
南北の井戸材の接点には、間をふさぐように杭状の板材を差し込んでいる。井戸枠材に使用されている4枚の板材は、丸木船を割って再利用したものであった。舟材は底の部分で二分割し、接点の当たりを良くするために、二次加工を施している。一體の船を四分割したのか、二體分なのかは不明であるが、4枚共にスギ材であること等から一體の船材という可能性が高い。詳細については、遺物編で報告することとする。

覆土は、黒色砂で分層は不可能であり、また湧水が激しく掘り方の正確な確認は出来なかった。古式土師器片が多数出土しているが、古墳時代前期から中期に比定される高杯の脚部も混在していた。従って、この井戸の年代は、他の井戸よりやや下り、井戸群の中では比較的新しいものであろう。

掘立柱建物SH 3が南東に隣接しており、これに伴う井戸という可能性もあるが、やや近接し過ぎており確定はできない。

SE 1・2・3・4・6・7・8が、ほぼ一定の幅で一直線上に構築されているのは、建物配置の影響があるのか、地下水脈に規制されたものなのかについては確証はない。現時点では、明確に掘立柱建物との関連性は現われておらず、後者の可能性が高いと想定される。

元島遺跡の井戸の特徴は、一木割り貫きまたは、割り貫き材と同じ形態を持つ舟材を組合せた井戸を



第173図 SE 8 想定復元図

多用していることである。

3. 土坑状遺構

1号土坑 (第174図)

長径0.95m・短径0.70mの楕円形の土坑である。深さは、約0.10mで浅い窪み状である。

出土土器は残存状況が悪く、復元できる土器はない。時期としては、古墳時代前期に比定される古式土師器である。

覆土は、暗灰色砂質土である。この遺構は、下層の方形周溝墓の覆土上に位置しているため、遺構覆土としての分別が非常に困難であった。

検出面で、既に遺物が浮いている状態であるので、遺構掘り込み面はさらに上層であった可能性が高い。遺構の性格は不明である。

2号土坑 (第174図)

長径1.03m・短径0.70mの楕円形の土坑である。深さは、約0.12mで浅い窪み状である。

覆土は、暗褐色砂質土である。2号土坑の覆土をはずした段階で、柱穴が2穴検出されており、柱穴より新しい遺構と考えられるが、性格を明らかにする材料は検出されなかった。出土土器は、これらの柱穴と重なる位置に集中しており、柱穴に伴う土器の可能性が高い。

復元できる土器は出土していないが、古墳時代前期に比定される土器である。

3号土坑 (第175図)

長径1.47m・短径1.09m、検出面からの深さは、約0.45m、底部の標高は-0.56mの楕円形の土坑である。急激に掘り込まれているため、土坑と認定した。

遺構内から長さ78cm・径25cm・厚さ7cmほどの木材が出土している。木製品としての器種等は認定出来ないが、約3分の1が焦げている。材質は、ヒノキと推定できる。出土状況は、西へ傾斜して土坑底部から15cmほど浮いた状況である。

覆土中から、台付甕・甕・小型丸底壺等、古墳時代前期の前～中葉にかけての土器が出土している。

4号土坑 (第176図)

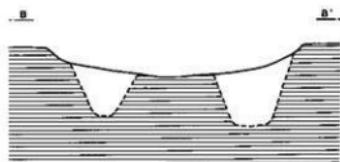
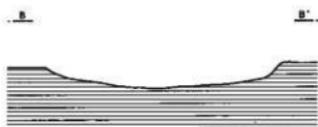
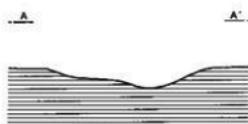
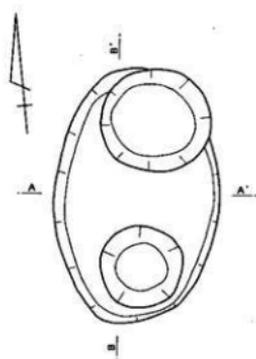
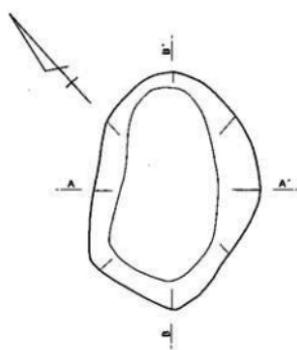
長径1.60m・短径0.96mの不整形の土坑である。検出面からの深さは約0.10m、底部の標高は-0.14mで浅い窪み状をなす。覆土は、暗褐色砂質土である。

遺構内の土器は、特に南側に集中している。すべて古式土師器であり、古墳時代前期の遺構と認められる。また、布留式甕口縁部片・庄内式甕口縁部片が出土しており、注目される。その他、複合口縁壺の口縁部片、S字状口縁台付甕片、土鍾なども出土している。

5号土坑 (第176図)

長径1.25m・短径0.95mの不整形の土坑である。検出面からの深さは約0.14m、底部の標高は-0.18mで二段に掘削されているが、浅い窪み状である。覆土は、暗褐色砂質土である。

古墳時代前期の甕が潰れた状態で出土するなど、古式土師器片が多数出土している。遺物の詳細については、遺物編において検討することにする。遺構の性格については、不明である。

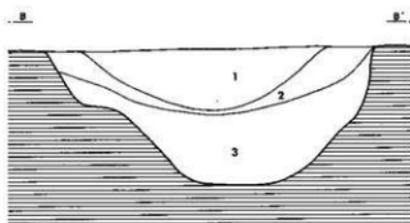
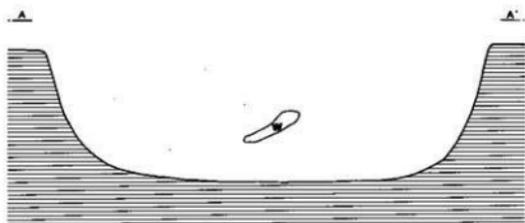
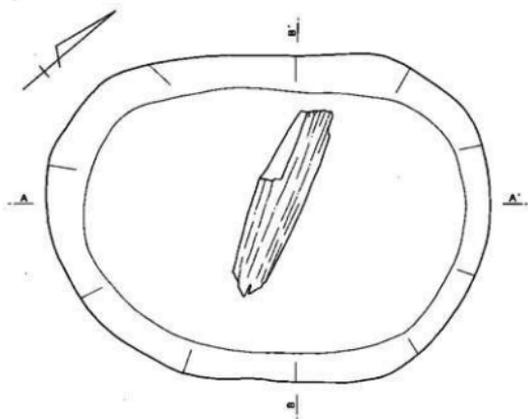


SF 1

SF 2



第174图 SF 1 · SF 2 实测图

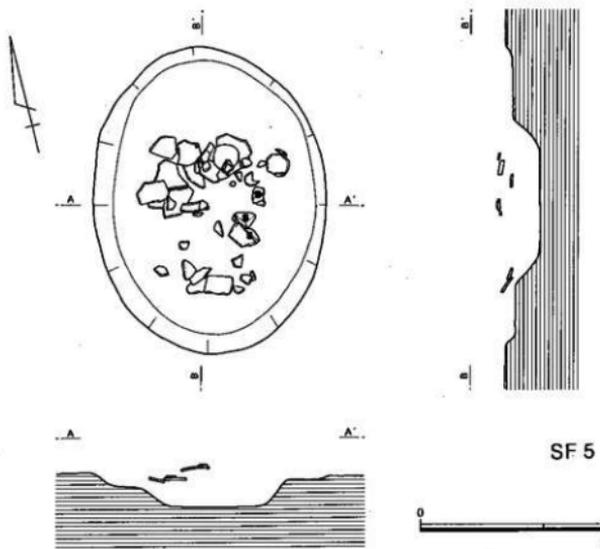
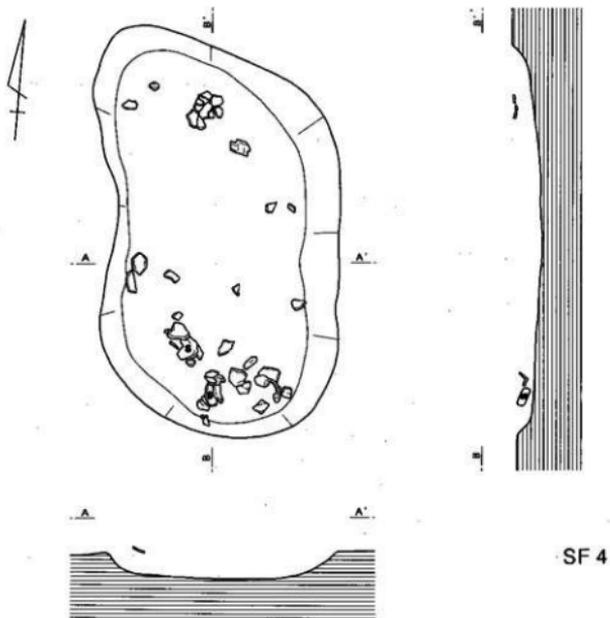


- 1層 暗褐色砂質土
- 2層 灰色砂質土
- 3層 暗灰色砂質土

SF 3



第175図 SF 3 実測図



0 1.0m
(L = 0.10m)

第176図 SF 4・SF 5実測図

6号土坑 (第177図)

長径1.05m・短径0.80m、検出面からの深さは約0.60mの長円形の土坑である。底部の標高は-0.63mである。

S字壺C類平行期の二重口縁壺の口縁部破片が出土するなど、古式土師器片が多く出土しており、古墳時代前期の遺構と考える。

礎板状の木製品が1点出土しているが、柱穴は検出されず、用途は確定できない。

深さを考慮すると井戸の可能性もあるが、井戸材が未検出、掘り方が小さい、覆土が黒色砂で均一であり、井戸の埋没状況を示す様相と確定できない、などの理由から土坑として報告する。

7号土坑 (第177図)

長径1.50m・短径1.17mの楕円形の土坑である。検出面からの深さは約0.60m、底部の標高は-0.65mであり、壁面は北側を除き、ほぼ垂直に掘り込まれている。

板材などの木片が3点出土しているが、若干の加工痕は認められるものの用途は不明である。いずれの木製品も、横位置で投棄されたような出土状態であった。樹種はスギ・ヒノキなどの針葉樹林であろう。

湧水が多く、掘り方も深いことから井戸の可能性もあるが、掘り方が大規模な割りに、それに見合う井戸材と認定できる加工材は検出されないため、ここでは土坑として報告する。井戸が廃絶された際に井戸材を撤去した可能性もあるが、その痕跡は検出されていない。

土器などの遺物は、土坑の中位から多く出土している。単純口縁壺、折返口縁壺、赤彩壺、大型壺とS字壺B類などが出土している。時期としては、古墳時代前期に比定される。

4. その他の遺構

S X 7 土器集中箇所 (第178図)

発掘区域の北東側の落ち込み部分で、土器が集中して出土している。

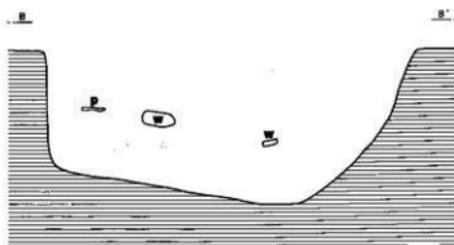
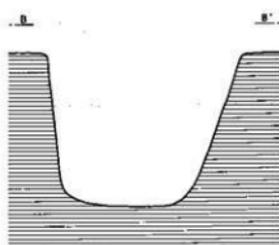
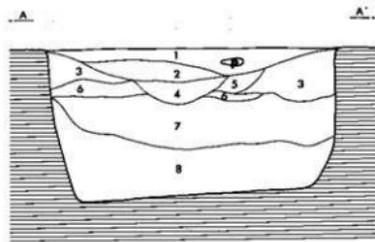
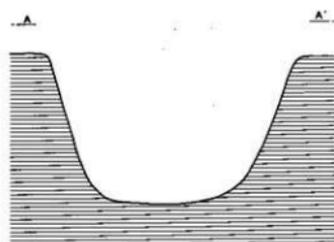
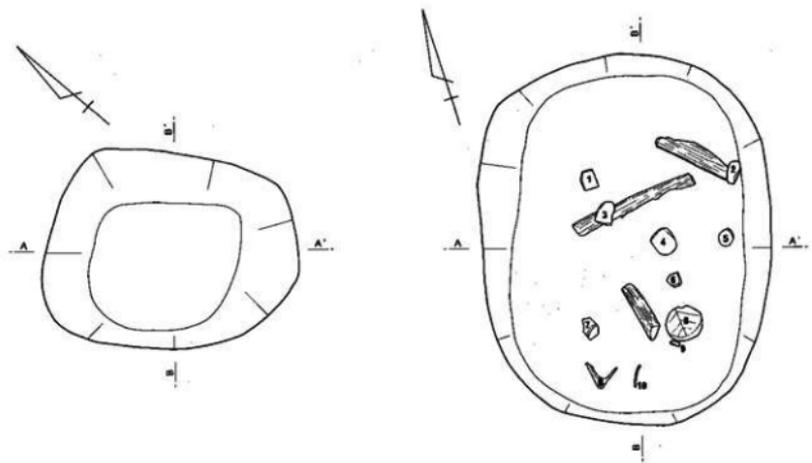
南北約0.60m・東西約0.90mの範囲に土器が大量に固まった状態で出土した。調査区の東側傾斜部分では、表土除去の際に包含層から多量の古式土師器が出土しているが、この箇所は最も集中しており、一括性のある土器群と推定される。しかし、遺構となるような掘り込みは確認されず、土坑であるのか、または落ち込みの傾斜部分に一括投棄したのか、またはそれ以外の遺構であるのか等は不明であるが現時点では祭祀遺物の可能性が高いと考えている。

この土器の中には、直口壺・S字壺C類・S字口縁の赤彩品の鉢・器台・結合器台など、多くの個体が含まれている。詳細については遺物編において報告するが、大部分が廻間Ⅲ式平行期の土器群であり、掘立柱群に伴う古墳時代前期の遺構と想定される。

SP1 (第178図)

発掘区域の北東側の落ち込み部分で検出された長径0.53m・短径0.45m、検出面からの深さは約0.35m、底部の標高は-0.63mの柱穴である。

直径14cm・長さ40cmの柱根が、北側に約30度傾斜するように設置されている。また、腐蝕が著しいが、この柱根の上に楔状の木があり、特異な構造を有する。掘立柱建物の独立棟持柱にはこのように傾斜する例が報告されており、類似性が注目される。しかし、この遺構ではこの柱に対応するべき他の柱穴が検出されておらず、独立棟持柱とする確証はない。砂堤状の微高地が北東方向に傾斜しながら下がっていく箇所なので、さらに低地部に建物の遺構が存在する可能性もある。今回の調査では、この柱穴は調査区域の縁辺部で検出されており、地下水位も高く排水が追い付かない状況の中で、対応する遺構を検



SF 6

- | | |
|------------|-----------|
| 1層 暗褐色砂質土 | 5層 明灰色砂質土 |
| 2層 暗灰色砂質土 | 6層 暗褐色砂質土 |
| 3層 灰色砂質土 | 7層 暗灰色砂質土 |
| 4層 暗褐色砂質粘土 | 8層 灰色砂質土 |

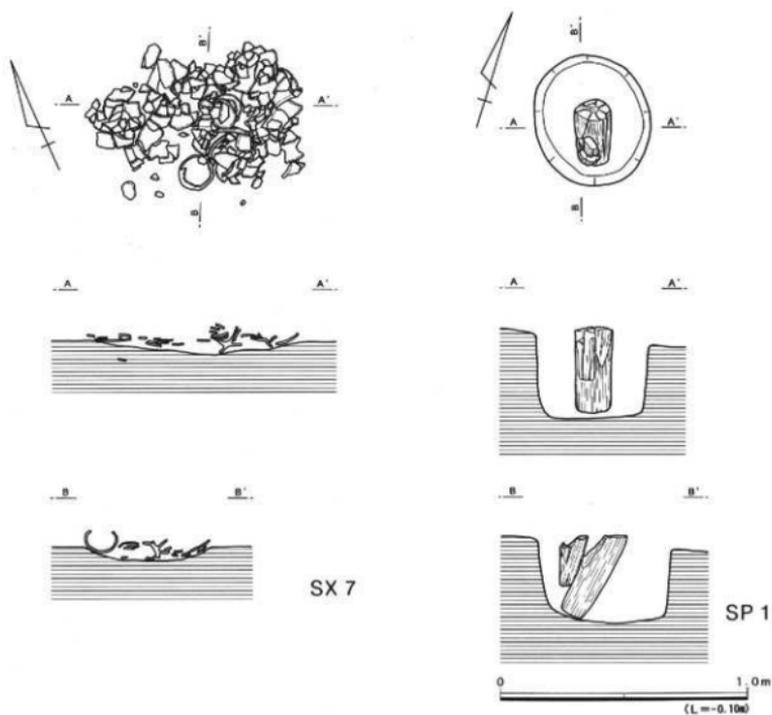
SF 7



第177圖 SF 6・SF 7実測圖

出できなかった。今後予定されている現県道下の発掘調査において、この柱根に対応する建物が検出されることを期待したい。

この柱穴からは、柱根の他は古式土師器片が数点出土しているだけであり、時期の特定はできないが、他の建物とほぼ同時期の古墳時代前期と推定している。



第178図 SX 7・SP 1 実測図

第10節 弥生時代中期の遺構

4区の調査最終面として確認された遺構群である。調査面積は、約2,200㎡程であった。遺構面は、海拔-20cm前後で確認され、調査区北側と南側が急激に落ち込んでいるため、それ以上の遺構の広がりはないと判断した。南側5区は、落ち込みが終結し、再び微高地状の広がりが確認された。しかし、遺構はまったく検出できなかった。方形周溝墓群は、東西方向にのびる砂堤上に立地しており、東西約70m以上、南北約45mの範囲に分布していた。東側にかけて、周溝墓の築造が減少していくため、おそらく調査区東端付近が墓域の東端と推定される。一方西側は、周溝墓が調査区外まで広がっている可能性が高い。

花粉分析の結果から判断すると、方形周溝墓が築造された当初は、日当たりの良い開地が広がっていた可能性が高い。方形周溝墓が築造された微高地から、落ち込んでいく部分については浅水域から水湿地で、水性植物が生育していたと考えられる。時代と共に微高地が狭まり、湿地化部分が広がっていったのか、元々の地形が舌状の微高地で、低地については湿地だったのかは判然としない。ただ、遺構検出段階からの判断では、本来微高地と湿地に分かれており、湿地化していない箇所には遺構を繰り返したと考えられる。だが、時代と共に、砂堤の微高地は削りとられ湿地化部分が拡大していったと推定される状況であった。

確認された遺構は、方形周溝墓9基、土坑1基である。方形周溝墓の主体部は、まったく検出されず溝そのもの底部の残存部を検出したという状況である。大部分が、削平を受けていた。出土遺物は、極端に少なく、ほぼ完形の土器が2点と、若干の小破片であった。

なお、全体図(別刷り)の攪乱は、すべて近代の井戸である。攪乱である以上、本来外して調査すべきであるが、確認面が海拔-20cm前後で満潮時になると、遺構面が水没するため、これ以上の水の流入を防ぐために、近代井戸は埋没した状況のまま調査している。

1. 方形周溝墓

1号方形周溝墓(第179図)

調査区、ほぼ中央部に位置する方形周溝墓で、周溝が四辺とも明確に検出され、周溝規模もほぼ一定している。今回確認された方形周溝墓の中で、最も明確に認定できる周溝墓である。

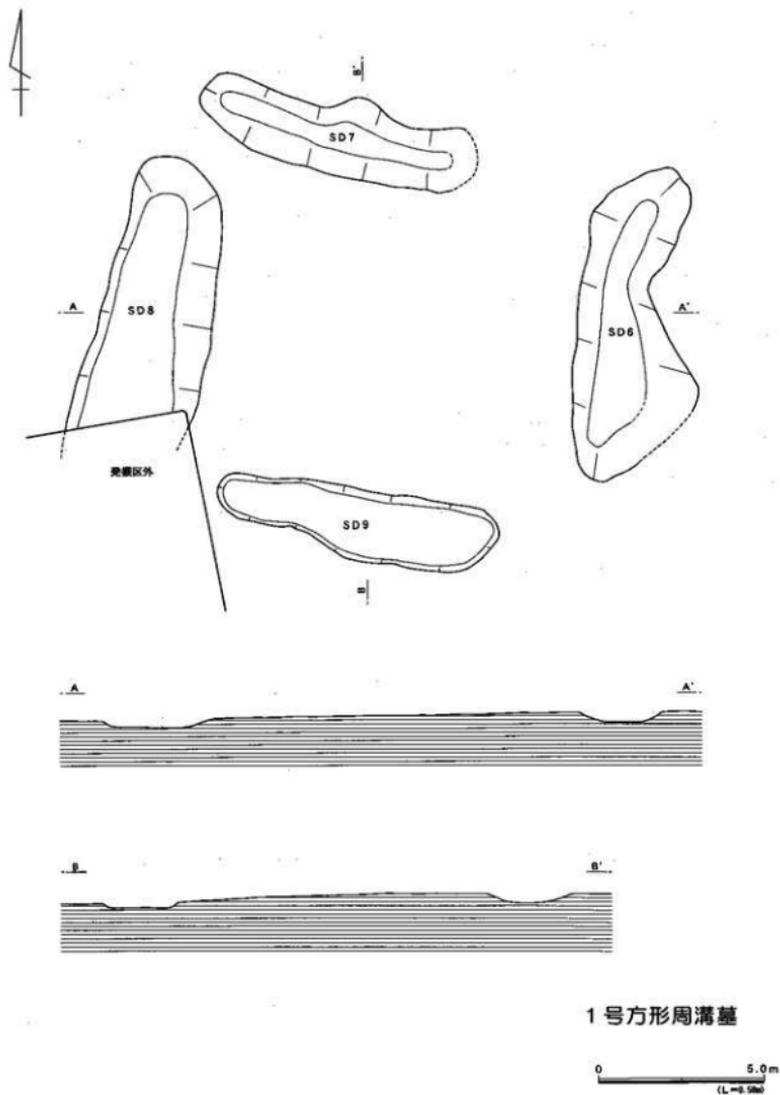
規模は、南北13.2m、東西17.7mを測るが、墳丘の盛土と判別できる覆土は確認されていない。周溝は四辺に巡り、四隅が切れている。東西南北のそれぞれの周溝を利用した、他の方形周溝墓が周りに配置されている。

方台部の規模は、南北9.3m、東西11.0mで、主体部は検出されていない。北側周溝(SD7)の規模は、長さ約8.6m・幅約2.0~2.5m・深さ約0.3mである。南側周溝(SD9)の規模は、長さ約8.6m・幅約2.2m・深さ約0.15mである。東側周溝(SD6)の規模は、長さ約10.0m・幅約2.0~3.8m・深さ約0.3mであった。西側周溝(SD8)の規模は、長さ約8.5m・幅約3.5m・深さ約0.3mであった。主軸は、9度東に振れている。

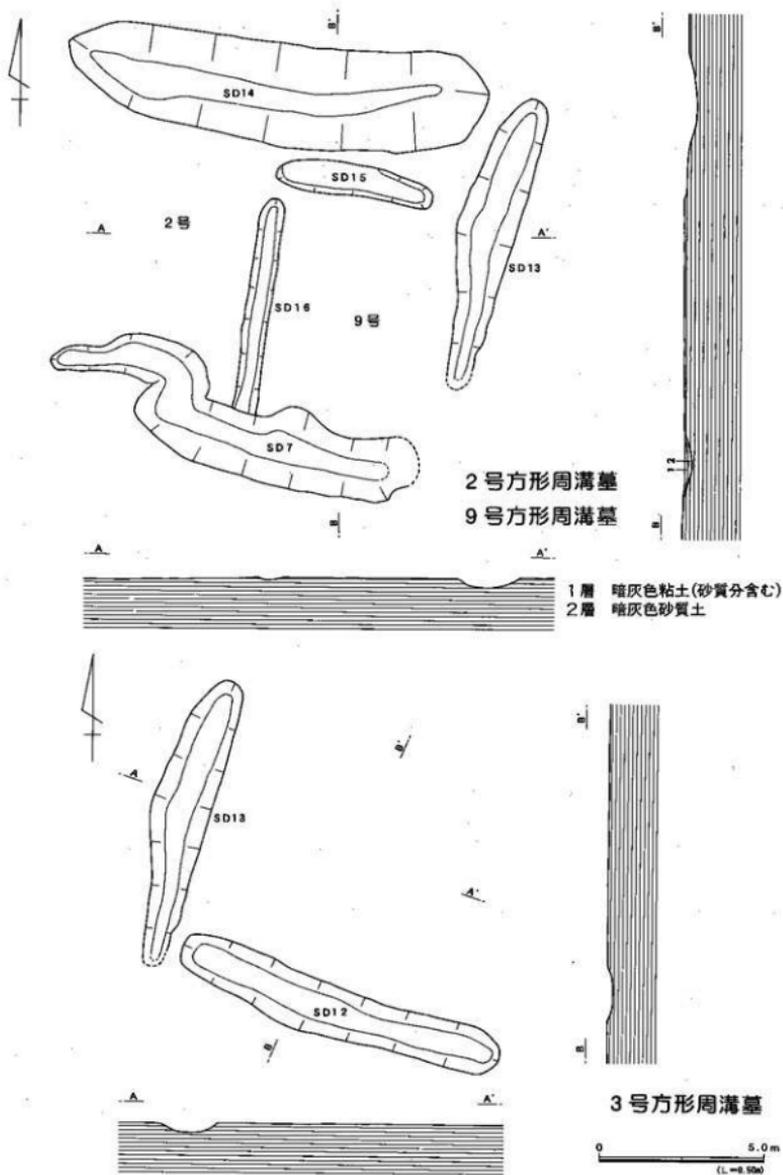
出土遺物は、方台部では確認されていない。西側周溝(SD8)北端に土器片土器が集中している箇所があった。周溝内で土器が検出されたのは、他に一ヶ所だけである。この土器は供献土器という可能性もあり、復元すると白岩式の最も古い段階にあたる長頸壺1点であった。

2号方形周溝墓(第180図)

1号墓の北に位置する方形周溝墓で、西側周溝は未検出である。また、内部に小区画の溝があり、別



第179图 1号方形周溝墓实测图



第180图 2号、9号方形周溝墓·3号方形周溝墓实测图

の方形周溝墓と重複している可能性もある。とりあえず、内部の小区画を9号方形周溝墓とした。南東隅部が上層の井戸によって破壊を受けているため、切れているのか接続しているのかは不明である。他の箇所は、切れており、南側は鍵の手状に曲がっている部分もあった。この曲がりか他の方形周溝墓に伴うものなのかどうかは、判断としない。規模は、南北13.2m、東西13.7mであった。

方台部の規模は、南北8.1m、東西12.3mで、主体部は検出されていない。北側周溝（SD14）の規模は、長さ約12.9m・幅約3.1m・深さ約0.3mである。南側周溝（SD7）の規模は、長さ約11.6m・幅約1.9m～2.0m・深さ約0.2mである。東側周溝（SD13）の規模は、長さ約9.0m・幅約1.0m～1.7m・深さ約0.3mであった。西側周溝は、確認できなかった。内部にある溝SD16を、南側周溝（SD7）が切っており、確実に南側周溝が新しいことが判明する。この南側周溝は、1号方形周溝墓と周溝を共有している。また、西側周溝は、3号方形周溝墓と共有している。

方台部、周溝ともに遺物の出土はなかった。

3号方形周溝墓（第180図）

2号方形周溝墓の東側に位置する方形周溝墓である。北側、東側周溝は自然の落ち込みのため、すでに削平を受けてしまったと判断される。西側周溝は、2号墓と共有していた。規模は、南北約9.4m、東西12.5mで、四隅が切れていると推定される。南東隅部が、2号周溝墓と共有するためか、切れているが、変則的な形状を呈している。

方台部の規模は、南北7.5m、東西10.5mで、主体部は検出されていない。北側周溝と東側周溝も、検出することは出来なかった。南側周溝（SD12）の規模は、長さ約10.0m・幅約1.4～1.7m・深さ約0.15mを測る。2号周溝墓と共有する西側周溝（SD13）の規模は、長さ約9.0m・幅約1.0～1.7m・深さ約0.3mであった。主軸は、東へ18度振れている。

出土遺物は、方台部、溝共に確認されていない。

4号方形周溝墓（第181図）

1号方形周溝墓の南東に位置する方形周溝墓である。東側周溝と南側周溝は、検出されていない。東側周溝は、おそらく近代の攪乱によって削平され、南側は自然地形の落ち込みによって削平を受けたと考えられる。規模は、南北約8.1m、東西約9.4mを測る。四隅は、切れていると推定される。

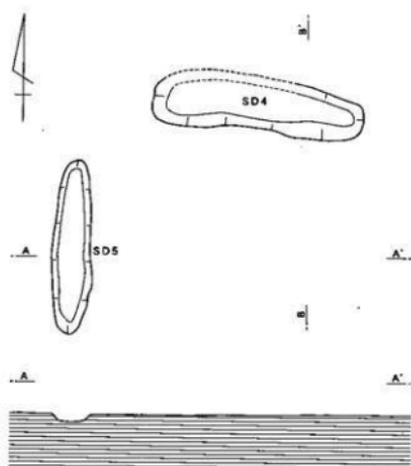
方台部の規模は、南北6.5m、東西8.0mで、主体部は検出されていない。北側周溝（SD4）の規模は、長さ約6.4m・幅約1.6m・深さ約0.2mである。西側周溝（SD5）の規模は、長さ約5.4m・幅約1.2m・深さ約0.25mであった。南側、東側周溝は検出されていない。主軸は東へ2度振れている。北側周溝の下には、重複する古い時期の溝が確認されたが、溝の用途は判断としない。

方台部、周溝から、遺物の出土は見られなかった。

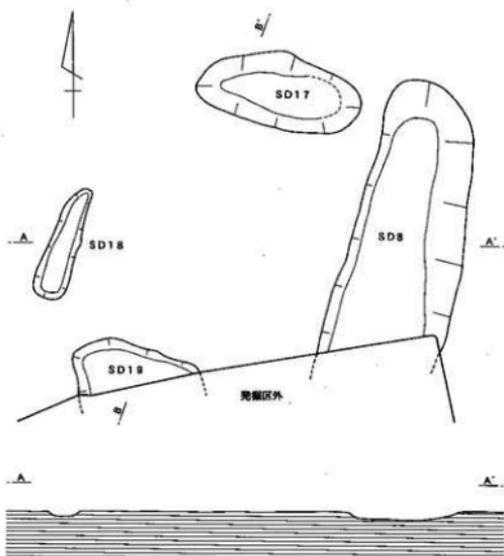
5号方形周溝墓（第182図）

調査区西端で検出された方形周溝墓である。周溝はまったく共有しておらず、単独で構築された周溝墓と考えられる。西側周溝は、調査区外のため未検出である。規模は、南北約16m、東西約11m以上を測る。周溝四隅は、切れている。

方台部の規模は、南北約9.9m、東西約9.4m以上を測る。主体部は、検出されていない。北側周溝（SD22）の規模は、長さ約9.8m以上・幅約2.4～2.7m・深さ約0.4mである。東側周溝（SD21）の規模は、長さ約10.8m以上・幅約3.3～3.7m・深さ約0.35mであった。南側周溝（SD20）は、非常に広い幅で検出された。自然地形の落ち込みを、追った可能性もあり、また南側にある周溝が接続してい



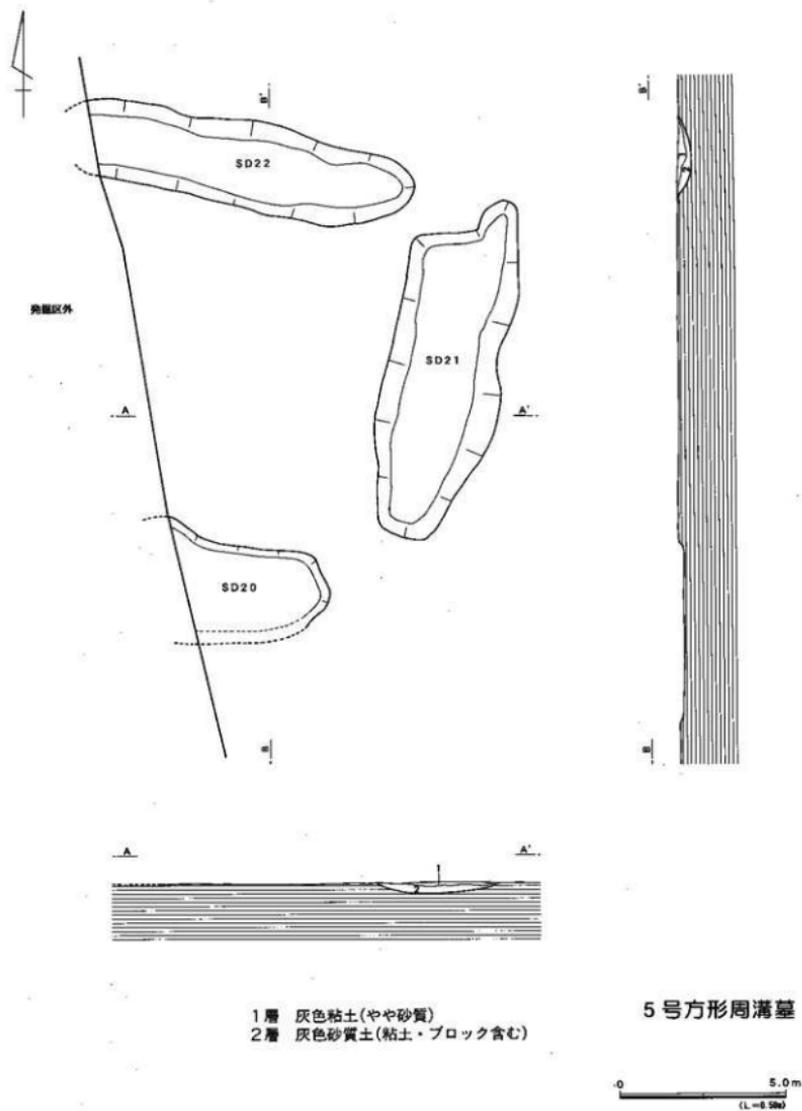
4号方形周溝墓



6号方形周溝墓



第181图 4号方形周溝墓·6号方形周溝墓实测图



第182図 5号方形周溝墓実測図

るため、幅広になったことも考えられる。今回は、溝の曲がり部分がそのまま直線でのびる可能性が高いため、そこを南側周溝の境として認定し報告している。周溝は、発掘区外へとのびているため、全長は確認していない。長さ約4.5m以上・幅約3.2m・深さ約0.2mであった。西側周溝については、発掘区外であるため未検出である。主軸は、東へ12度振れている。

遺物は、方台部、周溝共に出土していない。

6号方形周溝墓(第181図)

5号方形周溝墓の南東に位置する方形周溝墓である。東側周溝は、1号方形周溝墓と共有しており、他の周溝は単独と考えられる。南側が発掘区外になるため一部未掘である。従って、南側周溝を共有した方形周溝墓が存在する可能性は残されている。規模は、南北12.3m、東西10.2m程を測る。周溝の四隅は切れており、主軸は東へ17度振れている。

方台部の規模は、南北約7.7m、東西7.7mを測る。主体部は、検出されていない。東側周溝と南側周溝は、発掘区外になるため全掘できていない。北側周溝(SD17)の規模は、長さ約5m・幅約2.3m・深さ0.25mであった。東側周溝(SD8)の規模は、長さ8.5m以上・幅約3.5m・深さ約0.3mである。南側周溝(SD19)の規模は、長さ3.7m以上・幅約2.0m以上・深さ約0.2mであった。西側周溝(SD18)の規模は、長さ約3.6m・幅約0.9~1.0m・深さ約0.2mである。周溝四隅は切れている。西側周溝南にさらに周溝らしい溝状遺構が検出されているが、この溝が別の方形周溝墓の周溝になる可能性は低いと考えられる。また、南側周溝が幅広なのは、自然地形で落ち込んでいる地形を追ったためと推定される。

遺物は、方台部、周溝内ともに出土していない。

7号方形周溝墓(第183図)

発掘区南西隅で、一部だけ確認された方形周溝墓である。確認できたのは、東側周溝と北側周溝の一部だけで、南側、西側周溝は発掘区外のため、未検出である。周溝は、北側に位置する1号方形周溝墓、西北に位置する6号方形周溝墓と隣接しているにも関わらず、共有していない。規模は、南北約10.3m、東西4.4m以上を測る。主体部は未検出で、主軸は、東に6度振れている。

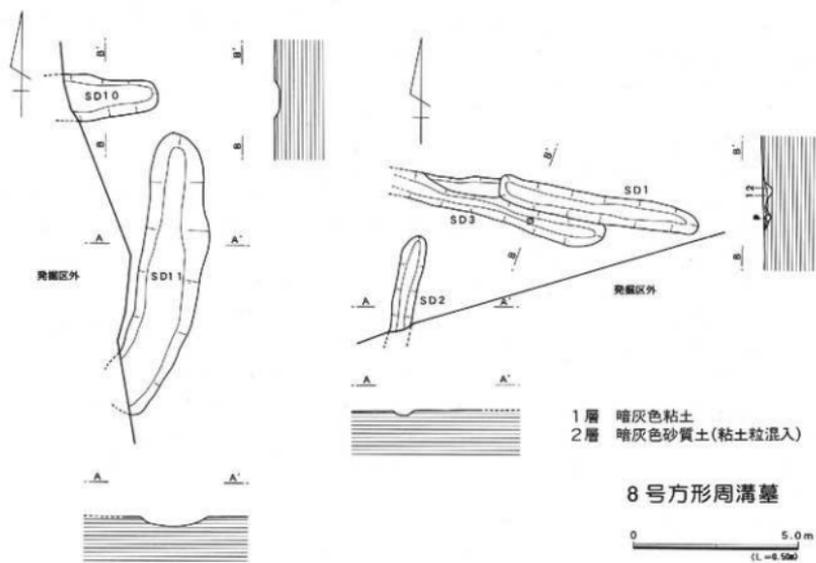
方台部の規模は、推定の域を出ないが、およそ9m四角と考えられる。北側周溝(SD10)の規模は、長さ約2.7m以上・幅約1.4m・深さ0.15mであった。東側周溝(SD11)の規模は、長さ約8.7m・幅約1.9m・深さ約0.3mである。周溝の四隅は切れていると考えられる。7号方形周溝墓が単独構築であるとする、方形周溝墓群の南限の可能性がある。

遺物は、方台部、周溝内ともに出土していない。

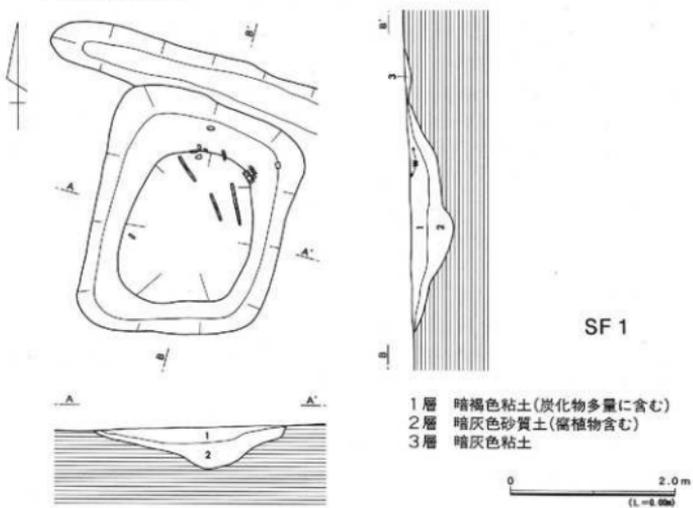
8号方形周溝墓(第183図)

発掘区最東端で検出された方形周溝墓である。他の方形周溝墓群から12m前後離れ、単独で構築されている。東側と南側の周溝は、発掘区外になるため、未検出である。北側周溝と重複する形で、SD1が検出されており、新旧関係は不明である。南側SD3は、長さ約10m程を測り、真つすぐ西側へと伸びているため、方形周溝墓の周溝として認定しなかった。規模は、南北5.0m以上、東西8.6m以上を測る。主体部は未検出で、主軸は、東へ10度振れている。

方台部の規模は、南北4.1m以上・東西7.7m以上で、推定規模は8m四角である。北側周溝(SD1)の規模は、長さ約6.1m・幅約0.8m・深さ約0.3mであった。西側周溝(SD2)の規模は、長さ約3m以上・幅約0.6~0.7m・深さ約0.15mで、南側半分程が発掘区外へと続いている。南側、東側周



7号方形周溝墓



第183図 7号方形周溝墓・8号方形周溝墓・SF 1 実測図

溝は発掘区外である。周溝四隅は、切れている。

遺物は、北側周溝の南側で検出された口縁部が多少欠けている以外は、ほぼ完形の長頸壺が1点のみであった。この土器は、白岩式の古い段階に比定される土器である。

9号方形周溝墓（第180図）

2号方形周溝墓と重複して検出された方形周溝墓で、東側と南側周溝が検出されていない。2号方形周溝墓の南側周溝が、西側周溝を切っているため、2号方形周溝墓より古い時期の周溝墓と思われる。規模は、南北約10.1m、東西約7.3mで、主体部は検出されていない。主軸は、8度東に振れている。

方台部の規模は、南北約6.9m・東西約5.1mである。北側周溝（SD15）の規模は、長さ約4.7m・幅約0.9m・深さ約0.1mであった。西側周溝（SD16）の規模は、長さ約6.8m・幅約0.7m・深さ約0.1mである。東側周溝は、2号方形周溝墓の東周溝と上層の井戸によって、破壊を受けたと推定される。南側周溝は、2号方形周溝墓の南周溝によって破壊を受けたと考えられる。周溝四隅は、切れている。

遺物は、方台部・周溝部ともに検出されていない。

2. 土坑状遺構

1号土坑（第183図）

調査区東端で検出された、SD3と重複する土坑である。長辺約2.7m・短辺約2.3m・深さ約50cm程を測る方形土坑である。土坑北側端とSD3南側端が重複するかに見えたが、断面で判明するよう掘り込み面は、ほぼ同一で重複関係は見られなかった。1層目の炭化物を多量に含む暗褐色粘土層から多量の木片が出土したが、製品と認定できるものはなかった。その他、遺物はまったく検出されていないため、時期及び用途については、まったく不明である。

古墳時代前期の集落に伴う小穴群が、土坑上面で検出されているため、明らかに古墳時代前期より古い時期の土坑であることは確実である。弥生時代中期という確実性はないが、確認面ということで、この面で報告することにした。

第V章 まとめ

第1節 中世元島集落の景観復元

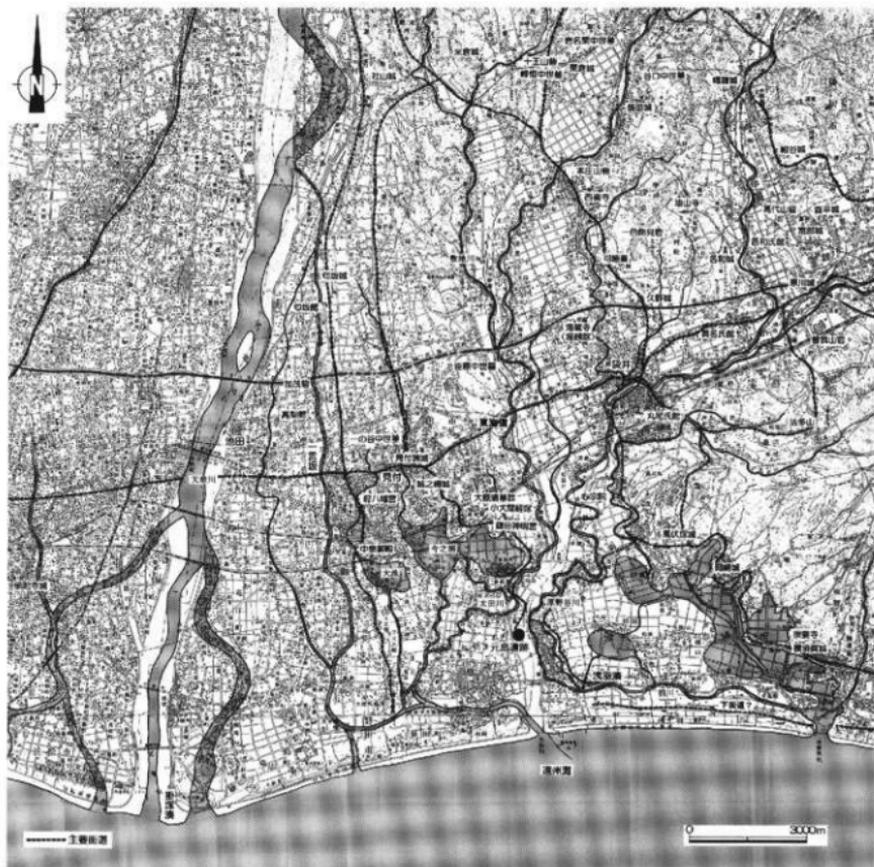
元島遺跡を考えるにあたって、最も重要な点は、その立地にある。現在は、元島遺跡東側を原野谷川と合流した太田川が流れ、遠州灘へとそそいでいる。しかし、元島集落（大島村・小島村）が存在し、機能していた時代は、この両河川は元島集落の北側で、東西に分かれ、集落から遠ざかりつつ流れていた。原野谷川は東に大きく蛇行し、遠州灘と平行するように7km程流れ、横須賀付近で遠州灘へとそそぎ、太田川は西へ大きく蛇行し仿僧川と合流し、再び東へ蛇行し、現太田川河口付近へとそそいでいたのである。当時の元島集落と原野谷川との距離は約400m、太田川との距離は約1km程と想定できる。

現況と大きく異なるもう一つの違いは、今の浦の存在である。仁治3年(1242)に成立した『東國記行』に「遠江の国府いまの浦につきぬ。爰に宿かりて一日二日とどまりたるほど、あまの小舟に棹さしつ浦の有さま見めぐれば、しほ海・湖の間に洲崎遠くへだたりて、南には極浦の波袖を濕し、北には長松の嵐心をいたましむ。」と記されており、見付宿近くまで、浦（今の浦）が迫っていた様子がよくわかる。戦国前後の今之浦は、太田川と今之浦川を通じて、遠州灘と接続していた可能性が高い。また、今の浦とは別に、元島集落の西側には潟湖が広がっていた。この潟湖は、前述の原野谷川（前川）河口付近から浅羽町豊住あたりまで、奥行7km程もある大型の潟湖であった。元島遺跡は、このように、集落の東西に大きな湖をかかえる場所に立地していたのである。（第184図参照）

遠州灘は、直接太平洋の潮流がぶつかり、流れの強い荒れた海で、航行する船舶にとって良港の存在しない難所といわれていた。近世には、海難事故が多く発生しているが、中世の状況は記録に残っていないため判然としない。ただ、宝永地震(1707年)以前は、横須賀から浅羽の奥にまで入り込んだ潟湖が存在し、ここが横須賀藩や掛川藩の年貢積出港であった。この地震により、横須賀の湊口は塞がり、横須賀城まで入り込んでいた入江は海底隆起によって丘となり、周辺は沼地と化したという。この地震により横須賀湊は衰退したが、替わって福田・中島の境に湊口が押し開いたため、福田湊が場所を移動し拡張されている。これらの記録から、宝永以前の福田湊は、中心港として機能するには、湊口が狭すぎたことが判明する。

戦国時代から江戸時代中期まで、中遠江地方の中心港があったと推定される潟湖のどこまで、荷物を積んだ船の出入りが可能であったかは不明である。当然入り口近辺である横須賀城の南にまでは、海路から直接進入し停泊することが可能であったと推定される。『横須賀根元歴代名鑑』によれば、天正6年(1578)に大須賀康高が横須賀城を築いた折には「城の西南は沙さし引きの有入海にて、北は深泥沼の池にて水の中に城存有故、長蛇の陣方両頭の蛇をかたどり、西大手、東大手と名付け給う・・・」と記されている。横須賀城が築かれた舌状の砂州より南西部までは、船が確実に入港可能だったということであろう。

潟湖の奥の状況については、深泥沼の池という以外は判然としないが、家康による高天神攻めの様子から、ある程度の推測が可能である。家康は、天正2年高天神城（小笠郡大東町）が、武田勝頼によって陥落すると、馬伏塚城（磐田郡浅羽町）を修築し、高天神城に備えている。翌天正3年、長篠において武田軍が壊滅的打撃を受けること、家康は武田軍の手によって奪われた遠江諸城郭の奪還行動に移る。『家忠日記』に記載されている馬伏塚城は、当初新たな城郭を築く余裕がないため、従来浅羽周辺を押さえていた城の再利用を計ったことだろう。しかし、長篠の戦以降の北遠江等の奪還により、家康に余裕が生まれ、主力を中遠地域に回すことも可能となったはずである。その場合、183図からも解



第184図 元島周辺地域推定地形復元図(室町~江戸時代初頭)

るよう馬伏塚城では、高天神城の前線兵站基地としては、奥まった位置にありすぎる。従って、その後の『家忠日記』に出てくる馬伏塚城は、長篠合戦後に新築された対岸の岡崎城(袋井市)の可能性が高い。海路物資を運搬し前線基地へ運び入れることを想定すれば、岡崎の地より現在の横須賀周辺がベターである。だが、予断が許されない状況下にあっては、城そのものの防御性の高さが必要であったと推定される。そのために、より海路からの物資が運び入れやすい岡崎の地に新造したのではないだろうか。深泥沼の中を運ぶ労力より、城そのものの安全性を考慮した結果と思われる。家康は、海路運んだ物資を、横須賀周辺でおろし、改めて小舟に移し替え岡崎へと運んだと推定できるのである。

天正6年に横須賀城の築城工事が開始されると、ほぼ時を同じくして小笠山岩等の高天神攻め六砦の構築も開始している。遠江周辺諸状況が安定し、家康の勢力圏はすでに、高天神城・小山城(榛原郡

吉田町) 周辺を除く、大井川以西全域に及んでいた。天正6年時点では、すでに天險を利用した城を築くより、確実に物資集積が可能な兵站基地を確保出来る程、家康の支配が浸透していたのであろう。そのために、直接外洋からの船舶の停泊が可能な横須賀の地が選択されたということになる。これらの状況から、戦国当時の潟湖は現横須賀城あたりまで、大型船舶の入舟が可能であったことが判明する。しかし、入舟が可能であったとしても、見附なり袋井・掛川という当時の消費地までは、横須賀の地からでは遠すぎたのではないだろうか。

遼勝南東部約3km程の所に、元島集落と大きな関連を持つと思われる「湊」という地名が、残されている。「湊」は、浅羽町と福田町境に残っており、現在の福田港に近接しているため、従来は福田湊と考えられていた。現況の地形に左右されての考えで、物資の往来は、太田川河口に位地する福田湊から今の浦へと運ばれていたとされていた。だが、室町から戦国時代にかけて、福田湊は仿備川の河口というだけで、天然の良港でもなければ、大型船舶の停泊に適した地形でもなかったのである。福田湊が機能を開始するのは、前述のように宝永年間以降のことなのである。おそらく、遠州灘から横須賀の潟湖に入り、さらに前川を遡り、現在の浅羽町湊近辺まで、外洋舟の入舟が可能であったと推定される。そのために、「湊」という地名が今も残っているのではないだろうか。従って「湊」は、福田港と何ら関係のない地名だったと考えざるをえない。浅羽町に残る「湊」は、純粋に「浅羽湊」を指していたのである。この潟湖の奥まった場所に位置していた「浅羽湊」こそが、元島集落に繁栄をもたらした港だったと推定される。元島遺跡から出土した木製碇や構造舟は、明らかに元島集落で使用されていた遺物である。さらに、集落内を縦横に結ぶクリーク状の水路の存在、はたまた盗道具等が貼り付いた未製品の多さ等、元島集落で物資の選り分けが実施されていたことは確実である。これらの状況を繋ぎあわせると、瀬戸産なり常滑産の物資が、伊勢湾航路を通して遠州灘から横須賀の潟湖に入り、前川を通過して「湊」近辺まで入ってきていたと想定しても、まったく問題ないと考えられる。

湊で降ろされた物資は、クリーク状の水路によって原野谷川・太田川と接続されていた元島集落から河川を利用して、舟で集積された可能性が高い。元島遺跡から出土した構造舟は、その形態から約10m前後の大きさの河舟であったことが判明している。外洋舟からの積み荷を、小舟に移し元島集落へ運び入れる。そして、元島集落で各消費地に向け、荷解きと再分別を実施していたのではないだろうか。

太田川の水運を利用すれば、今の浦から見附宿まで横付けが可能である。また、原野谷川を利用すれば、袋井宿や上流の殿谷城(掛川市)まで、物資運搬が可能となる。当時の遠江国府所在地は見附(磐田市)であり、当然最も繁栄していた都市でもあった。事実、遠江を掌中に治めた家康も、当初見附の城之崎に築城工事を起こし、遠江支配の拠点としようとしている。その見附への物資の積降ろし港が、湊であり、集散機能を担っていたのが元島集落と推定される。

記録に残った遠州灘沖の港として「掛塚湊」が有名である。掛塚湊から天龍川を北上し、池田宿周辺で荷降しし、さらに東海道を見附宿まで運ぶということも可能ではある。だが、見附宿へ横付けできる利便性と、元島集落から出土する多量の製品は、見附を含めた近隣の消費地へ運んだとしか考えようのない程の量である。今回の調査によって、室町後半から戦国期にかけての周辺地域の景観復元が可能となったことは、今後の遠江の歴史を考えるにあたって非常に重要なことだと思われる。

今回の元島集落の調査は、遠江国府見附の物資集散を考える上で、非常に貴重な事実を明らかにした。太田川と原野谷川が合流し、遠州灘へと注ぐのは慶長年間以降のことであり、福田湊の機能は宝永地震以降に頻度を増すのである。従って、俗に言われる中世においては、横須賀から前川を通り浅羽湊で積み荷を降ろし、元島集落を経由して見附へと物資運搬が行なわれていた可能性が非常に高い。従来のように、今の浦の存在と太田川を結びつけ、海路から直接入港し物資を降ろしていたという推定は成り立たない。様々な記録に見られる今の浦に浮かぶ舟は、外洋も航行可能な大型船舶ではなく、川筋を行き

来する小舟だったのである。

遺物の詳細な検討が実施されていないため、現時点で元島集落がいつ頃から物資集散を担う集落となり、どのような変遷を得て繁栄し、衰退していったのかは明らかでない。元島集落の物資集積と拡散については、次年度刊行の『遺物・考察編』にて、詳しく検討することにしたい。今回『遺構編』のために、必要最小限の遺物の分析を実施している。その分析から得られた、大まかな特徴のみ触れておくこととする。

元島遺跡の中世面の基盤層は、洪水によって堆積した砂礫層が大部分を占めている。この砂礫層の中からは、12世紀代の山茶碗が数多く出土している。12世紀前半の山茶碗の9割以上は、渥美・湖西産である。12世紀後半になると、渥美・湖西産が75%、常滑産が25%という比率になる。これら、12世紀代の遺物と13世紀代の遺物は共に、基盤となる堆積層の遺物である。従って、13世紀中頃に巨大津波もしくは大洪水によって堆積された層の可能性が高い。13世紀中頃の大地震の記録はないが、当研究所の上土遺跡の発掘調査時に、鎌倉時代の地割れと正断層が検出されている（『上土遺跡—遺構編』1996 静岡県埋蔵文化財調査研究所）。元島遺跡の大洪水の痕跡と上土遺跡の断層から、13世紀中頃の東海地震も想定が可能である。13世紀代の遺構面は、若干検出されているが、遺物の大部分は洪水層から出土している。従って、洪水によって残った面がわずかに残存していたということになる。13世紀前半の遺物は、45%が渥美・湖西産、55%が常滑、瀬戸等の尾張系山茶碗である。13世紀後半になると、3%弱が東遠江産で、残り全て尾張系ということになる。12世紀後半から搬入されはじめた尾張製品は、13世紀後半でピークをむかえることになる。この山茶碗の流入がやがて、元島集落に大規模な瀬戸・常滑製品等を持ち込む萌芽であったのかもしれない。この時点では、周辺地形がどうであったかを知る資料は少ないが、復元した室町から戦国期と比較して、それ程大差があるとは考えにくい。

14世紀代と考えられる確実な遺構面を、検出することは出来なかった。また、同時代に比定される遺物量も極端に少ない。少ないとはいっても、15世紀代と比較した上での結果で、12・13世紀代とほぼ同様という程度である。出土遺物から見る限り、15世紀代が元島集落の繁栄期であったことは、間違いない事実である。その繁栄は、15世紀前半から徐々に始まり、後半から末頃にかけて最盛期をむかえることになる。元島集落は15世紀後半に繁栄を極め、16世紀には衰退し、二度とその繁栄を取り戻すことはなかった。それが、明応地震(1498)による大規模な被害のためなのか、混沌としていた遠江に統一政権ができ、規制を受けたためなのかは判然としない。元島集落が最も繁栄を極めた時期の地形は、今回の復元とは多少異なるはずである。今回の周辺域の景観復元は、江戸時代の種々の資料を使用して復元しているため、室町期というより、戦国から江戸時代初頭の地形といえよう。とは言っても、大きな違いは、潟湖の入り込み方と、今の浦の大きさで、河川の流れ等は、ほとんど変化がないはずである。ただ、16世紀代になって急激に搬入製品が少なくなるのは事実である。初山・志戸呂窯の製品が出現したことによる影響も多少は考えられるが、それは16世紀の後半代のことである。16世紀前半代の搬入品の少なさは、元島集落から湊機能が失われてしまったためという可能性も捨てがたい。湊のものは失われていないが、地震前と比較し遠州灘から直接外洋舟が入ってくる位置が異なってしまったということも充分考えられることである。なぜ、16世紀になると極端に遺物量が減るのであろうか、あまりに大きな被害を被ったため、十分な復興が出来なかったためか、政治的な背景による差なのか、あるいは単に地形的变化による減少なのか、その理由の解明が今後の課題のひとつである。

もう一つの大きな課題は、元島集落の支配についてである。本来、中世の物資集散については官衙・国衙や寺社等の倉庫の所在地や、運送従事者の居住区や年貢集積場所が主な物資集散地として形成されることが多い。元島集落の場合は、記録がないため何とも言いがたい部分が多い。なぜ、元島集落が物資集散地として繁栄したかも、解かなければならない大きな課題である。

第2節 中世元島集落の変遷

元島集落が、幕府政策のため移転を余儀なくされたのは、慶長年間(1596~1615)のことである。今回の発掘調査によって、11世紀代に集落が成立し、15世紀代に繁栄を極めたことが明らかとなった。その間、集落規模や集落内の空間は、どのように変化していったのであろうか。今回検出された遺構を中心として、若干出土遺物からの推定を織り交ぜながら考えてみたい。

1. 13世紀代(下面)の屋敷配置及び区画性

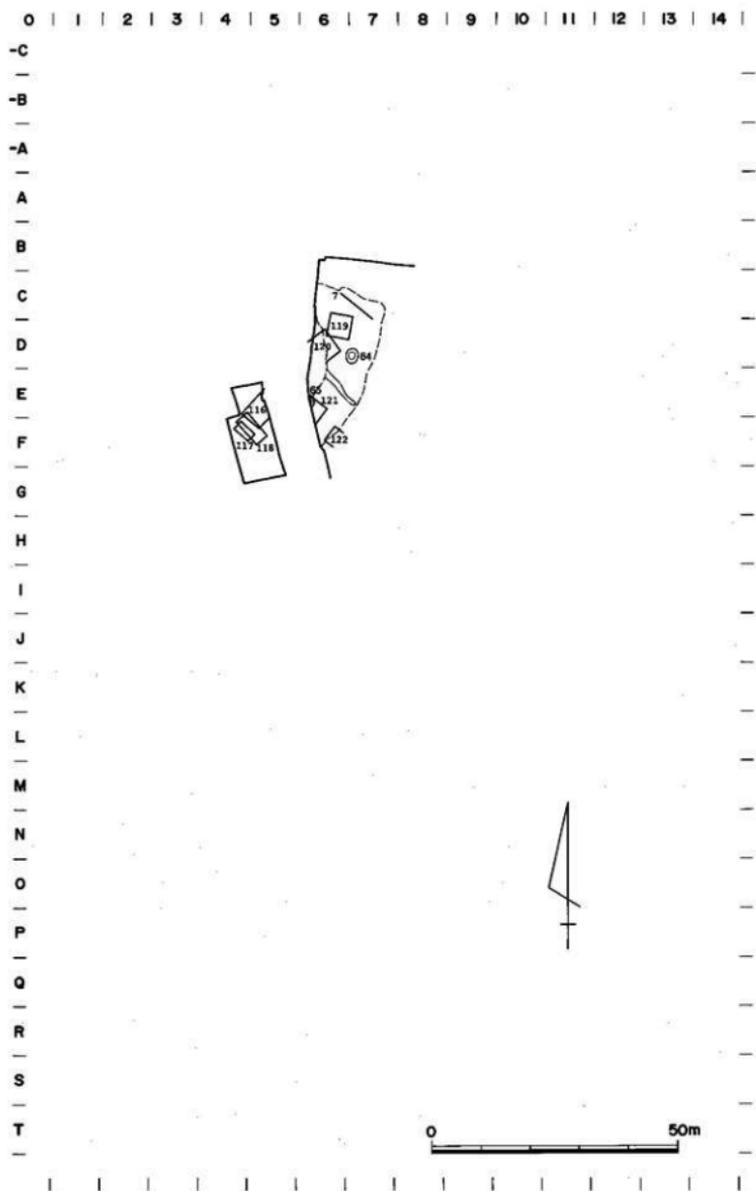
今回の発掘調査によって確認された遺構面は、13世紀代と推定される2遺構面、15世紀代の遺構面、16世紀代の遺構面の計4遺構面である。度重なる洪水等の自然災害によって、確実な面的押さえができていないが、13世紀代と15世紀代と想定した遺構面の中に、若干14世紀代の遺構が混在している可能性を否定することはできない。13世紀代が2遺構面確認されているにもかかわらず、時代区分が押さえられないのは、上層・下層の出土遺物の年代がまったく同一の状況を示すためである。この上層と下層の間の中間層は、浅い箇所約20cm、深い箇所約30cm程であった。今回の報告にあたっては、明確な時期区分を設定するのは不可能であったが、検出面の順番から上層をⅢ面、下層をⅣ面としてある。

元島における中世集落の出現は11世紀代と推定され、11世紀末頃から12世紀前半にかけて安定した集落が形成されたと考えられる。集落は、拡大・縮小という増減傾向を示すことなく、その数を維持し続けたようである。この集落は、13世紀末から14世紀初頭頃までは継続するが、その後急激に衰退傾向をたどっている。元島集落を考える場合、遠州灘からわずか2km前後という立地を考えざるをえない。また、時期こそ特定できたのは明応地震だけであるが、耕作土をはずした段階から1区を中心とした半径50m内外で、何世代にも渡る巨大地震の液状化現象が確認された。最も新しい、耕作土によって覆われて噴砂の痕は、1944年の東南海地震のものとして推定され、同様の噴砂現象は、近代井戸の掘り方内でも確認されている。第Ⅰ遺構面を突き抜けている液状下の痕跡は、江戸時代以降におこった東海地震のものと考えられ、元島周辺がかなり液状下の被害を受けやすい土地であったことが伺える。当然、中世期においても巨大地震の被害を頻繁に受けたであろうことが推定される。

元島集落の形成が、前述のように11世紀末から12世紀前半頃に比定されるということは、永長の東海地震(1096)の後に住み始めたとするのが、最も妥当な考えである。この永長の地震について『中右記』には、三重県の阿乃津(津市)に大津波が押し寄せたことが記されている。当然遠州灘沖にも津波が押し寄せ、かなりの被害が出たことが考えられる。この津波による地形の変化や、河川の流路の変化、従来居住していた集落の壊滅等が重なって、元島集落へと人々が住みついたのでないだろうか。あくまでも集落の形成については、出土遺物からの推定であって、今回の調査で遺構そのものは、まったく検出されてはいない。

元島遺跡で確認された、最も古い時期にあたる中世集落は、13世紀代とした第Ⅳ遺構面で、約400㎡程確認されている。検出遺構は掘立柱建物7棟と櫓列1条、土坑3基であった。周辺域は洪水層によって全て削平を受けており、本来周辺部へと広がっていた集落が、洪水または津波等の被害によって壊滅状況となった時の、わずかな残存部分という推定が可能である。検出された建物も3棟のみ全容が判明しただけで、その他については判然としない。検出された建物群が区画内に建てられていたものか、どうかも不明である。ただ、検出された建物の大部分が、主軸方位を削平を受けた流れと方向をほぼ同一にするため、本来あった溝の周辺を削平しながら洪水等が流れたという可能性も残されている。

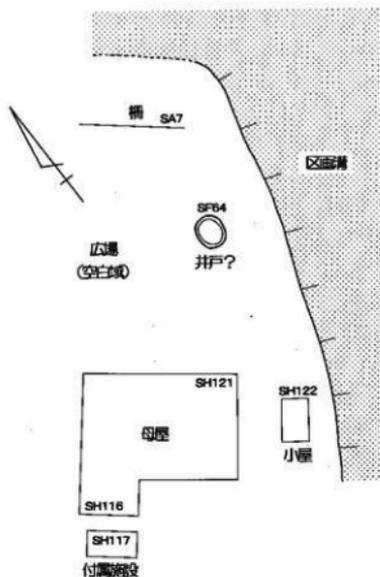
単位群としての屋敷地と想定した場合、やはり井戸の存在が不可欠な条件になろう。SF64として報告した土坑は、検出遺構の概要の中でもふれているが、抜き取られた井戸跡の可能性もある。確認面積



第185図 13世紀代(下面=第IV層)遺構全体図

が狭いため、井戸が未検出ということも充分考えられる。SK64が井戸かどうかは、屋敷地内の区画割りを推定するに、非常に貴重な資料となりうる。若干、主軸の異なる建物もあるが、本来は、櫓7、SH121、SH122、SH116、SH117と主軸を同一にする建物群が同一時期で、井戸と離れて母屋を中心とした2～3棟の建物群で構成されていたことが想定できる。その場合、当然削平を受けてはいるが、区画となる溝も、ほぼ軸をあわせて掘られていた可能性が高くなる。可能性としては、SH116・117・121が同一建物ということも考えられないではない。SH117と116との間が土間で、117部分が角屋で、残された箇所が母屋という想定もできる。第186図のように、かなりの想定を含んではいるが、可能性として考えられる13世紀の区画割りと建物配置を示してみた。

出土遺物は、非常に少ないが13世紀、前半・中頃・後半と13世紀代全般にわたっているため、13世紀代の遺構としている。建物とは関連しない小穴から、古瀬戸中II期の合子が出土しており、14世紀前半の遺構の残欠が混在していることも想定される。

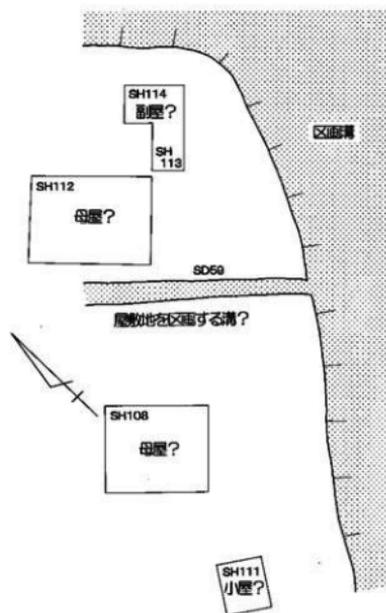


第186図 13世紀(下面)の屋敷配置図

2. 13世紀代(上面)の屋敷配置及び区画性

第IV遺構面の上层約20～30cm程度上面で、第IV遺構面とほぼ同時期の遺物が出土する遺構面が検出されている。面としては、かなり広範囲にわたって確認されたが、建物等が検出されたのは、約550㎡程度であった。検出遺構は、掘立柱建物8棟、土坑9基、溝状遺構10条、墓1基、不定形遺構7基である。検出された建物は、第IV遺構面で建物があった場所と、ほぼ同一箇所であった。他に広がる区域では、溝状遺構、土坑、不定形遺構は検出されているが、建物や建物に関連すると考えられる小穴すら検出されていない。遺構確認レベルが異なっているわけでもなく、基盤が異なるというわけでもない。従って、建物が建てられている居住区域と土坑や不定形遺構の存在する場所とが、異なった目的を持った空間であった可能性が高い。そうすると、第IV遺構面で確認された建物群も、居住区域であり、他は溝なり沼地で、居住に適さなかった場所であったということも想定され、その部分が洪水によって削平を受けているということも考えられないではない。

建物は、主軸方位をほぼ同一にして建てられているため、ある程度の区画を意識した配置と推定される。この面の大きな特徴は、貨幣の出土が多いということである。遺構確認段階で、出土した貨幣は約50枚程度で、いずれも建物があつた箇所からの出土である。また、SH112・113・114に囲まれた箇所から茨で括られた一括銭約1,600枚が出土している。確認されたのは第IV面直上であったが、貨幣の種類や類例から、14世紀代の可能性が高い。周辺域からの出土遺物は、若干14世紀代の遺物も混在するが、確実に遺構に伴うものは、13世紀代であった。当然、洪水層であるため混ざり込み等があつたとしても、何ら問題はないと考える。現段階では、14世紀の遺構面という推定もできるが、遺構からの出土ということを優先して、13世紀代ということに止めておきたい。なお、検出された遺構の項でもふれたように、



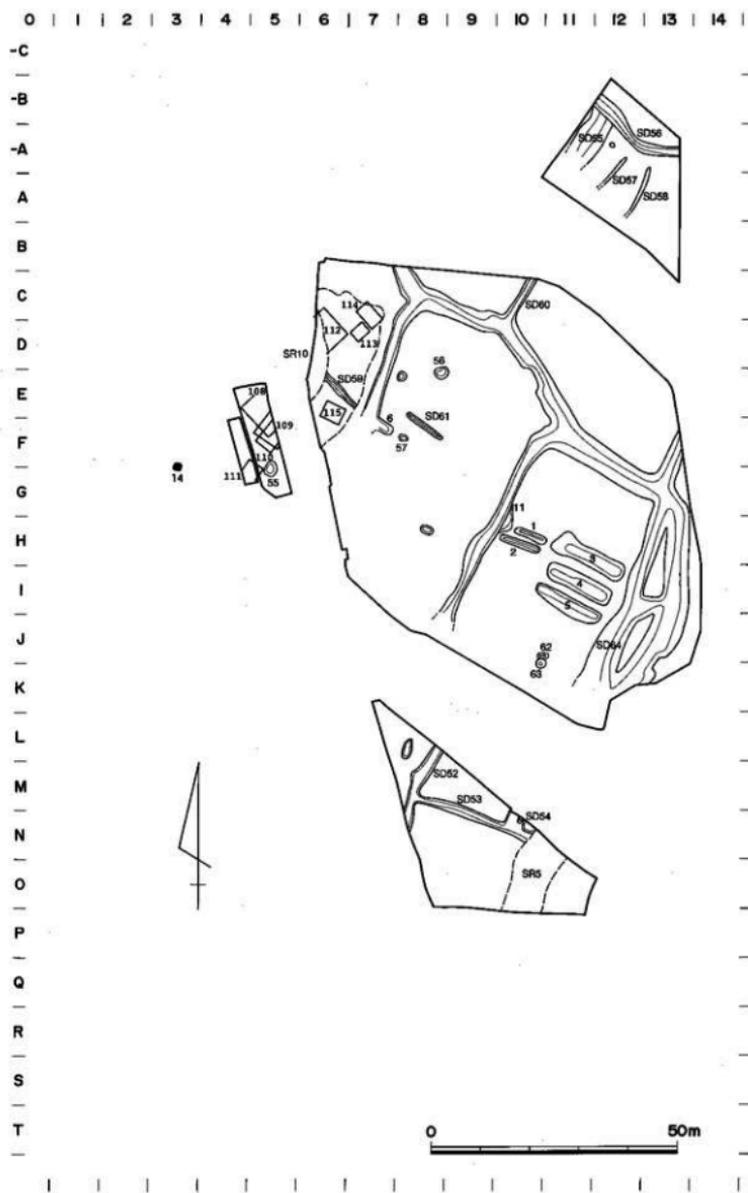
第187図 13世紀代(上面)の屋敷配置図

礎板・柱根の年輪年代測定を実施している。『遺物編』においては、その結果も判明していることであるから、改めて確実な年代決定を行ないたいと考える。区画については、SD59を境として、北と南に屋敷地が別れていたことも想定される。前述の出土銭の関係から、SH112・113・114が同一の建物ということ考えられる。井戸等確認されていないが、明らかにⅣ面に比較し集落規模が拡大傾向にあることが想定できる。

この面の大きな特徴としては、大型土坑とも呼ぶべき不定形遺構(SX1~5)が軸や間隔を同一にして5基確認されていることがあげられる。この不定形遺構は、東側の長辺約16m・短辺約4m・深さ約60cm程の大型3基(SX3~5)と、すぐ西側に位置する長辺約7m・短辺約1m・深さ約70cm程の小型2基(SX1, 2)とに分けられる。土坑からの遺物はほとんどなく、合計しても10点に満たない。少ない遺物からの時期決定は非常に困難であるが13世紀から15世紀代までの製品である。何度も述べたように、洪水層による混在を考慮すると14世紀代の遺構の可能性が高い。この大型の不定形遺構の目的については、まったく不明である。その形状や配置から、おそらく5基がセットで一つの役割りを担っていたと考えるのがベターであろう。

この不定形遺構と軸を同様にして、取り囲むように溝状遺構が存在することも想定できる。ただ、この溝状遺構は、洪水と再掘削を受けているようで、確実な年代を押さえきれていない。可能性として、第Ⅲ面から機能を開始していたことも考えられるという程度である。仮に、溝状遺構が機能していたとすると、洪水によってかなり削平を受けているため、周辺の溝状遺構と接続しており、溝から90度折れて不定形遺構があったという想定もできる。そうした場合、同一面から出土している木製礎との関連が推定されてくる。溝と直角に折れて入り込んだ大型の窪みということになれば、舟入りという想定もできるのである。あくまでも、可能性でしかないが、その可能性も捨てがたい。また、この不定形遺構を囲む溝状遺構は、西側のSD39と52が接続し、東側64と54が接続し、さらに北側がSD32、南側がSD53と想定すると長方形に囲まれた区画の中に、不定形遺構が位置していたことになる。この区画内には、不定形遺構以外は、土坑が2基存在するだけで、他はまったくの空白区域となっている。空白域を必要とする場所であったということも想定されよう。

さらに、集落域から10m程離れた西側から、集石墓が1基(14号)検出されている。元島集落で確認された唯一の集石墓である。遺物が出土していないため、確実な年代の押さえはきかないが、墓形態等から判断すると、13世紀後半から15世紀前半までの間と考えられる。周辺域からの遺物出土状況、第Ⅱ遺構面(15世紀代)の小穴によって、集石の一部が破壊を受けていること等を考慮すれば、13世紀後半から14世紀前半頃と推定するのが妥当であろう。周辺域で、同時期の集石墓が確認されているのは、大原墳墓群遺跡(磐田市)と玉越遺跡(磐田市)である。大原墳墓群は、基本的には近世墓で、検出され



第188図 13世紀代（上面＝第三層）遺構全体図

た中世墓は6基で、うち2基が集石墓の可能性があると報告されている。大半が13世紀後半から15世紀代と考えられている。玉越遺跡では、近世に築かれた太田川堤防の下から集石墓と推定される遺構が検出されている。詳しい年代は不明だが、近世には遡らないとしている。

これら諸状況から推定し、この時期の元島集落では、居住区内に墓が設けられていたということになる。いわゆる屋敷墓と呼ばれるもので、元島集落では建物群の周囲に数基程造営されていたと考えられる。屋敷墓は、屋敷地を開発した家父長を埋葬し、祖先祭祀を実施することによって、屋敷地の世襲的所有を保証、もしくは正当化するための象徴として発生し、普及していったと考えられている(橋田正徳 1991)。従って、この時期から、元島集落での完全な定着化が始まったと考えたい。

定着化が始まった元島集落では、区画を持った居住空間が存在し、さらに、居住区から離れた空間に、建物施設を伴わない空間(溝と不定形遺構)が広がっていたことになる。遺物から見る限り、12世紀代と比較し、13世紀代は確実に量的増加現象が見られる。特に、13世紀後半になるとその遺物はピークをむかえている。定着化とともに、遺物量が急激に増加したことも推定されよう。

Ⅲ・Ⅳ面が、ほぼ同時期に推定され、いずれも13世紀代の遺構面と想定できる。20~30cm程の中間層を挟んだ遺構面がほとんど同時期に推定され、しかもⅣ面の区画性は、Ⅲ面でも踏襲されている状況を示している。遺物量が急激に増加しているが、前述のように大部分が洪水層の中の遺物である。何らかの自然災害の被害によって、洪水層の中に混在したというのが、現時点で推定できる最も妥当な推論である。この被害が、果たしていつだったのかについては、今後さらに詳しい遺物の検討を実施していく中で明らかにしたいと考える。

3. 14世紀の遺構面

14世紀に入ると、遺物量は極端に減少する。13世紀に定住化し始めた元島集落の人々は、居住区を別の場所に求めたような状況になる。特に、14世紀前半の遺物は、100点に満たない数である。14世紀後半になると、前半の倍程度まで遺物量は増加するが、それでも13世紀代にははるかに及ばない総量である。遺物量と同様、元島集落で14世紀代の遺構面を検出することは出来なかった。前述の13世紀代の遺構面と、後述の15世紀代の遺構面の中に、若干14世紀代と想定される土坑等があるが、確実に14世紀という押さえは出来ていない。14世紀の可能性が高いという程度である。これら、14世紀と推定される遺構のみを抽出し、全体図に配置したとしても、まったく関連性を見いだすことは出来なかった。

4. 15世紀代の屋敷配置及び区画性

元島集落が最も繁栄を極めた時期にあたる。だが、その遺構面は確実に捉えられていない。というのは、遺構確認面の大部分が、大規模な自然災害によって削平を受けているためである。この自然災害については、検出された液状化の痕跡から、明応地震(1498年)の被害が確実である。

明応地震が、元島集落に与えた影響は、非常に大きなものであったと推定される。今回検出できた液状化の痕跡は、調査区全域に広がっているが、特にSD42に囲まれた区域からの検出が多い。幅約50cm程の間隔を置いて、何十本にも及ぶ液状化の痕跡が見られた。この液状化は、13世紀の洪水層から噴き上がり、16世紀代の遺構面によって覆われていた(第189図)。従って、この液状化は1200年から1500年の間に起こった地震であることは確実である。噴砂は、大きく分けて二方向に走っており、二時期の地震という可能性もある。遺物から見る限り、15世紀後半の被害が確実であるため、元島周辺における明応地震の被害について、若干ふれておきたい。

明応地震は、明応7年8月25日辰刻(午前8時頃)、東海沖を震源地として発生した巨大地震である。この地震により、房総半島から紀伊半島にかけての広い地域にわたって大津波が押し寄せ、各地で大き

な被害があったことが記録に残されている。この津波の被害を最もうけたのが、東海地方の沿岸地域と考えられている。

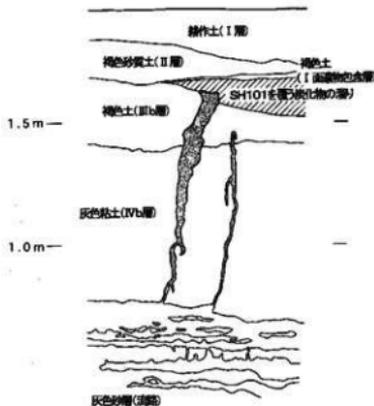
元島集落が位置している遠江地域の被害の実態を知る資料に『円通松堂禅师語録』がある。その記述についてまず紹介したい。(『静岡県史資料編中世』より)

「同月二十五日辰の刻、忽然として大地震動し、万民肝を喪う。城は地に倒れて匍匐し、城は柱を抱いて滅を待つ。老翁は合掌して仏名を念じ、幼弱は叫喚して父母を号ぶ。平地は破裂して立ち三五尺の波濤を湧出し、巨岳は分破して忽に万切余の懸崖を崩し奔らしむ。御前の風雨に破落せる残家残屋を、一等に震却して半ば地中に陥墜す。中に就いても最も憐れむべきは旅泊の海辺・漁浦の市店に聚る遠国の商人・群る近隣の買客・八宗の仏民寺院の僧房に架す。びに歌舞伎衆遊燕の輩、一朝にして時刻に渉らず、洪水天に滔りて来り、一擲指頃にして地を掃いて総て巻き去る」

『静岡県史自然災害誌』では、上記の語録の著者松堂がどの地域について記したのかについて言及している。従来、小笠郡下朝比奈(現浜岡町)の閑伝院の伝承から松堂が明応5年に同寺を創建し開山となったとして浜岡町周辺における被害を想定しているが、すでに明応地震の折には閑伝院住持の職ではなかったとし、松堂の教誨擴張活動や詩歌を通じての交流範囲を考慮すると原野谷川や太田川流域を中心に袋井宿などの東海道筋、さらには天竜川中下流域やその河口から浅羽にかけての海岸地域など広い範囲における見聞によったものとしている。

前述の語録には、最も悲惨だったのは、海岸地域の津波だったと記され、旅の途中で泊まっていた商人や客、芸能を生業とする人々が集まっていた市(淡町)が一朝にして、津波に襲われ壊滅してしまったと伝えている。この淡の位置について、『静岡県史自然災害誌』では、掛塚湊を比定している。掛塚湊を想定することを否定するわけではないが、今回の元島集落の調査所見からすれば、淡は浅羽湊という可能性も高い。事実、浅羽周辺の津波の高さは5m前後が考えられ、小笠山丘陵が伸びている先端部麓、磐田原丘陵の先端部麓までは、津波が押し寄せたと思われる。当然、浅羽湊は壊滅していたはずである。元島集落から出土した遺物総量の内、実に40%は、明応地震前50年間の遺物であり、地震直後の50年間の遺物は、約半分に減少している。遺物からも、大きな被害がうかがい知れる。また、検出された遺構もかなり削平を受けており、柱穴等は第Ⅰ遺構面では、50~80cmもの深さで検出されているが、15世紀代と想定される第Ⅱ遺構面の柱穴は30cmに満たないものが多い。これも、津波による大規模な削平による結果と捉えることもできる。

15世紀代を想定した第Ⅱ遺構面は、明応地震の被害を受け、かなり削平を受けていることは前述の通りである。従って、建物等が削平により検出されなかったということも充分考慮しなければならない。検出された中で、区画性を考えると、基本的にはⅣ面・Ⅲ面の区画性を踏襲していることが伺える。14世紀代という空白の100年間があるにも関わらず、大きな区画は受け継がれたと推定される。検出遺構の中で、区画溝と想定されるのがSD24で、SD42と接続して、一区画を形成している可能性がある(便宜状この溝に囲まれた西側区域をA地区とする)。また、SR4は溝の可能性も高く、これはそのま



第189図 1区検出噴砂断面図

ま直線と西側に接続していることが想定される。この溝と平行する南側に小規模なSD43と、同規模のSD16が確認されている。SD16は、16世紀後半に機能が停止した溝であることは確実で、15世紀代から機能していたとしても問題はない。ここに、小溝(SD43)を挟んで、BとCという区画が想定できる。また、SR4北側にもD区画が想定できる。その他、溝に囲まれたE・F・Gという区画も考えられるが、この区域ではまったく建物跡が検出されず、単に土坑群があるにすぎない。

建物については、単純に間尺のあう四角形を認定しているが、『一遍上人絵伝』等の地方の家は、かなり複雑な形をしている。したがって、本来は一軒の建物を二軒として認定しているケースも充分考えうることである。重複しているものを削除し考えていくと、一区画内の建物は、4～5棟というケースが想定される。母屋(主屋)・副屋(主屋を補う建物または、不随する建物)・納屋・倉庫もしくは小屋というパターンと推定される。建物とは当然別に、井戸と土坑があったことは想像に堅くない。母屋が大きければ、納屋や倉庫が2棟建てられ、全体の建物数は増えるが、基本的には4種の建物によるバラエティの範囲の中での把握ができそうである。A区画の場合、大型の土坑を囲んでコ字状に配置され、さらに離れた場所に別棟が存在している。B区画は、溝に沿って東西方向に横長の配置である。C区画は、南北列に縦長の配置となっている。D区画は、屋敷地の端と推定され、大型土坑が4基程並んでおり、建物の詳しい配置は判然としない。いずれにしろ、前段階からは、居住区がかなり広まってきていることだけは確実である。溝の確実な年代的押さえと、井戸や墓等が確認されていれば、かなり詳しい建物配置が復元可能であろうが、残念なことに削平の影響が大きき、前述程度のことしか判明しない。2区については、調査に至る経過でもふれた通り、第2面は部分的な確認にとどまっているため、空白域が生じていることは如何ともしがたい。

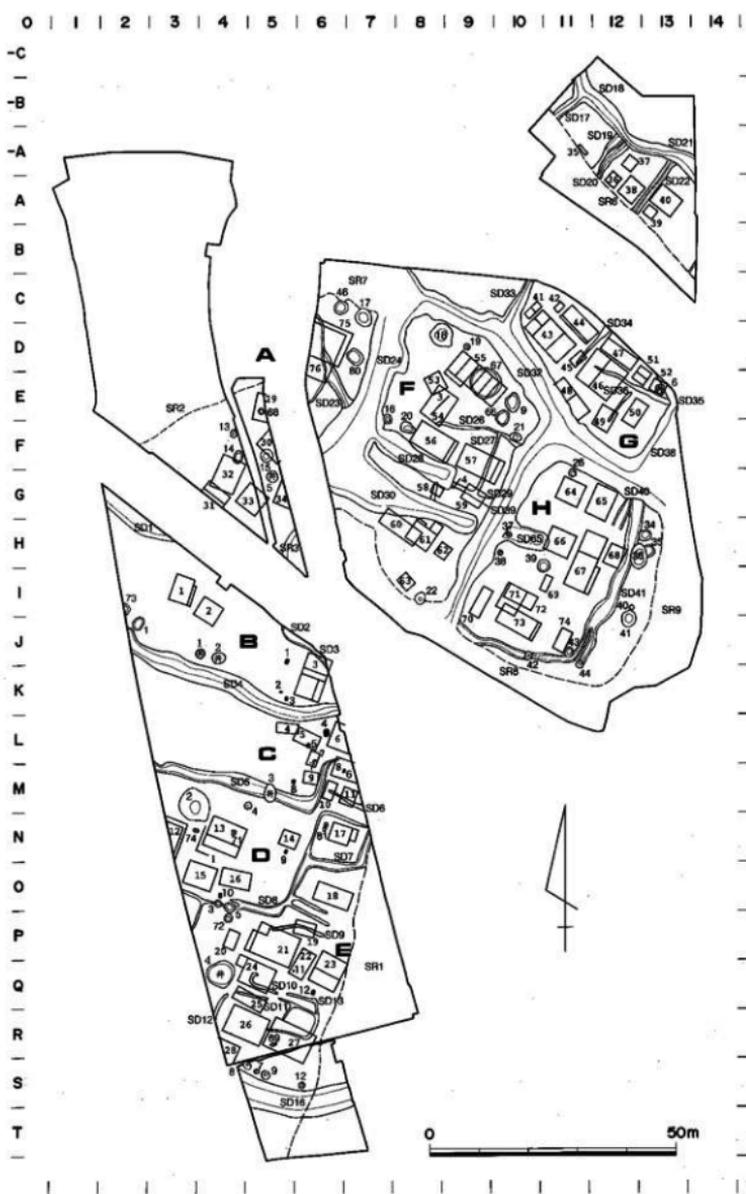
5. 16世紀代の屋敷配置及び区画性

最も、建物跡や井戸、墓、溝状遺構等が検出・確認されたのが第I遺構面である。この第I遺構面の年代は、明応地震後に復興され、慶長年間に移転するまでの約100年間の集落である。ほとんど同一面で検出されているが、出土遺物と検出状況から16世紀の前半と後半に分けられる遺構も存在している。

元島集落が最も繁栄を極めたのは、遺物から見る限り、15世紀後半のことである。瀬戸製品で言えば、古瀬戸後IV期新段階のことで、常滑製品なら10形式の頃のことになる。ところが、遺構で見える限り最も大規模に展開しているのは、16世紀前半から後半にかけてである。これは、前述のように明応地震による大規模な被害のためと考えざるを得ない。16世紀代の遺物量は、15世紀後半に比較するとその量は、半数に激減している。当然、集落規模も縮小しているとするのが妥当であろう。とすると、削平を受けていなかった場合、第II遺構面も、第I遺構面と同様、それ以上に建物群があったということになる。

第I遺構面で集落区画を考えるにあたって、後世の流路による削平部分の範囲を捉えなくてはならない。確実にこの遺構面を破壊している流路は、SR1・SR2・SR3・SR6・SR7・SR9である。この内、SR6については、近代の流路と考えられる。他の流路については、本来あった溝に沿って流れ、周辺域を削平したということも想定できる。ただ6区全域にわたって、第I遺構面が削平を受けていたことから、SR9・SR8・SR1が接続して、大規模に流れた時期があったと思われる。

これらの流路を除外したものが、屋敷地を区別するための区画溝である。この区画溝も、16世紀前半から機能していたものと、後半になって新たに掘られたものとに区別される。SD5・SD7・SD8・SD10～13は、確実に16世紀後半の溝である。遺物から見た、最もこの集落で重要な役割りを担っていたと推定される溝は、SD24・SD39・SD32の三条である。これらの溝は、明応地震以前から機能していた可能性が高く、集落区画の基本となった溝の可能性が高い。いわゆる、始めに溝ありきで、それに合わせて建物群が配置されていたということである。これらの溝は、ほぼ直角に交差しており、



第191図 16世紀代(第I層)遺構全体図

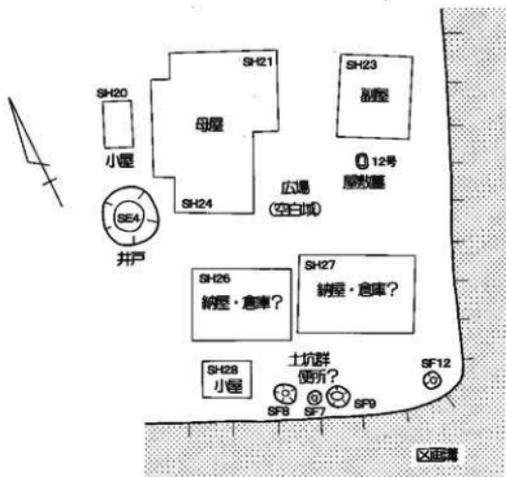
おそらくクリークとして、太田川や原野谷川と接続していたと推定できる。SD28、65とした溝状遺構は、舟入りと考えられ、ここに小型船を付けた可能性が高い。遺物の詳細な分析が実施されていないため、確実ではないが、これらの溝に囲まれた区域の中の掘立柱建物群は、クリーク外に広がる建物群とかなり性格が異なることが推定される。おそらく、倉庫の機能を持つ建物が広がっていたことが想像に困くない。

これらの溝について、重要となるのがSD4・SD16・SD18、21・SR9によって破壊された溝の四条であろう。SD16は、集落の南限を区画するための溝と推定され、この溝より南側の区域に確実な遺構は検出されていない。また、遺構として捉えることはできなかったが、プラントオパール分析によって、確実に水田域が広がっていたことが判明した。16世紀代には、集落南側で水田耕作が行なわれていたのである。また、北側を区画する溝は、SD18、21と考えられる。この溝の北側には、やはり確実な遺構は見られない。集落は、両溝に区画された範囲の中で展開していることになる。区画された集落の南北の範囲は、約200mである。

16世紀末頃になると、集落規模も縮小傾向に向かい、集落は南側から徐々に数を減らしていったことが、出土遺物から想定できる。最終的に残った集落は、SD4から北側の可能性が高い。

これら区画の中に設けられた屋敷地については、他の面と比較してかなり確実な復元ができそうである。というのも、確実に井戸が検出されているからである。便宜状、AからIまでの9区画に分けて、この時期の屋敷範囲と機能を考えたい。一屋敷地は、第Ⅱ遺構面でも想定したように、母屋（主屋）・副屋（主屋を補う建物または、不陸する建物）・納屋・倉庫もしくは小屋というパターンに変化があったということはあるまい。建物の大小の変化、または納屋や倉庫の数の変化があった程度と推定される。今回の検出事例の中で、最も屋敷配置の復元が可能なE地区は、10棟の建物が検出されている。うち、SH19・22・25は、主軸を異にするため、時期が異なると考えられる。SH28は、南側を区画溝SD16が流れていることから、大きな建物は想定できない。また、井戸（SE4）と屋敷墓（12号）が確認されている。これらの諸状況から判断して、屋敷配置を想定してみたい。まず母屋であるが、SH21と考えられ、これにSH24とした建物

が付設して一棟の可能性が高い。SH23が副屋、SH26・27が納屋もしくは倉庫、SH20・28が小屋と想定できる。母屋の西側には井戸が配置され、屋敷墓は、建物によってコ字状に囲まれた空白域の北東角に配置されている。扇にいう鬼門の位置にあるが、意識された配置かどうかは判然としなない。この空白部分は約100m程の広さを持つ。その他、建物域を区画する溝に沿って、4基の土坑群が並んでおり、うち1基は便所の可能性がある。この便所の可能性がある土坑については、寄生虫卵の分析が実施中であり、『遺物編』で報告する予定である。

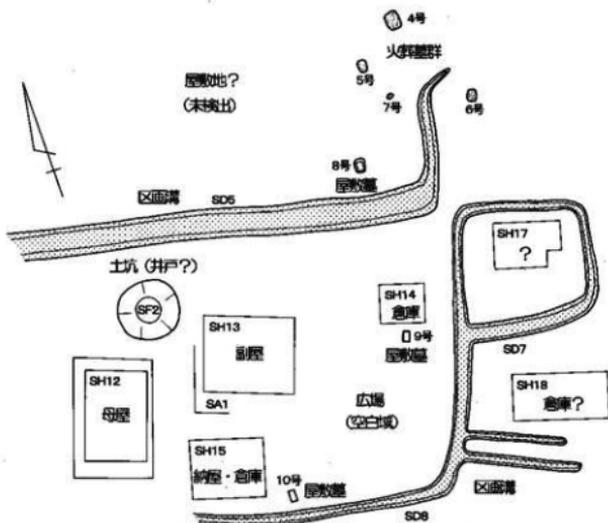


第192図 16世紀代の屋敷配置図(1)

この配置が、この時期の平均的屋敷地と考えるなら、他の区画についても、同様なパターンで屋敷配置があったとして問題あるまい。D区画については、調査範囲外へ建物群が広がっているため、確実性にかけるが、SH12を母屋とし、SH13を副屋、SH15が納屋もしくは倉庫、SH14が小屋ということになろう。この屋敷に伴う屋敷墓が9号墓と考えられる。井戸については、2号土坑の可能性も高いが、発掘区外ということも十分想定範囲である。また、屋敷地の東側には、前時代同様の空白域が存在する。南側10号墓が、この屋敷地に伴うものなのか、それとも別のものなのかは、現時点では判然としない。

この区画Dであるが、北側の溝SD5と東側から南側に位置するSD7、8は、16世紀後半になって設けられた可能性の高い溝である。SH17を取り囲む方形の溝も一連の溝である。こうした状況から、D地区がE地区より新しい可能性もある。その場合、SH13を中心とする屋敷地が、区画溝の中に配置され、さらに屋敷地北西隅に方形に囲まれた建物が存在したことになる。この方形に囲まれた区画が何なのかは、詳細な遺物検討をした上で結論を出したい。現時点では、他の建物と性格を異にする建物としか言えない。この新しい区画溝が設けられた時点でも、すぐ北側のSD4は機能を停止していない。なぜ平行する形で、新たな溝を設けなければならなかったかは判然としれない。C区画の墓が集中する箇所との関連も、不明である。

次に区画Cであるが、ここは西側が後世の洪水層に伴う礫層が堆積しており、かなり削平を受けており、遺構が検出されていない。ここにも、屋敷地が想定されるが、調査所見からは何とも言い難い箇所である。中心建物は、SH6・7が検出された部分で、この建物群に伴う井戸がSE3であろう。北側に区画溝SD4があるため、区画Eと同様な状況で配置されていたと推定されるが、特定できるまでの資料はなかった。また、この地区には、全部で5基の墓があり、この墓は土葬、火葬が混在した状況である。墓と建物群の新旧関係を把握するまでには至っていないが、7号墓は、建物群が廃絶した後に造



第193図 16世紀代の屋敷配置図 (2)

られた可能性が高い。4号、6号は火葬であるため同時期と考えたい。5号は、元島集落では唯一の土墳墓で、15世紀代の可能性もある。8号墓のみ、前述の9号、10号、12号と同一形式であるため、同時期であろう。これらの状況から、少なくとも3時期の墓が存在することになり、当然それらに伴う遺構群が存在するはずだが、そこまでの特定は出来なかった。ただ、この区域に一屋敷地が存在するという点だけは、確実である。

区画Bについては、区画C西側と同様に、かなり削平を受けており何とも言い難い。SH1及び2とSH3との関係も判然としない。唯一、1号井戸より、2号井戸が新しく、16世紀末に比定されるということである。従って、1号井戸を使用した時期の屋敷地と、2号井戸を使用した時期の二時期にわたり屋敷地が営まれていたということになる。そして、この井戸に伴う区画溝がSD4であり、土坑群がSF1及び73であろう。SH3の西側にも、C区画同様、火葬と土葬の墓が検出された。やはり2時期を考えたい。このSH3に伴う建物は、発掘区外になるため確認されていない。

区画Aが、最も遺構面が確認されている区域で、第1遺構面から第4遺構面まで検出されており、その区画はSD24に左右されている可能性が高く、四遺構面とも区画溝に沿った配置が想定できる。A地区での、屋敷配置もやはりSR2や3の関係、B・C地区で見られた洪水層の影響によって確実性に欠けるのが現時点の見解である。ただ、この地区の屋敷地の井戸がSE5であることだけが確実な状況である。この井戸枠材が、構造船の部材を再利用したものであった。そのため、この時期も船を利用した運搬がかなり頻繁に行なわれていたことが確実である。しかも、確認された船は、長さ約10m前後の川船であった。おそらく、10m前後の船を利用して物資の運搬にあっていたと考えられる。

G区画も、前述のような屋敷地の可能性が高い。6号井戸を中心にして建物群が配置されていたようだが、新旧関係がつかみきれなかった。おそらく、SH46もしくは47を母屋として、後方43もしくは44が副屋、北側に納屋なり小屋があったと想像される。

これらの地区と、まったく様相を異にするのが、F・H・I地区である。I地区は、SR6によって削平を受けている部分に母屋や井戸等があったと仮定すれば、屋敷地として捉えることも可能ではある。だが、F・H地区は、そういう状況ではない。他の地区と大きく異なる点は、①井戸が存在しない②墓が存在しない③舟入り状の遺構が区画ほぼ真中西側に存在する④区画の廻りが、すべてクリーク状の水路で囲まれている⑤建物群が大型となる、の5点をあげることができる。これらの状況から判断するに、このF・H区域は、居住区域ではなかったという結論が導きだせる。F区域内で最も大型の建物は、SH55である。掘り方も大きく、他の建物とは異なり、確実に南北の柱位置が一致している。他の建物とは、別の用途が想定されよう。次いで、注目されるのはSH56・57で、このほぼ平行して並ぶ二棟の建物は、舟入り状遺構SD28と、平行し隣接している。舟入り遺構と強い関連を持つ建物の可能性が高い。土坑も、すべて区画溝縁辺部に配置されており、井戸の可能性を持つ土坑も存在しない。従って、このF地区は、かなりの確立で非居住区域と推定される。

H地区もほぼ同様の状況であるが、SF39と、舟入り状遺構SD65の存在が非居住区域とするに疑問を呈している。SF39は、現時点で土坑という判断を下したが、抜き取られた井戸という可能性も捨てがたい。また、F・H区域の中で、唯一縁辺部に存在しない土坑でもある。この位置関係が気掛かりな点でもある。建物配置も、SF39を囲むようにコ字型の配置になる点も、井戸の可能性を考えざるを得ない状況ともなっている。舟入りと想定したSD65の規模も、問題点の一つである。5号井戸の井戸枠材に転用されていた同時期の舟は、復元全長が約10m前後の大きさとなる。だが、この舟入り遺構は、9m前後しかない。対して、F地区の舟入り状遺構は、18mとほぼ倍の長さを持っている。確かに大型建物もあるが、小型建物が多いことも非居住区とするに問題となりそうである。いずれにしろ現時点で、出土遺物の詳細な検討が実施されていないため、上記だけの理由で、非居住区とするにはかなり難しい。

だが、出土遺物の詳細な検討を実施すれば、かなり高い確立で居住区か否かは確定されよう。特に、3,000点強の出土総量を数える煮沸具（土製鍋）の分布が手がかりになろう。様相が異なるF・H区域全域が、居住区域外なのか、それとも住居施設を併設してはいるが居住はしていない場所だったのだろうか。詳しい状況は、再度『遺構編』にて、検討することとする。

第Ⅰ遺構面を、区域分けして屋敷地や区画性について検討してみたが、あまりに不確定な要素が多く確実性に乏しいと言わざるを得ない。しかし、現時点での可能性ということで、あえて提示を試みた。あくまでも可能性として、第Ⅰ遺構面の全体区画についても触れておくことにする。集落は、南北境を溝によって囲まれた範囲に展開しており、F地区を非居住区として想定すると、非居住区（集落全体の共同区画）を中心にして、クリーク状の水路を張り巡らしていたことになる。そして、非居住区を取り囲む形で屋敷が区画されている。屋敷地は、非居住区から遠ざかる程、生活具が強くなっていった。さらに、集落を区画する溝の南側には、水田域が広がっていたのである。これらの集落全体の景観を考えた場合、非居住区を中心にして、交易によって生計を営む区域と、南側水田耕作と漁労を中心にして生活を営む2パターンに分離していた可能性も考えられる。

プラントオパール、花粉分析の結果から、水田耕作は、第Ⅰ遺構面・第Ⅱ遺構面で確認され、さらにその下層も水田の可能性が高い。特に、第Ⅰ面においては、水田の他に蕎麦畑が広がっている可能性も高く、かなりの規模で農業が実施されていたことが判明する。かなり大規模な農業が営まれていたと仮定すると、集落を支えている生活基盤は当然農業に求めていたと推定される。だが、出土遺物から考える限り、農業に基盤を置いた集落とも言い難い部分が多い。従って、前述のような、農業を基盤とする集落と、交易を基盤とする集落が合体して、元島集落を形成していたという可能性が生まれてくるのである。その場合、在地領主（遠江の場合、国人領主か）との関係や、在村地主（名主層）と集落を構成する住人との関係がつかみきれない。元島周辺での、この時期の文献が極端に少ないため、いかんともしがたい。遺物をさらに詳細に検討しつつ、各種文献について再度検討し、『遺物編』において、より具体的な集落構成が判明していればと考える。

最後に、少しふれておきたいのは、遺跡の状況である。これ程良好な遺構が確認されたにもかかわらず年代特定の幅がありすぎるのは、すべて洪水層のためである。度重なる洪水層の年代特定とまではいかなくとも、遺構面の前後関係を把握できるなら、かなり具体的な変遷を追うことが可能となろう。幸い道路敷部分と磐田用水部分の調査が残されている。今回の調査結果をふまえた上での調査となるため、より確実な年代特定が期待される。

第3節 元島集落の墓制

元島遺跡からは、合計14基の墓が検出されている。また、宝篋印塔が3点、五輪塔が1点、蔵骨器として使用されたとが推定される古瀬戸製品は、13世紀代が3点、14世紀代が20点（いずれも破片数）出土している。しかし、宝篋印塔も蔵骨器が推定される製品も、すべて原位置を保っておらず、流路もしくは溝内からの出土品である。そのため、元島遺跡では石塔を建てた墓、蔵骨器を埋めた墓は検出されていない。

検出された墓は、火葬墓と土葬墓と集石墓に大別される。土葬墓が8基、火葬墓が4基、集石墓1基、不明1基であった。これらの墓の中で、確実に時期決定が可能な遺物が出土した墓はない。唯一、土葬墓と推定される土墳墓から、かわらけが1点出土しているだけである。

集石墓は、集落から約10m程離れて位置しているが、周辺域に広がっておらず単独で1基のみ構築された墓である。おそらく、元島集落の屋敷墓の始まりと推定でき、時期は13世紀から14世紀代と考えられる。副葬品や蔵骨器もなく、丸石の間に骨がちらばっているだけである。この墓が元島集落では最も古い墓ということになる。

土葬墓は、大きく3種類に分けられる。棺桶状の四角形の箱に納められた墓、土墳墓、板状の上に置かれた墓の3種類である。棺桶状の四角形の箱に納められた墓からは、遺体が検出されており、大部分が浄土信仰受容に遡り側臥屈葬（北を向き、西側に向かって合掌するような形）であった。また、六道銭と考えられる貨幣が副葬されているものが大半であった。貨幣の数は、6枚・3枚・12枚とかなりバラツキが見られるが、基本的には6を意識した数字でおさまっている。時期としては、貨幣以外の副葬品がないため、推定の域をでないが16世紀代の可能性が高い。ただ、1基のみ遺構面を覆う流路層内で確認された墓があり、これのみ16末から17世紀ということも想定される。

土墳墓については、副葬されていたかわらけから16世紀代と考えられる。板の上に歯のみ検出された墓は、掘り方も確認されており、検出された板だけで完結していたと思われる。従って、頭部のみ埋葬とか、子供の埋葬とかが推定されよう。副葬品がないため、時期決定はできないが16世紀代とするのが妥当であろう。

4基検出された火葬墓は、いずれも形態が異なっている。まず骨が全域に広がっておりその場で焼いて、そのまま埋葬されたと考えられるケースの墓がある。この墓には、貨幣が3枚副葬されていた。また、焼土層が全域に広がるにもかかわらず、骨の数が非常に少ないものがある。これには、副葬品もなく骨分の可能性も考慮する必要がある。同じケースだが、極端に穴が小さいものも1基確認されている。さらに、棺桶に入れた遺骸を焼いたと推定される墓が1基あった。焼土内から、釘が2点確認されているため、何らかの釘を使用した物と一緒に焼いたことが想定される。最も確立の高い遺骸と共に焼く、釘を使用する物と言えば棺桶であろう。また、この墓には、かわらけが副葬されていたが、あまりに焼成を受けているため、時期は明確にできなかった。これらの火葬の年代は不明であるが、副葬されているものが土葬墓とほぼ同様であるため、同時期の16世紀と考えたい。

最後に、1基のみ確認された小型曲物の中に、歯のみ埋葬された墓は、第1遺構面の包含層内での検出であるため、17世紀初頭という想定も可能である。

いずれにしても、これらの墓はほとんど同時期の可能性が高い。同時期でありながら、異なった埋葬方法を用いている理由は、被葬者の所属する社会の宗教観の違いなのか、それとも所属階層の違いなのかは、現時点で何とも言い難い部分が多すぎる。

これらとは別に、宝篋印塔・五輪塔・蔵骨器と推定される14世紀代の遺物がある。そのため、検出されていないが宝篋印塔や蔵骨器を使用した墓が存在したことも推定される。

第4節 方形区画の築造時期と特徴

4区第1遺構面で、長辺約28m・短辺約19mの方形に区画される溝状遺構が、海拔0m前後で検出された。遺構の大部分が、後世の洪水もしくは津波等の自然災害の影響によって削平を受けており、確認された溝の深さは10～20cm前後であった。

方形区画内のほぼ中央部には、1号墳が築造されている。墳丘は削平を受けており、周溝から出土した遺物は、古墳時代前期の土器であるが、この遺物は古墳築造時に地山に含まれる土器が混入したものと考えられる。

従って、前述のようにこの方形区画は、古墳より新しい時期と考えられ、8世紀頃の築造と想定したい。区画の中に小穴が多数確認されているが、同時期の遺構は明確でない。区画内の掘立柱建物は、7棟想定されるが、すべて古墳時代前期の建物の可能性が高い。唯一、21・22号建物の方位が区画と類似する程度である。

区画溝の深さが非常に浅い状態で検出されているが、築造当初はさらに上層から掘削されていた溝の可能性が高く、土塁を伴った溝であったことも想定される。遺構検出面上層は、河川氾濫もしくは津波等の自然災害によって急激に堆積した状況であった。本来、区画内は周辺より高く土壇状に盛土されており、遺構ともども自然災害によって削平を受けたとの推定もできる。

同時期と認定した2棟の掘立柱建物は、全ての柱穴が溝と検出面が同じということ程度で、確実性に欠けることは事実である。

方形区画内で確認された小穴は、区画の北側と南側で様相が異なる。区画南半分は、氾濫による削平や近代井戸による攪乱があるにもかかわらず、小穴が多く残り建物域として利用されていたという可能性も残る。しかし、区画北側は、小穴そのものが少なく、氾濫による削平を勘案したとしても、南半分の状況とは異なる。これらの状況から、区画内で、北側と南側の利用方法が異なっていたということも推定されるのである。

また、区画内には5基の井戸があり、一定の幅で一直線上に並んでいる。しかし、区画外にも延長線上に井戸が3基あるので、区画内に計画的に配置されたとは考えにくい。おそらく地下水脈に規制されて掘削されたため、ほぼ直線上に並んでしまったのであろう。各井戸から出土する遺物も、古墳時代前期から中期と時期差は少なく、この時期に次々と掘られたもので、方形区画と同時期まで下る井戸ではないと推定される。

県内において、このような方形区画を持つ遺跡に、長者屋敷遺跡（磐田市）がある。長者屋敷遺跡は、東西幅約100m、南北幅約60mの盛土の土塁を台形に廻らし、南辺の中央と区画北東隅に「通路」が設けられている。また、土塁内側と南辺外側に堀を有している。土塁の南西隅では、横六式石室を持つ古墳を墳丘ごと取り込んで、土塁の一部として利用している。

規模は、長者屋敷遺跡と異なるが、形態が非常に酷似しているため、類似点と相違点をあげ両遺跡の方形区画についての検討したい。

類似点は、

- (1)全体のプランは台形で、縦横比率がほぼ一致する。（なお、元島遺跡の方形区画は長者屋敷遺跡の方形区画土塁の約3分の1で、築造されている可能性もある。）
- (2)溝で区画を行なっている。
- (3)台形の区画の長辺または、短辺に入口を有する。
- (4)台形の区画のコナー部に「通路」を有する。（特に元島遺跡の方形区画の北東隅の切れ目が「通路」という推定がただしければ、両者とも北東隅を開けるという点で一致する。）

(5)区画内または、区画に重なって古墳が存在する。

の5点が考えられる。

一方で相違点として

(1)元島遺跡では、土塁が検出されない。

(2)長者屋敷遺跡では、南面に二重の堀が存在するが、元島遺跡では確認されない。

(3)「通路」の位置・方位が両者で異なる。

(4)長者屋敷遺跡では、内部に建物を伴う。

(5)長者屋敷遺跡では、祭祀に伴うと考えられる土器が多数出土している。

の5点をあげることができる。

相違点の(1)については、元島遺跡では土塁が存在していたが、後世の氾濫による削平で消滅した、または当初から土塁は存在せず、溝内部が土壇状に盛土されていたが、後世の氾濫による削平等により消滅してしまったとも考えることができる。

(3)については、長者屋敷遺跡の祭祀的性格から考えると、入り口や「通路」の位置や方位の違いに意味があるのかもしれない。また、北東隅の「通路」が共通するとすれば、この方角を開けるという何らかの規範が存在したとすることもできよう。

(4)・(5)については、(1)と同様の理由で検出できていないと考えることもできる。

さらに検討を加える必要があろうが、以上の検討の結果から、元島遺跡と長者屋敷遺跡は類似点が多いと結論づけることができよう。長者屋敷遺跡は、祭祀的性格が強いとする説もあることから、元島遺跡の方形区画も類似する性格を有する可能性がある。区画の一隅に「通路」がある理由も、この観点から解釈を試みる必要があろう。

区画内に古墳が存在することも共通するが、古墳の築造時期と方形区画の築造時期の時期差が両者で開きがあり、一概には共通すると断定できないが、古墳を何らかの形で取り込むことに意味があるとすれば、両者の祭祀的性格を裏付けることとなろう。

また、元島遺跡の方形区画は一定の尺度を使用して設計されている可能性もある。

図194のとおり西辺を基準線とし、溝を復元推定したところ、横27.2m・縦18.6mとなる。横幅を二等分し中軸線とし、西辺の北側を計測すると土橋状の「通路」が1.7m、SD4が8.5m、中軸線までが3.4mを計る。これを通路幅の1.7mで割ると1:5:2の整数比となる。

この1.7mという数字で、方形区画の各所を計測すると下記の点で整数で割り切れる(カッコ内は整数比)

(1)SD3の外縁とSD4の北橋の距離が1.7m(1)

(2)SD4の延長が8.5m(5)

(3)SD4と中軸線の距離が3.4m(2)

(4)方形各南北幅が27.2m(16)

(5)方形各東西幅が18.6m(約11)

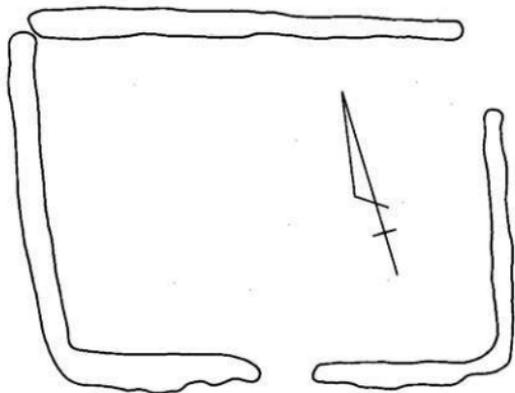
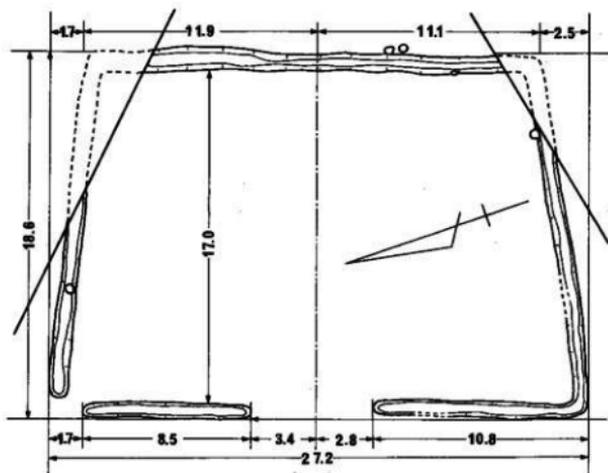
(6)SD2とSD4の内側距離が17.0m(10)

(7)SD3が南へ内斜する距離が1.7m(1)

方形区画の中軸線より南側では、この1.7mという数値に合致しない部分もあるが、地形が傾斜しているため、やや設計がずれた可能性も考えられる。

ただし、断っておかなくてはならないのは、この1.7mという数値はあくまでも検出面で計測した際の尺度であり、本来の掘り込み面はさらに上層であり、傾斜面を考慮すると、異なる結果がでる可能性は充分にある。

報告者には、これら遺構の築造規格について解明する知見はなく、この数値が意味を有するか否かを論ずる力はない。さらに類似する遺構との関係についても、今後ご批判を仰ぐと共に、研究の進展を期待したい。



長者屋敷方形区画概略図

0 30m

第194図 元島遺跡と長者屋敷遺跡の方形プラン

第5節 弥生時代から古墳時代前期集落の変遷

元島遺跡では、弥生時代から奈良時代にかけての遺物が出土している。遺構としても弥生時代中期の方形周溝墓群、古墳時代前期の集落、古墳時代中期の墳墓群、奈良時代前後の集落が確認されている。出土遺物の量としては、弥生時代中期が一定量存在し、後期の土器は1～2点と極端に少ない。古墳時代前期になると、爆発的に土器量が増大し、前期末から中期初頭にかけて急激に減少傾向をたどる。中期の土器器類は、ごく少量であるが、中期後半の須恵器がかなりの量出土している。須恵器は、6世紀末から7世紀初頭のかけて、さらに増加し、これ以後の遺物は見られない。

1. 弥生時代

元島遺跡において、最も遡る遺構は、方形周溝墓群である。方形周溝墓群の築造時期は、出土遺物から弥生時代中期後半と考えられる。この方形周溝墓群は、海拔-20cm前後の砂堤状に築かれている。遠江で確認された方形周溝墓群としては、浅羽町の権現山遺跡と共に、南限に存在するものである。

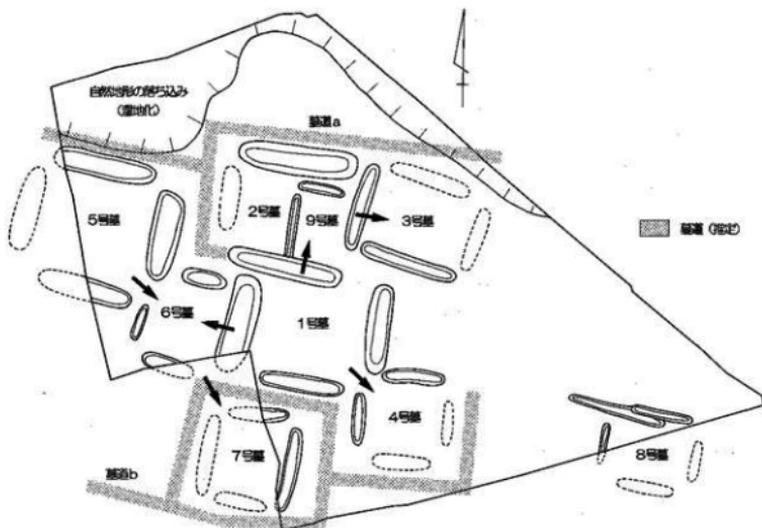
遺物量が少ないこと、後世の氾濫に伴う削平、自然地形の落ち込みによって、確実性に欠ける部分が多いが、方形周溝墓群は二時期に大別されようである。検出された方形周溝墓は、9基であるが、内2基(8号墳・9号墳)が、他の方形周溝墓に先行すると予想される。この2基は、共に四隅が離れ陸橋としていたようで、単独で構築されている。規模は、共に長辺が約8m・短辺が6mと、方形周溝墓としては、中～小型の部類である。確実にこの方形周溝墓に伴う土器はないが、8号墳の北側溝(SD1)に沿って位置するSD3内から、白岩式の最も古い段階にあたる壺が出土している。積極的にこの時期と認定する資料とはなり得ないが、白岩段階の方形周溝墓と考えたい。

この2基の方形周溝墓より、新しい段階として1～7号墳の7基の方形周溝墓が考えられる。7基の規模を比較すると、1・5号墳が15～20m内外、2・3号墳が15～10m内外、4・6・7号墳が10m内外と、大きく三つに大別される。また、溝を共用しない単独構築の墳墓は、5号墳・7号墳・4号墳の3基である。内4・7号墳は、規模も小さく単位群の中心となる墳墓とは想定できない。規模及び墳墓の配置から推定するに、単位群の中心となる墳墓は、1号墳と5号墳と考えられる。

中心と推定される1号墳と5号墳を基点として、周辺の墳墓群は構築されている。1号墳を基点とする単位群は4基で、1号墳→2号墳→3号墳→4号墳という構築順序が想定される。対して、5号墳を基点とする単位群は3基で、5号墳→6号墳→7号墳という方向性が見いだせる。だが、6号墳は、1号墳の東周溝を共有して築かれていることもあり、1号墳の単位群に含まれることも想定される。その場合、7号墳への広がり曖昧になり、あまりに無秩序な構築順序となる。また、5→6→7号墳という構築順は、瀬名遺跡(静岡市)に見られる周溝墓のコーナー部分に、次々と造墓をくりかえして群構成と同様である。それらの観点から、上記のような2単位群を想定した。両単位群の内、どちらが先行するかという問題であるが、確認された方形周溝墓群の中央に位置する1号墳が先行するとした方が、無難と考える。

出土遺物は1点のみで、1号墳西側周溝から白岩式の古い段階の壺が出土している。この壺は、8号墳に関連すると推定した壺と、ほぼ同時期の壺である。ということは、単独で2基確認された、8・9号墳と、大きな時期差を持たず、1～7号墳が築造されたということになる。

7基の方形周溝墓が、溝を共有したり、はたまた単独で構築されたりというばらつきは、属に言う墓道に規制されたためという想定もできる。現状で、墓道を推定すると、墓道aと墓道bの二筋の墓道が推定される。この墓道は、北側と南側にそれぞれ位置し、微高地が自然地形により落ち込んで行く際を通る道となっている。後世の湿地化と、磐田用水による発掘区の限界によって、東側の広がり確実に



第195図 方形周溝墓群構成図

押さえられていないため何とも言えないが、7号墳・4号墳を単独構築することによって、墓道を確保したという可能性も指摘できる。

今回検出された9基の方形周溝墓の平面形態は、全て四隅の切れるもの（四隅に陸橋を持つタイプ）である。時期決定の資料たる土器は、前述のように2点のみしか出土していないが、白岩式の段階におさまる方形周溝墓と断定して問題はないと考える。周辺域については、調査区外となる西側と現太田川が流れる部分を除けば、上流域・下流域ともかなりの範囲に渡って、調査（試掘を含む）を実施したが、この時期もしくは、この墳墓を築いたと推定できる集落を検出することは出来なかった。従って、この墳墓群を造成した中心集落は、砂堤列のさらに内側（西側）に展開している可能性が高い。中心集落から離れた砂堤列の先端部の丘陵上に築かれた墳墓であろう。

近接地域における同時期（弥生中期）の方形周溝墓は、

馬坂遺跡（磐田市・中期中葉）＝四隅が切れる周溝墓が1基？、一隅が切れる周溝墓が1基？

京見塚遺跡（磐田市・中期後葉）＝四隅が切れる方形周溝墓5基が連結して確認

権現山遺跡（磐田市・中期）＝2基の方形周溝墓が連結して確認

新豊山山A遺跡（磐田市・中期～後期）＝基数不明の周溝墓

広野北遺跡（豊田町・中期～後期）＝四隅の切れる方形周溝墓5基

王子遺跡（浅羽町・中期？）＝形状不明4基で、連結？

権現山遺跡（浅羽町・中期？）＝四隅の切れる周溝墓1基

北山遺跡（浅羽町・中期後葉？）＝連結する四隅の切れる周溝墓6基

掛の上遺跡（袋井市・中期後葉）＝四隅の切れる周溝墓8基、中央部一隅の切れるもの1基

大門遺跡（袋井市・中期）＝四隅の切れる周溝墓1基

愛野向山A一遺跡（袋井市・中期後葉）＝二隅切れ、周溝が一条欠けるもの1基
愛野向山遺跡（袋井市・中期）＝四隅が切れる周溝墓2基、形状不明3基
宇佐八幡境内遺跡（袋井市・中期）＝四隅の切れる周溝墓9基、連結関係あり
山下遺跡（袋井市・掛川市・中期中葉）＝四隅の切れる周溝墓8基、形状不明9基、連結あり
大ヶ谷遺跡（掛川市・中期）＝四隅の切れる周溝墓？5基

と、かなり多く確認されている。大部分が四隅の切れる方形周溝墓で、連結関係にある墳墓が多く見受けられる。中でも、基数が多く確認されている掛の上遺跡・山下遺跡・宇佐八幡境内遺跡においては、墓道を境として列をなすように、次々と方形周溝墓が築かれている。その際、列をなす周溝墓は、溝を共有し連結しているが、異なる列との共有関係は見られない。

こういう観点で見た場合、明らかに元島遺跡の方形周溝墓は、列をなして築かれてはいない。一見無秩序のように見受けられるが、1号墳を中心として放射状に築かれていったために起こった現象と推定される。5号墳を基点とした墳墓群は、斜め南東側に向かって築造されているが、これは、前段階にある1号墳の単位群に左右されたためか、自然地形に規制されたのか、それとも調査区外西側の状況が不明のために、このような単位設定を現時点ではせざるを得ないためなのかは、今後の課題としたい。

元島遺跡における、1号墳を中心とした放射状の造墓、5号墳を中心としたコーナー部分に造墓を繰り返す事例は、前述の周辺域の方形周溝墓では見られない。放射状の造墓は、能島遺跡（静岡市）・瀬名遺跡でも確認でき、さらにコーナー部分に造墓を繰り返すのは、瀬名遺跡でも確認される。これらの類例は、遠江では確認されておらず、むしろ駿河での事例が多い。また、朝日遺跡（愛知県清洲町）で確認された膨大な方形周溝墓群の中に、大型方形周溝墓を基点として、中型・小型方形周溝墓が次々と造営される類例もある。安易な考えではあるが、遠州灘沖に立地する元島遺跡の方形周溝墓は、海路を通じて、直接伊勢湾・尾張から持ち込まれたとしても問題ないと思われる。

当然、集落内の階層化の段階差や、交易に伴う経済力や他共同体の影響等、様々な要素によって方形周溝墓の造墓形態に変化や影響があったことは推定される。しかし、元島遺跡の方形周溝墓を構築した中心集落も未発見の今、それを論ずる資料はない。ただ、現段階において確実なことは、弥生時代中期には、遠州灘の砂丘列上に安定化した集落が営まれていたということである。元島遺跡において、方形周溝墓群が、海抜以下で検出されるまでは、弥生時代に遠州灘の砂丘上まで、安定した集落の進出はないと考えられていた。しかし、この時期すでに、安定化した集落が営まれていたことが確実となったのである。今後、遠州灘沖の砂丘列状に次々と集落が発見されれば、弥生中期の海岸線に展開する集落の様相が、よりはっきりしてくるであろう。

2. 古墳時代前期

古墳時代前期に比定される遺構面は、4区・5区で約4,000㎡が確認された。うち、4区約1,700㎡で、掘立柱建物群が検出されている。5区では、遺構は検出されず、砂堤列の落ち込み部分の際に沿って、廃棄されたと推定できる状況で、多量の土器が確認された。一部、砂堤上にも土器が集中する箇所もあったが、土坑等という遺構に伴う状況ではなかった。4区から5区にかけて、砂堤列が舌状に伸びていることが推定され、4区北端と5区南端では、約10cm前後のレベル差があり、南に向かって自然に落ち込んでいる状況である。

前期に比定される遺構のうち、北側に展開する掘立柱建物群は、28棟確認され、うち2棟が1間×2間で、他は全て1間×1間の小型建物である。これら建物群は、方位から3グループに分けることが可能で、おそらく3時期程度の時期差があると推定できる。出土遺物は、非常に多く、破片数では10万点を越える。大部分が、廃棄された状態での出土であり、遺構の時期決定をするに足る資料は極端に少な

い。また、前述のように、後世の氾濫による削平を受け、本来の確認面と推定される部分より、かなり下層での検出であった。

出土遺物は、建物群と同様、3時期に分けられる。古墳時代前期前葉（廻間Ⅱを中心とする時期）、古墳時代前期中葉（廻間Ⅲを中心とする時期）、古墳時代前期後葉から中期前葉（松河戸を中心とする時期）の3時期である。土器だけを見るなら、廻間Ⅱ～Ⅲの時期が最も多く、集落もこの時期が最も栄えた時期と推定できる。

元島集落は、弥生時代中期に急激に形成され、その後縮小傾向をたどることは、出土遺物からも明らかである。弥生時代後期に比定できる遺構面もなく、土器も極端に少ないというより、無いとした方がより近い状況である。従って、弥生時代から継続した集落が、そのまま古墳時代前期に繋がるということは考えにくい。廻間Ⅱを中心とする時期に、集落の再構築が始まり、廻間Ⅲ段階で大規模化し、前期末から中期初頭にかけて急激に衰退すると思われる。

古墳時代中期の遺構は、墳墓が3基である。円形の周溝を持つ墳墓で、主体部は2基検出されたが、周溝を持つ墳墓の主体部と認定できたのは1基のみである。詳細は、別稿を参照していただきたい。この墳墓に伴うと推定される土器は、前期に比較し急激に減少傾向をたどっている。前期前葉に形成された集落が、墳墓の造築によって一応の終結を見たと考えるのが妥当であろう。

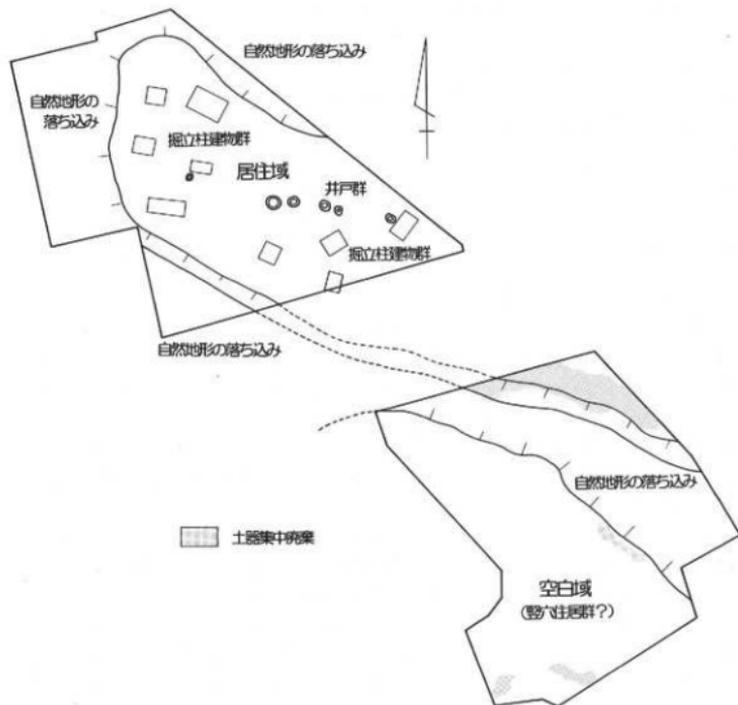
太田川・原野谷川流域南部における、古墳時代前期の有力集落は、十二所遺跡、新堀遺跡、青木遺跡（共に浅羽町）の3遺跡である。また、元島遺跡に近い状況を示すのが西向遺跡（浅羽町）で、標高1m以下の自然堤防上に形成された集落である。

十二所遺跡は、原野谷川の自然堤防上に立地しており、弥生時代から継続的に営まれた集落で、土器を多量に含んだ土坑状の遺構が確認されている。新堀遺跡は、旧原野谷川の自然堤防上に立地しており、この自然堤防は約4kmにわたって確認されている。新堀遺跡では、古墳時代前期後半の土師器が多く出土しており、その前後の量は極めて少ない。確認された遺構は、住居址・墓・井戸・土坑があり、安定した集落であったことが伺える。青木遺跡は、新堀遺跡の南東に広がる遺跡で、浅羽平地に流入した原野谷川の自然堤防上に立地している。検出された遺構は、竪穴住居跡5棟、土坑11基、溝状遺構7条などである。注目されるのは土坑群で、奈良県纏向遺跡の土坑群と類似した状態で、祭祀土坑であった。新堀と青木両遺跡は、遺跡東側際まで潟湖が入り込んでいるにも関わらず、土鍾などの漁労具は、まったく発見されていない。西向遺跡の詳しい状況は不明であるが、前期の土器が出土している。元島遺跡の立地と酷似しており、ちょうど北側約2kmの地点に位置している。元島遺跡の古墳前期の集落が標高20～30cmで、西向遺跡は1mを切る程度である。両遺跡の高低差は、現時での高低差と同様であり、元島遺跡との関連が注目される遺跡である。

元島遺跡で確認された古墳前期の集落は、明らかに周辺域とは異なった状況を示している。検出されたのは、掘立柱建物が立ち並ぶ空間だけであるが、5区で出土した廃棄された多量の土器は、非常に近い周辺域に居住空間があったことを示している。県内の同時期の遺跡では、掘立柱建物と竪穴住居は混在し、明確な区域分けがあった状況ではない。唯一、大平遺跡（浜松市）で、欄や溝を回した区域分けがなされている程度である。

元島遺跡の場合、今回検出された掘立柱建物群が居住域や倉庫などを兼ねた空間で、掘立柱建物を主体にした集落と捉えることもできる。確かに、御殿二ノ宮遺跡（磐田市）では、弥生時代後期から掘立柱建物を主体にした集落が形成され始めている。元島遺跡も、その流れを組む掘立柱建物主体の集落であったとしても、何ら問題点はない。

もう一つの考えは、氾濫の洪水層による遺構面の削平である。かなり大幅な遺構面を削平を受けたことによって、掘立柱建物の柱穴は残存し、竪穴住居はすべてとんでしまったという推定も可能なのである。削平を前提に考えた場合、掘立柱建物群は、前述のように居住空間とするには、あまりに狭い1間



第196図 古墳時代前期集落想定図

×1間が多すぎ、むしろ倉庫群として想定することもできるのである。また、一列に並ぶ井戸北側には、掘立柱建物を含め柱穴もほとんど確認されていない。ここが、何らかの意味がある空白地帯であったことも推定できる。掘立柱建物群を居住空間と捉え、北側にある自然地形の落ち込みに土器を廃棄せず、わざわざ遠い南側の落ち込みまで、土器を運んで廃棄していたということになる。可能性としては低いと言わざるを得ないが、5区の廃棄土器だけ検出された南側の砂堤上に、居住域としての窪穴住居居住群が存在し、落ち込みを挟んだ北側に、倉庫群と祭祀場があったという推定もできる。

今回の調査によって、海拔0m前後の旧砂堤列状に古墳時代前期の集落が営まれていたことが判明した。遺跡から出土する遺物の中には、明らかに漁労するための道具類が含まれていた。石製鎌は1点のみの出土だが、土鍾は破片数を含めれば100点を越える。潟湖に面した新堀遺跡・青木遺跡では、前述のようにまったく漁労具は、検出されていない。これらの状況から、元島遺跡と新堀遺跡・青木遺跡は、同時代の遺跡で、近接しているにも関わらず、まったく集落形態が異なっていたということであろうか。検出された井戸材は、舟材を再利用したもので、準構造船や丸木船であった。それも、最低3隻である。これもまた、漁労生活を裏付ける出土品であろう。元島遺跡の古墳前期の集落の発見は、元島集落が形成されている砂堤列に沿って、同様の集落が形成されていた可能性を高めた。近い将来、元島遺跡同様、海浜との関連の高い遺跡が、砂堤列に沿って次々と発見される可能性は高い。

《地形復元に使用した絵図》

- ※「浅羽庄上輪・下輪除堤浮論裁許絵図」 ※「遠州横須賀惣絵図」
※「中泉御殿及び周辺絵図」 ※「寛延元年前野村周辺村々悪水浮論裁許絵図」
※「今之浦・あくろ沼絵図」 ※「延宝六年今之浦絵図」
※「太田川・今之浦川・諸井川流域絵図」 ※「見付宿助郷裁許絵図」 ※「遠江馬伏塚城絵図」

《参考文献》

- 1988 義江彰夫 「国府から宿町へ」『歴史と文化』 東京大学教養学部人文科学課紀要
1989 宇野隆夫 『考古資料にみる古代と中世の歴史と社会』 真陽社
1991 橋田正徳 「屋敷墓試論」『中近世土器の基礎研究Ⅶ』 日本中世土器研究会
1996 小泉和子 玉井哲雄 黒田日出男 編 『絵巻物の建築を読む』 東京大学出版会
1996 有光友學 「戦国前期駿遠地方における水運」『横浜国立大学人文紀要第1類NO.42』
1996 矢田俊文 「明応地震と港湾都市」『日本史研究412』
1997 寒川 旭 『揺れる大地 日本列島の地震史』 同朋舎出版
1992 『静岡県史 資料編6 中世二』 静岡県
1994 『静岡県史 資料編7 中世三』 静岡県
1996 『静岡県史 別編2 自然災害誌』 静岡県
1992 『磐田市史 資料編1 考古・古代・中世』 磐田市
1993 『磐田市史 通史編上巻 原始・古代・中世』 磐田市
1995 『図説 磐田市史』 磐田市
1993 『瀬戸市史 陶磁史篇四』 瀬戸市
1997 『浅羽町史 資料編一 考古・古代・中世』 浅羽町
1989 『よみがえる古代船と5世紀の大坂』 大阪市教育委員会・(財)大阪市文化財協会
1994 『静岡県歴史の道 東海道』 静岡県教育委員会
1996 『静岡県歴史の道 秋葉街道』 静岡県教育委員会
1995 『中世の火葬—その展開と地域性—資料集』 東国歴史考古学研究所・帝京大学山梨文化財研究所
1995 『古墳時代の集落 収録集』 静岡県考古学会
1996 『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界—その生産と流通—資料集』 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター
1996 『日本出土銭総覧 1996年版』 兵庫埋蔵銭調査会
1989 『静岡県の窯業遺跡』 静岡県教育委員会
1994 『元島遺跡—平成5年度太田川河川改修事業に伴う第一次埋蔵文化財発掘調査報告書』
福田町教育委員会
1993 『新堀遺跡』 (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
1995 『元島遺跡—平成6年度概報—』 (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
1996 『上土遺跡—遺構編一—』 (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
1984 『山下遺跡』 掛川市教育委員会・袋井市教育委員会
1987 『北山遺跡』 浅羽町教育委員会
1992 『字佐八万境内遺跡』 袋井市教育委員会
1993 『一の谷中世墳墓群遺跡』 磐田市教育委員会
1997 『安濃津』 三重県埋蔵文化財センター

静岡県、元島遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 元島遺跡のプラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、ガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が植物の細胞内に蓄積したものであり、植物が枯死した後も微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。この微化石は植物によりそれぞれ固有の形態的特徴を持っていることから、これを土壤中より検出してその組成や量を明らかにすることで過去の植生環境の復元に役立てることができる。プラント・オパール (植物珪酸体) 分析と呼ばれるこの方法は、とくに埋蔵水田跡の確認や探査において極めて有効であり、これまで多くの実績をあげている。

元島遺跡では、調査区の広い範囲の複数の層準で水田跡が包蔵されている可能性が推定されていた。そこで、稲作跡の探査を目的にプラント・オパール分析を行うことになった。

2. 試料

調査地点は、6地点である。各地点の土層は、NO.1では1~10層に、NO.2では1~12層に、NO.3では1~7層に、NO.4では1~11層に、NO.5では1~11層に、NO.6では1~10層に分層された。分析試料は、各地点の各層位1点づつを基本にしたが、層位が厚い箇所については上下2点、上中下3点採取した箇所もある。第1図に試料採取地点、第2図に土層模式図と分析試料の採取箇所を示す。

3. 分析方法

プラント・オパールの抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976)」をもとに、次の手順で行った。

- (1) 試料土の絶乾 ($105^\circ\text{C} \cdot 24$ 時間)、仮比重測定
- (2) 試料土約1gを秤量、ガラスビーズ添加 (直径約40 μm 、約0.02g)
※ 電子分析天秤より1万分の1gの精度で秤量
- (3) 電気炉灰化法による脱有機物処理
- (4) 超音波による分散 (300W \cdot 42KHz \cdot 10分間)
- (5) 沈底法による微粒子 (20 μm 以下)
- (6) 封入済 (オイキット) 中に分散、プレパラート作成
- (7) 検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパール (以下、プラント・オパールと略す) を同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料1g中のプラント・オパール個数 (試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率に乗じて求める) に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重 (1.0と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位: 10^{-5}g) を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出

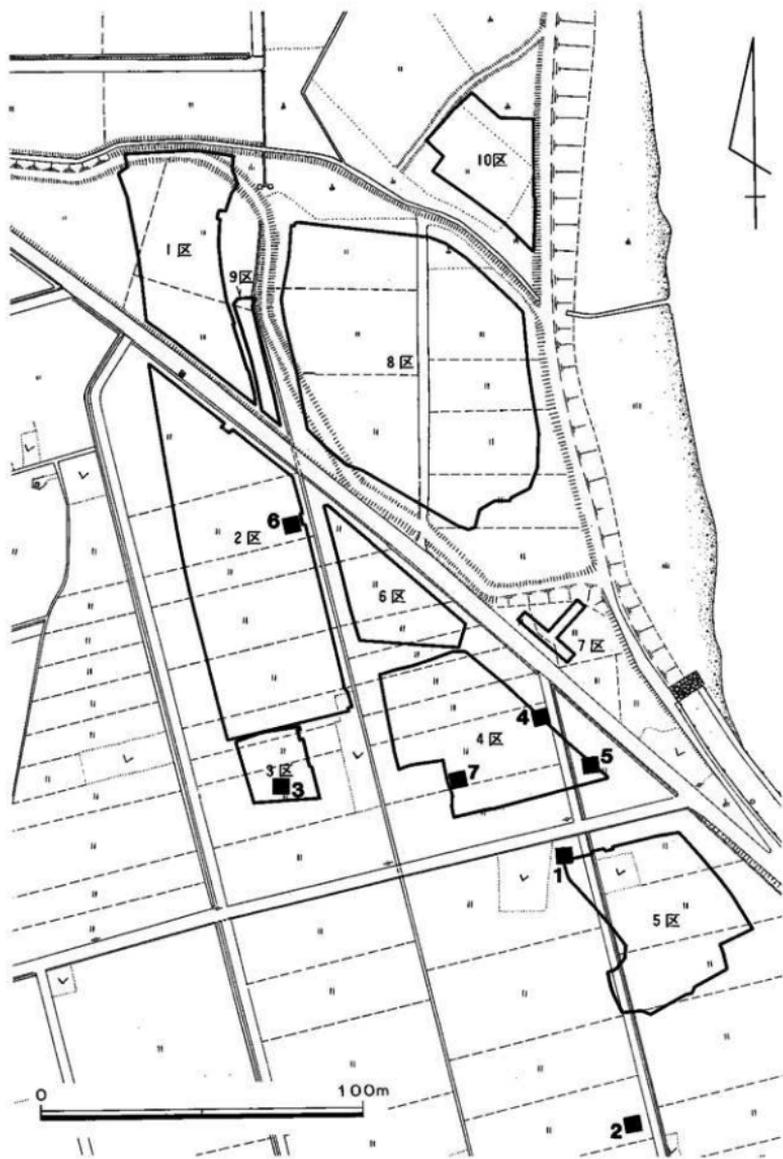
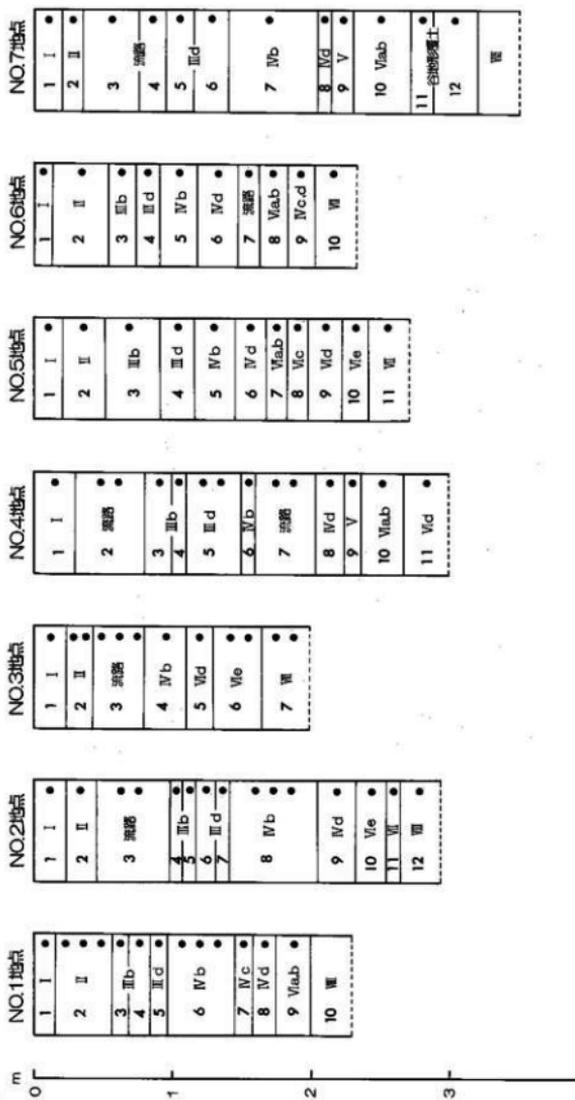


图1 試料採取地点位置图



●: 試料採取箇所

図2 試料採取地点の土層図および試料採取箇所

し図示した。換算係数は、イネは赤米、キビ族はヒエ、ヨシ属はヨシ、ウシクサ族はススキ、タケ亜科については数種の平均値を用いた。その値は、それぞれ2.94（種実重は1.03）、8.40、6.31、1.24、0.48である（杉山・藤原，1987）。

4. 分析結果

稲作跡の探査が主目的であるため、同定は、イネ、ヨシ属、タケ亜科、ウシクサ族（ススキやチガヤなどが含まれる）、キビ族（ヒエなどが含まれる）の主要な5分類群を中心に行った。

採取された試料すべてについて分析を行った結果、これらすべての分類群のプラント・オパールが検出された。これらについて定量を行い、その結果を表1～3および図3～4に示した。また、分類群については巻末に顕微鏡写真を示した。以下に各地点ごとの検出状況を記す。

(1)NO.1地点

本地点では、1層から9層について分析を行った。その結果、イネは1層、2層中位、4層～7層より検出された。6層上位では比較的高い密度である。ヨシ属は2層中位と9層より検出された。密度はいずれも低い値である。ウシクサ族は3層と9層より検出されたが、これも低い密度である。タケ亜科はすべての層より検出されたが、いずれもやや低い密度である。キビ族は検出されなかった。

(2)NO.2地点

本地点では、1層～12層について分析を行った。その結果、イネは1層、3層上位、4層、8層上位より検出された。密度は1層でやや高いものの他はいずれも低い値である。キビ族は8層上位と12層より、ヨシ属は4層と8層上位で、ウシクサ族は8層上位と10層より検出されたが、いずれ低い密度である。タケ亜科はすべての層より検出されたが、全体にやや低い密度である。

(3)NO.3地点

本地点では、1層～7層について分析を行った。その結果、イネは1層、2層上位、3層の上・中・下位、4層、5層より検出された。1層、4層、5層では比較的高い密度である。ヨシ属は2層の上位と中位で検出されたが、いずれ低い密度である。タケ亜科はすべての層より検出された。密度はいずれもやや低い値である。キビ族とウシクサ族は検出されなかった。

(4)NO.4地点

本地点では、1層～11層について分析を行った。その結果、イネは1層、2層上位、3層、5層上・下位、6層より検出された。5層上位では比較的高い密度である。ヨシ属は4層のみから検出されたが、低い値である。タケ亜科はすべての層より検出されたが、いずれもやや低い値である。キビ族とウシクサ族は検出されなかった。

(5)NO.5地点

本地点では、1層～11層について分析を行った。その結果、イネは2層、3層、4層、5層、6層より検出された。いずれもやや低い密度である。ヨシ属は10層のみから検出されたが、低い値である。ウシクサ族は、1層、5層で検出されたが、いずれ低い値である。タケ亜科はすべての層より検出された。4層、6層では比較的高い密度である。キビ族は検出されなかった。

(6)NO.6地点

本地点では、1層～10層について分析を行った。その結果、イネは1層、3層、4層、5層、8層、9層より検出された。いずれもやや低い密度である。ヨシ属は2層、3層、10層から検出されたが、いずれも低い値である。ウシクサ族は、10層のみから検出されたが、低い値である。タケ亜科は7層以外のすべての層より検出された。5層では比較的高い密度である。キビ族は検出されなかった。

5. 考察（稲作の可能性について）

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたりおよそ5,000個以上という高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。また、その層にプラント・オパール密度のピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくくなり、その層で稲作が行われていた可能性はより確実なものとなる。以上の判断基準にもとづいて、各地点ごとに稲作の可能性について検討を行った。

(1)NO.1地点

ここでは、1層、2層、4層、5層、6層、7層の各層よりイネのプラント・オパールが検出された。よって、これらの層において稲作が行われていた可能性が考えられる。このうち、1層は現在の水田耕作土である。6層では上部でプラント・オパール密度が3,000個/gと比較的高い値であり、明瞭なピークが認められた。したがって、本層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

(2)NO.2地点

ここでは、1層、3層、4層、8層においてイネのプラント・オパールが検出された。したがって、これらの層で稲作が行われていた可能性が考えられる。なお、1層は現在の水田耕作土である。

(3)NO.3地点

ここでは、1層、2層、3層、4層、5層よりイネのプラント・オパールが検出された。したがって、これらの層で稲作が行われていた可能性が考えられる。このうち、1層は現在の水田耕作土である。4層ではプラント・オパール密度が2,400個/gと比較的高い値であり、明瞭なピークが認められたことから、本層においては稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

(4)NO.4地点

ここでは、1層、2層、3層、5層、6層よりイネのプラント・オパールが検出された。よって、これらの層で稲作が行われていた可能性が考えられる。なお、1層は現在の水田耕作土である。5層ではプラント・オパール密度が2,700個/gと比較的高い値であり、明瞭なピークが認められた。したがって、本層においては稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

(5)NO.5地点

ここでは、1層、2層、3層、4層、5層、6層においてイネのプラント・オパールが検出された。したがって、これらの層で稲作が行われていた可能性が考えられる。なお、1層は現在の水田耕作土であるが、600個/gと低い密度である。その他の層のプラント・オパール密度もいずれも1,000個/g前後とやや低い値である。

(6)NO.6地点

ここでは、1層、3層、4層、5層、8層、9層においてイネのプラント・オパールが検出された。したがって、これらの層で稲作が行われていた可能性が考えられる。プラント・オパール密度はいずれも1,000個/g前後とやや低い値である。なお、現在の水田耕作土で1層でも、1,300個/gと低い密度であった。

6. まとめ

元島遺跡においてプラント・オパール分析を行い、稲作跡の探査を試みた。その結果、NO.1地点の6層、NO.3地点の4層、NO.4地点の5層において稲作が行われていた可能性が高いと判断された。その他、プラント・オパールが検出された各層で、稲作が行われていた可能性を認めることができる。なお、本遺跡では全体的にプラント・オパール密度が低い傾向である。その原因としては①耕作期間が非常に短かった、②土層の堆積速度が非常に速かった、③稲藁の大部分が水田外に持ち出されていた、

④種の生産性が低かった、⑤洪水あるいは人為的に耕作土が削り取られた、⑥上層あるいは他所から混入した、などのことが考えられる。

本遺跡は、各土層とも概ね河川堆積物で構成されており、いずれもプラント・オバールの総含有量が少ない傾向が認められる。このことは、各土層が非常に短期間に堆積していたことを示唆している。したがって、本遺跡におけるイネのプラント・オバール密度の低さについては、各土層の堆積が非常に速かったことに起因すると思われる。

参考文献

- 杉山真二・藤原宏志 (1987) 川口市赤山陣屋遺跡におけるプラント・オバール分析。赤山—古環境編—。川口市遺跡調査会報告, 10: 281—298.
- 藤原宏志 (1976) プラント・オバール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学, 9: 15—29.
- 藤原宏志 (1979) プラント・オバール分析法の基礎的研究(3)—福岡・板付遺跡(夜臼式)水田および群馬・日高遺跡(弥生時代)水田におけるイネ (*O. sativa* L.) 生産総量の推定。考古学と自然科学, 12: 29—41.
- 藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オバール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オバール分析による水田址の探査—。考古学と自然科学, 17: 73—85.

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群 \ 試料	No.1												
	1	2-1	2-2	2-3	3	4	5	6-1	6-2	6-3	7	8	9
イネ	7		8				7	7	30	6	7	7	
キビ族(ヒエ属など)													
ヨシ属			8										7
ウシクサ族(ススキ属など)					7								7
タケ亜科(おもにネザサ節)	.14	19	31	15	13	35	22	7	13	20	15	27	20

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	0.21	0.23			0.21	0.22	0.88	0.19	0.20	0.22			
(イネ類)	0.07	0.08			0.07	0.08	0.31	0.07	0.07	0.08			
キビ族(ヒエ属など)													
ヨシ属			0.49										0.42
ウシクサ族(ススキ属など)					0.08								0.08
タケ亜科(おもにネザサ節)	0.07	0.09	0.15	0.07	0.06	0.17	0.11	0.04	0.06	0.10	0.07	0.13	0.09

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群 \ 試料	No.2														
	1	2	3-1	3-2	4	5	6	7	8-1	8-2	8-3	9	10	11	12
イネ	21		8		7				13						
キビ族(ヒエ属など)									6						10
ヨシ属					7				6						
ウシクサ族(ススキ属など)									6				7		
タケ亜科(おもにネザサ節)	36	58	31	37	59	49	44	7	19	20	37	7	13	10	10

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	0.63	0.23			0.19				0.37						
(イネ類)	0.22	0.08			0.07				0.13						
キビ族(ヒエ属など)									0.53						0.84
ヨシ属					0.41				0.40						
ウシクサ族(ススキ属など)									0.08				0.08		
タケ亜科(おもにネザサ節)	0.17	0.28	0.15	0.18	0.28	0.24	0.21	0.04	0.09	0.10	0.18	0.03	0.06	0.05	0.05

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群 \ 試料	No.3											
	1	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4	5	6-1	6-2	7-1	7-2
イネ	36	7		7	7	7	24	23				
キビ族(ヒエ属など)												
ヨシ属			7	6								
ウシクサ族(ススキ属など)												
タケ亜科(おもにネザサ節)	42	7	13	7	7	30	12	53	59	7	7	23

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	1.07	0.21		0.21	0.21	0.22	0.70	0.66				
(イネ類)	0.37	0.07		0.07	0.08	0.08	0.24	0.23				
キビ族(ヒエ属など)												
ヨシ属			0.46	0.40								
ウシクサ族(ススキ属など)												
タケ亜科(おもにネザサ節)	0.20	0.03	0.06	0.03	0.04	0.14	0.06	0.25	0.28	0.04	0.03	0.11

表1 元島遺跡のプラントオパール分析結果(1)

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群 \ 試料	No.4													
	1	2-1	2-2	3	4	5-1	5-2	6	7-1	7-2	8	9	10	11
イネ	7	15	7	7		27	7	8						
キビ族(ヒエ属など)														
ヨシ属					6									
ウシクサ族(ススキ属など)														
タケ亜科(おもにネザサ節)	37	22	14	27	37	55	7	8	10	14	13	7	7	22

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	0.22	0.43	0.21	0.20		0.81	0.19	0.23						
(イネ類)	0.08	0.15	0.07	0.07		0.28	0.07	0.08						
キビ族(ヒエ属など)														
ヨシ属					0.39									
ウシクサ族(ススキ属など)														
タケ亜科(おもにネザサ節)	0.18	0.11	0.07	0.13	0.18	0.26	0.03	0.04	0.05	0.07	0.06	0.03	0.03	0.11

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群 \ 試料	No.5													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
イネ		5	7	14	13	14								
キビ族														
ヨシ属												5		
ウシクサ族(ススキ属など)		6				7				6				
タケ亜科(おもにネザサ節)	18	10	7	56	20	42	13	12	6	5	6			

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ		0.15	0.20	0.41	0.39	0.41								
(イネ類)		0.05	0.07	0.14	0.14	0.14								
キビ族														
ヨシ属												0.30		
ウシクサ族(ススキ属など)	0.07					0.08				0.07				
タケ亜科(おもにネザサ節)	0.08	0.05	0.03	0.27	0.10	0.20	0.05	0.06	0.03	0.02	0.03			

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群 \ 試料	No.6									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イネ	13		7	14	14			6	6	
キビ族										
ヨシ属			7	7						6
ウシクサ族(ススキ属など)										6
タケ亜科(おもにネザサ節)	20	14	20	14	27	13		6	6	6

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	0.39		0.20	0.41	0.40			0.17	0.19	
(イネ類)	0.14		0.07	0.14	0.14			0.05	0.07	
キビ族										
ヨシ属			0.43	0.43						0.40
ウシクサ族(ススキ属など)										0.06
タケ亜科(おもにネザサ節)	0.10	0.07	0.10	0.07	0.13	0.06		0.03	0.03	0.03

表2 元島遺跡のプラントオパール分析結果(2)

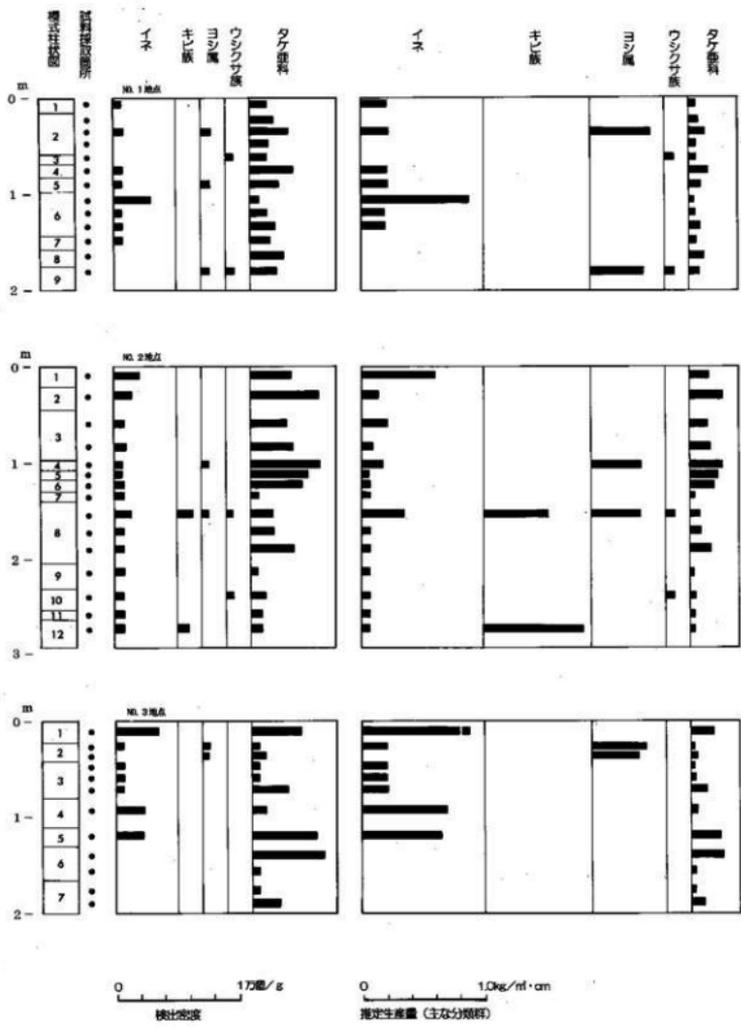


図3 元島遺跡におけるプラントオパール分析結果 (1)

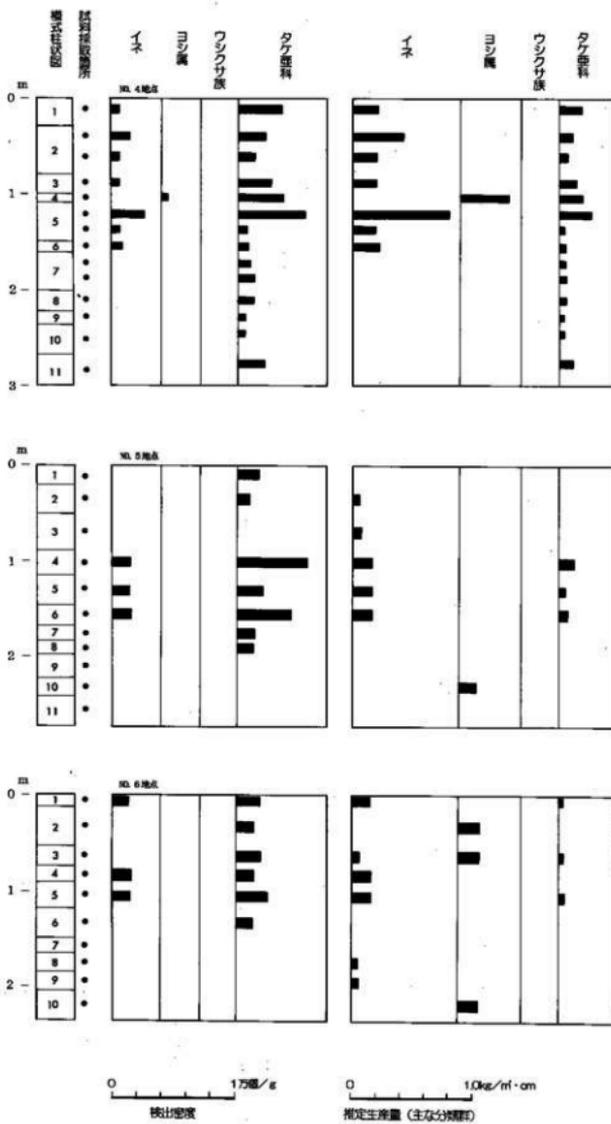
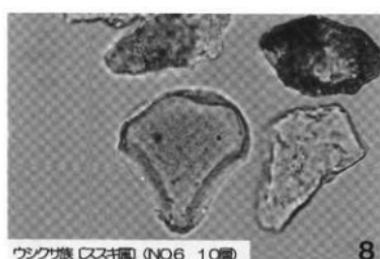
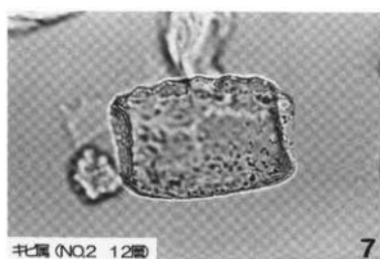
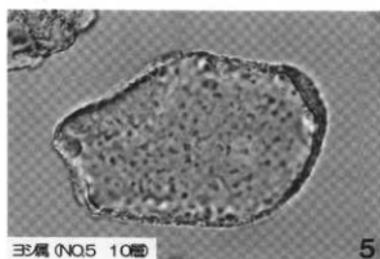
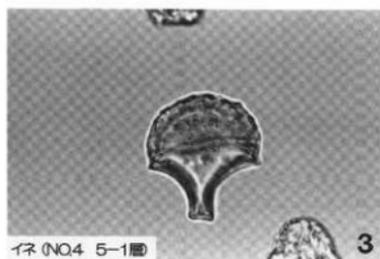
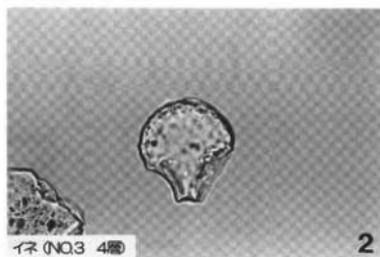
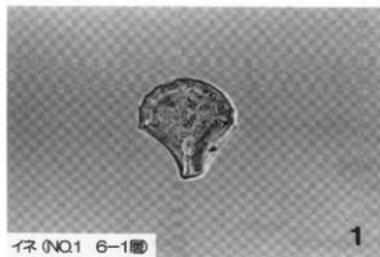


図4 元島遺跡におけるプラントオパール分析結果(2)



0 50 100 μm

写真1 植物珪酸体 (プラントオパール) の顕微鏡写真

II. 元島遺跡の花粉分析

1. はじめに

花粉分析は、湖沼や湿原の堆積物を対象として広域な森林変遷を主とする時間軸の長い植生や環境の変遷を復元する手法として自然科学で用いられてきた。考古遺跡では、埋没土壌や遺構内堆積物など堆積域や時間軸の限定された堆積物を対象とすることによって、狭い範囲の植生や短い時間における農耕を含む植生や環境の変遷を復元することも可能である。なお、乾燥的な環境では花粉などの植物遺体が分解されて失われていることも多く、このことも環境指標となる。

2. 試料と方法

試料は、NO.2地点の1層～12層（試料1～12）、NO.4地点の1層～11層（試料1～11）、NO.7地点の1層～12層（試料1～12）の計35点である。

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村（1973）を参考にし、試料に以下の順で物理化学処理を施して行った。

- (1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- (2) 水洗いした後、0.5mmの篩で籾などの大きな粒子を取り除き、沈殿法を用いて砂粒の除去を行う。
- (3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分間放置する。
- (4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
- (5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- (6) 沈渣に石灰酸フクシンを加えて染色を行い、クリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理の水洗は、1500rpm・2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるといふ操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）を基本とし、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村（1974,1977）を参考にし、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類し、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

なお、NO.7地点は花粉分析過程で観察される寄生虫卵についても鏡検を行った。

3. 結果

(1) 分類群

分析の結果、樹木花粉38、樹木花粉と草花粉を含むもの3、草花粉32、シダ植物孢子2形態の計75分類群が同定された。結果は花粉遺体一覧を表にした。なお花粉数が200個以上の試料は花粉組成図を作成した。花粉組成図は花粉数のやや少ない試料もあるため、花粉総数を基数とする百分率を算定した。主要な分類群を写真に示す。以下に出現した分類群を示す。

〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤマモモ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属-アサダ、クリ-シイ属-マテバシイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ

属アカガシ亜属、ニレ属一ケヤキ、エノキ属一ムクノキ、アカメガシワ、キハダ、サンショウ属、ウルシ属、モチノキ属、カエデ属、ブドウ属、ツバキ属、グミ属、トチノキ、シナノキ属、エゴノキ属、モクセイ科、ニワトコ属一ガマズミ属、スイカズラ属

(樹木花粉と草花花粉を含むもの)

クワ科一イラクサ科、バラ科、マメ科

[草花花粉]

ガマ属一ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、マルバオモダカ、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、タデ科、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科一ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、カラマツソウ属、アブラナ科、ワレモコウ属、ノブドウ、ヒシ属、アリノトウグサ属一フサモ属、セリ科、シソ科、ナス科、オオバコ属、オミナエシ科、キュウリ属、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

[シダ植物胞子]

単条溝胞子・三条溝胞子

(2)花粉群集の特徴と変遷

①NO.2地点

下位より、12層～9層は樹木花粉と草花花粉の占める割合がほぼ同じである。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属・クリーシイ属一マテバシイ属が優占し、コナラ属コナラ亜属の広葉樹とスギ・マツ属複雑管束亜属・イチイ科一イヌガヤ科一ヒノキ科の針葉樹が伴われる。草花花粉ではイネ科・カヤツリグサ科・ヨモギ属・ガマ属一ミクリ属の出現率が高く、上位ではイネ属型が出現する。ガマ属一ミクリ属は上位に向かって減少する。

8層では樹木花粉より草花花粉の占める割合が高くなる。草花花粉ではガマ属一ミクリ属の出現率が高くなる。他は下位と同じくイネ属型を含むイネ科・カヤツリグサ科・ヨモギ属の出現率が高い。ソバ属が出現する。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属・クリーシイ属一マテバシイ属・コナラ属コナラ亜属が主に出現する。

7～4層では樹木花粉より草花花粉の占める割合が高い。草花花粉ではガマ属一ミクリ属が低率になり、イネ属型を含むイネ科・カヤツリグサ科・ヨモギ属が高率になる。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属・クリーシイ属一マテバシイ属・コナラ属コナラ亜属が主に出現する。アブラナ科などは連続的に出現する。コナラ属アカガシ亜属は上位に向かって減少する。

3層から2層は花粉があまり含まれない。

1層では草花花粉の占める割合が高いが、樹木花粉の割合がやや増加する。草花花粉ではイネ科とイネ属型が優先し、アブラナ科が伴われる。樹木花粉ではマツ属複雑管束亜属とスギの出現率が高く、他は低率になる。

②NO.4地点

下位より、11層～9層は樹木花粉と草花花粉の占める割合が極めて高い。草花花粉ではヨモギ属が優占し、イネ科も高率である。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属・クリーシイ属一マテバシイ属・コナラ属アカガシ亜属およびスギが主に出現する。

8層では草花花粉の占める割合が高いが樹木花粉がやや増加する。イネ属型を含むイネ科が優占しヨモギ属は低率になる。他の草花花粉は低率か出現しない。

7～3層では樹木花粉より草花花粉の占める割合が高く、中部どは極めて高い。草花花粉ではイネ属

型を含むイネ科の出現率が高く、ヨモギ属とカヤツリグサ科もやや高い。6～3層ではアブラナ科・アカザ科・ヒユ科・キク亜科が低率ながら連続して出現する。樹木花粉ではクリーシイ属・マテバシイ属・コナラ属コナラ亜属・コナラ属アカガシ亜属の出現率が高い。

1層では草花花粉のイネ科とイネ属型が優占する。樹木花粉ではマツ属複雑維管束亜属とスギの出現率が高い。

③NO.7地点

下位より12～9層は樹木花粉より草花花粉の占める割合がやや高く、イネ科、ヨモギ属が優占する。他にカヤツリグサ科とガマ属・ミクリ属が伴われる。12からヒシ属が検出される。イネ科とカヤツリグサ科は上位に向かって増加傾向を示し、ヨモギ属は減少傾向を示す。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属を主にコナラ属コナラ亜属、クリーシイ属、スギ、マツ属複雑維管束亜属が出現する。

8層から5層では樹木花粉の占める割合が低くなり草花花粉の占める割合が極めて高くなる。イネ属型を含むイネ科が優先し、カヤツリグサ科、ヨモギ属が伴われ、ソバ属が出現する。樹木花粉ではマツ属複雑維管束亜属などが出現するが極めて低率である。

1層では草花花粉のイネ属型およびイネ科が優占する。樹木花粉ではスギ、マツ属複雑維管束亜属の出現率がやや高い。

なお、6層～9層で鞭虫と回虫の寄生虫卵が検出された。

4. 花粉分析から推定される植生・環境・農耕

以下、花粉帯の変遷に基づいて植生と環境を推定する。

①NO.2地点

12層～9層の時期は、周辺にはコナラ属アカガシ亜属・クリーシイ属・マテバシイ属が優勢な森林が分布していたと推定される。この森林は、他にコナラ属コナラなどの広葉樹やスギ・マツ属複雑維管束亜属・イチイ科・イヌガヤ科・ヒノキ科の針葉樹も構成要素であり、照葉樹以外の要素が占める割合もやや高いがカシやシイを主とする照葉樹林とみなしてもよいと考えられる。NO.2地点は、ガマ属・ミクリ属・イネ科・カヤツリグサ科などが繁茂し、水湿地の環境であったとみなされる。水田も営まれたし、ガマ属・ミクリ属は減少したと推定される。ヨモギ属の繁茂する乾燥地も周囲に分布していた。

8層の時期は、ガマ属・ミクリ属が多く繁茂し、より低湿な環境になったと推定される。NO.2地点は、ガマ属・ミクリ属の多い水湿地が水田であったと推定される。近隣ではソバ属が栽培され畑作が行われていたとみなされる。周辺地域の森林はコナラ属アカガシ亜属・クリーシイ属・マテバシイ属・コナラ属コナラ亜属が優勢である。NO.2地点の周囲森林が分布せず、樹木は孤立木の状態で疎に分布していたと考えられる。以後、森林は同様の状態が続く。

7～4層の時期は、イネ属型を含むイネ科・カヤツリグサ科・ヨモギ属の草花が優勢であり、水田であった可能性が高い。乾燥地を好むヨモギ属をはじめタンポポ科やアブラナ科の生育も示唆され、畑作が行われていた可能性もある。

2・3層の時期は、含まれる花粉が少なく、植生の復元は困難であった。花粉などの植物遺体が含まれていないのは、堆積物の堆積速度が速いか、やや乾燥的堆積環境の分解作用で失われたなどが推定される。水田ならば乾湿を繰り返して分解の著しい乾田が考えられ、畑なども分解が著しい。

1層の時期は水田が大きく集約化されたと推定される。他にアブラナ科などの畑作も行われたと考えられる。周辺地域の森林はニョウマツ類とスギが優勢となり、二次林ないし造林が行われたことが示唆される。

②NO.4地点

11層～9層の時期、本地点および周囲は主にヨモギ属とイネ科が繁茂しておりやや乾燥した草地であったと推定される。ヨモギ属とイネ科とも畑地の雑草にもなりうるが、栽培植物の花粉が出現していないため推定できない。周辺地域の森林は、コナラ属コナラ亜属・クリーシイ属-マテバシイ属・コナラ属アカガシ亜属およびスギを主に構成されていたとみなされる。コナラ属コナラ亜属がやや多いため、人為干渉などにより二次林化していたと推定される。

8層の時期になると、イネ属型を含むイネ科の花粉が高率になるため、周辺で水田が営まれていた可能性が高い。ヨモギ属の繁茂する乾燥地は減少する。樹木の様相は前時期とあまり変わらない。

7層の時期は、イネ科・ヨモギ属・カヤツリグサ科が繁茂する草地であった可能性が高い。

6～3層の時期では、水田が営まれていたと推定される。6・5・4層の時期では、ヨモギ属の花粉が少し増加し、やや乾燥化が行われる。また、アブラナ科・アカザ科-ヒユ科・キク亜科の畑地ないしは畑雑草がやや多く、周囲で畑作が営まれていた可能性が高い。周辺地域の森林は、ほとんど変化なく、クリーシイ属-マテバシイ属・コナラ属コナラ亜属・コナラ属アカガシ亜属を主に構成されていた。

2層の時期は、含まれる花粉が少なく、堆積物の堆積速度が遅いか、やや乾燥的に分解作用を受ける堆積環境が考えられる。畑や乾澁を繰り返す乾田などが推定される。

1層の時期になると水田が極めて集約化されたとみなされる。周辺地域の森林もマツ属複雑管束亜属とスギが多くなり、マツ林とスギ林二次林ないし造林が成立している。

③NO.7地点

12～9層の時期、周囲はヨモギ属、イネ科の草木が生育し、日当たりの良い開地が広がっていた。下部ではヨモギ属が優勢で、上部ではイネ科、カヤツリグサ科が優勢であり、下部では相対的に乾燥した環境で上部に向かって湿潤になる。周辺の森林植生はカシ（コナラ属アカガシ亜属）を主にコナラ属コナラ亜属、クリーシイ属、スギ、ニヨウマツ類（マツ属複雑管束亜属）が分布していた。

8層から5層では集落や農耕地などの人為環境を好む人里植物が主要でイネ科、カヤツリグサ科、イネ属型が多く、周囲にこれらが繁茂し、水田を主とする人里環境が分布していたと推定される。他に畑作物であるソバ属が栽培されていたと推定される。周辺の森林は減少し、ニヨウマツ類（マツ属複雑管束亜属）が二次林として分布していたと考えられる。

1層の時期では水田稲作が集約化し、森林植生ではスギ、ニヨウマツ類（マツ属複雑管束亜属）の造林が行われる。

なお、6層～9層で検出された寄生虫卵は、人に起因する鞭虫と回虫で、近隣に汚染源となる集落域が分布するか、人糞施肥が行われていたことが考えられる。

5. まとめ

花粉分析から推定される環境では、3地点を比較すると、NO.2地点が湿潤で、NO.4・7地点は乾燥している。これは、微地形的な立地に起因する可能性が高く、NO.4・7地点よりNO.2地点が低湿であったようだ。水田化もNO.2地点のほうがはやい。以上の推定される植生・環境・農耕を図〇に示しまとめとする。

【参考文献】

中村 純 (1973) 花粉分析, 古今書院.

金原正明 (1993) 花粉分析による古環境復原, 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店.

- 日本第四紀学会編 (1993) 第四紀試料分析法, 東京大学出版会.
- 島倉巳三郎 (1973) 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.
- 中村 純 (1980) 日本産花粉の標徴. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第13集, 91p.
- 中村 純 (1974) イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として. 第四紀研究, 13, p. 187-193.
- 中村 純 (1977) 稲作とイネ花粉, 考古学と自然科学 第10号.
- Peter J. Warnock and Kari J. Reinhard (1992) Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs From Latrine Solls. *Journal of Archaeological Science*, 19, p. 231-245.
- 金原正明・金原正子 (1992) 花粉分析および寄生虫. 藤原京跡の便所遺構-藤原京7条1坊-, 奈良国立文化財研究所, p. 14-15.
- 金子清俊・谷口博一 (1987) 線形動物・扁形動物. 医動物学, 新版臨床検査講座, 8, 医歯薬出版, p. 9-55.

分類科		種名											
種名	科名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Arboreal pollen	樹木花粉												
Abies	モミ属	1				1				2		1	
Tsuga	ツガ属												1
Pinus subgen. Distylon	マツ属短葉種管水属属	42	1		1	19	3	3	3	11	10	4	5
Pinus subgen. Haploxylo	マツ属長葉種管水属属												
Cryptomeria japonica	スギ	40		1	2	6	3	2	5	12	11	30	4
Soldadopyx verticillata	コウヤマキ										1		
Tamocace-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌゲヤ科-ヒノキ科					2	2	1	3	6	10	18	10
Myrica	ヤマモモ属	1							1	2		3	1
Juglans	クルミ属					2		1					
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ								1		1	2	
Alnus	ハンノキ属	4			4		3	2		1	1	1	4
Betula	カバノキ属	1	1	1	1	5	2	3	4		4	5	5
Corylus	ハシバミ属					2	2	1			1	1	1
Carpinus-Cstryx japonica	クマシゲ属-アサゲ	1				6	5	3	3	1	4	3	2
Castanea crenata-Castanopsis-Panicla	クリ-シイ属-マアバシイ属	4	4	10	13	23	15	17	15	46	48	66	31
Fagus	ブナ属												1
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ属属	8	1	5	10	12	28	20	17	13	24	21	16
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ属属	7	3	3	8	6	12	25	30	31	57	79	45
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ	1					1	1			4	4	
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ								1	1			1
Fraxilodendron amurense	キハダ										1		
Zanthoxylum	サンショウ属						2						
Rhus	ウルシ属											1	
Ilex	モチノキ属								1				
Acer	カエデ属										1		1
Styrax	エゴノキ属	1											
Oleaceae	モクセイ科								1				
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属						1	2			1		
Arboreal - Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉												
Mosses-Urticales	タケノ科-イブタ科					3	2	10	8	1	1	4	2
Romaneae	バラ科					1	1	1	1	1		1	1
Leguminosae	マメ科	1											2
Nonarboreal pollen	草本花粉												
Typha-Sparganium	ガマ属-ミクリ属				1	8	11	4	6	77	7	5	12
Alisma	サゾオモダカ属									1			
Sagittaria	オモダカ属				2	1	1	4	3				1
Caldesia parnassifolia	マルバオモダカ				1				2				
Gramineae	イネ科	150	9	12	154	122	120	123	84	54	99	103	67
Oryza type	イネ属用	58			6	8	1	3	11	5	4	1	
Cyperaceae	カヤツグサ科	3		5	40	56	94	54	54	30	13	19	37
Monochoria	ミズアオイ属				1	1	4	2					
Polygonum acet. Persicaria	タデ属サナエタデ属	1					2		1	1	1	1	
Rumex	ギシギシ属	2											
Fagopyrum	ソバ属								1				
Cheopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1	1					2	2	4	1	1	
Caryophyllaceae	ナデシコ科	2									1	1	
Thalictrum	カラマツソウ属								1				
Cruciferae	アブラナ科	10			1	3	1	2			1		
Holeragis-Myriophyllum	アリノトウクサ属-フサモ属												
Umbelliferae	セリ科				1	2	2	2	2	1		1	
Labiatae	シソ科	1			1	1	2				1	2	3
Solanaceae	ナス科		1									1	
Plantago	オオバコ属	1				1							
Cucumis	キュウリ属	1											
Lactacoidae	タンポポ属科	2	1	3	5	5	5		1	1		1	1
Asteroidae	キク属科	4			3	3	3	3	2	1		1	
Xanthium	オオホト属							1				2	
Asteraceae	ヨモギ属	7	6	5	66	37	39	63	28	24	43	56	40
Fern spore	シダ植物胞子												
Monolete type spore	単孔線胞子	1	6	10	3	20	17	2	1	14	3	1	3
Trilete type spore	三孔線胞子	4	1	4	7	27	34	9	4	10	5	6	2
Arboreal pollen	樹木花粉	121	10	20	45	87	78	79	84	128	177	239	129
Arboreal - Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	1	0	0	4	3	11	9	2	1	4	5	1
Nonarboreal pollen	草本花粉	243	18	28	289	250	287	263	275	137	174	198	191
Total pollen	花粉総数	365	28	48	338	340	376	351	361	266	355	442	321
Unknown pollen	未同定花粉	5	5	5	1	4	4	5	3	1	4	1	
Fern spore	シダ植物胞子	5	7	14	10	47	51	11	5	24	8	7	5
Helminth eggs	寄生虫卵												
Trichuris	鞭虫卵形								1				

表3 元島遺跡 (NO.2 地点) における花粉分析結果

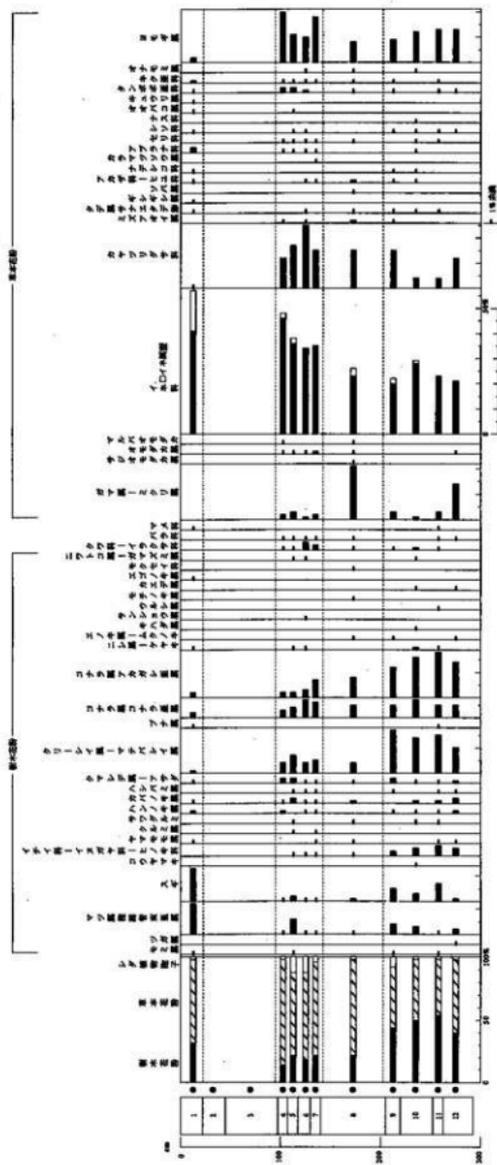


図5 元島遺跡 (N.O.2地点) における花粉組成図

分類群		和名										
学名	和名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
Arboreal pollen												
<i>Abies</i>	榧木花粉											
<i>Thuja</i>	モミ属							1				
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	ツガ属								1	2		
<i>Pinus subgen. Haploxyylon</i>	マツ属雄雄椎木亜属	28		1	6	5	6	5	13	5	2	1
<i>Cryptomeria japonica</i>	マツ属雄雄椎木亜属									1		
<i>Sciadopitys verticillata</i>	スギ	54		1	4	2	4	7	9	9	12	10
<i>Taxus</i>	コウヤマキ											
<i>Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae</i>	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科			1	3		1	3	8	3	1	1
<i>Myrica</i>	ヤマモモ属								1			
<i>Juniperus</i>	ケルミ属										1	
<i>Platanus raiifolia</i>	サワグルミ								1			
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	8			3	2	2					1
<i>Betula</i>	カバノキ属	2					4		2	1	1	
<i>Corylus</i>	ヘシバミ属										1	
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシロダマ-アサダ			1		2	3	3	4	3		1
<i>Castanea cretanica-Castanopsis-Pistacia</i>	クリ-シイ属-マナバシイ属	18	2	20	19	7	23	35	30	29	11	14
<i>Fagus</i>	ブナ属						1		1			
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8	2	23	32	9	28	28	16	23	29	31
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	3		13	15	13	13	16	28	12	5	10
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ						2		2	1		
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ				1		2	1				1
<i>Malius japonicus</i>	アカカシノ	1										
<i>Zanthoxylum</i>	サンショウ属				1		2		1			
<i>Acaulus turbinate</i>	トナノキ											2
<i>Tilia</i>	シナノキ属								1			
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属-ガマズミ属			1								
Arboreal + Nonarboreal pollen												
<i>Moraceae-Urticaceae</i>	榊木-榊木花粉											
	クワ科-イラクサ科	2		3	3	1	2	2	6	1		
<i>Rosaceae</i>	バラ科											4
Nonarboreal pollen												
榊木花粉												
<i>Typha-Spartanum</i>	ガマ属-ミクリ属	1	2	2	2	8	4	1	1	4		
<i>Alisma</i>	サグソモダカ属							1				
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属				2	2	2					
<i>Gramineae</i>	イネ科	158	4	35	97	168	132	40	154	70	77	87
<i>Oryza type</i>	イネ属	40		2	4	2	21	1	14	3		
<i>Cyperaceae</i>	カヤツリダサ科	2	2	16	35	43	45	17	7	10	14	14
<i>Mouchoeria</i>	ミスアオイ属						4	1				
<i>Eriocaulon</i>	ホシクサ属				1	1						
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ属	1	1	1	2	1	1	2				1
<i>Rumex</i>	ギンギシ属	3										
<i>Chenopodiaceae-Amaranthaceae</i>	アカザ科-ヒユ科				2	2	10	10	2			2
<i>Caryophyllaceae</i>	ナデシコ科			1	1		4	5				1
<i>Ranunculata</i>	キンボウケ属				1	1						
<i>Thalictrum</i>	カラマツソウ属					1						
<i>Cruciferae</i>	アブラナ科	2		2	10	8	14					1
<i>Haloragis-Myrtillophytum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						2	1				
<i>Umbelliferae</i>	セリ科				1	5	3	3		1	2	1
<i>Labiatae</i>	シソ科				2	1		3		2	5	
<i>Solanaceae</i>	ナス科				1	2						
<i>Plantago</i>	オオバコ属	3		1			1					
<i>Valerianaceae</i>	オミナエシ科					1						
<i>Lactucoidae</i>	タンポポ科	2		4	4		2	1				2
<i>Asteroidae</i>	キタキコ科	2	1	4	4	11	5					2
<i>Xanthium</i>	オナモミ属					1	1	1				
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	1	1	13	54	58	97	23	35	170	201	201
Fern spore												
シダ植物胞子												
<i>Monolete type spore</i>	単条溝胞子	5	2	18	15		9	10	4	2	3	1
<i>Trilete type spore</i>	三条溝胞子	6	2	13	11	4	3	11	2	1	1	2
Arboreal pollen												
	榊木花粉	122	4	61	84	41	90	101	121	86	63	72
Arboreal + Nonarboreal pollen												
	榊木-榊木花粉	2	0	3	3	1	2	2	6	1	0	4
Nonarboreal pollen												
	榊木花粉	216	12	91	227	325	345	93	211	269	305	306
Total pollen	花粉総数	340	16	155	314	367	437	196	338	356	368	382
Unknown pollen	未同定花粉	3	1	3	2	3	5	1	1	1	4	4
Fern spore												
	シダ植物胞子	11	4	31	26	4	12	21	6	3	4	3
Helminth eggs												
	寄生虫卵											
<i>Thichuris</i>	肥虫卵	1										

表4 元島遺跡 (N.O.4 地点) における花粉分析結果

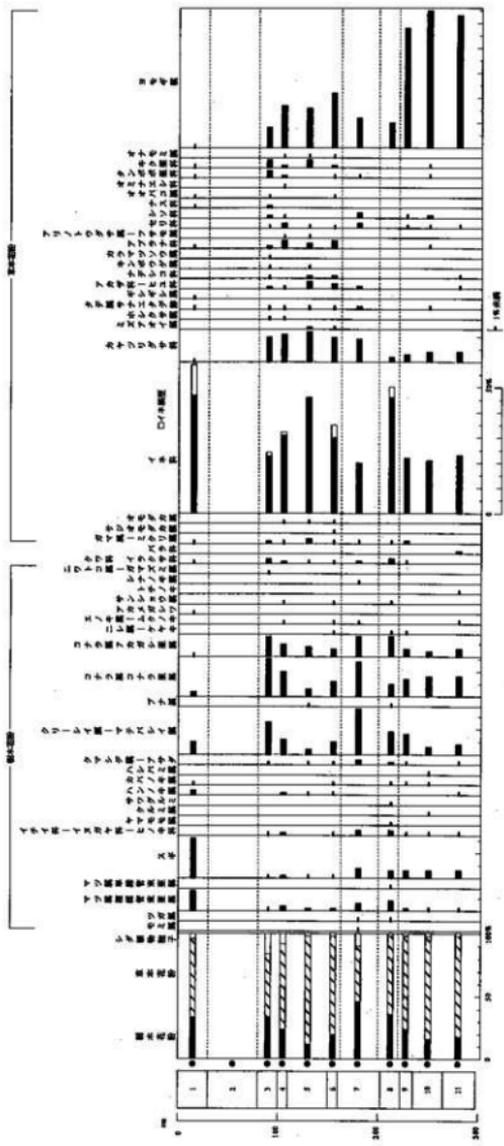


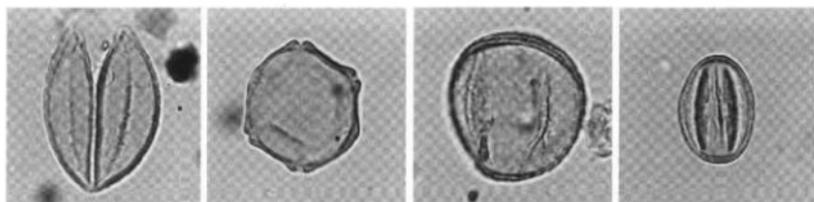
図6 元島遺跡 (N.O.4 地点) における花粉組成図

分類群		和名																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
学名	和名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
Arboreal pollen	樹木花粉													<i>Podocarpus</i>	マキ属	1					1				1	2		<i>Abies</i>	モミ属	1					3	1	1	4	1	2	4	<i>Picea</i>	トウヒ属	1												<i>Tsuga</i>	ツガ属	1				1	1	1	1	1	2	5	1	<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	ツウ属横縫管束亜属	26	3			8	42	14	22	31	17	14	12	<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	77	2	1	1	2	5	3	4	26	29	12	22	<i>Sciadophytis verticillata</i>	コウヤマキ										3			Taxaceae-Cephalotaxaceae	イチイ科-イヌガヤ科	2						1		5	9	5	3		-Cupressaceae														-ヒノキ科													<i>Myrica</i>	ヤマモ属	1							1					<i>Juglans</i>	クルミ属	1									1			<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				1	1	1				1		1	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1	
<i>Podocarpus</i>	マキ属	1					1				1	2		<i>Abies</i>	モミ属	1					3	1	1	4	1	2	4	<i>Picea</i>	トウヒ属	1												<i>Tsuga</i>	ツガ属	1				1	1	1	1	1	2	5	1	<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	ツウ属横縫管束亜属	26	3			8	42	14	22	31	17	14	12	<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	77	2	1	1	2	5	3	4	26	29	12	22	<i>Sciadophytis verticillata</i>	コウヤマキ										3			Taxaceae-Cephalotaxaceae	イチイ科-イヌガヤ科	2						1		5	9	5	3		-Cupressaceae														-ヒノキ科													<i>Myrica</i>	ヤマモ属	1							1					<i>Juglans</i>	クルミ属	1									1			<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				1	1	1				1		1	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1															
<i>Abies</i>	モミ属	1					3	1	1	4	1	2	4	<i>Picea</i>	トウヒ属	1												<i>Tsuga</i>	ツガ属	1				1	1	1	1	1	2	5	1	<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	ツウ属横縫管束亜属	26	3			8	42	14	22	31	17	14	12	<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	77	2	1	1	2	5	3	4	26	29	12	22	<i>Sciadophytis verticillata</i>	コウヤマキ										3			Taxaceae-Cephalotaxaceae	イチイ科-イヌガヤ科	2						1		5	9	5	3		-Cupressaceae														-ヒノキ科													<i>Myrica</i>	ヤマモ属	1							1					<i>Juglans</i>	クルミ属	1									1			<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				1	1	1				1		1	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																													
<i>Picea</i>	トウヒ属	1												<i>Tsuga</i>	ツガ属	1				1	1	1	1	1	2	5	1	<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	ツウ属横縫管束亜属	26	3			8	42	14	22	31	17	14	12	<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	77	2	1	1	2	5	3	4	26	29	12	22	<i>Sciadophytis verticillata</i>	コウヤマキ										3			Taxaceae-Cephalotaxaceae	イチイ科-イヌガヤ科	2						1		5	9	5	3		-Cupressaceae														-ヒノキ科													<i>Myrica</i>	ヤマモ属	1							1					<i>Juglans</i>	クルミ属	1									1			<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				1	1	1				1		1	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																											
<i>Tsuga</i>	ツガ属	1				1	1	1	1	1	2	5	1	<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	ツウ属横縫管束亜属	26	3			8	42	14	22	31	17	14	12	<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	77	2	1	1	2	5	3	4	26	29	12	22	<i>Sciadophytis verticillata</i>	コウヤマキ										3			Taxaceae-Cephalotaxaceae	イチイ科-イヌガヤ科	2						1		5	9	5	3		-Cupressaceae														-ヒノキ科													<i>Myrica</i>	ヤマモ属	1							1					<i>Juglans</i>	クルミ属	1									1			<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				1	1	1				1		1	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																									
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	ツウ属横縫管束亜属	26	3			8	42	14	22	31	17	14	12	<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	77	2	1	1	2	5	3	4	26	29	12	22	<i>Sciadophytis verticillata</i>	コウヤマキ										3			Taxaceae-Cephalotaxaceae	イチイ科-イヌガヤ科	2						1		5	9	5	3		-Cupressaceae														-ヒノキ科													<i>Myrica</i>	ヤマモ属	1							1					<i>Juglans</i>	クルミ属	1									1			<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				1	1	1				1		1	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																							
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	77	2	1	1	2	5	3	4	26	29	12	22	<i>Sciadophytis verticillata</i>	コウヤマキ										3			Taxaceae-Cephalotaxaceae	イチイ科-イヌガヤ科	2						1		5	9	5	3		-Cupressaceae														-ヒノキ科													<i>Myrica</i>	ヤマモ属	1							1					<i>Juglans</i>	クルミ属	1									1			<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				1	1	1				1		1	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																					
<i>Sciadophytis verticillata</i>	コウヤマキ										3			Taxaceae-Cephalotaxaceae	イチイ科-イヌガヤ科	2						1		5	9	5	3		-Cupressaceae														-ヒノキ科													<i>Myrica</i>	ヤマモ属	1							1					<i>Juglans</i>	クルミ属	1									1			<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				1	1	1				1		1	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																			
Taxaceae-Cephalotaxaceae	イチイ科-イヌガヤ科	2						1		5	9	5	3		-Cupressaceae														-ヒノキ科													<i>Myrica</i>	ヤマモ属	1							1					<i>Juglans</i>	クルミ属	1									1			<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				1	1	1				1		1	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																	
	-Cupressaceae														-ヒノキ科													<i>Myrica</i>	ヤマモ属	1							1					<i>Juglans</i>	クルミ属	1									1			<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				1	1	1				1		1	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																															
	-ヒノキ科													<i>Myrica</i>	ヤマモ属	1							1					<i>Juglans</i>	クルミ属	1									1			<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				1	1	1				1		1	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																													
<i>Myrica</i>	ヤマモ属	1							1					<i>Juglans</i>	クルミ属	1									1			<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				1	1	1				1		1	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																											
<i>Juglans</i>	クルミ属	1									1			<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				1	1	1				1		1	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																									
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ				1	1	1				1		1	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																							
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1			1	1	2		2	1	4	3	3	<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																					
<i>Betula</i>	カバノキ属	1					1	1	3	4	1	1	1	<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																			
<i>Corylus</i>	ハシバミ属					1					2	2	1	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																	
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						5	3	7	2	6	3	1	<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																															
<i>Castanea crenata-Castanopsis</i>	クリ-シイ属	3						20	5	7	36	31	19	<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																													
<i>Fagus</i>	ブナ属						2	1	1	2	1	4	4	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																											
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	8					1	28	6	8	19	22	25	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																									
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	2		1	4	13	5	21	40	65	45	88	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ					1			1	1	3	4	2	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エビノキ属-ムクノキ	3					4	3	4		1	3	1	<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
<i>Mallosia japonicus</i>	アカメガシワ	1												<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
<i>Rhus</i>	ウルシ属							1						<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
<i>Acer</i>	カエデ属						2	1			1			<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
<i>Vitis</i>	ブドウ属							2						<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
<i>Camellia</i>	ツバキ属								1					<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
<i>Elaeagnus</i>	グミ属													Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
Oleaceae	モクセイ科	1												<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニホトコ属-ガマズミ属						1	4		3				<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
<i>Lonicera</i>	スイカズラ属							2													1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
							1	1		1				Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2					1	7	2	9	2		1	Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
Rosaceae	バラ科								1				2	Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
Leguminosae	マメ科									1				Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
Nonarboreal pollen	草本花粉													<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属						1	4	3	4	3	20	9	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
<i>Alisma</i>	サジオモダカ属							1	2	2				<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属						4	1	1		1			Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
Gramineae	イネ科	127	40	2	15	133	160	174	188	183	90	115	72	<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
<i>Oryza type</i>	イネ属型	92	2			1	29	22	14	32	1	1	2	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
Cyperaceae	カヤツリグサ科	2			1	13	105	32	50	65	24	43	12	<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
<i>Monochoria</i>	ミスアオイ属						6		1	1				<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
<i>Polygonum sect.</i>	タデ属	1											1	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1					1	1	1				1	<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
<i>Rumex</i>	ギシギシ属	1	1				1	1	4	4				<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属							1	1	1				Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1				1	16	3	5	5			3	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	2				1		1	1				<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属								2	1				Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
Cruciferae	アブラナ科	2	4				2	2	2	5	1		1	<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
<i>Sanguisorba</i>	ワシモコウ属								1					<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ													<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
<i>Trapa</i>	ヒシ属									1			1	<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属						1	1	1					Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
Umbelliferae	セリ科	1						2	1	1		2	1	<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
<i>Plantago</i>	オオバコ属					1			2	1			3	Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
Valerianaceae	オミナエシ科							1						Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
Lactucoideae	タンポポ属	1			3		2	6	1	1			4	Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
Asteroidae	キク亜科	3	3				4	8	5	6	1	1	2	<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
<i>Xanthium</i>	オナモミ属							1	1				1	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4				7	22	36	49	28	43	103	183	Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
Fern spore	シダ植物胞子													Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
Monolate type spore	単念溝胞子	1	1	3	12	2	29	4	2	3	1	3	2	Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
Trilate type spore	三念溝胞子	6			4	1	11	4	3	3	1		1	Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
Arboreal pollen	樹木花粉	130	7	1	5	31	137	50	87	187	194	141	189	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0	0	0	3	7	4	9	2	0	2	1	Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
Nonarboreal pollen	草本花粉	237	52	3	41	328	284	321	346	257	261	323	229	Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
Total pollen	花粉総数	369	59	4	46	362	428	375	442	446	455	466	419	Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
Unknown pollen	未同定花粉	1	0	0	1	1	6	3	4	1	0	1	2	Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
Fern spore	シダ植物胞子	7	1	3	16	3	40	8	5	6	2	3	3	Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
Helminth eggs	寄生虫卵													<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
<i>Ascaris</i>	回虫								7	1	1			<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
<i>Trichuris</i>	鞭虫								1	3	8	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									

表5 元島遺跡 (NO.7 地点) における花粉分析結果

層序	主要草本花粉と推定される植生・環境・農耕			NO. 7 地点	主要樹木花粉と周辺地域の森林植生
	NO. 2 地点	NO. 4 地点	NO. 7 地点		
1	イネ科・イネ属型 アブラナ科・ヨモギ属	イネ科 イネ属型	イネ科 イネ属型	イネ科 イネ属型	スギ マツ属 樺属 管束亜属
2					
3					
4	イネ科・イネ属型 カヤツリグサ科	イネ科・イネ属型 ヨモギ属 カヤツリグサ科 アブラナ科	イネ科 ヨモギ属 カヤツリグサ科 アブラナ科	イネ科 イネ属型 カヤツリグサ科 ソバ属	コナラ属 アガシ亜属 クリーシイ属 マテバシイ属 コナラ属 コナラ亜属
5					
6					
7					
8	イネ科・イネ属型 ガマ属・ミクリ属 ソバ属・畑	イネ科・イネ属型 イネ科・ヨモギ属 カヤツリグサ科	イネ科・イネ属型 イネ科・ヨモギ属 カヤツリグサ科	イネ科・イネ属型 カヤツリグサ科 ソバ属	コナラ属 アガシ亜属 クリーシイ属 マテバシイ属 コナラ属 コナラ亜属
9					
10	イネ科 カヤツリグサ科	イネ科 イネ属型	イネ科 イネ属型	イネ科 イネ属型	
11	ヨモギ属	ヨモギ属 イネ科	ヨモギ属 イネ科	ヨモギ属 イネ科	
12					

図8 元鳥遺跡の花粉分析からみた植生・環境・農耕

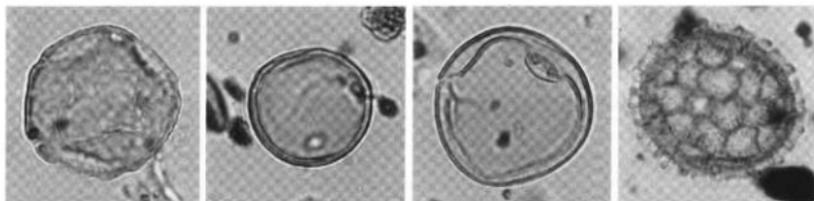


1 スギ

2 ハンノキ属

3 コナラ属コナラ亜属

4 コナラ属アカガシ亜属

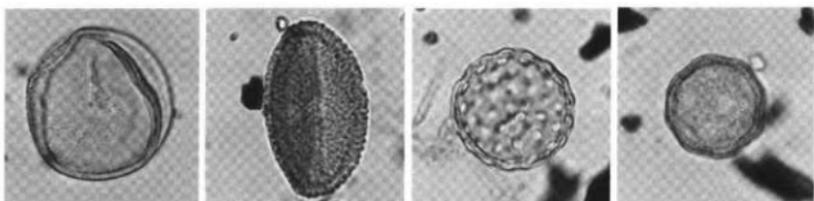


5 ニレ属—ケヤキ

6 エノキ属—ムクノキ

7 イネ属型

8 タデ属サナエタ節

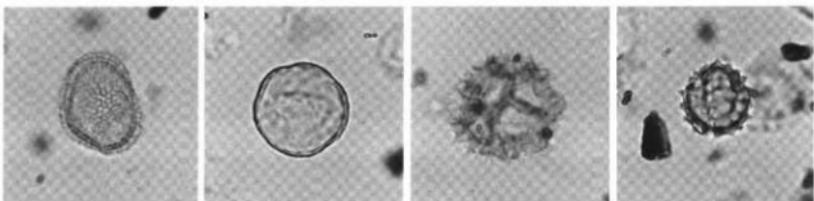


9 ギシギシ属

10 ソバ属

11 アカザ科—ヒユ科

12 ナadeshiko科



13 アブラナ科

14 オオバコ属

15 タンポポ亜科

16 キク亜科



17 キュウリ属

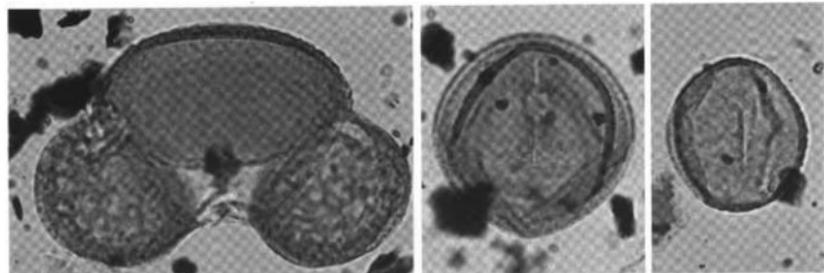
18 ヨモギ属

19 シダ植物単条溝孢子

20 シダ植物三条溝孢子

写真2 元島遺跡の花粉・孢子遺体

45 μm



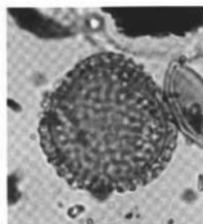
1 マツ属複維管束亜属

2 ブナ属

3 コナラ属コナラ亜属



4 コナラ属アカガシ亜属



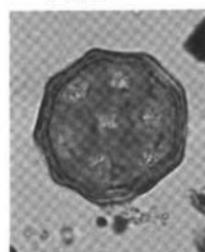
5 モクセイ科



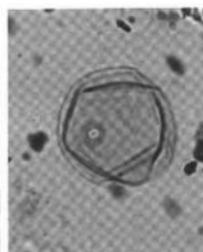
6 バラ科



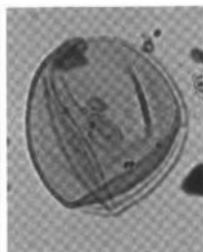
7 マメ科



8 サジオモダカ属



9 イネ科



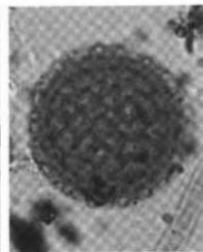
10 イネ属型



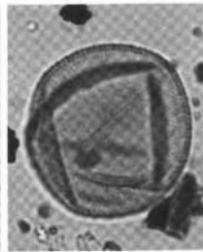
11 カヤツリグサ科



12 ミズアオイ属



13 タデ属サナエタデ節



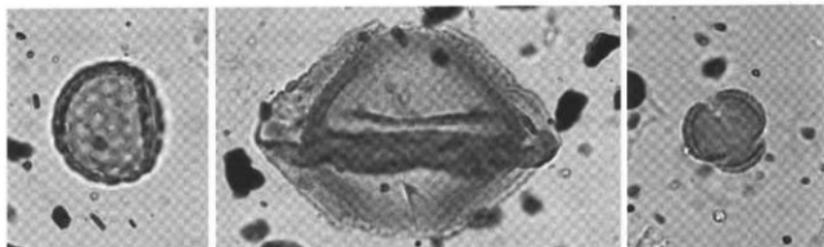
14 ギシギシ属



15 ソバ属

45 μm

写真3 元島遺跡の花粉・寄生虫卵・孢子遺体(1)

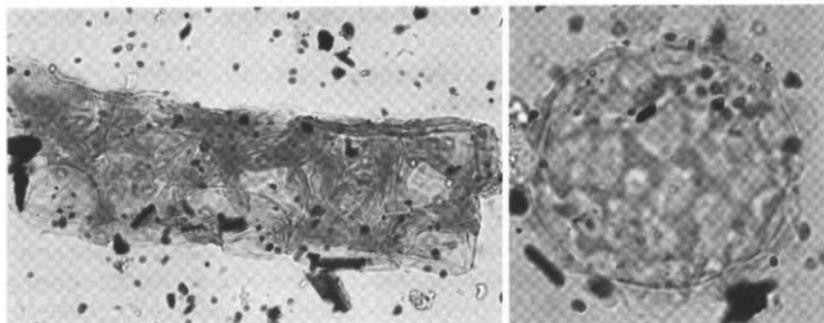


1 アカザ科-ヒユ科

2 ヒシ属

3 ヨモギ属

45 μm

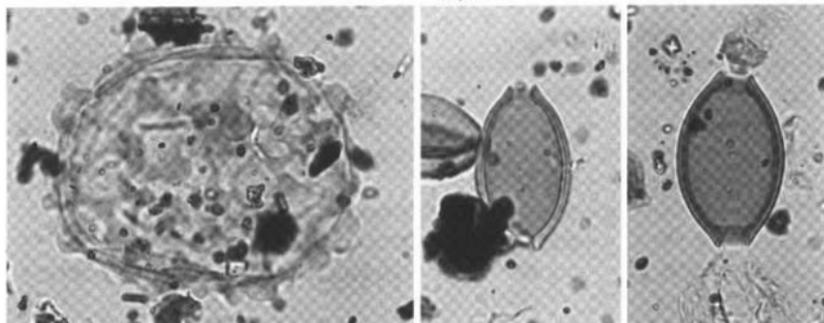


4 イネ科の集塊

90 μm

5 回虫卵

45 μm



6 回虫卵

7 鞭虫卵

8 鞭虫卵

45 μm

写真4 元島遺跡の花粉・寄生虫卵・胞子遺体(2)

Ⅲ. 元島遺跡の珪藻分析

1. はじめに

珪藻は、珪酸体の殻を持つ顕微鏡サイズの単細胞藻類である。珪藻類全体の分布域は淡水域から海水域にわたるが、個々の種は様々な環境要因に適応をみせ、それぞれ特定の生息場所を持つ。珪藻殻の化石は、水成堆積物中からふつうに多産し、また化石群集の種の組成は堆積環境をよく反映するため、古環境の復原の指標としてよく利用されてきた。

ここでは、NO.2、NO.4、NO.7地点から得られた計35試料について珪藻分析を行い、堆積古環境の推定、復原を行う。

2. 分析方法

3地点より採取した試料は、以下の方法で処理し、珪藻用プレパラートを作成した。

(1)試料から潤滑重量1g程度を取り出し、計量した後ピーカーに移し、蒸留水を加えた後懸濁液を回収する。放置後上澄み液を除去し、30%過酸化水素を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行う。

(2)反応終了後水を加え、1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を上澄み液が透明になるまで繰り返す(7回程度)。

(3)ピーカーに残った残渣は、遠心管に細粒分のみ回収する。

(4)マイクロピペットを用い、遠心管から適量を取り、カバーガラスに滴下し乾燥させる。乾燥後は、マウントメディア(封入剤)で封入しプレパラートを作製する。

作成したプレパラートは、光学顕微鏡下600~1000倍(油浸)で珪藻種を同定・計数した。珪藻化石群集の組成を把握するために、メカニカルステージを用いて任意に出現する珪藻化石が200個以上になるまで、同定・計数した。なお、珪藻殻が半分以上破損したものについては計数・同定は行っていない。

珪藻の同定については、Hustedt (1961~1966)、K. Krammer & Lange-Bertalot (1985/1991)などを参考にした。

3. 珪藻化石の環境指標種群について

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉(1988)、安藤(1990)が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種として、また海水~汽水種は不明種としてそれぞれ扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明として扱った。以下に、小杉(1989)が設定した汽水~海水域における環境指標種群と安藤(1990)が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

[外洋指標種群(A)]:塩分濃度が35‰以上の外洋水中を浮遊生活する種群である。

[内湾指標種群(B)]:塩分濃度が26~35‰の内湾水中を浮遊生活する種群である。

[海水藻場指標種群(C1)]:塩分濃度が12~35‰の水域の海藻や海草(アマモなど)に附着生活する種群である。

[海水砂質干潟指標種群(D1)]:塩分濃度が26~35‰の水域の砂底(砂の表面や砂粒間)に附着生活する種群である。この生育場所には、ウミナナ類、キサゴ類、アサリ、ハマグリ類などの貝類が生活する。

[海水泥質干潟指標種群(E1)]:塩分濃度が12~30‰の水域の泥底に附着生活する種群である。この生育場所には、イボウミナナ主体の貝類相やカニなどの甲殻類相が見られる。

〔汽水藻場指標種群 (C2)〕: 塩分濃度が4~12‰の水域の海藻や海草に付着生活する種群である。
〔汽水砂質干潟指標種群 (D2)〕: 塩分濃度が5~26‰の水域の砂底(砂の表面や砂粒間)に付着生活する種群である。

〔汽水泥質干潟指標種群 (E2)〕: 塩分濃度が2~12‰の水域の泥底に付着生活する種群である。淡水の影響により、汽水化した塩性湿地に生活するものである。

〔上流性河川指標種群 (J)〕: 上流部の溪谷部に集中して出現する種群である。

〔中~下流性河川指標種群 (K)〕: 中~下流部、すなわち河川沿いに河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。

〔最下流性河川指標種群 (L)〕: 最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。

〔湖沼浮遊生指標種群 (M)〕: 水深が約1.5m以上で、水生植物は岸では見られるが、水底には生育していない湖沼である。

〔湖沼沼沢湿地指標種群 (N)〕: 水深が約1m内外で、一面に植物が繁殖しているところ、および湿地である。

〔沼沢湿地付着生指標種群 (O)〕: 沼沢ならびに、前述した湿地で付着の状態に優勢な出現が見られる種群である。

〔高層湿地指標種群 (P)〕: ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

〔陸域指標種群 (Q)〕: 上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である(陸性珪藻と呼ばれる)。

4. 結果

珪藻化石の産出が認められたのは、NO.2地点の12試料中8試料、NO.4地点の11試料中5試料、NO.7地点の12試料中11試料であった。それら産出した珪藻化石の内容は、NO.2地点は海水種が7属・8種、汽水種が2属・2種、淡水種が14属・23種、NO.4地点は海水種が7属・8種、汽水種が1属・1種、淡水種が16属・25種、NO.7地点は全体で111分類群で、海水~汽水種が26分類群14属22種、淡水種が85分類群23属64種4亜種であった。この珪藻化石の産出状況の層的变化について環境指標種の産出に着目し、各地点ごとに分帯の設定を行った。

この結果NO.2地点については、全体を下位よりI~IV帯に分帯を設定した。I帯は淡水種の出現によって、II帯は汽水種、海水種の出現によって、III帯は汽水種、淡水種によって、IV帯は淡水種の出現によってそれぞれ特徴づけられ、区分された。同様に、NO.4地点については、まず全体を下部よりI~IV帯に、さらにIII、IV帯をそれぞれ下部よりa、bの二つの小分帯に分帯した。I帯は珪藻の産出が認められないことにより、II帯は淡水種の出現により、III帯は汽水種、淡水種の出現によって、IV帯は淡水種の出現によってそれぞれ特徴づけられ、区分された。また、NO.7地点については、全体を下位よりI~IV帯に分帯を設定した。I帯は海水種の出現によって、II帯は汽水種、海水種の出現によって、III帯は淡水種によって、IV帯は淡水種の出現によってそれぞれ特徴づけられ、区分された。以下に各分帯ごとの特徴を記す。

(1) NO.2地点

〔I帯〕

試料No.12にあたる。中~下流性河川指標種群 (K) である *Cymbella trugidula*、沼沢湿地付着生指標種群 (O) である *Pinnularia viridis*、陸域指標種群 (Q) である *Hantzschia amphioxys*、*Pinnularia borealis* といった淡水生珪藻化石群集によって特徴づけられた分帯である。

*Cymbella trugidula*は河川の中～下流の特に自然堤防沿いや後背湿地にその生息域を持つ特徴が報告されている(安藤, 1990)。また一般に陸生珪藻として捉えられている*Hantzschia amphioxys*, *Pinnularia borealis*は、陸域のみではなく河川岸付近や湿地帯、淡水藻場と生息個体数は少ないものの広域に生息する特徴がある。

さらに完形殻の出現率は27%と淡水環境にしては殻の保存度が悪く、異地性遺骸の混入を示唆している。

〔II帯〕

試料No.11～9に相当する。内湾指標種群(B)である*Cyclotella striata*、海水泥質干潟指標種群(E1)である*Navicula marina*, *Nitzschia coconeiformis*、海水藻場指標種群(C1)である*Coconeis scutellum*の出現と汽水性種である*Achnanthes brevipes*, *Melosira* sp.-1は通常沿岸近くの水域あるいは後背湿地帯敵な地域から産出する特徴を持つ。特に*Melosira* sp.-1は一般に休眠胞子として認識されており、その出現分布は海岸線に沿うように陸域あるいは後背湿地に認められる(村田、投稿中)ことから、化石群集中においては沿岸指標種の役割を果たす期待がもたれている。

さらに*Cyclotella striata*は海岸線付近でも認識される種であり、時には後背湿地的な地域からも産出することも確認されている(小杉, 1989)。*Navicula marina*, *Nitzschia coconeiformis*, *Coconeis scutellum*はほとんど海岸線付近あるいはそれより内陸部では確認されていないが、塩水性が高く水深の浅い沼沢からは普通に産出する。

完形殻の出現率は30～40%程度と海水環境における珪藻殻の殻保存度としては典型的な値を示す。

〔III帯〕

試料No. 8～6に相当する。全体としては汽水種である*Achnanthes brevipes*, *Melosira* sp.-1、沼沢湿地付着生指標種群(O)である*Stauroneis phoenisenteron*や淡水広布種からなる群集組成を持つ。No. 8からは珪藻化石の産出は認められなかったが、No. 7および6の群集組成を考えると、この分帯はこの地域が淡水に向かう過渡期の傾向を示していると考えられる。

〔IV帯〕

試料No. 5～1がここに含まれる。

若干の汽水生種の産出も見られるが、全体としては湖沼浮遊生指標種群(M)である*Melosira granulata*、湖沼沼沢湿地指標種群(N)である*Fragilaria construens*、沼沢湿地付着生指標種群(O)である*Pinnularia*属などをはじめとする淡水珪藻により構成される。このような群集構成は河川下流域の後背湿地をはじめとする湿地帯の典型的な群集構成といえる。

完形殻の出現率は50～60%程度と割合高めであることも湿地堆積物の傾向を示唆していると考えられる。

(2) NO.4地点

〔I帯〕

試料No.11がこの分帯にあたる。珪藻化石の産出は、細かい破砕殻についても認められなかった。この層について何らかの環境的解釈を行うためには、この層より下部から得られる試料を用い、比較検討を行う必要がある。

〔II帯〕

この分帯には、試料No.10および9が含まれる。湖沼浮遊生指標種群(M)である*Melosira granulata*、湖沼沼沢湿地指標種群(N)である*Fragilaria construens*、沼沢湿地付着生指標種群(O)である*Pinnularia*属、さらに上流河川(J)、中～下流性河川(K)を示す指標種群が出現するなど、かなり広い指標種群の混合物体としての群集組成に特徴がある。このような群集組成を示す環境としては、流れ

れ込み河川の存在する湖沼沼沢が考えられる。

完形殻の出現率は55～62%程度と、珪藻の殻保存度としては比較的高い値を示す。このことは殻堆積過程および化石化過程において安定した環境が存在したことを示唆する。

〔Ⅲ帯〕

試料No. 8～5がこの分帯に含まれる。この分帯から珪藻化石が確認されたのは4試料中1 (No.8) のみである。このため必ずしもこの分帯設定が正確とは言いきれない。しかし、この後のⅣ帯との比較の上で区分を行った。すなわちこの分帯は、No. 8の試料にみられるように海水域環境を反映する群集組成を示す傾向を持つとみなし、分帯上部はⅣ帯の淡水環境への移行に関わる地質学的事件を示していると考えられる。そのためこの分帯は珪藻の産出状況に対応し、2つの小分帯 (a, b) に区分された。以下にその小分帯ごとの特徴を記す。

〔Ⅲ-a〕

試料No. 8にあたる。内湾指標種群 (B) である *Coccinodiscus* spp.、海水藻場指標種群 (C1) である *Cocconeis scutellum*, *Cyclotella striata*, 海水砂質干潟指標種群 (D1) である *Rhaphoneis sulfirella*, 海水泥質干潟指標種群 (E1) である *Navicula marina*, *Ni. granulata* の産出によって特徴づけられている。このような群集組成は干潟域あるいは内湾奥部に見られる典型的なものである。

〔Ⅲ-b〕

珪藻の産出ししない分帯である。この前後の層から産出される珪藻群集から、この地点が陸化した可能性がある。

〔Ⅳ帯〕

試料No. 4～1がこの分帯に含まれる。この分帯も2つの小分帯 (Ⅳ-a, Ⅳ-b) に分けた。分帯全体としてはこの地点の淡水化以降の環境を示しているものと考えられる。

以下に各小分帯ごとの特徴を記載する。

〔Ⅳ-a〕

試料No. 4および3に相当する。両試料ともに淡水環境を反映する群集構成を示しているが、その反映環境は同一のものではなく、若干の変化を示している。試料No. 4は上流性河川指標種群 (J) である *Gomphonema sumatrense*、中～下流性河川指標種群 (K) である *Cymbella turgidula*、湖沼淨遊生指標種群 (M) である *Cyclotella comta*、沼沢湿地付着性指標種群 (O) である *Pinnularia viridis*, *Stauroneis phoenicenteron*、陸域指標種群 (Q) である *Hantzschia amphioxys*, *Pinnularia borealis* という多くの指標種の混合体によって群集が構成されている。それに比べ、試料No. 3は淡水広布種の占める割合が高くなり、海水泥質干潟指標種群 (E1) である *Nitzschia cocconeiformis* が産出することから海水の影響をNo. 4よりも受けていた可能性がある。

またどちらも完形殻の産出率は32～38%と低く、異地性遺骸の混入をかなり受けた可能性を示唆している。

〔Ⅳ-b〕

試料No. 2および1にあたる。両試料ともに珪藻化石に産出が認められなかった。Ⅳ-a帯で淡水化した後に陸化したなどの地質学的事件が考えられる。

(2) NO. 7 地点

〔Ⅰ帯〕

試料No. 11および12にあたる。両試料ともに海水環境を反映する群集構成を示している。海水泥質干潟指標種群 (E1) である *Nitzschia granulata*, *Nitzschia cocconeiformis* が多く出現し、海水藻場指標種群 (C1) である *Cocconeis scutellum* や沼沢湿地付着性指標種群 (O) である *Pinnularia viridis* が

随伴する珪藻化石群集によって特徴づけられた分帯である。

〔Ⅱ帯〕

試料No.10～8に相当する。海水泥質干潟指標種群 (E1) である*Nitzschia granulata*や*Nitzschia cocconeiformis*あるいは汽水泥質干潟指標種群 (E2) の*Melosira* sp.-1 が多く出現することによって特徴付けられた分帯である。

〔Ⅲ帯〕

試料No.7～2がこの分帯に含まれる。淡水種の中～下流性河川指標種群 (K) である*Cymbella turgidula*などや沼沢湿地付着性指標種群 (O) である*Pinnularia viridis*、*Stauroneis phoenicenteron* が特徴的に出現し、陸域指標種群 (Q) である*Hantzschia amphioxys*なども随伴する分帯である。

〔Ⅳ帯〕

試料No.1にあたる。沼沢湿地付着性指標種群 (O) である*Pinnularia viridis*や*Navicula elginensis*、淡水種の中～下流性河川指標種群 (K) である*Cymbella turgidula*などによって特徴付けられた分帯である。なお、低率ではあるが最下流性河川指標種群 (L) や湖沼浮遊生指標種群 (M) が随伴する。最下流の河川域や湖沼的環境が推定される。

5. 珪藻化石群集による堆積古環境の推定

以上の各分帯の結果を踏まえ地点ごとの堆積環境の推定を行うことにする。以下に各地点ごとに記載する。

(1) NO.2 地点

この地点の全体的な環境の変遷は、淡水環境から内湾奥部環境へ変遷した後、河川河口部のような汽水環境を経て、淡水の影響が支配的な環境になったと考えられる。以下に各分帯ごとの細かな堆積古環境の推定を記載する。

〔Ⅰ帯〕

淡水広域種の産出により、この地点が当時淡水環境の影響下にあったことが分かる。大型植物群落あるいは陸域に近い地域であり、水深の浅い止水域に近い滞水環境が展開していたことが推測される。また、完形殻の保存度の悪さから、この地域に淡水湿地あるいは淡水沼沢が存在したと考えられる。

〔Ⅱ帯〕

海水の流入を直接受けるか、もしくは塩分濃度の高い塩水沼のような環境が考えられる。直接海水の流入を受けるような場所では産出が認められない汽水種も認められる。また、いぜんとして淡水珪藻の産出も認められることから、この分帯下部から上部にかけて淡水の影響から海水の影響が支配的になっていく環境の変遷過程を表しているように思える。これらのことから、この地点は当時20%前後の塩分濃度を持つ沼沢地域が存在していたように思われる。

〔Ⅳ帯〕

主に淡水珪藻により構成される地域である。河川下流域の後背湿地をはじめとする湿地帯の典型的な群集構成といえる。このことから海側への連絡水路が閉ざされた沼沢地が、ほぼ完全に淡水環境下になったことを示していると考えられる。

(1) NO.4 地点

この地点の環境の全体的な変遷過程は、淡水河川の流れ込みのあるような湖沼環境であったのが海水の流入を受け、完全に海水影響下にある環境を経て、淡水環境に戻るという過程が考えられる。以下に各分帯ごとの細かな堆積環境の推定を記載する。

〔I 帯〕

環境の解釈を行うための試料が認められないため、この層より下部から得られる試料を用い、比較検討を行う必要がある。

〔II 帯〕

上流性河川、中～下流性河川を示す広い指標種群の混合体としての群集組成に特徴がある。このような特徴を示す環境としては、流れ込み河川の存在する湖沼沼沢が考えられる。珪藻殻の保存度も高く、安定した環境が存在したことを示唆する。

〔III-a〕

典型的な前浜干潟域あるいは内湾奥部が当時この地域に展開していたものと思われる。

〔III-b〕

珪藻の産出しない分帯である。砂州あるいは砂堆域のような直接海水あるいは淡水の影響を受けないような陸化した可能性がある。

〔IV-a〕

分帯下部の時期には、河川下流域に淡水環境が支配的な沼沢湿地として存在していたが、何らかの影響で海水が流入するような連絡水路が開いたと思われる。

〔IV-b〕

珪藻が産出しないため、淡水化した後に陸化したなどの地質学的事件が考えられる。

(2) NO.7 地点

この地点の環境の全体的な変遷過程は、完全に海水影響下にある環境を経て、淡水環境に変化するという過程が考えられる。以下に各分帯ごとの細かな堆積環境の推定を記載する。

〔I 帯〕

海草などが繁茂する海水藻場や淡水沼沢湿地を伴った海水泥質干潟（塩性湿地のような）が推定される分帯である。

〔II 帯〕

下部では海水泥質干潟環境が卓越し、上部において泥質干潟環境が卓越する。こうした環境変化は、縄文海進期後の海退期などに良く見られた現象であり、この出現ピークはかつての海面高度を示すものと考えられている(Sato et al,1996)。

〔IV 帯〕

沼沢湿地や中～下流性河川環境が卓越し、最下流性河川や湖沼的環境も見られる。この I 帯は現水田耕作土であるが、比較的広い環境要素を示すことが理解される。

6. おわりに

今回の分析により、珪藻化石の産出しない層準がいくつもでてきた。このような環境に対する評価は、現在の珪藻分析による手法では正確な評価は行えない。しかし他の古生物を利用した分析の結果とあわせて評価することにより、より正確な環境推定が行えるであろう。

参考文献

- 安藤一男 (1990) : 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用。東北地理, 42-2, p. 73-109
- 小杉正人 (1989) : 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用。第四紀研究, 27, (1), p. 1-20

- Krammer, K and H. Lange-Bertalot (1986) Bacillariophyceae, Süsswasser flora von Mitteleuropa 2 (1), p. 1-876.
- Krammer, K and H. Lange-Bertalot (1988) Bacillariophyceae, Süsswasser flora von Mitteleuropa 2 (2), p. 1-596.
- Krammer, K and H. Lange-Bertalot (1991) Bacillariophyceae, Süsswasser flora von Mitteleuropa 2 (3), p. 1-576.
- Krammer, K and H. Lange-Bertalot (1991) Bacillariophyceae, Süsswasser flora von Mitteleuropa 2 (4), p. 1-436.
- H. Sato, Y. Tanimura, and Yokoyama (1996) A Characteristic Form of Diatom *Melosira* as an Indicator of Marine Limit during the Holocene in Japan. *Quat. Res. (Daiyonki Kenkyu)*, 35 : 99-107.
- 村田泰輔 (投稿中) : *Melosira* sp.-1 および *Melosira* sp.-n (休眠胞子) の地理的分布とその生態について

各指標種群の分類は、小杉 (1988)・安藤 (1990) に基づく

分 類 群	種群	種群											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
<i>Cocconeis scutellum</i>	C1	-	-	-	-	-	-	-	-	8	10	30	-
<i>Coccinodiscus</i> spp.	B	-	-	-	-	-	-	-	-	3	5	-	-
<i>Diploneis splendida</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	-	41	65	75	-
<i>Navicula marina</i>	E1	-	-	-	-	-	-	-	-	17	2	-	-
<i>Nitzschia cocconeiformis</i>	E1	-	-	-	-	-	-	-	-	51	27	15	-
<i>N. granulata</i>	E1	-	-	-	-	-	-	-	-	27	15	15	-
<i>Cyclotella striata</i>	B	-	-	-	-	-	-	-	-	5	10	-	-
<i>Rhaphoneis surirella</i>	D1	-	-	-	-	-	-	-	-	8	15	10	-
<i>Achnanthes brevipes</i>	?	-	-	-	-	-	3	9	-	15	20	22	-
<i>Melosira</i> sp.-1	?	9	-	-	-	-	-	84	-	23	35	10	-
<i>Cocconeis placentula</i>	W	9	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella turgidula</i>	K	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	2	36
<i>Diploneis ovalis</i>	W	-	-	-	-	-	82	42	-	-	-	-	72
<i>Fragilaria construens</i>	N	14	-	22	-	-	13	-	-	-	-	-	-
<i>F.</i> spp.	?	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema parvulum</i>	W	9	-	-	-	-	2	-	-	-	-	15	-
<i>G.</i> spp.	?	-	-	2	-	-	5	-	-	-	-	-	36
<i>Hantzschia amphioxys</i>	Q	6	-	8	-	-	-	2	-	-	-	-	12
<i>Melosira granulata</i>	M	3	-	38	-	-	-	2	-	-	-	-	1
<i>Navicula cryptocephala</i>	W	51	-	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. radiosa</i>	W	26	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. tuscata</i>	W	13	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. viridula</i>	W	15	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia</i> spp.	?	5	-	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia borealis</i>	Q	12	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	18
<i>P. braunii</i>	W	24	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-
<i>P. gibba</i>	O	7	-	2	-	-	-	14	-	-	-	-	-
<i>P. viridis</i>	O	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	36
<i>Rhopalodia gibberula</i>	W	-	-	10	-	-	-	28	-	-	-	10	54
<i>Stauroneis phoenicenteron</i>	O	9	-	3	-	-	24	14	-	-	-	-	1
<i>S.</i> spp.	?	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Surirella angusta</i>	W	3	-	11	-	-	16	13	-	-	-	-	22
<i>Synedra ulna</i>	W	7	-	-	-	-	89	42	-	5	5	10	-
内 湾 (B)		-	-	-	-	-	-	-	-	8	15	-	-
海水藻場 (C1)		-	-	-	-	-	-	-	-	8	10	30	-
海水砂質干潟 (D1)		-	-	-	-	-	-	-	-	8	15	10	-
海水泥質干潟 (E1)		-	-	-	-	-	-	-	-	95	44	30	-
不定または不明 (?)		-	-	-	-	-	-	-	-	41	65	75	-
不定または不明 (?)		9	-	-	-	-	3	93	-	38	55	32	-
中～下流性河川 (K)		-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	2	36
湖沼浮遊生 (M)		3	-	38	-	-	-	2	-	-	-	-	1
湖沼沼沢湿地 (N)		14	-	22	-	-	13	-	-	-	-	-	-
沼沢湿地付着生 (O)		18	-	8	-	-	24	28	-	-	-	-	37
陸 域 (Q)		18	-	13	-	-	-	2	-	-	-	-	30
広 布 種 (W)		157	-	97	-	-	187	139	-	5	5	35	148
不 明 (?)		9	-	5	-	-	9	-	-	-	-	-	36
珪 藻 般 数		228	0	183	0	0	248	264	0	203	209	214	288

表 6 元島遺跡 (No.2) 地点における珪藻化石産出表

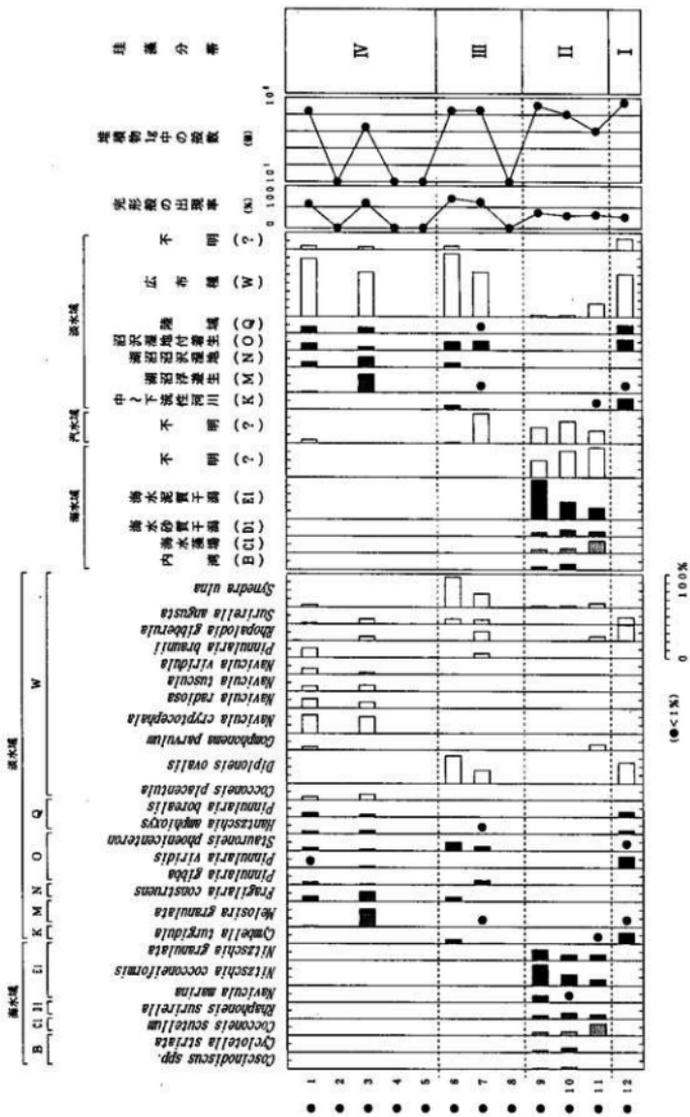


図9 元島遺跡 (No.2) 地点における珪藻化石分布図

各指標種群の分類は、小杉 (1988)・安藤 (1990) に基づく

分類群	種群	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
<i>Cocconeis scutellum</i>	Cl	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-
<i>Coccinodiscus</i> spp.	B	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
<i>Diploneis splendida</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	56	-	-	-
<i>Navicula marina</i>	E1	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-
<i>Nitzschia cocconeiformis</i>	E1	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. granulata</i>	E1	-	-	-	-	-	-	-	76	-	-	-
<i>Cyclotella striata</i>	B	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-
<i>Rhaphoneis surirella</i>	D1	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-
<i>Melosira</i> sp.-1	?	-	-	-	-	-	-	-	88	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i>	W	-	-	-	12	-	-	-	15	21	-	-
<i>Cyclotella comta</i>	H	-	-	-	3	-	-	-	3	7	-	-
<i>Cybellia turgidula</i>	K	-	-	56	26	-	-	-	22	19	-	-
<i>Diploneis ovalis</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	36	33	-	-
<i>Fragilaria construens</i>	N	-	-	10	-	-	-	-	12	21	-	-
<i>Gomphonema parvulum</i>	W	-	-	30	-	-	-	-	6	12	-	-
<i>G. sumatrense</i>	J	-	-	26	30	-	-	-	22	20	-	-
<i>Gyrosigma acuminatum</i>	W	-	-	30	-	-	-	-	22	11	-	-
<i>Hantzschia amphioxys</i>	Q	-	-	-	30	-	-	-	16	8	-	-
<i>Melosira granulata</i>	H	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-
<i>Navicula cryptocephala</i>	W	-	-	10	-	-	-	-	10	5	-	-
<i>N. radiosa</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-
<i>N. saxophila</i>	W	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. tusculea</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-
<i>N. viridula</i>	W	-	-	2	-	-	-	-	16	2	-	-
<i>Nitzschia</i> spp.	?	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia borealis</i>	Q	-	-	-	15	-	-	-	-	1	-	-
<i>P. braunii</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
<i>P. gibba</i>	O	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-
<i>P. viridis</i>	O	-	-	-	13	-	-	-	-	6	-	-
<i>Rhopalodia gibberula</i>	W	-	-	-	11	-	-	-	25	10	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i>	O	-	-	-	16	-	-	-	8	18	-	-
<i>S.</i> spp.	?	-	-	-	8	-	-	-	1	1	-	-
<i>Surirella angusta</i>	W	-	-	-	12	-	-	-	16	6	-	-
<i>Synedra ulna</i>	W	-	-	45	48	-	-	-	18	20	-	-
内 湾 (B)		-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-
海水藻場 (Cl)		-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-
海水砂質干潟 (D1)		-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-
海水泥質干潟 (E1)		-	-	5	-	-	-	-	91	-	-	-
不定または不明 (?)		-	-	-	-	-	-	-	56	-	-	-
不定または不明 (?)		-	-	-	-	-	-	-	88	-	-	-
上流性河川 (J)		-	-	26	30	-	-	-	22	20	-	-
中～下流性河川 (K)		-	-	56	26	-	-	-	22	19	-	-
湖沼浮遊生 (M)		-	-	-	3	-	-	-	3	16	-	-
湖沼沼沢湿地 (N)		-	-	10	-	-	-	-	12	21	-	-
沼沢湿地付着生 (O)		-	-	-	29	-	-	-	10	25	-	-
陸 域 (Q)		-	-	-	45	-	-	-	16	9	-	-
広 布 種 (W)		-	-	122	83	-	-	-	164	153	-	-
不 明 (?)		-	-	-	20	-	-	-	1	1	-	-
珪 藻 殻 数		0	0	219	236	0	0	0	271	250	264	0

表7 元島遺跡 (No.4) 地点における珪藻化石産出表

(種群は、主に小杉 (1988) および安藤 (1990) が設定した環境指標種群による)

分類群	種群	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
<i>Actinocyclus</i> spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Cocconeis pseudomargata</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	1	-
<i>C. scutellum</i>	Cl	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
<i>Coccinodiscus</i> spp.	?	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula elegans</i>	?	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	12
<i>N. lyroides</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>N. marina</i>	E1	-	-	-	-	-	-	15	-	1	-	-	-
<i>N.</i> spp.	?	-	-	-	-	-	-	5	1	-	-	-	-
<i>Nitzschia cocconeiformis</i>	E1	-	-	-	-	-	1	20	-	1	2	7	-
<i>N. granulata</i>	E1	-	-	-	-	-	-	36	-	33	2	3	-
<i>N. marginalata</i>	E1	-	-	3	-	-	-	-	30	2	1	-	-
<i>Thalassiosira nitaschloides</i>	A	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Thalassiosira</i> spp.	A	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-
<i>Thalassiothrix longissima</i>	?	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Actinocyclus normanii</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Caloneis westii</i>	?	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-
<i>Cyclotella stylorum</i>	B	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-
<i>Diploneis mitchii</i>	E1	-	1	3	1	14	-	2	23	6	1	2	3
<i>Nitzschia littoralis</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<hr/>													
<i>Achnanthes brevisipes</i>	?	2	2	3	5	1	-	-	2	1	4	2	-
<i>Helosira</i> sp.-1	E2	-	-	-	-	-	-	1	84	4	2	1	1
<i>Navicula pyrenensis</i>	?	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	1
<i>Nitzschia dubia</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-
<i>N. punctata</i>	E2	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	2
<i>Rhopalodia acuminata</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	-	25	15	-	-
<i>Thalassiosira brunnopurpurea</i>	?	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
<hr/>													
<i>Achnanthes hungarica</i>	W	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
<i>A. inflata</i>	?	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>A.</i> spp.	?	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Amphora ovalis</i> var. <i>libyca</i>	W	1	-	2	2	1	-	-	-	-	2	-	-
<i>Caloneis bacillum</i>	W	8	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
<i>C. laeta</i>	W	2	-	1	2	1	1	1	-	-	1	-	-
<i>C. sillicus</i>	W	2	1	2	6	2	-	-	1	-	-	-	-
<i>C.</i> spp.	?	1	-	-	-	-	-	-	-	33	15	-	-
<i>Cocconeis placentalis</i>	W	15	1	5	8	-	1	-	1	-	1	-	-
<i>Cyclotella meneghiniana</i>	L	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella solea</i>	W	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella aspera</i>	O	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-
<i>C. cuspidata</i>	W	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>C. minuta</i>	W	5	1	2	1	9	4	5	1	-	1	-	-
<i>C. tumida</i>	W	-	2	5	14	6	10	4	-	1	1	-	-
<i>C. turgida</i>	X	6	10	34	46	9	61	16	-	1	5	-	-
<i>C.</i> spp.	?	-	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	1
<i>Diploneis ovalis</i>	W	-	-	1	-	20	3	1	-	7	1	3	1
<i>D. yatsukensis</i>	W	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>D.</i> spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2	9
<i>Ephemia adnata</i>	W	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2	-	-
<i>E. turgida</i>	?	-	-	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>E.</i> spp.	?	-	-	-	-	-	2	1	-	1	-	-	-
<i>Eumotia biarcifera</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>E. formica</i>	W	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>E. lunaris</i>	W	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>E. pectinatis</i> var. <i>minor</i>	O	3	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>E. pectinatis</i> var. <i>uodeolata</i>	O	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>E. proserpina</i> var. <i>hidens</i>	O	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>E.</i> spp.	?	1	-	-	2	1	-	15	-	1	1	1	1
<i>Frustulia vulgaris</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>F.</i> spp.	?	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema acuminatum</i>	O	-	-	1	-	-	1	5	1	-	-	-	-
<i>G. angur</i>	W	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>G. constrictum</i>	W	1	-	-	-	3	1	2	1	-	-	-	-
<i>G. globiferum</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>G. gracile</i>	O	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-
<i>G. parvulum</i>	W	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>G. sumatrense</i>	J	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>G. truncatum</i>	W	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-
<i>G.</i> spp.	?	4	1	5	2	5	4	8	2	-	-	-	-
<i>Gyrodinium</i> spp.	?	-	-	-	22	-	-	1	25	-	2	1	-
<i>Hantzschia amphioxys</i>	Q	4	3	8	4	1	1	5	-	7	2	-	-
<i>Helosira ambigua</i>	W	3	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
<i>H. granulata</i>	H	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>H. pennacolata</i>	H	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>H. varians</i>	X	9	1	-	2	-	-	1	-	1	-	-	-
<i>H.</i> spp.	?	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Navicula confervacea</i>	W	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-

表8 元島遺跡 (No. 7) 地点における珪藻化石産出図 (1)

(種群は、主に小杉(1988)および安藤(1990)が設定した環境指標種群による)

分類群		種群	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
<i>Navicula cuspidata</i>	W	5	1	-	2	4	-	3	-	-	1	-	-	-
<i>N. elgmoensis</i>	O	7	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>N. goeppertiana</i>	W	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>N. pusilla</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	24	5
<i>N. radiosa</i>	W	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
<i>N. viridula</i>	W	1	-	-	-	3	-	5	-	10	1	-	-	-
<i>N. spp.</i>	?	3	-	1	-	3	-	2	-	6	8	-	-	1
<i>Neidium affine</i>	W	5	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
<i>N. bisulcatum</i>	W	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. iridis</i>	O	7	2	1	4	3	3	1	-	2	5	-	-	-
<i>N. spp.</i>	?	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia amphibia</i>	W	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
<i>N. parvula</i>	W	3	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>N. tryblionella</i>	W	3	-	-	2	-	-	5	-	-	-	-	-	-
<i>N. spp.</i>	?	2	1	4	5	-	-	6	1	32	16	1	1	1
<i>Pinnularia acrosphaeria</i>	O	-	-	-	-	8	-	2	-	-	3	-	-	-
<i>P. borealis</i>	Q	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	1	1
<i>P. braunii</i>	W	13	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. gibba</i>	O	3	-	-	1	11	1	2	-	-	9	1	-	-
<i>P. microstauron</i>	W	10	-	-	2	-	1	1	-	1	1	1	-	-
<i>P. subcapitata</i>	O	7	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>P. viridis</i>	O	23	1	-	3	17	2	4	-	2	15	9	1	1
<i>P. spp.</i>	?	35	5	3	13	30	4	18	4	4	24	50	8	1
<i>Rhopalodia gibba</i>	W	1	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>R. gibberula</i>	W	-	-	1	4	-	-	1	1	-	-	-	-	-
<i>R. quismbirgiana</i>	W	-	-	-	7	1	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>R. spp.</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i>	O	2	1	1	6	23	1	-	1	1	9	-	-	-
<i>Saricella ovata</i>	W	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. tenera</i>	W	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. spp.</i>	?	5	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Synedra inaequalis</i>	K	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>S. rumpens</i>	W	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. ulna</i>	W	1	2	6	6	2	7	11	1	-	2	-	-	-
<i>S. spp.</i>	?	1	1	4	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Unkown	?	7	2	1	2	2	2	3	3	2	1	1	-	-
外洋 (A)		-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	1	-
内湾 (B)		-	-	2	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
海水浴場 (C1)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
海水浴場干潟 (E1)		-	1	3	4	14	-	3	94	36	30	7	13	-
不定または不明 (?)		1	-	-	-	-	-	4	12	3	1	1	17	-
汽水浴場干潟 (E2)		-	-	-	-	-	-	2	86	4	4	1	3	-
不定または不明 (?)		3	2	3	5	1	-	2	3	27	27	2	2	-
上流性河川 (J)		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
中～下流性河川 (K)		15	11	34	51	9	61	17	-	2	7	-	-	-
最下流性河川 (L)		1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
湖沼浮遊生 (M)		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
湖沼沼沢湿生 (N)		3	-	-	-	-	-	1	-	1	2	-	-	-
沼沢湿地付着生 (O)		32	5	5	19	64	11	17	2	5	42	10	1	1
陸地 (Q)		4	3	6	4	2	1	9	-	10	2	1	1	1
塩沼 (W)		88	13	32	62	68	30	58	7	33	14	30	7	-
不明 (?)		60	10	19	57	42	13	93	11	82	69	55	21	-
珪藻総数		229	45	104	202	200	117	209	216	204	204	110	87	-

表9 元島遺跡 (No.7) 地点における珪藻化石産出図 (2)

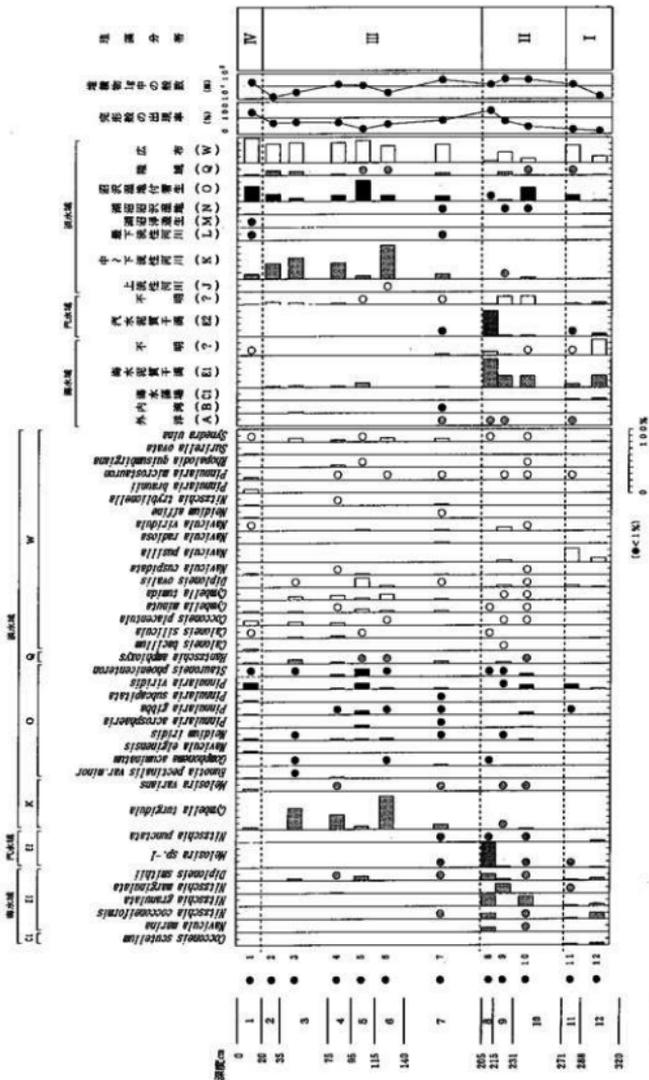


図11 元島遺跡 (No.7) 地点における珪藻化石分布図

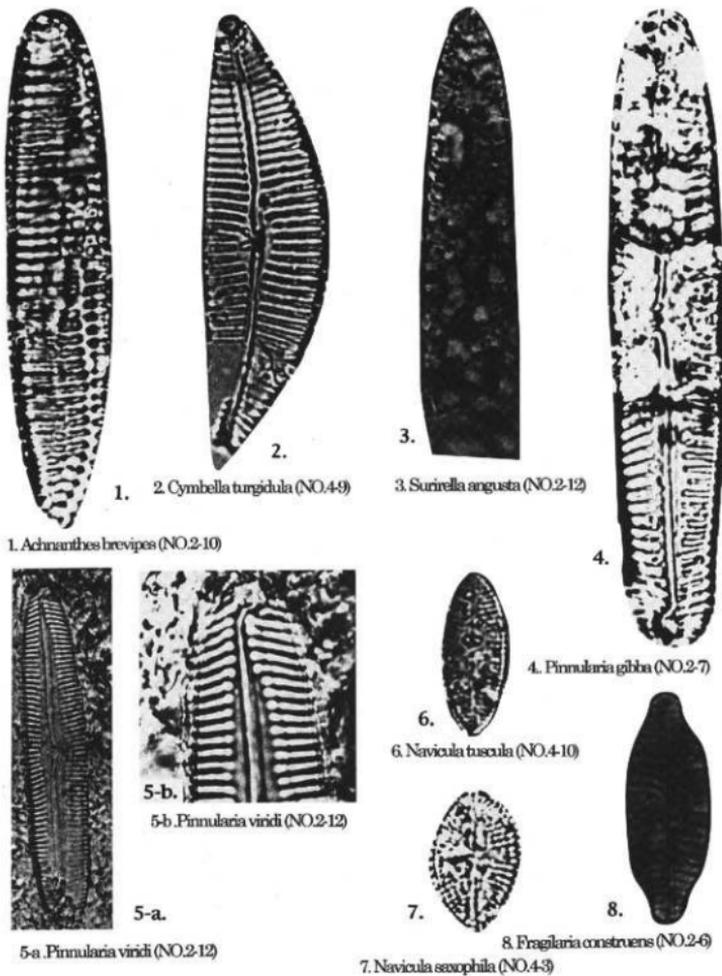


写真 5 珪藻化石の顕微鏡写真 (1)



9.

9. *Cocconeis placentula* (NO.4-10)



10.

10. *Nitzschia cocconeiformis* (NO.2-9)



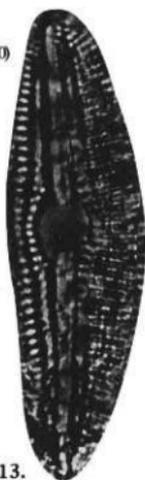
11.

11. *Hantzschia amphioxys*
(NO.2-12)



12.

12. *Nitzschia granulata* (NO.4-8)



13.

13. *Diploneis ovalis* (NO.2-7)



14.

14. *Diploneis ovalis* (NO.2-7)



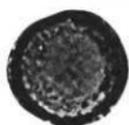
15.

15. *Rhopalodia gibberula* (NO.4-10)



16.

16. *Melosira* sp.-n (NO.2-10)

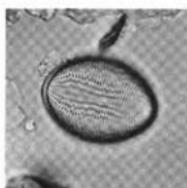


17.

17. *Melosira* sp.-n (NO.2-10)



Hantzschia amphioxys (NO.7-1層)



Coconeis placentula (NO.7-1層)



Melosira varians (NO.7-1層)



Cymbella turgidula (NO.7-2層)



Pinnularia braunii (NO.7-2層)



Caloneis silicula (NO.7-3層)



Cyclotella styrolium (NO.7-3層)



Diploneis smithii (NO.7-3層)



Coconeis placentula (NO.7-3層)



Eumotia pectinalis var. *minor*
(NO.7-4層)



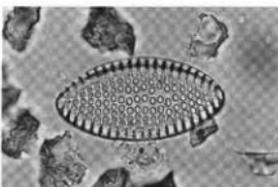
Melosira sp.-1 (NO.7-8層)



Nitischia cocconeiformis (NO.7-8層)



Diploneis smithii (NO.7-8層)



Nitischia granulata (NO.7-8層)



Rhopalodia acuminata (NO.7-9層)



Caloneis spp. (NO.7-9層)

0 50 100 μm

写真7 珪藻化石の顕微鏡写真(3) [スケール: 20 μm]

報告書抄録

ふりがな	もとじまいせきⅠ いこうへんほんぶん								
書名	元島遺跡Ⅰ (遺構編本文)								
副書名	太田川住宅地基盤特定治水施設等に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書								
巻次									
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所報告								
シリーズ番	第109集								
編著者名	加藤理文・川本 忍								
編集機関	静岡県埋蔵文化財調査研究所								
所在地	〒422-8002 静岡市谷田23-20								
発行年月日	西暦 1998年 3月20日								
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°..	°..		m ²		
もとじまいせき 元島遺跡	しずおかけん いわ ぶ ぐん 静岡県磐田郡 よこ で まつもとよほ 福田町豊浜 あびつひん せき 字一本松1634 他	22482	2	34° 41' 05"	137° 53' 45"	19940701 ～ 19970831	55,590	太田川住宅地 地盤特定治 水施設等 整備工事 前調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項		
元島遺跡	集落	戦国時代～ 室町時代	掘立柱建物 溝状遺構 井戸 土坑 墓	輸入陶磁器 国内産陶磁器 土製銅類 かわらけ 貨幣 鉄製農具 木製農具 漆製品 船材 建築部材			掘立柱建物115軒 墓12基 井戸8基 土坑63基 中世集落は、クリーク 条の溝で区画されて いた。		
		鎌倉時代～ 平安時代末	掘立柱建物 溝状遺構 土坑	山茶碗 伊勢銅 建築部材			掘立柱建物7棟 洪水によって、大部 分が破壊されていた。		
		奈良時代～ 古墳後期	方形区画 掘立柱建物	土師器 須恵器			方形区画に囲まれた 区域を確認		
		古墳時代 中期	墳墓 土坑	土師器 須恵器			墳墓3基 主体部を確認		
		古墳時代 前期	掘立柱建物 井戸	土師器・勾玉 準構造船・丸木船			掘立柱建物28棟 井戸枠が船材の転用		
		弥生時代 中期	方形周溝墓	弥生土器			方形周溝墓8基		

元島遺跡 I

平成6・7・8・9年度太田川住宅地地基特定治水施設等に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成10年3月20日

編集発行 財団法人
静岡県埋蔵文化財調査研究所
☎422-8002
静岡市谷田23-20

印刷所 株式会社 開明堂
☎430-0904
浜松市中沢町1-1